

1. 基礎科目

《教養基礎科目》

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	導入演習 Seminar of Introduction			担当教員	各担任
	開講内容	学年・学期	1・半期		
	履修の方法	必修	単位数	2	関連資格
授業の概要					
導入演習は大学生活をうまくスタートさせるための授業であり、学習や生活面で少しでも早く新しい環境に慣れるよう支援していきます。学生相互の交流を促し、授業の仕組み学習の仕方を説明し、仙台大生になっていくための意識化を図っていきます。					
授業の一般目標					
修学生活の設計を立て、コミュニケーションや学習スキルを身につけ、「高校生」から「大学生」へそして「仙台大生」としての意識を高めていくことができる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	テーマに合った内容を理解し、具体的内容を説明できる。			
■	情意的領域	積極的に参加し、仲間と協力して行うことができる。			
■	技能表現的領域	修学生活の計画を作成でき、テーマごとの発表等の技術を身につけ、表現できる。			
授業計画(全体)					
実施内容により、個別学習、小グループでの演習、クラスでのディベート、クラス合同の授業など、異なった形態で行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 導入演習のねらい、本授業の流れ、時間割の作り方について説明する。 [授業外学習] 自らの大学生活について考えてみる。履修登録表を作成する。			⑨	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(1) [内容] 「いまだきの大学・いまだきの大学生—ユニヴァーサル化」のテーマで、大学生であることの意味について考える。 [授業外学習] テキストに出てくる漢字や用語について事前に調べておくこと
②	[テーマ] 親睦 [内容] やや詳しい自己紹介、あるいはペアの相手をクラス全員に紹介するなど、新しい仲間とのコミュニケーションを図る。 [授業外学習] 新しい仲間と情報交換し、履修登録表を互いに確認してみる。			⑩	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(2) [内容] 「大学で身につけるべきこと—学士力」についてグループで話し合うなど、グループ活動を行う。 [授業外学習] テキスト等に出てくる漢字や用語について調べておくこと
③	[テーマ] 仙台大学の英語カリキュラムについて [内容] 平成29年度後期より始まる英語関連科目の新カリキュラムについて、説明を行う。これからの大学での英語の学習について考える。 [授業外学習] 大学でどのように英語を学習するかについて自分で考えてみる。			⑪	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(3) [内容] 「教員と学生が共に作る大学」について、グループで話し合う。 [授業外学習] 授業の復習
④	[テーマ] 英語プレイズメントテスト [内容] 後期科目「総合英語A」のクラス分けのためのプレイズメントテストを行う。 [授業外学習] 自分の英語力について自己評価してみる			⑫	[テーマ] 体育大生とモラル(1) [内容] 体育大生とその他の学生との違い、体育大生のモラルについて考える。 [授業外学習] 事前に資料を読んでおくこと
⑤	[テーマ] 修学と生活の設計(1) [内容] 学習方法、生活の仕方などについて先輩の体験談を聞き、または話し合いながら、大学生活の見通しを立てる。 [授業外学習] 卒業までの計画や目標について考えてみる			⑬	[テーマ] 体育大生とモラル(2) [内容] 資料に基づきグループ内で意見を出し合いディスカッションする。 [授業外学習] 発表資料の作成など、発表準備をする。
⑥	[テーマ] 修学と生活の設計(2) [内容] 卒業までの計画・目標、前期の計画・目標を設計する。 [授業外学習] これまでの生活を振り返り、目標の確認をしてみる			⑭	[テーマ] 体育大生とモラル(3) [内容] プレゼンテーションの仕方、レジュメの作り方を説明し、グループで発表用資料を作成する。 [授業外学習] 発表資料の作成など、発表準備をする。
⑦	[テーマ] 大学と大学生Ⅰ [内容] 学科長の講話。仙台大学の歴史も紹介する。 [授業外学習] 仙台大学の歴史について自分でも調べておく			⑮	[テーマ] 体育大生とモラル(4) [内容] クラス内の発表会を行い、相互に評価する。 [授業外学習] 発表資料の作成など、発表準備をする。
⑧	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(0) [内容] 自学・自習支援システムの活用とスポーツテストの実施。 ※ スポーツテストは4週の期間のいずれかで実施 [授業外学習] 大学での学習に必要な基礎的事項について確認しておく			⑯	[テーマ] まとめ及び後期に向けて [内容] これまでの演習内容をまとめ、必要に応じて内容を補足する。前期を振り返り、夏休みの過ごし方について各自作成する。 [授業外学習] これまでの資料などに目を通しておく
成績評価方法(方針)					
出席を重視する。授業の受講態度、授業内レポート、宿題・授業外レポート、作業への取り組みや発表などを参考にして、総合的に成績評価を行う。成績評価のためには3分の2以上の出席が必要である。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					実施しない
授業内レポート		○	○	○	25%
授業外レポート		○	○	○	25%
演習・実技		○	○	○	25%
授業態度		○	○	○	25%
出席		◎	◎	◎	欠格条件
履修上の注意(受講学生に望むこと)					
<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない ・授業中は携帯電話をかばんの中に入れておくこと ・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。シラバスを参考に、積極的に予習・復習を行うこと ・自己学習(時間外学習、ボランティア活動等)の成果や授業中のテーマに関する自らの考えについても積極的に発表することを期待する ・クラスの合同発表の場合は、実施教室等は掲示により周知する ・実施上の都合により、進行順や教材を変更する場合がある 					
関連科目	キャリアプランニングⅠ、情報処理、学習基礎演習				
教科書	オリエンテーション時に資料を配布			参考書	オリエンテーション時に資料を配布
連絡先	各担任の研究室				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	情報処理				担当教員	内野秀哲・相場徹
	Data Processing (L.)					
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	NSCA認定パーソナルトレーナー(体育学科) ストレングス&コンディショニングスペシャリスト(体育学科)
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要						
コンピュータの基礎的利用方法に関する知識は、必須の素養として養成されるところであり、様々な課題や問題の解決手段としてITを活用することは、広い範囲で効果的となる。本講では、基礎知識の学習と基本操作の実習を通じて、意義と効用について解説する。						
授業の一般目標						
ICT関連の代表的ツールを活用し、適切に情報の受発信、保存、加工が行えるようになる。また、効率的な処理判断・手段の選択ができるようになる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	1. ICTに関する基本的な事柄が説明できる。2. 状況や対象に応じて処理機能を選択できる。				
□	情意的領域					
■	技能表現的領域	適切な手段で情報の獲得、保存・加工ができる。				
授業計画(全体)						
本講では主に「インターネット関連ツール」と、「日本語処理ツール」、「表計算ツール」、「プレゼンテーションツール」などのアプリケーションの操作実習と平行して、ICTの基礎理論についての概説を行なう。また、課題への取り組み時にはグループワークを採り入れ、対話力の向上とあわせて問題解決力の獲得を目指す。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 情報倫理について [内容] 情報倫理について説明 [授業外学習] オリエンテーション資料を事前によく読んでおくこと				⑨	[テーマ] 講義3:論理式と論理回路① [内容] データ処理の仕組みについて、音声データの処理を例(論理数学)に取り上げて解説を行う [授業外学習]
②	[テーマ] 情報処理の学習について [内容] 授業の進め方と履修方法等や、大学で情報処理と情報化を学ぶことについて概説する [授業外学習] 事前に学内情報端末利用者講習を受けておくこと				⑩	[テーマ] 実習3:表計算アプリケーション2 [内容] 教材アプリケーションにて、グラフ作成や表示の工夫などの応用操作を実習する [授業外学習] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと
③	[テーマ] タイピング1 [内容] 前半でホームポジションとタッチタイピングについて解説し、後半は目標設定のための擬似タイピング試験を実施する [授業外学習] 自己流にならないよう復習を継続すること				⑪	[テーマ] 講義4:論理式と論理回路② [内容] 論理回路を用いたクイズを検討課題として提示し、論理演算と論理回路について解説する [授業外学習]
④	[テーマ] 講義1:情報処理を考える [内容] 情報と情報伝達についての検討課題を提示し、「情報」について説明する [授業外学習]				⑫	[テーマ] 実習4:プレゼンテーションツール [内容] フォームを用いたコンテンツ作成によってプレゼンテーションツールの操作実習を行う [授業外学習] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと
⑤	[テーマ] 実習1:ワードプロセッサ [内容] フォームを用いたコンテンツ作成によって、ワードプロセッサの操作実習を行う [授業外学習] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと				⑬	[テーマ] タイピングのまとめ [内容] 前半で大学生と関係の深いICT関連の社会的事象を紹介(展望を試みる)し、後半で最終の擬似タイピング試験を実施する [授業外学習]
⑥	[テーマ] 講義2:情報について [内容] 情報処理の根幹領域にある「サイバネティクス」について紹介し、「情報」についてその量と単位を中心に説明する [授業外学習]				⑭	[テーマ] 講義のまとめ [内容] 講義部門のまとめとして、筆記課題を実施する [授業外学習]
⑦	[テーマ] 実習2:表計算アプリケーション1 [内容] 教材アプリケーションにて、情報入力や計算処理などの基本操作を実習する [授業外学習] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと				⑮	[テーマ] 実習のまとめ [内容] 操作実習部門のまとめとして実技課題を実施する [授業外学習]
⑧	[テーマ] タイピング2 [内容] 前半でキーボード・マウスなどの入力デバイスについて解説し、後半は目標設定のための擬似タイピング試験を実施する [授業外学習] 自己流にならないよう復習を継続すること				⑯	[テーマ] テスト(課題提出) [内容] 全ての課題の期限日として提出を受け付ける [授業外学習]
成績評価方法(方針)						
講義部門と実習部門の最終課題(テスト)によって成績を評価する。授業内外のレポートや出席状況などは単位認定のための必要条件とする(不足がある場合には評価対象としない)。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験					対象としない	<ul style="list-style-type: none"> ・初回の情報倫理の受講は施設の利用条件となるので必須 ・講義と実習はクラスごとに交互実施する(座席指定あり) ・講義、実習どちらか一方でも2回以上の欠席で欠格となるので要注意 ・期限内に課題が提出できない場合は欠格となるので要注意 ・欠席などの各種届出は所定の用紙で授業時間内に提出する(厳守) ・いかなる事情があっても、欠席分の不足は指定された手段で補うこと ・単位認定には、講義/実習/タイピングの全てに出席し、課題に合格する必要がある ・履修期間中のメールチェック、USBメモリの用意等を怠らないこと ・本講義は、2名の担当教員の2クラス同時開講(交互実施)である
授業内レポート		◎		◎	100%	
授業外レポート				○	欠格条件	
演習・実技					加減点要素	
授業態度					加減点要素	
出席					欠格条件	
関連科目						
教科書	使用しない(プリント教材を使用)				参考書	必要に応じて授業内で提示
連絡先	4体1F 内野研究室 オフィスアワー 火曜14:20-15:50					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	学習基礎教養演習			担当教員	各教員
	Introduction to Academic Writing				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
<p>学習において母語の能力はもっとも重要な要素である。その能力は、大学入学以前にすでに形成されており、大学ではそれを前提として教育が行われるはずであるが、多くの学生にこの能力のさらなる醸成が求められていることは、否定できない事実である。そこで、この授業では、大学教育で日本語を使用する際、もっとも重要な枠組みであるパラグラフの考え方を学び、パラグラフを構成できるようにする。</p>					
授業の一般目標					
<p>1. 語彙の増大(日本語力と語彙は強い相関がある)。2. 格の正しい文を書けるようになること。3. ひとつのパラグラフを構成できるようになること。4. パラグラフを積み重ねて、ひとつの主題あるいは主張に収められる文章(小論文やレポートなど)を書けるようになる。5. その際同時に、文献検索、引用についても学ぶ。6. 完成したレポートをプレゼンテーションし、相互にディスカッションする。</p>					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	パラグラフ構造を理解する。ある主題について分節化の重要性を理解する。				
■ 情意的領域	課題に熱心に取り組む。				
■ 技能表現的領域	適切なパラグラフが書けるようになる。				
授業計画(全体)					
<p>1. 毎回、個々の学生に課題が与えられる。2. 自分以外の学生の解答を、学生同士で閲覧して気づいたこと(評価、コメント)を書く。3. 他の学生が自分の解答について記述した点を参考にしながら、当該の授業で学んだこと、あるいは気づいたことを改めて記入する。4. 教員はそれを回収し、添削、評価を加えた上で、次の授業の際に返却する。5. 語彙の訓練は随時行う。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	<p>[テーマ] この授業の目的の説明、日本語能力試験および破格の文の添削 [内容] 自分の日本語能力を知るために試験を行う(40分)。後半では、破格の文章を添削し、格の正しさにたいする意識を養う。 [授業外学習] 配布されたプリントを読む</p>			⑨	<p>[テーマ] 800字程度の小論文を完成する(3)小論文の完成と評価 [内容] 小論文を完成させ、学生同士で評価する。 [授業外学習] 次回の目標規定文を考えてくる。</p>
②	<p>[テーマ] パラグラフの構造(1)。ひらがな文の漢字かな混じり文への変換 [内容] パラグラフの基本構造を理解し、パラグラフを書く。句読点、段落落きのすべてひらがなで書かれた文を漢字かな混じり文にする。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす</p>			⑩	<p>[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(1)目標規定文 [内容] 学生個人の関心にしがたって目標規定文を考える(教員が適切と認めるもの)。それに至るための展開を構想する(パラグラフ7つか8つ)。 [授業外学習]</p>
③	<p>[テーマ] パラグラフの構造(2) [内容] パラグラフにおけるtopic sentence, support sentence, concluding sentenceの再確認。paragraph outlineの作成方法およびパラグラフへの展開。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす</p>			⑪	<p>[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(2)パラグラフアウトライン [内容] 各パラグラフのトピック・センテンスを考え、パラグラフ・アウトラインを構想する。参考資料(文献検索)とその引用について、教員の助言が必要。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす</p>
④	<p>[テーマ] 分類のパラグラフを書く [内容] パラグラフの代表的なタイプについて以下3回にわたって学習する。今回は、パラグラフの基本である分類について。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす</p>			⑫	<p>[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(3)パラグラフ展開(1) [内容] アウトラインにしたがってパラグラフを書く。その際、アウトラインの変更を余儀なくされる場合もありうる。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす</p>
⑤	<p>[テーマ] 比較・対照のパラグラフを書く [内容] 比較・対照のパラグラフのどちらかを書く。その際、特にトピック・センテンスを何にするかが重要となる。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす</p>			⑬	<p>[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(4)パラグラフ展開(2) [内容] アウトラインにしたがってパラグラフを書く。 [授業外学習]</p>
⑥	<p>[テーマ] 原因・結果のパラグラフを書く [内容] このタイプのパラグラフは、かなり使用頻度が高いので、とくに習熟する必要がある。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす</p>			⑭	<p>[テーマ] 2000字程度のレポートの完成(5)完成し文集を作る [内容] 最終的にレポートを完成し、それを文集としてまとめる。 [授業外学習] 他の学生のレポートを読んでくる。</p>
⑦	<p>[テーマ] 800字程度の小論文のための準備(1)目標規定文の理解とその展開 [内容] 全学生が同じ主題について目標規定文を作成し、それに到達するための3つか4つのパラグラフ展開を考え、パラグラフアウトラインを書く。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす</p>			⑮	<p>[テーマ] レポートを発表し、ディスカッションの上、評価する [内容] レポートの要約を発表し、他の学生はそのレポートについてコメントを加え、それに対して著者も応答する。 [授業外学習]</p>
⑧	<p>[テーマ] 800字程度の小論文のための準備(2)パラグラフを書く [内容] 前回の構成にしたがって、パラグラフ完成させる。その際、書く途上で、目標規定文、アウトラインの修正はありうる。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす</p>			⑯	<p>[テーマ] [内容] [授業外学習]</p>
成績評価方法(方針)					
<p>毎回練習を反復する授業なので、授業態度も評価対象となる。その上で、課題にたいする取り組みの姿勢もまた重要である。言うまでもなく、課題にたいする解答、レポートの出来不出来がもっとも成績に関係する。</p>					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート		○	○	◎	20%
授業外レポート		○		○	30%
演習・実技					
授業態度		◎			50%
出席					欠格条件
履修上の注意(受講学生に望むこと)					
<p>1. 3分の1以上休んだ場合には、単位は認定されない(欠席の場合は必ず「欠席届」を提出すること)。 2. パラグラフ・ライティングは、授業のレポート、卒論等を書くとき必要となるので、積極的にこの授業に臨んでほしい。</p>					
関連科目	特定の関連科目はないが、ここで学ぶことは、あらゆる科目の基礎となると言う意味で、すべての科目に関連していると言える。				
教科書	プリントを配布する			参考書	授業中に指示する
連絡先	各授業担当者				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	総合英語A(含む外国語コミュニケーション)			担当教員	鎌田・菊地博・Parangi・(志子田)
	All-Round English A (including Foreign Language Communication)				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	関連資格	教員免許
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイメント・テストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用コンピュータに各自で入力する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。					
授業の一般目標					
英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。②すべてのクラスに、英会話の時間を設ける(各クラス期間中2・3回程度は英会話中心の授業を実施)。③英語の歌やスポーツに関する映画ドラマなどを教材として取り入れる。④アクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。					
授業テーマとその内容					
プレイメント・テストを実施し、その結果に基づいて5段階の能力別クラス(6クラス)に編成する。各クラスは約20～25名の少人数で構成され、それぞれクラスの目標に応じた内容の授業を行う。「総合英語A」ではレベル1～レベル5の授業を行う。以下に各レベルの目標と授業の事例を挙げる。					
レベル1 日常生活の基礎的英単語を修得する ★アルファベットをA～Zまで順に全て書きましょう ★数字の1～10、50、百、千、1万、10万、百万を書きましょう ★1月～12月、月曜日～日曜日を書きましょう					
レベル2 スポーツに用いられる英単語を修得する ★スポーツを題材とした英語記事から英単語を修得する (コマ数相当のスポーツ競技数)→ (毎回確認テスト) ex 次の英単語の日本語訳は? この単語が使われるスポーツ競技を列挙してください 全て同じ意味で使われていますか? → アクティブラーニング ★スポーツを題材とした日本語記事から英単語を修得する (コマ数相当のスポーツ競技数)→ (毎回確認テスト) ex 次の日本の言葉の英訳は? この英単語が使われるスポーツ競技を列挙してください 全て同じ単語が使われていますか? → アクティブラーニング ★スポーツのルールを表す単語の物語 ex 「オフサイド」を英語で書きましょう その意味は? スポーツ以外の場面での意味は? その語源は? この言葉を使わない他のスポーツでの類似語は? → アクティブラーニング					
レベル3 英検4級レベルの基礎的英文法を修得する ★スポーツを題材とした英語記事から英検4級レベルの基礎的英文法を修得する (毎回確認テスト) ★スポーツを題材とした日本語記事から英検4級レベルの基礎的英文法を修得する (毎回確認テスト)					
レベル4 英検3級レベルの基礎的英文法を修得する ★スポーツを題材とした英語記事から英検3級レベルの基礎的英文法を修得する (毎回確認テスト) ★スポーツを題材とした日本語記事から英検3級レベルの基礎的英文法を修得する (毎回確認テスト)					
レベル5 英検準2級レベルの英文法を修得する (TOEFL iBT 40～56) ★スポーツを題材とした英語記事から英検準2級レベルの英文法を修得する (毎回確認テスト) ★スポーツを題材とした日本語記事から英検準2級レベルの英文法を修得する (毎回確認テスト)					
レベル6 英検2級レベルの英文法を修得する (TOEFL iBT 57～86) ★スポーツを題材とした英語記事から英検2級レベルの英文法を修得する (毎回確認テスト) ★スポーツを題材とした日本語記事から英検2級レベルの英文法を修得する (毎回確認テスト)					
レベル7 英検準1級レベルの英文法を修得する (TOEFL iBT 87～109) ★スポーツを題材とした英語記事から英検準1級レベルの英文法を修得する (毎回確認テスト) ★スポーツを題材とした日本語記事から英検準1級レベルの英文法を修得する (毎回確認テスト)					
レベル8 教員採用試験レベルの英文法を修得する (TOEFL iBT 110以上) ★スポーツを題材とした英語記事から英語教員採用試験レベルの英文法を修得する (毎回確認テスト) ★スポーツを題材とした日本語記事から英語教員採用試験レベルの英文法を修得する (毎回確認テスト)					
なお、「総合英語B」ではレベル2～6、「総合英語C」ではレベル3～7、「総合英語D」ではレベル4～8の授業を行う予定である。					
[授業外学習の指示等]「語学学習システム」は授業中以外の時間にも課題に取り組むことが出来る。					
成績評価方法(方針)					
毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数 $\geq 2/3$ 以下の場合には成績評価の対象外とする。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート	◎				
授業外レポート	○				
演習・実技					
授業態度					
出席					
関連科目	スポーツに何故英語が必要か 総合英語B、総合英語C、総合英語D				
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
連絡先	鎌田研究室A棟512、菊地博研究室A棟515、パラング研究室A棟511				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	英語A(含む外国語コミュニケーション)			担当教員	鎌田・Parangi・(志子田)・菊地博
	English A (including Foreign Language Communication)				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	関連資格	教員免許
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて、英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。					
授業の一般目標					
英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 TOEIC400点を到達目標とする。					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
学生の主体性を重視し、自分が向上したい技能を自らその都度選択する形式で授業が進むことになる。各分野ごとに教材が用意されているので、自分の興味・能力・目的に合った教材を選び、それを解く。なお、授業時間内に複数の分野に取り組むことが可能である。取り組んだ「課題」で獲得したポイントは、その分野の入力専用コンピュータに自分で入力する。それぞれの分野で獲得したポイントの合計は毎週ランキング表として掲示される。					
授業テーマとその内容					
<ol style="list-style-type: none"> この科目の単位を修得するためには複数の技能にわたる教材に取り組まなければならない。 この科目は「Grammar(文法)」・「Intensive Reading(精読)」・「Speed Reading(速読)」・「Extensive Reading(内容把握)」・「Writing(作文)」・「Listening(聞き取り)」・「Speaking(会話)」・「Translation(翻訳)」・「Basic English(基礎英語)」の9分野で構成される。 それぞれの分野では習熟度に応じた教材ないしはクラス編成が行われている。学生は自分の能力に合わせて教材やクラスを選択することになる。なお、「Extensive Reading」は授業中以外の時間にも課題に取り組むことができる。 取り組んだ課題は採点され、その分野の獲得ポイントとして認められる。ただし、一回の授業で同じ分野を2度受講することや、同じ分野の同じ課題で重複してポイントを得ることはできない。 授業期間内での合計ポイントが200を超え、「Grammar(文法)」・「Intensive Reading(精読)」・「Speed Reading(速読)」・「Listening(聞き取り)」の4分野でそれぞれ10ポイントを超えれば、この科目の単位を修得できる。 出席回数が2/3以下の場合成績評価の対象外となるので注意すること。 					
16回目 ポイント確認日					
[授業外学習の指示等]「Extensive Reading」は授業中以外の時間にも課題に取り組むことができる。					
成績評価方法(方針)					
授業期間内での合計ポイントが200を超え、「Grammar」・「Intensive Reading」・「Speed Reading」・「Listening」の4分野でそれぞれ10ポイントを超えれば、単位を修得できる。ポイント数に応じて成績が決定される。600ポイント以上:「秀」、599～400ポイント:「優」、300～399ポイント:「良」、200～299ポイント:「可」、200ポイント未満:「不可」。なお、出席回数が2/3以下の場合成績評価の対象外とする。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法				到達目標	
定期試験	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ol style="list-style-type: none"> 教員は基本的に学生の学習を支援する役割に徹することになるので、学習に主体的に取り組むのは学生自身であることを常に認識すること。 学生一人ひとりには、どのように授業を受けるかについて100%の自由が与えられている。一方、その結果については100%自分で責任を取ることが求められる。計画的に授業を受けるようにしてもらいたい。 取り組んでいる「課題」でわからないことがあれば、教員に積極的に質問すること。 獲得したポイントをコンピュータに入力をしなかった場合やミスをした場合は加算されないため、入力にはくれぐれも注意すること。
授業内レポート	◎				
授業外レポート	○				
演習・実技					
授業態度					
出席					
関連科目	英語B(含む外国語コミュニケーション)				
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
連絡先	鎌田研究室A棟512、菊地博研究室A棟515、パランギ研究室A棟511				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	英語B(含む外国語コミュニケーション)			担当教員	鎌田・Parangi・(志子田)・菊地博
	English B (including Foreign Language Communication)				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	関連資格	教員免許
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
英語Aと同様に、英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて、英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。					
授業の一般目標					
英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 TOEIC450点を到達目標とする。					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
学生の主体性を重視し、自分が向上したい技能を自らその都度選択する形式で授業が進むことになる。各分野ごとに教材が用意されているので、自分の興味・能力・目的に合った教材を選び、それを解く。なお、授業時間内に複数の分野に取り組むことが可能である。取り組んだ「課題」で獲得したポイントは、その分野の入力専用コンピュータに自分で入力する。それぞれの分野で獲得したポイントの合計は毎週ランキング表として掲示される。					
授業テーマとその内容					
<ol style="list-style-type: none"> この科目の単位を修得するためには複数の技能にわたる教材に取り組まなければならない。 この科目は「Grammar(文法)」・「Intensive Reading(精読)」・「Speed Reading(速読)」・「Extensive Reading(内容把握)」・「Writing(作文)」・「Listening(聞き取り)」・「Speaking(会話)」・「Translation(翻訳)」・「Basic English(基礎英語)」の9分野で構成される。 それぞれの分野では習熟度に応じた教材ないしはクラス編成が行われている。学生は自分の能力に合わせて教材やクラスを選択することになる。なお、「Extensive Reading」は授業中以外の時間にも課題に取り組むことができる。 取り組んだ課題は採点され、その分野の獲得ポイントとして認められる。ただし、一回の授業で同じ分野を2度受講することや、同じ分野の同じ課題で重複してポイントを得ることはできない。 授業期間内での合計ポイントが200を超え、「Grammar(文法)」・「Intensive Reading(精読)」・「Speed Reading(速読)」・「Listening(聞き取り)」の4分野でそれぞれ10ポイントを超えれば、この科目の単位を修得できる。 出席回数が2/3以下の場合成績評価の対象外となるので注意すること。 					
16回目 ポイント確認日					
[授業外学習の指示等] 「Extensive Reading」は授業中以外の時間にも課題に取り組むことができる。					
成績評価方法(方針)					
授業期間内での合計ポイントが200を超え、「Grammar」・「Intensive Reading」・「Speed Reading」・「Listening」の4分野でそれぞれ10ポイントを超えれば、単位を修得できる。ポイント数に応じて成績が決定される。600ポイント以上:「秀」、599～400ポイント:「優」、300～399ポイント:「良」、200～299ポイント:「可」、200ポイント未満:「不可」。なお、出席回数が2/3以下の場合成績評価の対象外とする。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法				到達目標	
	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験					<ol style="list-style-type: none"> 教員は基本的に学生の学習を支援する役割に徹することになるので、学習に主体的に取り組むのは学生自身であることを常に認識すること。 学生一人ひとりには、どのように授業を受けるかについて100%の自由が与えられている。一方、その結果については100%自分で責任を取ることが求められる。計画的に授業を受けるようにしてもらいたい。 取り組んでいる「課題」でわからないことがあれば、教員に積極的に質問すること。 獲得したポイントをコンピュータに入力しなかった場合やミスをした場合は加算されないため、入力にはくれぐれも注意すること。
授業内レポート	◎				
授業外レポート	○				
演習・実技					
授業態度					
出席					
関連科目	英語A(含む外国語コミュニケーション)				
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
連絡先	鎌田研究室A棟512、菊地博研究室A棟515、パランギ研究室A棟511				

《教養展開科目》

(人文分野)

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	哲学入門			担当教員	小松恵一
	Introduction to Philosophy				
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数	2	
授業の概要					
現代に生きる人間が考えるべきテーマが扱われる。日常的に遭遇する諸問題に対処する際に、役に立つであろう道具を提供したい。だから、現実にある具体的な問題を取り上げて、まず始めに、何が問題なのか、つまり問題の意味を理解する。さらにそれを前提として、さまざまな考え方の筋道が可能であることをみずから発見できるようにしたい。					
授業の一般目標					
1. 考えるということに慣れ、それが実はおもしろいものなのだとことを発見する。2. 陳腐な常識に囚われず、自由な発想でものを考える。3. いろいろな考え方の可能性を見出す。4. そのさまざまな考え方を見比べたうえで、自らの考え方の方向を見出す。5. 以上の前提として、日本語でものを考える、概念的な思考ができるように訓練する。					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	さまざまな考え方を理解できる。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input checked="" type="checkbox"/>	技能表現的領域	自分の考えを表現できる。			
授業計画(全体)					
考える際に概念を用いるが、概念の使用に慣れるために、哲学的発想についてまず説明し、その後、とくに人間と人間の間をめぐらる問題(たとえば、社会に生きる人と個人、大人であることの意味、権威主義の問題、コミュニケーションの構造)、さらに、その応用として、体罰をめぐらる問題、インフォームド・コンセントという概念の重要性、日本社会とこれからの人間のあり方などを扱う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 哲学とは何か [内容] 問題を考えるとはどういうことなのか。概念と概念の関係を問うことによって、それを確認する。 [授業外学習] シラバスをよく読む。(1h)			⑨	[テーマ] 社会の中の権威主義 [内容] 縦社会、同調(圧力)などの日本社会を特徴づけるとされる概念を説明し、それらが有意義であるかどうかを考える。 [授業外学習] 授業外レポートを書く。(5h)
②	[テーマ] 問いと答えの論理—理解するということ [内容] 「理解」というあり方は、どのような構造を持つのかを、「問いと答え」の論理から学ぶ。 [授業外学習] 自分で考えた問いと答えについて、その前提を抜き出す(1h)			⑩	[テーマ] インフォームド・コンセント1 [内容] パターンリズムの問題点、インフォームド・コンセントという考え方の由来。もともとは医療の概念である。 [授業外学習] この概念の市民社会における重要性を整理する(1h)
③	[テーマ] 「自己」、「私」とは何か [内容] 「私」や「自己」は関係としてはじめて存在しうることを理解する。 [授業外学習] 返却された授業内レポートを振り返る。(1h)			⑪	[テーマ] インフォームド・コンセント2 [内容] しかし、この概念は、市民社会においても基本的である。political correctnessと posttruthについても言及する。 [授業外学習] 返却された授業外レポートを振り返る。(1h)
④	[テーマ] 「言葉」、「言語」のあり方とコミュニケーション [内容] ことばの機能、ことばの意味について、ヴィットゲンシュタインの考え方を説明する。そこからコミュニケーションについて、その身体性を理解する。 [授業外学習] 具体的コミュニケーションを構造化してみる。(1h)			⑫	[テーマ] 人間集団の類型 [内容] 人間が作るさまざまな規模の集団が形成される根拠により、集団を類型化する [授業外学習] 具体的な集団について、どの類型に当てはまるか考える(1h)
⑤	[テーマ] コミュニケーションの前提条件 [内容] コミュニケーションが成立するための前提条件を、アーレントとハーバーマスを参考に引き出す。理想的対話状況と非対等的な人間関係。 [授業外学習] 返却された授業内レポートを振り返る。(1h)			⑬	[テーマ] 国家という集団 [内容] 国家という人間集団形成の理由とその構造について。さまざまな国家の成り立ちから考える。 [授業外学習] 日本の場合、それはどのような集団であるか予習する(1h)
⑥	[テーマ] 「子供」と「大人」 [内容] 「大人」であることの意味について、カントの考え方を紹介する。 [授業外学習] 生活の場面で大人であるような行為の例を考える(1h)			⑭	[テーマ] 国家と個人の関係 [内容] この関係について、二三の学説を紹介する。とくに、問題としての日本という国家の場合、この関係はどうなっているか。 [授業外学習] 自分の身の回りから発想して、国家との結びつきを見出す(1h)
⑦	[テーマ] 権威主義的人間と大衆社会 [内容] アドルフ・ヒトラーによる権威主義的人間の研究を解説する。Fスケールを紹介する。 [授業外学習] 自分のなかにある権威主義を検討してみる(1h)			⑮	[テーマ] 国家と国家の関係とナショナリズム [内容] 国家は別の国家と関係する。近年はグローバル化の動向が不可避であるが、それと同時にナショナリズムも勃興している。 [授業外学習] 試験の準備をする(5h)
⑧	[テーマ] 権威主義の権力関係 [内容] 前回と関係させて、近代社会における権力のあり方をフーコーに基づいて解説する。 [授業外学習] 具体例を挙げ、その構造を引き出す(1h)			⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
最後の筆記試験、40%。授業内レポート、30%。授業外レポート、30%とする。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎		◎	40%
授業内レポート		◎		◎	30%
授業外レポート		◎		◎	30%
演習・実技					
授業態度					
出席					
関連科目					
教科書	教科書はとくにない。			参考書	参考書は授業内で指示する。
連絡先	小松恵一研究室A棟506、オフィスアワー水曜日4限				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	現代の思想 Introduction to Modern Thoughts			担当教員	小松恵一	
	開講内容	学年・学期	1・2・3半期			授業方法
	履修の方法	選択必修	単位数	2	関連資格	
授業の概要						
スポーツ哲学という分野で取り上げられているトピックを紹介する。そもそもスポーツとは何か、スポーツのルール、ルールと身体のパフォーマンスとの関係、スポーツにおけるコミュニケーション、スポーツへの欲求などを扱う。その際、多くの仙台大学の学生は、スポーツが生活と関心の中心にある人が多いので、自分のスポーツ経験から出発して、それを概念的に一般化することができるようにしたい。						
授業の一般目標						
ある程度抽象的な概念を使って「考える」ということの意味を理解する。その際、各自のスポーツ体験、発想が概念的思考と無縁ではなく、かえって、それが基盤になってはじめて、各自の体験の意味が明らかとなることを理解する。より具体的には、自分に関係ある問題として、自分の言葉で問題のありかかを表現し、スポーツの諸問題について自分の意見を表明できるようになることが目標である。						
授業の到達目標						
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	ある程度哲学的な言説を理解できるようになる。				
<input type="checkbox"/>	情意的領域					
<input checked="" type="checkbox"/>	技能表現的領域	自分の問題として取り扱われる諸問題を自分の言葉で表現できる。				
授業計画(全体)						
1回目から5回目までは、スポーツの構造にかんする説明。6回目から8回目は、スポーツへの欲求の源泉を扱う。9回目から11回目までは、オリンピック問題を考え、それ以降は、ドーピング問題を現代社会の根本的動向にかかわるものとして把握する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 「遊び」、「ゲーム」そして「スポーツ」 [内容] 一見して類似した概念間の異同、それらの間の構造的区別、ならびに関係を問う。 [授業外学習] シラバスをよく読む。(1h)			⑨	[テーマ] 古代ギリシャにおけるオリンピック [内容] エリアスの前記著作と対比して、古代ギリシャにおけるオリンピックの特徴を考察する。 [授業外学習] 現代のオリンピックとの違いを整理する(1h)	
②	[テーマ] 人間の活動におけるスポーツの位置 [内容] スポーツが人間の活動全体の中でのどのような位置を占め、他の活動とのような関係にあるかを考える。sport-related complexという概念の提示。 [授業外学習] 自分の諸活動とスポーツの関係を考える(1h)			⑩	[テーマ] クーベルタンのオリンピックの理念 [内容] 近代においてオリンピックを再興させたクーベルタンの思想を概括する。その思想は、問題点を含むと同時に現代のオリンピックの問題を提起する。 [授業外学習] クーベルタンについて調べる(1h)	
③	[テーマ] スポーツのルールが決めていること [内容] ルール(規則)のあり方をヴィットゲンシュタインの言語ゲームという概念を参考に説明する。 [授業外学習] ヴィットゲンシュタインについて調べる(1h)			⑪	[テーマ] 巨大化したオリンピックの問題点 [内容] ナショナリズム、商業主義、経費などオリンピックはさまざまな問題を抱えている。ここではとくに、ナショナリズムの問題を取り上げる。 [授業外学習] 自らのうちにあるナショナリズムについて考える(1h)	
④	[テーマ] ルールと身体動作(パフォーマンス) [内容] 前回到引き続いて、ヴィットゲンシュタインからルールの理解と身体動作の関係について説明する。 [授業外学習] 自分の身体動作とルールの関係を考える(1h)			⑫	[テーマ] ドーピングと現代社会 [内容] ドーピングは、スポーツに限った問題ではない。身体の変更という大きな流れのなかでドーピング問題を位置づける [授業外学習] 身体の変更の事例を考える(1h)	
⑤	[テーマ] スポーツとコミュニケーション [内容] コミュニケーションとはたんに言語によるだけではない。そこには、身体が重要な要素としてかかわってくる。それをスポーツを例に説明する。 [授業外学習] スポーツと言語の関係を自分の場合を例に考える(1h)			⑬	[テーマ] ドーピング禁止の理由への批判 [内容] フェアネス、健康、社会通念というドーピング禁止の一般的理由ならびにWADAの考え方を批判的に紹介する。 [授業外学習] ドーピング禁止の一般的理由を整理する(1h)	
⑥	[テーマ] 欲求の一般理論 [内容] はじめに欲求の一般理論をメーシスという概念から説明する。その際準拠するのは、ジラルの欲求理論である。 [授業外学習] 自分のスポーツへの欲求の起源を考える(1h)			⑭	[テーマ] ドーピング禁止の真の理由 [内容] ドーピングは禁止されるべきである。それは上記の理由によるというよりも、スポーツの成立条件にかかわっているからこそ禁止されるべきなのである。 [授業外学習] 一般的理由と今回の理由とを対比してみる(1h)	
⑦	[テーマ] アスリートの欲求 [内容] 上記の理論をアスリートに応用して考えてみる。欲求の源泉とその展開の具体化を試みる。 [授業外学習] 自分のスポーツへの欲求の展開を考える(1h)			⑮	[テーマ] スポーツの将来 [内容] これまでの授業全体を振り返り、現代におけるスポーツの限界を見定める。 [授業外学習] 試験の準備をする(5h)	
⑧	[テーマ] 興奮の探求としてのスポーツ [内容] ノルベルト・エリアスの『文明化の過程』およびダニングとの共著『興奮の探求』を解説する。 [授業外学習] 現代において興奮が求められる諸事例を挙げる(1h)			⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
最後の筆記試験、60%。授業のなかで書いてもらう授業内レポート、40%。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験		◎		◎	60%	
授業内レポート		◎		◎	40%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度						
出席						
関連科目						
教科書	教科書はない。			参考書	参考書はその都度指示する	
連絡先	小松恵一研究室B506(オフィス・アワー、水曜日4限)					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		心理学概論 Introduction to Psychology (L.)			担当教員	平田 忠
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格	社会福祉主事任用資格
	履修の方法	選択必修	単位数	2		
授業の概要						
心理学は人の行動について研究する学問です。心理学では、なぜ人はある行動をするのか、どのような条件の下でどのような行動をするのかなど、人の行動の法則性について調べます。この科目では、現代心理学の主な領域をとりあげ、それぞれの領域で人間の行動にはどのような法則性や特徴があるのかについて解説をします。						
授業の一般目標						
授業で紹介される、いろいろな種類の人の行動について、どのような法則性があるのかについて理解を深めるとともに、それを基礎として、自分自身の行動について、また自分の周りにいる人々の行動について、さらに自分と周りの人との関係について分析的客観的に考える態度を身につけることが目標です。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	さまざまな人の行動の法則性を理解する。				
■	情意的領域	人の行動を客観的に考える態度を身につける。				
■	技能表現的領域	自分の考えを言葉を用いて適切に表現できる。				
授業計画(全体)						
心理学の中の五つの領域－感覚・知覚、学習・記憶、動機づけ、人格、社会心理－をとりあげます。これまでの各領域における研究で人の行動についてどのようなことが分かっているのかについて解説をします。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 初めに [内容] 授業の内容、進め方についての説明、心理学とはどのような学問か [授業外学習]心理学では何を研究するのかを考えてみる(1時間程度)			⑨	[テーマ] 動機づけ② [内容] 私たちの社会性と関わりを持つ、行動の原因について考える [授業外学習]自分の行動を振り返り、その理由を考えてみる(1時間程度)	
②	[テーマ] 感覚と知覚① [内容] 自分自身と周囲の世界について知る働きとその仕組みについて考える [授業外学習]各感覚をなくしたら、どの程度を想像してみる(1時間程度)			⑩	[テーマ] 動機づけ③ [内容] 葛藤(複数の動機の競合)と葛藤状態における反応について考える [授業外学習]過去の葛藤場面を考えてみる (1時間程度)	
③	[テーマ] 感覚と知覚② [内容] 物理世界と知覚世界の違いを通して、私たちの知覚の特徴について考える [授業外学習]身の回りで経験する錯覚について考えてみる(1時間程度)			⑪	[テーマ] 人格① [内容] 個性とは何か、その人らしさとは何かについて考える [授業外学習]自分の性格的特徴は何かを考えてみる(1時間程度)	
④	[テーマ] 感覚と知覚③ [内容] 文字や顔を例にして、いろいろな刺激をまとめるとしてとらえるという知覚の特徴について考える [授業外学習]「犬を見て、犬だとわかる」ことを考えてみる(1時間程度)			⑫	[テーマ] 人格② [内容] 人格はどのように形成されるのか(遺伝の要因と環境の要因)について考える [授業外学習]自分と両親兄弟の性格を比較してみる(1時間程度)	
⑤	[テーマ] 学習と記憶① [内容] 学習とはどのような働きか、そしてそれが私たちの生活にどのように関わっているかを考える [授業外学習]出生後の行動の変化について考えてみる(1時間程度)			⑬	[テーマ] 人格③ [内容] 精神的な面での個人差を調べる方法(心理検査)について紹介する [授業外学習]精神的特徴の測定について考えてみる(1時間程度)	
⑥	[テーマ] 学習と記憶② [内容] 代表的な学習－条件づけ、記銘学習、観察学習－について考える [授業外学習]条件づけの例を身の回りで探してみる(1時間程度)			⑭	[テーマ] 社会心理① [内容] 他の人についての印象はどのように形成されるかについて考える [授業外学習]周囲の人に対する自分の印象を整理してみる (1時間程度)	
⑦	[テーマ] 学習と記憶③ [内容] 学習を支える記憶の仕組みとその働きについて考える [授業外学習]完全な記憶喪失の状態について想像してみる(1時間程度)			⑮	[テーマ] 社会心理② [内容] 私たちはどのような人を好きになり、どのような人を友達として選ぶのかについて考える [授業外学習]友人との出会いから現在までを考えてみる(1時間程度)	
⑧	[テーマ] 動機づけ① [内容] 私たちが生命を維持するために必要な、行動の原因について考える [授業外学習]死なないために必要なことを考えてみる(1時間程度)			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
レポートを3回課し、その評価(評価割合30%×3)と授業態度(評価割合10%)によって成績を決定します。レポートは評価・添削をして返却すると同時に、出題の意図や評価の観点等について説明します。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・単に話を聞くだけでなく、授業でとりあげる事柄を自分に当てはめて、自分の行動、他の人の行動について考えましょう。 ・授業中、授業に無関係のことをしてはいけません。(減点の対象) ・授業中、授業の妨げになることはしてはいけません。(減点の対象) 	
定期試験						
授業内レポート						
授業外レポート	◎	◎	◎	90%		
演習・実技						
授業態度		◎		10%		
出席						
関連科目	なし					
教科書	使用しません			参考書	授業の中で指示します。	
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休みです					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	人の心と行動 Human Mind and Behavior(L.)			担当教員	平田 忠
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数	2	
授業の概要					
<p>私たちが毎日している行動にはいろいろなものがありますが、この授業では「衣」に関わる行動をとりあげます。私たちは日常いろいろなものを身につけて生活しています。いつ、どこで、どのようなものを身につけるかの選択と決定をわたしたちはどのように行っているのでしょうか。そこにはどのような意図や動機が関係しているのでしょうか。このような「衣」にかかわるさまざまなことについて考えてもらいます。</p>					
授業の一般目標					
<p>「衣」に関する選択と決定、動機と意図について理解するとともに、「衣」を通して自分自身の精神的な特徴と行動の傾向、同時に自分の周囲にいる他の人たちの精神的な特徴と行動傾向について意識して考える態度を身につけることが目標になります。</p>					
授業の到達目標					
■	認知的領域	「衣」に関わる人の行動の法則性を理解する			
■	情意的領域	人の行動を客観的・分析的に考える態度を身につける			
■	技能表現的領域	自分の考えを言葉を用いて適切に表現できる。			
授業計画(全体)					
「衣」に関わるさまざまな話題(装い、化粧、流行、身体イメージなど)について解説をします。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 初めに [内容] 授業の内容と進め方についての説明、「衣」を考える視点について [授業外学習] 自分の「衣」をよく観察してみよう(1時間程度)			⑨	[テーマ] 流行② [内容] 私たちはなぜ流行を追うのかについて考える [授業外学習] 流行に対する自分の態度を振り返ってみる(1時間程度)
②	[テーマ] 着衣の動機 [内容] 人はなぜ服を着るのか、また人はいつ頃から服を着るようになったかについて考える [授業外学習] 服を着ることの意味について考えてみる(1時間程度)			⑩	[テーマ] 流行③ [内容] 流行における個人差、流行採用と人格との関係について考える [授業外学習] 自分の性格と流行との関係について考えてみる(1時間程度)
③	[テーマ] 装い① [内容] 装いが持つ情報伝達という機能について考える [授業外学習] 装いで自分が伝えたいことについて考えてみる(1時間程度)			⑪	テーマ] 化粧① [内容] 顔の働きと顔の管理について考える [授業外学習] 顔に注目することについて考えてみる(1時間程度)
④	[テーマ] 装い② [内容] 装いによって私たちの対人関係と対人行動はどのように変わるかについて考える [授業外学習] なぜ私たちは着飾るのかを考えてみる(1時間程度)			⑫	[テーマ] 化粧② [内容] 髪型を含む化粧の機能と精神的な効果について考える [授業外学習] 自分の性格と化粧・髪型との関係を考えてみる(1時間程度)
⑤	[テーマ] 「衣」の購買① [内容] 数え切れない選択肢の中から、私たちはどのようにして特定の商品を選ぶのか、その過程について考える [授業外学習] 自分の購入の決断過程を考えてみる(1時間程度)			⑬	[テーマ] 身体と被服① [内容] 三種類の身体(客観的な身体特徴、主観的イメージ、理想とするイメージ)の関係について考える [授業外学習] 自分の身体についての好き嫌いを考えてみる(1時間程度)
⑥	[テーマ] 「衣」の購買② [内容] 個人の購買に関する態度を合理性と情緒性という二つの面から考える [授業外学習] 商品のどのような特性を重視するかを考えてみる(1時間程度)			⑭	[テーマ] 身体と被服② [内容] 被服による身体イメージの操作について考える [授業外学習] 被服によるイメージ操作の工夫を考えてみる(1時間程度)
⑦	[テーマ] 「衣」の購買③ [内容] 購買に伴う危険性とブランドの影響について考える [授業外学習] 買った後の後悔経験を振り返ってみる(1時間程度)			⑮	[テーマ] 被服における逸脱 意図的に、標準的なもの、社会的に望ましい形とは異なる装いを選ぶことについて考える [授業外学習] 講義の内容を総合して自分の装いを考えてみる(1時間程度)
⑧	[テーマ] 流行① [内容] 流行とはどのような現象なのかについて考える [授業外学習] 今年流行したこと・ものを思い出してみる(1時間程度)			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
レポートを3回課し、その評価(評価割合30%×3)と授業態度(評価割合10%)によって成績を決定します。 レポートは評価・添削をして返却すると同時に、出題の意図や評価の観点等について説明します。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・単に話を聞くだけでなく、授業でとりあげる事柄を自分に当てはめて、自分の行動、他の人の行動について考えましよう。 ・授業中、授業に無関係のことをしてはいけません。(減点の対象) ・授業中、授業の妨げになることはしてはいけません。(減点の対象)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート	◎	◎	◎	90%	
演習・実技					
授業態度		◎		10%	
出席					
関連科目	なし				
教科書	使用しません			参考書	授業の中で指示します。
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休みです				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ことばと人間A			担当教員	青沼一民
	Language and Human Being A				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					
この授業では、「私たちにとってことばとは何か」を主題とし、ことばの成立、その理解について解説する。					
授業の一般目標					
ことばについて理解することにより、日常的な言語表現に気をくばり、よりの確な表現ができるようになる。					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	表現に対する意識を高める。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
本授業は、毎回一つのトピックについて考察し、回を重ねるたびにことばについての多面的な理解ができるよう構成されている。なお、毎回授業の初めに前回の授業内容のふり返しを行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の説明 [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う			⑨	[テーマ] 「比喩的表現について(2)」 [内容] 比喩的表現の有効性について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う
②	[テーマ] 「ことばとは人間にとってなにか」 [内容] 我々にとってことばとは何かを考える。 [授業外学習] 配布資料のより次週の予習を行う			⑩	[テーマ] 「比喩的表現について(3)」 [内容] 具体例をもとに比喩的表現の有効性について再度考える [授業外学習] これまでの授業内容を復習する
③	[テーマ] 「ことばが意味をもつためには(1)」 [内容] ある表現が成立するための条件について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う			⑪	[テーマ] 振り返り(テスト含む) [内容] 前回までの授業内容について復習する [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う
④	[テーマ] 「ことばが意味をもつためには(2)」 [内容] ある表現が成立するための条件について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う			⑫	[テーマ] 「わかるとは(1)」 [内容] 「わかる」とはどのようなことなのかについて考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う
⑤	[テーマ] 「概念について(1)」 [内容] ことばと概念の関係について考える [授業外学習] これまでの授業内容を復習する			⑬	[テーマ] 「わかるとは(2)」 [内容] 前回に続き「わかる」とはどのようなことなのかについて考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う
⑥	[テーマ] 振り返り(テスト含む) [内容] 前回までの授業内容について復習する [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う			⑭	[テーマ] 「わかるとは(3)」 [内容] 前回に続き「わかる」とはどのようなことなのかについて考える [授業外学習] これまでの授業内容を復習する
⑦	[テーマ] 「概念について(2)」 [内容] 概念の形成について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う			⑮	[テーマ] 振り返り(テスト含む) [内容] 前回までの授業内容について復習する [授業外学習]
⑧	[テーマ] 「比喩的表現について(1)」 [内容] 比喩的表現の構造について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う			⑯	[テーマ] 最終試験 [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
授業内レポートおよびテストの結果で評価する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			80%
授業内レポート		◎			20%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
<ul style="list-style-type: none"> ・学則通り全授業の2/3以上の出席が必要。 ・授業環境を著しく乱す行為が再度に亘った場合は受講停止とする。 					
関連科目					
教科書	特に使わない			参考書	必要に応じて指示する
連絡先	A棟3階研究室(313)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ことばと人間 B Language and Human Being B			担当教員	鎌田 幸雄
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					
人間にとって「ことば」とは如何なるものであるのかについて、言語学的観点からの概説を試みる。言語学にはその研究目標により様々な立場があるが、本講義では、特に一つの立場に偏ることなく、言語学全般に関する基本的概念をわかりやすく解説する。言語が誰にとっても身近で重要なものであることを認識する機会としたい。					
授業の一般目標					
言語学全般に関する基本的概念を理解する。 身近な言語表現を言語学的立場から分析することができる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	言語学全般に関する基本的概念を理解する。			
■	情意的領域	身近な言語表現を言語学的立場から分析することができる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
特定のテキストは使用せず、毎回テーマに沿ったプリントを配布する。講義全体の流れを説明すると、前半では「ことば」の内部構造について「音声」「語」「文」「意味」の4つの側面に分けて考察する。後半では、「ことば」と「社会」との関係について様々な観点から検討する。最後にそれまでの講義内容を前提とし、日本語の歴史について概観する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] ことばの様々な研究法 [内容] ことばを研究する際の代表的な研究方法について概説する。 [授業外学習] 講義の内容を復習する		⑨	[テーマ] ことばと社会(2) 言語の多様性 [内容] 言語接触、ピジンとクレオール、多言語社会とその類型、多言語社会とその歴史的起源、単一言語社会等 [授業外学習] 講義の内容を復習する	
②	[テーマ] ことばの構造(1) 言語音の構造 [内容] ことばの音声的構造を概説する。音声器官、音素、異音、音声学と音韻論の立場の違い等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する		⑩	[テーマ] ことばと社会(3) 公用語とは何か [内容] 書きことばと話しことば、方言と標準語、国家と標準語、言語教育、国際語等 [授業外学習] 講義の内容を復習する	
③	[テーマ] ことばの構造(2) 語の構造 [内容] ことばの重要な単位である「語」について、形態論的分析法を概説する。語類、形態素、語形成、語形変化、文法範疇等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する		⑪	[テーマ] ことばと社会(4) 英語史概観 [内容] 被征服言語/征服言語としての英語、英国の階級社会と英語、米国フェミニズム運動と英語等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する	
④	[テーマ] ことばの構造(3) 文の構造 [内容] 文の構造の分析法について概説する。階層構造、直接構成素、句構造、語順、類型論等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する		⑫	[テーマ] ことばの不思議 [内容] 同名のドキュメンタリーを鑑賞し、その感想を提出する。 [授業外学習] ことばとは何かを考える	
⑤	[テーマ] ことばの構造(4) 意味の構造 [内容] ことばの意味的側面についてその分析法を概説する。意味の意味、意味の場、意味の関係等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する		⑬	[テーマ] 日本語の歴史(1) 日本語の起源・系統 [内容] 日本語の起源・系統についての諸説を概観する。同祖論と重層論等 [授業外学習] 講義の内容を復習する	
⑥	[テーマ] ことばとその外部(1) 固有名について [内容] 言語とその外部の接点にあたる「固有名」について考える。人名:人名の多様性、英米人の人名等 [授業外学習] 講義の内容を復習する		⑭	[テーマ] 日本語の歴史(2) 上代から近世まで [内容] 上代から近世までの日本語の歴史を概観する。日本語の表記の歴史、借用語・翻訳語等 [授業外学習] 講義の内容を復習する	
⑦	[テーマ] ことばとその外部(2) 固有名について [内容] 言語とその外部の接点にあたる「固有名」について考える。地名:地名の命名法、英米の地名等 [授業外学習] 講義の内容を復習する		⑮	[テーマ] 日本語の歴史(3) 明治維新以降 [内容] 明治維新以降の日本語の歴史を概観する。言文一致運動、植民地の言語政策、戦後の言語政策等 [授業外学習] 講義の内容を復習する	
⑧	[テーマ] ことばと社会(1) 言語の社会的機能 [内容] 文化としての言語、言語の恣意性、サピア・ウォーフの仮説、アイデンティティとしての言語、言語と民族等 [授業外学習] 講義の内容を復習する		⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] [授業外学習]	
成績評価方法(方針)					
期末試験(80%)と出席を含む積極的授業参加(20%)にもとづき、総合的に評価する。出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎	◎		80%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度			◎		20%
出席					
関連科目	ことばと人間 A				
教科書	特に指定しない			参考書	講義の際にその都度紹介します
連絡先	鎌田研究室A棟512				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ことばと人間B Language and Human Being B			担当教員	菊地 博/ジェリー パランギ
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					
In this class, students think about what is language for human being. For this purpose, this class will examine basic topics of linguistics to lead students to the deeper understanding of language. All lessons are given in English.					
授業の一般目標					
Students can acquire basic knowledges of linguistics and, based on them, think about familiar expressions from the linguistic point of view. In addition, students can make a brief summary of their opinions in English.					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	To acquire basic knowledges of linguistics.				
■ 情意的領域	To attend the class steadily and talk about topics voluntarily.				
■ 技能表現的領域	To talk and explain about topics and make a brief summary of them in English.				
授業計画(全体)					
One topic is treated per class. Students discuss it each other and make a summary of, and give a presentation of it. Through this learning, students are expected to deepen their understanding of language.					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] Orientation [内容] Explanation of the classes. [授業外学習]Preparation			⑨	[テーマ] Sign language [内容] Popular fallacies about sign language; the development and use of signs by the deaf. [授業外学習]Preparation.
②	[テーマ]The prescriptive tradition [内容]Popular notions of linguistic authority and correctness; purism and language change; the role of linguistic description. [授業外学習]Preparation.			⑩	[テーマ]Sign language structure [内容]The ways signs are used to convey grammatical contrasts; American Sign Language. [授業外学習]Preparation.
③	[テーマ] The equality of language [内容] Myths about primitive languages and language superiority. [授業外学習]Preparation.			⑪	[テーマ] Types of sign language [内容]The range of contrived sign languages; finger spelling, cued speech, and other systems [授業外学習]Preparation.
④	[テーマ] The magic of language [内容]Linguistic superstitions and verbal taboos; the mystical power of proper names. [授業外学習]Preparation.			⑫	[テーマ] The first year [内容]The development of infant vocalization; early speech perception and interaction. [授業外学習]Preparation.
⑤	[テーマ] Physical identity [内容] The relationship between language and age, sex, physical type and physical condition; voiceprints; male vs female speech. [授業外学習]Preparation.			⑬	[テーマ] How many languages? [内容] Identifying, counting, and classifying the languages of the world. [授業外学習]Preparation.
⑥	[テーマ] Ethnic and national identity [内容]Language, ethnicity, and nationalism; the problem of minority languages and dialects. [授業外学習]Preparation.			⑭	[テーマ]The origins of language [内容] Myths and experiments about the origins of language; wolf children; humans and primates; the evidence of paleontology. [授業外学習]Preparation.
⑦	[テーマ] Social identity [内容] Language and social stratification, class, status, role, solidarity, and distance; the problem of sexism; borrowings. [授業外学習]Preparation.			⑮	[テーマ] Reflection [内容] Review of the classes. Write the summary of the classes. [授業外学習]
⑧	[テーマ]Grammar [内容] Syntax and morphology; the structure of words, phrases, clauses, and sentences. [授業外学習]Preparation.			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
participation/attitude 50% presentation 30% report 20%					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート	◎			◎	20%
授業外レポート					
演習・実技	◎	◎		◎	40%
授業態度			◎		40%
出席			◎		
Students must attend more than 2/3 of all classes and must score at least 60% of their total marks(140 points). The maximum number of students is 10.					
関連科目	Language and Human Being A				
教科書				参考書	English-English dictionary
連絡先	菊地研究室 A515				

(社会分野)

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	社会学概論 Introduction to Sociology (L.)			担当教員	三谷高史
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					
<p>社会における様々な物事を読み解く「道具」としての社会学について解説する。我々が社会生活を営む上で「当たり前」と感じている社会的通念や制度は、本当に「当たり前」のものなのだろうか？その「当たり前」を疑うために、過去の偉人たちが残した概念を解説し、物事の本質を見抜く目を養う。</p>					
授業の一般目標					
<p>社会における「当たり前」を疑う能力を身につける。「当たり前」を疑う能力を身につけることで、現在生きている社会が抱えている諸問題をより鮮明に理解できるようになる。</p>					
授業の到達目標					
■	認知的領域	社会学的な諸概念を理解する			
■	情意的領域	社会における「当たり前」を疑う態度を身につける			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
<p>毎時間1つずつ、社会で「当たり前」と思われている通念を提示し、それを疑うための社会的概念を解説する。毎回穴埋め式のプリントを配布するので、その穴を埋め、メモ欄に重要事項を書き取る形で講義を受けてほしい。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	<p>[テーマ]オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、最終試験課題の概要などの説明 [授業外学習]社会問題にかんする新聞・雑誌記事を探し、読む(90分)</p>			⑨	<p>[テーマ] 中間試験 [内容] 選択式・記述式の試験を行なう [授業外学習]事前に中間試験に向けて講義内容を復習する(300分)</p>
②	<p>[テーマ] 社会学的方法論 [内容] 社会学が、社会を分析するためにどのような研究方法を採用してきたかを解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>			⑩	<p>[テーマ] ジェンダーとスポーツ文化 [内容] ジェンダーとセクシュアリティ概念について解説し、スポーツ文化とのかかわりについて解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>
③	<p>[テーマ] 社会的役割取得① [内容] 人間の社会的役割取得について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>			⑪	<p>[テーマ] 家族と社会学 [内容] 近代家族の特徴について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>
④	<p>[テーマ] 社会的役割取得② [内容] 人間が「社会」に束縛されて生活していることを検証する実験を行う [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>			⑫	<p>[テーマ] 学校と社会学 [内容] 学校という空間の持つ特徴について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>
⑤	<p>[テーマ] アイデンティティ① [内容] アイデンティティ概念について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>			⑬	<p>[テーマ] スポーツと社会学 [内容] スポーツ社会学の知見について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>
⑥	<p>[テーマ] アイデンティティ② [内容] 映像資料(映画)を用いて、アイデンティティの危機について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>			⑭	<p>[テーマ] メディアと社会学 [内容] メディアとコミュニケーションについて解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>
⑦	<p>[テーマ] 社会への適応 [内容] 社会規範の取得について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>			⑮	<p>[テーマ] 現代と社会学 [内容] 現代社会(後期近代社会)がもつ問題性や特徴について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>
⑧	<p>[テーマ] 社会からの逸脱 [内容] 社会からの逸脱行為の種類、構造について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>			⑯	<p>[テーマ] 期末レポート [内容] 授業内容への関心度を問うレポートを作成してもらう [授業外学習]講義内容を復習し、期末レポートを作成する(600分)</p>
成績評価方法(方針)					
<p>中間試験(50%)＋期末レポート(50%)で総合的に評価する。中間試験の成績が合格ライン(50点中30点)に届いていない者については、追加レポートを課す場合がある。2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。特別な事情(部活の試合、忌引き、電車の遅延等)があった場合は、事後報告で構わないので、後日必ず報告すること。</p>					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<p>2/3以上の講義に出席しない場合には、出席日数不足として成績は「放棄」となる。また友人に学生証を預けて代返している行為が発覚した場合には、本講義の成績は「不可」となる。 熱心に学ぼうとしている学生の邪魔をする行為(私語など)は禁止する。注意を与えても改善されない場合は、減点などの措置をとる。 「分からない」ということは恥でも何でもなく、むしろよく分からないことを「分かかった」ふりをするののほうが恥ずかしいと思うように。そのため些細な質問でも大歓迎なので、オフィスアワーに気軽に質問に来るように。</p>
定期試験	○	○		50%	
授業内レポート					
授業外レポート	○	○	○	50%	
演習・実技					
授業態度				欠格条件	
出席				欠格条件	
関連科目	社会構造と人間関係、社会調査法Ⅰ				
教科書	特に指定しない			参考書	倉沢進他[編著]『社会学入門』放送大学教育振興会、2001 奥村隆[編著]『社会学になにができるか』八千代出版、1997
連絡先	tk-mitani@sendai-u.ac.jp				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	社会構造と人間関係 Social Structure and Human Relationship (L.)			担当教員	三谷高史
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					
<p>社会における様々な物事を読み解く「道具」としての社会学について解説する。我々が社会生活を営む上で「当たり前」と感じている社会的通念や制度は、本当に「当たり前」のものなのだろうか？その「当たり前」を疑うために、過去の偉人たちが残した概念を解説し、物事の本質を見抜く目を養う。後半は、ほぼ全ての人が経験する学校という社会的空間に焦点を当てる。</p>					
授業の一般目標					
<p>社会における「当たり前」を疑う能力を身につける。「当たり前」を疑う能力を身につけることで、現在生きている社会が抱えている諸問題をより鮮明に理解できるようになる。</p>					
授業の到達目標					
■	認知的領域	社会学的な諸概念を理解する			
■	情意的領域	社会における「当たり前」を疑う態度を身につける			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
<p>毎時間1つずつ、社会で「当たり前」と思われている通念を提示し、それを疑うための社会学的概念を解説する。毎回穴埋め式のプリントを配布するので、その穴を埋め、メモ欄に重要事項を書き取る形で講義を受けてほしい。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	<p>[テーマ]オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、最終試験課題の概要などの説明 [授業外学習]学校にかんする新聞・雑誌記事を探し、読む(90分)</p>			⑨	<p>[テーマ] 中間試験 [内容] 選択式・記述式の試験を行なう [授業外学習]事前に中間試験に向けて講義内容を復習する(300分)</p>
②	<p>[テーマ] 社会学的方法論 [内容] 社会学が、社会を分析するためにどのような研究方法を採用してきたかを解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>			⑩	<p>[テーマ] 学校の社会学① [内容] 学校の持つ集中性について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>
③	<p>[テーマ] 社会的役割取得① [内容] 人間の社会的役割取得について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>			⑪	<p>[テーマ] 学校の社会学② [内容] 学校の持つ秩序性について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>
④	<p>[テーマ] 社会的役割取得② [内容] 人間が「社会」に束縛されて生活していることを検証する実験を行う [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>			⑫	<p>[テーマ] 学校の社会学③ [内容] 学校の持つ文化性について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>
⑤	<p>[テーマ] アイデンティティ① [内容] アイデンティティ概念について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>			⑬	<p>[テーマ] 学校の社会学④ [内容] 教員の部活動負担問題について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>
⑥	<p>[テーマ] アイデンティティ② [内容] 映像資料(映画)を用いて、アイデンティティの危機について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>			⑭	<p>[テーマ] 学校の社会学⑤ [内容] 学校におけるリスクについて解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>
⑦	<p>[テーマ] 社会への適応 [内容] 社会規範の取得について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>			⑮	<p>[テーマ] 学校の社会学⑥ [内容] 運動部活動における「体罰」、「事故」、それへの対策について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>
⑧	<p>[テーマ] 社会からの逸脱 [内容] 社会からの逸脱行為の種類、構造について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>			⑯	<p>[テーマ] 期末レポート [内容] 授業内容への関心度を問うレポートを作成してもらう [授業外学習]講義内容を復習し、期末レポートを作成する(600分)</p>
成績評価方法(方針)					
<p>中間試験(50%)＋期末レポート(50%)で総合的に評価する。中間試験の成績が合格ライン(50点中30点)に届いていない者については、追加レポートを課す場合がある。2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。特別な事情(部活の試合、忌引き、電車の遅延等)があった場合は、事後報告で構わないので、後日必ず報告すること。</p>					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		○	○		50%
授業内レポート					
授業外レポート		○	○	○	50%
演習・実技					
授業態度					欠格条件
出席					欠格条件
関連科目	社会学概論、社会調査法 I				
教科書	特に指定しない			参考書	倉沢進他[編著]『社会学入門』放送大学教育振興会、2001 内田良『教育という病』光文社、2015
連絡先	tk-mitani@sendai-u.ac.jp				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	消費経済とスポーツ Economy of Consuming and Sport			担当教員	高成田 亨、遠藤保雄
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					
消費の視点からみた経済及びスポーツを学ぶ。					
授業の一般目標					
消費と経済及びスポーツを学ぶことで、体育系大学で学んだ人間が社会に参画する際に役立つ知識や考え方を身に付ける。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	消費あるいは消費者とは何か、それがスポーツとどうかかわるかを理解する			
■	情意的領域	自分が消費する意味や楽しみをほかの人に伝える方法や工夫を学ぶ。			
■	技能表現的領域	作文及び自分の意見のプレゼンテーションする能力を高める。			
授業計画(全体)					
消費の視点から経済の歴史やスポーツの歴史を学び、現代社会における消費の意味を理解する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 授業の概要 [内容] 消費経済とは何かを学ぶ。 [授業外学習]自分の生活のなかで、どんな分野に消費しているか調べる			⑨	[テーマ] クレジット社会 [内容] 消費の欲望を拡大させるための道具としてのクレジットの歴史と意味。 [授業外学習]クレジットで購入したことがあるか考える
②	[テーマ]消費の歴史 [内容] 生きるための消費から楽しむための消費が拡大する人類の歴史。 [授業外学習]自分それぞれの消費についてその目的を考える			⑩	[テーマ] 貯蓄と投資 [内容] 貯蓄にはどんな種類があるのか、投資はどう違うのか。個人貯蓄や投資の経済的な意味を学ぶ [授業外学習]どんな貯蓄や投資があるか調べる
③	[テーマ] 万国博からショッピングモールへ [内容] 消費の欲望をかきたてるための場の意味を、万国博、デパート、ショッピングモールなどの歴史をたどりながら考える。 [授業外学習]万国博について調べる			⑪	[テーマ] 消費税 [内容] 消費税の仕組みと財政及び国際比較。 [授業外学習]日本の財政を調べる
④	[テーマ] 大衆消費社会とは [内容] 大量生産・大量消費社会の成立とその意味 [授業外学習]自分の購入したものが大量製品されたものかどうか考える			⑫	[テーマ] 消費経済と国家経済 [内容] 消費のマクロ経済的な意味 [授業外学習]マクロ経済の意味を調べる
⑤	[テーマ] 広告の功罪 [内容] 広告は消費に役立つが、不要なものを買ってしまうこともある。広告の功罪を考える。 [授業外学習]自分の生活で広告で購入したものがあるかどうか考える			⑬	[テーマ] 消費社会を超えて [内容]消費が環境に与える影響、物質的な幸せと精神的な幸せなど、消費社会がもたらした課題を考える。 [授業外学習]
⑥	[テーマ] 記号としての消費 [内容] ステータスシンボルとしてのブランド商品の歴史と現在。 [授業外学習]ブランドとは何かを考える			⑭	[テーマ] まとめと小論文の書き方 [内容] これまでの授業のまとめと小論文の書き方。 [授業外学習]
⑦	[テーマ] 消費するスポーツ(上) [内容] スポーツが消費社会に組み込まれる歴史をたどる。 [授業外学習]自分の生活の中でスポーツに関係する消費がどれだけあるか考える			⑮	[テーマ] 小論文 [内容] これまでの授業を踏まえて小論文書く。 [授業外学習]
⑧	[テーマ]消費するスポーツ(下) [内容] スポーツが消費社会に組み込まれた現状を考察 [授業外学習]同上			⑯	[テーマ] 予備 [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
出席状況と授業の終わりに書くレポート、最後の授業で書く小論文などで判定					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	私語厳禁。私語で退席を命じた学生には単位を与えません。
定期試験				60%	
授業内レポート	◎	◎	◎		
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度	○	○	○	10%	
出席	○	○	○	30%	
関連科目					
教科書				参考書	
連絡先	高成田研究室(to-takanarita@sendai-u.ac.jp)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	世界経済・日本経済とスポーツ World & Japanese Economy and Sports			担当教員	遠藤保雄
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					
スポーツビジネスは年々拡大している。そのビジネスは世界経済・日本経済の動向と深く結びついている。世界や日本のスポーツ経済を概観しつつスポーツビジネスや経済が世界経済・日本経済とどう結びついているかを学び、これを通じ世界経済・日本経済の見方やその経済のシステム、経済理論などを学ぶ。					
授業の一般目標					
スポーツビジネス、スポーツ経済という場合に、先ず、ビジネスとは、経済とは何かを学び、スポーツが世界経済や日本経済とどう結びついているかを考察し、これを通じ、スポーツを先行する本学の学生に取り、世界経済、日本経済の味方について理解を深める。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	スポーツについては、これを行う上での基礎的な技術・ルールを学ぶだけでなく、競技として観客に楽しんでもらうビジネスとなっていること、そこから金銭のやり取りが行われ経済活動に発展していることの認識を深める。				
■ 情意的領域	スポーツは、やるもの、見るものなど多様な形で国民の生活に結びついており、これにより国民生活を豊かにするという価値を持っていることに理解を深める。				
■ 技能表現的領域	スポーツ経済を考える上での基本的な用語・理論について、基礎的な経済学的な基礎面についての理解を深める。				
授業計画(全体)					
本授業は、毎回、指定のテーマについて考察し、講義ノートを活用し理解を深めさせる。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 国際経済・日本経済の現状とスポーツ [内容] 国際経済・日本経済の現状とそこにおけるスポーツの位置づけを考察する。 [授業外学習] GDPに着目し国際経済・日本経済の規模を調べる(90分)			⑨	[テーマ] 第二次大戦後の国際経済と近代スポーツの発展・成熟 [内容] 第二次大戦後の国際経済の発展と、するスポーツ、見せるスポーツ、スポーツ支援産業に着目しスポーツ経済の動向を考察する [授業外学習] 第二次大戦後の現代史を予習しておくこと(90分)
②	[テーマ] 資本主義の成立と近代スポーツ [内容] 英国における産業革命とこれに続く欧米での工業化による資本主義の成立の下での近代スポーツの確立を概観し近代スポーツとは何かを考察する。 [授業外学習] 欧米で生まれた近代スポーツの種目を調べる(90分)			⑩	[テーマ] 日本での資本主義の成立・発展と近代スポーツの移入・定着・発展 [内容] 我が国資本主義の成立と近代スポーツの欧米から移入以降、戦後の経済復興、高度経済成長、安定経済成長を経た日本経済とスポーツの動向を概観する。 [授業外学習] 明治期から現代までの経済史を学習すること(90分)
③	[テーマ] 資本主義経済の考察① [内容] 資本主義経済成立前の経済と比較しつつ資本主義経済の特徴を概説し、その経済を学ぶ上でのミクロ経済学とマクロ経済学の2つについて概説する。 [授業外学習] 資本主義経済とは何かをあらかじめ調べておくこと(90分)			⑪	[テーマ] 日本経済の発展とスポーツ [内容] 90年代初めの日本経済のバブル崩壊とその後の失われた20年を経てアベノミクスの登場までの経済動向とこれに伴い変化するスポーツ経済の動向を概観する。 [授業外学習] 失われた20年とは何を意味するか調べておくこと(90分)
④	[テーマ] 資本主義経済の考察② [内容] ミクロ経済学①モノ・サービスの生産・交換・消費、それに伴う需要・供給関係の形成と価格・数量の決定、企業の生産・コスト・利潤最大化の追求と生産投資行動 [授業外学習] 生活の中でモノ・サービス、その取引につき観察しておくこと(90分)			⑫	[テーマ] 直面する日本経済の課題とスポーツの果たす役割① [内容] 経済のソフト化とスポーツの雇用効果、情報化社会におけるスポーツ経済の効果、経済のグローバル化の下でのスポーツの発展について考察する。 [授業外学習] 経済のソフト化、情報化、グローバル化を調べておくこと(90分)
⑤	[テーマ] 資本主義経済の考察③ [内容] ミクロ経済学②市場機能と価格メカニズム、資源配分の効率性、所得分配、市場の失敗、独占と寡占 [授業外学習] 需要曲線と供給曲線はどのように決まるか予習しておくこと(90分)			⑬	[テーマ] 直面する日本経済の課題とスポーツの果たす役割② [内容] 少子高齢化社会におけるスポーツの役割、地方活性化に果たすスポーツの経済効果、食品経済とスポーツにつき考察する [授業外学習] 高齢化、地方経済の低迷、食と健康に関し調べておくこと(90分)
⑥	[テーマ] 資本主義経済の考察④ [内容] マクロ経済学① GDPとその3面等価、経済のフローとストック、有効需要、財市場と貨幣市場の関係、マクロ経済を構成する家計・企業・政府の行動、 [授業外学習] GDPを構成する要素を調べておくこと(90分)			⑭	[テーマ] 世界経済の発展とオリンピック① [内容] 近代オリンピック誕生から第二次大戦を経て、第二次大戦後の世界経済の発展・変化を概観し、合わせて平和の祭典オリンピックの各時代における経済的意義を考察する [授業外学習] 近代オリンピックの歴史を予習しておくこと(90分)
⑦	[テーマ] 資本主義経済の考察⑤ [内容] マクロ経済学②経済成長と景気変動、完全雇用と失業、インフレとデフレ、財政政策、金融政策、国際経済(貿易、比較優位、国際収支と円高・円安) [授業外学習] マクロ経済学の構成要素を予習しておくこと(90分)			⑮	[テーマ] 2020年東京オリンピック・パラリンピックの政治経済学 [内容] 2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会開催を巡る政治経済学について論じる。 [授業外学習] 東京オリンピック・パラリンピックの招致の理由を調べておくこと(90分)
⑧	[テーマ] 産業革命以降の国際経済の発展とスポーツ [内容] 英国での産業革命以降、第二次大戦に至る国際経済の動向と近代スポーツの発展・変化を考察する [授業外学習] 英国の産業革命以降の近代史を予習しておくこと(90分)			⑯	[テーマ] 最終試験 [内容] クラスでの講義ノートをベースに出題する。 [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
試験結果に基づき評価する。暗記ではなく、思考力を重視した評価を行う。特に、①起承転結の論理構造、②実務への応用思考等を基準に評価する。暗記偏重ではなく、思考力に重点を置いた論理的記述を求める。定期試験の原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には研究室にて個別に答案用紙を複写・返却するなどの措置を講じる。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎	○	○	90%
授業内レポート		◎	○	○	10%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度		◎	○	○	
出席					欠格条件
学則通り全授業の三分の二以上の出席が必要					
関連科目					
教科書				参考書	スポーツの経済学(マイケル・A・リース) スポーツ産業論(原田宗彦)
連絡先	遠藤 ys-endo@sendai-u.ac.jp				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	法学 Jurisprudence			担当教員	加藤英俊
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
テキストを用いて、特に、民法総則、親族・相続、不法行為法等を、そして、行政に関する基本的な事項を扱う。日本国憲法は別途科目が設けられているので、この科目では扱わない。					
授業の一般目標					
日常生活での行為がもつ法的意味を理解し、社会的事実を法学的な観点から考えることができるようになる。そして、法学の自己学習ができるようになる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	基本的な法律用語の意味と使用法を理解し、適切に応用できるようになる。			
■	情意的領域	法的観点から社会問題を考え、意見を述べるができるようになる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
シラバスで挙げた項目についてテキストの内容を理解することを中心に講義を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 授業の進め方、成績の評価方法について説明する。 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘			⑨	[テーマ] 使用者責任と国家賠償責任 [内容] 使用者責任と国家賠償責任の異同 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘
②	[テーマ] 親族関係と法 [内容] 親等図、戸籍の今昔から見る親族関係 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘			⑩	[テーマ] 土地工作物責任、營造物責任、動物占有者責任 [内容] 各事項の概説と、特に、土地工作物責任と映像物責任の異同 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘
③	[テーマ] 婚姻と離婚(1) [内容] 婚姻の成立、無効・取消、 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘			⑪	[テーマ] 契約を結ぶことができるのは [内容] 権利能力、意思能力、行為能力の基本的な事項・ [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘
④	[テーマ] 婚姻と離婚(2) [内容] 夫婦の権利義務、離婚、財産分与等 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘			⑫	[テーマ] 制限行為能力者 [内容] 未成年者、成年後見制度 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘、または、テストの予告
⑤	[テーマ] 親子関係、私的扶養 [内容] 親子関係で現れる法的諸事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘			⑬	[テーマ] 予備、または、中間審査 [内容] 進捗が遅れているときは講義を行う。 [授業外学習]
⑥	[テーマ] 遺言と法定相続 [内容] 遺言と相続の基本的な事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘			⑭	[テーマ] お役所とお役所の仕事 [内容] 行政主体と行政庁、行政処分と行政指導の基本的な事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘
⑦	[テーマ] 損害の賠償 [内容] 不法行為と債務不履行による損害の賠償請求の基本事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘			⑮	[テーマ] お役所の処分を争う [内容] 行政救済の基本事項 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 不法行為 [内容] 不法行為概念の概説と事例、責任能力 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘			⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
成績の評価は、基本的に、筆記試験で行う。中間審査を行った場合には評価の際に考慮する。欠席日数については学生便覧「試験細則」による。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	授業には必ずテキストを携行すること。
定期試験	◎			100%	
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席					
関連科目					
教科書	谷口・松原編著、基礎からわかる法学(成文堂)			参考書	
連絡先	非常勤なので教育企画室に問い合わせをすること。				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	歴史学入門 Introduction to History			担当教員	伊達 宗弘
開講内容	学年・学期	1・2・3前期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
それぞれの時代に大きな役割を果たした先人の「生き様」を紹介し、困難や危機に直面した時のヒントになる講座とする。聖徳太子、中大兄皇子、菅原道真、平清盛、足利尊氏、武田信玄、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、伊達政宗、宮本武蔵、吉田松陰、大久保利通、板垣退助らの果たした歴史的な役割を分かりやすく解説する。					
授業の一般目標					
国際化や情報化が進めば進むほど次代を担う人たちにとって最も大切なのは、日本の素晴らしい歴史や文化をしっかりと認識することである。それがあって初めて堂々と生きることが出来、また世界に伍していくことが出来るのではないだろうか。日本人として知っておきたい教養としての歴史と文化を、先人の「生き様」から学び、力強く生きていく上においてのヒントになる情報を提供する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	日本の素晴らしい歴史や文化を、ごく自然に語る事が出来るようになる。				
■ 情意的領域	身の周りのものを優しい気持ちで見ることが出来、いつも高い志を持って生きることが実践出来るようになる。				
■ 技能表現的領域	言葉づかい、身のこなし方にも教養が感じられる人材になることを目指す。				
授業計画(全体)					
歴史や文化を立体的に組み立て交差させ、楽しみながら知識を得た興味も持てる講座とする。そのためパワーポイントやDVDを駆使して、分かりやすく工夫された講座形式とする。資料としては生涯手元において役立つようなオリジナルな資料集を作成し配布する。講座はその都度完結した物語風に構成する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ]私の履歴書 [内容] 大学受験に失敗し父が交通事故に遭遇するなど、失敗と挫折の連続の中で自分の目標を実現するために歩んだ半生を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説。		⑨	[テーマ] 豊臣秀吉の天下統一 [内容] 一介の農民から天下統一をした秀吉の人心収攬術と、人々に夢を与えた秀吉のエピソードを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	
②	[テーマ]旧石器時代から飛鳥時代 [内容] 旧石器時代から縄文・弥生・古墳・飛鳥時代を紹介し、特に日本の国のかたちを整えた聖徳太子の果たした歴史的な役割を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説		⑩	[テーマ]道を起こし教を布く・徳川家康 [内容] 今の日本のかたちを整えた江戸時代の礎を築いた徳川家康、隣国の強敵武田信玄を生涯私淑した覇者の哲学を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	
③	[テーマ]大化の改新と大宝律令の制定 [内容]聖徳太子の意思を継承した中大兄皇子らによって行われた大化の改新や大宝律令制定など日本の国のかたちが整っていく過程を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説		⑪	[テーマ] 伊達政宗と仙台藩の国づくり [内容] 秀吉からは領地を取り上げられ、家康からは約束を反故にされても挫けず、大穀倉地帯の礎を築いた政宗の夢と国づくりを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	
④	[テーマ] 奈良の都と京の都 [内容] 天平文化を花開かせた奈良時代、遣唐使が廃止されたことによって創り出された国風文化、武家の勃興してきた平安時代を紹介。 [授業外学習]四字熟語の解説		⑫	[テーマ]『五輪書』に見る宮本武蔵の生き様 [内容] 宮本武蔵の『五輪書』や『独行吟』を紹介し、社会人として生きていくうえにおいてのヒントを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	
⑤	[テーマ] 平安時代の光と影 [内容] 武士が勃興し平清盛が初めて武家政権を打ち立て、貿易によって巨利を得ようとした清盛の壮大な構想と平家没落までを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説		⑬	多彩な人材を育てた吉田松陰 [内容] 新しい時代を築く有為な人材を短期間のうちに多数育てた吉田松陰の生き様について紹介し、生きていく上でのヒントを提供。 [授業外学習]四字熟語の解説	
⑥	[テーマ]鎌倉幕府の成立と南北朝の騒乱 [内容] 鎌倉幕府の成立から滅亡、建武の中興、武士の信望に応じて立ち上がった足利尊氏、乱世におけるリーダーの条件を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説		⑭	[テーマ] 日本の近代化に殉じた大久保利通 [内容] 国づくりのため西郷隆盛と決別し、日本の近代化のため危機を顧みず奔走した大久保利通の政治家としての見識を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	
⑦	[テーマ] 応仁の乱と戦国乱世 [内容]100年にわたる戦国乱世を生きた武将の名言を紹介し、その中で地を拓き水を治めるのに腐心した武田信玄の国づくりを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説		⑮	[テーマ] 自由民権運動の旗手・板垣退助 国民中心の国家を創るため全国各地で自由民権運動を展開し、国会開設、政党政治実現に奔走した板垣退助の治績を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	
⑧	[テーマ] 織田信長、天下統一への道 [内容] 卓抜な発想と精悍な行動力で、古い因習を打破し新しい時代を創り上げようと天下統一を目指した織田信長の生き様を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説		⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]	
成績評価方法(方針)					
毎回提出するレポート、出席日数、テスト等から総合的に判断する。出席日数2/3以下は対象外。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					40%
授業内レポート		○	○	○	40%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席			○		20%
1 生きていくうえでの必要な常識や、危機に直面した時の対処などについて役立つ情報を提供するので可能な限り受講すること。 2 就職活動を念頭に役立つ具体的な情報も提供するのでしっかりと受講し、講座の内容を簡潔に取りまとめるレポートを毎回提出してもらうので、この機会を最大限活用し文章を書く実践の場にして欲しい。					
関連科目					
教科書	手作り教科書(34ページ)と四字熟語集(20ページ)を配布			参考書	必要に応じて授業で指示する。
連絡先	図書館専用電話 0224-55-2052				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	歴史と人間 Individual Elements in History			担当教員	伊達 宗弘
開講内容	学年・学期	1・2・3後期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					
通史としての日本史と、時代を大きくかえて行くために大きな役割を果たした先人の生き様、また名言や四字熟語等を通して、これからの激動の時代、先行き不透明な時代を逞しく生きていく上でのヒントになる情報を提供する。					
授業の一般目標					
日本は世界に冠たる歴史や文化を築いてきた国である。次代を担う人たちにとって一番大切なのは、そのような日本の素晴らしい歴史や文化をしっかりと認識することである。これがあってはじめて堂々と生きることが出来、また世界に伍していくことができるのではないだろうか。社会に出て実際に役立つ実学としての歴史を学ぶ。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	日本の歴史や文化の素晴らしさを、ごく自然に語れるようにする。				
■ 情意的領域	身の周りのものを優しい気持ちで見ることが出来、いつも高い目標をもって生きることを実践できる人材となることを目指す。				
■ 技能表現的領域	言葉の使い方、身のこなし方にも教養が感じられるような人材になることを目指す。				
授業計画(全体)					
歴史や文化を立体的に組み立て交差させ、楽しみながら知識を得、また興味が持てる講座とする。そのためパワーポイントやDVDを駆使して、分かりやすく工夫された講座形式とする。資料としては生涯手元に置いて役立つようなオリジナルな資料集を作成し配布する。講座はその都度完結された物語風に構成する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 私の履歴書 [内容] 自分自身の失敗と挫折の半生を振り返り、生きて行くうえで何が大切であるかを考えるヒントを提供。 [授業外学習]四字熟語とことわざの解説		⑨	[テーマ] 豊臣秀吉、賤ヶ岳合戦の秘策 [内容] 短期間で天下統一を果たした秀吉の智謀と策略、秀吉の人心収攬術などを通して、今に通じる人心掌握術の妙に迫る。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	
②	[テーマ] 聖徳太子、理想国家実現の夢 [内容] 天皇を中心とした中央集権国家建設づくりに腐心した、聖徳太子の生き様を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説		⑩	[テーマ] 失敗を糧とした覇者の哲学 [内容] 我慢に我慢を重ね天下人となった徳川家康、覇者の哲学を通して今を生きる人にとって何が大切かを考える。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	
③	聖徳太子の意思を敬称、大化の改新 [内容] 複雑な権力闘争の中、聖徳太子の意思を継承した天智天皇らが国のかたちを整えていく過程を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説		⑪	[テーマ] 伊達政宗の国づくり 年齢差を乗り越え、秀吉や家康と堂々と渡り合い、領地没収・約束反故の苦境の中で大靱倉地帯の礎を築いた政宗の国づくりを紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	
④	[テーマ] 天平文化、国風文化花開く [内容] 聖武天皇によって花開いた天平文化、菅原道真の遣唐使廃止建言によって花開いた国風文化を紹介する。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説		⑫	[テーマ] 兵法の道は人の道 [内容] 剣一筋に生きてきた武蔵が、剣の道を通して会得した人の道の哲学書『五輪書』等を通して生きていくうえで何が大切かを学ぶ。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	
⑤	[テーマ] 初めての武家政権を築いた平清盛 [内容] 貴族の衰退、武士の勃興の中で貿易立国で豊かな国づくりをしようと壮大な夢の実現に腐心した平清盛と、その生きた時代を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説		⑬	[テーマ] 志のある者よ、立ち上がれー吉田松陰ー [内容] 幕末から明治にかけて新しい時代を築く多彩な人材を育てた吉田松陰を紹介し、自ら考え実践する大切さを学ぶ。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	
⑥	[テーマ] 乱世を制するリーダーの条件 [内容] 尊敬する後醍醐天皇と決別し、武士中心の幕府を創るため腐心した足利尊氏の苦悩の決断、歴史に果たした役割を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説		⑭	[テーマ] 日本の近代化に殉じた大久保利通 [内容] 盟友西郷隆盛と決別し郷里鹿児島の人々の怨嗟にもめげず、命がけて新しい国づくりに命を捧げた大久保利通の生き様を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	
⑦	[テーマ] 水を治め地を開く [内容] 戦国時代末期、人の力を信じ、金山開発、河川改修などで甲斐の国を強国に変えていった武田信玄の生き様を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説		⑮	[テーマ] 板垣死すとも、自由は死せず [内容] 身の危険を顧みず自由民権運動の旗手として、命がけて全国遊説し議会開設の原動力となった板垣退助の考え方を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	
⑧	[テーマ] 肉を切らせ骨を絶つ [内容] 卓抜な人物鑑定能力と斬新な発想で新しい時代を築くため力を注いだ織田信長の生き様を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説		⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]	
成績評価方法(方針)					
受講生が毎回提出するレポートと出席日数、テスト結果から総合的に判断する。出席回数は2/3以下は対象外とする。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					40%
授業内レポート		○	○	○	40%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席			○		20%
関連科目					
教科書	手作り教科書(34ページ)と四字熟語集(20ページ)を配布			参考書	必要に応じて授業で指示する。
連絡先	図書館専用電話0224-55-2052				

(自然分野)

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	生物科学 Biological Science (L.)			担当教員	宋戸 勇	
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
医学や体育学の基礎領域のひとつとして、生物科学の知識を修得することは必須条件である。生物学から生命科学へと学問領域が展開されていく中で、体育科学や健康科学の科学的な内容把握への一助となるよう細胞学や生理学などの基礎知識を学ぶ。						
授業の一般目標						
高等学校では選択科目として位置づけられていることから、履修してこない学生も多く、専門領域への取り組みが円滑に出来るようにしたい。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	細胞の構造や機能、細胞内小器官の連携形態と生理学や栄養学の基本となる呼吸、タンパク質の構造・機能について理解する。					
■ 情意的領域	構造や機能の連携などについてじっくり理解する。					
■ 技能表現的領域	暗記の学問ではなく、しっかり理解し、表現できる習慣を養う。					
授業計画(全体)						
選択科目ではあるが、最大80人規模のクラスとなるため、パワーポイントやビデオなどの映像も活用しながら、生物の体内で起こる自然現象をしっかりとらえ、理解できるようにする。最後は論述試験を行う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 生物学から生物科学までの成り立ちに関する歴史的展開 [授業外学習] 配布資料と内容の照合確認			⑨	[テーマ] タンパク質の分解と酵素の働き [内容] 生体内でのタンパク質分解過程とそれに関わる酵素について展開する。 [授業外学習] 総合理解	
②	[テーマ] 生命の起源と歴史的研究 [内容] 地球の誕生と地球型生命の起源について展開する。 [授業外学習] ビデオ映像と配布資料からの総合理解			⑩	[テーマ] エネルギー産生機構とATPの役割 [内容] 呼吸とATPの関わりについて展開する。 [授業外学習] ビデオ映像と配布資料の照合と総合理解	
③	[テーマ] 原核細胞と真核細胞 [内容] 細胞内に存在する小器官の形態・機能について展開する。 [授業外学習] パワーポイントによる映像と資料からの総合理解			⑪	[テーマ] 呼吸とエネルギー獲得 [内容] 栄養素の分解とエネルギー産生機構について理解する。 [授業外学習] 配布資料の理解	
④	[テーマ] 細胞とその内部構造 [内容] 真核細胞内の小器官の構造と働きについて展開する [授業外学習] 映像内容と配布資料の確認			⑫	[テーマ] 生体における神経伝達機構 [内容] 神経細胞(ニューロン)と神経伝達機構の仕組みについて展開する [授業外学習] 映像内容の理解と配布資料の内容把握	
⑤	[テーマ] 細胞内小器官の生理的機能とそれらの連携 [内容] タンパク質合成のからくり、分泌物生産の過程と小器官の連携について展開する。 [授業外学習] 配布資料の総合理解			⑬	[テーマ] ヒトの発生 [内容] ヒトの発生過程と生理機構について展開する。 [授業外学習] 映像内容の理解	
⑥	[テーマ] 遺伝子とその働き [内容] 遺伝子の構造と遺伝子本体の核酸について紹介する。 [授業外学習] 配布資料と映像の照合と総合理解			⑭	[テーマ] ヒトの酵素変異と代謝異常 [内容] 酵素の構造変異とそれに伴う生体異常と代謝異常について展開する。 [授業外学習] 配布資料の理解	
⑦	[テーマ] 遺伝子とタンパク質(1) [内容] DNA・RNAとタンパク質合成のからくりについて展開する。 [授業外学習] 映像内容と配布資料の照合と総合理解			⑮	[テーマ] ヒトの染色体異常 [内容] 染色体が起こす遺伝的疾患、突然変異による異状疾患について展開する。 [授業外学習] 配布資料の理解	
⑧	[テーマ] 遺伝子とタンパク質(2) [内容] タンパク質合成のからくりとそれに関与する遺伝子の働きについて展開する。 [授業外学習] 総合理解			⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
定期試験の評価を50%、出席は30%、授業内レポートを15%とし、授業態度は5%で評価したい。しっかり出席し、レポートも確実に提出すること。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	授業態度は良好であること。難解なところもあると思うので、しっかり理解を深めて欲しい。
定期試験		◎	◎	◎	50%	
授業内レポート		○	○	○	15%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度				△	5%	
出席		○	○	○	30%	
関連科目						
教科書	特になし。配布資料提供。			参考書	生物学、生物科学、といったタイトルの教科書は参考になる。	
連絡先	非常勤講師なので連絡は教育企画室を通して行うこと。					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	エコロジー概論 Guidance of Ecology(L.)				担当教員	宍戸 勇	
	開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法			講義
	履修の方法		選択	単位数	2		
授業の概要							
<p>自然の中で起こる諸々の現象に対して、どのような理解力が必要となるであろうか。例えば生物個体と環境との関係や、群れを形成したときの環境との関係、生物相互の関係などを理解することにより、生態学的な考え方、研究方法を身につけていく。特に、体育系大学生は自然と触れ合う機会が多いので、最近頻出する環境破壊などの問題や、環境利用に係る分析力を醸成する。</p>							
授業の一般目標							
この講義を受けることにより、生態学的思考方法が身につく。幅の広い学問であるので自然に対する分析力が養われる。							
授業の到達目標							
■ 認知的領域	Ecologicalな研究方法とはどんなものか。個々の生物か、群れを成す生物か、それぞれに環境とのかかわりや生物相互の関係を理解する。						
■ 情意的領域	映像による理解を深める。						
■ 技能表現的領域	映像を利用しながら自然を理解し、幅広い見方、解釈方法を身につけ、分析できる能力を養う。						
授業計画(全体)							
<p>選択科目であるが、アウトドアでの活動の機会が多い学生諸君に、自然界で起こる現象や生物同士の相互関係などを映像を通じて理解し、生態学的な考え方を身につけたい。特に、講義内容として扱う観察内容の違いや研究対象の違いを理解しながら、多面的に適切な分析ができるようにしたい。</p>							
授業計画(各回のテーマ等)							
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容		
①	<p>[テーマ] ガイダンス [内容] エコロジーとはどんな学問か。体育系大学生にとってなぜ必要か。 [授業外学習] 配布資料により内容の確認をする。</p>			⑨	<p>[テーマ] 個体群生態学という研究領域について(2) [内容] 個体群としての環境との関わりについて分析し、理解する。 [授業外学習] 映像内容と配布資料の照合と総理解。</p>		
②	<p>[テーマ] 環境要因と生物の関係 [内容] 無機的環境と生物の関係を理解する。 [授業外学習] パワーポイントと資料の照合</p>			⑩	<p>[テーマ] 群集生態学という研究領域について(1) [内容] 同種個体群や異種個体群が地域で群れるときの環境との関わりについて理解する。 [授業外学習] 前回の資料に基づき、個体や個体群との比較</p>		
③	<p>[テーマ] 有機的環境とは何か。 [内容] 生物相互の関係について理解する。 [授業外学習] パワーポイント・ビデオからテーマとの関係を把握。</p>			⑪	<p>[テーマ] 群集生態学という研究領域について(2) [内容] 生物群集における種間関係、特に食物連鎖関係について理解する。 [授業外学習] パワーポイントやビデオ映像と照合する。</p>		
④	<p>[テーマ] 生物の世界における制限要因 [内容] 生物の生活に影響する環境とその反応 [授業外学習] ビデオ映像と配布資料との照合</p>			⑫	<p>[テーマ] 群集生態学という研究領域について(3) [内容] 生物群集における種間関係、特に共生関係について理解する。 [授業外学習] 個体や個体群における環境との関係を比較する。</p>		
⑤	<p>[テーマ] 生理的最適域と生態的最適域 [内容] 制限要因と生物の条件選択能力について理解する [授業外学習] パワーポイントと配布資料の確認作業。</p>			⑬	<p>[テーマ] 群集生態学という研究領域について(4) [内容] 生態系における生物群集の働きと作用・反作用・相互作用の理解をする。 [授業外学習] 配布資料の内容理解。</p>		
⑥	<p>[テーマ] 個体生態学という研究領域について [内容] ビデオ映像から生物個体の環境に対する反応を理解する。 [授業外学習] 映像と配布資料との照合と総理解。</p>			⑭	<p>[テーマ] 栄養段階とエネルギーの流れ 生態系の中での生態的地位とエネルギーの流れについて理解する。 [授業外学習] 配布資料の理解</p>		
⑦	<p>[テーマ] 適応現象とは [内容] 環境に対する個々の生物の反応と適応能力について理解する。 [授業外学習] パワーポイントと映像内容からの総理解。</p>			⑮	<p>[テーマ] 生態系と人間について [内容] 生物群集の構造変化と人間との関わり、環境破壊、環境保全と人間の関わりについて理解する。 [授業外学習] ビデオ映像と配布資料との総理解。</p>		
⑧	<p>[テーマ] 個体群生態学という研究領域について(1) [内容] 個体の集まりと環境への対応について理解する。 [授業外学習] 個体との比較を前回配布資料等から比較する。</p>			⑯	<p>[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]</p>		
成績評価方法(方針)							
定期試験内容45%、出席30%、授業態度10%、授業内レポート15%として評価する。							
成績評価方法(詳細)							
成績評価方法	到達目標					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
		認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	出席は30%、授業態度10%、提出物15%とし、定期試験は45%合わせて100%としている。ポイントをしっかりと理解し、真面目に出席していれば合格のラインに届くことになる。しっかりと問題点を理解すれば合格するであろう。	
定期試験	◎	◎	◎	45%			
授業内レポート	○	○	○	15%			
授業外レポート							
演習・実技							
授業態度	△		△	10%			
出席	○	○	○	30%			
関連科目							
教科書	特になし。配布資料とパワーポイントをしっかりと理解すること。				参考書	高等学校時代の教科書は参考になる。	
連絡先	非常勤なので教育企画室に問い合わせをすること。						

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教養数学 Basic Mathematics			担当教員	大内悦夫	
開講内容	学年・学期	1・2・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		
授業の概要						
算数・中学数学の基礎・応用事項及び高校の数学の既習事項の確認・演習を行う。また卒論等に活用できる統計学の基礎を学習する。						
授業の一般目標						
問題の解法をとおして、数学的な考え方を学び、また解法を発表することにより自分の考えをしっかりとものにす。小学校、中学校の学習支援をする学生の育成、また、卒論等に活用できる統計学の基礎を習得する。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	特徴的な数学的な考え方を体得する。					
■ 情意的領域	他の人の意見を自分のものと対比しながら聞き、自分の考えをまとめる。					
■ 技能表現的領域	自分の考えが発表できる。					
授業計画(全体)						
講義及び演習形式で様々な問題の解法を研究する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方、成績評価の方法等の説明 [授業外学習]			⑨	[テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 整式・因数分解 [授業外学習]	
②	[テーマ] 小学校算数の指導内容の研究 [内容] 整数の計算ができる。分数、小数の計算で、おちいりやすい間違いを研究する [授業外学習] 本日の講義内容の復習			⑩	[テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 方程式・関数 [授業外学習] 本日の講義内容の復習	
③	[テーマ] 小学校算数の指導内容の研究 [内容] 図形・割合 [授業外学習] 本日の講義内容の復習			⑪	[テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 順列 [授業外学習] 本日の講義内容の復習	
④	[テーマ] 小学校算数の指導内容の研究 [内容] 文章題 [授業外学習] 本日の講義内容の復習			⑫	[テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 組み合わせ [授業外学習] 本日の講義内容の復習	
⑤	[テーマ] 中学校数学の指導内容の研究 [内容] 正負の数、文字式 [授業外学習] 本日の講義内容の復習			⑬	[テーマ] 統計の基礎 [内容] 正規分布・偏差値 [授業外学習] 本日の講義内容の復習	
⑥	[テーマ] 中学校数学の指導内容の研究 [内容] 方程式 [授業外学習] 本日の講義内容の復習			⑭	[テーマ] 統計の基礎 [内容] 相関係数 [授業外学習] 本日の講義内容の復習	
⑦	[テーマ] 中学校数学の指導内容の研究 [内容] 関数 [授業外学習] 本日の講義内容の復習			⑮	[テーマ] 統計の基礎 [内容] 検定 [授業外学習] 本日の講義内容の復習	
⑧	[テーマ] 中学校数学の指導内容の研究 [内容] 図形 [授業外学習] 本日の講義内容の復習			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 既習内容の確認 [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
講義時数の2/3以上の出席を要する。下記の割合で評価をする。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	柔軟な思考ができるように努力する。出席については規定通りとする。
定期試験		◎			60%	
授業内レポート		○			10%	
授業外レポート		△			5%	
演習・実技		○			20%	
授業態度				△	5%	
出席					欠格事項	
関連科目	特になし					
教科書	なし			参考書	なし	
連絡先	大内研究室(A303)					

(教養演習)

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	体育系大学の基礎教養			担当教員	全専任教員
	Liberal Arts for Sport-oriented Students				
開講内容	学年・学期	1年・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
体育系大学とは何を学ぶ大学かについて、仙台大学の場合を取り上げ、仙台大学の「Admission」、「Curriculum」、「Diploma」の3つの方針を踏まえ、教育課程編成の考え方、教育内容、保健体育教員免許およびその他の取得資格と社会的実践との関係を俯瞰しながら、講義する。					
授業の一般目標					
体育系大学としての仙台大学の教育分野・内容、所属する学科領域の位置付け等を俯瞰することにより、その後の各専門課程における履修科目の設置目的・相互関係等が理解できるようになるため、個々の科目の学習が全体―他の科目―との関わりの中で行えるようになる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	所属する学科のみならず、他学科の専門領域に関する知識をも習得する。			
■	情意的領域	所属する学科における専門領域の学習に対する意欲を高める。			
■	技能表現的領域	卒業後、所属する学科・コースで学んだ専門知識をどのように社会に還元するかを学ぶ。			
授業計画(全体)					
全専任教員が本授業の趣旨について共通理解と認識を持ち、各学科・コースの責任者によって作成された教材を用いて、「授業の概要」に掲げた目的に沿って各回の授業を行う。各回の担当者は、その回の授業内容に適した教員が行う(そのため、回毎に担当教員が変わることになる)。					
授業テーマとその内容					
<ul style="list-style-type: none"> * 第1回 オリエンテーション、カリキュラムの体系:本科目設定の狙い、授業の展開、仙台大学のカリキュラムの理念・特徴等について説明する。 * 第2～4回 「学士力」養成と本学カリキュラムの関連について説明する。各回の内容は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> 第2回 学士力(1):導入演習、情報処理、スポーツ心理学、スポーツ社会学 第3回 学士力(2):学習基礎教養演習、運動生理学、スポーツバイオメカニクス、スポーツ指導の基礎、トレーニングの基礎 第4回 学士力(3):英語、基盤科目の活かした事例 * 第5回 教員養成 * 第6～13回 各学科・コースについて説明する。各回の内容は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> 第6回 コーチング・コース 第7回 トレーナー・コース 第8回 マネジメント・コース 第9回 健康福祉学科 第10回 運動栄養学科 第11回 スポーツ情報マスメディア学科 第12回 現代武道学科 第13回 子ども運動教育学科 * 第14回 英語の必要性 * 第15回 レポート作成・総評 					
成績評価方法(方針)					
授業態度(70%)、およびレポート(30%)で評価する。レポートのフィードバックを希望する学生は、各クラス担任に相談すること。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標			履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	* 2/3以上の出席が必要(欠席した場合は必ず「欠席届」を出すこと)。 * 学部・学科・コース等の教育方針・内容を学ぶ貴重な授業であるので、積極的に授業に参加することを望む。
定期試験					
授業内レポート	○	○	◎	30%	
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度	◎	○	○	70%	
出席				欠格条件	
関連科目	導入演習、学習基礎演習、仙台大学の専門基礎演習、全学教養演習、キャリアプランニングⅡ、各種専門科目、卒業論文				
教科書	とくに指定しない			参考書	必要に応じて指示する
連絡先	クラス担任、各授業担当者				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	仙台大学の専門教養演習 I Sports & Cultural Context I			担当教員	全教員
開講内容	学年・学期	2・通年	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	必修	単位数	2	
授業の概要					
所属する部活動または指定されたグループ毎に受講クラスを設定する。この受講クラスに於いて、人文・社会・自然科学各面のトピックス等を題材に取り上げ、この3科学領域の各種の教養知識を学ぶ。または各受講クラスに於いて、大学における既習事項等を応用した活動等を実施することにより、より実践的な教養知識を身につける。					
授業の一般目標					
体育系大学における専門教育と教養教育の融合という新しい視点で設計された新設科目である。ポートフォリオ学習等を取り入れ、仙台大学の教育理念に沿った4年間の専門領域の学習効果について、基本的な教養に裏打ちされたものとして、卒業後に実践できる力を付与する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	各受講クラスに於いて、3科学領域の関連性を知覚する、または活動等を通して新しい、そしてより実践的な教養が得られる				
■ 情意的領域	体育大学で学ぶことの意義について、認識を深めさせる。				
■ 技能表現的領域	ポートフォリオ学習方式を身につけさせる。				
授業計画(全体)					
全教員が担当する。それぞれの受講クラスに於いて3科学領域の各種のトピックスを、教養知識という切り口から整理し、演習方式の授業で学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。または、各受講クラスにおいて活動等を学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。					
授業テーマとその内容					
第1回	オリエンテーション				
第2回から第15回	各受講クラスの活動等によって得られた知識教養についての知覚とポートフォリオの作成				
成績評価方法(方針)					
出席及びポートフォリオ作成をもって認定する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験					
授業内レポート	◎	◎	◎	60%	
授業外レポート	○	○	○	20%	
演習・実技	○	○	○	20%	
授業態度					
出席				欠格事項	
関連科目	導入演習、体育系大学の基礎教養、各専門科目、卒業論文				
教科書	特に指定しない。			参考書	特に指定しない。
連絡先	各担当者				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	仙台大学の専門教養演習Ⅱ Sports & Cultural Context Ⅱ			担当教員	全教員
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	必修	単位数	2	
授業の概要					
所属する部活動または指定されたグループ毎に受講クラスを設定する。この受講クラスに於いて、Iの習得領域に加えて、より広い人文・社会・自然科学各面のトピックス等を題材に取り上げ、この3科学領域の各種の教養知識を学ぶ。または各受講クラスに於いて、大学における既習事項等を応用した活動等を実施することにより、より実践的な教養知識を身につける。					
授業の一般目標					
体育系大学における専門教育と教養教育の融合という新しい視点で設計された新設科目である。ポートフォリオ学習等を取り入れ、仙台大学の教育理念に沿った4年間の専門領域の学習効果について、基本的な教養に裏打ちされたものとして、卒業後に実践できる力を付与する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	各受講クラスに於いて、3科学領域の関連性を知覚する、または活動等を通して新しい、そしてより実践的な教養が得られる				
■ 情意的領域	体育大学で学ぶことの意義について、認識を深めさせる。				
■ 技能表現的領域	ポートフォリオ学習方式を身につけさせる。				
授業計画(全体)					
全教員が担当する。それぞれの受講クラスに於いて3科学領域の各種のトピックスを、教養知識という切り口から整理し、演習方式の授業で学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。または、各受講クラスにおいて活動等を学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。					
授業テーマとその内容					
第1回	オリエンテーション				
第2回から第15回	各受講クラスの活動等によって得られた知識教養についての知覚とポートフォリオの作成する。				
成績評価方法(方針)					
出席及びポートフォリオ作成をもって認定する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験					
授業内レポート	◎	◎	◎	60%	
授業外レポート	○	○	○	20%	
演習・実技	○	○	○	20%	
授業態度					
出席				欠格事項	
関連科目	導入演習、体育系大学の基礎教養、各専門科目、卒業論文				
教科書	特に指定しない。			参考書	特に指定しない。
連絡先	各担当者				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	仙台大学の専門教養演習Ⅲ Sports & Cultural Context Ⅲ			担当教員	全教員
開講内容	学年・学期	4・通年	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					
所属する部活動または指定されたグループ毎に受講クラスを設定する。Ⅰ、Ⅱで体得した知識、体験を基盤として、より高い実践的な教養知識を身につける。					
授業の一般目標					
体育系大学における専門教育と教養教育の融合という新しい視点で設計された新設科目である。ポートフォリオ学習等を取り入れ、仙台大学の教育理念に沿った4年間の専門領域の学習効果について、基本的な教養に裏打ちされたものとして、卒業後に実践できる力を付与する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	各受講クラスに於いて、3科学領域の関連性を知覚する、または活動等を通して新しい、そしてより実践的な教養が得られる。			
■	情意的領域	体育大学で学ぶことの意義について、認識を深めさせる。			
■	技能表現的領域	ポートフォリオ学習方式を身につけさせる。			
授業計画(全体)					
全教員が担当する。それぞれの受講クラスに於いて3科学領域の各種のトピックを、教養知識という切り口から整理し、演習方式の授業で学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。または、各受講クラスにおいて活動等を学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。					
授業テーマとその内容					
第1回	オリエンテーション				
第2回から第15回	各受講クラスの活動等によって得られた知識教養についての知覚とポートフォリオの作成する。				
成績評価方法(方針)					
出席及びポートフォリオ作成をもって認定する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート		◎	◎	◎	60%
授業外レポート		○			
演習・実技		○	○	○	20%
授業態度		○	○	○	20%
出席					欠格事項
関連科目	導入演習、体育系大学の基礎教養、各専門科目、卒業論文				
教科書	特に指定しない。			参考書	特に指定しない。
連絡先	各担当者				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	全学教養演習			担当教員	全教員
	Sophomore Seminar				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
<p>仙台大学の全教員が前期と後期に分かれ、各教員の提案するテーマに沿った演習を行います。上限人数は原則として、12名となります。少人数で「演習」を体験することができるのが、この授業の特徴となります。学生の皆さんは、各教員の提示した主題の中から自分の興味関心のあるテーマを選んでいただきます。</p>					
授業の一般目標					
<p>学生の皆さんは、教員の提示する、あるテーマに沿った課題について、ディスカッション、体験、ロールプレイング、レポート作成等を通して、ある具体的なテーマについて考えを深め、レポート作成、プレゼンテーション等の方法で自己の考えをまとめていきます。</p>					
授業の到達目標					
■	認知的領域	あるテーマについての知識を深め、理解する。			
■	情意的領域	課題に熱心に取り組む。			
■	技能表現的領域	あるテーマについてのレポートが作成でき、発表ができる。			
授業計画(全体)					
1. 毎回、個々の学生に課題が与えられる。2. あるテーマに沿った体験実習やロールプレイング等を行う。3. 2の学びについて、学生同士のディスカッション、レポート作成、プレゼンテーション等を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] この授業の目的の説明、授業内容オリエンテーション [内容] 授業テーマの説明、授業の進め方についてオリエンテーションを行う。 [授業外学習] 授業の目的、テーマについて復習しておくこと。			⑨	[テーマ] 演習⑥ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。
②	[テーマ] 主題の設定 [内容] 教員の提示するテーマにそって、自分の主題を設定する。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。			⑩	[テーマ] 演習⑦ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。
③	[テーマ] 授業計画の設定 [内容] 教員の提示するテーマにそって、授業計画を設定する。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。			⑪	[テーマ] 演習⑧ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。
④	[テーマ] 演習① [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。			⑫	[テーマ] 演習⑨ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。
⑤	[テーマ] 演習② [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。			⑬	[テーマ] 演習⑩ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。
⑥	[テーマ] 演習③ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。			⑭	[テーマ] 演習⑪ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。
⑦	[テーマ] 演習④ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。			⑮	[テーマ] レポートを発表し、ディスカッションの上、評価する [内容] レポートの要約を発表し、他の学生はそのレポートについてコメントを加え、それに対して教員がコメントする。 [授業外学習] 自分のレポート内容、プレゼン内容の振り返りを行うこと。
⑧	[テーマ] 演習⑤ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
毎回演習を行う授業なので、出席も評価対象となる。その上で、課題に対する取り組みの姿勢もまた重要である。言うまでもなく、課題に対する取り組み方やレポートの出来不出来、プレゼンテーション等がもっとも成績に関係する。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技	◎	◎	◎	◎	100%
授業態度					
出席					欠格条件
履修上の注意(受講学生に望むこと)					
1. 上にも述べたように出来るだけ休まないこと。出席を重視する科目である。 2. 3分の1以上休んだ場合には、単位は認定されない。 3. この科目は卒業必修科目のため、単位修得できなければ、卒業することができない。特に4年生は、この科目の成績が「放棄」の場合は即、留年確定のため、くれぐれも注意すること。 4. この科目は各担当教員にクラス分け後、履修登録することになるので、履修登録だけでは、授業に参加することができない。クラス分けの方法について4月配布のオリエンテーション資料に書いてあるので、よく読んでおくこと。					
関連科目	特定の関連科目はないが、ここで学ぶことは、あらゆる科目の基礎となると言う意味で、すべての科目に関連していると言える。				
教科書	プリント・資料を配布する			参考書	授業中に指示する
連絡先					

《海外文化科目》

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	イングリッシュ・トランスレーション			担当教員	鎌田 幸雄	
	English Translation					
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数			2
授業の概要						
学術論文・レポート・発表等で要求されるアカデミック・ライティングについて、その基礎となるパラグラフ・ライティングを中心に授業を行う。						
授業の一般目標						
アカデミック・ライティングを習得することにより、論理的で明快な文章(英文)が書けるようになる。						
授業の到達目標						
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	論理的文章とそれ以外の文章(情緒的/文学的文章など)との違いがわかる。				
<input type="checkbox"/>	情意的領域					
<input checked="" type="checkbox"/>	技能表現的領域	パラグラフ・ライティング形式で文章(英文)を書く。				
授業計画(全体)						
本授業は以下の3部から成る。 1)英語の基本事項(文法)の確認 2)英文読解 3)パラグラフ・ライティングの説明、およびその形式に従っての英作。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の説明、およびパラグラフ・ライティングの解説 [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する			⑨	[テーマ] 強調構文、パラグラフ・ライティング [内容] 英語における強調構文の確認、および最終レポート(英文)のテーマ、パラグラフ構成案の作成 [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	
②	[テーマ] 形容詞句、パラグラフ・ライティング(I) [内容] 英語における形容詞句の確認 パラグラフ・ライティングの解説 [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する			⑩	[テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	
③	[テーマ] 形容詞句、パラグラフ・ライティング(II) [内容] 前回到続き、英語における形容詞句およびパラグラフ・ライティングの確認を行う。 [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する			⑪	[テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 各自、担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	
④	[テーマ] 関係代名詞節、パラグラフ・ライティング(I) [内容] 関係代名詞節の確認、およびパラグラフ・ライティング形式での作文(日本語で) [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する			⑫	[テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 各自、担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	
⑤	[テーマ] 関係代名詞節、パラグラフ・ライティング(II) [内容] 前回到続き関係代名詞節の確認、およびパラグラフ・ライティング形式での作文(日本語で) [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する			⑬	[テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 各自、担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	
⑥	[テーマ] 関係代名詞節、パラグラフ・ライティング(III) [内容] 関係代名詞節の確認(関係代名詞を用いた文の作成)、およびパラグラフ・ライティング形式での作文(英文) [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する			⑭	[テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 各自、担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	
⑦	[テーマ] 関係副詞節、パラグラフ・ライティング [内容] 関係副詞節の確認、およびパラグラフ・ライティング形式での作文(英文) [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する			⑮	[テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 担当教員により最終チェックを受ける [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	
⑧	[テーマ] 形容詞句、パラグラフ・ライティング [内容] 現在分詞による名詞修飾の確認、およびパラグラフ・ライティング形式での作文(英文) [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する			⑯	[テーマ] 最終レポート提出	
成績評価方法(方針)						
出席状況、課題の提出状況および最終レポートの出来具合で評価する。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・学則通り全授業の2/3以上の出席が単位取得には必要となるが、正当な理由なく欠席が重なるときは受講を止めてもらう場合がある。 ・卒業単位を埋めるためとの理由で履修することは厳に慎んでもらいたい。
定期試験						
授業内レポート				○	40%	
授業外レポート				◎	60%	
演習・実技						
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目						
教科書	特に使わない			参考書	必要に応じて指示する	
連絡先	A棟5階研究室(512) オフィスアワー:火曜日10:20~11:50					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	イングリッシュ・リーディング A			担当教員	鎌田 幸雄
	English Reading A				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
<p>今日、様々な場面で膨大な量の英語情報が流通しており、それに対応する能力が要請されている。この科目はそれらの英語情報の中から各自が関心のある事柄に関する英文を「独力」で読むことが出来るための基本的な事柄を学ぶことが目標となる。50～150行程度の文章を数多く精読することにより、ディスコースレベルでの文章読解のコツをつかんでもらいたい。</p>					
授業の一般目標					
<p>英語辞書の正しい使用法を身につける。 英文読解に必要な基本的知識を習得する。 ディスコースレベルでの文章読解のコツをつかむ。</p>					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	英語辞書の正しい使用法を身につける。英文読解に必要な基本的知識を習得する。ディスコースレベルでの文章読解のコツをつかむ。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
<p>特定のテキストは使用せず、毎回プリントを配布する。教材はなるべく興味深く、楽しいものを選ぶ予定である(受講生側からの提案も歓迎します)。授業は、輪読形式で進めてゆく予定である。最初は一文ごとに順に割り当て、授業時間内に受講生全員に必ず1回は当たるようにする。次第に割当ての範囲を増やして、段落ごと、課題ごとに予め担当者を決めて、発表してもらう予定である。随時英語のポピュラー音楽やTOEIC等の問題、英字新聞等の記事も教材として使用する予定である。</p>					
授業テーマとその内容					
<p>1回目 授業の進め方についての説明 2回目～15回目 次の事柄に注意しながら実際に英文を読んでいく</p> <p>① 英語辞書の使用法 ② 指示表現 (reference): 指示代名詞、人称代名詞、冠詞等の指示表現 ③ 代用表現 (substitution): 既出項目を簡略した他の表現 ④ 省略 (ellipsis): 前の文章から容易に復元できるものの省略 ⑤ 語彙的連結 (lexical cohesion): 既出の語句と何らかの関連のある表現 ⑥ つなぎの表現 (logical connectives): 前後の文章の論理関係を示す表現</p> <p>随時、次のような読解の練習も行う予定である ① パラグラフ・リーディング: パラグラフ(段落)単位の内容理解の練習 ② スピード・リーディング: 一定時間内で一定量の文章の内容を把握する練習</p> <p>16回目 期末試験</p> <p>[授業外学習の指示等] 教材は前の週に配布するので、事前に予習し解らないところをはっきりさせておくこと。</p>					
成績評価方法(方針)					
<p>期末試験(70%)、出席を含む積極的な授業参加(30%)にもとづき、総合的に評価する。出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。</p>					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<p>1. 基本的な文法事項を予め再確認し、復習しておくこと。 2. 英文の読解力を向上させるためには当然の事ながら、週一回の90分の授業だけでは不十分です。教材は前の週に配布するので、事前に予習し解らないところをはっきりさせておくことが求められます。 3. 辞書は必ず持参すること。 4. 定員20名以下。</p> <p>なお、使用する教材は「イングリッシュ・リーディングB」とは異なります。</p>
定期試験	◎			70%	
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度	◎			30%	
出席					
関連科目	イングリッシュ・リーディング B				
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定はしないが、簡単な英文法書を再読しておくことが望まれる
連絡先	鎌田研究室A棟512				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	イングリッシュ・リーディング B			担当教員	鎌田 幸雄
	English Reading B				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					
この科目は、「イングリッシュ・リーディングA」と同様に、様々な場面で流通している英語情報の中から、各自が関心のある事柄に関する英文を「独力」で読むことが出来るための基本的な事柄を学ぶことが目標となる。50～150行程度の文章を数多く精読することにより、ディスコースレベルでの文章読解のコツをつかんでもらいたい。					
授業の一般目標					
英語辞書の正しい使用法を身につける。 英文読解に必要な基本的知識を習得する。 ディスコースレベルでの文章読解のコツをつかむ。					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	英語辞書の正しい使用法を身につける。英文読解に必要な基本的知識を習得する。ディスコースレベルでの文章読解のコツをつかむ。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
特定のテキストは使用せず、毎回プリントを配布する。教材はなるべく興味深く、楽しいものを選ぶ予定である(受講生側からの提案も歓迎します)。授業は、輪読形式で進めてゆく予定である。最初は一文ごとに順に割り当て、授業時間内に受講生全員に必ず1回は当たるようにする。次第に割当ての範囲を増やして、段落ごと、課題ごとに予め担当者を決めて、発表してもらう予定である。随時英語のポピュラー音楽やTOEIC等の問題、英字新聞等の記事も教材として使用する予定である。					
授業テーマとその内容					
1回目 授業の進め方についての説明 2回目～15回目 次の事柄に注意しながら実際に英文を読んでいく					
<ul style="list-style-type: none"> ① 英語辞書の使用法 ② 指示表現 (reference): 指示代名詞、人称代名詞、冠詞等の指示表現 ③ 代用表現 (substitution): 既出項目を簡略した他の表現 ④ 省略 (ellipsis): 前の文章から容易に復元できるものの省略 ⑤ 語彙的連結 (lexical cohesion): 既出の語句と何らかの関連のある表現 ⑥ つなぎの表現 (logical connectives): 前後の文章の論理関係を示す表現 					
随時、次のような読解の練習も行う予定である					
<ul style="list-style-type: none"> ① パラグラフ・リーディング: パラグラフ(段落)単位の内容理解の練習 ② スピード・リーディング: 一定時間内で一定量の文章の内容を把握する練習 					
16回目 期末試験					
[授業外学習の指示等] 教材は前の週に配布するので、事前に予習し解らないところをはっきりさせておくこと。					
成績評価方法(方針)					
期末試験(70%)、出席を含む積極的な授業参加(30%)にもとづき、総合的に評価する。出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法				履修上の注意(受講生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	1. 基本的な文法事項を予め再確認し、復習しておくこと。 2. 英文の読解力を向上させるためには当然の事ながら、週一回の90分の授業だけでは不十分です。教材は前の週に配布するので、事前に予習し解らないところをはっきりさせておくことが求められます。 3. 辞書は必ず持参すること。 4. 定員20名以下。 なお、使用する教材は「イングリッシュ・リーディングA」とは異なります。
定期試験	◎			70%	
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度	◎			30%	
出席					
関連科目	イングリッシュ・リーディング A				
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定はしないが、簡単な英文法書を再読しておくことが望まれる
連絡先	鎌田研究室A棟512				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツに何故英語が必要か				担当教員	山口貴久 他	
開講内容	学年・学期	1年後期	授業方法	講義	関連資格	英語検定 TOEIC TOEFL	
	履修の方法	選択	単位数	2			
授業の概要							
日本では愛好されているスポーツのほとんどは、そのルールが英語で定められている。スポーツの国際化は必然的な流れとなっており、スポーツを通じて次代の日本を支える若者にとって、英語は国際化の前提として必須の素養となる。この観点から、英語圏での就学経験等を有するスポーツに係わる教員等から、スポーツ科学を専攻する学生にとって如何に英語が必要なものかについて、それぞれの体験等を交えて伝達する。							
授業の一般目標							
スポーツ科学を専攻する学生にとって、如何に英語が必要なものかを知覚させることにより、大学教育として必修科目に位置付けている英語教育科目への学生の取組みを真摯化することを目的とする。							
授業の到達目標							
■ 認知的領域	各講義担当者の英語に係る体験談の聴講を通じて、自己が目標としているスポーツ分野とのかかわりにおける英語の必要性を、具体的な適用場面の知識として理解させる						
■ 情意的領域	英語という国際的共通言語が、各国の固有言語の相違というものを乗り越えて、スポーツ面で国際的連携をもたらしていることを理解させる。						
■ 技能表現的領域	ルールとして用いられている共通の英単語が、スポーツ種目の違いによって、様々な用いられ方をしていることを知覚させることにより、自己が目標としているスポーツ分野での英語の用い方の幅を広げさせる						
授業計画(全体)							
本授業の全体像のオリエンテーションを経て、米国の大学・大学院を卒業・修了した教員、日本国代表として、あるいは日本のマスメディア企業の駐在員として米国勤務経験を有する教員、英語を第一言語とする外国籍教員から、順に、自らの体験談を交え、スポーツにおける英語の必要性について講義を実施し、一般目標に掲げた目的を達成する。							
授業計画(各回のテーマ等)							
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 本講義の目的と方法 [内容] 本講義の目的と方法について説明する。アクティブラーニング手法により、効果的な講義方法について討議する [授業外学習] 自己のスポーツが英語とどう関わっているかについて情報を収集				⑨	[テーマ] 私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習] 講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習	
②	[テーマ] 私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 米国大学就学経験者、米国勤務経験者、第一言語が英語の外国人が、体験談を通じた英語の必要性について講義し、ポートフォリオを作成 [授業外学習] 講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習				⑩	[テーマ] 私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習] 講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習	
③	[テーマ] 私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習] 講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習				⑪	[テーマ] 私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習] 講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習	
④	[テーマ] 私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習] 講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習				⑫	[テーマ] 私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習] 講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習	
⑤	[テーマ] 私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習] 講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習				⑬	[テーマ] 私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習] 講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習	
⑥	[テーマ] 私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習] 講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習				⑭	[テーマ] 私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習] 講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習	
⑦	[テーマ] 私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習] 講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習				⑮	前6回の講義内容のまとめ レポート作成とポートフォリオの振り返り [授業外学習] レポート作成のための準備	
⑧	前6回の講義内容のまとめ レポート作成とポートフォリオの振り返り [授業外学習] レポート作成のための準備				⑯	[テーマ] 大学教育としての必修英語科目とのつながり [内容] 大学教育としての必修英語科目とのつながりを講義し、各ポートフォリオから各自の必修科目に対する学習取組みを整理させる [授業外学習] 必修科目との関わりについて予習復習	
成績評価方法(方針)							
ポートフォリオ作成内容を40%、2回のレポートを各30%で評価し、大学教育としての必修英語科目への取組み意欲の度合いを基準として成績を評価する							
成績評価方法(詳細)							
成績評価方法	到達目標					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
		認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	ポートフォリオ作成を授業外レポートと位置づける	
定期試験							
授業内レポート		○	○	○	60%		
授業外レポート		○	○	○	40%		
演習・実技							
授業態度							
出席							
関連科目	総合英語A～D 就職のための英語						
教科書	特になし				参考書	スポーツと英語に関する文献	
連絡先	山口研究室						

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	英会話A English Conversation A			担当教員	ジェリー・パランギ
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					
This English Conversation class is a communicative based course that aims to prepare young adults to interact successfully with native and non-native speakers of English. Students will be expected to give regular presentations on related topics to the text and sports when applicable.					
授業の一般目標					
This course will review and refine students previous knowledge in English Conversation. Students will be engaged in various language skill building activities. Students will be challenged with individual/pair oral presentations and discussions on current issues and sports related topics.					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	Memorable and practical social language in conversation models with an emphasis on cultural fluency. Intensive vocabulary development and a dynamic approach to grammar with high-frequency words, collocations and expressions. Pronunciation, rhythm and intonation.				
■ 情意的領域	The goal of this course is to develop a greater interest in and confidence through the use of English and the cultural connection of the language, whilst developing the skills needed to become more autonomous learners of English.				
■ 技能表現的領域	Speaking, Reading Comprehension, Listening, Writing, Discussion, Debate				
授業計画(全体)					
Top Notch 1 (3rd Ed) with MyEnglishLab which is an online study requirement of this course will be the required text with a new theme for every unit focussing on "English for today's world." The course will expose students to multi-level integrated skills. Students are highly encouraged to be positive in attitude and communicative activities.					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] Introduction: Explanation of Class, Grading [内容] Description of class and outline for the semester. If there is time, students will be asked to give their self-introductions. [授業外学習] Memorize key English phrases for class			⑨	[テーマ] Unit 3 The Extended Family [内容] Report news about relationships [授業外学習] Memorize key vocabulary
②	[テーマ]Unit 1 Getting Acquainted [内容] Meeting someone for the first time [授業外学習] Conversation model presentation			⑩	[テーマ] Unit 3 The Extended Family [内容] Describe extended families [授業外学習] Introduce your family
③	[テーマ] Unit 1 Getting Acquainted [内容] Identify and describe people [授業外学習] Conversation model presentation			⑪	[テーマ] Unit 3 The Extended Family [内容] Compare people [授業外学習]MyEnglishLab online study
④	[テーマ] Unit 1 Getting Acquainted [内容] Provide personal information, and introduce someone to the group [授業外学習] Grammar / conversation model presentation			⑫	[テーマ] Unit 3 The Extended Family [内容] Discuss family cultural traditions [授業外学習]Textbook assignment + MyEnglishLab online study
⑤	[テーマ] Unit 2 Going Out [内容] Accept or decline and invitation [授業外学習] Conversation model presentation			⑬	[テーマ] Unit 4 Foods and Restaurants [内容] Ask for a restaurant recommendation [授業外学習]Memorize key vocabulary
⑥	[テーマ] Unit 2 Going Out [内容] Express locations and give directions [授業外学習] Unit review / MyEnglishLab online study			⑭	[テーマ] Unit 4 Foods and Restaurants [内容] Order from a menu + speak to a server [授業外学習] Memorize key phrases and vocabulary
⑦	[テーマ] Unit 2 Going Out [内容] Make plans to see an event + Talk about musical tastes [授業外学習]Study for unit test			⑮	[テーマ] Unit 4 Foods and Restaurants [内容] Discuss food and health [授業外学習]Unit review / study for test
⑧	[テーマ] Test [内容] Unit 1 & 2 Test [授業外学習] None			⑯	[テーマ] Test [内容] Unit 3 & 4 Test [授業外学習] Start an English diary
成績評価方法(方針)					
Homework/online study 10%, Participation/ Attitude 30%, Presentations 30%, Test 30%					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					30%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					30%
授業態度					30%
出席					10%
This is best suited for students serious about improving their English level. Students selecting this course must be committed for the 1st & 2nd semester. New students will NOT be accepted in the 2nd semester. Students must attend 2/3 of all classes for 1st & 2nd semester, and must score at least 60% in their final marks to be awarded credit for this course. There will be periodic oral presentations in pairs or individually as well as online study that should be ongoing.					
関連科目					
教科書	Top Notch 1 (3rd Ed) with MyEnglishLab			参考書	English-Japanese dictionary
連絡先	A棟5階 511研究室				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	英会話B English Conversation B			担当教員	ジェリー・パランギ	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数			2
授業の概要						
This English Conversation class is a communicative based course that aims to prepare young adults to interact successfully with native and non-native speakers of English. Students will be expected to give regular presentations on related topics to the text and sports when applicable.						
授業の一般目標						
This course will review and refine students previous knowledge in English Conversation. Students will be engaged in various language skill building activities. Students will be challenged with individual/pair oral presentations and discussions on current issues and sports related topics.						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	Memorable and practical social language in conversation models with an emphasis on cultural fluency. Intensive vocabulary development and a dynamic approach to grammar with high-frequency words, collocations and expressions. Pronunciation, rhythm and intonation.					
■ 情意的領域	The goal of this course is to develop a greater interest in and confidence through the use of English and the cultural connection of the language, whilst developing the skills needed to become more autonomous learners of English.					
■ 技能表現的領域	Speaking, Reading Comprehension, Listening, Writing, Discussion, Debate					
授業計画(全体)						
Top Notch 1 (3rd Edition) with MyEnglishLab which is an online study requirement of this course and a new theme for every unit focussing on "English for today's world." The course will expose students to multi-level integrated skills. Students are highly encouraged to be positive in attitude and communicative activities.						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] Introduction: Explanation of Class, Grading. [内容] Description of class and outline for the semester. If there is time, students will be asked to give their self-introductions. [授業外学習] Complete diary and prepare debate			⑨	[テーマ] Unit 9 - Taking transport [内容] Discuss schedules and buy tickets. [授業外学習] Conversation model presentation	
②	[テーマ] Debate preparations [内容] Preparation for the debate. [授業外学習]Preparation for the debate			⑩	[テーマ] Unit 9 - Buying, and reserving tickets [内容] Discuss schedules and buying tickets [授業外学習] Memorize key vocabulary	
③	[テーマ] Debate + constructive criticism [内容]Students will debate. There will be constructive criticism after. [授業外学習]None			⑪	[テーマ] Unit 9 - Understand airport announcements. [内容] Understand airport announcements. Describe transportatation problems. [授業外学習] Complete the review + MyEngLab	
④	[テーマ] Unit 6 - Plan an activity with someone [内容] Learn about the different types of exercises there are and expressions when organizing an activity. [授業外学習] Conversation model + MyEngLab			⑫	[テーマ] Complete/ review Unit 9. Give study guide. [内容] Complete Unit 9 and review in MyEngLab [授業外学習] Study for test	
⑤	[テーマ] Unit 6 - Discuss fitness and eating habits [内容] Plan an activity with someone. Talk about habitual activities. [授業外学習]Conversation model presentation			⑬	[テーマ] Final test study guide [内容] Final Test [授業外学習] None	
⑥	[テーマ]Complete Unit 6 + review for unit test [内容] Complete this unit then give a study guide [授業外学習]Study for unit test			⑭	[テーマ] Test handback +英会話 course evaluation [内容] Test handback with explanation + Evaluation of 英会話 course with future recommendations - class discussion. Start the culturally related media [授業外学習] Media comprehension questions	
⑦	[テーマ] Unit 6 short test [内容]Short test on Unit 6. Introduce "media study," - sports related [授業外学習] Complete comprehension questions from the movie.			⑮	[テーマ] Media studies [内容]Continue the media study [授業外学習] Complete comprehension questions	
⑧	[テーマ] Short test handback [内容] Short test to be handed back with explanations of the marking criteria. Complete the "media study." [授業外学習]Complete the comprehension questions			⑯	[テーマ] Farewell ceremony [内容] Farewell ceremony in class [授業外学習] None	
成績評価方法(方針)						
Homework/online study 10%, Participation/ attitude 30%, Presentations 30%, Tests 30%						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	This is a continuation course from the first semester. New students will not be admitted into the 2nd semester. Students must attend 2/3 of all classes for 1st and 2nd semester. To achieve full credit in the course students must achieve an average of at least 60% on their test.
定期試験					30%	
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技					30%	
授業態度					30%	
出席					10%	
関連科目						
教科書	Top Notch 1 (2nd Ed) with ActiveBook and MyEnglishLab			参考書	English-Japanese dictionary	
連絡先	A棟5階 511研究室					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ&イングリッシュ (S) Sports & English			担当教員	マーティ・キーナート / Marty Kuehnert
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					
全世界におけるスポーツビジネスで生み出される金額の三分の二以上が、北米で生産されている。そして他のどの国よりも多くのスポーツ映画がアメリカで製作されている。スポーツを学ぶのであれば、英語は不可欠なツールである。この講義ではスポーツ映画を題材にとりあげ、スポーツに関連した言葉が日常慣用語となっている多くの例を多々紹介し、より高い英語学習へのモチベーションを促す。					
授業の一般目標					
学生は英語の知識、読解、聴解力を高め上達することを目的とする。特に英語の各スポーツの中における用語法、そしてそれがいかに日常の慣用語にはいりこんだかを学習し会得する。又、自分の興味あるスポーツに関するより多くの情報を、インターネット、雑誌、本や映画からどのように得るかを学ぶ。					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	スポーツの中で使われる英語の語句がどのように日常の英語慣用語に使われているかを理解し、教材の内容を原語で理解できるようになる。			
<input checked="" type="checkbox"/>	情意的領域	スポーツ映画から、北米のスポーツ文化と背景をより理解し、知識を深める。			
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
“REMEMBER THE TITANS”「タイタズを忘れない」という映画を使用。これは、2009年、44代目に初の黒人大統領のバラク・オバマを選出したアメリカで、38年前に実際に起こった話です。1971年に当時人種統合したばかりのぎくしゃくした高校のアメフトチームを無敗で州大会優勝へ導いた初の黒人ヘッドコーチの実話であり、それを基本の題材にしながら、各テーマの英語フレーズと用法、そしてスポーツとその背景についても講義する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の内容、目的と進め方。北米のスポーツ文化の背景の紹介。 [授業外学習]映画の全体的なあらすじを原語で理解してくる事。			⑨	[テーマ] チャプター 20,21,22 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
②	[テーマ] ハイライト20で映画の内容紹介と理解 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 小クイズの確認あり [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得			⑩	[テーマ] チャプター 23,24 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 小クイズの確認あり [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
③	[テーマ] 映画とその教材よりチャプター 1,2,3 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得			⑪	[テーマ] チャプター 25,26 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
④	[テーマ] チャプター 4,5,6 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 小クイズの確認あり [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得			⑫	[テーマ] チャプター 27,28,29,30,31 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 小クイズの確認あり [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
⑤	[テーマ] チャプター 7,8,9,10 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得			⑬	[テーマ] Making Documentary 1 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 小クイズの確認あり [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
⑥	[テーマ] チャプター 11,12,13 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 小クイズの確認あり [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得			⑭	[テーマ] Making Documentary 2 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
⑦	[テーマ] チャプター 14,15,16 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得			⑮	[テーマ] 全体総括 [内容] 半期の講義内容をまとめて質疑応答。 [授業外学習] 期末テストへむけて復習
⑧	[テーマ] チャプター 17,18,19 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 小クイズの確認あり [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得			⑯	[テーマ] 期末テストとまとめ [内容] 講義内で学習した内容の理解度とその到達度を確かめる期末テストおよびその説明 [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
出席率30%、講義中の参加態度、発言、課題、小クイズで30%、期末テストで40%					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> 講義受講人数は80人に限定。 この講義は、英語の教材を使用。講義中の説明は日本語で行いますが、英語とその文化への興味と学習熱意がある学生に受講して頂きたい。 16回講義中、正当な理由なしに5回以上欠席は、単位習得不可。・ミニテストも常時有り。 20分以上の遅刻は欠席扱い。居眠り/携帯使用厳禁 3回目注意者は退室。 講義の進行具合によって、授業計画は多少変更します。
定期試験	◎			50%	
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度	○	○		10%	
出席	○			40%	
関連科目					
教科書	教科書なし。その都度プリント配布。			参考書	
連絡先	mpk@gol.com				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ドイツ語 I			担当教員	小松恵一
	Introduction to German I				
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
ドイツ語の初等文法を学ぶ。まずは、文法を一步一步急がず解説してゆく。その際、教科書としてThemen Aktuell Iを用いる。この教科書は、外国人向けのドイツ語学校あるいはドイツ語コースで一般的に用いられており、すべてドイツ語で書かれている。練習問題も豊富で、記述問題、会話訓練、聞き取りなど、さまざまな仕方ドイツ語に接近してゆくことができる。					
授業の一般目標					
文法がわからないと、ドイツ語は辞書も引けません。そこで、まず文法の初歩を理解できるようにすることが目標です。冠詞および名詞の格変化、人称代名詞、動詞の人称変化です。					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	ドイツ語の初等文法を理解する。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input checked="" type="checkbox"/>	技能表現的領域	学習したドイツ語で積極的に話してみる。			
授業計画(全体)					
毎回、はじめの40分は、文法の解説をする。その後、文法の暗記を20分、皆で声を合わせて朗読して覚えるようにする。その後20分は、書き取りの練習に当てる。最期の10分は、学内レポートあるいは小テストに当てる。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ドイツおよびドイツ語への導入 [内容] Allgemeine Erklärung über deutsche Kultur, Politik und Wirtschaft und auch natürlich Aussprache [授業外学習] シラバスをよく読む。ドイツに関して興味のあることを調べる。(1S)			⑨	[テーマ] 約束する、情報を求める [内容] Wann fährst Du morgen vom Bahnhof ab? Halb elf. Dann können wir uns gegen zehn Uhr vor dem Bahnhof treffen? Mein Freund kommt mit. [授業外学習] 小テストの復習(1S)
②	[テーマ] ドイツ語による挨拶 [内容] Guten Morgen. Wie geht es Ihnen, Professor? Danke, gut. Und Ihnen? Sehr Gut, Ausgezeichnet. Bis bald. Auf Wiedersehen! [授業外学習] 小テストの復習(1S)			⑩	[テーマ] 報告する(はがきを書く) [内容] Am Morgen früh gehe ich am Strand spazieren. Danach esse ich schönes und reichhaltiges Frühstück. Dann lese ich den ganzen Tag einen Roman. [授業外学習] 小テストの復習(1S)
③	[テーマ] 人称の概要 [内容] Du bist so schön! Sie sind so schön! Ich bin Student. Du bist auch Student. Sie ist Studentin. Wir sind Studenten! [授業外学習] 小テストの復習			⑪	[テーマ] 一日の出来事を記録する [内容] Um sieben stehe ich auf. Gegen elf gehe ich zur Uni. In der Mensa esse ich Nudeln. Am Nachmittag besuche ich die Vorlesung von Prof. K. [授業外学習] 小テストの復習(1S)
④	[テーマ] 一般動詞の人称変化 [内容] Ich geht heute zur Uni. Du gehst nicht. Er geht auch. Wir gehen zusammen. [授業外学習] 小テストの復習(1S)			⑫	[テーマ] 予定の言い方 [内容] Ich habe vor, morgen nachmittag nach Sendai zu fahren, um meine Freundin zu sehen. Dann kann ich nicht mit Dir mitfahren. [授業外学習] 小テストの復習(1S)
⑤	[テーマ] ものを名指して記述する [内容] Das ist mein Buch. Das ist nicht dein Buch. Das Buch ist weiß. Das Buch ist dick. [授業外学習] 小テストの復習			⑬	[テーマ] 住む家を探す [内容] Man sucht nach einer schönen Wohnung. Aber es ist schwer, so eine zu finden. [授業外学習] 小テストの復習(1S)
⑥	[テーマ] 値段の言い方 [内容] Das Buch kostet 24 Euro. Ist das nicht so teuer? Für seine Dicke ist es preiswert, glaube ich. [授業外学習] 小テストの復習 (1S)			⑭	[テーマ] 映画を見る [内容] Einen Deutschen Film sehen wir in der Klasse, ohne ins Kino zu gehen. Welcher Film soll gewählt werden, weiß niemand noch jetzt. [授業外学習] 小テストの復習(1S)
⑦	[テーマ] レストランでの注文 [内容] Ich möchte Schweinebraten mit Salat essen. Ich möchte auch Bier trinken. Was möchtest Du noch etwas haben? [授業外学習] 小テストの復習(1S)			⑮	[テーマ] これまで全体の復習 [内容] Fassen wir zusammen, was wir bisher lernen, um uns für das Examen von nächster Woche vorzubereiten. [授業外学習] 試験の準備(3S)
⑧	[テーマ] レストランでの会話と勘定 [内容] Das Essen ist sehr gut. Ja, das schmeckt gut. Dann zahlen bitte! Zusammen oder getrennt? Zusammen. 38 Euro bitte. 40 Euro, stimmt so. [授業外学習] 小テストの復習(1S)			⑯	[テーマ] 筆記・口頭試験 [内容] Schriftliche und mündliche Prüfung. [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
出席及び授業態度が重要。授業内での作業が多いので、それに対する取り組みも評価の対象となる。随時、小テストを行う(50点分)。最後の試験は50点分。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎	○	◎	50%
授業内レポート		◎		◎	50%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席					
関連科目					
教科書	教科書はない。テキストはプリントして配布する。			参考書	
連絡先	小松恵一研究室(A506) オフィス・アワー水曜日午後2時20分～3時50分				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ドイツ語Ⅱ			担当教員	小松恵一
	Introduction to German II				
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					
ドイツ語Ⅰを履修していることが前提となる。前期で初等文法は終わっていないので、前半はその続き。さらに、後半では自分史(これまでの来歴とこれからの展望)を書いて、発表する。					
授業の一般目標					
ドイツ語の初等文法を終えることが目標である。さらに、ドイツ語で自分を語る。					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	ドイツ語の初等文法を理解する。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input checked="" type="checkbox"/>	技能表現的領域	学習したドイツ語を使って表現できる。			
授業計画(全体)					
前期に引き続き次のようにする。毎回、はじめの40分は、文法の解説をする。その後、文法の暗記を20分、皆で声を合わせて朗読して覚えるようにする。その後20分は、書き取りの練習に当てる。最期の10分は、学内レポートあるいは小テストに当てる。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] タバコを吞むべきではない(sollen) [内容] Du sollst nicht so viel rauchen. Vielmehr möchte ich sagen, du sollst aufhören, zu rachen. Aber das ist meine Freiheit, nicht wahr? [授業外学習] シラバスをよく読む(1S)			⑨	[テーマ] 願望を言う、評価する、非難する(比較級) [内容] Lieber möchte ich einen Kaffee trinken. Am besten trinkt man einen Kaffee ohne von anderen angesprochen zu werden und stumm alleine. [授業外学習] 小テストの復習をする(1S)
②	[テーマ] 仲間を激励する [内容] Ich kann nicht mitspielen. Du mußt aber unbedingt mitspielen. Ich möchte ja gern, aber ich kann wirklich nicht. Bald geht es Dir bestimmt besser. [授業外学習] 小テストの復習をする(1S)			⑩	[テーマ] 自分史を書く(1) [内容] Zuerst schreibt man die Ereignisse im Leben, die man bisher erfahren hat, in Japanisch. [授業外学習] 自分史を推敲する
③	[テーマ] 出来事や行動を報告する(現在完了) [内容] Ich habe gestern Fußball gespielt. Dabei bin ich plötzlich gefallen und Schmerzen im Fuß gehabt. Mein Freund hat den Arzt geholt. [授業外学習]			⑪	[テーマ] 自分史を書く(2) [内容] Dann versucht man mit eigener Kraft, es ins Deutsche zu übersetzen. [授業外学習] ドイツ語に直す(1S)
④	[テーマ] 報告を読む、確認する(現在完了) [内容] Ich bin eine Woche in Berlin. Gestern habe ich zum erstenmal hier Sushi-Bar besucht, weil ich erst vom deutschen Essen müde geworden bin. [授業外学習] 小テストの復習をする(1S)			⑫	[テーマ] 自分史を書く(3) [内容] Den Versuch fortsetzen. [授業外学習] さらにドイツに直す(1S)
⑤	[テーマ] リライトした新聞記事を読む(1) [内容] Ich bin einfach froh, dass ich die Chance habe, ein weiteres Halbfinale bei einem Grand-Slam-Turnier zu spielen“, sagte die Russin nach ihrem Sieg. [授業外学習]			⑬	[テーマ] 自分史を書く(4) [内容] Die Übersetzungen werden von mir korrigiert oder umgeschrieben. [授業外学習] さらにドイツ語に直す(1S)
⑥	[テーマ] リライトした新聞記事を読む(2) [内容] „Es ist ein Wunder, dass ich das Spiel noch gewonnen habe“, sagte Ferrer nach dem Kraftakt über 3:44 Stunden. [授業外学習] 小テストの復習をする(1S)			⑭	[テーマ] 自分史を完成する。 [内容] Die Biographien werden so viel wie die Zahl der Studenten kopiert und je in einem Heft gebunden. [授業外学習] 発表の練習をする(3S)
⑦	[テーマ] ベルリン紹介(1) [内容] Berlin ist die größte Stadt in Deutschland. Man sagt manchmal, sie ist keine deutsche Stadt. Mit DVD die Szenen in Berlin vorstellen. [授業外学習] 小テストの復習をする(1S)			⑮	[テーマ] ドイツ語で自分史を発表する [内容] Jede Studenten/-innen präsentieren eigene Biographie und seine zu- ktünftige Hoffnung auf deutsch. [授業外学習]
⑧	[テーマ] ベルリン紹介(2) [内容] Berlin kennenlernen heißt in die deutsche Geschichte hineingehen. [授業外学習] 小テストの復習をする(1S)			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
成果として、皆の自分史と将来展望をドイツ語でまとめたものを文集にまとめる。それが50%。毎回の小テストが50%。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート		◎		◎	50%
授業外レポート					
演習・実技		◎	—	◎	50%
授業態度					
出席					
関連科目					
教科書	教科書はない。テキストはプリントして配布する。			参考書	
連絡先	小松恵一研究室(A506) オフィス・アワー水曜日午後2時20分～3時50分				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スペイン語 I Introduction to Spanish I (S.)			担当教員	平田 忠
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
この授業では、スペイン語による読み書きの基礎について解説します。また、比較的形が決まっている簡単な日常会話の練習もします。さらに、スペイン語を公用語とする国々の文化を紹介します。					
授業の一般目標					
以下のようなことを目標としてください:①スペイン語の読み書きに関する基礎的なルールを習得すること、②挨拶などの簡単な表現を覚えて使えるようになること、③スペインとラテンアメリカ諸国の文化を知ること。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	読み書きの基礎的なルールを理解する。			
■	情意的領域	異なる文化を理解しようとする態度を持つ。			
■	技能表現的領域	スペイン語を用いて適切に伝える能力を身につける。			
授業計画(全体)					
スペイン語の読み書きに関する基礎的なルールについて順次解説します。それに加えて、毎回の授業で、その時間で覚えた事柄を用いての表現の練習と挨拶などのとても簡単な会話の練習をします。また、前回習った内容についてのテストを毎回行います。その他に、スペイン語文化(音楽、祭り、スポーツ、テレビなど)の紹介をします。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 初めに [内容] スペイン語の特徴(どのような国で使われているか、日本語との類似点・相違点、身の回りのスペイン語など)について知る [授業外学習]身のまわりのスペイン語の商品名を探してみよう(1時間程度)			⑨	[テーマ] 動詞の規則活用④ [内容] -erで終わる動詞(主語が複数の場合) [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする (1時間)
②	[テーマ]発音① [内容] 母音字と子音字の読み方 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする(1時間)			⑩	[テーマ] 動詞の規則活用⑤ [内容] -irで終わる動詞(主語が単数の場合) [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする (1時間)
③	[テーマ] 発音② [内容] 前回の復習、アクセントなど [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする (1時間)			⑪	[テーマ] 動詞の規則活用⑥ [内容] -irで終わる動詞(主語が複数の場合) [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする (1時間)
④	[テーマ] 名詞、冠詞、形容詞① [内容] 名詞の性別と複数形、冠詞の種類と形、-oで終わる形容詞の形 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする (1時間)			⑫	[テーマ] 動詞tener① [内容] 活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする (1時間)
⑤	[テーマ] 形容詞② [内容] -o以外で終わる 形容詞の形 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする			⑬	[テーマ] 数詞 [内容] 数を表わす言葉 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする (1時間)
⑥	[テーマ] 文の形、動詞の規則活用① [内容] スペイン語の文の形、主語になる人称代名詞、-arで終わる動詞(主語が単数の場合) [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする (1時間)			⑭	[テーマ] 動詞tener② [内容] tenerを用いた表現 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする (1時間)
⑦	[テーマ] 動詞の規則活用② [内容] -arで終わる動詞(主語が複数の場合) [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする (1時間)			⑮	[テーマ] 復習 [内容] これまでの学習内容を復習する [授業外学習]最終回のテストに備えて復習をする (2時間)
⑧	[テーマ] 動詞の規則活用③ [内容] -erで終わる動詞(主語が単数の場合) [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする (1時間)			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
毎回の授業でテストを行ないます。その成績(90%)と授業での態度(10%)を総合して成績を決定します。テストは次回の授業で返却すると同時に、解答について解説をします。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	成績評価方法(詳細)			履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> この授業では声を出してください。質問にははっきりと答える、大きな声で読むことを心がけてください。 欠席した回小テストは0点です。したがって、欠席が多くなると平均点が下がって、単位をとることが難しくなります。できる限り授業に出席しましょう。 毎回のテストのために復習が必要です。 配布するプリントを保存するために、ファイルを持参してください。
定期試験				90%	
授業内レポート	小テスト◎	小テスト◎	小テスト◎		
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度		◎	◎	10%	
出席					
関連科目	スペイン語 II				
教科書	教科書は使用しません。プリントを配布します。			参考書	関心と興味に応じて参考書あるいは辞書を紹介します。
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休みです。				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スペイン語Ⅱ Introduction to Spanish II (S.)			担当教員	平田 忠
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
この授業では、スペイン語Ⅰに引き続き、スペイン語による読み書きの基礎について解説します。また、簡単な日常会話の練習もします。さらに、スペイン語を公用語とする国々の文化を紹介します。					
授業の一般目標					
以下のようなことを目標としてください:①スペイン語の読み書きに関する基礎的なルールを習得すること、②簡単な会話を覚え、場面に応じて使えるようになること、③スペインとラテンアメリカ諸国の文化を知ること。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	読み書きの基礎的なルールを理解する。			
■	情意的領域	異なる文化を理解しようとする態度を持つ。			
■	技能表現的領域	スペイン語を用いて適切に伝える能力を身につける。			
授業計画(全体)					
スペイン語Ⅰに引き続いてスペイン語の読み書きに関する基礎的なルールについて順次解説します。それに加えて、毎回の授業で、その時間で覚えた事柄を用いての表現の練習と簡単な会話の練習をします。また、前回習った内容についてのテストを毎回行います。その他に、スペイン語文化(音楽、祭り、スポーツ、テレビなど)の紹介をします。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]動詞ser① [内容]serの活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする (1時間)			⑨	[テーマ]動詞querer① [内容]quererの活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする (1時間)
②	[テーマ]動詞ser② [内容]serを用いた表現 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする (1時間)			⑩	[テーマ]動詞querer② [内容]quererを用いた表現 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする (1時間)
③	[テーマ]動詞estar① [内容]estarの活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする			⑪	[テーマ]動詞poder① [内容]poderの活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする (1時間)
④	[テーマ]前置詞 [内容]主な前置詞の用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする (1時間)			⑫	[テーマ]動詞poder② [内容]poderを用いた表現 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする (1時間)
⑤	[テーマ]動詞estar② [内容]estarを用いた表現 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする (1時間)			⑬	[テーマ]代名詞 [内容]目的語になる代名詞 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする (1時間)
⑥	[テーマ]動詞ir① [内容]irの活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする (1時間)			⑭	[テーマ]再帰動詞① [内容]再帰動詞の活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする (1時間)
⑦	[テーマ]所有形容詞と指示形容詞 [内容]所有を表わす言葉、指し示す言葉 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする (1時間)			⑮	[テーマ]再帰動詞② [内容]再帰動詞を用いた表現 [授業外学習]最終回のテストに備えて復習をする (1時間)
⑧	[テーマ]動詞ir① [内容]irを用いた表現 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする (1時間)			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
毎回の授業でテストを行ないます。その成績(90%)と授業での態度(10%)を総合して成績を決定します。テストは次回の授業で返却すると同時に、解答について解説をします。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験				90%	<ul style="list-style-type: none"> この科目を受講するためには、「スペイン語Ⅰ」の単位取得が必要です。 この授業では声を出してください。質問にははっきりと答える、大きな声で読むことを心がけてください。 欠席した回小テストは0点です。したがって、欠席が多くなると平均点が下がって、単位をとることが難しくなります。できる限り授業に出席しましょう。 毎回のテストのために復習が必要です。 配布するプリントを保存するために、ファイルを持参してください。
授業内レポート	小テスト◎	小テスト◎	小テスト◎		
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度		◎	◎	10%	
出席					
関連科目	スペイン語Ⅰ				
教科書	教科書は使用しません。プリントを配布します。			参考書	関心と興味に応じて参考書あるいは辞書を紹介します。
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休みです。				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	中国語 I Chinese I			担当教員	馬 佳濛	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数			2
授業の概要						
中国語の発音練習と基礎的文法の学習を通じて、基本的な表現能力を身につける。中国語のピンインの発音から文法の説明と共に会話の練習まで進めていく。また、授業を通して中国の文化や国情についても紹介する。						
授業の一般目標						
中国語の発音体系、特に声調をしっかりと理解し、正確に発音できるようにする;中国語で簡単な自己紹介及び常用表現を身につける;中国の文化や社会に対する理解を深める。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	中国の文化及び国情に対する理解を深める。					
■ 情意的領域	日本と中国の友好関係を発展させる意欲を持つようになる。					
■ 技能表現的領域	ピンインを正確に発音できる。中国語で簡単な挨拶やコミュニケーションができるようになる。					
授業計画(全体)						
基本的にはテキストに沿って進み、実際の進度は学生の学習進度によって調整する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、中国の文化、中国語の特徴などを紹介する [授業外学習] シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] 第6課 何がありますか [内容] 動詞、助数詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	
②	[テーマ] ピンインの学習 [内容] 単母音の発音練習、声調の発音特徴、声調の発音練習 [授業外学習] 声調の抑揚に富む早口を正しく発音できる			⑩	[テーマ] 第7課 ホテルにチェックイン [内容] 完了を表す語、選択疑問文、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	
③	[テーマ] ピンインの学習 [内容] 子音の発音練習、簡単な挨拶文を勉強する [授業外学習] 中国語での挨拶を身につける			⑪	[テーマ] 第8課 何時に行きますか [内容] 経験を表す語、時をあらわす語、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	
④	[テーマ] 第1課 自己紹介 [内容] 自己紹介の言い方、人称代名詞 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する			⑫	[テーマ] 第9課 タクシーに乗る [内容] 前置詞、時間の長さを表す語、目的語をもつ動詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	
⑤	[テーマ] 第2課 これは何ですか [内容] 指示代名詞(1)、否定表現、疑問詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する			⑬	[テーマ] 第10課 試着と支払い [内容] 助動詞、前置詞、動詞の重ね用法、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	
⑥	[テーマ] 第3課 これはいかがですか [内容] 指示代名詞(2)、形容詞述語文、疑問詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する			⑭	[テーマ] まとめ [内容] 単語、文法、リスニング、ヒアリング [授業外学習] テストに備えて復習する	
⑦	[テーマ] 第4課 買い物 [内容] 数詞、助詞、数量を表す語、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する			⑮	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学習] テストに備えて復習する	
⑧	[テーマ] 第5課 どこにありますか [内容] 場所指示代名詞、動詞、助動詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する			⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
講義時間内に指名し、その発音、回答の内容で評価する平常点と、最終講義日に行う筆記試験(ヒアリングを含む)の成績で評価する。						
成績評価方法(詳細)						
到達目標	成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> 必ず教科書を準備すること。 予習・復習をしっかりとすること。 授業中に、積極的かつ意欲的に参加し、授業外でも学習した知識は恥ずかしながら積極的に取組むこと。 授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。 	
定期試験	○		◎	60%		
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度	○	○	◎	40%		
出席	○			減点・欠格条件		
関連科目	中国語 II (後期)					
教科書	《最新版》1年生のコミュニケーション中国語 塚元慶一 監修 劉穎 著			参考書	しっかり初級中国語 石田友美・桑野弘美・島田亜実・鈴木ひろみ 著	
連絡先	馬研究室(第五体育館2F 研究室23)					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	中国語Ⅱ Chinese II			担当教員	馬 佳濛
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
中国語の発音練習と基礎的文法の学習を通じて、基本的な表現能力を身につける。文法と会話の学習を中心に授業を進めて行く。また、授業を通して中国の文化や国情についても紹介する。					
授業の一般目標					
中国語の発音体系、特に声調をしっかりと理解し、正確に発音できるようにする;中国語で簡単な自己紹介及び常用表現を身につける;中国の文化や社会に対する理解を深める。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	中国の文化及び国情に対する理解を深める。				
■ 情意的領域	日本と中国の友好関係を発展させる意欲を持つようになる。				
■ 技能表現的領域	ピンインを正確に発音できるようになる;中国語で自己紹介及び簡単な日常会話ができるようになる				
授業計画(全体)					
基本的にはテキストに沿って進み、実際の進度は学生の学習進度によって調整する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標とやり方の説明、成績評価の方法 [授業外学習] 前期で学習した内容を復習する			⑨	[テーマ] 第8課 友達に電話する [内容] 方向補語、使役文、謙語、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
②	[テーマ] 第1課 北京に到着 [内容] 連動文、動詞句主語、数詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する			⑩	[テーマ] 第9課 郵便局 [内容] “如果…的话, 就…”、前置詞“把”、方向補語“到”、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
③	[テーマ] 第2課 道を尋ねる [内容] 疑問詞“怎么”、動詞+“了”、反復疑問文、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する			⑪	[テーマ] 第10課 医者に行く [内容] “有一点儿”、助動詞“要”、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
④	[テーマ] 第3課 買い物 [内容] 動詞+“一点儿”、比較表現、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する			⑫	[テーマ] 第11課 家庭訪問 [内容] 助動詞“用”、進行形、“就是”、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
⑤	[テーマ] 第4課 バスに乗る [内容] 名詞修飾詞、副詞、結果補語、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する			⑬	[テーマ] 第12課 謝恩会 [内容] “就要…了”、変化を表す語、“有了”、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
⑥	[テーマ] 第5課 新しい友達 [内容] 様態補語、2つの“了”、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する			⑭	[テーマ] まとめ [内容] 単語、文法、リスニング、ヒアリング [授業外学習] テストに備えて復習する
⑦	[テーマ] 第6課 外食 [内容] 助詞“过”、主述述語文、動詞“喜欢”、“多”、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する			⑮	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学習] テストに備えて復習する
⑧	[テーマ] 第7課 約束 [内容] 動詞“听说”、“可…了”、助動詞“打算”、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する			⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
講義時間内に指名し、その発音、回答の内容で評価する平常点と、最終講義日に行う筆記試験(ヒアリングを含む)の成績で評価する。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	成績評価方法			履修上の注意(受講学生に望むこと)	
定期試験	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> 必ず教科書を準備すること。 予習・復習をしっかりとこと。 授業中に、積極的かつ意欲的に参加し、授業外でも学習した知識は恥ずかしくならず積極的に取り組むこと。 授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
授業内レポート	○		◎	60%	
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度	○	○	◎	40%	
出席	○			減点・欠格条件	
関連科目	中国語Ⅰ(前期)				
教科書	《最新版》2年生のコミュニケーション中国語 塚元慶一 監修 劉穎 著			参考書	本気で学ぶ中国語 趙玲華 著
連絡先	馬研究室(第五体育館2F 研究室23)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	韓国語 I Korean I			担当教員	金 賢植
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					
韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。ハングル文字のしくみから読み・書き、韓国語を学ぶとき最も苦手とする発音の練習、日常生活に必要な基礎的な表現について講義する。また、言葉と関連して、韓国のスポーツ事情・文化・歴史などについても紹介しながら授業を進めていく。					
授業の一般目標					
テキストをもとに、「聞く・読む」基礎的な能力を学習し、「話す・聞く」能力の習得を目指して学習することを目標とする。なお、スポーツ事情・文化・歴史に接することにより、韓国に関心を持ち、異文化の理解を深める。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	韓国語の文字(ハングル)を読める。韓国語の特徴が理解できる。			
■	情意的領域	韓国語の背景や韓国の文化に触れ、外国語習得や異文化交流に更なる関心を持つ。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
韓国語を初めて学ぶ学生を対象し、発音、文字、ならびに簡単な日常会話をわかりやすく説明する。テキストに沿ってゆっくり進み、全部で15回の講義項目を行い、2年次の韓国語Ⅱへ進む基礎的な語学力を身につける。文字と発音の段階から、あいさつなど基礎的な会話の要素もくわえ、知識と応用のバランスに配慮した授業を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介、韓国紹介、韓国語の簡単な挨拶紹介 [授業外学習] 韓国・韓国語に関して興味のあることを調べる			⑨	[テーマ] 予定や持ち物の有無② [内容] ある、いる、ありません、いませんの表現の練習、教科書6課の練習問題 [授業外学習] 教科書6課を読んでおく
②	[テーマ] 韓国語文字(ハングル)の仕組と発音 [内容] 基本母音字母と合成母音字母① [授業外学習] 教科書1課を読んでおく			⑩	[テーマ] 質問の仕方① [内容] それは何ですか、質問に関する表現の習得、教科書7課の単語 [授業外学習] 教科書7課を読んでおく
③	[テーマ] 韓国語文字(ハングル)の仕組と発音 [内容] 基本母音字母と合成母音字母② [授業外学習] 教科書2課を読んでおく			⑪	[テーマ] 質問の仕方② [内容] 韓国語を用いて、職業、趣味などを質問できるように練習、教科書7課の練習問題 [授業外学習] 教科書7課を読んでおく
④	[テーマ] 韓国語文字(ハングル)の仕組と発音 [内容] 合成母音字母、自分の名前をハングルで書いてみよう [授業外学習] 教科書3課を読んでおく			⑫	[テーマ] 助詞と疑問詞のまとめ [内容] 韓国語の助詞について日本語と比較しながら学習 [授業外学習] 教科書7課を読んでおく
⑤	[テーマ] 韓国語文字(ハングル)の仕組と発音 [内容] 韓国の食べ物、教室でよく使う言葉 [授業外学習] 教科書4課を読んでおく			⑬	[テーマ] うちとけた表現 [内容] 「です・ます」体の作り方学習 [授業外学習] 教科書8課を読んでおく
⑥	[テーマ] 自己紹介、かじこまった丁寧体① [内容] 「私は～です。～といます。」の練習 [授業外学習] 教科書5課を読んでおく			⑭	[テーマ] 家族の呼び名 [内容] 家族の呼び名、家族構成を韓国語で言えるように練習、 [授業外学習] 教科書8課を読んでおく
⑦	[テーマ] 自己紹介、かじこまった丁寧体② [内容] 「私は～です。～といます。」の練習 [授業外学習] 教科書5課を読んでおく			⑮	[テーマ] 総括 [内容] 1-8課まで学習した内容の総括、会話の練習 [授業外学習] 最終回のテストに備えて復習をする
⑧	[テーマ] 予定や持ち物の有無① [内容] ある、いる、ありません、いませんの表現学習、教科書6課の単語 [授業外学習] 教科書6課を読んでおく			⑯	[テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験を実施する [授業外学習] テストの準備をしておく
成績評価方法(方針)					
試験は、期末試験(評価割合80%)、授業内課題を評価する(評価割合20%)。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象になる。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと) 私語・スマートフォン(タブレット)使用・時刻等の授業進行に妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。積極的に授業に参加することを求める。
定期試験	◎	◎		80%	
授業内レポート			○	20%	
授業外レポート				無し	
演習・実技				評価対象外	
授業態度				減点アリ	
出席				欠格条件	
関連科目	韓国語Ⅱ				
教科書	『新チャレンジ韓国語』、白水社、金順玉著			参考書	『もっとチャレンジ韓国語』、白水社、金順玉著
連絡先	hs-kim@sendai-u.ac.jp				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	韓国語Ⅱ Korean Ⅱ			担当教員	金 賢植
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
韓国語Ⅰで学んだ内容をベースにして、日常会話を学習し、単語・文法は、会話を行いながら韓国人がよく使うパターン学習を練習する。また、基礎的な文章を応用して、あいさつ、買い物、道を尋ね、案内などの日常会話を学ぶ。韓国人とのコミュニケーションができるように、ペアを組んで発表するなど会話中心の授業を行う。					
授業の一般目標					
実用的な会話場面を提示し、毎回生徒同士がペアを組んで練習することで、自然な基礎会話能力を身に付ける。学生の興味・関心があるテーマ(スポーツ、旅行)を取り上げ、比較することで韓国と日本の文化をより深く理解できる。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	韓国人と日本人の会話スタイルの類似点・相違点が理解できる。				
■ 情意的領域	韓国の文化について触れることによって、異文化交流に関心を持ち、広い世界観を確立する。				
■ 技能表現的領域	韓国語で日常会話ができる。				
授業計画(全体)					
韓国語Ⅰで学んだ例文を応用しながら、実用的な日常会話ができるように、学生同士あるいはグループで練習を行う。会話を中心に楽しく韓国語の会話を身につけるように授業を行う。(学生の学習の進度によって、授業計画を若干変更する場合があります。)					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 韓国語の復習 [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介 [授業外学習] 韓国語Ⅰで学んだ内容の復習		⑨	[テーマ] 動作の進行や状態表現 [内容] 「～しています」という表現を学び、動作の進行や状態表現の練習、教科書11課の練習 [授業外学習] 教科書11課を読んでおく	
②	[テーマ] 韓国語の復習 [内容] 韓国語Ⅰで学んだ基本的表現の復習、基礎的な韓国語の表現を復習 [授業外学習] 教科書9課を読んでおく		⑩	[テーマ] ～くださいの表現とお金の数え方 [内容] 買い物や誰かにお願いする際に使う表現の習得と練習、教科書11課 [授業外学習] 文末表現、動作の進行や状態表現の復習する	
③	[テーマ] 動詞、形容詞 [内容] 好き、嫌いの表現、動詞の否定 練習、教科書9課の単語の学習 [授業外学習] 教科書9課を読んでおく		⑪	[テーマ] 年齢に関する表現 [内容] 年齢の数え方、これまで9課から11課まで学んだ表現を用いて会話の練習 [授業外学習] 教科書12課を読んでおく	
④	[テーマ] 目的表現、変則用言 [内容] 動詞の変則用言、目的を表す表現の練習、 [授業外学習] 教科書10課を読んでおく		⑫	[テーマ] 比較表現と二つの文章をつなぐ表現 [内容] 「～より、～が」のような比較表現、「～て、～です」「～けれど ～です」のような二つの内容をつなぐ表現の習得 [授業外学習] 教科書12課を読んでおく	
⑤	[テーマ] 過去形の作り方 [内容] 動詞の過去形の作り方、「何をしましたか」のやり取り練習、教科書10課の単語の学習 [授業外学習] 会話練習のために、教科書9、10課を読んでおく		⑬	[テーマ] ペアで覚える形容詞 [内容] 日常生活でよく使われる形容詞を用いて会話の練習、教科書12課 [授業外学習] 教科書13課を読んでおく	
⑥	[テーマ] 会話練習 [内容] 教科書9課、10課で学んだ表現と動詞を用いて会話の練習 [授業外学習] 会話練習のために、教科書9、10課を読んでおく		⑭	[テーマ] 動詞の可能表現 [内容] 「～することができる」の可能表現の練習、教科書13課の単語 [授業外学習] 教科書13課を読んでおく	
⑦	[テーマ] 覚えたら便利な動詞 [内容] 身近な動詞を用いて会話の練習、教科書10課 [授業外学習] 教科書11課を読んでおく		⑮	[テーマ] よく使われる副詞、総括 [内容] 副詞を用いた会話の練習、教科書13課、9課から13課までの総括 [授業外学習] 最終回のテストに備えて復習をする	
⑧	[テーマ] 文末表現 [内容] 「明日何をするつもりですか。」を用いてよく使われる文末表現の学習、教科書11課の単語の学習 [授業外学習] 教科書11課を読んでおく		⑯	[テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験を実施する [授業外学習] テストの準備をしておく	
成績評価方法(方針)					
試験は、期末試験(評価割合80%)、授業内課題を評価する(評価割合20%)。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象になる。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎	◎		80%
授業内レポート				○	20%
授業外レポート					無し
演習・実技					評価対象外
授業態度					減点アリ
出席					欠格条件
関連科目	韓国語Ⅰ				
教科書	『新チャレンジ韓国語』白水社 金順玉著			参考書	『もっとチャレンジ韓国語』、白水社 金順玉著
連絡先	hs-kim@sendai-u.ac.jp				

《人生設計科目》

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	キャリアプランニング I Career Planning I (L.)			担当教員	クラス担任教員、キャリアプランニング運営担当教員
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数	2	
授業の概要					
この授業では、学生生活(授業、日常、部活その他)での目的意識(なぜ、今ここにいて、これを行っているのか)を吟味することを通じ、大学生生活の充実を図ります。また、1年生からの人生設計(キャリアプランニング)の意識化を行います。					
授業の一般目標					
ライフステージの一段階として大学生生活を考え、学生生活の目標を自分なりにさだめることができる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	改めて入学時の目標や夢を再確認する。今後の大学生生活と進路とを結びつけて考えられる。希望の職業以外の職業にもある程度の知識を持つ。			
■	情意的領域	職業や進路を話しあうことができる仲間を持つ。			
■	技能表現的領域	コース選択や科目履修を主体的に計画できる。			
授業計画(全体)					
実施内容により、個別学習、小グループでの演習、クラスでのディベート、クラス合同の授業など、異なった形態をとります。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(全クラス合同) [内容] キャリア・プランニングの考え方について説明し、本授業の流れについて説明します。 [授業外学習] 自らの将来の希望や見通しを考える。(90分)			⑨	[テーマ] いろいろな職業と必要な知識・技能・資格2(クラス単位) [内容] グループごとに調べた職業について、クラス内で発表します。 [授業外学習] 発表準備。(90分)
②	[テーマ] 講話①(全クラス合同) [内容] 外部講師をお招きし、大学生生活で心掛ける点についての講話をして頂きます。 [授業外学習] 普段の生活態度を問い直す。(90分)			⑩	[テーマ] 他者からみた自分・自分からみた他者(クラス単位) [内容] 仲間からどのように見られているかを互いに検討することを通じ、人間関係における自分のポジションや役割を考えます。 [授業外学習] 他者にどう接するべきかを考える。(90分)
③	[テーマ] 講話②(全クラス合同) [内容] 外部講師をお招きし、大学生生活で心掛ける点についての講話をして頂きます。 [授業外学習] 普段の生活態度を問い直してみよう。			⑪	[テーマ] 社会が求める「スキル」「能力」とは(クラス単位) [内容] 行政や産業界から求められる様々な能力のうち、「社会人基礎力」をとりあげ、自己評価を行います。 [授業外学習] 自分の「強み」「弱み」の活かし方を考える。(90分)
④	[テーマ] 導入演習、夏休みの反省、後期の目標(クラス単位) [内容] 本学進学当時の目的について改めて思い返し、夏休みの反省も踏まえ、後期の大学生生活の目標を考えます。 [授業外学習] 進学当時からのことを改めて振り返る。(90分)			⑫	[テーマ] 「夢」を描こう(クラス単位) [内容] 10年後の自分を想像したり、10年前の夢を思い出したりしながら、自分の夢について語りあってみよう。 [授業外学習] 改めて自分の将来の姿を考える。(90分)
⑤	[テーマ] 「はたらく」とはどういうことか(クラス単位) [内容] 「はたらく」ということを深く考えると難しい面があります。改めて自分なりに考えてみます。 [授業外学習] はたらく意味を自分なりに考える(90分)			⑬	[テーマ] 来年度の目標を書こう(クラス単位) [内容] 2年生を見据えて、来年どんなことに挑戦したいか、またそのためにどのような取り組みが必要かを検討してみよう。 [授業外学習] 改めて自分の将来の姿を考える。(90分)
⑥	[テーマ] 教師になるには?(クラス単位) [内容] 入学生の過半が希望する教師という職業について、その現状と超えるべきハードル、日程について確認します。 [授業外学習] 教師になるまでの道のりについて調べる(90分)			⑭	[テーマ] 就職内定の4年生・卒業生の話を聞こう(全クラス合同) [内容] 就職の内定を得た4年生や卒業生をお呼びし、進路決定方法、準備方法、現段階でやるべきことなどの講話をしてもらいます。 [授業外学習] 自分なりの就職に向けたスケジュールを考える。(90分)
⑦	[テーマ] 体育・スポーツ系の仕事とは?(クラス単位) [内容] 教師以外の体育・スポーツに関わる仕事、業界と関連資格などを調べ、自分の志望を再度確認します。 [授業外学習] 興味のある職業について考える。(90分)			⑮	[テーマ] 自分の方がらと適職について考えよう(全クラス合同) [内容] 職業興味検査を行い、自己採点と自己分析をしよう。 [授業外学習] 職業興味検査の結果をよく検討する。(90分)
⑧	[テーマ] いろいろな職業と必要な知識・技能・資格1(クラス単位) [内容] スポーツ系以外で世の中にはどんな職業があるのか、またそれらに関連する資格、知識、技能とは? グループごとに調べます。 [授業外学習] グループ学習。(90分)			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
キャリアプランニング科目は「認定」・「不可」・「放棄」の3種類により評定を行います。評定の材料は出席状況および授業参加の態度です。なお、成績評価のためには3分の2以上の出席が必要です。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	作業、議論、調査などを通じ、上記のことがらに迫りますので、積極的に参加してください。諸君の自己啓発意欲に期待します。 また、クラス合同の場合の実施教室等は掲示により周知します。
定期試験					
授業内レポート	◎	◎	◎	10%	
授業外レポート	◎	◎	◎	20%	
演習・実技	◎	◎	◎	20%	
授業態度	◎	◎	◎	50%	
出席					
関連科目	キャリアプランニング II・キャリアプランニング III				
教科書	「キャリアプランニング I 演習資料」 (オリエンテーション時に配布します)			参考書	
連絡先	クラス担任教員				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	キャリアプランニングⅡ Career Planning Ⅱ (S.)			担当教員	キャリアプランニング運営担当教員
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
就職活動の準備段階として必要な事項について概説する。具体的には、自分は何が得意か、何に向いているかなど、自分自身を知る作業の方法や、昨今の就職をめぐる状況と就職に至るまでの道のりについて概説をする。講義を聞く代わりにインターンシップ(職業体験実習)を行うことも可能である。					
授業の一般目標					
「自分と職業生活・職業選択」をメインテーマに、自分自身について自覚的に考え、同時に、様々な職業と就職までの道のりについて具体的に考えられるようになることが目標となる。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	職業について、より深い具体的知識を備える。また、職場の人間関係や「やりがい」について自分なりに意見を持てる。				
■ 情意的領域	職業選択に当たり、自分なりの動機をより強くする。				
■ 技能表現的領域	社会人らしい考え方、話し方をすることができる。				
授業計画(全体)					
下記の内容を集中講義の形で実施する。期日等については、後日掲示する。 インターンシップについては、事前のオリエンテーションから実習後のレポート提出までの日程を掲示により告知する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 現時点の将来像を確認するとともに、本授業の流れについて説明する。 [授業外学習] 自らの将来の希望や見通しについて考える。(90分)			⑨	[テーマ] 社会を知る① [内容] 職業選択理論の考え方を学び、ゲーム形式で実践する。 [授業外学習] 職業の種類や幅について事前に調べておく。(90分)
②	[テーマ] 大学生の就職状況に関する現状分析 [内容] 大学生の就職状況について概説する。 [授業外学習] 就職状況をふまえ、自分の対策を考えること。(90分)			⑩	[テーマ] 社会を知る② [内容] 昨今の就職環境や企業・官公庁における採用動向から就職活動について考える。 [授業外学習] 就職情報サイトなどを事前に閲覧しておく。(90分)
③	[テーマ] 就職までの道すじ [内容] 就職内定までの手続き、必要なこと等を、職種ごとに概説する。 [授業外学習] 関心ある職業について必要なこと等を押さえる。(90分)			⑪	[テーマ] 社会人基礎力① [内容] 社会人基礎力の各要素とその具体的場面における重要性について、講話を行なう。 [授業外学習] 自分なりに職業の位置づけを検討すること。(90分)
④	[テーマ] 自己分析の目的と必要性 [内容] 就職活動で必要となる自己分析の意義と企業等の目的について概説する。 [授業外学習の指示等] 自分なりに自己分析の方針を考える。(90分)			⑫	[テーマ] 社会人基礎力② [内容] 社会人基礎力の各要素について自己評価を行い、エントリーシートなどの分析につなげる。 [授業外学習] 自分なりに職業の位置づけを検討すること。(90分)
⑤	[テーマ] 自己アセスメント① [内容] 自己分析の材料として、自己アセスメント(VPI予定)を行う。 [授業外学習] わからない職業は自分なりに調べておく。(90分)			⑬	[テーマ] キャリアデザイン① [内容] 目標設定理論をもとに、目標とモチベーションの関係について理解を深める。 [授業外学習] 将来の夢や希望の再確認をしておくこと。(90分)
⑥	[テーマ] 自己アセスメント②結果検討 [内容] 自己アセスメントの結果を自己採点し、結果を分析、検討する。 [授業外学習] 分析結果から見た自分像について考える。(90分)			⑭	[テーマ] キャリアデザイン② [内容] グラジュエーション・リストを作成し、目標達成のための方策の具体化を図る。 [授業外学習] 残りの学生生活でやりたいことを事前にまとめる。(90分)
⑦	[テーマ] コミュニケーション能力① [内容] 社会人として必要なコミュニケーション能力について概説する。 [授業外学習] 自分のコミュニケーション能力を検討する。(90分)			⑮	[テーマ] まとめ [内容] これまでのまとめ [授業外学習] 提出物などに漏れがないか確認する。(90分)
⑧	[テーマ] コミュニケーション能力② [内容] 社会人として必要なコミュニケーション能力について、グループワークを行なうことによるその必要性や具体的発揮法を感得する。 [授業外学習] 自身のコミュニケーション力を再検討する(90分)			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
キャリアプランニング科目は「認定」・「不可」・「放棄」の3種類により評定を行います。評定の材料は出席状況および授業参加の態度です。なお、成績評価のためには3分の2以上の出席が必要です。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				◎	30%
授業内レポート		◎		◎	
授業外レポート				◎	
演習・実技		◎	◎	◎	35%
授業態度		◎		◎	35%
出席					
関連科目	キャリアプランニングⅠ・キャリアプランニングⅢ				
教科書				参考書	
連絡先	キャリアプランニング運営担当教員(オリエンテーション時に告知する)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	キャリアプランニングⅢ Career Planning III (L.)			担当教員	学科・コースのグループ担当教員 キャリアプランニング運営担当教員
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数	2	
授業の概要					
3年次前期は、将来の進路について明確なイメージを固めゆく時期である。キャリアプランニングⅢでは、学生の進路への意識を高めるべく種々の演習を行うほか、実際の進路指導をめぐる話題を多方面から扱う。					
授業の一般目標					
1)これまでの自分の生きてきた道程を振り返りつつ、学生生活の二年間を総括する。 2)各人の性格、適性、学力レベルなどを将来の進路希望と関連付けて考える。 3)進路意識を高めるために、企業人事担当者などを招聘し、職業に対するありうべき態度、企業の求める人材像、現在の企業動向等について情報を取得する。 4)より具体的に就活を展開する際に必要とされる知識、技能、手続きなどを把握する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	学生生活の二年間を将来に結びつけて考える。企業の求める人材像や就職動向について知る。				
■ 情意的領域	就職活動上、自らの希望を熱意をもって表現する方法の必要性を知ると同時に、実践できる。				
■ 技能表現的領域	就職活動を展開する際に必要とされる知識、技能、手続きを挙げることができる。				
授業計画(全体)					
下記に示す内容を中心に、学生各自が実際の就職活動を行う際に役立つ情報を総合的に蓄積していくことが目的である。外部から講師を招聘する場合、コースまたはクラスごとに演習を行う場合がある。回によって異なるので掲示その他の指示に従うこと。なお、外部から講師を招聘する場合にはクラス合同で授業を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(全クラス合同) [内容] 現時点の就職状況を確認するとともに、本授業の流れについて説明する。 [授業外学習] 自らの将来の希望や見通しについて考える。(90分)			⑨	[テーマ] 大学院という進路(全クラス合同) [内容] 大学卒業後に継続して学ぶことの意味と意義について考える。 [授業外学習] 大学院の情報を収集する(90分)
②	[テーマ] 自己PRとしての自己紹介(各クラス) [内容] 就職活動において自己PRは欠かせない。この観点から自己紹介を行ってみる。 [授業外学習]より他者にアピールする自己紹介内容を考える。(90分)			⑩	[テーマ] 就職活動の全体像(全クラス合同) [内容] 就職活動に臨むにあたり、その全体的な流れを把握する。 [授業外学習] 就活支援サイトをチェックする。(90分)
③	[テーマ] 就職の道すじ(各クラス) [内容] 入学以来から卒業までのイベントを挙げながら、就職に至るまでの自らのスケジュールを考える。 [授業外学習] 就職活動のスケジュールを組み立てる。(90分)			⑪	[テーマ] 自己プロデュースの方法(全クラス合同) [内容] 自分をプロデュースすることの重要性とその方法について述べる。 [授業外学習] 前期の学習内容を振り返る。(90分)
④	[テーマ] 敬語の使いかた・電話一のマナー(各クラス) [内容] 具体的な事例を想定し、仕事上正しい言葉遣いについて考える。 [授業外学習] 敬語等の使い方を調べる。(90分)			⑫	[テーマ] 対人スキルを磨く(全クラス合同) [内容] 就活に即効性があり、修飾語も重要なマナーと対人スキルについて述べる。 [授業外学習] 対人スキルを日常で実践してみる。(90分)
⑤	[テーマ] 自己分析の実際(各クラス) [内容] 仙台大学生として企業等が期待することはどんなことかを検討することを通じ、自らの長所、短所を改めて考える。 [授業外学習] 自分のアピールポイントを考える。(90分)			⑬	[テーマ] 訴求点を探す(全クラス合同) [内容] 自己アピールのポイントと方法を学ぶ。 [授業外学習の指示等] 自分の長所を考える。(90分)
⑥	[テーマ] 自己PR書、自己紹介書の作成(各クラス) [内容] 自己PR書を試作してみることで、自分という人間を理解してもらう文章作成のポイントを考える。 [授業外学習] 他己分析をしてみる。(90分)			⑭	[テーマ] 視野を広げる(全クラス合同) [内容] 企業名や規模に惑わされずに企業を選ぶための方法を理解する。 [授業外学習] 求人票を読む。(90分)
⑦	[テーマ] 履歴書とエントリーシートの作成(各クラス) [内容] 履歴書やエントリーシートの試作を通じて、より良い文書の作成について考える。 [授業外学習] 履歴書とエントリーシートの完成版を作成する。(90分)			⑮	[テーマ] 「働く」を疑似体験する(全クラス合同) [内容] 体験型の就活ナビゲーションを通じて、新社会人になることを具体的にイメージする。 [授業外学習] 就活に必要な用具などを揃える。(90分)
⑧	[テーマ] 夏休みの過ごし方(全クラス合同) [内容] 後期から本格化する就職活動を見据えて夏休みにやるべきことを考える。 [授業外学習] 夏休みの行動指針を立てる。(90分)			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
キャリアプランニング科目は「認定」・「不可」・「放棄」の3種類により評定を行います。これらのために、出席状況および作業への取組状況を主材料とします。成績評価のためには3分の2以上の出席が必要です。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	就職活動のスタートが遅れることによる不利を背負わないよう、この授業を始めとして積極的な情報収集を心がけてください。
定期試験				70%	
授業内レポート	◎	◎	◎		
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度	◎	◎	◎	30%	
出席					
関連科目	キャリアプランニングⅠ・キャリアプランニングⅡ				
教科書	「キャリアプランニングⅢ演習資料」 (オリエンテーション時に配布します)			参考書	
連絡先	学科・コースのグループ担当教員(オリエンテーション時に告知します)				

2. 專門基礎科目

《講義》

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ史 Sport History(L.)			担当教員	藪 耕太郎
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					
<p>広義のスポーツについて、歴史学的観点から講述する。とりわけ本講義では、①現代に繋がる“modern”としての近代、②スポーツのイデオロギーの性格、に主眼を置くことで、単なる知識としてのスポーツの歴史ではなく、歴史を通じてスポーツの今日的な課題をクリティカルに問う力を養うことを目的とする。</p>					
授業の一般目標					
<p>①スポーツの歴史的な変遷について、人類の歴史的展開過程と関連づけて理解することができる。 ②近代スポーツが誕生した理由および歴史的意味について説明することができる。 ③スポーツの歴史的意味や役割を批判的に検討することができる。</p>					
授業の到達目標					
■	認知的領域	各時代の体育・スポーツの特徴や、基本知識について説明することができる。			
■	情意的領域	歴史について関心をもつ。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
<p>本講義は、身体運動文化の歴史的変遷過程を時系列的に辿りながら、その文化の基底を成す歴史と社会のあり方を問う。つまり、各時代の特徴的な身体運動文化を基点に、その文化を定位する特定の様式、および文化を取り巻く諸要素から、各時代・社会のありようを探りたい。なお授業では映像や画像資料も多用するが、基本はレジュメに従うので、持参するのを忘れないようにすること。また授業時間確保の観点から、レジュメは②・⑤・⑨・⑩回のみ配布する。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] スポーツの歴史を学ぶ意味 [内容] なぜ現代社会に生きる私たちがスポーツの歴史を知る必要があるのかを考える。 [授業外学習] 図書館でスポーツ史関連の書籍を探して読む(90分)			⑨	[テーマ] 国民と体育 [内容] 国民国家の誕生と公教育としての体育 [授業外学習] フリードリヒ・ヤーンという人物を調べる(90分)
②	[テーマ] 古代ギリシャのスポーツ [内容] 古代オリンピックの成立と展開 [授業外学習] 古代オリンピックについて調べてみる(90分)			⑩	[テーマ] スポーツと市民 [内容] 労働者階級とスポーツクラブ [授業外学習] プロスポーツ選手の誕生について調べてみる(90分)
③	[テーマ] 古代ギリシャの体育 [内容] プラトンの体育思想 [授業外学習] 体育の歴史を調べてみる(90分)			⑪	[テーマ] 帝国主義とスポーツ [内容] クーベルタンと近代オリンピック [授業外学習] ピエール・ド・クーベルタンという人物を調べてみる(90分)
④	[テーマ] 古代ローマの余暇と政治 [内容] バンとサーカス [授業外学習] 映画「ベン・ハー」を鑑賞する(90分)			⑫	[テーマ] 近代日本におけるスポーツ受容① [内容] 学生・新中間層とスポーツ [授業外学習] 明治・大正時代について簡単な予習をしておく(90分)
⑤	[テーマ] 中近世の民衆娯楽① [内容] マス・フットボールとは何か？ [授業外学習] マス・フットボールについて調べてみる(90分)			⑬	[テーマ] 近代日本におけるスポーツ受容② [内容] スポーツと思想善導 [授業外学習] 戦争とスポーツの関係について調べてみる(90分)
⑥	[テーマ] 中近世の民衆娯楽② [内容] マス・フットボールの衰退要因と近代化 [授業外学習] 近代化ということばについて調べてみる(90分)			⑭	[テーマ] 近代日本と武道 [内容] 「創られた伝統」としての武道 [授業外学習] 武道と武術の違いを調べてみる(90分)
⑦	[テーマ] 福音主義と合理的娯楽 [内容] パブリックハウスとブラッDISポーツ [授業外学習] 動物愛護の歴史について調べてみる(90分)			⑮	[テーマ] テスト① [内容] 所期の到達目標を達成したかどうかを試験する [授業外学習]
⑧	[テーマ] スポーツと教育 [内容] パブリックスクールにおけるスポーツ [授業外学習] 「ラグビー校」について調べてみる(90分)			⑯	[テーマ] テスト② [内容] 所期の到達目標を達成したかどうかを試験する [授業外学習]
<p>定期試験を重視する(90点満点)。その他、自学自習も評価する(10点)。自学自習は自発的な学習意欲に基づくレポートであり、テーマはスポーツと歴史・社会に関するものなら何でも良い。従って提出は任意であり、書式その他も全て自由とする。但し、活用した情報源の提示は必須とし、また盗用は一切認めない。</p>					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	授業の進行を妨げる行為、特に私語は厳禁とし、場合によってはペナルティを課す。また高等教育である以上、講義内容は相当に高度であり、真剣な態度での受講と、積極的なノートテイクは必須である。ただし、質問などには必ず「理解できるまで」対応する。教員からの教えを待つのではなく、教員と学生とが相互に高めあう関係を期待したい。なお、プリント配布時(講義時間)に取り損ねた場合は、アップローダー(http://ux.getuploader.com/yabu_sendai_u/)から各自でダウンロード&プリントアウトすること(教員を頼らない)。パスワードはsportshistory。
定期試験	◎			90%	
授業内レポート				評価対象外	
授業外レポート	○			10%	
演習・実技				評価対象外	
授業態度	△			減点対象	
出席	△			減点対象	
関連科目	人文社会系科目全般				
教科書	使用しない			参考書	使用しない(授業時間内に適宜紹介する)
連絡先	kt-yabu@sendai-u.ac.jp				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ経営学 Sport Management (L)			担当教員	永田秀隆
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要 スポーツが幅広い層に普及している今日、スポーツを指導・振興する上で、経営的なもの見方や考え方が重要となっている。そこで、学校、地域、公共・商業スポーツ施設やプロスポーツといった様々な領域で展開されるスポーツ現象について、経営学的なアプローチを試みる。					
授業の一般目標 スポーツ経営の基本的な構造(仕組みやシステム)について理解する。様々な領域で展開されるスポーツ現象について、経営学的な視点で捉え、またそのことについて考察する。					
授業の到達目標 スポーツ経営の基本構造が説明できる。経営学的な視点でスポーツ現象を捉えられ、そのことについて考察できる。					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域				
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域				
授業計画(全体) 本授業は、スポーツ経営学の入門編と位置づけていることから、多様な視点でのスポーツ経営現象を紹介することになる。毎回、授業テーマに沿った資料を原則配布し、また受講者の理解を深めることに配慮するためパワーポイントやビデオ等も活用する。数回、授業内容に沿ったレポートを課すことになるので、授業内容を各自がそれなりに理解しておくことが重要である。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション/スポーツ経営学とは [内容] 教員紹介、授業概要(目標、進め方、シラバス、成績評価方法等)の説明/スポーツ経営の構造(仕組み)について概説する [授業外学習]シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] 商品やスポーツマーケティングの現実 [内容] ビデオ「地球市場 富の攻防 ～最強商品:スーパースター～」を視聴し、概要と感想をまとめる(小レポート該当) [授業外学習]
②	[テーマ] スポーツ組織と取り巻く環境(ステークホルダー) [内容] スポーツ組織の特徴を説明するとともに、スポーツ組織を取り巻く環境(ステークホルダー)を理解し、事例についても考える [授業外学習]プロスポーツを取り巻くステークホルダーを考える			⑩	[テーマ] スポーツ組織の設計とスタッフ [内容] スポーツプロダクト(製品)を生み出すスポーツ組織の捉え方、設計の仕方、スタッフ等について理解する [授業外学習]スポーツ組織について調べておく
③	[テーマ] 市場における競争地位の類型化および経営資源の分類 [内容] 競争地位の類型化について説明するとともに事例検討も実施し、また類型化の前提となる経営資源の分類について理解する [授業外学習]競争地位の類型化に関するレポート作成要領を提示			⑪	[テーマ] スポーツ経営における経営評価 [内容] スポーツ経営現象をよりよいものにしていくための手段としての経営評価に着目し、その考え方を理解するとともに応用できるようにするため身につける [授業外学習]経営評価について調べておく
④	[テーマ] ブランド資産の創造とブランド価値評価 [内容] ブランドの概念、意義、資産とその維持に関して概説し、またブランド価値評価に関するデータも示す [授業外学習]各自の所属する学科のロゴマークを考えておく			⑫	[テーマ] プロスポーツの経営 [内容] 日本のプロスポーツ(Jリーグ等)を取上げ、そこでの組織の取組(経営)と消費者としての観戦者の特性に着目し、現場での経営についての理解を深める [授業外学習]各自の関心のあるプロスポーツの現状を把握しておく
⑤	[テーマ] 商品の構造や開発、市場での経営戦略 [内容] ビデオ「NO.1を死守せよ～カローラ40年目の苦闘～」を視聴し、キーワードを抽出する(小レポート該当) [授業外学習]			⑬	[テーマ] プロスポーツ経営の実際 [内容] プロスポーツの現場における経営の実際について、現場経験者の取り組みを視聴し、考察を深める [授業外学習]
⑥	[テーマ] プロダクト(製品)とスポーツプロダクト [内容] プロダクトの概念、製品の開発やライフサイクル、スポーツプロダクトの構造を理解し具体例についても考察する [授業外学習]製品ライフサイクルについて調べておく			⑭	[テーマ] 商業スポーツ施設の経営 [内容] 激しい競争環境の中にある商業スポーツ施設の経営の現状や課題等について理解を深め、今後の方向性について考える [授業外学習]特定の商業スポーツ施設について、その概要を調べておく
⑦	[テーマ] スポーツイベントの特徴及びメディアとの関係 [内容] イベント及びスポーツイベントの概要や波及効果を認識し、またスポーツイベントとメディア(テレビ)との関係について理解し検討する [授業外学習]スポーツイベントについてイメージを膨らませておく			⑮	[テーマ] 地域スポーツの経営 [内容] 地域に存在する各種スポーツ団体、総合型地域スポーツクラブ、あるいは地域と関わり深い学校体育経営の現状や課題について概説する [授業外学習]地元で総合型地域スポーツクラブがどれだけあるか調べる
⑧	[テーマ] スポーツマーケティングの概要・計画・戦略 [内容] スポーツマーケティングの枠組み、計画づくり、そしてマーケティング戦略について、実践例を交え説明する [授業外学習]マーケティングとは何か調べておく			⑯	[テーマ] レポート [内容] レポートの振り返り [授業外学習]
成績評価方法(方針) 授業外レポート(25%)、授業内レポートとリアクションペーパー(75%)の結果に基づき、総合的に評価する。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					評価対象外
授業内レポート		◎			75%
授業外レポート		◎			25%
演習・実技					評価対象外
授業態度					減点アリ
出席					欠格条件
関連科目	スポーツマネジメント概論(2年)、スポーツマーケティング論(2年)、地域スポーツ戦略論(2年)、スポーツ産業論(3年)、スポーツクラブマネジメント論(3年)、スポーツ政策論(4年)				
教科書				参考書	山下秋二他『スポーツ経営学』大修館書店、八代勉他『体育・スポーツ経営学講義』大修館書店 他
連絡先	A棟3階312:永田研究室(hd-nagata@sendai-u.ac.jp) オフィスアワー:火曜日 10:20 ~ 11:50				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ社会学 Sociology of Sport (L)			担当教員	荒牧 亜衣
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
スポーツと社会との関係から、近代スポーツの特徴および現代スポーツの特徴やその意義、役割を概説する。また望ましいスポーツ振興のあり方や方法について具体的に解説する。					
授業の一般目標					
スポーツを社会現象として捉え、社会との関係からスポーツの特徴やあり方が理解できるようになる。さらにわが国のスポーツ文化の特徴や今後の望ましいあり方について思考できる能力を身につける。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	わが国のスポーツの現状や望ましいスポーツのあり方について説明できる。			
■	情意的領域	スポーツ指導やスポーツ集団の運営に関心をもち、意欲的に取組むことができる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
テキストに沿って、その内容および関連事項について解説する。また各章が終わった時点で、内容の理解のための小テストを行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] スポーツ社会学とは何か [内容] オリエンテーションを兼ね、スポーツ社会学とは何かを解説する。 [授業外学習] シラバスを熟読しておくこと			⑨	[テーマ] スポーツ参与とスポーツ的社会化(2) [内容] スポーツへの社会化とスポーツ・ドロップアウト、バーンアウトについて解説する。 [授業外学習] スポーツドロップアウトやバーンアウトの原因について考えておくこと
②	[テーマ] 現代スポーツの特徴と「スポーツの危機」 [内容] 現代スポーツの特徴を解説するとともに、「スポーツの危機」と言われるスポーツをめぐる諸問題について説明する。 [授業外学習] スポーツにおける諸問題について発表できるようにしておくこと			⑩	[テーマ] スポーツ参与とスポーツ的社会化(3) [内容] 日本人のスポーツ参与の実態と生涯スポーツの課題について解説する。 [授業外学習] 日本人のスポーツ参加のデータを調べておくこと
③	[テーマ] スポーツと社会(1) [内容] 近代スポーツの誕生とその社会的背景について解説する。 [授業外学習] イギリス近代社会の特徴について理解しておくこと			⑪	[テーマ] スポーツ集団(1) [内容] わが国のスポーツ集団の特徴とその背景について解説する。 [授業外学習] 大学運動部の歴史について簡単に調べておくこと
④	[テーマ] スポーツと社会(2) [内容] 現代社会におけるスポーツの意義や役割について解説する。 [授業外学習] 現代社会とはどのような特徴を持つのかを理解しておくこと			⑫	[テーマ] スポーツ集団(2) [内容] 望ましいスポーツクラブづくりについて解説する。 [授業外学習] テキスト48頁から52ページを熟読しておくこと
⑤	[テーマ] スポーツと文化(1) [内容] スポーツの文化的性格について解説する。 [授業外学習] 文化とは何かを調べておくこと			⑬	[テーマ] スポーツと政治・経済(1) [内容] スポーツと政治との関係について解説する。 [授業外学習] ベルリン(1936)や東京(1964)のオリンピックについて調べておくこと
⑥	[テーマ] スポーツと文化(2) [内容] 文化論的プレイ論(ホイジンガ、カイヨワのプレイ論)について解説する。 [授業外学習] ホイジンガやカイヨワという学者について簡単に調べておくこと			⑭	[テーマ] スポーツと政治・経済(2) [内容] スポーツと経済との関係について解説する。 [授業外学習] テキスト154・155頁を熟読しておくこと
⑦	[テーマ] スポーツと文化(3) [内容] スポーツ文化の構成要素とスポーツ観について解説する。 [授業外学習] 自らのスポーツ観について発表できるようにしておくこと			⑮	[テーマ] 地域スポーツの課題と総合型地域スポーツクラブ [内容] 総合型地域スポーツクラブについて、その理念や課題等について解説する。 [授業外学習] 身近な地域スポーツやそのクラブの特徴について調べておくこと
⑧	[テーマ] スポーツ参与とスポーツ的社会化(1) [内容] スポーツ参与およびスポーツ的社会的概念について解説する。 [授業外学習] 野生児(アヴェロン)の野生児、狼少女)について調べておくこと			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 授業の理解度・到達度を確認するための期末試験を行う。 [授業外学習] テキストを熟読し、復習しておくこと
成績評価方法(方針)					
期末試験の成績(評価割合80%)を基本とするが、小テストの成績(評価割合20%)、および積極的な授業態度も加点する。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験	◎			80%	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストに沿って授業を行うので、必ず下記テキストを準備し、予習をしておくこと。 ・受講は静粛を旨とし、質問に対しては積極的に発言すること。
授業内レポート	◎			20%	
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度		○		加点あり	
出席					
関連科目	スポーツ経営学(1年)、地域スポーツ論(2年)				
教科書	丸山富雄編著『現代スポーツ論』中央法規出版			参考書	
連絡先	荒牧研究室				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ心理学			担当教員	栗木一博/菊地直子
	Sport Psychology (L.)				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要 メンタルトレーニングの実践などスポーツに取り組む多くの人の中で心理学の重要性に対する認識が高まってきている。本講義ではスポーツの場面に存在する様々な問題を心理学的に解説する。さらに、それを競技力の向上やスポーツの指導のために応用する方法について解説する。					
授業の一般目標 スポーツ心理学の基礎的な事項を学習し、競技力の向上やスポーツ指導の場面に存在する様々な問題を心理学的に把握できる。さらに、自分自身の競技生活やスポーツの指導場面にこれらの知識を当てはめて考えることができる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	スポーツ心理学の基礎的な事項についての説明ができる。スポーツ場面に存在する問題を心理学的に捉えることができる。			
■	情意的領域	スポーツ場面の問題点に対して主体的に興味を持ち、心理学的に焦点を当てて考えることができる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体) スポーツ心理学の基礎的な知識に関する解説を行なう。それらが実際のスポーツ場面で応用できるように自分自身のスポーツ経験に照らし合わせて考える時間や具体的な事例の提示を行なう。学習内容の振り返りのために小レポートを実施し、理解度到達度を確認する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目的および概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方について解説する。 [授業外学習]シラバスを熟読すること。			⑨	[テーマ] スポーツとこころの健康 [内容] メンタルヘルスに関する問題やその重要性について解説する。それとともに、スポーツと発達についても触れる。 [授業外学習]コミュニケーションということばの意味について調べる。
②	[テーマ] スポーツにおける心理アセスメント [内容] 心理テストを利用して心理的なアセスメントを行なうとともに、その利用方法について解説する。 [授業外学習]どのような心理テストがあるのかを調べておく。			⑩	[テーマ] スポーツ選手のアイデンティティ [内容] スポーツの低年齢化や高度化に伴い、スポーツ選手のアイデンティティがどのように形成されていくのか解説する。 [授業外学習]「自我同一性」ということばについて調べておく。
③	[テーマ] スポーツにおける動機づけ理論① [内容] 認知、情動、欲求の各側面から今日までの動機づけ理論について解説する。 [授業外学習]「やる気」とはどのようなものか発表できるように準備する。			⑪	[テーマ] ストレスの概念と生体の反応及びアセスメント ストレスの概念・定義及び各因子について解説するとともに、その評価方法についても解説する。 [授業外学習]自分のストレスについてまとめておく。
④	[テーマ] スポーツにおける動機づけ理論② [内容] 原因帰属理論、内発的動機づけ理論などについて解説する。スポーツ場面における動機づけ理論の応用について解説する。 [授業外学習]前回学習した動機づけ理論の基礎について確認をする。			⑫	[テーマ]スポーツ選手の性格 [内容]スポーツ選手の生きている現実的・心理的世界を探索し、理解させる。 [授業外学習]自分のストレスを評価してみる。
⑤	[テーマ] スポーツにおける目標設定 [内容] 動機づけを高める手法としての目標設定について解説する。 [授業外学習]自分の目標をワークシートに表現できるように整理する。			⑬	[テーマ]スポーツカウンセリング① [内容] スポーツに関与するうちに起こるスポーツ障害、およびストレスについて解説する。 [授業外学習]スポーツ選手の育つ環境的側面について復習しておく。
⑥	[テーマ] スポーツにおける集中力① [内容] 「注意」の性質について解説する。スポーツにおける「集中力」の性質について解説する。 [授業外学習]「集中力」ということばの意味について調べておく。			⑭	[テーマ] スポーツカウンセリング② [内容]熱中度の高いスポーツアスリートのスポーツにおける滞りとその背景、症状について解説する。 [授業外学習]スポーツ障害とアスリートの背景について復習する。
⑦	[テーマ] スポーツにおける集中力② [内容] 情報処理モデルを用いて注意集中について解説する。集中力のコントロールのための方法について解説する。 [授業外学習]前回学習した「集中力」について確認する。			⑮	[テーマ]スポーツカウンセリング③ [内容] スポーツ選手のこころの健康と競技について、示唆し、考えさせる。 [授業外学習]スランプやプラトーについて調べる。
⑧	[テーマ] スポーツとリーダーシップ [内容] 特性論、類型論、機能論、状況適合論からリーダーシップ理論について解説する。また、グループダイナミクスについて解説する。 [授業外学習]望ましいリーダー像について説明できるようにしておく。			⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度を測定するための試験を実施する。 [授業外学習]テストの準備をしておく。
成績評価方法(方針) 試験(は、期末試験を一回実施する(評価割合60%)。また、授業内レポート(評価割合40%)を課す。そしてこれらの結果を総合して成績評価を行なう。出席は評価割合に加えず、欠格条件となる。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験	◎			60%	
授業内レポート	○	◎		40%	
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席					
関連科目					
教科書				参考書	
連絡先	栗木研究室(E棟2階:内線336)、菊地研究室(第4体育館1階:内線429)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	運動生理学 Exercise Physiology (L)			担当教員	内丸 仁
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
<p>中学校・高等学校教諭一種普通免許状(保健体育)、スポーツプログラマー、アスレティックトレーナー、健康運動指導士、健康運動実践指導者、レクリエーション・コーディネーター、NSCA-CPT、CSCS</p>					
<p>授業の概要</p> <p>運動生理学では生理学や解剖学を基礎として、活動(運動時)状態における人体の働きについて、生理学的な機能あるいは構造学的変化について体系的に講義を行う。</p>					
<p>授業の一般目標</p> <p>運動時の筋・神経・呼吸・循環系の生理学的な機能および働きあるいは構造学的変化について学ぶ。また、競技力向上のためのトレーニング、ウォームアップおよびクールダウンの重要性、疲労、健康に及ぼす運動の効果についても理解する。</p>					
<p>授業の到達目標</p>					
■ 認知的領域	活動(運動時)の人体の生理学的な応答・適応について理解する。				
■ 情意的領域	実際の活動(運動およびトレーニング)において、生理学的な機能や効果さらには意義を理解して取り組むことが出来るようになる。				
□ 技能表現的領域					
<p>授業計画(全体)</p> <p>各回の授業テーマについて、PowerPointを用いた講義が中心となる。また、各授業毎に小テストを実施・提出させることで、理解度・到達度を確認する。</p>					
<p>授業計画(各回のテーマ等)</p>					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	<p>[テーマ] 運動生理学とは？</p> <p>[内容] 運動生理学の授業の進め方と生理学、運動生理学およびスポーツ生理学についての説明</p> <p>[授業外学習] シラバス参照</p>			⑨	<p>[テーマ] 運動とエネルギー代謝</p> <p>[内容] 生命活動に必須のエネルギー代謝、および運動代謝について、栄養素と関連づけながら説明する</p> <p>[授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること</p>
②	<p>[テーマ] 運動と骨格筋 I</p> <p>[内容] 筋の分類と運動を起こす骨格筋の微細構造、筋収縮のメカニズムについて説明する</p> <p>[授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること</p>			⑩	<p>[テーマ] 運動と内分泌系とストレス</p> <p>[内容] 運動時に生体内で分泌されるホルモンの名称と働き、運動によるストレスの変化やトレーニングによるストレスへの適応について説明する</p> <p>[授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること</p>
③	<p>[テーマ] 運動と骨格筋 II</p> <p>[内容] 筋収縮におけるATPの役割と無酸素的および有酸素的エネルギー供給機構について説明する</p> <p>[授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること</p>			⑪	<p>[テーマ] 運動と免疫</p> <p>[内容] 運動における免疫系の変化やトレーニングによる免疫機能の適応について説明する</p> <p>[授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること</p>
④	<p>[テーマ] 運動と骨格筋 III</p> <p>[内容] 筋線維のタイプと筋力・筋パワー・筋持久力特性について説明する</p> <p>[授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること</p>			⑫	<p>[テーマ] 運動と内部環境(体温調節・水分補給)</p> <p>[内容] 高温や低温環境における運動による体温の変化や調節機能、運動における体内の水分バランスや水分補給について説明する</p> <p>[授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること</p>
⑤	<p>[テーマ] 運動と神経</p> <p>[内容] 神経の名称と働き、および運動に関連する神経機構、運動単位および反応と反射について説明する</p> <p>[授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること</p>			⑬	<p>[テーマ] 運動と外部(高温、高地、水中他)環境</p> <p>[内容] 高地、水中といった異なる環境下での運動時の生理学的な応答について説明する</p> <p>[授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること</p>
⑥	<p>[テーマ] 運動と呼吸循環 I</p> <p>[内容] 運動時の呼吸の調整と肺換気メカニクスおよび呼吸筋のトレーニングの重要性および無酸素性作業閾値について説明する</p> <p>[授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること</p>			⑭	<p>[テーマ] 体力と体力特性とトレーニング</p> <p>[内容] 体力の定義とスポーツ選手を中心とした体力特性について、体力維持・増進のためのトレーニングについて説明する</p> <p>[授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること</p>
⑦	<p>[テーマ] 運動と呼吸循環 II</p> <p>[内容] 肺・心臓・血液などの呼吸循環系による酸素の運搬と組織における酸素利用、および運動における酸素の役割、関連する酸素摂取量について説明する</p> <p>[授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること</p>			⑮	<p>[テーマ] 運動と健康および加齢</p> <p>[内容] 健康に及ぼす運動の効果、加齢に伴う健康の問題点やその予防方法としての運動について説明する</p> <p>[授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること</p>
⑧	<p>[テーマ] 運動と呼吸循環 III</p> <p>[内容] 運動における酸素借および酸素負債、血液のポンプ作用としての心臓の働きと心拍数および血圧について説明する</p> <p>[授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること</p>			⑯	<p>[テーマ] テスト</p> <p>[内容] 授業の理解度・到達度を確認するためにテストを実施する。</p> <p>[授業外学習] これまでの復習をすること</p>
<p>成績評価方法(方針)</p> <p>筆記テスト(持込不可)を1回実施する(評価割合60%)。また、授業内に実施するクイズ(評価割合10%)および出席状況(評価割合30%)を含めた成績評価を行う。なお、授業態度が授業進行上において悪いと判断した場合には減点の対象とする。出席が2/3(10回)未満の学生は失格条件となる。</p>					
<p>成績評価方法(詳細)</p>					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			60%
授業内レポート		◎	○		10%
授業外レポート					評価対象外
演習・実技					評価対象外
授業態度					減点あり
出席			◎		30%
<p>履修上の注意(受講学生に望むこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。 ・参考書やノートを持参すること。 ・講義中に私語などで他の学生の迷惑になる、あるいは授業に支障をきたすと判断した場合には退出してもらおう。授業中の私語や携帯電話の使用は厳禁とする(減点あり)。 ・予習・復習を行うこと。 ・授業計画は授業の進行状況により多少前後することがある。 					
関連科目	解剖・生理学、スポーツトレーナーコース関連科目				
教科書	スポーツ指導者に必要な生理学と運動生理学の知識 村岡功編著 市村出版			参考書	運動生理学 石河利寛、杉浦正輝共著 建帛社 はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ3 スポーツ生理学 富樫健二編 化学同人
連絡先	研究室:C棟2F				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツバイオメカニクス Sport Biomechanics (L.)			担当教員	宮西智久
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	関連資格
	履修の方法	必修	単位数	2	
授業の概要 スポーツバイオメカニクスは、「スポーツ運動において、力学的な力(外力と内力)が身体とその運動に及ぼす影響を研究する科学」である。本講義では、スポーツの運動を題材にしてスポーツバイオメカニクスの基盤となる力学(ニュートン力学)の基礎的事項を中心に学習する。具体的には、運動を記述するキネマティクス(運動学)、運動の原因に迫るキネティクス(運動力学)を中心に、さらに流体力学、筋収縮の力学について学ぶ。					
授業の一般目標 スポーツバイオメカニクスとは何かを理解し、体育・スポーツの技術指導やトレーニング現場で直面する問題を解決するにあたって、スポーツバイオメカニクスの知識や知見を活用・応用することができる。すなわち、身近なスポーツの運動について、パフォーマンスの向上と傷害予防の観点から合理的な運動や安全な運動とは何かを科学的に理解し説明することができるようになる。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	スポーツバイオメカニクスで用いるキー概念や専門語の意味について理解し、スポーツの運動現象について論理的に説明することができる。				
■ 情意的領域	スポーツの運動における実践的主観を客観化することによって興味や関心を深める。				
□ 技能表現的領域					
授業計画(全体) 本講義は大きく6つのパートから構成されている。パートⅠ:スポーツバイオメカニクス序説(1回)、パートⅡ:キネマティクス(並進運動のキネマティクス2回、回転運動のキネマティクス2回)、パートⅢ:キネティクス(並進運動のキネティクス3回、回転運動のキネティクス3回)、パートⅣ:仕事・エネルギー・パワー(1回)、パートⅤ:流体力学(1回)、パートⅥ:筋収縮の力学(2回)。本講は、これらのパートについて順に系統だてて進められる。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] スポーツバイオメカニクス序説 [内容] シラバスに基づき、本講義のオリエンテーション(授業概要、目標、評価他)を行った後、スポーツバイオメカニクスの歴史をひも解き、定義、目的、現代的意義を述べる。 [授業外学習] 教科書(1章)			⑨	[テーマ] 回転運動のキネティクスⅠ [内容] 力のモーメント(トルク)、回転運動の発生、力のモーメント計算 [授業外学習] 教科書(6章)
②	[テーマ] 力学と数学の基礎 / 並進運動のキネマティクスⅠ [内容] 力学モデル、運動の形態(並進/回転/一般)と種類(等速/等加速度/加速度)、スカラー量とベクトル量、ベクトルの加算・減算、三角関数、行列、微分・積分、SI単位 [授業外学習] 教科書(2, 3章)			⑩	[テーマ] 回転運動のキネティクスⅡ [内容] つり合い、てこの原理、重心とその測定法、重心の性質、姿勢の安定、慣性モーメント、平行軸の定理 [授業外学習] 教科書(6章)
③	[テーマ] 並進運動のキネマティクスⅡ [内容] 位置、速度、加速度、加速度の正負、加速度と力の関係、等速度運動と等加速度運動、放物運動 [授業外学習] 教科書(3章)			⑪	[テーマ] 回転運動のキネティクスⅢ [内容] ニュートンの運動の三法則の回転版、回転の運動方程式、角運動量と角力積、角運動量保存の法則 [授業外学習] 教科書(6章)
④	[テーマ] 回転運動のキネマティクスⅠ [内容] 角度、角速度、角加速度、角加速度の正負、角加速度と力のモーメントの関係 [授業外学習] 教科書(4章)			⑫	[テーマ] 仕事・エネルギー・パワー [内容] 仕事と力、仕事と力学的エネルギー、衝突と力学的エネルギーの保存、仕事とパワー、パワーと力学的エネルギー、エネルギーの変換、力学的効率 [授業外学習] 教科書(7章)
⑤	[テーマ] 回転運動のキネマティクスⅡ [内容] 回転運動変量の方向、角速度と速度の関係、等速円運動と等角加速度運動 [授業外学習] 教科書(4章)			⑬	[テーマ] 流体力学:空気や水による力 [内容] 物質の三態、アルキメデスの原理、浮力と浮心、層流と乱流、流体力(抗力・揚力)、ベルヌーイの定理、マグヌス効果 [授業外学習] 教科書(8章)
⑥	[テーマ] 並進運動のキネティクスⅠ [内容] 力、力の三要素、ニュートンの運動の三法則の並進版、ダランベールの原理 [授業外学習] 教科書(5章)			⑭	[テーマ] 筋収縮の力学Ⅰ [内容] 筋の種類と構造・機能、骨格筋の力発揮特性(カー長さ関係、カー速度関係、カーパワー関係)、筋収縮モデル [授業外学習] 教科書(9章)
⑦	[テーマ] 並進運動のキネティクスⅡ [内容] いろいろな力(万有引力と重力、垂直抗力と摩擦力、外力と内力)、運動量と力積、運動量保存の法則 [授業外学習] 教科書(5章)			⑮	[テーマ] 筋収縮の力学Ⅱ [内容] 身体外部の物体へ発揮する力、関節モーメントの発生、筋張力計算、筋張力発揮増大に関わる要因 [授業外学習] 教科書(9章)
⑧	[テーマ] 並進運動のキネティクスⅢ [内容] フリーボディダイアグラム、並進の運動方程式、加速度と力・速度・変位の関係 [授業外学習] 教科書(5章)			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 選択問題(マークシート方式) [授業外学習] 教科書・参考書、ノート等を十分復習し試験に万全を期すこと。
成績評価方法(方針) 定期試験(教科書・参考書、ノート類の持ち込み不可)、授業内レポート、出席率等に基づき評価する。受講態度が悪い学生は減点対象とする。詳細は第1回目の講義において伝える。					
				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		○			60%
授業内レポート		○			20%
授業外レポート					-
演習・実技					-
授業態度			○		減点対象
出席			○		20%
受講条件: 1. 教科書を購入し必ず持参すること。教科書を持参しない者は欠席とします。 2. 学生証を忘れた者は欠席とします。 3. 学期末定期試験の受験資格者は総授業時数の2/3以上の出席率(学則参照)を満たした者です。授業の公欠はありません。受験資格者は最終講義後に掲示板にて発表します。試験は学則に基づき実施します。 4. 指定座席に座ること。 5. 携帯電話の電源を切り、手に持たないこと。 6. 講義に集中し静聴すること。静聴できない学生は周囲に多大な迷惑を掛けるだけでなく、講義の進行に大変支障を来しますので受講しないで下さい。なお、受講態度が悪い学生は減点するだけでなく、退室させる場合があります。 7. 高校までの物理学(力学)や数学で学習した知識で理解できる内容です。教科書の予習に加え、中学・高校時の物理学・数学の教科書を復習し講義に臨んで下さい。なお、計算問題がありますので電卓(関数電卓推奨)を持参下さい。 8. その他重要事項は第1回目の講義において伝えますので、必ず出席すること。					
関連科目	スポーツ技術観察論(2年)、スポーツコーチング実習(3年)、ストレンクス&コンディショニング実習(3年)、卒業論文(4年)				
教科書	スポーツバイオメカニクス(宮西編, 化学同人)			参考書	スポーツ技術のバイオメカニクス(J.Hay著, BookHouse HD) スポーツバイオメカニクス20講(阿江・藤井著, 朝倉書店)
連絡先	管理研究棟4F404号室 【オフィスアワー:木曜日16:00~17:30】				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ指導の基礎			担当教員	阿部 肇・武石健哉
	Fundamentals of Sports Coaching				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要 スポーツ指導者の実際の機能と役割は多岐に渡り、選手の競技力向上を目的とした助言や介助的行為のみならず、スポーツ組織におけるマネジメントの側面での責務も大きい。本講義では、指導者の機能と役割とは何かに始まり、トレーニング構成の諸原則、ならびに種々のマネジメントの側面からみた組織論について学習する。					
授業の一般目標 スポーツ指導におけるコーチ(指導者)の実際の職務を知り、求められる能力を理解できるようなる。そして、実践の場における指導上の様々な具体的な方法論を身に付ける。そこには、組織運営上のマネジメント側面やトレーニング計画を立案、実行する選手育成の内容も含まれる。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	コーチの役割と、その実務における具体的な方法論を説明できる。				
■ 情意的領域	指導に関する理論的な思考を持つことができる。				
□ 技能表現的領域					
授業計画(全体) 本講義では、先ず指導者の実際の機能と役割とは何かにについて、トレーニングや試合場面での選手への助言や介助的な行為といった狭義なものから、スポーツ組織におけるマネジメントといったより広義な側面まで概説する。その後、指導者として選手に提供するトレーニング内容をいかに構成(デザイン)していくべきかについて、より詳細に講義を進める。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 講義ガイダンス [内容] 担当教員の紹介、授業の進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] トレーニング課題と手段、方法の関係 [内容] トレーニングにおける「手段-方法-課題」の対応関係を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
②	[テーマ] スポーツ(競技)集団の構造と指導者 [内容] 競技集団にはどのような構造があり、そこでの指導者の関わりを説明する [授業外学習]資料を基に予習しておくこと			⑩	[テーマ] トレーニング構成の一般原理 [[内容] トレーニング計画を立案する際の一般原理を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
③	[テーマ] 発達過程におけるコーチ・選手関係の変化 [内容] 選手の発達に伴うコーチと選手の関係のあり方を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと			⑪	[テーマ] トレーニング構成の基本単位 [内容] トレーニングを構成する、課業、ミクロ、メゾ、マクロの基本単位を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
④	[テーマ] 指導者の機能と役割 [内容] 指導者にはどのような機能があり役割を果たしているか説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと			⑫	[テーマ] トレーニング構成の計画立案 [内容] トレーニング構成の具体的な計画の立案について説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
⑤	[テーマ] 組織における6つの基本構造ブロック [内容] 競技組織(集団)における基本的な構造について説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと			⑬	[テーマ] トレーニング構成の実際①(ミクロ周期) [内容] ミクロ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
⑥	[テーマ] 組織の内部影響力としての基本的引力 [内容] 組織の構造変化に伴う目標や理念による諸引力の存在を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと			⑭	[テーマ] トレーニング構成の実際②(メゾ周期) [内容] メゾ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
⑦	[テーマ] 組織の基本類型 [内容] 様々なタイプの組織の基本的な構造を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと			⑮	[テーマ] トレーニング構成の実際③(マクロ周期) [内容] マクロ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
⑧	[テーマ] 組織のライフサイクル・モデル [内容] 組織構造が諸引力(目標、理念)に導かれ変化する様を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと			⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度、到達度確かめるテストを行う [授業外学習]テストに備えて復習しておくこと
成績評価方法(方針) 試験は、期末試験を1回実施する(評価割合80%)。また、授業内レポートを課す(評価割合20%)。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象となる。出席は欠格条件とする。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			80%
授業内レポート			◎		20%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					減点あり
出席					欠格条件
関連科目	無し				
教科書	無し(プリント資料を配布する)			参考書	
連絡先	研究室:阿部 肇 A棟4階406 / 武石健哉 4体1階425				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツマスメディア概論				担当教員	齋藤 博
	Introduction to Sports and Mass Media(L.)					
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要						
本授業は[メディアとは何か]から始め、マスメディアの歴史と現状や問題点を整理しながらマスメディアがリリースするスポーツニュースやスポーツ番組について体系的に講義を行う。また、国内、ヨーロッパ、アメリカなどのスポーツニュースの特徴についても比較する。						
授業の一般目標						
マスメディアの特性と歴史や現状について知ることでこれまでと違った視点から新聞やテレビなどを見ることができるようになる。また、マスメディアから洪水のように流れてくるスポーツに関する情報を批判的に読み解く力を身に付ける。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	マスメディアの歴史や現状について説明できる。国内外のスポーツニュースの特徴や問題点を指摘できる。				
■	情意的領域	新聞のスポーツ記事やテレビのスポーツニュースや番組を客観的に読んだり見る事ができる。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、視聴覚教材も用いることもある。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] 日本のスポーツニュースを考える① [内容] スポーツニュースはスポーツマンニュースであること、スポーツマンには社会的役割を担われていることを新聞記事を使いながら説明する [授業外学習]前日までの新聞で面白いと思ったスポーツ記事を発表する	
②	[テーマ] メディアとは？ [内容] メディアとは何か？について説明する [授業外学習]「メディア」という言葉の意味を発表できるようにしておく			⑩	[テーマ] 日本のスポーツニュースを考える② [内容] なぜ女子選手は不当とも言える扱いを受けるのかについて新聞記事を使って説明する [授業外学習]プロ野球に関するスポーツ記事の特徴を整理しておく	
③	[テーマ] 情報とは何か？ [内容] 「情報」という言葉の歴史について説明、インフォメーションとインテリジェンスの違いを考える [授業外学習]「情報とは何か？」について整理しておく			⑪	[テーマ] 日本のスポーツニュースを考える③ [内容] 日本人メジャーリーガーに関する報道の特徴について新聞記事を使って説明する [授業外学習]女子選手に関する報道について整理しておく	
④	[テーマ] 戦争とラジオ [内容] 太平洋戦争をマスメディアがどう伝えたかをラジオを中心に放送番組を試聴しながら解説する [授業外学習]戦争をマスメディアがどう伝えたかを整理しておく			⑫	[テーマ] アメリカのスポーツニュース [内容] 「ロールモデル」という役割を担われるアスリートについて説明する [授業外学習]自分が興味を持っているアメリカ人アスリートについて発表する	
⑤	[テーマ] マスメディアとスポーツイベント① [内容] マスメディアと高校野球の関係について説明する [授業外学習]マスメディアと高校野球の歴史について復習しておく			⑬	[テーマ] イギリスのスポーツニュース [内容] 特徴のジンゴイズム的な戦争にからむ表現をタブロイド紙に掲載された記事を使って説明する [授業外学習]プレミアリーグについて調べてきて発表する	
⑥	[テーマ] マスメディアとスポーツイベント② [内容] 欧米の場合はどうなっているかを説明する [授業外学習]欧米のスポーツイベントとマスメディアの関係について復習しておく			⑭	[テーマ] ワールドカップサッカーでつくられた「日本人」① [内容] W杯サッカー南アフリカ大会の日本のスポーツ報道を検証しながらマスメディアが何を語ろうとしたかを考える [授業外学習]W杯サッカーの印象的だった試合と報道を発表する	
⑦	[テーマ] ジャーナリズムを取り巻く環境 [内容] 劣化してきた世論調査の問題点とタブロイド化する新聞について考える [授業外学習]世論調査の問題点を整理しておく			⑮	[テーマ] ワールドカップサッカーでつくられた「日本人」② [内容] ワールドカップドイツ大会などのこれまでの報道について様々な角度から検証しながら日本のメディアの問題点を考える [授業外学習]これまでのW杯について日本チームを中心に整理しておく	
⑧	[テーマ] マスメディアの現在 [内容] マスメディアの冷笑主義と議題設定機能について説明する [授業外学習]冷笑主義と議題設定機能について整理しておく			⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習]テストに備えて復習をすること	
成績評価方法(方針)						
試験は、期末試験を1回実施する(評価割合70%)。また、授業内レポート(評価割合10%)と、授業外レポート(評価割合20%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。						
成績評価方法(詳細)						
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)	
定期試験	◎	◎		70%	・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。	
授業内レポート	◎			20%	・20分以上の遅刻は欠席とみなす。	
授業外レポート	◎	◎		10%	・授業中は携帯電話をかばんの中にしなすこと。	
演習・実技					・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できない	
授業態度				加減点あり		
出席						
関連科目						
教科書	特になし			参考書	特になし	
連絡先	齋藤 研究室:E棟2階・2 オフィスアワー:月曜日 12:50~14:20					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		スポーツ情報マスメディア総論 Introduction to Sport Intelligence and Mass Media			担当教員	栗木一博/斎藤博/高橋義夫/佐々木/石丸出穂/藤本晋也/	
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格		
	履修の方法	必修	単位数	2			
授業の概要							
個人情報から社会・組織の情報まで情報は様々な形で存在している。情報がどんな意味を持つかを理解し、情報を扱い・学ぶ基礎を確認する。その上でスポーツ情報戦略における情報とは何か、メディアが伝える情報とは何かを考え収集手法・表現手法の問題点を理解する。							
授業の一般目標							
スポーツ情報マスメディア学科で学ぶ入り口と位置付ける科目である。この学科で学ぶにあたり、まず知っておく情報とは何か、情報と個人、情報と組織、それら情報への向き合い方や情報の扱いと守らねばならないこと学び、さらに情報の意味する世界・価値に気づく基礎とする。							
授業の到達目標							
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	情報とは何かを知り、その扱いの問題を理解する。そして、向き合った状況の情報を確知し、その情報が意味するところを理解し活用への考えを持てるようにする					
<input type="checkbox"/>	情意的領域						
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域						
授業計画(全体)							
情報を概括的に眺め、情報の価値と扱い方の問題点を知った後、情報戦略における情報概論に当たる基礎を学ぶ。また多量の情報を伝えるメディアの実例を紹介し、情報を扱う際の問題について理解を深める。(情報戦略のパートとメディアのパートは講義時期が入れ替わることがある)							
授業計画(各回のテーマ等)							
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容		
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] スポーツ情報マスメディア学科ポリシー説明と情報とは何か、情報の歴史 人間と情報 社会と情報 情報の価値を説く [授業外学習]			⑨	[テーマ] 情報とメディアの影響 [内容] 情報発信におけるメディアの役割と影響力を知る [授業外学習]		
②	[テーマ] スポーツ情報の定義 [内容] 担当教員のグループ対談から、それぞれの立ち位置から見える景色を通してスポーツ情報を見る [授業外学習]			⑩	[テーマ] メディアが伝える情報と歴史 [内容] 人々が求め、時代が求め、社会が求めた情報の歴史 [授業外学習]		
③	[テーマ] 情報戦略とは何か [内容] 情報戦略とは「そう言うことね!」と感じられるようワークショップ(ゲーム)で理解 [授業外学習]			⑪	[テーマ] 情報を集める①メディアの暴走から学ぶもの [内容] オウム事件報道から学ぶもの [授業外学習]		
④	[テーマ] 情報戦略の歴史 [内容] 勝田論文を用い情報戦略の理解を深める [授業外学習]			⑫	[テーマ] 情報を集める②メディアが直面する問題 [内容] 個人情報、メディアスクラムと報道 [授業外学習]		
⑤	[テーマ] 情報戦略の活動領域 [内容] ○競技スポーツ現場における情報戦略○地域スポーツにおける情報戦略 ○組織/政策における情報戦略の概要理解 [授業外学習]			⑬	[テーマ] 情報を表現する 情報を番組にする時の問題 [内容] 発掘あるある大辞典 NHKドキュメンタリーやらせ問題とテレビ [授業外学習]		
⑥	[テーマ] 戦略/計画策定と情報 [内容] ○PDCAサイクルと情報 ○フレームワークと情報 [授業外学習]			⑭	[テーマ] メディアが伝える表象の形 [内容] 伝える内容と社会的、政治的背景の問題 [授業外学習]		
⑦	[テーマ] 意志決定者と情報 [内容] ○インフォメーションとインテリジェンス ○組織体制と情報 [授業外学習]			⑮	[テーマ] 新しいメディアの普及と情報 [内容] 新しいメディアが伝える内容と意味するもの [授業外学習]		
⑧	[テーマ] 情報の戦略的活用 [内容] 戦略的オペレーションの方法、媒体、タイミングを学ぶ [授業外学習]			⑯	[テーマ] 情報と倫理・法律とまとめ & テスト [内容] [授業外学習]		
成績評価方法(方針)							
4年間で学ぶ入口の講義であることを理解し、学科で学ぶ全体像を理解出来たかを問う							
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)			
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	4年間に学ぶ基礎になる講義である。わからないことはその場で質問し次の課題に取り組む姿勢を忘れず授業に臨んで欲しい。 ・2/3以上の出席ない者は期末試験の受験資格が無い ・授業態度悪い学生は成績評価から減点 ・シラバスは授業の進み方、理解の程度で前後したり内容変更がある		
定期試験	◎			60%			
授業内レポート	○			20%			
授業外レポート	○			20%			
演習・実技							
授業態度	○						
出席	○						
関連科目	4年間に学科で学ぶ全ての科目						
教科書	必要に応じて指定する			参考書	必要に応じて指定する		
連絡先	研究室:山内/栗木/斎藤/石丸/阿部篤志/ いずれもE棟2階 高橋義夫/5体3階 藤本/F棟2階						

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ観戦論 Knowledge of Spectator Sports			担当教員	坪井/石丸/キーンアート/鈴木省/佐藤周/坪井/ 南條/吉井/武石/桑原/山梨/柴山/鈴木良
	開講内容	学年・学期	1・半期		
	履修の方法	必修	単位数	2	関連資格
授業の概要					
スポーツ情報を「情報戦略」として競技団体や競技者に伝えるにも、また「メディア」を通し多くの人に伝えるにもスポーツ競技の見方(観戦の視点)が判らないままでは行えない。競技を知るにはいくつか重要な見方のポイントがある。競技の結果を知ればよいということではなく、どこに注目すると競技の本質・面白さが理解できるかを知る科目である					
授業の一般目標					
各競技専門の先生方の講義を通し、①ルールから各競技の「面白さ」「楽しさ」②競技の奥深い特徴③勝敗を分ける競技のポイント④選手が実力通りの動きをしているか⑤駆け引きの面白さ⑥専門家は試合の何処を見ているなどを知ることでスポーツの見方、調べ方・分析の手がかりを学ぶ					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	各競技の本質をルールを通して知り、競技観戦の観点(ポイント・面白さ)を改めて確認する				
■ 情意的領域	競技の面白さを知り、人に伝えたいと思えるようになる				
■ 技能表現的領域	スポーツ観戦の現状とテレビ観戦の問題、世界と日本のスポーツ観戦の違いを理解し説明できるようにする				
授業計画(全体)					
各競技日本のトップ指導者が自らの体験やビデオなどを用い、各場面の見方を解き明かす。またスポーツ観戦の現状とテレビ観戦の問題、世界と日本のスポーツ観戦の違いも講義。担当する教員がトップレベルのチームを率いていることもありスケジュール調整は綿密に行うが、都合がつかない場合は開催日時の入れ替え、集中講義もある。(第1回講義の際、講義順入れ替え提示)					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の狙い、進め方、成績評価方法を伝える。またスポーツ観戦について話しあい、自己のスポーツに対する視点を確認する。 [授業外学習]			⑨	[テーマ] 野球 [内容] 野球観戦のポイントは [授業外学習]
②	[テーマ] バレーボール① [内容] バレーボール競技観戦のポイントは [授業外学習]			⑩	[テーマ] 体操競技 [内容] 体操競技観戦のポイントは [授業外学習]
③	[テーマ] バレーボール② [内容] ルール・戦術、チームづくりから見る観戦の魅力とは [授業外学習]			⑪	[テーマ] 柔道 [内容] 柔道競技の観戦ポイントは [授業外学習]
④	[テーマ] 日本のスポーツ観戦の現状とメディアの伝え方 [内容] スポーツ観戦やスポーツ結果の多くがテレビ新聞・ネットで見た知り知ったりする現状から「スポーツの面白さ」の問題を探る [授業外学習]			⑫	[テーマ] 陸上競技 [内容] 陸上競技の観戦ポイントは [授業外学習]
⑤	[テーマ] スケルトン [内容] スケルトン競技観戦のポイントは。ルール・ [授業外学習]			⑬	[テーマ] 海外のスポーツ観戦とメディアの伝え方 [内容] スポーツの見方、楽しみ方は国によって違う。その違いはどこから来るのか? 国際的視点でスポーツ観戦を論じる [授業外学習]
⑥	[テーマ] ダンス [内容] ダンス観戦のポイントは [授業外学習]			⑭	[テーマ] ラグビー [内容] ラグビー観戦のポイントは [授業外学習]
⑦	[テーマ] テニス [内容] テニス競技観戦のポイントは。ルール・技術から見る観戦の魅力 [授業外学習]			⑮	[テーマ] サッカー [内容] サッカー観戦のポイントは [授業外学習]
⑧	[テーマ] ハンドボール [内容] ハンドボール競技の観戦ポイントは [授業外学習]			⑯	[テーマ] まとめテスト [内容] トップレベルの指導者から見た競技のポイント、スポーツ観戦の視点をテスト [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
求められた授業無いレポート、期末試験の成績を総合評価					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験	◎			60%	* 出来るだけ多くの競技を競技場やテレビ中継を通して観戦し、試合の面白さやゲームのポイントを理解する * 競技担当の教員の試合スケジュールなどで授業順番は前後することがある * 2/3以上の出席ない者は期末試験の受験資格が無い * 授業態度悪い学生は成績評価から減点
授業内レポート	○	○		20%	
授業外レポート	○	○		20%	
演習・実技					
授業態度				減点有り	
出席				欠格条件	
関連科目					
教科書	必要に応じて指示する			参考書	必要に応じて指示する
連絡先	山内研究室/石丸研究室 いずれもE棟2階				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		映像基礎(演習) Basic Editing Analysis for Imagery Intelligences			担当教員	藤本晋也
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要						
ビデオカメラや映像編集機器といったIT関連機器の普及は、スポーツ活動現場においても顕著であり、コーチングやプロモーションなど、さまざまな場面で欠かせないものとなっている。この状況に伴い、撮影を専門に行なうスタッフのニーズも高まってきている。本演習では、スポーツ情報を効果的に伝えるために必要な「映像の基礎と撮影の観点や方法」について学ぶ。						
授業の一般目標						
基本的なスポーツ情報の種類やその特性を学ぶとともにスポーツ情報に対する現場のニーズを把握する。その上で状況に応じた適切なスポーツ情報を効果的に伝えることができるようになるために、映像の基礎と撮影の観点や方法を体系的かつ実践的に学ぶことで、現場のニーズに対応できる情報アプローチの観点とスキルを身につける。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	スポーツ現場における映像活用の現状を説明できる。映像が果たす役割やその特徴を説明することができる。				
■	情意的領域	対象にとって成果を前提に映像撮影等手段を用いスポーツ情報を効果的に伝えるとができるようになる。				
■	技能表現的領域	映像撮影の観点や方法に必要なスキルの基礎を身につける。				
授業計画(全体)						
各授業は資料および視聴覚教材を用いた講義を行なう。またスポーツ活動現場のニーズを踏まえた実践的な方法論を学ぶため、各競技団体/チームの事例や現場を活用し、グループワークや実習も行なう。学生は各授業毎に、授業の理解度及び達成度を明らかにするためのフィードバックを小レポート形式で提出する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習] 授業時に連絡			⑨	[テーマ] 映像活用の実際② <競技現場編> [内容] ミーティング場面における映像の果たす役割と実例 [授業外学習] 授業時に連絡	
②	[テーマ] スポーツにおける映像の果たす役割 [内容] スポーツ現場で求められる「映像」とはなにか。なぜそれが求められるのかを考える。 [授業外学習] 授業時に連絡			⑩	[テーマ] 映像活用の実際③ <競技現場編> [内容] 情報戦略活動における映像の果たす役割と実例 [授業外学習] 授業時に連絡	
③	[テーマ] 映像の基礎① [内容] 映像の種類と特性について学ぶ。 [授業外学習] 授業時に連絡			⑪	[テーマ] 映像活用の実際④ <組織活動編> [内容] JOC、JISS会議における映像の果たす役割と実例 [授業外学習] 授業時に連絡	
④	[テーマ] 映像の基礎② [内容] 映像素材収集(撮影)の観点と方法について学ぶ。 [授業外学習] 授業時に連絡			⑫	[テーマ] 映像活用の実際⑤ <組織活動編> [内容] 組織的情報後方支援活動における映像の果たす役割と実例 [授業外学習] 授業時に連絡	
⑤	[テーマ] 映像の基礎③ [内容] 映像撮影機器種類と特性について学ぶ [授業外学習] 授業時に連絡			⑬	[テーマ] グループ演習① <収集・分析> [内容] グループ毎にテーマと対象を決定し、関連映像の収集と分析を行なう。 [授業外学習] 授業時に連絡	
⑥	[テーマ] 映像の基礎④ [内容] 映像分析・編集機器の種類と特性について学ぶ。 [授業外学習] 授業時に連絡			⑭	[テーマ] グループ演習② <編集> [内容] 収集・分析した映像を編集する。 [授業外学習] 授業時に連絡	
⑦	[テーマ] 映像の基礎⑤ [内容] 映像素材の管理と利活用について学ぶ。 [授業外学習] 授業時に連絡			⑮	[テーマ] グループ演習③ <アウトプット> [内容] 編集した映像について指定する観点に基づきドキュメンテーション(文書化)するとともに、その内容をプレゼンテーションする。 [授業外学習] 授業時に連絡	
⑧	[テーマ] 映像活用の実際① <競技現場編> [内容] コーチングにおける映像の果たす役割と実例 [授業外学習] 授業時に連絡			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
評価は、授業時間中および時間外に求められるレポートや提出物に関する評価、1)レポート(50%)、2)最終ドキュメンテーション(30%)、で行なう。さらに実際に行われた活動に対する評価、3)プレゼンテーション(20%)を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件) ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は、授業の進捗により変更することがある。 ・授業内レポート提出等でメールを使用するので添付ファイルが送受信可能なメールアドレス(学内アドレス及びプライベートアドレス)を用意すること。 ・作成した映像データが保存できるよう、USB、ポータブルハードディスク等を準備する。
定期試験						
授業内レポート		◎			50%	
授業外レポート		◎			30%	
演習・実技			◎	◎	20%	
授業態度						
出席						
関連科目	映像実践論(2年)					
教科書	特に指定しない			参考書	参考書授業で紹介、または参考資料を配布	
連絡先	藤本研究室F棟2階(内線:358) mail: sn-fujimoto@sendai-u.ac.jp					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	文章基礎(演習)			担当教員	高橋義夫/斎藤博/佐々木鉄男	
	Basic writing Skills					
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数			2
授業の概要						
記事の書き方を含め、文章作成の基礎能力養成を中心に指導を行う。異なる媒体や文体によって情報がどのように伝えられているのかを中心に考えながら、文章作成の基礎練習を繰り返して行う。						
授業の一般目標						
記事作成の基本原則である5W1Hと逆三角形の書き方をしっかりと身に着けるようになる。各授業のテーマごとに記事の作成練習をし、論文などの書き方の違いを区別できるようになる。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	記事の書き方の基本、ほかの文体との違いを区別できる。					
■ 情意的領域	客観性、中立性など取材と記事作成の原則を理解できるようになる。					
■ 技能表現的領域	簡潔な文章と記事が書けるようになる。					
授業計画(全体)						
新聞、ニュース報道、雑誌、フォトジャーナルなどを用いて講義を行う。各授業ごとに記事一本を授業内レポートとして提出させることで、進捗状況を確認する。また、教室外での単独取材と写真撮影の作業も行う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の進め方、レポート提出や成績評価の仕方を説明する [授業外学習] シラバスを読んでおくこと			⑨	[テーマ] プレゼンテーション② [内容] 編集した写真のプレゼンテーションを行う [授業外学習] プレゼンテーションの準備をしておくこと	
②	[テーマ] 記事の基本技法 [内容] 5W1Hの意味と重要性を説明し、記事作成の練習を行う [授業外学習] 新聞記事を読み、書き方の復習をすること			⑩	[テーマ] インタビューの練習 [内容] インタビューの要素とは何かを説明し、学生同士が互いにインタビューする練習を行う [授業外学習] インタビュー取材の手法を復習しておくこと	
③	[テーマ] 記事作成の技法① [内容] 自分を「第3人称」で紹介する短文の作成練習を行う。自分の性格や特徴、10年後の姿などをどう伝えればよいかをじっくり考え、文字で表現する [授業外学習] 書き方を復習すること			⑪	[テーマ] インタビュー記事を書く [内容] インタビューした際にとったメモや音声資料をもとに記事作成の練習を行う [授業外学習] 取材メモや音声資料を整理しておくこと	
④	[テーマ] 記事作成の技法② [内容] 前回作成した文章を見直し、再度作成の練習を行い、発表する [授業外学習] 書き方を復習すること			⑫	[テーマ] 新聞記事(期末レポート作成)① [内容] 学内外のイベントを取材し、写真3枚と記事2本で原稿を構成する。その前段として取材対象の調査と発表を行う [授業外学習] 記事の書き方を復習しておくこと	
⑤	[テーマ] 写真を撮る練習① [内容] 写真という媒体を通して、自分の意図がどこまで伝えられるのかを中心に紹介する。学生による写真撮影の練習を行う [授業外学習] 写真撮影の技法をマスターすること			⑬	[テーマ] 新聞記事(期末レポート作成)② [内容] 取材したイベントの記事化し、撮影した写真を選択する [授業外学習] 記事の本記とサイド記事の違いを調べる	
⑥	[テーマ] 写真を撮る練習② [内容] 「職業」をテーマに5枚の写真撮影練習を行う [授業外学習] 写真撮影の技法をマスターすること			⑭	[テーマ] プレゼンテーション① [内容] 新聞記事(レポート)を完成させ、発表する [授業外学習] プレゼンテーションの準備をしておくこと	
⑦	[テーマ] 写真を編集する練習 [内容] 撮ってきた写真の中から複数枚を選び、ストーリーに沿って編集作業を行う [授業外学習] 写真撮影と編集の技法をマスターすること			⑮	[テーマ] プレゼンテーション② [内容] 完成させた記事を発表する [授業外学習] 発表時の指摘点に注意し、レポートを修正する	
⑧	[テーマ] プレゼンテーション① [内容] 編集した写真のプレゼンテーションを行う [授業外学習] プレゼンテーションの準備をしておくこと			⑯	[テーマ] レポート提出 [内容] [授業外学習] 補足取材を行い、記事を完成させること	
成績評価方法(方針)						
授業内レポート(50%)、授業外レポート(50%)。出席は評価割合に加えず、欠格条件とする。また、積極的な授業参加については加点もある。第11回の授業までは毎回、新聞コラムの筆写と要約か、自分が選んだ新聞の一押し記事についての課題提出があり、いずれも提出の翌週に評価コメントを付記して返却する。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験						
授業内レポート		○	○	○	50%	
授業外レポート		○	○	○	50%	
演習・実技						
授業態度						
出席						
関連科目						
教科書	特に指定しない			参考書	授業で紹介し、関連資料を配布する	
連絡先	高橋義夫研究室(5体3階)					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	データ分析・活用演習 I Seminar of Data Processing and Analysis I (S.)			担当教員	藤本晋也 / 栗木一博
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
データの一義的な解釈に留まらず、その潜在的な構造に言及する方法について解説する。データの種類、データの分析ツールの使用方法に関する知識、データを有効に表現する方法やプレゼンテーションの方法について説明する。スポーツに関する様々なデータを素材として、その分析手法の基礎について解説する。					
授業の一般目標					
データには様々な種類があり、それぞれに対して有効の分析方法を選択する必要があることを理解する。データを分析するためのツールとして、コンピュータのソフトウェアの使用法の初歩について理解する。データを提示するための有効な方法として、グラフや表の作成方法、さらにプレゼンテーションの方法について理解する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	データの種類、記述統計について理解する。				
■ 情意的領域	与えられた生データを自分なりに考えて処理することができるようになる。				
■ 技能表現的領域	データ処理のためのコンピュータソフトウェアの操作ができる。処理したデータを用いて効果的なプレゼンテーションができる。				
授業計画(全体)					
各テーマに沿った実際のデータを用い、それを処理する形式で授業が進められる。各授業ごとにレポートという形式で成果物を提出したり、プレゼンテーションを行なう。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業目的および概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方 [授業外学習] シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] クロス集計 [内容] クロス集計について説明し、カテゴリーデータの分析方法について解説する。 [授業外学習] カテゴリーデータの意味を調べておく。
②	[テーマ] 表計算ソフトウェアの基本操作1 [内容] 基本的なデータ処理のために必要な表計算ソフトの操作方法の基礎説明。特に、文字や計算式の入力方法について解説。 [授業外学習] 表計算ソフトウェアとはどのようなものか調べておく。			⑩	[テーマ] 度数分布 [内容] 度数分布表の作成とヒストグラムの作成方法について解説する。 [授業外学習] 度数分布で表現するデータについて調べておく。
③	[テーマ] 表計算ソフトウェア1の基本操作2 [内容] 表計算ソフトウェアによる番地指定による計算方法と関数の使用方法について解説する。 [授業外学習] 前回の授業を復習し、基本的な操作ができるようにしておく。			⑪	[テーマ] プレゼンテーションの方法1 [内容] プレゼンテーションに必要なソフトウェアの基本的な操作について解説する。 [授業外学習] プレゼンテーション用ソフトがどのようなものか調べておく。
④	[テーマ] 表計算ソフトウェアの基本操作3 [内容] 絶対番地と相対番地の考え方、関数の組み合わせによるすこし複雑な計算の方法や分析ツールの使用方法について解説する。 [授業外学習] 前回の授業を復習し、関数操作ができるようにしておく。			⑫	[テーマ] プレゼンテーションの方法2 [内容] プレゼンテーションに必要なデータの表現方法について解説。表やグラフを用いて適切にデータ表現する方法について解説。 [授業外学習] 身の回りにどのような表やグラフがあるか調べておく。
⑤	[テーマ] データの種類 [内容] Stevensの尺度をはじめとして、データの分類方法について解説し、その処理方法の違いについて説明する。 [授業外学習] 自分の身の回りにある「データ」を集めておく。			⑬	[テーマ] プレゼンテーションの方法3 [内容] 実際に存在するデータを加工し、プレゼンテーションすることを体験させる。 [授業外学習] プレゼンテーション用ソフトウェアの操作に精通しておく。
⑥	[テーマ] 記述統計量(合計、平均) [内容] 記述統計量の基礎である、合計、平均について説明。また、表計算ソフトウェアでこれらの統計量を算出する方法について解説。 [授業外学習] 回りにある合計や平均で表現されているデータを集めておく。			⑭	[テーマ] ドキュメンテーションの方法1 [内容] データ処理の方法、結果から導き出されることなどを文書として表現する方法について解説する。 [授業外学習] 文書作成に必要なことについて説明できるようにしておく。
⑦	[テーマ] 記述統計量(標準偏差、分散) [内容] 記述統計量の中の散らばりの度合いを示す尺度について説明。表計算ソフトウェアでこれらの統計量を算出する方法について解説。 [授業外学習] 回りにある散らばり度合いを示すデータを集めておく。			⑮	[テーマ] ドキュメンテーションの方法2 [内容] 実際のデータを用い、それを加工し、前回の授業で学んだことを応用して、文書作成を体験させる。 [授業外学習] 前回の解説をまとめておく。
⑧	[テーマ] 二変量の分析 [内容] 相関関係について解説し、表計算ソフトウェアを用いて相関係数を算出する方法について解説する。 [授業外学習] 自分の身の回りにある二変量の関係による分析例を集めておく。			⑯	[テーマ] テスト [内容] これまでの授業の理解度、目標への到達度を確認するためのテストを行なう。 [授業外学習] テストの準備をしておくこと
成績評価方法(方針)					
評価は、授業時間中および時間外に求められるレポートや提出物に関する評価、1)レポート(50%)、2)最終課題分析レポート(30%)、で行なう。さらに実際に行われた活動に対する評価、3)プレゼンテーション(20%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	2/3以上の出席がない場合は期末試験を欠席したと同様の扱いをする(欠格条件)。
定期試験					20分以上の遅刻は欠席と同等の扱いをする。
授業内レポート	○	○	○	50%	授業計画は授業の進捗により若干前後することがある。
授業外レポート	○	○	○	30%	授業内レポート提出等でメールを使用するので添付ファイルが送受信可能なメール
演習・実技	○	○	○	20%	アドレス(学内アドレス及びプライベートアドレス)を用意すること。
授業態度					作成した映像データが保存できるよう、USB、ポータブルハードディスク等を準備する。
出席					
関連科目	データ分析・活用演習 II (3年)、スポーツ情報戦略論演習A(3年)				
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
連絡先	藤本研究室F棟2階(内線:358) mail: sn-fujimoto@sendai-u.ac.jp				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ヒューマンリレーション演習 I Seminar of Human Relation I			担当教員	栗木一博
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	必修	単位数	2	
授業の概要					
<p>情報を取り扱う際に必須となることは人と関わり合うことであり、そこで重視されるのが円滑な人間関係を構築するための能力である。そこで本授業ではコミュニケーションの基礎となる、「聴く」、「話す」、「みる」といった基本的な活動を学習内容の中心に据えている。それらの活動を用いて、プレゼンテーションを行ったり、ミーティングを運営したりする能力を身につけることを目的としている。</p>					
授業の一般目標					
<p>「話す」、「聴く」といった基本的なコミュニケーションスキルを身につける。さらに、効果的に情報を伝達する話し方やその際に必要となる機材を有効に活用する方法を身につける。さらに、ミーティングや会議を効率的に実施するための方策についても身につける。</p>					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	コミュニケーションスキルの基礎、プレゼンテーションの方法を理解する。				
■ 情意的領域	人と積極的にかかわる態度を身につけるとともに自分の意見を表現したり、相手の話を傾聴する態度を身につける。				
■ 技能表現的領域	プレゼンテーションなど自分の主張を効果的に伝えるスキルを身につけるとともにそれらに必要な機器の使用法を身につける。				
授業計画(全体)					
<p>ワークショップやグループワークを通じてコミュニケーションの基礎となる「はなす」「きく」「みる」といった能力を身につける。次に具体的なテーマに沿ってプレゼンテーションを行ったり、ミーティングの方法や運営のシミュレーションを実施する。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	<p>[テーマ] オリエンテーション [内容] 本演習のコンセプトをシラバスを用いて解説するとともに、評価方法や授業の進め方についても解説する [授業外学習] シラバスを熟読すること</p>			⑨	<p>[テーマ] プレゼンテーション③ [内容] プレゼンテーションを効果的に行なうために必要とされる機器の有効な活用方法について解説する [授業外学習] プレゼンテーションに必要な道具について考えておく</p>
②	<p>[テーマ] コミュニケーションとは何か [内容] コミュニケーションを構成する「みる」「きく」「はなす」などの要素について解説する [授業外学習] コミュニケーションとは何かを考えておく</p>			⑩	<p>[テーマ] プレゼンテーション④ [内容] 実際に短時間のプレゼンテーションを行いまめとする。この活動を相互に評価することも活動に含める。 [授業外学習] まとめプレゼンテーションの準備をする</p>
③	<p>[テーマ] ワークショップ① [内容] 「人前で話す」ことをテーマとしたワークショップを実施する。話す際に自己モニタリングをさせる [授業外学習] ワークショップとは何かについて調べておく</p>			⑪	<p>[テーマ] ミーティング・会議① [内容] 会議やミーティングがどのような目的で行われるのかについて説明し、それを円滑に行なうための要素について解説する。 [授業外学習] ミーティングの事例について説明できるようにする</p>
④	<p>[テーマ] ワークショップ② [内容] 「人や人の行動を“みる”」ことをテーマとしたワークショップを実施する。前回学んだことを応用して話すことにも挑戦する [授業外学習] 前回行った「人前で話すこと」を復習する</p>			⑫	<p>[テーマ] ミーティング・会議② [内容] 会議やミーティングの中心的な要素となるディスカッションの方法について解説する。 [授業外学習] 経験した会議やミーティングについて説明できるようにする</p>
⑤	<p>[テーマ] グループワーク① [内容] グループで課題を解決する活動を体験し、その際、どのような発言があり、それが自分にどのように影響したかをモニタリングする [授業外学習] グループ活動で必要なことについて考えておく</p>			⑬	<p>[テーマ] ミーティング・会議の運営① [内容] 自由なテーマを設定して、ミーティングや会議のシミュレーションを行なう。今回はその計画を立案する。 [授業外学習] ミーティング・会議のテーマを考えておく</p>
⑥	<p>[テーマ] グループワーク② [内容] グループで課題を解決するタイプのゲームを実施する。その後、グループの活動をまとめ発表させる。 [授業外学習] グループ活動のモニタリングについて考えておく</p>			⑭	<p>[テーマ] ミーティング・会議の運営② [内容] 前回計画したテーマに沿って、教員の指示を仰ぎ、シミュレーションをより具体的なものにし、計画案を文書に表現する。 [授業外学習] 計画案を具体的なものにする準備をする</p>
⑦	<p>[テーマ] プレゼンテーション① [内容] グループ活動を行い、それに関する自由なプレゼンテーションを行わせる。テーマを把握する能力が必要であることを解説する。 [授業外学習] プレゼンテーションについて調べておく</p>			⑮	<p>[テーマ] ミーティング・会議の運営③ [内容] まとめとして、実際にミーティングや会議のシミュレーションを実施する。それに関する相互評価を実施する。 [授業外学習] 計画を実行するために準備を行なう。</p>
⑧	<p>[テーマ] プレゼンテーション② [内容] グループあるいは個人での活動とし、自由なテーマでプレゼンテーションを企画する。教員に個別に指導を仰ぎ計画を具体化させる [授業外学習] プレゼンテーションのテーマを決めておく</p>			⑯	<p>[テーマ] [内容] [授業外学習]</p>
成績評価方法(方針)					
<p>成績はディベート、シンポジウムなど実際に行われた活動に対する評価(60%)を実施する。さらに、授業時間中および時間外に求められるレポートや提出物に関する評価(40%)を行なう。出席は、評価に加えず欠格条件とする。</p>					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート	◎	○			20%
授業外レポート	◎	○			20%
演習・実技	◎		◎		60%
授業態度					
出席					
関連科目					
教科書	特に指定しない(必要な資料がある場合はその都度授業中に配布する)			参考書	特に指定しない(必要な資料がある場合はその都度授業中に配布する)
連絡先	栗木研究室E棟(大学院棟)2階(内線336)				

《実技》

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	トレーニングの基礎 Basic Theory and Practice for Sports Training			担当教員	門野・阿部・河野・桑原・黒澤・佐藤(周)・柴山・鈴木(良) ・武石・坪井・仲田・溝口・宮崎・山梨・吉井・渡邊	
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	レクリエーション・コーディネーター
	履修の方法	必修	単位数	1		
授業の概要						
形態および体力を測定、評価し、それらを向上させるためのトレーニング理論および方法について実習を行なう。						
授業の一般目標						
①形態および体力の測定方法と評価方法を理解する。 ②体力を高めるためのトレーニングに関する基礎理論と方法を理解する。						
授業の到達目標						
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	形態および体力の測定・評価方法が説明できる。 体力を高めるためのトレーニングに関する基礎理論と方法が説明できる。				
<input type="checkbox"/>	情意的領域					
<input checked="" type="checkbox"/>	技能表現的領域	形態および体力の測定・評価ができる。 体力を高めるためのトレーニングが実践できる。				
授業計画(全体)						
形態および6つの体力要素(筋力、スピード・敏捷性、パワー、持久力、柔軟性、調整力)について、実際にこれらを測定し、評価を行なう。 また、6つの体力要素を向上させるためのトレーニングの理論と方法について、実技と講義を交えて授業を行なう。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 授業計画について説明する。			⑨	[テーマ] パワーを高めるためのトレーニング理論と方法 [内容] ハイパワーを高めるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。	
②	[テーマ] 形態計測とその評価 [内容] 身長、体重、体組成を測定し、評価する。 測定方法と評価方法について学ぶ。			⑩	[テーマ] 持久力の測定と評価 [内容] 持久力を測定し、評価する。 持久力の測定方法と評価方法について学ぶ。	
③	[テーマ] 新体力テストの実施とその評価 [内容] 新体力テストを実施し、自分の体力を評価するとともにその評価方法について学ぶ。			⑪	[テーマ] 持久力を高めるためのトレーニング理論と方法 [内容] 持久力を高めるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。	
④	[テーマ] 筋力の測定と評価 [内容] 筋力を測定し、評価する。 筋力の測定方法と評価方法について学ぶ。			⑫	[テーマ] 柔軟性の測定と評価 [内容] 柔軟性を測定し、評価する。 柔軟性の測定方法と評価方法について学ぶ。	
⑤	[テーマ] 筋力を高めるためのトレーニング理論と方法 [内容] 筋力を高めるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。			⑬	[テーマ] 柔軟性を高めるためのトレーニング理論と方法 [内容] 柔軟性を高めるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。	
⑥	[テーマ] スピード、敏捷性の測定と評価 [内容] スピードと敏捷性を測定し、評価する。 スピードと敏捷性の測定方法と評価方法について学ぶ。			⑭	[テーマ] 調整力の測定と評価 [内容] 調整力を測定し、評価する。 調整力の測定方法と評価方法について学ぶ。	
⑦	[テーマ] スピードを高めるためのトレーニング理論と方法 [内容] スピードと敏捷性を高めるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。			⑮	[テーマ] 調整力を高めるためのトレーニング理論と方法 [内容] 調整力を高めるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。	
⑧	[テーマ] パワーの測定と評価 [内容] ハイパワーを測定し、評価する。 ハイパワーの測定方法と評価方法について学ぶ。			⑯	[テーマ] まとめ [内容] 授業のまとめを行なう。	
成績評価方法(方針)						
・①出席、②演習・実技、③授業外レポートによって評価を行なう。 ・テーマによっては授業内レポートを課す場合もある。 ・授業態度も評価に含む。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)		
定期試験						
授業内レポート						
授業外レポート	◎			25%		
演習・実技			◎	25%		
授業態度		◎		減点対象		
出席		◎		50%		
関連科目						
教科書	ガイダンスにて配布するテキストを使用する。			参考書		
連絡先	門野洋介(A408、hr-kadono@sendai-u.ac.jp)					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	陸上競技 Track and Field			担当教員	門野洋介、柴山一仁、宮崎利勝、名取英二	
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	1		
授業の概要						
陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性や基本的技能を、実技を通して学ぶ。						
授業の一般目標						
陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性を理解し、基本的技能を身につける。 自らの記録を向上させたり、相手と競い合うことの楽しさや魅力を味わうことができる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性や基本的技能がわかる。				
■	情意的領域	自らの記録を向上させたり、相手と競い合うことの楽しさや魅力を味わうことができる。				
■	技能表現的領域	陸上競技の走・跳・投各種目の基本的技能が身につく。				
授業計画(全体)						
グループに分かれ、競走種目(短距離走、リレー、ハードル走)、跳躍種目(走高跳、走幅跳)、投てき種目(砲丸投)を複数回に分けて実施していく。 最後に実技試験を行ない、技能と記録を評価する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 授業計画について説明する。			⑨	[テーマ] 走高跳② [内容] 走高跳の助走局面～踏切局面～空中局面の技能について学習する。 競技会形式で記録を測る。	
②	[テーマ] 短距離走① [内容] 短距離走のスタート～加速局面における疾走技能について学習する。			⑩	[テーマ] 走幅跳① [内容] 走幅跳の踏切局面～空中局面の技能について学習する。	
③	[テーマ] 短距離走② [内容] 短距離走の中間疾走局面における疾走技能について学習する。 レースを行ない、記録を計測する。			⑪	[テーマ] 走幅跳② [内容] 走幅跳の助走局面～踏切局面～空中局面の技能について学習する。 競技会形式で記録を測る。	
④	[テーマ] リレー① [内容] リレーのルールに基づいた、スムーズなバトンの渡し方について学習する。			⑫	[テーマ] 砲丸投① [内容] 砲丸投の立ち投げの技能について学習する。	
⑤	[テーマ] リレー② [内容] スムーズなバトンパスができるように練習する。 レースを行ない、記録を計測する。			⑬	[テーマ] 砲丸投② [内容] 砲丸投のグライド投法の技能について学習する。 競技会形式で記録を測る。	
⑥	[テーマ] ハードル走① [内容] ハードリングの技能について学習する。			⑭	[テーマ] 実技試験① [内容] 走(短距離走、ハードル)の記録を測定する。	
⑦	[テーマ] ハードル走② [内容] インターバルの走り方について学習する。 レースを行ない、記録を計測する。			⑮	[テーマ] 実技試験② [内容] 跳(走高跳、走幅跳)の記録を測定する。	
⑧	[テーマ] 走高跳① [内容] 走高跳の踏切局面～空中局面の技能について学習する。			⑯	[テーマ] 実技試験③ [内容] 投(砲丸投)の記録を測定する。	
成績評価方法(方針)						
・①出席、②各種目の記録、③実技試験で評価する。 ・授業態度も評価に含む。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験				◎		
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技	◎	◎	◎		50%	
授業態度		◎				
出席		◎			50%	
履修上の注意(受講学生に望むこと)						
関連科目						
教科書				参考書		
連絡先	門野洋介(A408, hr-kadono@sendai-u.ac.jp)					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	器械運動(男子) Apparatus Gymnastics (Men)			担当教員	鈴木 良太
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
本実技は、マット運動、鉄棒、とび箱等を教材として器械運動の技能習得を目的とすると共に指導法・補助法についても学習し、指導者としても資質を高めるものである。					
授業の一般目標					
オリエンテーションにおいて本実技での授業概要及び授業での取り組みを理解する。また、授業においては積極的に取り組み、仲間との協調を図る。技の習得を通して器械運動の面白さを学習し、指導者としても資質を高めることを目標とする。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	器械運動の技能を習得する過程を理解し、その説明ができる。				
■ 情意的領域	授業に積極的に参加し、仲間と協力できる。				
■ 技能表現的領域	教育実習及び教員採用試験に対応できる技能を身につける。				
授業計画(全体)					
テーマごとに基本技能から応用技能へと難易度を高めていき「できそうだ」という意識を持たせながら授業展開する。マット運動、鉄棒、とび箱を教材として使用し、それぞれ5コマずつ行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、マット運動の基本技能 [内容] 器械運動に必要な動きと練習方法の理解			⑨	[テーマ] 鉄棒③ [内容] 前振りとびおりの基本知識と基本技能の習得
②	[テーマ] マット運動(接転系・倒立)① [内容] 前転、後転、倒立の基本知識と基礎技術の習得			⑩	[テーマ] 鉄棒④ [内容] け上がり、前回り、後回り、前振りとびおりを連結させ連続技に発展させる
③	[テーマ] マット運動(接転系・倒立)② [内容] 前転、後転の変形技の習得及び倒立の静止技術・歩行技能習得			⑪	[テーマ] 鉄棒⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト
④	[テーマ] マット運動(発展技)③ [内容] 倒立前転、後転倒立の技術習得及び伸膝前転・伸膝後転の技能習得			⑫	[テーマ] とび箱① [内容] 開脚跳びの基本知識と基本技能の習得
⑤	[テーマ] マット運動(倒立回転系・倒立回転とび)④ [内容] 側方倒立回転習得のための基礎知識・基礎技能の習得及びハンドスプリング習得のための基礎知識・基礎技能の習得			⑬	[テーマ] とび箱② [内容] 閉脚跳びの基本知識と基本技能の習得
⑥	[テーマ] マット運動(連続課題)⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト			⑭	[テーマ] とび箱③ [内容] 台上前転の基本知識と基本技能の習得
⑦	[テーマ] 鉄棒① [内容] 逆上がり、前回り、後回りの基本知識・基本技能の習得			⑮	[テーマ] とび箱④ [内容] 前転跳びの基本知識と基本技能の習得
⑧	[テーマ] 鉄棒② [内容] け上がりの基礎知識と基礎技能の習得			⑯	[テーマ] とび箱⑤ [内容] 習得した技の課題によるテスト
成績評価方法(方針)					
実技試験により評価するが、授業への出席状況や態度及び服装(指定ユニホーム着用)も評価の対象とする。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験				評価対象外	○2/3以上出席がない受講生は単位を修得することができない。 ○服装は指定のユニホームとシューズ(服装違反は減点の対象とする)とする。また、時計・指輪・ネックレス・ピアス等は怪我の危険性があるためはずす。 ○遅刻は原則認めない。
授業内レポート				評価対象外	
授業外レポート				評価対象外	
演習・実技			◎	100%	
授業態度				減点あり	
出席				失格条件	
関連科目					
教科書	特に指定しない			参考書	「教師のための器械運動指導法シリーズ:マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友(大修館書店)
連絡先	鈴木研究室				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	器械運動(女子) Apparatus Gymnastics (Women)			担当教員	鈴木 良太
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
本実技は、マット運動、平均台、とび箱等を教材として器械運動の技能習得を目的とすると共に指導法・幫助法についても学習し、指導者としても資質を高めるものである。					
授業の一般目標					
オリエンテーションにおいて本実技での授業概要及び授業での取り組みを理解する。また、授業においては積極的に取り組み、仲間との協調を図る。技の習得を通して器械運動の面白さを学習し、指導者としても資質を高めることを目標とする。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	器械運動の技能を習得する過程を理解し、その説明ができる。				
■ 情意的領域	授業に積極的に参加し、仲間と協力できる。				
■ 技能表現的領域	教育実習及び教員採用試験に対応できる技能を身につける。				
授業計画(全体)					
テーマごとに基本技術から応用技術へと難易度を高めていき「できそうだ」という意識を持たせながら授業展開する。マット運動、平均台、とび箱を教材として使用し、それぞれ5コマずつ行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、マット運動の基本技能 [内容] 器械運動に必要な動きと練習方法の理解			⑨	[テーマ] 平均台③ [内容] 開始技・終末儀の基本知識と基本技能の習得
②	[テーマ] マット運動(接転系・倒立)① [内容] 前転、後転、倒立の基本知識と基本技能の習得			⑩	[テーマ] 平均台④ [内容] 習得した技を連結させ連続技に発展させる
③	[テーマ] マット運動(接転系・倒立)② [内容] 前転、後転の変形技の習得及び倒立の静止技術・歩行技術習得			⑪	[テーマ] 平均台⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト
④	[テーマ] マット運動(発展技)③ [内容] 倒立前転・後転倒立の技能習得及び伸膝前転・伸膝後転の技能習得			⑫	[テーマ] とび箱① [内容] 開脚跳びの基本知識と基本技能の習得
⑤	[テーマ] マット運動(倒立回転系・倒立回転とび)④ [内容] 側方倒立回転習得のための基礎知識・基本技能の習得及びハンドスプリング習得のための基礎知識・基本技能の習得			⑬	[テーマ] とび箱② [内容] 閉脚跳びの基本知識と基本技能の習得
⑥	[テーマ] マット運動(連続課題)⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト			⑭	[テーマ] とび箱③ [内容] 台上前転の基本知識と基本技能の習得
⑦	[テーマ] 平均台① [内容] 歩行系・ターン系の基本知識・基本技能の習得			⑮	[テーマ] とび箱④ [内容] 前転跳びの基本知識と基本技能の習得
⑧	[テーマ] 平均台② [内容] 平均台上での前転・前後開脚ジャンプの基本技能の習得			⑯	[テーマ] とび箱⑤ [内容] 習得した技の課題によるテスト
成績評価方法(方針)					
実技試験により評価するが、授業への出席状況や態度及び服装(指定ユニホーム着用)も評価の対象とする。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					評価対象外
授業内レポート					評価対象外
授業外レポート					評価対象外
演習・実技				◎	100%
授業態度					減点あり
出席					失格条件
履修上の注意(受講学生に望むこと)					
○2/3以上出席がない受講生は単位を修得することができない。 ○服装は指定のユニホームとシューズ(服装違反は減点の対象とする)とする。また、時計・指輪・ネックレス・ピアス等は怪我の危険性があるためはずす。 ○遅刻は原則認めない。					
関連科目					
教科書	特に指定しない			参考書	「教師のための器械運動指導法シリーズ:マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友(大修館書店)
連絡先	鈴木研究室				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	水 泳 Swimming (P. A.)			担当教員	渡邊 泰典
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
水泳は老若男女問わず、生涯にわたって親しむことができる代表的運動である。本授業では、水の物理的・生理的特性について講義すると共に、実際に水が身体に及ぼす影響を紹介して、その活用方法を提示する。また、水泳技能習得のための指導に加えて、水泳不得意者を対象とした指導上のコツや留意点(安全管理に関する内容を含む)について説明し、理論と実践を通して水泳の基礎能力を養成する。					
授業の一般目標					
体温、心拍数、代謝、姿勢などの観点から、水が身体に及ぼす影響を理解する。水中事故防止に関する安全管理の基礎理論を理解する。水中での身体の使い方と呼吸の仕方を理解し、状況に応じて使い分けができるようになる。水泳動作のメカニズムと、指導法を理解する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	水泳・水中運動の基本的技能とそのメカニズムを理解し、説明することができる。水中事故を未然に防ぐための方法を理解し、安全に配慮して運動することができる。				
■ 情意的領域	水中特有の浮遊感の中で、運動することの楽しさを知る。水泳技能の習得と向上、泳タイムの短縮を通して、水泳・水中運動に興味を持てるようになる。				
■ 技能表現的領域	泳げない者は泳げるようになる。泳げる者は自らの技能の向上と泳タイムの短縮はもとより、水泳不得意者に対する指導体験を通して、泳法指導の基礎を身につける。				
授業計画(全体)					
最初に教室にて水中事故防止に関する安全管理の基礎理論を講義する。続いてプールにて実技に入り、浮き身及びその応用として立泳ぎを教示した後、クロール・平泳ぎの2種目について、そのメカニズムと指導法を紹介する。ここでいったん泳法検定を実施し、水泳技能を見極める。その後の授業では、高技能者は指導体験を、低技能者と初心者には泳法習得のためのトレーニングを重ねる。本授業では、水泳の基本技能の習得と、泳げるようにするためのプロセスについて学ぶ。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の趣旨・内容・展開方法等について説明する。			⑨	[テーマ] 第1次泳法実技検定【実技】 [内容] 事前能力調査によりA評価を受けた者に対し、100m個人メドレー(50Fr+50Br)の泳法検定を行う。合格者は指導体験に移行される。B評価以下と判定された者はノルマ練習を行う。
②	[テーマ] 水泳指導法【講義】 [内容] 「水泳指導者とはどうあるべきか」を主たるテーマに、必要条件、資質、取り組み方、泳法理論等を指導者の立場から理解させる。			⑩	[テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング①【実技】 [内容] これより、第2次泳法検定合格を目指し、トレーニング期間と成る。第1次検定合格者はこれより、不合格者を対象に初心者指導体験を行う。不合格者は指導員に代い練習を行う。クロール系と平泳ぎ系練習を隔週ごとに分けて実施する。
③	[テーマ] 水中安全管理と安全対策【講義】 [内容] 指導上のマナー、事故と責任、環境整備、用具の取り扱いと管理の方法、水泳の衛生管理、事故とその判例等について解説する。			⑪	[テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング②【実技】 [内容] クロール・平泳ぎ泳法を対象に前回同様のシステムで各自、自主的に実施する。
④	[テーマ] 水慣れ、およびクロール・平泳ぎ能力調査【実技】 [内容] プールでの誓約、利用上の規則周知、入水時のマナー、水慣れ。			⑫	[テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング③【実技】 [内容] クロール・平泳ぎ泳法を対象に前回同様のシステムで各自、自主的に実施する。
⑤	[テーマ] 浮き身・立泳ぎ(巻足)泳法の原理紹介、体験【実技】 [内容] 指導員による模範演技を基に、初心者指導にも繋がる浮き身・立泳ぎの原理、習得方法を解説、実技体験をしながら習得する。			⑬	[テーマ] 水泳・水中運動①【実技】 [内容] 水中における運動指導法と実際 ・水中ウォーキング等
⑥	[テーマ] クロール・背泳ぎ泳法の原理紹介【実技】 [内容] 指導員による模範演技を基に、クロール泳法を主体に両泳法の原理、泳げない原因を解説、さらにその原因を改善するための矯正法、すなわち、指導法を紹介する。			⑭	[テーマ] 水泳・水中運動②【実技】 [内容] 水中における運動指導法と実際 ・アクアビクス等
⑦	[テーマ] 平泳ぎ・バタフライ泳法の原理紹介【実技】 [内容] 指導員による模範演技を基に、平泳ぎ泳法を主体に両泳法の原理、泳げない原因を解説する。			⑮	[テーマ] 水泳・水中運動③【講義】 [内容] 教室にて水中における運動指導にかかわる知識(健康運動指導士、健康運動実践指導者資格取得にも関わる)水の原理、水泳の特性、効果等について講義・紹介する。
⑧	[テーマ] クロール・平泳ぎの初心者指導法紹介【実技】 [内容] クロール・平泳ぎを対象に、泳げない原因を改善するための矯正法、すなわち、初心者指導法を紹介する。			⑯	[テーマ] 水泳・水中運動④、第2次泳法実技検定【実技】 [内容] 水中における運動指導法と実際の実技トレーニング、及び、水泳不合格者を対象に、100m個人メドレー(50Fr+50Br)の泳法検定を行う。
成績評価方法(方針)					
実技では、100m(50mクロール+50m平泳ぎ)完泳が最低合格ラインで(可)評価、これに立泳ぎ(1分間)完泳か背泳ぎ・バタフライ25m完泳で(良)評価となる。さらに指導体験を2回以上実施した者が(優)評価となる。(秀)評価は前述の全種目において高得点者に与えられる。なお、講義・理論授業は必ず出席。欠席の場合はその分、レポート提出等の課題が課せられ、怠った場合は(不)評価となる。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	①教職志望者は受講が望ましいが、必修ではない。 ②泳げるようになりたいと真剣に希望する者であれば、泳ぎが苦手であっても歓迎する。 ③海浜実習の受講希望者が望ましい。 ④本学指定の水着でしか受講できない。指定の水泳帽も必要となる。
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技	◎		◎	80	
授業態度					
出席				20	
関連科目	海浜実習、水上安全法(含実習)、種目別コーチング演習Ⅰ(水泳)、種目別コーチング演習Ⅱ(水泳)				
教科書	なし			参考書	なし
連絡先	LC棟2階207研究室 渡邊泰典(ysn-watanabe@sendai-u.ac.jp)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	バレーボール			担当教員	石丸出穂・荒牧亜衣
	Volleyball (P.A.)				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
<p>本授業は、6人制バレーボールの、基本的な運動技能(特にゲーム展開を広げるパス、サーブ、スパイク)の向上に重点を置き、前半は、バレーボールの練習法、指導法を紹介する。後半では、グループでの活動で生み出される、チームプレーの重要性を認識させ、仲間とのつながりを促し、ゲームを通して、バレーボールの戦術紹介、ルール・審判法を説明する。</p>					
授業の一般目標					
<p>バレーボールの基本的な運動技術、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、および、スパイク(少なくともジャンプなしでの打球の仕方)を身につけ、将来、指導する立場になった場合に、デモンストレーションを行えるようになる事が、本授業の大きな目標である。さらに、それらの技術を駆使して、仲間と協力しながら、戦術を理解し、ゲームを楽しむ方法を修得する。</p>					
授業の到達目標					
■	認知的領域	基本的な運動技術のポイントや、ルール、戦術を、知識として理解する。			
■	情意的領域	仲間との‘繋がり’が、プレーの‘繋がり’になる事を通して、ゲームを楽しめるようになり、バレーボールの戦術にも興味を持てるようになる。			
■	技能表現的領域	バレーボールの授業を行うことが出来るようになる、基本的な運動技術を身につける。			
授業計画(全体)					
<p>前半は、バレーボールの基本的な運動技術(オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク・サーブの打球)の向上に重点を置くため、2～3人組での個人技術のトレーニング中心の授業を行う。後半は、ゲームを中心とした授業の中で、バレーボールの戦術やルール・審判法の紹介、グループ活動での仲間との‘繋がり’作り、を行っていく。前半終了時と後半終了時に、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイクの打球、のチェックテストを行う。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法			⑨	[テーマ] ゲームへの展開②および、スパイク打球チェック [内容] W型のレセプションフォーメーションを理解したゲームを行い、同時進行で、スパイク打球のチェックを行う
②	[テーマ] オーバーハンドパス、スパイク打球の基本技術 [内容] オーバーハンドパス、スパイク打球のポイント、練習法を紹介し、2人組のトレーニングを行う			⑩	[テーマ] ゲームへの展開③および、ブロックの基本技術 [内容] セッターを固定し、正確なトスから強力なスパイクが打てる可能性が高まるゲームを行い、ブロックの基本技術を紹介する
③	[テーマ] アンダーハンドパス、サーブ打球の基本技術 [内容] アンダーハンドパス、サーブ打球のポイント、練習法を紹介し、2人組のトレーニングを行う			⑪	[テーマ] ゲームへの展開④ [内容] スパイクディフェンスフォーメーションを理解したゲームを行う
④	[テーマ] オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの応用技術 [内容] オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの、3人組のトレーニングを行う			⑫	[テーマ] ゲームへの展開⑤ [内容] ポジション別の役割を理解したゲームを行う
⑤	[テーマ] スパイクの基本技術 [内容] スパイクの基本、助走→踏切→打球→着地を説明し、トレーニングを行う			⑬	[テーマ] ゲームへの展開⑥ [内容] ポジション別の役割を理解し、ポジションにおける反則(アウトオブ・ポジション)を意識したゲームを行う
⑥	[テーマ] スパイクの応用技術 [内容] ゲームの流れに近いトレーニングを、段階的に行う			⑭	[テーマ] オーバーハンドパスのチェックテスト [内容] ゲームを行いながら、オーバーハンドパスのチェックテストを行う
⑦	[テーマ] バレーボールの歴史とルール [内容] バレーボールの誕生から現在に至るまでの歴史や、ゲームを行うためのルールや審判法などの講義を行う			⑮	[テーマ] アンダーハンドパスのチェックテスト [内容] ゲームを行いながら、アンダーハンドパスのチェックテストを行う
⑧	[テーマ] ゲームへの展開① [内容] スパイクを生かすゲームを目標に行う			⑯	[テーマ] [内容] 期末テストは行わない
成績評価方法(方針)					
<p>出席状況(15%)、授業態度【グループでの積極的かつ協力的な行動、授業のルールやマナーを守る】(20%)、チェックテスト【オーバーハンド、アンダーハンドパス、スパイク打球】(50%)、技術向上度(15%)を、総合的に評価する。ただし、欠席は3回までは認めるが、それ以上の場合、成績評価対象外とする。</p>					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					評価対象外
授業内レポート				◎	50%
授業外レポート				○	15%
演習・実技		◎			15%
授業態度			◎		20%
出席		○	◎		15%
関連科目	種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ(バレーボール)				
教科書	特に指定しない			参考書	Volleypedia バレーボール百科事典(日本バレーボール学会・編)
連絡先	荒牧研究室				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	バスケットボール Basketball (P.A.)			担当教員	児玉 善廣
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数	1	
授業の概要					
本授業は競技形態、競技特性などを踏まえ、バスケットボールにおける基本技術の体得に重点を置く。特にオフェンス技術の中でも最も重要なシューティングに力を入れ、パス、ドリブルなどの操作能力を磨く。ゲーム形式を多く取り入れて諸々の技術、戦術を学び、審判法なども経験する。競技の基本戦術を理解し、ボールゲームの楽しさを体感することを目標とする。					
授業の一般目標					
本授業は競技形態、競技特性などを踏まえ、バスケットボールにおける基本技術の体得に重点を置く。特にオフェンス技術の中でも最も重要なシューティングに力を入れ、パス、ドリブルなどの操作能力を磨く。ゲーム形式を多く取り入れて諸々の技術、戦術を学び、審判法なども経験する。競技の基本戦術を理解し、ボールゲームの楽しさを体感することを目標とする。					
授業の到達目標					
<input type="checkbox"/>	認知的領域				
<input checked="" type="checkbox"/>	情意的領域	ゲームや諸々の身体運動によって、仲間との連携や協力ができ、楽しさなどを表現できる。			
<input checked="" type="checkbox"/>	技能表現的領域	スキルの向上が見え、基本技術が出来き、楽しさが理解できる。			
授業計画(全体)					
本授業は競技形態、競技特性などを踏まえ、バスケットボールにおける基本技術の体得に重点を置く。特にオフェンス技術の中でも最も重要なシューティングに力を入れ、パス、ドリブルなどの操作能力を磨く。ゲーム形式を多く取り入れて諸々の技術、戦術を学び、審判法なども経験する。競技の基本戦術を理解し、ボールゲームの楽しさを体感することを目標とする。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法			⑨	[テーマ] ゲームへの展開 I (スクリーミング) [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (1) 実践的シュート感覚とリバウンドの体感
②	[テーマ] バスケットボールの競技特性 [内容] バスケットボールの歴史の変遷と基本技術とルールの説明			⑩	[テーマ] ゲームへの展開 II (スクリーミング) [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (2) 攻防のバランス
③	[テーマ] 基礎技術 I [内容] 1) ボールコントロール 2) ボールハンドリング 3) パッシングの紹介			⑪	[テーマ] ゲーム I [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (1) マンツーマン・ディフェンスとゾーン・ディフェンスについて
④	[テーマ] 基礎技術 II [内容] シューティング 1) ドリブルとレイアップシュート			⑫	[テーマ] ゲーム II [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (2) 3ポイント・シュートの影響
⑤	[テーマ] 基礎技術 III [内容] シューティング 2) ジャンプシュートとリバウンド			⑬	[テーマ] ゲーム III [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (3) シュート率とリバウンディングの影響
⑥	[テーマ] 基礎技術 IV [内容] 1) パッシングとドリブル 2) シューティングとの組み合わせ			⑭	[テーマ] ゲーム IV [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (4) シュート率とリバウンディングの影響
⑦	[テーマ] ゲームの試み [内容] ゲームによる競技感覚の体感			⑮	[テーマ] オフェンス技術のまとめ I [内容] オフェンスプレイに必要な基本的技術の総合練習 (ドリブルチェンジ、クロスオーバーシュート、ゴールシュートのコンビネーション技術)
⑧	[テーマ] 基礎技術の総合練習 [内容] 1) ドリブル 2) ドリブルターン 3) レイアップシュート 4) ジャンプシュートの連続した組み合わせを体得する。			⑯	[テーマ] オフェンス技術のまとめ II [内容] ドリブルチェンジ、クロスオーバーシュート、ゴールシュートまでのコンビネーションプレイ
成績評価方法(方針)					
1・実技試験は期末に実施する。 2・出欠に関しては授業に対する意欲の1つと捉える。 3・授業態度も学科行動の評価として大切に扱う。以上を総合的に評価を行う。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標		認知的領域		情意的領域	
成績評価方法		技能表現的領域		評価割合 (%)	
定期試験				30%	
授業内レポート				評価対象外	
授業外レポート				評価対象外	
演習・実技				30%	
授業態度				40%	
出席				欠格条件	
履修上の注意(受講学生に望むこと)					
<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席のない学生は単位を修得することは出来ない。 ・授業態度の悪い者や、著しく授業を妨げる行動と判断した者は、受講資格を失う。 ・授業用の専用ジャージを用意しているため、そのジャージを着用し参加すること。 ・授業計画は授業の進み方(技術体得状況)で若干変更する可能性がある。 					
関連科目	種目別 コーチング演習 I・II (3年)、スポーツ・コーチング実習 (3年)				
教科書	特になし			参考書	特になし
連絡先	研究室32 : 第5体育館3階 オフィスアワー : 前期/後期 木曜日 10:20 ~12:00				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	バスケットボール Basketball			担当教員	佐藤久夫・菅野恵子
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
本授業はバスケットボールの競技特性を瞬時の攻防の切り替え(トランディション)と捉えた上で、攻防のシステムを段階的な実技を通して体得しながら、チームスポーツにおける役割と責任を学び専門分野への応用と人間的成長の礎とする。また、試合を運営する方法についても実践をもって指導する。					
授業の一般目標					
バスケットボールの基本技術や特性を活かした戦術とは何かを知り、指導者としてのレベルでチームスポーツを考えられるようになる。さらに、正確なルールを知り試合を運営する側の審判法や記録を経験することで、授業や課外活動での指導者としての能力を身に付ける。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	指導者のレベルでチームスポーツを考えられるようになる。				
■ 情意的領域	役割と責任を果たそうと努力することで、人間的成長の礎となる。				
■ 技能表現的領域	基本的なスキルを習得することで、教員採用実技試験等に対応できる。				
授業計画(全体)					
各授業テーマに沿って段階的に実技指導を行うが、動きとシステム攻防の理解度を深めるために視聴覚教材も用いる。受講生の個性を活かせるような役割を与え、各ポジションの連係プレイを確立して試合を戦術を用いて行うようにする。よって、グループ編成し役割をローテーションしながら総合的な理解を深める。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 1、競技の歴史説明 2、競技特性と攻防の概略説明			⑨	[テーマ] トランディション1(攻防一体) [内容] zone defenseからの速攻方法とその役割分担
②	[テーマ] 攻撃の個人スキル [内容] 1、制限区域内のシュート 2、制限区域外のシュート 3、3点シュート 4、ピポットとドライブの方法 5、パスの方法			⑩	[テーマ] トランディション2(攻防一体) [内容] man to man defenseからの速攻方法とその役割分担
③	[テーマ] 防御の個人スキル [内容] 1、制限区域内の防御 2、制限区域外の防御 3、ピポットやドライブに対する防御			⑪	[テーマ] 試合形式による展開1 [内容] 1、zone defenseでのトランディションを中心とした試合 2、man to man defenseでのトランディションを中心とした試合
④	[テーマ] 集団スキルの攻防(1) [内容] 1、1on1の攻防 2、2on1の攻防 3、3on2の攻防 4、3on3の攻防			⑫	[テーマ] 試合形式による展開2 [内容] 1、審判法と記録方法 2、戦術を含む展開方法 3、戦術的総合試合
⑤	[テーマ] 集団スキルの攻防(2) [内容] 1、4on3の攻防 2、4on4の攻防			⑬	[テーマ] 試合形式による展開3 [内容] 1、コーチの立場からの戦術(タイムアウト) 2、残時間と点差による戦術の展開 3、5分試合を題材にした逆転方法と勝ち試合の制し方法
⑥	[テーマ] ポジション毎の攻防 [内容] 1、ガードポジションの攻防 2、フォワードポジションの攻防 3、センターポジションの攻防			⑭	[テーマ] 試合形式による展開4 [内容] 1、10分試合による総合的な展開とベンチワーク 2、規範的な展開の映像による学習
⑦	[テーマ] 集団スキルの攻防(3) [内容] 1、3on3(G,F,Cポジションから)の攻防 2、4on4(2G,F,Cから)の攻防			⑮	[テーマ] 試合形式による展開5 [内容] 10分×2回の試合による総合的な展開と運営
⑧	[テーマ] 集団スキルの攻防(4) [内容] 1、5on4(zone defense) 2、5on5(man to man defense) 3、5on5(zone defense)			⑯	[テーマ] テスト [内容] 1、基本技術(ドリブル、シュート)のスキルテスト 2、競技特性の理解度と習熟度
成績評価方法(方針)					
成績は、スキルテストや理解度、習熟度から評価する。同時に授業内での協力的な貢献度や授業態度についても判断の材料とする。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験					・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業における服装は指定されている運動着とする。 ・食事や睡眠等の体調管理につとめ、良好な状態で受講すること。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技				80	
授業態度				20(減点アリ)	
出席				欠格条件	
関連科目					
教科書				参考書	
連絡先	研究室:A棟4階410室 オフィスアワー:木曜日 10:00~12:00				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ハンドボール Handball(P.A.)			担当教員	桑原 康平
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格 教員免許状(中・高 保健体育)
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
本授業では、ハンドボールの基本的な技術・戦術を身に付けることを中心に展開し、その中でハンドボールの特性や歴史、ルールや国際的なトレンドについても触れていく。					
授業の一般目標					
ハンドボールにおける基本的な技術・戦術を身に付ける。 実際の試合において適切な状況判断ができるようになる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	ハンドボールの基本的な技術・戦術について理解する。			
■	情意的領域	ハンドボールの構造的特性を理解し、仲間と協力してゲームに参加することができる。			
■	技能表現的領域	ハンドボールの個人技術(主にシュートとフェイント)と個人戦術(主にシュートとフェイント)を身に付ける。			
授業計画(全体)					
ハンドボールの個人技術・戦術を習得することから始め、次第にそれらの技術・戦術をグループやチームの中で応用できるよう展開する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員紹介、授業概要説明、ハンドボールの概要説明、グループ分け			⑨	[テーマ] 数的優位の攻め方① [内容] 数的優位の攻撃理論(パラレル・クロス) 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム
②	[テーマ] ボールに慣れる [内容] 集団行動(整列の仕方)、ボールハンドリング、各種シュートの説明・実践、パスの説明・実践、基本的なルールの説明			⑩	[テーマ] 数的優位の攻め方② [内容] 数的優位の攻撃理論(パラレル・クロス・スクリーン) 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム
③	[テーマ] シュート [内容] ジャンプシュート、ステップシュート、ランニングシュート 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】			⑪	[テーマ] 数的優位の攻め方③ [内容] 数的優位の攻撃(パラレル・クロス・スクリーン・スライド) 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム
④	[テーマ] ハンドボールの映像を視聴する [内容] 各年代別カテゴリーの試合映像を視聴、戦術・技術・その他についての説明			⑫	[テーマ] ゲーム① [内容] リーグ戦を行う
⑤	[テーマ] ポジション別シュート [内容] サイドシュート、ポストシュートの説明、実践 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム			⑬	[テーマ] ゲーム② [内容] リーグ戦を行う
⑥	[テーマ] フェイント① [内容] フェイントのステップ(片脚着地) 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム			⑭	[テーマ] スキルテスト [内容] 個人技術の実技テストを行う
⑦	[テーマ] フェイント② [内容] フェイントのステップ(両脚着地) 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム			⑮	[テーマ] ハンドボール全般に関する筆記テスト [内容] ハンドボールの理論、ルール、歴史について筆記テストを行う
⑧	[テーマ] 1対1の攻め方と守り方 [内容] スペースの攻め方と身体接触の仕方 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム			⑯	[テーマ] まとめ [内容] まとめ
成績評価方法(方針)					
授業に対する関心・意欲・態度等は平常点とし、評価に加味する(50%)。また、スキルテスト(30%)、筆記テスト(20%)を行い、これらの結果を総合して評価を行う。出席は欠格条件とする。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート	○				20%
授業外レポート					
演習・実技				◎	30%
授業態度			◎		50%
出席					
欠席が4回以上になると評価の対象から外れます。 公式試合、大会参加(練習試合や合宿は不可)による出席回数不足については、別途課題を提示することがあります。ただし、いかなる理由においても開講回数の2/3以上の出席を満たしていない場合は、評価の対象から外れます。なお、実技技術習得の観点から、授業に長期間参加できない(ケガ、病気等による)ことが予想される者は履修を控えてください。(治療後に履修するようにしてください。) その他、諸注意は初回のオリエンテーションの中で行います。					
関連科目					
教科書				参考書	基本が身につくハンドボール練習メニュー200
連絡先	第5体育館2階 桑原研究室				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	サッカー Soccer(P.A.)			担当教員	中屋敷 眞・黒澤 尚
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
本授業はサッカーの基本技術の獲得を中心に行う。授業テーマに沿い、その基本技術の構造を具体的に解説しながらドリル形式のトレーニングで基本を獲得した後、その基本技術をスキルとして発揮できるように、スモールサイドゲームを多く取り入れた授業とする。					
授業の一般目標					
サッカーを構成する各種の基本技術の構造を分解し、逆算の発想から、その技術構造を再構築して、その技術獲得につなげる一連の流れが理解出来るようになる。これにより技術獲得に要する時間が短くなり、スキルとして失敗した場合でもその原因と理由が自己分析できる改善能力が身につく。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	基本技術の構造と、その分解・組み立ての説明ができる。				
■ 情意的領域	より効率的、効果的な指導を知ることで、さらにモチベーションを高めることができる。				
■ 技能表現的領域	一般体育や初心者レベル指導で示範ができる。				
授業計画(全体)					
日本サッカー協会のコーチング法をベースに、基本技術の獲得をより効率的、効果的に行う。各授業テーマ毎に、その基本技術の構造を解説し、分解と組み立てをしながら示範を中心に説明、理解させ、ドリル形式で獲得する。その後ゲーム形式でスキルとして発揮出来るようにオーガナイズする。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法と履修上の諸注意			⑨	[テーマ] ヘディング [内容] ヘディングの技術構造の説明。ドリル練習、パスゲーム、ヘディングシュート、スモールサイドゲームを通じた技能獲得
②	[テーマ] 集団行動と最初の技能評価 [内容] 集団の扱い方の説明。ボールリフティングとスモールサイドゲームで受講者の既存の技能評価			⑩	[テーマ] トラッピング その2(空中にあるボール) [内容] 空中にあるボールのトラッピングの技術構造と使用部位の説明。ドリル練習、トラップ&パス、スモールサイドゲームを通じた技能獲得
③	[テーマ] インサイドキック [内容] インサイドキックの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポジションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得			⑪	[テーマ] インステップキック その1(空中にあるボール) [内容] インステップキックの技術構造と使用局面の説明。ボールミートとロングキックのドリル練習、サッカーテニスを通じた技能獲得
④	[テーマ] アウトサイドキック [内容] アウトサイドキックの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポジションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得			⑫	[テーマ] インステップ その2(ブレースキック) [内容] 地面上にあるボールのインステップキックの技術構造の説明。ドリル練習、シュートスキル、そして1/4ピッチでのスモールサイドゲームを通じた技術獲得
⑤	[テーマ] トラッピング その1(グランダーボール) [内容] グランダーボールのトラッピングの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポジションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得			⑬	[テーマ] ドリブルとシュート・パス [内容] 良いドリブルの解説と練習。ゲームスキルとしてパスやシュートとの組み合わせたパターン練習とスモールサイドゲーム
⑥	[テーマ] トゥキック、ヒールキック、ソールキック [内容] 3種類のキックの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポジションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得			⑭	[テーマ] ゲーム [内容] ハーフコートでの8:8のゲーム。ほぼ正規のルールを適用
⑦	[テーマ] インサイドでのスワープキック(インフロントキック) [内容] インサイドでのスワープキックの技術構造と使用局面の説明。ドリル練習、ボールポジションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得			⑮	[テーマ] ゲーム [内容] フルコートでの11:11のゲーム。正規ルールで行う。
⑧	[テーマ] アウトサイドでのスワープキック(アウトフロントキック) [内容] アウトサイドでのスワープキックの技術構造と使用局面の説明。ドリル練習、ボールポジションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得			⑯	[テーマ] [内容]
成績評価方法(方針)					
出席3分の2以上、ボールリフティング20回以上、およびサッカーのルールに関するレポート2つを達成できなかった場合、欠格とする。ボールリフティングについては、毎週授業時の最初の15分間をウォームアップも兼ねてリフティングタイムとして設け、小テスト的に確認するので、出来る限り早い段階での達成努力をすること。評価割合の高い技能については、経験者を有利とするのではなく、向上度を評価基準とする。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験				実施せず	<ul style="list-style-type: none"> ・大学指定ウェア着用 ・各自サッカーシューズ(スパイク、トレーニングシューズ)用意 ・公的理由もしくは病気、ケガ等で欠席(見学)する場合、根拠文書を添えて欠席届を提出すること。※病気・ケガの場合は診断書。 ・悪天候で実技が出来ない場合、教室で座学を行うので掲示板を見ること。 ・「学ぶ」高いモチベーションを有した受講者を強く希望する。 ・授業態度については減点対象であり、改善しない場合は欠格とする場合もある。
授業内レポート					
授業外レポート	◎			15%	
演習・実技	◎	○	◎	70%	
授業態度	○	○	○	15%	
出席	◎	◎	◎	欠格条件	
関連科目					
教科書	特に指定なし			参考書	特に指定なし
連絡先	研究室:A棟4F413 オフィスアワー:木曜日12:30~14:00				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	サッカー Soccer(P.A.)			担当教員	吉井 秀邦・黒澤 尚
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
本授業はサッカーの基本技術の獲得を中心に行う。授業テーマに沿い、その基本技術の構造を具体的に解説しながらドリル形式のトレーニングで基本を獲得した後、その基本技術をスキルとして発揮できるように、スモールサイドゲームを多く取り入れた授業とする。					
授業の一般目標					
サッカーを構成する各種の基本技術の構造を分解し、逆算の発想から、その技術構造を再構築して、その技術獲得につなげる一連の流れが理解出来るようになる。これにより技術獲得に要する時間が短くなり、スキルとして失敗した場合でもその原因と理由が自己分析できる改善能力が身につく。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	基本技術の構造と、その分解・組み立ての説明ができる。			
■	情意的領域	より効率的、効果的な指導を知ることで、さらにモチベーションを高めることができる。			
■	技能表現的領域	一般体育や初心者レベル指導で示範ができる。			
授業計画(全体)					
日本サッカー協会のコーチング法をベースに、基本技術の獲得をより効率的、効果的に行う。各授業テーマ毎に、その基本技術の構造を解説し、分解と組み立てをしながら示範を中心に説明、理解させ、ドリル形式で獲得する。その後ゲーム形式でスキルとして発揮出来るようにオーガナイズする。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法と履修上の諸注意			⑨	[テーマ] ペネトレーション(突破)①個人 [内容] ドリブルやラン・ウィズ・ザ・ボールによる突破を学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得
②	[テーマ] サッカー競技の特色と最初の技能評価 [内容] サッカー競技の特色を説明。M-T-Mの原則に従いスモールサイドゲームで受講者の既存の技能評価			⑩	[テーマ] ペネトレーション(突破)②グループ [内容] 3人目の動きやサポート、グループでの突破、オフフェンス戦術を学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得
③	[テーマ] ボールフィーリング① [内容] ボールを運ぶ技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得			⑪	[テーマ] ボールを奪う①個人 [内容] 個人でのボール奪取技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得
④	[テーマ] ボールフィーリング② [内容] ボールをコントロール(止める)技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得			⑫	[テーマ] ボールを奪う②グループ [内容] グループでのボール奪取、ディフェンス戦術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得
⑤	[テーマ] パス&コントロール① [内容] 動きながらのパス&コントロールの技術獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得			⑬	[テーマ] スモールサイドゲーム [内容] コートのサイズを変えながら、ミニゲームを行い、
⑥	[テーマ] パス&コントロール② [内容] サポート・ポジショニングについて学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得			⑭	[テーマ] 審判法 [内容] サッカーの審判法を学ぶ。
⑦	[テーマ] ボールを失わない [内容] ボールキープの為の手や体の使い方を学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得			⑮	[テーマ] ゲーム [内容] 8;8のゲーム。正規ルールで行う。
⑧	[テーマ] シュート・ヘディング [内容] シュート技術・ヘディング技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得			⑯	[テーマ] ゲーム [内容] フルコートでの11:11のゲーム。正規ルールで行う。
成績評価方法(方針)					
出席3分の2以上、およびサッカーのルールに関するレポートを達成できなかった場合、欠格とする。評価割合の高い技能については、経験者を有利とするのではなく、向上度を評価基準とする。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと) ・大学指定ウェア着用 ・各自サッカーシューズ(スパイク、トレーニングシューズ)用意 ・公的理由もしくは病気、ケガ等で欠席(見学)する場合、根拠文書を添えて欠席届を提出すること。※病気・ケガの場合は診断書。 ・悪天候で実技が出来ない場合、教室で座学を行うので掲示板を見ること。 ・「学ぶ」高いモチベーションを有した受講者を強く希望する。 ・授業態度については減点対象であり、改善しない場合は欠格とする場合もある。
定期試験				実施せず	
授業内レポート					
授業外レポート	◎			20%	
演習・実技	◎	○	◎	60%	
授業態度	○	○	○	20%	
出席	◎	◎	◎	欠格条件	
関連科目					
教科書	特に指定なし			参考書	特に指定なし
連絡先	研究室:A棟4F414 オフィスアワー:木曜日12:40~14:10				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ラグビー Rugby(P.A.)			担当教員	武石 健哉
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					
ラグビーの基本理念・スキルを身につける為に、毎回テーマが与えられ活動する。受講者相互にコミュニケーションをとり、ラグビー特有のプレーができるよう関係を構築していく。教員は、基本理念・スキル習得のためのポイントと活動を促進するようなアドバイスを行う。					
授業の一般目標					
ラグビー独自の基本的なスキルを身につけると共に、基本理念とされているノーサイド、ワンフォアオール・オールフォアワンの精神を理解する。また、ラグビー憲章にある自由、責任、フェア、多様性といった特徴をゲームから感じ取る。さらに戦術・戦略面について学ぶことにより、ラグビー競技を深く理解する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	フットボールからサッカーとラグビーに分かれた歴史的背景を理解する。ボールの形、ラグビーのスローフォワード、ノックオン、オフサイドが成立した理由、レフリーの役割、キャプテンシーとは何かを理解する。			
■	情意的領域	ボールを前方へパスしてはいけない、前方へ落してはいけない等のラグビーのルールに留意して、他者と関係を構築しながら授業でのテーマに取り組むことができる。			
■	技能表現的領域	ラグビーの競技特性を理解しつつ、個人、チームスキルを発揮できる。			
授業計画(全体)					
主にグループにより活動を進め、多様なゲーム形式にてラグビーに必要な要素を理解する。基本的なスキルトレーニングにて、ゲームに必要なスキル習得を目指す。ミニゲーム、基本スキル習得ドリルを並行して行い、実戦で活用できるレベルに基本スキルを高めると共に、ゲームを構成しているプレーについて知識を深める。最終的に、15人制のルールでゲームを行い、ルール・ゲーム特性を理解し、チーム力の向上を目指すことでラグビーを学ぶ。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス ラグビーというスポーツ [内容] 担当教員の紹介、授業の目的と進め方、成績評価の方法、ラグビーの歴史、国内外のラグビーについて説明する。			⑨	[テーマ] アタック方法の理解と実践① [内容] アタック方法を提示し実践する。デコイ、クロス、ループといった複数でアタックする方法を練習する。ミニゲームにて達成度を確認する。
②	[テーマ] ラグビーのルーツ、フットボールを体験する [内容] サッカーとラグビーのルーツであるフットボールについての説明を行い、実体験する。ラグビーにおけるレフリー、キャプテンの役割、ローの意味等についての説明を行う。			⑩	[テーマ] アタック方法の理解と実践② [内容] ラン・パス・密集(モール)を駆使し、防御を崩す。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する。
③	[テーマ] 走る・投げる・捕る① [内容] パススキル・キャッチングスキルの習得。ボールを持つランニングスキル、ランニングパススキル、ランニングキャッチスキルの習得。			⑪	[テーマ] アタック方法の理解と実践③ [内容] ラン・パス・密集(モール)・キックを駆使し、防御を崩す。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する。
④	[テーマ] 走る・投げる・捕る② [内容] 3on3のゲーム形式の中でランニング・パス・キャッチングの各スキルを習得する。			⑫	[テーマ] アタック方法の理解と実践④ [内容] ラン・パス・密集(モール)・キックを駆使し、防御を崩す。グラウンドの形状、大きさを考え、ゲームを組み立てる。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する。
⑤	[テーマ] 走る・投げる・捕る③+ユニットプレー(BK) [内容] ゲームで使うBKサインプレーの動きを習得する。6on6のゲーム形式でランニング・パス・キャッチングの各スキルを習得する。			⑬	[テーマ] アタック方法の理解と実践⑤ [内容] セットプレーからの攻撃、ラン・パス・密集(モール)・キックを駆使し、防御を崩す。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する。
⑥	[テーマ] 密集を作る [内容] 5対5の攻防を行う。モールの形成方法、サイド攻撃プレーを習得する。			⑭	[テーマ] ディフェンス方法の理解と実践、攻撃課題を練習する [内容] ディフェンスの基本的な原則を提示し練習する。アタック方法にて抽出された課題に対しての練習を行う。
⑦	[テーマ] ユニットプレー(FW) [内容] スクラム、ラインアウトのユニットプレーを実施する。ユニットプレーの構成を理解する。			⑮	[テーマ] 15人制ラグビーのルールによる試合 [内容] ラグビーのスキル、基本的な考えを理解してゲームが出来るか確認する。ゲーム終了後、チーム内で振り返り、発表し、全員で成果を共有する。
⑧	[テーマ] キックスキル [内容] 様々なキックスキル、キックボールのキャッチングスキルを習得する。キックゲームを行い、実戦に活用できるスキルへ高める。			⑯	[テーマ] スキルテスト [内容] スキルテストを行う。実際のゲーム場面を抽出し、その中でスキルを発揮する、ラグビー精神が反映されたプレーができるか確認する。
成績評価方法(方針)					
授業態度(評価割合30%)、実技実施状況(評価割合40%)、定期試験スキル到達度チェック(評価割合30%)。これらの結果を総合して成績評価を行う。ただし出席回数2/3以下の場合は成績評価対象外とする。また、特別な理由がない限り、初回から3回連続の欠席者においては、その後の履修を許可しないこととする。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		○		○	30%
授業内レポート				○	評価対象外
授業外レポート					評価対象外
演習・実技		○		◎	40%
授業態度			○	◎	30%
出席					欠格条件
関連科目	特になし				
教科書	特になし			参考書	特になし
連絡先	研究室:第4体育館 武石研究室 オフィスアワー:火曜10:20~11:50				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	柔道 Judo (P.A.)			担当教員	仲田直樹・南條充寿
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
本授業は、柔道に必要な基本動作(礼法、姿勢、進退動作、組み方、受身)と対人運動の技能(投技、固技)を実技を通じて解説する。					
授業の一般目標					
基本動作(礼法、姿勢、進退動作、組み方、受身)を習得した後に、投技技能、固技技能の習得に取り組む。 技能の習得を通じて柔道の本質である「精力善用」「自他共栄」の精神を理解する。 手技・腰技・足技の中から1つずつ習得する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	日本傳講道館柔道の概要(創始の歴史、目的など)について説明できる。国際柔道連盟試合審判規定に基づいて柔道の試合の勝敗が理解できる。				
■ 情意的領域	伝統的な行動の仕方に留意して、お互いを尊重することができる。				
■ 技能表現的領域	中学校、高等学校において柔道の授業を行うことができる技能を身につける。				
授業計画(全体)					
本授業は基本動作の解説のあと、投技の習得においては「五教の技」に基づき、その理合(相手を投げるための要素→崩し・作り・掛け)を解説しながら段階を踏んで展開していく。それぞれの技術は、かかり練習、約束練習をもって正確さを追求し、受身においては試験を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の流れ、評価のめやす、柔道の概要、道場内でのルールなどの説明を行う。			⑨	[テーマ] 投技技能の習得③～乱取練習 [内容] 大腰の紹介。体捌きの中の前回り捌きについて解説していく。かかり練習、約束練習における留意点を通じて技の正確さを追求する。
②	[テーマ] 受身の習得 [内容] 柔道の受身を紹介し、後受身、横受身、前回受身について解説していく。			⑩	[テーマ] 投技技能の習得④～乱取練習 [内容] 体落の紹介。かかり練習、約束練習における留意点を通じて技の正確さを追求する。これまでに習得した技能を用いて立技の乱取練習を行う。
③	[テーマ] 柔道衣の着衣～基本動作 [内容] 柔道衣の各部位の名称や実際の着方について説明する。礼法(立礼、座礼)、基本姿勢、進退動作、組み方を解説する。			⑪	[テーマ] 投技技能の習得⑤～乱取練習 [内容] 大外刈と大内刈の紹介。かかり練習、約束練習における留意点を通じて技の正確さを追求する。これまでに習得した技能を用いて立技の乱取練習を行う。
④	[テーマ] 固技技能の習得① [内容] 抑込技の基本的な技能を紹介し、乱取練習における攻撃、防御の方法及び留意点について解説していく。			⑫	[テーマ] 投技技能の習得⑥～乱取練習 [内容] 背負投の紹介。かかり練習、約束練習における留意点を通じて技の正確さを追求する。これまでに習得した技能を用いて立技の乱取練習を行う。
⑤	[テーマ] 固技技能の習得② [内容] 関節技基本的な技能を紹介し、乱取練習における攻撃、防御の方法及び留意点について解説していく。			⑬	[テーマ] 投技技能の習得⑦～乱取練習 [内容] 巴投の紹介。捨身技の理論を解説していく。約束練習における留意点を通じて技の正確さを追求する。
⑥	[テーマ] 固技技能の習得③ [内容] 絞技の基本的な技能を紹介し、乱取練習における攻撃、防御の方法及び留意点について解説していく。			⑭	[テーマ] 乱取練習 [内容] これまでに習得した技能を用いて立技の乱取練習を数多く行う。
⑦	[テーマ] 投技技能の習得① [内容] 投技の理論を解説し、習得の方法について説明する。出足払の紹介。			⑮	[テーマ] 柔道の審判法 [内容] オリンピックや世界選手権大会などで用いられている国際柔道連盟試合審判規定のうち、技の評価や罰則など基本的な部分を解説していく。
⑧	[テーマ] 投技技能の習得② [内容] 膝車の紹介。投技における体捌きの重要性について解説する。			⑯	[テーマ] 実技試験 [内容] 前回受身(左右)のテストを行う。
成績評価方法(方針)					
実技試験を用いて評価する。ただし、出席回数が2/3以下の場合は成績評価対象外とする。また、基本動作の未習得による危険性を考慮して、いかなる理由であろうと初回から3回連続の欠席者においてはその後の履修を許可しないこととする。大会等による欠席、怪我による見学も出席とは認めない。事故の多い競技特性から、最低2/3以上、道衣を着て受講したことで単位認定の対象者となることを理解していただきたい。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				◎	50%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席				◎	50%
関連科目	種目別コーチング演習(柔道)Ⅰ・Ⅱ				
教科書				参考書	柔道パーフェクトマスター(新星出版社)
連絡先	仲田研究室:第5体育館3F34				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	剣道 Kendo(P.A.)			担当教員	齋藤浩二
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					
剣道の基本動作と一本打ちの技の習得に重点をおいて行う。「技」の習得は、代表的な技のみに留めて、互格稽古および簡易試合ができるまで展開する。					
授業の一般目標					
剣道の基礎的な動作を身に付け、基本となる打ち方を理解して、面・小手・胴を打突できるようになる。日本の伝統的な行動様式や剣道具の着装・外し方の作法などが理解でき、身に付けることができる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	剣道の試合の仕方、技の種類、竹刀・剣道具の名称を説明できる。			
■	情意的領域	竹刀を持ち、相手と打ち合うことの楽しさを味わうことができる。			
■	技能表現的領域	伝統的な行動や礼儀作法が理解でき、基本動作が身に付けることができる。			
授業計画(全体)					
基本動作と打突の仕方・打たせ方を身に付けてから、徐々に剣道具を着装する。その上で、一本打ちの技を重点的に取り組み、いくつかの技を習得して稽古へと展開していく。互格稽古ができるようになったら、簡易な試合、さらに団体形式の試合を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、礼法 [内容] 授業の内容の説明と剣道についての概要、礼法(正座・座礼)の指導			⑨	[テーマ] 切り返しの完成、払い技の習得、互格稽古 [内容] 復習(素振り、切り返し)、切り返し(完成)、一本打ちの技、払い面、約束練習、互格稽古
②	[テーマ] 基本動作の習得 [内容] 竹刀の名称、組み立て方の説明、基本動作としての礼法(正座、座礼、立礼)、構え方の指導			⑩	[テーマ] 連続技(二段技)の習得、互格稽古 [内容] 復習(素振り、切り返し)、切り返し、一本打ちの技、払い技の復習、小手一面、小手一胴、約束練習、互格稽古
③	[テーマ] 基本動作から打突動作への展開 [内容] 足さばき、振り方(上下・正面)、稽古時の礼法の指導			⑪	[テーマ] 引き技の習得、互格稽古 [内容] 復習(素振り、切り返し)切り返し、一本打ちの技、二段技の復習、つばぜり合い、引き面、引き胴、約束練習、互格稽古
④	[テーマ] 剣道具(垂・胴)の着装、打突の仕方・打たせ方の導入 [内容] 前回の復習(足さばき・振り方)、剣道具(垂・胴)の着装、打ってみる			⑫	[テーマ] 技の練習、試合への導入 [内容] 試合規則の説明、復習(素振り)、切り返し、一本打ちの技「攻め→反応する→打突」のパターンによる練習、約束練習(これまで練習した技を組み合わせる)、互格稽古(試合のように実施する)
⑤	[テーマ] 打突の仕方、打たせ方の習得 [内容] 復習(素振り)、打ってみる、踏み込む足の練習、打突の仕方(面)の指導			⑬	[テーマ] 試合への導入 [内容] 素振り、切り返し、基本打突、約束練習、試合の体験
⑥	[テーマ] 剣道具(面・小手)の着装、打突の仕方・打たせ方(面)の導入 [内容] 復習(素振り、踏み込み足による面打ち)、剣道具(面・小手)の着装、部位(面・胴・小手)を打ってみる、送り足による面打ち、踏み込みによる面打ち			⑭	[テーマ] 簡易試合 [内容] 素振り、切り返し、基本打突、約束練習、団体形式の試合を体験
⑦	[テーマ] 打突の仕方(面・胴・小手)の習得 [内容] 復習(素振り、踏み込み足による面打ち、送り足による(面・胴・小手)、踏み込み足による(面・胴・小手)、約束練習			⑮	[テーマ] 簡易試合 [内容] 素振り、切り返し、基本打突、約束練習、団体形式の試合
⑧	[テーマ] 一本打ちの技の練習、切り返しの導入、稽古への導入 [内容] 復習(素振り、踏み込み足による面打ち)、切り返し一回、一本打ちの技(面・胴・小手)の練習、約束練習、稽古			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 素振り、切り返し、面打ち、胴打ち、小手一面打ち
成績評価方法(方針)					
実技試験(70%)、授業時の実技評価(30%)の結果に基づき、総合的に評価する。また、授業への積極的な態度については加点する。ただし、出席回数が2/3以下の場合は、成績評価対象外とする。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				◎	70%
授業内レポート					評価対象外
授業外レポート					評価対象外
演習・実技			○		30%
授業態度					加点
出席					欠格条件
関連科目					
教科書	特に指定しない。			参考書	全日本剣道連盟編『剣道指導要領』
連絡先	齋藤研究室:第三体育館3階剣道場 オフィシアワー:木曜日 11:00~12:30				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ダンス I Dance I (P.A.)			担当教員	山梨 雅枝
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数	1	
授業の概要					
<p>毎回、バーを使いクラシックバレエの基本的な動きを行う。また、バーの動きでは、柔軟性やバランス能力、細かいステップなどを習得していく。その後、フロアの動きでは、ジャンプや回転を中心に実施する。これらの動きは、全て音楽に合わせて行い、動きの技だけでなく、音感を育むことも重視する。</p>					
授業の一般目標					
<p>クラシックバレエのバーを使った動きは、約350年の歴史の中で体系化されたトレーニング方法であり、体幹や柔軟性を育むのに大変有効である。そのため、様々なスポーツの基礎的なトレーニングにも成り得る。クラシックバレエの基本的な動きを繰り返し実践することで、自己の身体と向き合いながら、体幹や柔軟性、調整力を高めることが目標である。</p>					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	自己の身体に気づくことができる。				
■ 情意的領域	合理的な身体の動かし方について理解することができる。				
■ 技能表現的領域	質の異なる様々な動きに対応することができる。				
授業計画(全体)					
<p>毎時間、クラシックバレエの基本的な動きを実施し、授業を重ねる毎にレベルを上げていく。その際、4拍子や3拍子の動きにも対応できるよう、音感も鍛えながら実施する。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	<p>[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法についての説明。ダンス作品DVD鑑賞。</p>			⑨	<p>[テーマ] ステップ① [内容] フロアで4種類以上のステップで構成された動きを行う。</p>
②	<p>[テーマ] 足の動きと手の動き [内容] 5つの足のポジションと4つの手の動きを理解する。</p>			⑩	<p>[テーマ] ステップ② [内容] フロアで5種類以上のステップで構成された動きを行う。</p>
③	<p>[テーマ] 両手でバーにつかまて行う動き [内容] バーを両手で握り、床を踏む動きとバランスの動きを行う。</p>			⑪	<p>[テーマ] バランスとターン① [内容] フロアでバランスからターンを行う動きを行う。</p>
④	<p>[テーマ] 片手でバーにつかまる動き [内容] バランスをとりながら、床を踏む動きを行う。</p>			⑫	<p>[テーマ] ジャンプとターン① [内容] フロアでジャンプとターンの動きを行う。</p>
⑤	<p>[テーマ] バーを用いたジャンプの動き [内容] 床を踏んでからジャンプをするステップを行う。</p>			⑬	<p>[テーマ] ジャンプとターン② [内容] フロアでジャンプとターンの動きを行う。</p>
⑥	<p>[テーマ] バーを用いてバランスとジャンプの動き [内容] バーを用いて、バランスやジャンプを行う。</p>			⑭	<p>[テーマ] ステップ、ジャンプ、バランス、ターンの動き① [内容] 13回目までに学んできた動きを、音楽に合わせて踊る。</p>
⑦	<p>[テーマ] バーを用いたターンの動き [内容] バーを用いて、ジャンプやバランス、ターンを行う。</p>			⑮	<p>[テーマ] ステップ、ジャンプ、バランス、ターンの動き② [内容] 13回目までに学んできた動きを、音楽に合わせて踊る。</p>
⑧	<p>[テーマ] ジャンプとバランスとターンを組み合わせた動き [内容] フロアで、ジャンプとバランスとターンを組み合わせた動きを行う。</p>			⑯	<p>[テーマ] 試験 [内容] ステップとジャンプ、バランス、ターンの動きが組み込まれた作品を1人ずつ試験する。</p>
成績評価方法(方針)					
<p>実技試験で、授業内容の理解度を観る。また、受講態度、出席状況を総合的に評価する。しかし、出席回数が単位取得条件を満たしていても、授業内容が理解できていないと判断した場合、単位取得は認められない。また、他の受講者に悪影響と思われる行動や発言をしたと授業担当者が判断した場合、単位取得は認めない。</p>					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				◎	30%
授業内レポート		○	○		5%
授業外レポート					
演習・実技				◎	30%
授業態度			◎	◎	15%
出席			◎		20%
関連科目	保健体育科教育論 III、ダンス II				
教科書	適宜資料を配布する。			参考書	・片岡康子『舞踊学講義』大修館,1991
連絡先	山梨研究室(第4体育館1F)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	海浜実習 Activity & Swim Camp			担当教員	渡邊 泰典
開講内容	学年・学期	1年・集中	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
海浜実習はプール実技の応用として、海浜を利用した水泳訓練及びマリンスポーツの体験等を主とした学外集中実技授業である。6月と7月にそれぞれ事前オリエンテーションを実施し、学外集中授業として現地にて8月下旬に3泊4日間の日程で開講する。					
授業の一般目標					
事前オリエンテーション、プール実技及び3泊4日の学外授業全日程に参加すること。実技ノルマである大遠泳(約3km・2時間)完泳を目指すこと。民宿・旅館での集団生活に必要なマナーを厳守すること。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	海浜活動に関わる基本的知識・技能と、活動上の留意点について説明することができる。				
■ 情意的領域	自然の驚異にふれ、海で活動することの楽しさを知る。人間個人の能力の限界に挑戦し、達成感を得られる。参加実習生同士や上級生との親睦を深めることができる。				
■ 技能表現的領域	連続2時間以上の泳力を身につけることができる。水泳以外のアクティビティを実践することができる。				
授業計画(全体)					
事前オリエンテーション、事前実技講習有り。本番の日程は8月の第4週頃に3泊4日の日程で実施予定である。宿泊施設は地元民宿と旅館を貸し切り。交通手段については貸し切りバス利用予定。事前申込み手続き有り。参加費用については約35,000円銀行振り込み(事前に掲示にて告知)。					
授業テーマとその内容					
1、事前作業 [テーマ] 海浜実習指導内容・知識事前確認 [内 容] ①泳力チェック;同時開講の水泳授業により、事前に泳力を確認する。 ②海浜実習オリエンテーション(6月中旬ごろ);指定会場にて実習に関する説明会を実施する(実施場所については別途掲示する)。 ③事前実技講習(7月中旬ごろ);遠泳に必要な基本的知識と技能に関する説明会を実施する(実施場所については別途掲示する)。					
2、現地本番作業 [テーマ] 実地海浜訓練実技体験 [内 容] <第1日目> 午前;大学出発、現地到着、 午後;開講式、入退水方法、点呼法、集団行動等の実技学習、 海浜での泳能力チェック、遠泳マナー習得 <第2日目> 全日;海浜救助法、およびマリンスポーツ体験(①スキング、②シーカヤック体験、③スタンドアップパドルボード等) <第3日目> 全日;遠泳に向けた隊列泳練習(①小遠泳、②中遠泳 等) <第4日目> 午前;大遠泳、 午後;撤収作業、閉講式、 現地出発、本学到着、全行程終了・解散					
成績評価方法(方針)					
ノルマ;全日程参加(事前学内講習含)・全種目体験完了・大遠泳完泳					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験					①受講可能条件として、水泳実技履修者のうちで、6月末に実施される第1次水泳実技試験を受験していなければならない(合否は問わない)。 ②水泳実技授業において、第1次水泳実技試験までの出席率が100%でなければ参加できない。 ③海浜という自然環境の中での授業なので、危機的場面に遭遇することもあり、また、体育授業を想定した集団行動訓練も充分行うので、忍耐強く且つ積極的受講が要求される。さらに、民宿での集団生活が有る訳であり、規律正しい態度も要求される。
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技	◎	◎	◎	40	
授業態度	◎	◎	◎	10	
出席	◎	◎	◎	50	
関連科目	水泳、水上安全法(含実習)				
教科書	なし			参考書	なし
連絡先	LC棟2階207研究室 渡邊泰典 (ysn-watanabe@sendai-u.ac.jp)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スキー I			担当教員	高橋 弘彦 他
	Ski I (P.A.)				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数	1	
授業の概要					
<p>各自のレベルにおけるスキーの基礎的理論、基礎技術及び指導法を修得させる。また、学外集中授業の運営形態を学ばせると共に集団生活を通して共同・協調の精神を養わせる。</p> <p>実習は2月下旬から3月上旬にかけて、3泊4日の日程で山形県蔵王温泉スキー場にて実施する。</p>					
授業の一般目標					
<p>修得技能は、初めてスキーを行う者でも全日本スキー連盟バッヂテスト3級を目標とする。スキー経験のある者については、より難易度の高い斜面の滑走が可能になるよう自己技能の向上に努める。</p>					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	各自のレベルにおける技術について説明できる。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input checked="" type="checkbox"/>	技能表現的領域	実習開始時よりも技能向上が認識できる。			
授業計画(全体)					
<p>技能レベル毎の班別講習を実施する。技能習得の効率を高めるため、原則として1班10名以内の班編成とする。</p> <p>ナイタースキーも実施する。</p> <p>※受講希望者数がホテルの収容人数を超えた場合は、抽選となる場合がある。また受講の優先は4月における履修登録者となる。</p>					
授業テーマとその内容					
<p>1. オリエンテーション 授業計画、指導内容、指導方法、日程、費用に関する説明を行う(11月中旬を予定)。 各自の技能評価用紙を提出させる。</p> <p>2. 実習</p> <p>①全体ミーティング 開講式に先立ち、蔵王温泉スキー場の紹介、ホテルにおける生活、リフト券の取り扱い等に関する留意点を説明する。</p> <p>②開講式 各班の指導担当教員及び補助学生の紹介を行う。 ゲレンデにおけるマナーと傷害防止に関する説明を行う。</p> <p>③実技 技能レベルの近い数班が合同にて班分けを行い、正式の講習班を編成する。 講習班の決定後は、各班毎に実技講習を実施する。</p> <p>1) ブルーク: 押し開き、リズムカルな連続押し開き 2) ブルークボーゲン: 交互押し出し、浅まわりと深まわり 3) シュテムターン: 山開き、谷開き 4) パラレルターン(大回り): スキップディング、カービング 5) パラレルターン(小回り): スキップディング、カービング 6) 総合滑降: 雪質、斜度等の条件に適合した滑り 7) 制限滑降: ボールセットにより制限されたコース 8) 班別デモンストレーション</p> <p>④閉講式</p>					
成績評価方法(方針)					
<p>修得技能、授業参加態度および実習における生活全体を総合して評価する。</p>					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<p>1. 必ずオリエンテーションに出席すること。オリエンテーションに出席しない場合には、履修登録を行っていても授業への参加は認められない。また、指定期日までに参加費の入金がない場合も参加は認められない。 2. オリエンテーションは11月を予定。 3. 実習期間中は、禁酒、禁煙となる。これに違反した場合は、履修放棄扱いとなる。 4. 実習費は、39000円程度の予定(宿泊、全食事、交通、保険、リフト)。レンタルスキーを借りる場合は、別途5500円程度(現地支払い)が必要となる。レンタルウェアの取り扱いはない。 5. 参加希望者が受入れ可能人数を超過した場合は、抽選になることもある。</p>
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技			◎	100%	
授業態度				欠格条件	
出席				欠格条件	
関連科目	スキー II (3年)				
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
連絡先	研究室:C棟3階 55-3002(研究室直通) hr-takahshi@sendai-u.ac.jp				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	キャンプ Camp (P.A.)			担当教員	岡田 成弘
	開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習
	履修の方法	選択必修	単位数	1	関連資格
(公社)日本キャンプ協会「キャンプインストラクター」					
授業の概要					
組織キャンプの体験を通して、指導者に必要な資質を育成する。3泊4日間のキャンプを行い、一般的なプログラムや必要とされるマネジメントを学び、指導者からは指導法やキャンプ指導の魅力を学ぶ。また、自然環境における集団生活の中で、自立心、協調性、リーダーシップなどを養い、仲間との交流を深める。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・組織キャンプを通じて、プログラム、マネジメント、指導法について理解を深める。 ・野外活動に必要な知識、技術を身につける。 ・自然に親しみ、学生・教員との交流を深める。 					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	野外活動に必要な知識・技術を身につける。				
■ 情意的領域	自然体験活動への興味を持ち、積極的に関わるようになる。自然に興味を持ち、自然環境を配慮する精神を育む。				
■ 技能表現的領域	集団生活の中でコミュニケーション力を高める。課題に対して自分なりの意見を持ち、他者とディスカッションし、グループとしての意思決定を行えるようになる。				
授業計画(全体)					
8月下旬～9月初旬に、学外のキャンプ場で宿泊型の実習を行う。 実習前に複数回のオリエンテーション及び準備を行う。 キャンプインストラクターの資格取得希望者は、別途教科書を購入し、キャンプ後に筆記試験を行う(詳細はオリエンテーション等で説明)。					
授業テーマとその内容					
日程： 第一団 2017年8月29日～9月1日(3泊4日) 第二団 2017年9月3日～6日(3泊4日) ※日程は変更する可能性があります。					
対象： 仙台大学1年生及び過年度生 240名 (第一団120名 第二団120名)					
指導者： 仙台大学教員(岡田、弓田、仲野、他)、ティーチングアシスタント(大学院生)、補助学生(学部生3～4年生)					
実習施設： 南蔵王野営場(国立花山青少年自然の家保有の施設)					
費用： 10,000円程度(施設使用料、食費、バス代、保険代、教材費) ※実習に必要な持ち物にかかる費用は自己負担とする(雨具など)					
プログラム： 1日目 野外レクリエーション、テントサイト設営、野外炊事 2日目 沢歩きハイク、登山準備、野外炊事 3日目 南蔵王縦走登山、キャンプファイヤー 4日目 撤収、ふりかえり ※天候などの諸事情によって変更となる場合あり					
実習までの流れ： 5月中旬 ガイダンス(日時・場所は掲示板で告知します) キャンプ実習の目的、日程、プログラム、費用、持ち物 キャンプインストラクターの資格について説明 6月中旬 オリエンテーション① キャンプ実習の持ち物、参加費振込について、個人調査票記入 7月下旬 オリエンテーション② 実施要項作成、最終確認 8月下旬 キャンプ実習本番(第一団、第二団) 10月中旬 まとめの会 ふりかえり、レポート提出					
詳細は、5月のガイダンスで説明するので、必ず参加すること。キャンプ前に2回行われるオリエンテーションとキャンプ後に行われるまとめの会にも必ず参加すること。これらの集まりに無断で遅刻・欠席した者は、キャンプ実習に参加することはできない。掲示板をよく見ておくこと。					
成績評価方法(方針)					
実習中の態度及び実習後のレポートによって総合的に評価する。 その他、オリエンテーション時の態度や事前提出物の状況なども考慮する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート		○	○	50%	
演習・実技	○	○	○	50%	
授業態度					減点あり
出席					欠格条件
関連科目	レクリエーション実技Ⅰ(1年)、レクリエーション実技Ⅱ(2年前期)、スポーツマネジメント実習(2年)、野外教育活動論(3年前期)、野外・レクリエーション・マネジメント論(3年前期)、野外・レクリエーション・マネジメント実習(3年)				
教科書	特になし			参考書	(公社)日本キャンプ協会「キャンプ指導者入門」
連絡先	岡田研究室(A棟509)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スケート			担当教員	川口鉄二 他	
	Skating(P.A.)					
開講内容	学年・学期	2・通年	授業方法	演習	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		
授業の概要						
スケートに関する理論(歴史・滑走原理)及び基本技術(直進系・曲進系・転向系・停止系)を学習する。更に選択種目(フィギュアスケート、スピードスケート、アイスホッケー、インラインホッケー等)の基礎技能を身につけ、種目特性に応じた動く楽しさを体験する。						
授業の一般目標						
体育大学ならではのスケートの基本技術の学習を通して安全への配慮、マナー・エチケット及び用具の管理方法などを理解する。種目特有のできる楽しさを自らの身体知を通して学ぶことにより、体育授業及び競技、生涯スポーツの指導力へと結びつけることを狙いとする。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	スケートの滑走原理、技術特性を理解し、説明できる。				
■	情意的領域	グループ学習を通して相互理解を深め、協力する態度を身につける。				
■	技能表現的領域	日本スケート連盟公認アレーンテストC級以上の技能を習得する。スピードスケート、アイスホッケーの競技会とその計画・運営、審判ができる。				
授業計画(全体)						
領域は希望と経験を考慮し、基礎、フィギュア、スピード、アイスホッケーの各コースに分かれて実習を行う。実習場所は、盛岡及び仙台のスケート場。基礎技能の確認の後、各コース毎の技能を習得し、最終的にC級、B級の相当の技能テストを行い、ゲームや発表会、競技会などでも楽しめる技能を身につけていく。						
授業テーマとその内容						
[テーマ] オリエンテーション [内容] 実習の概要、方法、達成課題及び評価等について						
[テーマ] スケートの基礎知識 [内容] 生涯スポーツとしての今日的課題。スケート種目とその基礎技能の構造、競技法、基本ルール、技の体系について。 [内容] 滑走技術の種類と位相構造を知る。 [内容] スケーティングの基礎、自然滑走と惰力滑走、自力滑走の練習。						
[テーマ] 曲進系、停止系 転向系滑走技術の習得 [内容] 両脚カーブ、フォアクロス、フォアスネークの練習。 [内容] イの字、ハの字ストップの練習。 [内容] フォアバック、バックフォア、モフォークターン、ジャンプターン						
[テーマ] コース別上位技術の習得 [内容] フィギュア、スピード、アイスホッケー独自の基本技術及び戦術を習得することにより、競技の基礎技能を身に付ける。ルールに基づく競技を実際に体験することにより、各競技特性の理解を深める。						
[テーマ] 技能テストによる達成度の確認・練習。 [内容] 各コースごとのテスト種目についての説明及び達成課題を目標とした練習。 [内容] 各コースごとのテスト種目に基づいた技能テスト。						
[テーマ] 学習技能に基づく競技、ゲーム、発表などの応用滑走。 [内容] 実習で身に付けた技能をもとに、ゲームや競技、発表、競技、及びレクリエーションを行い、運営を含めた楽しみ方を学ぶ。						
[テーマ] まとめ [内容] 実習全体の総括と内容の記録(日誌)、動感達成内容の記録・公開。						
成績評価方法(方針)						
実習時間の30%以上の欠席は不可とする。技能習得と授業態度を総合して評価する。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	①履修希望者は必ずオリエンテーションに参加し、実習参加登録が必要です。②宿泊を伴う場合は相応の経費がかかります。③防寒具(スキー系ウェア、帽子、手袋)を身に付け、けがの防止に留意すること。④地方(盛岡)と仙台市内、夏期と冬期の選択が可能です(アイスホッケーのみ)。⑤技能習得を優先目標に置くので、当たり外れの無いマイシューズでの参加を勧めます。
定期試験						
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技			○	◎	70%	
授業態度		○			70%	
出席						
関連科目						
教科書					参考書	アイススケATINGの基礎(DSK)
連絡先 A403川口						

3. 発展科目

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ情報戦略概論				担当教員	栗木一博/石丸出穂/藤本晋也/坪井俊樹
	Introduction to sport intelligence					
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
スポーツにおける情報戦略活動において必要とされる能力は人間関係を構築するためのコミュニケーションに関する能力をはじめ、文書の作成能力、データ処理能力、事象を構造化する能力など多岐にわたっている。次年度以降に行われる演習や実習はきわめて現場即応型の内容が想定されており、この授業はそこで必要とされるコア・スキルに関する解説と習得のための実践活動を中心に進められる。						
授業の一般目標						
概要でも述べたとおり、スポーツ情報戦略スタッフとして活動するためのコア・スキルを抽出し、それらを理解し、実践可能な初歩のレベルにまで向上させることが本授業の目標となる。具体的には挨拶など基本的なコミュニケーションスキルの習得、形式にのっとった文書の作成技術の習得、プレゼンテーションに関する基礎的な能力の習得などを想定している。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	スポーツにおける情報略活動の概略を理解し、そこで使用されるスキルにはどのようなものがあるかを理解する。					
■ 情意的領域	スポーツにおける情報略活動の概略を理解し、そこで使用されるスキルを理解することによって、それらを積極的に利用しようとする意欲を培うとともに、それらをストレスなく活用することができるようにする。					
■ 技能表現的領域	挨拶などの基本的なコミュニケーションのスキル、形式にのっとった文書作成技術、文書作成能力、基礎的なデータ処理能力、基礎的なプレゼンテーション能力を身につける。					
授業計画(全体)						
スポーツにおける情報戦略活動の概要を説明した後、そこで必要とされるさまざまな技能を例示する。その中から、コミュニケーションスキル、文書作成技術、文章能力、データ処理技能、電子デバイスおよびICT関連機器の使用法(倫理を含む)などを取り上げ、実際に活動を通して技能の向上を図る。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の計画を説明する。担当教員の紹介、授業の目標および評価方法について説明する。 [授業外学習] シラバスと学生便覧を熟読する。				⑨	[テーマ] 文章技術② [内容] 実際に自分で作成したレポートを題材にして、校正の作業などを通じて文章を洗練したものにする課程を学ぶ。 [授業外学習] 設定されたテーマに沿って課題としてレポートを作成する。
②	[テーマ] コミュニケーションスキルの基礎① [内容] 基本的な会話や会議での発言などに関して説明をする。 [授業外学習] 生活の中で必要となるコミュニケーションの能力を調べる。				⑩	[テーマ] ICT利用の基礎① [内容] ICTツールについて説明し、その基本的な操作方法等を確認する。また、それらがどのように活用されているか(倫理的な問題を含む)について学ぶ。 [授業外学習] ICTに関する自分自身の能力をまとめておく。
③	[テーマ] コミュニケーションスキルの基礎② [内容] 電話の応対や挨拶の仕方、名刺交換などについて説明をするとともに実践練習を行う。 [授業外学習] ビジネスマナーなどにあるコミュニケーションについて調べる。				⑪	[テーマ] ICT利用の基礎② [内容] DataVolleyの入力にチャレンジする。まず、Data Volleyの基本的な入力方法やソフトウェアの利用方法について学ぶ。 [授業外学習] ソフトウェア等の知識に関して整理する。
④	[テーマ] コミュニケーションスキルの基礎③ [内容] プレゼンテーションを行うために必要となる技能について説明する。 [授業外学習] プレゼンテーションとはどのようなものかを調べる。				⑫	[テーマ] ICT利用の基礎③ [内容] DataVolleyの入力にチャレンジする。前回に引き続き、Data Volleyの基礎を学ぶ。今回は実際に入力を体験してみる。 [授業外学習] タッチタイプなど自分のICTスキルについて確認しておく。
⑤	[テーマ] 文書作成技術① [内容] 基本的なビジネス文書の作成方法を学習する。 [授業外学習] 文書の形式にはどのようなものがあるかを調べる。				⑬	[テーマ] データ処理の基礎① [内容] データを処理するための基礎となる基本的な統計量の定義と算出のために必要となる機序を学ぶ。 [授業外学習] 身の回りのデータ処理事例について調べる。
⑥	[テーマ] 文書作成技術② [内容] 自分が経験した活動を取り上げ、それを報告書の形にまとめる方法を学ぶ。 [授業外学習] 報告書の形式をあらかじめ調べておく。				⑭	[テーマ] データ処理の基礎② [内容] データ処理のための統計的な手法について学ぶ。特に多変量のデータの取り扱いについて解説する。 [授業外学習] 教材として利用するために多変量データを探す。
⑦	[テーマ] 文書作成技術③ [内容] これまでに作成してきた文書をさらに洗練されたものにする方法について学習する。 [授業外学習] ワードプロセッサなど文書作成ツールについて調べる。				⑮	[テーマ] データ処理の基礎③ [内容] 処理されたデータをグラフや表で表現する方法について学ぶ。グラフの種類や図表利用時の決まりなどについて解説する。 [授業外学習] 新聞等にあるグラフや表を集めておく。
⑧	[テーマ] 文章技術① [内容] 文章によって事象を表現する方法について学習する。 [授業外学習] 教材にするための簡単なレポートを作成する。				⑯	[テーマ] まとめとテスト [内容] これまでに学んだことを応用して、レポートをまとめる形式の課題をテストとして課す。 [授業外学習] テストのための準備を行う。
成績評価方法(方針)						
試験は、期末試験を1回実施する(評価割合60%)。また、授業内レポート(評価割合20%)と、授業外レポート(評価割合20%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・授業回の3分の2以上の欠席がある場合には試験を受けることができない。(欠格条件) ・授業計画は進度により多少前後することがあります。
定期試験		◎	○	◎	60%	
授業内レポート		○	○	○	20%	
授業外レポート		○	◎	◎	20%	
演習・実技						
授業態度						
出席						
関連科目	スポーツ情報戦略論実習Ⅰ・Ⅱ、演習A・B・C、の履修を考えている学生は、必ず履修すること。履修しない場合は、実習Ⅰ・Ⅱ、および演習A・B・C、を受講できない場合がある					
教科書	特に指定しない(必要な資料は授業中に配布する)				参考書	特に指定しない(必要な資料は授業中に配布する)
連絡先	栗木研究室E棟(大学院棟)2階(内線336)					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ広報論			担当教員	池田敦司/マーティ・キーナート
	Lecture of public relation activities				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
2011年に「スポーツ基本法」が制定され、スポーツ界、競技団体にガバナンスをもとにした情報開示が求められている。学生が競技団体や行政・企業などでスポーツ情報を扱う広報を目指すには、広報の特性や伝える基礎を知ることが必要である。本授業では基礎をしっかり学ぶと共に、広報やマスコミの現場にいる外部ゲストを交えての実践的な事項も学び、将来の具体的な導きとなるような講義としたい。					
授業の一般目標					
広報やマスコミに関する基礎を学び、具体的な事例に数多く触れることで、一見華々しく見えるマスコミや広報の実際の世界を知る。この分野は地道なコミュニケーションの継続であり、人と人とのつながりをもっとも重要とし、常識や公正な人格が求められる極めて人間的な世界であることを理解する。知識と共に、この分野を目指す自身の方向性を確立する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	スポーツ団体や企業の広報とは何か、コミュニケーション手段はどんなものがある科など理解し説明できるようになる			
□	情意的領域				
■	技能表現的領域	取材とは何か、受けて、聞き手の役割を理解し、ニュース・ソースの発掘～ニュース・リリース作成までの基本を表現できる			
授業計画(全体)					
集中講義で授業を実施するので掲示板の指示に注意すること。前半の基礎編は資料をもとに講義するが必要に応じて視聴覚教材も使用して行う。後半は資料を基に模擬的な体験を伴う授業とし、一人に対し全員で評価をしながら全体での意見発表や討議を交え進めていく。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 広報とは [内容] わが国の広報の現状、広報論をどう学ぶか、スポーツ基本法と広報活動、ステークホルダーとコミュニケーション [授業外学習] シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] 広報・マスコミを目指すには [内容] 外部ゲスト講師とともに、マスコミや広報を目指すにはを知る [授業外学習] 自分なりのメディアの現場について情報を収集する
②	[テーマ] 広報のテクニック [内容] 広報サイドから見た各種メディア特性、広報のテクニック、危機管理広報 [授業外学習] 広報に関するイメージづくりを自分なりにしてみる			⑩	[テーマ] 広報マン(ウーマン)に必要なビジネス・マナー-1 [内容] ゲスト講師とともに、広報マン(ウーマン)さらには社会人として必要なビジネス・マナー、スキルについて知る [授業外学習]
③	[テーマ] 組織・団体の広報活動の事例 [内容] 企業・スポーツ競技団体の広報活動、広報の実際、広報という仕事 [授業外学習] 広報の事例収集をしてみる			⑪	[テーマ] 広報マン(ウーマン)に必要なビジネス・マナー-2 [内容] ゲスト講師とともに、広報マン(ウーマン)さらには社会人として必要なビジネス・マナー、スキルについて知る [授業外学習] 自分なりのメディアの現場について情報を収集する
④	[テーマ] 情報源～広報活動～報道機会までの流れ[ニュース・リリース] ニュース・ソースの発掘、ニュース・リリースの作成、配布、取材対応について、演習 [授業外学習] 広報に関する情報源を想定してみる			⑫	[テーマ] 全体の総括 [内容] ①～⑪までの総括 [授業外学習] これまでの部分をまとめる
⑤	[テーマ] 情報源～広報活動～報道機会までの流れ[取材活動] [内容] 取材のポイント、見出しの付け方、演習 [授業外学習] 広報に関する情報源を想定してみる			⑬	[テーマ] 広報の実際 ケーススタディー① [内容] 取材対応(1)通常時 映像記録による事後評価 [授業外学習] 演習資料を基に取材対応を想定しておく
⑥	[テーマ] 記者会見・記者発表 [内容] 模擬会見(PR、危機管理)、演習 [授業外学習] 記者会見に関する情報を収集する			⑭	[テーマ] 広報の実際 ケーススタディー② [内容] 取材対応(2)緊急時 映像記録による事後評価 [授業外学習] 演習資料を基に取材対応を想定しておく
⑦	[テーマ] 広報にも止められる資質～広報の基礎についてのまとめ [内容] ①～⑥までのおさらい [授業外学習] これまでの部分を総括し復習する			⑮	[テーマ] 広報の実際 ケーススタディー③ [内容] 資料を基にニュースリリース文案を作成する [授業外学習] 演習資料を基に取材対応を想定しておく
⑧	[テーマ] メディアの現場とは [内容] 外部ゲスト講師とともに、マスコミや広報現場の実際を知る [授業外学習] 自分なりのメディアの現場について情報を収集する			⑯	[テーマ] 広報の実際 ケーススタディー④ [内容] 記者会見、記者発表を想定し模擬会見を実施 [授業外学習] 演習資料を基に取材対応を想定しておく
成績評価方法(方針)					
前半は広報の基礎を学ぶもので、理解・習熟度を見る。後半は実践編で、リリース文作成添削評価や取材対応などの演習評価を行う。そして最後に全体の理解度を見る。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート	○				20%
演習・実技	◎				40%
授業態度	◎				40%
出席	◎				欠格条件
*2/3以上の出席のない学生は、単位を修得することができない。(ただしテーマによっては授業のVTRを視聴することで出席を認めることがある)・授業態度の悪い学生は、成績評価から減点する。・授業計画は授業の進み方により、前後することがある					
関連科目					
教科書	「スポーツ広報論」「演習 ニュース・リリース&見出し」「演習 記者会見」「ビジネス・マナー」(以上、腰塚 弘)			参考書	広報・マスコミハンドブック PR手帳
連絡先					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ヒューマンリレーション演習Ⅱ Seminar of Human Relation II			担当教員	栗木一博/藤本晋也
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数	2	
授業の概要					
本授業の前提となる「ヒューマンリレーション演習Ⅰ」において人間関係を構築するために必要とされる基礎的な技術およびそれに付随する考え方について学んできた。この授業においては、それらの基礎的な能力を前提に「ディベート」や「シンポジウム」といったあらかじめ決められた形式において、それらをどのような方法で運営し、それらにどのような態度で臨むかといった応用に関する解説を中心に授業を進めてゆく。					
授業の一般目標					
これまでに学んできたコミュニケーションに関する基礎的な技能に関する復習を行い、その修得に関する確認を行なう。さらに、新しい形式(ディベート、シンポジウムなど)においてそれらを発揮する方法や考え方について学習する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	討論やシンポジウムなどに必要とされるスキルやスキルを獲得するために必要となる考え方などが理解できる。				
■ 情意的領域	論理的思考、論理的言語技術の重要性を理解し、それに対する積極的な興味を持つ				
■ 技能表現的領域	論理的思考、孫理的言語技術などに関する基礎的な技術を獲得する。				
授業計画(全体)					
演習の内容をこれまで学習してきた内容の復習、ディベート、シンポジウムの三つで構成する。受講者をグループに分け、実際に準備から実施までを経験する。さらに、相互評価を実施し、それぞれの優れている点改善が必要な点についてもディスカッションが行えるようにする。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明を行なう [授業外学習] シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] ディベート② [内容] ディベートを実施するための準備をする。ルール(時間配分等)を決定し、グループわけを行い、準備をする。 [授業外学習] ディベートのルール、方法について調べておく
②	[テーマ] プレゼンテーション① [内容] あらかじめ設定されたテーマ、時間などの制約条件がある中でプレゼンテーションを行なう。 [授業外学習] ヒューマンリレーション演習Ⅰで学んだ内容を確認する			⑩	[テーマ] ディベート③ [内容] ディベートを実施するための準備をグループごとに行なう。資料の収集などを実施する。 [授業外学習] ディベートのテーマに関する資料を収集する
③	[テーマ] プレゼンテーション② [内容] これまでに学習してきた内容を振り返り、自由なテーマでプレゼンテーションを行なう。そのための準備を行なう。 [授業外学習] ヒューマンリレーション演習Ⅰの学習内容の確認			⑪	[テーマ] ディベート④ [内容] グループごとにディベートによる対戦を行なう。相互評価を実施するとともにディベートの進行も行なう。 [授業外学習] ディベートの評価方法について考えておく
④	[テーマ] プレゼンテーション③ [内容] 前回の準備のもとにまとめたプレゼンテーションを実施する。相互評価を行なうための評価シートの作成を行なう。 [授業外学習] プレゼンテーションの準備、その評価の方法を考える。			⑫	[テーマ] シンポジウム① [内容] シンポジウムを観察する。コーディネーター、シンポジストなどの役割を理解する。 [授業外学習] シンポジウムとはどのようなものか調べておく
⑤	[テーマ] ディスカッション① [内容] あらかじめ設定された課題をグループワークを通じて解決し、その解決のプロセスを分析する活動を行なう。 [授業外学習] これまでに学んだディスカッションの方法を確認する			⑬	[テーマ] シンポジウム② [内容] シンポジウムを企画する。テーマの設定、役割分担、資料の収集など開催までの準備を行なう。 [授業外学習] シンポジウムのテーマをあらかじめ考えておく
⑥	[テーマ] ディスカッション② [内容] あらかじめ設定された課題をグループワークを通じて解決し、その解決のプロセスを分析し、その内容をプレゼンテーションする。 [授業外学習] これまでの学習内容を確認し、活動に生かす方法を確認する			⑭	[テーマ] シンポジウム③ [内容] シンポジウムを実際に行ってみる。その状況を観察し、評価、フィードバックを行なう。 [授業外学習] シンポジウムに対する評価の観点について考えておく
⑦	[テーマ] ディスカッション③ [内容] ディスカッションを記録する方法を学ぶ。ホワイトボードの使用方法やメモの取り方について理解する。 [授業外学習] 自分がこれまでに行ってきた記録の方法を振り返る。			⑮	[テーマ] シンポジウム④ [内容] シンポジウムを行なう。できるだけ多くの聴衆を集めるように工夫する。 [授業外学習] 聴衆を効果的に集める方法、評価の観点について考えておく
⑧	[テーマ] ディベート① [内容] ディベートとはどのようなものなのかについて理解する。そのルールや必要とされる能力について理解する。 [授業外学習] ディベートとはどのようなものなのか調べておく			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
成績はディベート、シンポジウムなど実際に行われた活動に対する評価(60%)を実施する。さらに、授業時間中および時間外に求められるレポートや提出物に関する評価(40%)を行なう。出席は、評価に加えず欠格条件とする。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート		◎	○		20%
授業外レポート		◎	○		20%
演習・実技		◎		◎	60%
授業態度					
出席					
関連科目					
教科書	特に指定しない(必要な資料がある場合はその都度授業中に配布する)			参考書	特に指定しない(必要な資料がある場合はその都度授業中に配布する)
連絡先	栗木研究室E棟(大学院棟)2階(内線336)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ情報戦略論演習A				担当教員	石丸/栗木/藤本/坪井
	Technical Method of Sport Intelligence A(S.)					
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
<p>スポーツ活動や事業を推進・発展させるためには、素材となる情報(素材情報)を収集し、有用な情報(インテリジェンス情報)へと変換しなければならない。また変換された情報が、効果的に活用されるためには、戦略的なフィードバックや発信が必要となる。本授業では、競技フィールド領域において競技力向上に必要な情報戦略活動を紹介し、それぞれの分野における情報の戦略的かつ効果的な活用の考え方やスキルを学ぶ。</p>						
授業の一般目標						
<p>基本的な要素として、素材情報をインテリジェンス情報に変換していく過程において現場から必要とされる人物像や能力を知るとともに、情報を正確に扱うことを体験的に身につける。また情報のある目的に対して戦略的かつ効果的に活用するための考え方やスキル(ソフトを使用した収集方法や分析・加工方法)を、演習活動を通じて身につける。</p>						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	競技フィールド領域における情報の有効かつ戦略的な取り扱いについて、情報を戦略的かつ効果的に扱う目的やその意義を説明できる。					
■ 情意的領域	競技フィールド領域における情報の有効かつ戦略的な取り扱いについて、インテリジェンス情報を必要とする対象に対して、適切な情報を適切なタイミングで提供しようと心がけることができる。					
■ 技能表現的領域	競技フィールド領域における情報の有効かつ戦略的な取り扱いについて、情報収集、分析、加工、編集、伝達(フィードバック)の基本的スキルを身につける。					
授業計画(全体)						
<p>これまで学んできたスポーツ情報戦略活動をまとめ、競技フィールドで情報戦略スタッフとして実際に活動していくには、どのようなスキルが必要かを確認し、その後、近年スポーツ情報戦略活動で多く使用されている、「スポーツコード」「ダートフィッシュ」を実際使用しながら、さまざまなスポーツ種目をケーススタディーとして取り上げ、演習を繰り返していく。</p>						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習] 授業時に連絡				⑨	[テーマ] スポーツコードを使用した情報戦略活動⑥ [内容] スポーツコードを使用した分析結果の、プレゼンテーションを行う [授業外学習] 授業時に連絡
②	[テーマ] 競技フィールドにおけるスポーツ情報戦略活動の流れ [内容] 競技フィールドにおける、スポーツ情報戦略活動(収集→分析→伝達)の流れを復習する。 [授業外学習] 授業時に連絡				⑩	[テーマ] ダートフィッシュを使用した情報戦略活動① [内容] ダートフィッシュを使用した分析方法の概要(と実際の分析例の紹介など)を学ぶ [授業外学習] 授業時に連絡
③	[テーマ] ソフトを使用したスポーツ情報戦略活動の必要性 [内容] DataVolleyやスポーツコード、ダートフィッシュ等のソフトを使用して情報戦略活動を行うメリットやデメリットを学ぶ。 [授業外学習] 授業時に連絡				⑪	[テーマ] ダートフィッシュを使用した情報戦略活動② [内容] ダートフィッシュを使用して専門種目の収集・分析(演習)を学ぶ [授業外学習] 授業時に連絡
④	[テーマ] スポーツコードを使用した情報戦略活動① [内容] スポーツコードを使用した分析方法の概要(と実際の分析例の紹介など)を学ぶ [授業外学習] 授業時に連絡				⑫	[テーマ] ダートフィッシュを使用した情報戦略活動③ [内容] ダートフィッシュを使用して専門種目の収集・分析(演習)を学ぶ [授業外学習] 授業時に連絡
⑤	[テーマ] スポーツコードを使用した情報戦略活動② [内容] スポーツコードを使用して専門種目の収集・分析(演習)を学ぶ [授業外学習] 授業時に連絡				⑬	[テーマ] ダートフィッシュを使用した情報戦略活動④ [内容] ダートフィッシュを使用して専門外種目の収集・分析(演習)を学ぶ [授業外学習] 授業時に連絡
⑥	[テーマ] スポーツコードを使用した情報戦略活動③ [内容] スポーツコードを使用して専門種目の収集・分析(演習)を学ぶ [授業外学習] 授業時に連絡				⑭	[テーマ] ダートフィッシュを使用した情報戦略活動⑤ [内容] ダートフィッシュを使用した分析結果の、プレゼンテーションを行う [授業外学習] 授業時に連絡
⑦	[テーマ] スポーツコードを使用した情報戦略活動④ [内容] スポーツコードを使用して専門外種目の収集・分析(演習)を学ぶ [授業外学習] 授業時に連絡				⑮	[テーマ] ダートフィッシュを使用した情報戦略活動⑥ [内容] ダートフィッシュを使用した分析結果の、プレゼンテーションを行う [授業外学習] 授業時に連絡
⑧	[テーマ] スポーツコードを使用した情報戦略活動⑤ [内容] スポーツコードを使用した分析結果の、プレゼンテーションを行う [授業外学習] 授業時に連絡				⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)						
<p>評価は、1)分析ソフトの習熟度(50%)、2)授業内外ミニレポート(10%)、3)アウトプット<分析レポート>(20%)、4)プレゼンテーション(20%)で行なう。</p>						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・授業回数の3分の2以上の出席がない場合は単位を修得することができない(欠格条件)。 ・10分以上の遅刻は、欠席として扱う。
定期試験						
授業内レポート		◎		◎	20%	
授業外レポート		◎		◎	20%	
演習・実技		◎	◎	◎	60%	
授業態度						
出席						
関連科目	スポーツ情報マスメディア総論、スポーツ情報戦略概論、スポーツ情報戦略論演習B、スポーツ情報戦略論演習C、スポーツ情報戦略論実習I、スポーツ情報戦略論実習II					
教科書	特に指定しない				参考書	授業で紹介、または参考資料を配布
連絡先	石丸出穂:iz-ishimaru@sendai-u.ac.jp 0224-55-5758(E棟2階)					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ情報戦略論演習B			担当教員	藤本晋也/栗木一博/石丸出穂/坪井俊樹	
	Technical Method of Sport Intelligence B(S.)					
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数			2
授業の概要						
スポーツ活動や事業を推進・発展させるためには、素材となる情報を収集し有用な情報(インテリジェンス情報)へと変換しなければならない。また変換された情報が、効果的に活用されるためには、戦略的なフィードバックや発信が必要となる。本授業では、地域スポーツに焦点を当て地域の組織的な情報戦略活動を演習を通じて、地域スポーツの振興に関わる多様な情報施策を体験するとともにそ活動全体とし本質的な意義について考える。						
授業の一般目標						
地域スポーツにおける情報戦略活動について、その必要性やあり方、役割等について体験を通じて学ぶとともに、個別性の高い現場で求められる情報戦略活動に必要な応用的スキルを身につける。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	地域スポーツの課題、社会的ニーズ、今日のおよび国際的動向などを事例を通して知る				
■	情意的領域	地域スポーツ振興の意義や価値、あるべき姿について、本質的かつ創造的検討を加える視点や態度を身に付ける				
■	技能表現的領域	地域スポーツの振興・発展に必要な方法論について学び、体験学習を通してその重要性や身に付けるためのスキルを理解する				
授業計画(全体)						
各授業テーマに沿った資料を用いた講義を中心にすすめ、グループワークやレポートの発表等も行う。より理解を深めるための視聴覚教材も用いる。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] 地域スポーツとスポーツ情報(4) [内容] 地域スポーツ振興と発展に必要な情報とその活動～学校との接点～ [授業外学習] 授業時に連絡	
②	[テーマ] 地域とスポーツ(1) [内容] 地域社会の構造とスポーツの役割 [授業外学習] 授業時に連絡			⑩	[テーマ] 地域スポーツとスポーツ情報(5) [内容] 地域スポーツ振興と発展に必要な情報とその活動～健康との接点～ [授業外学習] 授業時に連絡	
③	[テーマ] 地域とスポーツ(2) [内容] 地域におけるスポーツ活動の現状と課題 [授業外学習] 授業時に連絡			⑪	[テーマ] 地域スポーツとスポーツ情報(6) [内容] 地域スポーツ振興と発展に必要な情報とその活動～福祉活動との接点～ [授業外学習] 授業時に連絡	
④	[テーマ] 地域とスポーツ(3) [内容] 地域のニーズとスポーツ活動の今後 [授業外学習] 授業時に連絡			⑫	[テーマ] 地域スポーツ振興と制度 [内容] 地域スポーツの活性化と法的整備について考える [授業外学習] 授業時に連絡	
⑤	[テーマ] 地域とスポーツ(4) [内容] 地域スポーツの本質的あり方 [授業外学習] 授業時に連絡			⑬	[テーマ] 地域スポーツ振興と競技力向上 [内容] 国際競技力向上の観点から地域スポーツのあり方を考える [授業外学習] 授業時に連絡	
⑥	[テーマ] 地域スポーツとスポーツ情報(1) [内容] 地域スポーツ振興と発展に必要な情報とその活動～住民の視点から～ [授業外学習] 授業時に連絡			⑭	[テーマ] 地域スポーツ情報の未来 [内容] 地域スポーツ情報の将来について、さまざまな視点から検討を加える [授業外学習] 授業時に連絡	
⑦	[テーマ] 地域スポーツとスポーツ情報(2) [内容] 地域スポーツ振興と発展に必要な情報とその活動～行政の視点～ [授業外学習] 授業時に連絡			⑮	[テーマ] 学習者からの課題に答える [内容] 学習者の意見や質問に対して、考え方や事例、あり方について答える [授業外学習] 授業時に連絡	
⑧	[テーマ] 地域スポーツとスポーツ情報(3) [内容] 地域スポーツ振興と発展に必要な情報とその活動～クラブの視点～ [授業外学習] 授業時に連絡			⑯	[テーマ] 新たなテーマを設定 [内容] 学習者ひとりひとりが、「地域スポーツ情報」についての今後の学習課題を設定する [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
評価は、1)活動への貢献度(特に、グループワーク等における情報発信および情報共有)(50%)、2)授業内外レポート(30%)、3)アウトプット<総括レポート>(10%)、4)プレゼンテーション(10%)で行なう。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験					20%	
授業内レポート		◎		◎	20%	
授業外レポート		◎		◎	20%	
演習・実技		◎	◎	◎	60%	
授業態度						
出席						
履修上の注意(受講学生に望むこと)						
<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件) ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は、授業の進捗により変更することがある。 ・授業内レポート提出等でメールを使用するので添付ファイルが送受信可能なメールアドレス(学内アドレス及びプライベートアドレス)を用意すること。 ・本授業では、本質について考える態度を醸成するとともに、必要とされる考え方やスキル(目的を達成する能力)について学習します。 ・作成したデータが保存できるよう、USB、ポータブルハードディスク等を準備する。 						
関連科目	スポーツ情報マスメディア総論(1年)、スポーツ情報戦略概論(2年)、スポーツ情報戦略論演習A、スポーツ情報戦略論演習C、スポーツ情報戦略論実習Ⅰ(2年)、スポーツ情報戦略論実習Ⅱ(3年)					
教科書	特に指定しない			参考書	参考書授業で紹介、または参考資料を配布	
連絡先	藤本研究室F棟2階(内線:358) mail: sn-fujimoto@sendai-u.ac.jp					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ情報戦略論演習C			担当教員	栗木一博/石丸出徳/藤本晋也/坪井俊樹
	Technical Method of Sport Intelligence C (S.)				
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
スポーツ活動や事業を推進発展させるためには、素材となる情報 (information) を収集し、有用な情報 (intelligence) へと変換しなければならない。またその情報が効果的に活用されるためには、戦略的な発信やフィードバックが必要となる。本授業では、特にスポーツ政策領域に焦点を当て、国際競技力向上や地域スポーツの推進に資する情報の取り扱いについて実践的に学ぶ。					
授業の一般目標					
スポーツ政策の企画・立案、予算の獲得、施策・事業の実施、推進、評価にかかわる情報の有効かつ戦略的な取り扱いについて理解する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	スポーツ政策領域における情報の有効かつ戦略的な取り扱いについて、その考え方や意義を論理的かつ体系的に説明できる。				
■ 情意的領域	スポーツ政策領域における情報の有効かつ戦略的な取り扱いについて、その対象に対して適切な情報コミュニケーションを図ろうと心がけることができる。				
■ 技能表現的領域	スポーツ政策領域における情報の有効かつ戦略的な取り扱いについて、その実践的な情報収集・整理・管理・分析・加工・総合・提供の基本的スキルを身につける				
授業計画(全体)					
本授業では、はじめに国内外のスポーツ政策と情報の関わりについて解説する。次に、具体的な状況設定に基づく情報運用事例を検討する。その後、履修者グループによるプロジェクトを立ち上げ、実践的に情報運用を体験する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法、担当教員の紹介を行う。 [授業外学習] 授業時に連絡			⑨	[テーマ] ケーススタディー⑤ [内容] スポーツ政策の「施策・事業の評価」にかかわる情報運用事例を検討する。 [授業外学習] 授業時に連絡
②	[テーマ] スポーツ政策と情報① [内容] 国内のスポーツ政策において情報が果たしてきた役割について解説する。 [授業外学習] 授業時に連絡			⑩	[テーマ] プロジェクトワーキング① [内容] 架空のスポーツ政策PDCAに関わる「情報チーム」プロジェクトを立ち上げ、実践的に情報を運用する。 [授業外学習] 授業時に連絡
③	[テーマ] スポーツ政策と情報② [内容] 海外のスポーツ政策において情報が果たしてきた役割について解説する。 [授業外学習] 授業時に連絡			⑪	[テーマ] プロジェクトワーキング② [内容] 架空のスポーツ政策PDCAに関わる「情報チーム」プロジェクトを立ち上げ、実践的に情報を運用する。 [授業外学習] 授業時に連絡
④	[テーマ] スポーツ政策と情報③ [内容] 地域のスポーツ政策において情報が果たしてきた役割について解説する。 [授業外学習] 授業時に連絡			⑫	[テーマ] プロジェクトワーキング③ [内容] 架空のスポーツ政策PDCAに関わる「情報チーム」プロジェクトを立ち上げ、実践的に情報を運用する。 [授業外学習] 授業時に連絡
⑤	[テーマ] ケーススタディー① [内容] スポーツ政策の「企画・立案」にかかわる情報運用事例を検討する。 [授業外学習] 授業時に連絡			⑬	[テーマ] プロジェクトワーキング④ [内容] 架空のスポーツ政策PDCAに関わる「情報チーム」プロジェクトを立ち上げ、実践的に情報を運用する。 [授業外学習] 授業時に連絡
⑥	[テーマ] ケーススタディー② [内容] スポーツ政策の「予算」にかかわる情報運用事例を検討する。 [授業外学習] 授業時に連絡			⑭	[テーマ] プロジェクトワーキング⑤ [内容] 架空のスポーツ政策PDCAに関わる「情報チーム」プロジェクトを立ち上げ、実践的に情報を運用する。 [授業外学習] 授業時に連絡
⑦	[テーマ] ケーススタディー③ [内容] スポーツ政策の「施策・事業の実施」にかかわる情報運用事例を検討する。 [授業外学習] 授業時に連絡			⑮	[テーマ] 総括プレゼンテーション [内容] 本授業で学んだことを総括する。 [授業外学習] 授業時に連絡
⑧	[テーマ] ケーススタディー④ [内容] スポーツ政策の「施策・事業の推進」にかかわる情報運用事例を検討する。 [授業外学習] 授業時に連絡			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
評価は①プロジェクトワーキングに対する貢献度(発言、情報提供、役割遂行、プレゼンテーションなど)(50%)、②授業内レポート(30%)、③アウトプット(プロジェクトワーキングの制作物)(20%)とする。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと) *3分の2以上の欠席は欠格条件とし、評価の対象から除外します。
定期試験					
授業内レポート	◎		◎	30%	
授業外レポート	◎		◎	20%	
演習・実技	○	◎	○	50%	
授業態度				減点あり	
出席				欠格条件	
関連科目	スポーツ情報戦略論、スポーツ情報戦略論演習A、スポーツ情報戦略論演習B、スポーツ情報戦略論実習Ⅰ、スポーツ情報戦略論実習Ⅱ、スポーツ起業論				
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
連絡先	栗木研究室(大学院棟2階:内線336)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ情報戦略論実習 I			担当教員	石丸／粟木／藤本／坪井
	Technical Method of Sport Intelligence I (F.E.)				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
「情報戦略」活動には、「競合相手に対応すること」や「外部環境やリスクへ対応すること」といった『外部指向性』のものと、「目標達成のためのプロセス」に代表されるような『内部指向性』のものが存在する。本実習では、あるスポーツ種目の大会において、スポーツ情報戦略活動を実践的に経験し、当該活動の肌感覚を体感するとともに、個人の人間力を高め、実習終了後にこれから何を学ぶ必要があるかを理解する。					
授業の一般目標					
本実習は、競技フィールド系、地域スポーツ系、政策支援系の3つの活動のいずれかを行い、それぞれ技術統計を用いて次のステージへ前進するための気づきや課題を促す資料の提供を行うこと、専門的情報にとどまらず様々な視点からの情報を通し競技者と観戦者を繋げこれからのスポーツについて考えてもらえること、スポーツ活動がさらに推進されることを目指した次回の大会のコンセプトを提案すること、等を目指とする。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	情報を戦略的かつ効果的に扱う目的やその意義を、現場に即して説明できる。				
■ 情意的領域	自らの興味関心や資質が明らかになるとともに、自身にとっての課題が整理される。				
■ 技能表現的領域	自身が志向する情報戦略活動に求められるスキルを身につける。				
授業計画(全体)					
試合ごとのスタッフ(技術統計記録)、大会総括としてテクニカルレポート(大会報告書)を作成し、関係者へフィードバックする(競技フィールド系)。現場のスタッフや応援席からのメッセージを集めそれを大会期間中、閲覧できるようにする(地域スポーツ系)。今回の大会運営や参加チーム、観客をモニター(観察、ヒアリングなど)する。また、必要に応じてスポーツに関わる一般情報やスポーツに関わる情報も収集し、提案作成に活用する(政策支援系)。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習] 授業時に連絡			⑨	[テーマ] オンサイト活動<3> [内容] 実習先での活動を実施する(実施日時は適宜調整)。 [授業外学習] 授業時に連絡
②	[テーマ] 実習活動基礎<1> [内容] 各実習先における情報戦略活動の位置づけ(情報戦略活動の構造) [授業外学習] 授業時に連絡			⑩	[テーマ] オンサイト活動<4> [内容] 実習先での活動を実施する(実施日時は適宜調整)。 [授業外学習] 授業時に連絡
③	[テーマ] 実習活動基礎<2> [内容] 実習先とのコミュニケーションに関わるリテラシー [授業外学習] 授業時に連絡			⑪	[テーマ] オンサイト活動<5> [内容] 実習先での活動を実施する(実施日時は適宜調整)。 [授業外学習] 授業時に連絡
④	[テーマ] 実習活動基礎<3> [内容] 求められるドキュメンテーション&プレゼンテーションとは何か [授業外学習] 授業時に連絡			⑫	[テーマ] 事後活動 [内容] 策定された計画に基づき、実習活動を総括し、ドキュメンテーションを作成する。また、実習先との事後連絡を完結させる。 [授業外学習] 授業時に連絡
⑤	[テーマ] 事前活動<1> [内容] 各実習対象に合わせた個別の実習計画を策定。策定された計画に基づき、各種準備や実習先とのコミュニケーションを実施する。 [授業外学習] 授業時に連絡			⑬	[テーマ] ドキュメンテーション&プレゼンテーション<1> [内容] 実習で得られた知見を、ドキュメンテーションの配布とプレゼンテーションにより共有する。実習活動に関する相互評価を実施する。 [授業外学習] 授業時に連絡
⑥	[テーマ] 事前活動<2> [内容] 各実習対象に合わせた個別の実習計画を策定。策定された計画に基づき、各種準備や実習先とのコミュニケーションを実施する。 [授業外学習] 授業時に連絡			⑭	[テーマ] ドキュメンテーション&プレゼンテーション<2> [内容] 実習で得られた知見を、ドキュメンテーションの配布とプレゼンテーションにより共有する。実習活動に関する相互評価を実施する。 [授業外学習] 授業時に連絡
⑦	[テーマ] オンサイト活動<1> [内容] 実習先での活動を実施する(実施日時は適宜調整)。 [授業外学習] 授業時に連絡			⑮	[テーマ] 振り返りと総括 [内容] 実習活動全体を振り返り、成果を評価するとともに、自身の課題を整理する。 [授業外学習] 授業時に連絡
⑧	[テーマ] オンサイト活動<2> [内容] 実習先での活動を実施する(実施日時は適宜調整)。 [授業外学習] 授業時に連絡			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
評価は、1)実習活動(50%)、2)授業内外ミニレポート(30%)、3)アウトプット<ドキュメンテーション>(10%)、4)プレゼンテーション(10%)で行なう。活動の過程については教員の観察に基づく評価を行なう。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート		◎		◎	20%
授業外レポート		◎		◎	20%
演習・実技		◎	◎	◎	50%
授業態度			◎		10%
出席					
この実習 I の対象学生は、原則「スポーツ情報戦略概論」を受講した学生を前提としている。また、2泊3日の宿泊を含む実習である。宿泊料金も個人負担となる。よりリアルな情報戦略活動を経験してもらうための実習であることを理解する。(実習中の他の授業に対しては、欠席届で対応)詳しい内容は、最初のオリエンテーションで説明。オリエンテーションに出席できない学生は、履修出来ない可能性があるため、希望者は必ず出席すること。質問がある学生は、下記まで連絡すること。授業回数の3分の2以上の出席がない場合は単位を修得することができない(欠格条件)。					
関連科目	スポーツ情報マスメディア総論、スポーツ情報戦略概論、スポーツ情報戦略論演習A、スポーツ情報戦略論演習B、スポーツ情報戦略論演習C、スポーツ情報戦略論実習 II				
教科書	特に指定しない			参考書	
連絡先	石丸出穂:iz-ishimaru@sendai-u.ac.jp 0224-55-5758 (E棟2階)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ情報戦略論実習Ⅱ			担当教員	粟木一博/石丸出穂/藤本晋也/坪井俊樹
	Technical Method of Sport Intelligence II (F.E.)				
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
グローバルな視点からスポーツの推進にかかわる情報を扱うことを実践的に学ぶとともに、将来のキャリアに対する結節点を自ら作り出すことをねらいとして実習を展開する。					
授業の一般目標					
卒業のキャリアで目指す職場を経験する中で、スポーツ情報を扱う人材に求められる「資質」や「能力」、「スキル」、「人物像」を体験的に知るとともに、実習後のコミュニケーションが可能な人間関係を構築する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	スポーツ情報を扱う人材に求められる「資質・能力・スキル・人物像」を知る。			
■	情意的領域	現場で、そこで働く人々と純粋に努力することができる。			
■	技能表現的領域	現場体験を通じて情報を扱う感覚や大事なポイントを把握し、体現することができる。			
授業計画(全体)					
受講者一人一人が現場に出て活動を行う。当該現場で業務に従事する人に密着し、多様な状況におけるその人物の行動や仕事に対する姿勢などを注意深く観察する。事前に活動の計画書を準備し、現場ではその枠組みに沿ってインタビューなどを行い人物像や仕事の内容を理解する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]オリエンテーション [内容]授業の目標と進め方、成績評価の方法、教員の紹介などを行う。 [授業外学習]授業時に連絡			⑨	[テーマ]オンサイト活動② [内容]各自がそれぞれの実習先に出向いて3日間の活動を行う。 [授業外学習]授業時に連絡
②	[テーマ]スポーツ情報戦略の仕事①<競技フィールド系> [内容]スポーツ情報を扱う仕事(業務内容な就職など)の現状について学ぶ [授業外学習]授業時に連絡			⑩	[テーマ]オンサイト活動③ [内容]各自がそれぞれの実習先に出向いて3日間の活動を行う。 [授業外学習]授業時に連絡
③	[テーマ]スポーツ情報戦略の仕事②<地域スポーツ系> [内容]スポーツ情報を扱う仕事(業務内容な就職など)の現状について学ぶ [授業外学習]授業時に連絡			⑪	[テーマ]オンサイト活動④ [内容]各自がそれぞれの実習先に出向いて3日間の活動を行う。 [授業外学習]授業時に連絡
④	[テーマ]スポーツ情報戦略の仕事③<政策支援系> [内容]スポーツ情報を扱う仕事(業務内容な就職など)の現状について学ぶ [授業外学習]授業時に連絡			⑫	[テーマ]オンサイト活動⑤ [内容]各自がそれぞれの実習先に出向いて3日間の活動を行う。 [授業外学習]授業時に連絡
⑤	[テーマ]事前準備ワーキング① [内容]実習活動に入るための事前準備を行う。 [授業外学習]授業時に連絡			⑬	[テーマ]プレゼンテーションとディスカッション① [内容]オンサイトワーキングに関する報告プレゼンテーションを行い、それぞれの知見について討議する。 [授業外学習]授業時に連絡
⑥	[テーマ]事前準備ワーキング② [内容]実習活動に入るための事前準備を行う。 [授業外学習]授業時に連絡			⑭	[テーマ]プレゼンテーションとディスカッション② [内容]オンサイトワーキングに関する報告プレゼンテーションを行い、それぞれの知見について討議する。 [授業外学習]授業時に連絡
⑦	[テーマ]事前準備ワーキング③ [内容]実習活動に入るための事前準備を行う。 [授業外学習]授業時に連絡			⑮	[テーマ]総括 [内容]本授業で学んだことを振り返る。 [授業外学習]授業時に連絡
⑧	[テーマ]オンサイト活動① [内容]各自がそれぞれの実習先に出向いて3日間の活動を行う。 [授業外学習]授業時に連絡			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
評価は主に、①事前準備課題、②実習レポート、③プレゼンテーションの3点によって行われる。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート	○			○	30%
授業外レポート	○			○	20%
演習・実技	○	○		○	50%
授業態度					
出席					
関連科目	スポーツ情報戦略論、スポーツ情報戦略論演習A、スポーツ情報戦略論演習B、スポーツ情報戦略論演習C、スポーツ情報戦略論実習Ⅰ、スポーツ起業論				
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
連絡先	粟木研究室(大学院棟2階:内線336)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ報道概論			担当教員	山内 亨	
	Introduction to Sports Journalism (L.)					
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数			2
授業の概要						
本授業は新聞、テレビ、Webなどのメディアでスポーツ報道がどのように行われ、どんな役割効果と問題を呈しているか読み解き、様々な例を紹介し、スポーツ報道の原点を立体的に講義するものである。						
授業の一般目標						
実際のスポーツ報道はどのように行われているかと言った基本、仕組みを知り、制作者の目線、読者・視聴者目線の両方から読み解いていく。特に取材者が表現に当たって抱える課題を整理し自分が記者として現場で取材する場合の心構え・思考能力を身に着ける。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	スポーツ報道の現状を知り現場で何が行われ、どう行動するか理解できるようになる				
■	情意的領域	それぞれのスタッフの役割を知り、何が大変で問題か？どう行動すべきか理解し自身が取り組む際の考え方を整理できる				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
テキストは毎回その直前に報じられたスポーツ報道。パワーポイント、映像ビデオを多用し具体的な例を提供し講義ディスカッションを通し多角的に表現の方法論や問題点を明らかにする。直近のスポーツ報道を扱うことからシラバス通りに進行しない場合もある。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション スポーツ報道とは [内容] シラバス・授業の進め方紹介 & スポーツ報道の歴史と読者・視聴者 [授業外学習] できる限り多くのスポーツ報道に触れる			⑨	[テーマ] スポーツ報道における見出しと本記 [内容] 見出し・記事から記者が何処に焦点を当てたか論じる [授業外学習] 見出しから意味するものを考える	
②	[テーマ] スポーツ報道のポジションと影響力 [内容] スポーツ報道の受け取られ方を検証 [授業外学習] 自身のスポーツ報道への向き合い方を振り返る			⑩	[テーマ] スポーツ報道と映像 [内容] スチール・ムービーその撮影と編集、映像表現の意味と効果を考える [授業外学習] 映像表現の違いを考える	
③	[テーマ] スポーツ報道の現状と問題 [内容] 事例分析①スポーツ報道の視点・目線 [授業外学習] スポーツが伝えるものは何？各自の考えを問う			⑪	[テーマ] 事例研究①新聞雑誌 [内容] スポーツ報道における印刷媒体の効果・優位点考える [授業外学習] 新聞雑誌を読み印刷媒体のスポーツ報道の実際を知る	
④	[テーマ] スポーツ報道の約束事 [内容] スポーツシーンが紙面・放送されるまで [授業外学習] スポーツは権利の塊 スポーツの権利とは何か考えておく			⑫	[テーマ] 事例研究②テレビ [内容] スポーツ報道(番組)の実際と影響力を考える [授業外学習] テレビで伝えるスポーツをできるだけ視聴する	
⑤	[テーマ] 記者・ディレクターの仕事と視点①スポーツ現場 [内容] 現場の仕事と視点の理解からスポーツ報道を考える [授業外学習] 記事・番組ごとの表現の違いを見つける			⑬	[テーマ] 事例研究③インターネット・ニューメディア [内容] 新しい媒体でのスポーツ報道の実際と問題を考える [授業外学習] Webで伝えられるスポーツ報道に触れてみる	
⑥	[テーマ] 記者・ディレクターの仕事と視点②着眼点 [内容] 仕事の仕方、視点の違いでスポーツ報道は印象を変える その違いは何か考える [授業外学習] 同じ内容から表現の違いを見つけ論じる			⑭	[テーマ] スポーツ報道の未来 [内容] 新聞・テレビ離れの中でスポーツ報道の未来について考える [授業外学習] スポーツ報道と読者・視聴者の温度差の理由を考える	
⑦	[テーマ] デスク・プロデューサーの仕事と視点① [内容] スポーツ現場と読者・視聴者の向き合い方を学ぶ [授業外学習] 各社の違いを見つけ、何で違いが生じたか考えておく			⑮	[テーマ] スポーツ報道概論総括ディスカッション [内容] どうすればスポーツ報道が多くの人に受け入れられるか考える [授業外学習] ディスカッションの準備	
⑧	[テーマ] デスク・プロデューサーの仕事と視点② [内容] デスク・プロデューサーの具体的な仕事を考える [授業外学習] 記者一人で報道できないことを知る			⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・各自の考え方の深化・整理の度合いをテスト [授業外学習] 復習と各自の考え整理	
成績評価方法(方針)						
試験は期末テスト1回実施(評価割合は60%)授業内意見発表・レポート(評価割合40%)で総合評価						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験		◎			60%	<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席ない者は期末試験の受験資格が無い ・授業態度悪い学生は成績評価から減点 ・多くのスポーツに接する。スタジアム観戦が最良だがテレビ視聴でも ・スポーツ情報を伝えることを楽しむ(スポーツを話題にする) ・自分の考えを文章に書き、自分の言葉で説明できる訓練をする ・シラバスは授業の進み方、理解の程度で前後したり内容変更がある
授業内レポート					20%	
授業外レポート		◎			20%	
演習・実技					評価対象外	
授業態度					減点対象	
出席					欠格条件	
関連科目	メディア関連の必修科目すべて					
教科書	特になし 日々の新聞・テレビが伝える報道内容が授業素材	参考書		スポーツジャーナリズムを語る(玉木正之著)		
連絡先	山内研究室 E棟2階 水曜10:30～12:30オフィスアワー					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	マスメディアジャーナリズム理論			担当教員	高橋義夫/斎藤博
	Mass Media and Journalism Studies				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
ジャーナリズムとメディアの理論概念を講義する。新聞、放送、インターネットの特徴を説明し、今日のメディアのあり方について考える。					
授業の一般目標					
この授業を通してマスメディアとジャーナリズム研究の基本概念とは何かを知り、そのほかにコミュニケーション理論、ジャーナリズムの倫理観などについても修得できる。メディアを批判的な視点から思考する能力を身に着ける。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	マスメディアとジャーナリズムの基本概念と理論について説明できる			
■	情意的領域	マスメディアとジャーナリズムといった社会的営為に対して興味と関心を持つようになる			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
各テーマに沿って資料と視聴覚教材を用いて講義する。各授業ごとに課題と感想文を授業内レポートとして提出させることで、理解度と授業参加度を確認する。また、オープンな形で学生との意見交換と議論の時間も設け、対等的な立場からコミュニケーションを図る。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスと成績評価の説明 [授業外学習]シラバスを事前に読むこと			⑨	[テーマ] 放送の公共性概念と公共放送 [内容] メディアの社会における公共的役割、公共放送の実態と規範 [授業外学習]日本の公共放送について調べること
②	[テーマ]マス・コミュニケーション、メディア、ジャーナリズム [内容] マス・コミュニケーション、メディア、ジャーナリズムについてそれぞれの意味を考える [授業外学習]メディアなど3つの用語について調べること			⑩	[テーマ] ジャーナリズムの倫理観 [内容] ジャーナリストの倫理をめぐる諸問題 [授業外学習]オウム真理教事件について調べること
③	[テーマ] 2大メディア(新聞、テレビ)の現状 [内容] 各種調査結果を紹介し、新聞とテレビを取り巻く環境について探る [授業外学習]身近なメディアの歴史を調べること			⑪	[テーマ] 言論・報道の自由 [内容] 言論・報道の「日本的」自由について紹介する [授業外学習]「検閲制度」について調べること
④	[テーマ] マス・コミュニケーション理論①、②、③ [内容] ①1910～40年代②1940～60年代中葉③1960年代後半～今日までの各効果理論を中心に紹介する [授業外学習]マスメディアの歴史を復習すること			⑫	[テーマ] ジャーナリズムとナショナリズム [内容] ナショナリズムを紹介し、メディアによって作り上げられたナショナルな言説を中心に考える [授業外学習]ナショナリズムの意味を調べること
⑤	[テーマ] メディアリテラシー [内容] メディアリテラシーを考える [授業外学習]各効果理論の内容を復習し、メディアリテラシーを再考すること			⑬	[テーマ] 客観報道 [内容] 客観報道原則の歴史を振り返り、新聞の署名記事、社説についてふれる [授業外学習]「発表ジャーナリズム」について調べること
⑥	[テーマ] 取材活動の実際 [内容] 「ニュース」とは何か、ジャーナリストは「ニュース」をどう見つけ、取材し、表現しているのかを考える [授業外学習]「ニュース」の定義を調べてくること			⑭	[テーマ] ジャーナリズムと人権思想 [内容] 「犯罪報道と人権」を中心に考え、報道現場の現状を探る [授業外学習]「匿名報道」「差別」について調べること
⑦	[テーマ] 世論・世論操作・世論調査 [内容] 世論調査について紹介し、「世論とは何か」を考える [授業外学習]世論と輿論について調べること			⑮	[テーマ] メディアの事例を中心にディスカッション [内容] これまで勉強してきた諸理論とメディアとの関連をもう一度振り返りながら、ディスカッションを行う [授業外学習]諸理論を復習すること
⑧	[テーマ] 放送メディア [内容] 近代における放送メディアが登場した歴史的経緯と社会的意味 [授業外学習]身近な放送メディアの歴史を調べること			⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度、到達度を確かめる [授業外学習]テストに備えて復習すること
成績評価方法(方針)					
期末試験(80%)、授業内レポート(20%)。出席は評価割合に加えず、欠格条件とする。また、積極的な授業参加については加点もある。レポート等は、原則として提出の翌週に評価コメントを付して返却する。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験	○			80%	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できない場合もある。 ・毎回の配布資料を持参し、ノートをとること。 ・5回以上欠席の学生は、単位を修得することができない(欠格条件)。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
授業内レポート	○	○		20%	
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席					
関連科目					
教科書	特に指定しない			参考書	授業で紹介し、関連資料を配布する
連絡先	高橋義夫研究室(5体3階)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ報道・映像制作論			担当教員	山内 亨
	Sports Journalism & Broadcasting (L.)				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
本授業はメディアのスポーツ報道で求められる映像の価値、映像取材・編集の意味・方法、映像分析など映像制作における表現手法と問題を考察する。					
授業の一般目標					
スポーツ報道は映像で表現すると極めてわかりやすい。この科目では映像のプロの仕事を理解し、良い映像か不十分な映像かを判断できるよう映像の基礎を学ぶ。ただし映像を撮影する技法を身につけ映像カメラマンのプロを目指すものではない。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	スポーツ報道における映像の持つ意味を理解し説明できる			
■	情意的領域	スポーツ映像の撮影で自分がカメラマンならこのように撮影したいと意見が言える			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
スポーツ報道の中の映像に焦点を当てその具体的な方法論・手法を講義。映像の役割を具体例をビデオで確認しながらそれぞれの場面に応じた現状の問題を明らかにしていく。手法と映像価値を理解することで次の段階で自らコンテンツを作る際の基礎とする。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション「スポーツ映像はどの様に伝えられるか」 [内容] 担当教員紹介と授業の進め方、シラバス、成績評価を説明。 [授業外学習] 常にスポーツ映像がどの様に報じられているか注意払う			⑨	[テーマ] スポーツ番組の映像手法 [内容] 番組制作時に検討する映像内容を考える [授業外学習] スポーツ番組の良い映像足りない映像を考える
②	[テーマ] 取材者・表現者のスタンス [内容] 熱心なファンとプロの映像記者の境界線 その違いから映像の仕事を知る [授業外学習] 好きで見るとは異なる視点を考えて見る習慣作る			⑩	[テーマ] スポーツ表現①映像の中の文章 [内容] 映像の中にも文章がある 映像と文章の関係を知り、考察する [授業外学習] 文章を映像にするにはを考えると
③	[テーマ] スポーツを伝える①映像取材:見る、知る、探す [内容] 映像取材の基本を知り・考える [授業外学習] 新聞テレビで紹介されたニュースから取材現場・方法を考える			⑪	[テーマ] スポーツ表現②映像と言葉 [内容] 映像の中の言葉を考える [授業外学習] 言葉を補う映像表現の世界を意識する
④	[テーマ] スポーツを伝える②撮影取材現場の問題 [内容] 映像取材現場ではアクシデントがつきもの どう乗り越える [授業外学習] その時自分ならどんな行動を取るかシミュレーション			⑫	[テーマ] スポーツ表現③映像の独り言 [内容] 映像が語る世界のインパクト [授業外学習] 言葉以上に説得力のある映像を探す
⑤	[テーマ] スポーツを伝える③映像表現の境界線 [内容] 取材した映像を何処まで、どんな手法で表現して良いか考える [授業外学習] 疑問に思ふ伝え方をチェックしておく			⑬	[テーマ] スポーツ表現④映像構成編集の力 [内容] 単純に並べる映像表現から意図を持った順番で説得力の向上 [授業外学習] スポーツドキュメンタリーを見る
⑥	[テーマ] スポーツを伝える④様々な映像表現手法 [内容] 一つの事象も映像表現の撮影の視点・方法は無数 映像表現の実際を考える [授業外学習] いくつもの表現の切り取り方と表現手法を考える			⑭	[テーマ] スポーツ報道映像の光と影 [内容] 興行権著作権と映像取材の問題について [授業外学習] 身の回りの著作権についての理解
⑦	[テーマ] スポーツを伝える⑤スポーツ映像を考える(評論) [内容] 判れば良い映像から映像が伝えるスポーツ評論までを考える [授業外学習] 色々な考え方があることを知る			⑮	[テーマ] 新しいメディアと映像 [内容] 未来のスポーツ映像報道の問題をディスカッション [授業外学習] Web界のスポーツ映像の状況を知り整理しておく
⑧	[テーマ] スポーツ中継の手法 [内容] 様々なスポーツの伝え方の中から中継の仕組み問題を読み解く [授業外学習] 前週末のスポーツテレビ中継を見る			⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度、各自の考え方の深化・整理度合いをテスト [授業外学習] テストに備え復習と各自考えの整理
成績評価方法(方針)					
試験は期末テスト1回実施(評価割合は60%)授業内外意見発表・レポート(評価割合40%)で総合評価					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			60%
授業内レポート			○		20%
授業外レポート		◎			20%
演習・実技					評価対象外
授業態度					減点あり
出席					結核条件
履修上の注意(受講学生に望むこと)					
<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席ない者は期末試験の受験資格が無い ・授業態度悪い学生は成績評価から減点 ・多くのスポーツに接する。スタジアム観戦が最良だがテレビ視聴でも ・スポーツ情報を伝えることを楽しむ(スポーツを話題にする) ・自分の考えを文章に書き、自分の言葉で説明できる訓練をする ・シラバスは授業の進め方、理解の程度で前後したり内容変更がある 					
関連科目	メディア関連のコース必修科目全て				
教科書	必要に応じプリントを配布			参考書	指定しないが映像撮影・編集技術入門書(各出版社)
連絡先	研究室:大学院棟2階 オフィシアワー 水曜10:20~12:20				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ取材・報道演習A Sports Reporting and Writing A(S.)			担当教員	高橋義夫・齋藤 博	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数			2
授業の概要						
本授業はマスメディアの中で最も歴史がある新聞報道の特徴などについて講義を行う。日本の新聞の構成と内容、それにスポーツニュースの特徴についても考える。そのあとに各自スポーツの試合とスポーツシンポジウムを実際に取材して新聞記事を書く。						
授業の一般目標						
新聞がどう構成されその内容はどうなっているのかなど新聞の特徴や特性を知ることができる。また、スポーツ記事については日本の一般紙、スポーツ紙を分析するなどして特徴が理解できる。そのうえでスポーツの試合などを実際に取材し、記事を書き、創造性、独自性を磨く。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	新聞がどう構成され、それぞれの面の記事の特徴は何かを説明出来る。スポーツ面については客観性をもって読むことができる。				
■	情意的領域	新聞を身近なメディアとして捉えられるようになる。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
大きく三つに分け①授業テーマに沿った資料を用いた演習②理解度・到達度を確認するためにスポーツ取材をし記事を提出させる③スポーツシンポジウム等取材し記事を提出させる。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] 執筆② [内容] 取材した内容を記事にする [授業外学習]記事を完成させる	
②	[テーマ] 新聞の内容と構成 [内容] 全国紙、地元紙を読んでそれぞれの特徴をみていく [授業外学習]少なくとも一紙を読んでその新聞の特徴をまとめる			⑩	[テーマ] 執筆③ [内容] 取材した内容を記事にする [授業外学習]記事を完成させる	
③	[テーマ] 新聞の社説とコラム [内容] 新聞の社説とコラム [授業外学習]社説とコラムをそれぞれ一つ読んで感想をまとめる			⑪	[テーマ] 発表 記事提出 [内容] 完成した記事を発表し提出する [授業外学習]記事を完成させる	
④	[テーマ] 新聞の社会面 [内容] 全国紙、地元紙の社会面を読んで紙面や記事を分析する [授業外学習]社会面の特集記事を読んで感想をまとめる			⑫	[テーマ] スポーツシンポジウム取材 準備 [内容] イベント取材の基本的な方法などをレクチャーし準備をする [授業外学習]スポーツイベントの記事を読んでくる	
⑤	[テーマ] 新聞のスポーツ面 [内容] 全国紙、地元紙のスポーツ面を読んで紙面や記事を分析する [授業外学習]スポーツ面の特集記事を読んで感想をまとめる			⑬	[テーマ] スポーツシンポジウム取材 [内容] スポーツシンポジウムを実際に取材する [授業外学習]スポーツイベントの記事を読んでくる	
⑥	[テーマ] スポーツ取材の準備 [内容] スポーツ取材の基本的な方法などをレクチャーし準備をする [授業外学習]スポーツ中継を見てくる			⑭	[テーマ] 執筆① [内容] 取材した内容を記事にする [授業外学習]記事を完成させる	
⑦	[テーマ] スポーツ取材 [内容] スポーツの試合を実際に取材する [授業外学習]スポーツ中継を見てくる			⑮	[テーマ] 執筆② [内容] 取材した内容を記事にする [授業外学習]記事を完成させる	
⑧	[テーマ] 執筆① [内容] 取材した内容を記事にする [授業外学習]記事を完成させる			⑯	[テーマ] 発表 記事提出 [内容] 完成した記事を発表し提出する [授業外学習]記事を完成させる	
成績評価方法(方針)						
授業外レポート(評価割合80%)、授業内レポート(20%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加え、欠格条件とする。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験						
授業内レポート		◎	◎		20%	
授業外レポート		◎	◎		80%	
演習・実技						
授業態度						
出席						
履修上の注意(受講学生に望むこと)						
<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じておくこと。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。 						
関連科目						
教科書	特になし			参考書	特になし	
連絡先	齋藤研究室:E棟2階・2オフィスアワー:月曜日12:40~14:10 高橋研究室 5体3階					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	取材・報道演習 B			担当教員	齋藤/佐々木/山内
	Interview & Report B(S.)				
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					
<p>本授業はスポーツ報道について学習してきた講義・実習を基にビデオ映像を用いたスポーツ報道を体験するものである。数人のグループで協力し放送素材を作り上げる中で問題点を確認する。</p>					
授業の一般目標					
<p>演習はニュース素材とミニ企画をグループで協力し作り上げるが、情報収集から撮影編集まで無から有を作り出す面白さを体験すると共にコンテンツを作る問題点の再確認を行い映像を使用してスポーツのすばらしさを伝える手法を理解表現する。</p>					
授業の到達目標					
■	認知的領域	各自が考える表現を可能にする知識を習得し自由に使う知識を持つ			
■	情意的領域	よりわかりやすく見る人を引きつける様々なアイデア・工夫が出来る			
■	技能表現的領域	作品制作に使うカメラ、編集機の扱いを理解し各自が思う表現を可能にする知識を習得			
授業計画(全体)					
<p>数人のグループ間で何を取材するかを検討、機材のやりくりから取材先のアポイントメント編集方針の確認と具体的作業を通しスポーツを映像で伝える初歩を体験しできあがりの素材の問題を全体で確認する。授業を通しての制作過程はポートフォリオにまとめ提出する。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	<p>[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方、成績評価方法、情報集めを考える [授業外学習] 周囲のスポーツ情報に関心を持ち表現したい素材を考えておく</p>			⑨	<p>[テーマ] 作品合評① [内容] 表現の切り口、内容を合評 他の表現方法無いかも検討 [授業外学習] 他のチームの作品を自分なら如何表現するか考える</p>
②	<p>[テーマ] 演習の準備① 取材機材の操作確認 [内容] カメラ操作の基本と撮影の実際を機材を使用し学ぶ [授業外学習] テレビのニュース映像を「どんな映像」を使っているか意識する</p>			⑩	<p>[テーマ] 演習「ミニ企画」とは [内容] テーマを考えミニ企画で描く世界を話し合う、取材先に許可取る [授業外学習] ストレートニュースとは違う企画ニュースを放送の中で調べる</p>
③	<p>[テーマ] 演習の準備② 編集機材の操作確認 [内容] 編集の実際を編集機を実際操作し学ぶ [授業外学習] ニュース映像がどんなつながりで表現されているか注意してみる</p>			⑪	<p>[テーマ] 企画ニュース取材① [内容] どのように描くか検討。現場打ち合わせと実際の取材活動 [授業外学習] 取材情報を共有し担当教員にアドバイスを受ける</p>
④	<p>[テーマ] 情報収集と自分のテーマ作り [内容] 情報を整理し伝えたい内容の話し合い [授業外学習] 情報内容の精査と周辺情報に注意を払う</p>			⑫	<p>[テーマ] 企画ニュース取材② [内容] どのように描くか検討。現場打ち合わせと実際の取材活動 [授業外学習] 取材情報を共有し担当教員にアドバイスを受ける</p>
⑤	<p>[テーマ] 取材アポ取りと段取り①ニュース [内容] 事前取材と取材の方法・ポイントを話し合う [授業外学習] 放送されているスポーツニュースを数多く見てポイントを整理</p>			⑬	<p>[テーマ] 作品まとめ作業①どのように表現するか [内容] 構成を考え原稿を書き、編集する [授業外学習] 何も知らない他人に説明できているか問いかける</p>
⑥	<p>[テーマ] 取材①ニュース [内容] スポーツ現場に出て当日の流れを確認し取材に入る [授業外学習] 取材をイメージし想定取材を頭に描く</p>			⑭	<p>[テーマ] 作品まとめ作業②仕上げ作業 [内容] 映像編集・MA・CG・BGMなど見せるための仕上げ作業 [授業外学習] ニュース企画の番組を見て参考にする</p>
⑦	<p>[テーマ] 取材②ニュース [内容] 取材した内容の確認と表現する際に足りない映像を話し合う [授業外学習] どんな映像が撮影され伝える内容が映像化されているか考える</p>			⑮	<p>[テーマ] 作品合評② [内容] 他の作り方はなかったか各グループ間で意見出し合う [授業外学習] 他チームの表現方法を参考に作り方のバリエーションを覚える</p>
⑧	<p>[テーマ] ニュース編集と原稿 [内容] 表現内容を話し合い編集作業に入る、原稿も合わせて書く [授業外学習] 取材してある素材ラッシュを事前に見ておく</p>			⑯	<p>[テーマ] まとめ・作品作りの総括テスト・リポート [内容] ニュース、企画ニュース作りを振り返り [授業外学習]</p>
成績評価方法(方針)					
課題コンテンツ制作の過程と完成努力、意見発表・リポート(ポートフォリオ)で総合評価					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート			◎		40%
授業外レポート		○			20%
演習・実技		○		◎	40%
授業態度					減点アリ
出席					欠格条件
関連科目	メディア関連必修科目全て				
教科書	指定しませんが必要に応じプリント配布			参考書	
連絡先	研究室:大学院棟2階 オフィスアワー:水曜10:30~12:30				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	取材報道演習 C Interview & Report C (S.)			担当教員	齋藤・高橋・佐々木
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数	2	
授業の概要					
<p>本授業はスポーツ報道について学習してきた講義・実習、中でも取材報道演習A, Bで学んだ内容を更に高度に展開し、スポーツ報道を体験するものである。数人のグループで協力し、新聞や雑誌の特集記事、映像ドキュメンタリーを作り上げる中でスポーツ報道の取り上げ方、コンテンツ作りの問題点を確認し理解する。</p>					
授業の一般目標					
<p>演習Cはスポーツを題材に紙媒体を利用した特集記事(読み物)または映像で表現するスポーツドキュメンタリーをグループで協力し作り上げる。情報収集から撮影編集まで技術的に高いレベルで処理すると共に、体育大学生ならではのスポーツへの理解が表現できるようコンテンツ制作に当たる。</p>					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	取材対象を的確に把握して問題点を整理すると共に、表現を工夫し第三者に伝える方法を考え身につける				
■ 情意的領域	取材現場では積極的に対象とテーマに関わり、見る人の論理性と心情を引きつける高度な表現におけるアイデア・工夫をが求める				
■ 技能表現的領域	作品制作に使う様々な機器(カメラ、ワープロ、編集装置)の高度な扱いを理解し、各自が考える表現世界を可能にする技術・手法を習得				
授業計画(全体)					
<p>数人の班を編制し、スポーツ情報を基に活字媒体では特集記事(新聞企画面や雑誌の特集)、映像媒体ではドキュメンタリーコンテンツを制作。その過程はポートフォリオ形式の制作日誌にまとめ作業の中で学んだことを記録。制作過程で数度のチェックを経て完成した作品は全員で合評。その後総合的な判定を行う。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 演習の進め方 活字媒体・映像媒体での作品制作の説明 [授業外学習]			⑨	[テーマ] 取材報告と制作途中経過発表 [内容] [授業外学習]
②	[テーマ] 各自企画持ちより、その後班構成と企画会議 [内容] 各自持ち寄った企画を互いに披露し、グループで対応可能な企画を基に班を構成 [授業外学習]			⑩	[テーマ] 追加取材 [内容] [授業外学習]
③	[テーマ] 取材準備 [内容] 取材先下調べとブレ取材 アポ取り [授業外学習]			⑪	[テーマ] 構成、編集案検討と発表 [内容] [授業外学習]
④	[テーマ] 企画書作成と発表 [内容] [授業外学習]			⑫	[テーマ] 編集作業① [内容] [授業外学習]
⑤	[テーマ] 取材内容整理と発表 [内容] [授業外学習]			⑬	[テーマ] 編集作業② [内容] [授業外学習]
⑥	[テーマ] 取材① [内容] [授業外学習]			⑭	[テーマ] 編集作業③ [内容] [授業外学習]
⑦	[テーマ] 取材② [内容] [授業外学習]			⑮	[テーマ] 編集作業④ [内容] [授業外学習]
⑧	[テーマ] 取材③ [内容] [授業外学習]			⑯	[テーマ] 合評とまとめ [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
取材対象への向き合い方、コンテンツ制作過程の工夫と努力、更に作品に関する意見発表、作品の完成度、ポートフォリオの内容で総合評価					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・2/3以上の出席ない者成績評価を受ける資格が無い ・授業態度悪い学生は成績評価から減点 ・多くのスポーツに接する。スタジアム観戦が最良だがテレビ視聴でも ・スポーツ情報を伝えることを楽しむ(スポーツを話題にする) ・自分の考えを文章に書き、自分の言葉で説明できる訓練をする ・シラバスは授業の進み方、理解の程度で前後したり内容変更がある
定期試験					
授業内レポート		◎		40%	
授業外レポート	○			20%	
演習・実技	○		◎	40%	
授業態度				減点アリ	
出席				欠格条件	
関連科目	メディア関連必修科目全て				
教科書	指定しませんが必要に応じプリント配布			参考書	
連絡先	責任教員 山内研究室:大学院棟2階 オフィスアワー:水曜10:30~12:30				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ取材・報道実習 I Sports Reporting and Writing Internship I (F.E.)			担当教員	高橋義夫・齋藤 博	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	1		
授業の概要						
本授業は新聞社、出版社、それに広報活動で印刷物を発行しているベガルタ仙台などのプロスポーツ球団で実習することが中心になる。そこで学生自らそれぞれの企業がスポーツとどう向き合っているかを体感するとともに、活字メディアを体系化していく。						
授業の一般目標						
活字メディアの現場やPR誌を発行する球団で実習することによりそれぞれの企業や活字というメディアの特徴や現状などを知る。複数の企業で実習してそれぞれが口頭での報告やレポートを提出することにより活字メディアの特徴や現状を体系化して理解できる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	活字メディアやスポーツビジネスの特徴や現状を客観的に理解し、説明できる				
■	情意的領域	直接メディアやスポーツビジネスに接することでこれまでと違う立場から見るができるようになる				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
授業の大半は実習先での研修が主になる。教室での授業は実習の受け入れ先についての資料収集や発表、抱負を語ることと、実習後の口頭報告になる。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] インターンシップ口頭報告 [内容] 報告書に盛り込む要素を意識しながら研修について口頭で報告する [授業外学習]報告できるように準備をしっかりと行う	
②	[テーマ] 実習先についての資料収集・発表、抱負① [内容] 実習先ごとのグループに分かれ分担して資料収集し、発表する [授業外学習]どういった資料を集めるか考えてくる			⑩	[テーマ] 実習⑥ [内容] 実地研修 [授業外学習]実習先で求められたものは必ず用意していく	
③	[テーマ] 実習先についての資料収集・発表、抱負② [内容] 実習先ごとのグループに分かれ分担して資料収集し、発表する [授業外学習]集めた資料を整理するなど発表の準備をする			⑪	[テーマ] 実習⑦ [内容] 実地研修 [授業外学習]実習先で求められたものは必ず用意していく	
④	[テーマ] 実習① [内容] 実地研修 [授業外学習]実習先で求められたものは必ず用意していく			⑫	[テーマ] 実習⑧ [内容] 実地研修 [授業外学習]実習先で求められたものは必ず用意していく	
⑤	[テーマ] 実習② [内容] 実地研修 [授業外学習]実習先で求められたものは必ず用意していく			⑬	[テーマ] 実習⑨ [内容] 実地研修 [授業外学習]実習先で求められたものは必ず用意していく	
⑥	[テーマ] 実習③ [内容] 実地研修 [授業外学習]実習先で求められたものは必ず用意していく			⑭	[テーマ] 実習⑩ [内容] 実地研修 [授業外学習]実習先で求められたものは必ず用意していく	
⑦	[テーマ] 実習④ [内容] 実地研修 [授業外学習]実習先で求められたものは必ず用意していく			⑮	[テーマ] インターンシップ口頭報告 [内容] 報告書に盛り込む要素を意識しながら研修について口頭で報告する [授業外学習]報告できるように準備をしっかりと行う	
⑧	[テーマ] 実習⑤ [内容] 実地研修 [授業外学習]実習先で求められたものは必ず用意していく			⑯	[テーマ] レポート提出 [内容] 正規の実習報告書を作成し提出する [授業外学習]これまで体験したことや調べてきたことをきちんと整理する	
成績評価方法(方針)						
授業外レポート(評価割合80%)、授業内レポート(20%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件とする。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験					80%	
授業内レポート		◎	◎		20%	
授業外レポート		◎	◎			
演習・実技						
授業態度						
出席						
関連科目						
教科書	特になし			参考書	特になし	
連絡先	齋藤研究室:E棟2階・2オフィスアワー:月曜日12:40~14:10 高橋研究室 5体3階					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	取材・報道実習Ⅱ			担当教員	佐々木/齋藤/山内
	Interview & Report Ⅱ (F.E.)				
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	実習	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数	2	
授業の概要					
本授業はスポーツ取材報道・番組制作するプロの現場に学び、トップレベルの考え方、表現技術のノウハウを体験し経験を積む					
授業の一般目標					
地元放送局に出向きスポーツ番組制作、スポーツ報道などを実習する。プロのスポーツ報道についての考え方、映像制作の実際を身近に感じ講義で学んだ内容を確認し表現の奥深さと制作の面白さを体験し表現者としての考え方の糧にする					
授業の到達目標					
■	認知的領域	座学で学んだ知識を実際の放送現場の仕事で再確認			
■	情意的領域	スポーツ表現のプロ現場で働くスタッフの考え方・仕事の充実感を見つめる			
■	技能表現的領域	プロの表現現場で作られる世界に自分なら「こうした方法をとる」と考えてみる			
授業計画(全体)					
東北放送、仙台放送、宮城テレビのスポーツ番組をスタッフの目線で短期集中の実習を行う。事前に座学で番組作りの説明、実際の作業内容の概要説明の講義を10コマ程度行い実習に出る。実習を終えた後、体験報告と番組作り、各自の問題点のまとめの講義を行う。					
授業テーマとその内容					
<p>座学とスポーツ番組制作現場での実習を通してスポーツ報道の現況を理解する。プロの番組制作現場で実習を行うに当たってはまず必要な知識を座学として学び実習に備える。この座学では</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス・番組ができるまで ② スポーツ番組の編成と他の番組の関係 ③ 制作に向けての作業・企画(書)作成 ④ スポーツ中継のフィールドと中継機材 ⑤ カメラポジションと中継車の役割 ⑥ 中継準備とタイムコード説明(広いフィールドゴルフ中継の実際) ⑦ スタジアムと中継の実際(野球中継ディレクターの仕事) ⑧ 当日作業と試合記録・スコアブックの番組制作利用 ⑨ スポーツ番組制作への各局の「こだわり」「つかみ」とは ⑩ 番組テーマと実況・インタビュー ⑪ 各局の中継権利獲得競争と局イメージ ⑫ 各種データの生かし方と番組進行表・現場のコミュニケーション ⑬ 制作体制と球団交渉 ⑭ 国際大会の配信と権利 ⑮ 視聴者を獲得するための合い言葉「つかみ」 <p>プロの番組制作現場でプロが見せる考え方・制作技法を間近に見て学ぶ。実習場所は東北放送、仙台放送、宮城テレビ。東北放送では野球中継、仙台国際ハーフマラソン中継、Jリーグサッカー中継 仙台放送ではスポーツ報道番組「スポルたん」生放送制作現場及び取材先(Kスタ、ユアスタ等)。宮城テレビではゴルフ中継 サッカー番組取材現場等を予定 実習を終え全員で報告会を行いプロの考え技法の問題点を共有し、不明な点は15回開催の座学授業で指導する。実際の研修所日時は各放送局の放送体制を調査し、先方と打ち合わせ後に座学授業内で決定する。実習は15回分の授業相当と考え1日8時間換算で2日～3日の現場実習とする。</p>					
成績評価方法(方針)					
実習レポートと事後の実習内容発表とレポートを総合して評価					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法					到達目標
定期試験	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・プロの中での実習であるので時間、規律を守り迷惑を掛けない ・授業態度悪い学生は成績評価から減点 ・多くのスポーツに接する。スタジアム観戦が最良だがテレビ視聴でも ・スポーツ情報を伝えることを楽しむ(スポーツを話題にする) ・自分の考えを文章に書き、自分の言葉で説明できる訓練をする
授業内レポート	◎			30%	
授業外レポート	◎	◎		40%	
演習・実技			◎	30%	
授業態度				減点アリ	
出席				欠格条件	
関連科目	メディアコース関連必修科目全て				
教科書	特になし、テレビのスポーツ番組を出来るだけ見る			参考書	必要に応じ指示
連絡先	山内研究室:大学院棟2階 オフィスアワー:水曜10:30～12:30				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	グローバルスポーツ情報論 Lecture of global sport intelligence			担当教員	マーティン・キーナート／井上規之／和久貴洋
	開講内容	学年・学期	3・半期		
	履修の方法	選択	単位数	2	関連資格
授業の概要					
国際競技力向上、スポーツ振興などのスポーツを取り巻く状況の中で「情報」が果たす役割は加速度的にその重要性を増している。本講義ではこの情報の果たす役割を「世界」「日本」「地域」というそれぞれの視点から解説するとともに、その現状や課題にも言及する。そして、今後自らが身を投じるであろう「スポーツの現場」における情報活動の在り方を学ぶ。					
授業の一般目標					
① スポーツとそこで取り扱われる情報について理解する。 ② スポーツ振興、国際競技力向上のために必要不可欠な情報活動について理解する。 ③ スポーツ振興、国際競技力向上の情報活動に関する現状および課題の把握、さらにその将来的展望について探求する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	スポーツ情報活動に関する国際的な動向を理解する。さらにその課題や将来像について認識する				
■ 情意的領域	スポーツ情報活動のあるべき姿について本質的かつ創造的検討を加えようとする意欲を身に着ける				
■ 技能表現的領域	スポーツ情報活動に関して具体的な事例を通して学び、それを実際のフィールドの活動として位置付けられるスキルを身に着ける				
授業計画(全体)					
スポーツ情報を「世界」「日本」「地域」の視点からなるべく具体的な事例に基づき講義を実施する。内容によってはワークショップ形式で授業を進める。各内容ごとに授業内レポートや課題レポートを提出してもらい理解度や到達度を確認する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目的と進め方、成績評価の方法について解説する [授業外学習] シラバスの熟読			⑨	[テーマ] スポーツにおける日本と国際社会(1) [内容] スポーツを軸に日本社会と国際社会との関係について概説する [授業外学習] 国際競技力向上をキーワードとした情報を収集する
②	[テーマ] 国際社会とスポーツ情報 [内容] 国際社会におけるスポーツの位置づけについて概観するとともにここではスポーツ情報がどのような役割を担っているかについて解説する [授業外学習] スポーツ情報にはどのようなものがあるか考えておく			⑩	[テーマ] スポーツにおける日本と国際社会(2) [内容] 日本のスポーツと諸外国との関わりについて具体的な事例を交えて解説する [授業外学習] 国際競技力向上をキーワードとした情報を収集する
③	[テーマ] 欧米のスポーツ政策とスポーツ情報 [内容] 欧米のスポーツ政策の現状とスポーツ情報との関連性について解説する [授業外学習] 欧米のスポーツに関する情報を収集する			⑪	[テーマ] 地域スポーツとスポーツ情報(1) [内容] 地域スポーツ振興と発展に必要な情報とその活動について解説するー住民の視点からー [授業外学習] 地域スポーツをキーワードとした情報を収集する
④	[テーマ] 欧米のプロスポーツとスポーツ情報 [内容] 欧米のプロスポーツの現状とスポーツ情報との関連性について解説する [授業外学習] 欧米のスポーツに関する情報を収集する			⑫	[テーマ] 地域スポーツとスポーツ情報(2) [内容] 地域スポーツ振興と発展に必要な情報とその活動について解説するー行政の視点からー [授業外学習] 地域スポーツをキーワードとした情報を収集する
⑤	[テーマ] 国際競技力向上とスポーツ情報 [内容] オリンピックをはじめとする国際競技力向上の舞台においてスポーツ情報がどのような役割を果たしているかについて解説する [授業外学習] 国際競技力向上をキーワードとした情報を収集する			⑬	[テーマ] 地域スポーツとスポーツ情報(3) [内容] 地域スポーツ振興と発展に必要な情報とその活動について解説するー総合型地域スポーツクラブの視点からー [授業外学習] 地域スポーツをキーワードとした情報を収集する
⑥	[テーマ] 日本のスポーツ政策とスポーツ情報 [内容] スポーツ基本法、スポーツ基本計画をはじめとする日本のスポーツ政策の現状について解説するとともにそこで情報が果たす役割について解説する [授業外学習] 国際競技力向上をキーワードとした情報を収集する			⑭	[テーマ] 地域スポーツとスポーツ情報(4) [内容] 地域スポーツ振興と発展に必要な情報とその活動について解説するー学校教育の視点からー [授業外学習] 地域スポーツをキーワードとした情報を収集する
⑦	[テーマ] 日本の国際競技力向上施策(1) [内容] スポーツ情報の視点から日本の国際競技力向上施策について解説する [授業外学習] 国際競技力向上をキーワードとした情報を収集する			⑮	[テーマ] 地域スポーツとスポーツ情報(5) [内容] 地域スポーツ振興と発展に必要な情報とその活動について解説するー健康の視点からー [授業外学習] 地域スポーツをキーワードとした情報を収集する
⑧	[テーマ] 日本の国際競技力向上施策(2) [内容] オリンピックをはじめとする総合国際競技大会における日本の取り組みについて具体的な事例を交えて解説する [授業外学習] 国際競技力向上をキーワードとした情報を収集する			⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
授業への参加態度、ワークショップ・グループワークへの積極的参加や工夫が評価の中心となる。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			30%
授業内レポート		◎	◎		10%
授業外レポート			◎		10%
演習・実技				◎	30%
授業態度			○		10%
出席			○		欠格条件
本授業では、本質について考える態度を醸成するとともに、必要とされる考え方やスキル(目的を達成する能力)について学習する。したがって、授業中、抽象的な事柄に対して考えることや作業を通じて学ぶことを求めます。プレス思考とオープンマインドの姿勢を持って参加してください。					
関連科目					
教科書				参考書	
連絡先					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	マルチメディア論			担当教員	高橋義夫/齋藤博/(学外講師)
	Introduction to multimedia				
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
新聞、テレビ、雑誌、出版などマスメディアを理解するときにデジタル化を抜きには語れなくなっている。単に仕事の手順の中でデジタル化が進行しているのみならずデジタルを媒介に様々なコンテンツ、業態の変化が顕在化している。デジタル化に伴う業態の変化こそマルチメディアと呼ばれるものである。進行するマルチメディア化を各メディア側から俯瞰しこれからのメディアの課題を論じる。					
授業の一般目標					
メディア界で進行するマルチメディア化を理解すると共に、その根底にあるデジタル化の意味と可能性を学び、マルチメディアが抱える諸課題を考え、近未来のマルチメディア社会の問題を考える。 *集中講義になる可能性有りオリエンテーション、掲示に要注意*					
授業の到達目標					
■	認知的領域	デジタル化の意味するところをを理解し、マルチメディアとは何か説明できる			
■	情意的領域	デジタル化が各業界に広がり、コンテンツのみならず業態をも変化させる様子を知らうと興味を持って取り組める			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
マルチメディアの概要を理解した上で、既存のメディアの中で進行するマルチメディア化を確認。各メディアの中で問題となっているマルチメディア化の問題・課題と近未来の 展望、さらにはメディア界全体に与える諸問題をメディア現場を体験した教授陣が講義し共に考える。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] マルチメディアとは何か [内容] オリエンテーションを兼ねマルチメディアとは何かを説明する [授業外学習] シラバス熟読 身の回りのメディアの最近の変化を知る			⑨	[テーマ] 放送界におけるマルチメディア化① [内容] テレビの歴史から見るマルチメディア化 [授業外学習] テレビの歴史を予習
②	[テーマ] マルチメディアの現状 [内容] 驚きの業態変化 [授業外学習] 新聞、テレビ、出版など業界の仕事、サービス内容に目を配る			⑩	[テーマ] 放送界におけるマルチメディア化② [内容] テレビ界のマルチメディア化実態 海外と日本の相違 [授業外学習] 海外、日本のテレビ業界のニュースに注目し現状理解
③	[テーマ] マルチメディアの本質 [内容] 伝達手段の変化とマルチメディアの様相 [授業外学習] コミュニケーションの発達の中でデジタルの位置を考える			⑪	[テーマ] 放送界におけるマルチメディア化③ [内容] テレビコンテンツに関わるマルチメディア化の問題 [授業外学習] コンテンツの中にデジタル化の影響を見つける
④	[テーマ] デジタル化とは [内容] デジタル化の意味するものは何か [授業外学習] デジタル化による生活変化を整理しておく			⑫	[テーマ] 放送界におけるマルチメディア化④ [内容] マルチメディア化が将来の放送(経営)に与える問題 [授業外学習] 放送業界の現状と編成、経営状況など調べておく
⑤	[テーマ] 新聞界におけるマルチメディア化① [内容] 新聞の歴史から見るマルチメディア化 [授業外学習] 新聞の歴史を予習			⑬	[テーマ] 出版界におけるマルチメディア化① [内容] 出版界におけるマルチメディア化の現状 [授業外学習]
⑥	[テーマ] 新聞界におけるマルチメディア化② [内容] マルチメディア化の実態 海外と日本の相違 [授業外学習] 海外や日本の新聞メディアに関するニュースに注目し現状理解			⑭	[テーマ] 出版界におけるマルチメディア化② [内容] マルチメディア化が出版界に及ぼす効果と問題 [授業外学習]
⑦	[テーマ] 新聞界におけるマルチメディア化③ [内容] 新聞コンテンツに関わるマルチメディア化の問題 [授業外学習] コンテンツの中にデジタル化の影響を見つける			⑮	[テーマ] マルチメディアまとめ [内容] 各メディアのマルチ化による効果・影響と将来の書問題 マルチメディア化の受け手の諸問題 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 新聞界におけるマルチメディア化④ [内容] マルチメディア化が将来の新聞社経営に与える問題 [授業外学習] 新聞業界の紙面変化や経営の現状など調べておく			⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
科目としての試験は最終講義時間を実施(評価割合は60%)授業内意見発表・各分野でレポート提出ある場合も(評価割合40%)で総合評価					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験	◎			60%	<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席ない者は期末試験の受験資格が無い ・授業態度悪い学生は成績評価から減点 ・多くのスポーツに接する。スタジアム観戦が最良だがテレビ視聴でも ・スポーツ情報を伝えることを楽しむ(スポーツを話題にする) ・自分の考えを文章に書き、自分の言葉で説明できる訓練をする ・シラバスは授業の進み方、理解の程度で前後したり内容変更がある
授業内レポート		○		20%	
授業外レポート	◎			20%	
演習・実技				評価対象外	
授業態度				減点あり	
出席				欠格条件	
関連科目	メディア関連の必修科目全て				
教科書	必要に応じプリントを配布			参考書	適宜指示
連絡先	科目責任者 山内研究室:大学院棟2階 オフィスアワー 水曜10:20~12:20				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ文化論 Sport Culture			担当教員	齋藤博/高橋/高成田/栗木/斎藤浩二/キーナート/佐々木
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					
スポーツ情報(メディアを含む)を扱う時、その基となるスポーツが人と社会にとってどんな意味を持つかを確認することが重要だ。この授業科目は社会や人々の間でスポーツがどんな役割を果たしているか、まさに暮らしの中のスポーツ存在状況(文化)を知ることを目標にする。社会に表象されるスポーツの諸相を文化という切り口から再確認して欲しいと考える。*オムニバス授業のため回数に示されたテーマが前後することがある*					
授業の一般目標					
体育学部の学生としてスポーツの基礎的な領域である「スポーツ史」「スポーツ社会学」「スポーツ経済学」「スポーツ心理」などを通してスポーツの置かれた状況を学んできた。卒業を前にこれらの科目で学んだことをベースに、社会に広がるスポーツの在り様を文化としてジャーナスティックな視点でとらえ直し、体育大学で学んだ4年間のまとめとして取り組んで欲しい。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	様々な生活領域に、色々な形に変化して展開しているスポーツの状況を改めて見つけ、その役割を認識する			
■	情意的領域	個人の生活や多様な社会の中で形を変えて溶け込んでいるスポーツの価値を改めて自覚し、文化として捉え直す			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
スポーツ情報マスメディア学科が設定する【スポーツ文化論】は4年間で学んだスポーツの基礎を土台に『スポーツの多様な存在』(政治・経済・メディア・文学・美学・宗教・ジェンダー・サブカルチャーなど)の中で形を変え社会に表象されたスポーツを文化として捉え直し考えてみたい。各テーマをスポーツに限らず社会の各分野において活躍してきた経験豊富な教員のオムニバスで論じる。(講義順変更もある)					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方、成績評価説明 スポーツとは何か、スポーツ文化とは何か、なぜスポーツを文化の視点で考えるかディスカッション [授業外学習] 4年間で学んだスポーツの各論を整理			⑨	[テーマ] スポーツと映画 [内容] 映画が語るスポーツからスポーツ文化を論じる [授業外学習]
②	[テーマ] スポーツ文化の歴史から見た大衆心理 [内容] スポーツが生活の中に果たした役割を考え、スポーツの価値を考える [授業外学習] スポーツ史を人の生活意識から逆読みする			⑩	[テーマ] スポーツと音楽・ファッション [内容] 音楽・ファッション生まれるスポーツ文化を考える [授業外学習]
③	[テーマ] スポーツと社会「スポーツを文化にした国」 [内容] ② アメリカのスポーツ文化の根源に迫る [授業外学習]			⑪	[テーマ] スポーツと国際関係(国交) [内容] 各種国際大会(オリンピック含む)開催と国家が作るスポーツ文化 [授業外学習]
④	[テーマ] スポーツと社会 武道はスポーツか [内容] スポーツ文化と武士道:似て非なる文化の並存 [授業外学習]			⑫	[テーマ] スポーツとジェンダー(スポーツ文化はオヤジ文化?) [内容] なぜ?「羽生、真央ちゃん」なのか [授業外学習]
⑤	[テーマ] スポーツを文化に仕立てるメディア① 新聞・印刷媒体 [内容] スポーツを文化として育てた新聞の役割 [授業外学習]			⑬	[テーマ] スポーツ新聞に見るスポーツ [内容] [授業外学習]
⑥	[テーマ] スポーツとメディア②放送 [内容] スポーツを文化として育てたラジオ、テレビ放送 [授業外学習]			⑭	[テーマ] スポーツと人種・宗教 [内容] アフリカ系人種は肉体的に優れているか? 宗教がもたらす問題は? [授業外学習]
⑦	[テーマ] スポーツと文学 [内容] 文学が語るスポーツからスポーツ文化を論じる [授業外学習]			⑮	[テーマ] 国際大会と国民心理 [内容] スポーツに熱狂する国民の姿からスポーツ文化を考える [授業外学習]
⑧	[テーマ] スポーツとサブカルチャー [内容] コミックが生むスポーツヒーローなどからスポーツ文化を考える [授業外学習]			⑯	[テーマ] まとめ・テスト [内容] スポーツ文化論講義を通し考えたことを纏める [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験	◎			40%	<ul style="list-style-type: none"> 2/3以上の出席ない者は期末試験の受験資格が無い 授業態度悪い学生は成績評価から減点 多くのスポーツに接し周囲を観察する。(スタジアム・テレビ・社会空間) スポーツ情報を伝えることを楽しむ(スポーツを話題にする) 自分の考えを文章に書き、自分の言葉で説明できる訓練をする シラバスは授業の進み方、理解の程度で前後したり内容変更がある
授業内レポート	○	◎		40%	
授業外レポート	○			20%	
演習・実技				評価対象外	
授業態度				減点アリ	
出席				欠格条件	
関連科目	4年間で学んだすべての科目				
教科書	特に指定しないが必要に応じてプリント配布			参考書	必要に応じて指定する
連絡先	責任担当山内研究室:大学院棟2階 オフィスアワー:水曜10:30~12:30				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツモラル・規範論 Ethics in Sport			担当教員	栗木一博	
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数			2
授業の概要						
ドーピングや賭博、暴力など20世紀のスポーツが産み出してきた負の遺産は、現代のスポーツの価値を崩壊させる脅威であり、グローバルなスポーツの世界では今、「スポーツの高潔性」がその持続可能性や社会的意義を考えるうえで主要課題となっている。この授業では、スポーツにかかわるモラルや規範を広義にとらえ、その重要性や意義について学ぶ						
授業の一般目標						
スポーツにかかわるモラルや規範について、法制度の現状や国内外の事例から問題の所在を把握し、その論点や課題について理解できるようになる。また、社会において情報を扱う際に取られる品格や独自の視点、適切な態度を身につける。多様な価値に向き合いながら、スポーツに対する創造的な取り組みを実践できるようになる。※1回目を除き集中講義の形式をとるので、掲示に注意すること						
授業の到達目標						
■	認知的領域	問題の所在を把握し、論点や課題の本質を理解する。				
■	情意的領域	社会のいて情報を扱う際に問われる適切な態度を身につける。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
スポーツにかかわるモラルや規範について、法制度の現状や国内外の事例から問題の所在を把握し、その論点や課題について理解できるようになる。また、社会において情報を扱う際に問われる品格や独自の視点、適切な態度を身につける。多様な価値に向き合いながらスポーツに対する創造的な取り組みを実践できるようになる。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の概要、目標、進め方、評価方法について説明を行い、質疑応答を行う。 [授業外学習] 授業内で指示する			⑨	[テーマ] スポーツと法②<応用編> [内容] 社会規範の一種としての「法」について、スポーツ基本法や関連の国際法を理解し、その性質や社会的意義について学ぶ [授業外学習] 授業内で指示する	
②	[テーマ] 情報とモラル①<基礎編> [内容] 情報を扱う際のモラルや規範について、実際に起こりうる日常的課題を紐解きながら問題の所在、あるべき姿について考える。 [授業外学習] 授業内で指示する			⑩	[テーマ] スポーツと法③<ディスカッション> [内容] 社会規範の一種としての「法」について、スポーツ基本法や関連の国際法を理解し、その性質や社会的意義について学ぶ [授業外学習] 授業内で指示する	
③	[テーマ] 情報とモラル②<応用編> [内容] 情報を扱う際のモラルや規範について、実際に起こりうる日常的課題を紐解きながら問題の所在、あるべき姿について考える。 [授業外学習] 授業内で指示する			⑪	[テーマ] 女性とスポーツ①<基礎編> [内容] 変化するスポーツにおける女性の位置づけや果たす役割について、その歴史や現状を踏まえ、今後の在り方について学ぶ [授業外学習] 授業内で指示する	
④	[テーマ] 情報とモラル③<ディスカッション> [内容] 情報を扱う際のモラルや規範について、実際に起こりうる日常的課題を紐解きながら問題の所在、あるべき姿について考える。 [授業外学習] 授業内で指示する			⑫	[テーマ] 女性とスポーツ②<応用編> [内容] 変化するスポーツにおける女性の位置づけや果たす役割について、その歴史や現状を踏まえ、今後の在り方について学ぶ [授業外学習] 授業内で指示する	
⑤	[テーマ] グローバル・スポーツの高潔性①<基礎編> [内容] ドーピングや賭博、暴力など、スポーツの価値を脅かす事象の本質的な問題の所在や現状を踏まえ、未来への影響について考える。 [授業外学習] 授業内で指示する			⑬	[テーマ] 女性とスポーツ③<ディスカッション> [内容] 変化するスポーツにおける女性の位置づけや果たす役割について、その歴史や現状を踏まえ、今後の在り方について学ぶ [授業外学習] 授業内で指示する	
⑥	[テーマ] グローバル・スポーツの高潔性②<応用編> [内容] ドーピングや賭博、暴力など、スポーツの価値を脅かす事象の本質的な問題の所在や現状を踏まえ、未来への影響について考える。 [授業外学習] 授業内で指示する			⑭	[テーマ] ディスカッション① [内容] いくつかのテーマを設定し、事例に関する情報を収集し、討論を行う。 [授業外学習] 授業内で指示する	
⑦	[テーマ] グローバル・スポーツの高潔性③<ディスカッション> [内容] ドーピングや賭博、暴力など、スポーツの価値を脅かす事象の本質的な問題の所在や現状を踏まえ、未来への影響について考える。 [授業外学習] 授業内で指示する			⑮	[テーマ] ディスカッション② [内容] いくつかのテーマを設定し、事例に関する情報を収集し、討論を行う。 [授業外学習] 授業内で指示する	
⑧	[テーマ] スポーツと法①<基礎編> [内容] 社会規範の一種としての「法」について、スポーツ基本法や関連の国際法を理解し、その性質や社会的意義について学ぶ [授業外学習] 授業内で指示する			⑯	[テーマ] 総括 [内容] 授業を通じて学習、考察したテーマについて振り返り、これからのスポーツについて考える。 [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
評価は授業内レポート(60%)および授業外レポート(40%)で行う。授業では講義のほかにディスカッションやプレゼンテーションを行う。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験						
授業内レポート		◎	○		60%	
授業外レポート		◎	○		40%	
演習・実技						
授業態度		○	◎		減点あり	
出席					欠格条件	
履修上の注意(受講学生に望むこと)						
*3分の2以上の欠席は欠格条件とし、評価の対象から除外する。						
関連科目						
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない	
連絡先	栗木研究室(大学院棟2階;内線336)					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ起業論 Sport Entrepreneurship			担当教員	石丸/齋藤/佐々木
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
<p>本科目は学生自らが社会の課題を解決していくことに対する強い意欲や動機づけを得るとともに、実際に即した多様なものの見方や考え方を 知ることを目的として開講する。本科目を通じて受講者は、真摯かつエネルギーに社会の課題に挑戦する「スポーツ起業家」との出会いを得 ることが出来る。本年度も情報戦略アナリスト、広報担当者、チーム営業担当者、メディアディレクター、スポーツカメラマンなどを招く。</p>					
授業の一般目標					
<p>学生は本科目を通じて、①自ら何かを探求し、物事を為していくことの意義や価値について理解することが求められる。また、確固たる正解の無 い成熟した社会において、②新たな価値を見出すための、実際に即した多様なものの見方や考え方があることを受け入れ、自らも主体的なもの の見方や考え方を持つ態度を養う。</p>					
授業の到達目標					
■	認知的領域	なぜ「起業家」的な視点及び態度が必要か、自分なりの表現を用いて説明できる。			
■	情意的領域	社会に於ける諸課題に対して、自ら最善解を探求し解決しようと心がけることが出来る。			
□	技能表現的 領域				
授業計画(全体)					
<p>本授業は、担当教員とゲストスピーカーで開講する。初回及び最終回は担当教員が担当し、それ以外は各回、異なるゲストスピーカーを招聘する。授業形態は基 本は講義形式とするが、対談形式、シンポジウム形式なども含め開講する。(ゲストスピーカー講義順は初回授業で発表)</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] この授業全体の狙い、目標、評価方法などを説明する。毎回課題が出る が提出方法も指示する [授業外学習] レポートの作成			⑨	[テーマ]「私のスポーツ起業論」⑧ [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学習] レビューレポート作成と提出
②	[テーマ]「私のスポーツ起業論」① [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学習] レビューレポート作成と提出			⑩	[テーマ]「私のスポーツ起業論」⑨ [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学習] レビューレポート作成と提出
③	[テーマ]「私のスポーツ起業論」② [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学習] レビューレポート作成と提出			⑪	[テーマ]「私のスポーツ起業論」⑩ [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学習] レビューレポート作成と提出
④	[テーマ]「私のスポーツ起業論」③ [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学習] レビューレポート作成と提出			⑫	[テーマ]「私のスポーツ起業論」⑪ [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学習] レビューレポート作成と提出
⑤	[テーマ]「私のスポーツ起業論」④ [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学習] レビューレポート作成と提出			⑬	[テーマ]「私のスポーツ起業論」⑫ [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学習] レビューレポート作成と提出
⑥	[テーマ]「私のスポーツ起業論」⑤ [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学習] レビューレポート作成と提出			⑭	[テーマ]「私のスポーツ起業論」⑬ [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学習] レビューレポート作成と提出
⑦	[テーマ]「私のスポーツ起業論」⑥ [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学習] レビューレポート作成と提出			⑮	[テーマ] 授業のまとめ [内容] 授業を通し学んだことの振り返り(ディスカッション) [授業外学習] レビューレポート作成と提出
⑧	[テーマ]「私のスポーツ起業論」⑦ [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学習] レビューレポート作成と提出			⑯	[テーマ] 最終試験 [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
<p>主に各回の講義に基づき作成するレポートの提出率及びその内容で評価を行なう。欠席した回のレポートは提出できないため、必然的に出席 も重要な評価要件となる。なお、欠席届による欠席をする履修者については、本授業に関わる任意のテーマを設定しレポートを提出することがで きる。なお、対話の時間において、場に貢献するための良い質問や意見に関わる発言も重要な評価要素となる。</p>					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・スポーツを通じて社会において真剣勝負をしている「スポーツ起業家」を招 へいしますので、受講者にも同様の真剣度が問われます。その楽しくも「真 剣な場」をともに作り出すことのできる方のみ履修することができます。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができません(欠格条 件)。
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート	◎	○		60%	
演習・実技					
授業態度	○	◎		40%	
出席					
関連科目					
教科書	とくに使わない			参考書	必要に応じて授業時に配布する
連絡先	山内研究室 E棟2階 【E-mail】tr-yamanouchi@sedai-u.ac.jp				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	映像実践論(演習) Practical Editing Analysis for Imagery Intelligences			担当教員	藤本晋也
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
ビデオカメラや映像編集機器といったIT関連機器の普及は、スポーツ活動現場においても顕著であり、コーチングやプロモーションなど、さまざまな場面で欠かせないものとなっている。この状況に伴い、撮影を専門に行なうスタッフのニーズも高まってきている。本演習では、スポーツ情報を効果的に伝えるために必要な「映像の基礎と撮影の観点や方法」について学ぶ。					
授業の一般目標					
基本的なスポーツ情報の種類やその特性を学ぶとともにスポーツ情報に対する現場のニーズを把握する。その上で状況に応じた適切なスポーツ情報を効果的に伝えることができるようになるために、映像の基礎と撮影の観点や方法を体系的かつ実践的に学ぶことで、現場のニーズに対応できる情報アプローチの観点とスキルを身につける。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	スポーツ現場における映像活用の現状を説明できる。映像が果たす役割やその特徴を説明することができる。				
■ 情意的領域	対象にと成果を前提に映像撮影と手段を用いスポーツ情報を効果的に伝えるとができるようになる。				
■ 技能表現的領域	映像撮影の観点や方法に必要なスキルの基礎を身につける。				
授業計画(全体)					
各授業は資料および視聴覚教材を用いた講義を行なう。またスポーツ活動現場のニーズを踏まえた実践的な方法論を学ぶため、各競技団体/チームの事例や現場を活用し、グループワークや実習も行なう。学生は各授業毎に、授業の理解度及び達成度を明らかにするためのフィードバックを小レポート形式で提出する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習] 授業時に連絡			⑨	[テーマ] グループ演習① <収集・分析> [内容] グループ毎にテーマと対象を決定し、関連映像の収集と分析を行なう。 [授業外学習] 授業時に連絡
②	[テーマ] 競技における映像活用① [内容] 競技現場で求められる「映像」とはなにか。なぜそれが求められているのかを考える。 [授業外学習] 授業時に連絡			⑩	[テーマ] グループ演習② <収集・分析> [内容] グループ毎にテーマと対象を決定し、関連映像の収集と分析を行なう。 [授業外学習] 授業時に連絡
③	[テーマ] 競技における映像活用② [内容] 競技現場で求められる「映像」とはなにか。なぜそれが求められているのかを考える。 [授業外学習] 授業時に連絡			⑪	[テーマ] グループ演習③ <編集> [内容] 収集・分析した映像を編集する。 [授業外学習] 授業時に連絡
④	[テーマ] 競技における映像活用③ [内容] 映像素材収集(撮影)の観点と方法について学ぶ。 [授業外学習] 授業時に連絡			⑫	[テーマ] グループ演習④ <編集> [内容] 収集・分析した映像を編集する。 [授業外学習] 授業時に連絡
⑤	[テーマ] 競技における映像活用④ [内容] 映像撮影機器種類と特性について学ぶ [授業外学習] 授業時に連絡			⑬	[テーマ] グループ演習⑤ <編集> [内容] 収集・分析した映像を編集する。 [授業外学習] 授業時に連絡
⑥	[テーマ] 競技における映像活用⑤ [内容] 映像分析・編集機器の種類と特性について学ぶ。 [授業外学習] 授業時に連絡			⑭	[テーマ] グループ演習⑥ <アウトプット> [内容] 編集した映像について指定する観点に基づきドキュメンテーション(文書化)するとともに、その内容をプレゼンテーションする。 [授業外学習] 授業時に連絡
⑦	[テーマ] 競技における映像活用⑥ [内容] 映像素材の管理と利活用について学ぶ。 [授業外学習] 授業時に連絡			⑮	[テーマ] グループ演習⑦ <アウトプット> [内容] 編集した映像について指定する観点に基づきドキュメンテーション(文書化)するとともに、その内容をプレゼンテーションする。 [授業外学習] 授業時に連絡
⑧	[テーマ] 競技における映像活用⑦ [内容] スポーツ競技活動における、新たな撮影手法と撮影構図を考える。 [授業外学習] 授業時に連絡			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
評価は、授業時間中および時間外に求められるレポートや提出物に関する評価、1)レポート(50%)、2)最終ドキュメンテーション(30%)で行なう。さらに実際に行われた活動に対する評価、3)プレゼンテーション(20%)を行う。出席は、評価割合に加えず欠格条件となる。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート		◎			50%
授業外レポート		◎			30%
演習・実技			◎	◎	20%
授業態度					
出席					
関連科目	映像基礎				
教科書	特に指定しない			参考書	参考書等授業内で紹介、または参考資料を配布
連絡先	藤本研究室F棟2階(内線:358) mail: sn-fujimoto@sendai-u.ac.jp				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	文章実践論(演習)			担当教員	高橋義夫
	Writing II (s.)				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
この授業では学生が自ら企画・調査する「調査報道」を取り上げ、記事完成までを指導する。また、調査報道とは何か、ジャーナリズムの本質、メディアの特性という大きな問題について具体的に紹介する。					
授業の一般目標					
「調査報道」というジャーナリズムの本質に関わる部分を理解する糸口となる。また、スポーツ競技など関心のある分野からテーマを見つけ、調査を深めていくことはマスメディア、政治、文化などの問題を身近なものとして考えられるようになる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	ジャーナリズムの基本を考えることができるようになる。			
■	情意的領域	記事を実際に書いていくことで表現力を身に着けることができる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
授業ではまず「調査報道とは？」という問題について短く講義をする。その後、個人またはグループごとにテーマを見つけ、それぞれが下調べと取材をしていく。担当教員は毎週各人、グループと単独ミーティングをし、進捗状況を確認して、取材状況と記事内容について指導する。中間発表と最終プレゼンテーションが義務付けられる。最後に調査報道記事としてまとめ、提出する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員紹介、授業目標と進め方、シラバス、成績評価の方法の説明 [授業外学習] シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] 中間発表 [内容] 個人、またはグループごとにこれまでの成果を発表する [授業外学習] 発表する内容をまとめる
②	[テーマ] 「調査報道」の講義及び新聞紙面上での検証 [内容] 調査報道の歴史、意義、課題を学び、新聞の調査報道記事を検証する [授業外学習] 朝日、河北両紙の調査報道記事を探し、ポイントをチェックする			⑩	[テーマ] 調査報道の補足 [内容] 個人、グループの発表ごとに批評し、調査報道として補う点を指摘する [授業外学習] 他の発表例も参考にして足りないものを整理してくる
③	[テーマ] 調査報道とは一活字・放送① [内容] 新聞、テレビの調査報道記事、番組を読み、または見て特長を整理する [授業外学習] 前週末までの調査報道記事を読んで1本切り抜いてくる			⑪	[テーマ] 取材、執筆 [内容] それぞれ単独、または役割分担をして必要な取材をし、記事にまとめる [授業外学習] 指摘された部分を再考し、記事を訂正してくる
④	[テーマ] 調査報道とは一活字・放送② [内容] (A) 前回授業の感想文を持ち寄り発表 (B) 1本切り抜いた調査報道記事の感想などをメモにしてまとめたものを発表 [授業外学習] 授業で取り上げた新聞記事、テレビ番組の感想をメモにまとめる			⑫	[テーマ] 取材、執筆 [内容] それぞれ単独、または役割分担をして必要な取材をし、記事にまとめる [授業外学習] 前の時間内でできなかったことをやってくる
⑤	[テーマ] 単独、グループ企画の発表 [内容] 個人、またはグループで役割分担をして図書館などで資料を探す [授業外学習] どういう企画で調査報道をするか考えてくる			⑬	[テーマ] プレゼンテーション [内容] 個人、またはグループごとに記事を発表し、批評を受ける [授業外学習] 発表内容をしっかり点検したり、話し合ったりしてくる
⑥	[テーマ] 企画に関する基礎知識の下調べ [内容] 個人、またはグループで役割分担をして図書館などで資料を探す [授業外学習] 前の時間内でできなかったことをやってくる			⑭	[テーマ] プレゼンテーション [内容] 個人、またはグループごとに記事を発表し、批評を受ける [授業外学習] 批評された部分で改訂すべきところを修正する
⑦	[テーマ] 企画の問題意識、先行取材 [内容] 企画の問題意識を共有し、企画の幅を広げるための調査を行い発表する [授業外学習] 前の時間内でできなかったことを単独か役割を決めてやってくる			⑮	[テーマ] 校了 [内容] 最終の記事にする [授業外学習] 紙面構成や記事内容を再点検し、最終作成・提出に備える
⑧	[テーマ] 取材、執筆 [内容] 実際に現場に行き、取材をしてきて記事にまとめる [授業外学習] 前の時間内でできなかったことを単独か役割分担してやってくる			⑯	[テーマ] レポート提出 [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
レポート(70%)、中間発表(30%)の結果に基づき、総合的に評価する。また、積極的な授業参加については加点もある。出席は、評価割合に加え、欠格条件となる。提出レポートについては、プレゼンテーションの中で要点を指導する。それをどう生かしたかが評価のポイントになる。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート		◎	◎		100%
演習・実技					
授業態度					加点、減点あり
出席					
履修上の注意(受講学生に望むこと)					
<ul style="list-style-type: none"> 2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件) 20分以上の遅刻は欠席とみなす。 大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じておくこと。 授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。 					
関連科目					
教科書	特になし			参考書	特になし
連絡先	高橋義夫研究室(5体3階)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	データ分析・活用演習Ⅱ Seminar of Data Processing and Analysis II			担当教員	藤本 晋也/栗木 一博
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					
データの一義的な解釈に留まらず、その潜在的な構造に言及する方法について解説する。推測統計学の基礎および多変量解析手法についても言及する。スポーツに関する様々なデータを素材として、その高度な分析手法について解説する。					
授業の一般目標					
データの応用的な分析手法について理解する。推測統計学、多変量解析の考え方について理解する。データを分析するためのツールとして、表計算ソフトウェアの高度な使用方法、多変量解析のためのソフトウェアの操作方法を理解する。データを提示するための有効な方法として、グラフや表の作成方法、さらにプレゼンテーションの方法について理解する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	推測統計学の初歩、多変量解析について理解する。				
■ 情意的領域	与えられた生データを自分なりに考えて処理することができるようになる。				
■ 技能表現的領域	データ処理のためのコンピュータソフトウェアの操作ができる。処理したデータを用いて効果的なプレゼンテーションができる。				
授業計画(全体)					
各テーマに沿った実際のデータを用い、それを処理する形式で授業が進められる。各授業ごとにレポートという形式で成果物を提出したり、プレゼンテーションを行なう。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業目的および概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方 [授業外学習] シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] 多変量解析の方法2 [内容] 重回帰分析、因子分析の基礎について解説する。さらにそれらを解釈する方法について解説する。 [授業外学習] 相関係数について復習しておく。
②	[テーマ] 表計算ソフトウェアの操作方法 [内容] データ分析・活用法演習Ⅰで学んだ操作方法について確認する。さらに、高度な応用方法について解説する。 [授業外学習] データ分析・活用演習Ⅰの復習をしておく。			⑩	[テーマ] オープンソースインテリジェンス1 [内容] インターネット等、開示されているデータの収集方法、その加工方法について解説する。 [授業外学習] インターネットのブラウジングを学習しておく。
③	[テーマ] 確率分布 [内容] 二項分布を用いて、推測統計学の基礎となる確率分布の考え方について解説する。 [授業外学習] 確率の基礎について学習しておく。			⑪	[テーマ] オープンソースインテリジェンス2 [内容] あらかじめ開示されているデータから競技力向上に関するデータを抽出し、それをまとめる手法を解説する。 [授業外学習] ネットブラウジング、データの加工方法について学習しておく。
④	[テーマ] 大数の法則、中心極限定理 [内容] 表計算ソフトウェアの乱数機能を用いて、シミュレーションを行い、大数の法則、中心極限定理について解説する。 [授業外学習] 確率の基礎について学習しておく			⑫	[テーマ] オープンソースインテリジェンス3 [内容] あらかじめ開示されているデータから数値として提示されているデータを抽出し、それをまとめる手法を解説する。 [授業外学習] ネットブラウジング、データの加工方法について学習しておく。
⑤	[テーマ] 母集団と標本 [内容] データのサンプリングに関して解説する。 [授業外学習] 身の回りにある標本調査の例について調べておく。			⑬	[テーマ] ヒューマンソースインテリジェンス [内容] インタビューなど人から得た情報を分析する手法について解説する。言葉による分析等についても言及する。 [授業外学習] インタビュー記事やその方法について説明できるようにする。
⑥	[テーマ] 推測統計学の基礎1 [内容] t検定を用い、平均値の差の検定について解説する。 [授業外学習] 平均値、標準偏差について復習しておく。			⑭	[テーマ] レポートの方法1 [内容] これまで学んだ方法を駆使して、データをレポートにまとめる手法について解説する。 [授業外学習] 表やグラフを作成する方法について学習しておく。
⑦	[テーマ] 推測統計学の基礎2 [内容] 分散分析の方法について解説する。 [授業外学習] 平均値、標準偏差、分散等記述統計量の算出を復習しておく			⑮	[テーマ] レポートの方法2 [内容] これまでに学んだ方法を駆使し、「スポーツ科学情報」、「タレント発掘育成情報」などとしてレポートをまとめる方法について解説 [授業外学習] 表やグラフ、文書の作成方法について学習しておく。
⑧	[テーマ] 多変量解析の方法1 [内容] 多変量データの取り扱いについて説明し、どのように分析するか、基本事項について解説する。重回帰分析、因子分析の基礎解説 [授業外学習] 相関係数について復習しておく。			⑯	[テーマ] 分析レポート作成 [内容] これまでの理解度、授業目標の到達度を確認するために分析レポートを作成する。 [授業外学習] テストの準備をしておくこと。
成績評価方法(方針)					
評価は、授業時間中および時間外に求められるレポートや提出物に関する評価、1)レポート(50%)、2)最終課題分析レポート(30%)、で行なう。さらに実際に行われた活動に対する評価、3)プレゼンテーション(20%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席がない場合は期末試験を欠席したと同様の扱いをする(欠格条件)。 ・20分以上の遅刻は欠席と同等の扱いをする。 ・授業計画は授業の進度により若干前後することがある。 ・作成したデータが保存できるように、USB、ポータブルハードディスク等を準備する。 ・大学メールアドレス等、連絡可能なメールアドレスを使用できるように準備する。
定期試験					
授業内レポート	○	○	○	50%	
授業外レポート	○	○	○	30%	
演習・実技	○	○	○	20%	
授業態度					
出席					
関連科目	データ分析・活用演習Ⅰ(2年)スポーツ情報戦略論実習Ⅰ(2年)・Ⅱ(3年)				
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
連絡先	藤本研究室F棟2階(内線:358) mail: sn-fujimoto@sendai-u.ac.jp				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	インタビュー論演習			担当教員	山内 亨・齋藤 博
	Interviewing(S.)				
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
この授業は、取材をするとは何か、インタビューとは何かを考えるとところから始める。このあと、実際にインタビューを行い、その内容を文字に起こしていく。これを繰り返しながら最終的にインタビュー記事としてまとめ提出する。					
授業の一般目標					
インタビューとは何かを理解したうえで他人とアポイントをとり、上手に話を引き出せるようになる。また、それをインタビュー記事としてまとめることができる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	文献や制作物からインタビューとは何かを理解できるようになる			
■	情意的領域	他人から話を聞き、それを理解しさらに話を引き出すことができるようになる			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
前半はテキストや出版物、テレビ番組を見ながらインタビューとは何かを考える。中盤からは実際にインタビューを行い、文字起こしをする。終盤にはインタビュー記事を完成させる。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読してくる			⑨	[テーマ] インタビュー 実践③ [内容] 受講生同士でインタビュー、文字に起こす [授業外学習]文字起こしを完成させる
②	[テーマ]インタビューとは何か① [内容] テキストを用いてインタビューとは何かを考える [授業外学習]テキストを読んでくる			⑩	[テーマ] インタビュー 実践④ [内容] テーマを設けて複数の人にインタビューをし、文字に起こす [授業外学習]文字起こしを完成させる
③	[テーマ]インタビューとは何か② [内容] テキストを用いてインタビューとは何かを考える [授業外学習]テキストを読んでくる			⑪	[テーマ] インタビュー 実践⑤ [内容] テーマを設けて複数の人にインタビューをし、文字に起こす [授業外学習]文字起こしを完成させる
④	[テーマ]インタビューとは何か③ [内容] テキストを用いてインタビューとは何かを考える [授業外学習]テキストを読んでくる			⑫	[テーマ] インタビュー 実践⑥ [内容] テーマを設けて複数の人にインタビューをし、文字に起こす [授業外学習]
⑤	[テーマ]インタビューとは何か④ [内容] テレビ番組を見てインタビューとは何かを考える [授業外学習]テキストを読んでくる			⑬	[テーマ] インタビュー 実践⑦ [内容] テーマを設けて複数の人にインタビューをし、文字に起こす [授業外学習]文字起こしを完成させる
⑥	[テーマ]インタビューとは何か⑤ [内容] 出版物を読んでインタビューとは何かを考える [授業外学習]テキストを読んでくる			⑭	[テーマ] インタビュー記事を書く [内容] インタビューをもとに記事を書く [授業外学習]記事を完成させる
⑦	[テーマ] インタビュー 実践① [内容] 受講生同士でインタビュー、文字に起こす [授業外学習]文字起こしを完成させる			⑮	[テーマ] インタビュー記事を書く [内容] インタビューをもとに記事を書く [授業外学習]記事を完成させる
⑧	[テーマ] インタビュー 実践② [内容] 受講生同士でインタビュー、文字に起こす [授業外学習]文字起こしを完成させる			⑯	[テーマ] インタビュー記事提出 [内容] 完成した記事を提出する [授業外学習]記事を完成させる
成績評価方法(方針)					
授業外レポート(評価割合70%)、授業内レポート(30%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件とする。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験					<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じておくこと。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
授業内レポート	◎	◎		20%	
授業外レポート	◎	◎		80%	
演習・実技					
授業態度					
出席					
関連科目					
教科書	インタビュー術 永江朗著 講談社現代新書			参考書	
連絡先	山内研究室E棟2階・齋藤研究室E棟2階				

4. 応用科目

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	日本国憲法 Constitution of Japan			担当教員	加藤英俊
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	関連資格	教員免許状(全免許)
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
テキストを用いる。日本国憲法の総論と基本的人権の保障の基本的事項を対象にする。					
授業の一般目標					
憲法の法的意味を理解し、関連する用語を適切に使用できるようになり、日本国憲法について自己学習ができるとともに、憲法に係わる社会的事件について意見を述べるができるようになる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	憲法・憲法学上の用語の意味と使用法を理解し、適切に使用できるようになる。			
■	情意的領域	特に、基本的人権に係わる問題事項を自ら考え、意見を組み立てて議論できるようになる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
シラバスに挙げた事項につきテキストの関係箇所を指摘し、その理解を図り、講義を進める。テキストにない事例は別途配布する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス・導入授業 [内容] 授業の進め方と、単位評価に関する注意事項の説明。 「日本国民」とは誰か [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘			⑨	[テーマ] 生存権の特徴 [内容] 朝日訴訟上告審(最大判昭42・5・24) [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
②	[テーマ] 「憲法」とはどんな法的ルールなのか(1) [内容] 憲法の諸ルールと、国家権力の構成、国家権力行使の拘束 [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘			⑩	[テーマ] 信教の自由と政教分離(1) [内容] 神戸高専剣道実技履修拒否事件(最判平8・3・8) [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
③	[テーマ] 「憲法」とはどんな法的ルールなのか(2) [内容] 国法体系における憲法の地位:最高法規性の意味 [授業外学習]			⑪	[テーマ] 信教の自由と政教分離(2) [内容] 神戸高専剣道実技履修拒否事件(最判平8・3・8)、 津地鎮祭事件(最大判昭52・7・13) [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
④	[テーマ] 法の下での平等保障は何を意味しているか(1) [内容] 平等保障の概説、国籍法違憲判決(最大判平20・6・4) [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘			⑫	[テーマ] 人権保障と公共の福祉(1) [内容] 「公共の福祉」の概説、職業選択の自由が問題になった事件からの理解(公衆浴場法合憲判決と薬事法違憲判決) [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
⑤	[テーマ] 法の下での平等保障は何を意味しているか(2) [内容] 国籍法違憲判決(最大判平20・6・4) 尊属殺重罰違憲判決(最大判昭48・4・4) [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘			⑬	[テーマ] 人権保障と公共の福祉(2) [内容] 職業選択の自由が問題になった事件からの理解(公衆浴場法合憲判決と薬事法違憲判決) [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
⑥	[テーマ] 私人間の法律関係における差別問題(1) [内容] 私的自治の原則の概説、日産自動車事件(最判昭56・3・24) [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘			⑭	[テーマ] 司法裁判所の裁判 [内容] 「法律上の争訟」の意味、板まんだら事件(最判昭56・4・7) [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
⑦	[テーマ] 私人間の法律関係における差別問題(2) [内容] 日産自動車事件(最判昭56・3・24) 三菱樹脂事件(最大判昭48・12・12) [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘			⑮	[テーマ] 日本国憲法の違憲審査制 [内容] 日本国憲法の違憲審査権の性質、警察予備隊違憲訴訟 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 基本的人権の分類 [内容] 基本的人権保障条項の分類項目と、それぞれの特徴 [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘			⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
成績の評価は、基本的に、筆記試験による。欠席日数は学生便覧「試験細則」による。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			100%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席					
関連科目					
教科書	ワンステップ憲法(嵯峨野書院)			参考書	
連絡先	非常勤講師なので連絡は教育企画室を通して行うこと。				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	体育原理 Philosophy of Physical Education			担当教員	高橋 徹
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
<p>本授業では、体育哲学・スポーツ哲学をベースにした講義を行います。特に、体育とスポーツの本質やありかたについて体系的に解説しながら、体育教師として理解しておくべき体育やスポーツに対する基本的な考え方を紹介します。</p>					
授業の一般目標					
<p>体育教師の専門である体育ないしは教科体育の本質や基盤、そして教育としての可能性等、あるいはそれに関連する諸知識について知り、学校という教育機関において教科体育を担当する教育専門職者としての基本的な考え方を理解する。</p>					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	体育の理想的なありかたを、自分の力で考えることができる。				
■ 情意的領域	よい体育を追求しようとする意識をもつことができる。				
■ 技能表現的領域	体育を人文主義の方向で考えることができるようになる。				
授業計画(全体)					
<p>一貫して「よい体育の追求」という問題意識に寄り添いながら講義を進めていきます。この講義は、大きく次の4点から構成されます。①体育の本質、②体育と体育教師、③体育とスポーツの可能性、④体育のありかた—めざすべき道—</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	<p>[テーマ] 講義「体育原理」についてのオリエンテーション [内容] 講義「体育原理」の輪郭について解説し、受講学生との合意形成を図る。 [授業外学習] 教科書「はじめに」と「序章」を読んでください。</p>			⑨	<p>[テーマ] スポーツの定義的特徴① [内容] スポーツの特徴である遊戯性について解説する。 [授業外学習] 教科書「第13章」を読んでください。</p>
②	<p>[テーマ] 体育への問い [内容] 体育を“教わる立場”から体育を“教える立場”への転換について解説する。 [授業外学習] 教科書「第1章」を読んでください。</p>			⑩	<p>[テーマ] スポーツの定義的特徴② [内容] スポーツの特徴である競争性について解説する。 [授業外学習] 教科書「第14章」を読んでください。</p>
③	<p>[テーマ] 体育とは何か① [内容] 前提としての歴史認識について解説する。 [授業外学習] 教科書「第2章」を読んでください。</p>			⑪	<p>[テーマ] スポーツの概念と文化運動 [内容] スポーツの概念構成と現代スポーツへの視界について解説する。 [授業外学習] 教科書「第16章」を読んでください。</p>
④	<p>[テーマ] 体育とは何か② [内容] 体育の概念とその構成について解説する。 [授業外学習] 教科書「第3章」を読んでください。</p>			⑫	<p>[テーマ] スポーツと現代社会 [内容] 生涯スポーツと生涯教育との関係性について解説する。 [授業外学習] 教科書「第17章」を読んでください。</p>
⑤	<p>[テーマ] 体育と体育教師 [内容] 体育教師の負の遺産とそこから脱却するための方途について解説する。 [授業外学習] 教科書「第4章」を読んでください。</p>			⑬	<p>[テーマ] 体育を規定する目的論 [内容] 体育論の類型とその可能性について解説する。 [授業外学習] 教科書「第19章」を読んでください。</p>
⑥	<p>[テーマ] 専門職としての体育教師 [内容] 体育教師の代替不能な職能について解説する。 [授業外学習] 教科書「第5章」を読んでください。</p>			⑭	<p>[テーマ] 体育の存在意義と学校体育 [内容] 体育における最大の配慮の対象とは何かを解説する。 [授業外学習] 教科書「第21章」を読んでください。</p>
⑦	<p>[テーマ] 体育の対象としての人間 [内容] 体育哲学とその人間学的基点について解説する。 [授業外学習] 教科書「第11章」を読んでください。</p>			⑮	<p>[テーマ] 体育と人文主義 [内容] 体育における人間形成について解説する。 [授業外学習] 教科書「第22章」を読んでください。</p>
⑧	<p>[テーマ] 体育における教材構成の基点 [内容] 身体運動文化とスポーツとの関係性について解説する。 [授業外学習] 教科書「第12章」を読んでください。</p>			⑯	<p>[試験] 論述形式での試験を実施 [内容] 講義内容を踏まえつつも、できるだけ自分の「言葉」で論述してください。 [授業外学習] 試験勉強</p>
成績評価方法(方針)					
<p>基本的には、試験(70%)、課題(30%)とします。試験は学期末に実施し、課題は全て授業内レポートとして行います。レポートの評価については内容もちろんのこと、適切な表現が用いられているかどうかとも評価の対象とします。なお、授業中の発問等に対する解答提示、あるいは積極的な授業協力等には、成績評価において加点します。他人に感わされることなく、よい成績がとれるように頑張りましょう。</p>					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎	○	○	70%
授業内レポート		◎	○		30%
授業外レポート					評価対象外
演習・実技					評価対象外
授業態度		○	◎		加点対象
出席					欠格条件
1. 受講は、指定教科書の持参を条件とします。教科書を持たない学生は受講できません。なお、教科書は「修正第3版発行」とします。					
2. 講義中は静寂を保つこと。静寂を維持できない方は受講をやめてください。					
3. 本講義においては、諸知識の記憶も大切ですが、それを用いて考えることが重要です。受け身の姿勢ではない積極的な受講態度を求めます。					
4. 詳細については第一回目の講義で説明します。					
関連科目	教員免許状(保健体育)取得関連諸科目				
教科書	大橋道雄編(2011) 体育哲学原論, 不昧堂※「修正第3版」			参考書	佐藤臣彦(1993) 身体教育を哲学する, 北樹出版
連絡先	G棟2階208研究室(高橋徹研究室)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	解剖・生理学 Anatomy and Physiology (L.)			担当教員	小澤 輝高/柴原茂樹/高橋 陽介	
	開講内容	学年・学期	1・半期			授業方法
	履修の方法	選択	単位数	2	関連資格	教員免許、健康運動指導士、健康運動実践指導者、NSCA-CPT、CSCS、障害者スポーツ指導員
授業の概要						
健康管理や健康増進に携わる者にとって、ヒトのからだの仕組みや働きを理解することは必要不可欠である。また、運動・トレーニングを安全かつ効果的に行うためには、運動時におけるからだの構造や機能の応答などに関わる知識を身につける必要があり、これらの内容を十分に理解するためには、基礎的な解剖・生理学の知識が必要となる。このような観点から、本講義では人体の構造と機能に関する基礎的事項を解説する。						
授業の一般目標						
骨格と骨格筋、呼吸循環系、消化器系、内分泌系、神経系、免疫系などヒトのからだを構成する様々な器官系の構造(仕組み)を理解するとともに、これらの機能(働き)に関する基礎的知識(解剖学的・生理学的特徴)を身につける。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	ヒトのからだを構成する人体各部の名称やその働きについて体系的に説明できる。				
■	情意的領域	ヒトのからだについて興味・関心を持つとともに、健康管理や運動指導に関わるうえでの解剖・生理学の重要性を認識できるようになる。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
基本的には教科書に準じて授業を行うが、授業テーマによってはスライドや資料を用いる。授業は、各器官系ごとにその構造と機能を解説し、全授業終了後の筆記試験によって理解度・到達度を確認する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の進め方、成績評価などについて説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読しておくこと			⑨	[テーマ] 血管系 [内容] 脈管系の構成および心収縮に伴う血管内の血圧等の変化について説明する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。	
②	[テーマ] 骨格と骨格筋(1) [内容] 頭頸部・上肢の構造と関節運動について説明する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。			⑩	[テーマ] 血液と体液 [内容] 血液の一般的性質や血球成分、血漿および体液の区分等について説明する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。	
③	[テーマ] 骨格と骨格筋(2) [内容] 骨盤・下肢の構造と関節運動について説明する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。			⑪	[テーマ] 内分泌 [内容] 生体の内部環境を調節する役割を担う内分泌系とホルモン分泌の仕組みについて説明する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。	
④	[テーマ] 骨格と骨格筋(3) [内容] 骨格と骨格筋についてのまとめを行う。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。			⑫	[テーマ] 免疫系と生体防御 [内容] 病原性生物などによる感染を防ぐ役割をもつ免疫系の働きについて説明する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。	
⑤	[テーマ] 消化器系の構造と機能、消化吸収 [内容] 口腔、胃、小腸、大腸、肝臓など食物の消化吸収に関わる器官の構造とその働きについて説明する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。			⑬	[テーマ] 腎臓の構造と腎機能 [内容] 腎臓の構造と尿の生成とその排出の仕組みについて説明する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。	
⑥	[テーマ] 栄養と栄養代謝 [内容] 消化吸収された栄養素がエネルギーを産生するまでの体内における過程について説明する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。			⑭	[テーマ] 中枢神経系 [内容] 大脳、小脳、中脳、延髄、脊髄などの中枢神経系の構造と役割について解説する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。	
⑦	[テーマ] 呼吸器系の構造と換気 [内容] 肺を中心とした呼吸器系の構造および換気と呼吸運動について説明する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。			⑮	[テーマ] 末梢神経系 [内容] 運動の指令や感覚情報を伝える体性神経系と内臓の機能に関与する自律神経系について説明する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。	
⑧	[テーマ] 心臓の構造とポンプ作用 [内容] 心臓の構造と心収縮に関わる刺激伝達系、血液を送り出すポンプ作用について説明する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 授業の理解度・到達度を確認するために筆記試験を実施する。 [授業外学習] これまでの授業内容を復習すること。	
成績評価方法(方針)						
授業に2/3以上出席し、試験で60点以上を合格とする。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験		◎			100%	<ul style="list-style-type: none"> 2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。 20分以上の遅刻は、欠席とみなす。 授業中の私語は周囲への迷惑となるので慎むこと。
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度						
出席						
関連科目	運動生理学(2年)、スポーツ医学概論(1年)、スポーツトレーナーコース関連科目					
教科書	エッセンシャル解剖・生理学(秀潤社)			参考書	特に指定しない	
連絡先	小澤研究室:F棟2階					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ医学概論			担当教員	橋本 実
	Introduction to Sports Medicine (L.)				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要 スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を解説する。					
授業の一般目標 スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を解説する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を理解する。			
■	情意的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を、活用するように努力する。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体) 授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート(教科書)に書き込みながら理解を深める。 授業の終わりに、毎回小テストをおこない、知識を整理する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方などについて説明 [授業外学習] 当日配布するプリントを参照すること			⑨	[テーマ] 体液 [内容] スポーツに関連する体液の知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
②	[テーマ] スポーツ医学の基礎 [内容] スポーツ医学の基本的なことについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること			⑩	[テーマ] 細胞 [内容] スポーツに関連する細胞の知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
③	[テーマ] ドーピング① [内容] ドーピングに関連する知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること			⑪	[テーマ] 免疫 [内容] スポーツに関連する免疫の知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
④	[テーマ] ドーピング② [内容] ドーピングに関連する防止策や実態について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること			⑫	[テーマ] 赤血球 [内容] スポーツに関連する赤血球の知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
⑤	[テーマ] 呼吸器 [内容] スポーツに関連する呼吸器の知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること			⑬	[テーマ] 高地トレーニングと貧血 [内容] 高地トレーニングと貧血に関連する知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
⑥	[テーマ] 循環器 [内容] スポーツに関連する循環器の知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること			⑭	[テーマ] 骨格筋 [内容] スポーツに関連する骨格筋の知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
⑦	[テーマ] 遺伝 [内容] スポーツに関連する遺伝の知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること			⑮	[テーマ] 後半の振り返りと試験 [内容] 講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
⑧	[テーマ] 前半の振り返りと試験 [内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する [授業外学習] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
成績評価方法(方針) 基本的には公欠を認めないので、公欠を含め2/3以上出席(5回までの欠席)するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで欠欠や受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。出欠は受験資格のみとし評価に加わえないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			100%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
授業中は下記の項目を厳守すること。 1. スマホ、携帯電話の電源を切る。 2. スマホでの撮影は留学生以外は禁止。 3. 無断で教室を離れない。 4. 挨拶をする。 5. 帽子はかぶらない。 6. 私語は厳禁。 講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。					
関連科目					
教科書	スポーツ医学概論 講義ノート			参考書	特になし
連絡先	研究室:F棟2階 オフィスアワー:月曜日 14:20~15:50				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ計量学 Metrics on Sports(L)			担当教員	菊地 直子・林 直樹
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
体育・スポーツ場面において、様々なデータを採り取り扱う必要性が高まってきている。本講義では②から⑧においては統計的な「データの取り扱いの基礎」について、⑨から⑮においては計量の概論と「スポーツにおける計量の実際」について、それぞれ解説する。					
授業の一般目標					
さまざまなデータの採取と取り扱いについて学び、各授業で学んだ内容について具体的に実践・算出することができる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	データの意味を知り、2次データまで整理することができる。			
■	情意的領域	データについて、正しく取り扱う慎重な態度が形成される。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
さまざまなデータの採取と取り扱いについて学び、各授業で学んだ内容について具体的に実践・算出することができる。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法、クラス分け [授業外学習]シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ]「スポーツ計量学」の意味と意義について考える [内容] 日常において行われる計量とスポーツにおける計量を比較してスポーツ計量の範囲を共に考え、スポーツ計量学の本質を解説する。 [授業外学習]「スポーツ」「計量」「学」という言葉の定義を復習する。
②	[テーマ]事象を計量する・調査研究の基本的な流れ [内容]。スポーツ場面において、計量することについて、若干のイメージを持たせる。 [授業外学習]配布資料を熟読しておく。			⑩	[テーマ] 体力の測定・計量 [内容]文部科学省の体力テストを含めた体力・運動能力テストの現状や内容を解説する。形態や姿勢を含めた体力の計量について議論する。 [授業外学習] 体力の概念をキーワードを用いて説明できるように復習する。
③	[テーマ]データの種類の整理 [内容] データの種類、尺度について解説する。度数分布表を使って名義、比尺度データの整理を説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学習]研究法と調査の流れについて復習しておく。			⑪	[テーマ] 様々な体力の計量とその可能性 [内容] パフォーマンスに影響を及ぼす「体力」の計量について、特に視力、聴力などを計量することの意味とその可能性を解説する。 [授業外学習]視覚情報獲得の「輻輳(ふくそう)」の構造を理解する。
④	[テーマ] 代表値、散らばりの尺度 [内容] 代表値、域値、四分位範囲、箱ひげ図の考え方と特徴について説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学習]配布資料等を熟読する。			⑫	[テーマ] 血圧・血中乳酸を測定する(一次データの利用) [内容] 心臓から全身を巡る血液に関する基本的な計量を実際に紹介し、その意味や計量意義に関して解説する。血中乳酸の測定を紹介する。 [授業外学習] 乳酸の働きに関して復習し、競技場面での利用方法を考える。
⑤	[テーマ] 標準偏差と標準化 [内容] 標準偏差、標準化および偏差値について説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学習]配布資料を熟読し、不明な点を抽出しておく。			⑬	[テーマ] 位置情報から速度や角度を算出する(二次データの利用) [内容] 連続写真の中の位置の変化から距離や角度を算出し、時間微分することにより速度や角速度を算出する方法を解説する。 [授業外学習] 二次データの利用として速度の算出を完璧にマスターする。
⑥	[テーマ] 2変数の相関 [内容]ピアソンの積率相関係数の概要とその算出の仕方について説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学習]配布資料等を熟読する。			⑭	[テーマ]加速度、力、運動量を算出する(二次データの利用) [内容] 算出した速度を更に時間微分し、加速度を算出する方法を解説する。そして加速度から力や運動量などを算出する方法を解説する。 [授業外学習] 提示した量的パラメータの意味について復習して理解する。
⑦	[テーマ] カイ二乗検定 [内容]クロス集計表の作成および、カイ二乗検定について説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学習]演習を見直し、課題を提出する。			⑮	[テーマ]様々な測定・計量とその評価 [内容] 量的・質的な計量手法を紹介し、それぞれの評価をフィードバックする適切な手法について解説する。 [授業外学習]図表やICT機器でのフィードバック方法を復習する。
⑧	[テーマ] 多変量解析・確認テスト [内容] 前半を多変量解析の手法の概要を説明する。これまでの確認テストを行う。 [授業外学習]ここまでの復習、テストの準備をしておく。			⑯	[テーマ] テスト [内容] テスト [授業外学習]ここまでの復習、テスト準備をしておく
成績評価方法(方針)					
主に、定期試験の結果(前後半それぞれのテストの合計点)に重点をおいて評価する。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験	◎	◎			<ul style="list-style-type: none"> ・授業に積極的に参加している学生には成績評価に加点する。 ・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。 ・授業中は携帯電話をかばんの中にしなすこと。 ・このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。 ・簡易なもので構わないので、電卓を用意すること。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度	○	◎			
出席					
関連科目					
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
連絡先	菊地研究室 第4体育館1階 9号室				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	運動学(含運動方法学)			担当教員	川口鉄二	
	Movement Theory of Sports					
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	保健体育教師教員免許
	履修の方法	必修	単位数			
授業の概要						
<p>体育教師やスポーツ指導者の中核になる科目です。巧みな動きがはじめて「できるようになり」、練習によって自在に動けるようになるまでには様々な身体知がかわります。教える側と教わる側を不可分の関係としてその志向内容を明らかにしていきます。実際の運動学習の際に直面する様々な問題を主体側の地平で捉え、具体例を示しながら解説していきます。</p>						
授業の一般目標						
保健体育科教員、スポーツ指導者として、動き方を伝えるために不可欠となる運動観察能力が理解できるようにする。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	スポーツ運動の諸概念と正しい運動認識を理解できる。					
■ 情意的領域	学習者の動く感覚を読み取ることができる。					
■ 技能表現的領域	指導に結びつく運動の観察ができる。					
授業計画(全体)						
最新の理論を具体的な運動例を取り入れながら平易に解説していく。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	<p>[テーマ] オリエンテーション [内容] シラバスに基づき、本講義のオリエンテーション(授業概要、目標、評価方法他の説明)を行う。 [授業外学習]</p>			⑨	<p>[テーマ] 「できる」と「教えられる」の関係 [内容] 運動の「説明」「支援」「サポート」と「発生」指導の区別。「発生指導」ないし「自得」により獲得された技能の持つ意味と価値について。 [授業外学習]</p>	
②	<p>[テーマ] 体育・スポーツ指導者にまつわる今日の諸問題 [内容] 運動指導を目的とする実践現場において隠れ蓑を持つ体育教師やコーチの諸問題を専門性という立場で再考し、以降の講義の狙いを明らかにする。</p>			⑩	<p>[テーマ] 学習目標としての「体力」とは [内容] 学校体育における「体力づくり」の問題点。「体力」という用語の認識実態及び「運動技能」との関係について。 [授業外学習]</p>	
③	<p>[テーマ] スポーツ科学とはどのような科学か [内容] スポーツ科学とは何か。体育・スポーツの理論体系及び統合のための理論のパラダイムについて。理論と実践の恒常的断層問題について。 [授業外学習]</p>			⑪	<p>[テーマ] 指導対象としての「コツ」と「カン」1 [内容] 「できた」と「コツ」「技術」との関係。「カン」が働くための前提、「コツ」との関係について。 [授業外学習]</p>	
④	<p>[テーマ] 人間への眼差しと精密科学の発展 [内容] 技を伝えるための人間の運動はどのように把握されるのか。諸外国における運動理論の台頭(マイネル)と日本のモルフォロジー運動学(金子)の発展を概観する。</p>			⑫	<p>[テーマ] 指導対象としての「コツ」と「カン」2 [内容] 「カン」と「コツ」の公共性、時代性とは 学習目標としての技術力と戦術力について。 [授業外学習]</p>	
⑤	<p>[テーマ] 指導法に潜む運動認識とは [内容] 体育指導で常に問題にされる類型化、モザイク化、構築化あるいは暴力問題などにおいて運動認識がどのようにかわってくるのか、身近な例を用いて解説する。 [授業外学習]</p>			⑬	<p>[テーマ] 指導者の運動観察能力 [内容] 技能獲得と指導力獲得の基本的認識 「できる」につながる指導者の観察、交信、代行能力と管理・支援指導の区別について。 [授業外学習]</p>	
⑥	<p>[テーマ] 運動現象は何故因果的思考と矛盾するのか [内容] 主観と客観、因果思考、データ化と統計的思考の問題、実践的感覚と判断の根拠などについて。 [授業外学習]</p>			⑭	<p>[テーマ] 「できる気がする」までの学習段階 [内容] 運動アナログ、運動の形成位相、めあて、道しるべについての基本的理解。 [授業外学習]</p>	
⑦	<p>[テーマ] 未熟な専門用語がもたらす実践問題 [内容] 専門用語の曖昧さがもたらす混乱。意味内容が理解されていないまま進められる学習やトレーニング活動などの問題について。 [授業外学習]</p>			⑮	<p>[テーマ] まとめ [内容] これまでの内容をスポーツ運動学の体系から概観し、理論的探求への手がかりとする 試験問題の解説。 [授業外学習]</p>	
⑧	<p>[テーマ] 「できさせる」ための発生理論 [内容] 教員免許法、学習指導要領における運動発生理論の位置づけ。教える一覚える関係性に必要とされる観察能力について。 [授業外学習]</p>			⑯	<p>[テーマ] 試験 [内容] 実践例とのかかわりを重視した記述問題が中心 [授業外学習]参考書、配布プリント、各自ノートを十分復習し試験に万全を期す。</p>	
成績評価方法(方針)						
テスト前の暗記勉強では対応できません。各回の授業内容がどの程度理解できたかを確かめます。自己の運動経験を踏まえて分析内容を記述できているかを評価します。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・運動学に興味をもっていること ・豊富な運動経験が必要です(レベルは問わない) ・授業内容は毎年進化します ・教員志望者は必須です
定期試験		◎			90%	
授業内レポート					10%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度				○	減点対象	
出席		○			減点・欠格条件	
関連科目	スポーツ技術観察論、スポーツコーチング指導法実習、ジュニアスポーツ指導論					
教科書	スポーツ運動学(明和出版)			参考書	1. 運動学講義(大修館)	
連絡先	A棟403(川口)					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	運動障害救急法(含実習)			担当教員	橋本 実
	Emergency Care for Sports Injury (L.)				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(含実習)	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害の知識と対処方法について解説する。 スポーツドクターの立場から固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDの使用方法を解説し、実習もおこなう。					
授業の一般目標					
スポーツ現場でおこる、外傷、障害にたいし正しい対処ができるようになる。 固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDを適切におこなえるようになる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を理解する。			
■	情意的領域	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと努力する。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート(教科書)に書き込みながら理解を深める。 授業の終わりに、毎回小テストをおこない、知識を整理する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方などについて説明する [授業外学習] プリントを配布するので参考にすること			⑨	[テーマ] 前半の振り返りと試験 [内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
②	[テーマ] 外傷 [内容] 外傷の分類、重症度などについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること			⑩	[テーマ] 熱中症 [内容] 熱中症の分類、重症度などについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
③	[テーマ] 外傷の新しい治療 [内容] 外傷の新しい治療について説明する [授業外学習] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること			⑪	[テーマ] 熱中症 [内容] 熱中症の対処方法、予防法などについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること
④	[テーマ] 固定法 [内容] 様々な方法による上肢の固定法について説明する [授業外学習] 授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること			⑫	[テーマ] 心肺蘇生法 [内容] 心肺蘇生法について説明する [授業外学習] 授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること
⑤	[テーマ] 止血法 [内容] 様々な方法による止血法について説明する [授業外学習] 授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること			⑬	[テーマ] AEDを使った心肺蘇生法 [内容] AEDを使った心肺蘇生法について説明する [授業外学習] 授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること
⑥	[テーマ] 脳震盪 [内容] 脳震盪の分類、重症度などについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること			⑭	[テーマ] 救急処置(実習) [内容] AED、レサシアンを使って実習する [授業外学習] 1回の実習では身につかないので、繰り返し練習することが望まれる
⑦	[テーマ] 頭部外傷 [内容] 頭部外傷の分類、重症度などについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること			⑮	[テーマ] 後半の振り返りと試験 [内容] 講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
⑧	[テーマ] 救急処置(実習) [内容] 包帯、三角巾の使用法、RICE、傷の治療を実習する [授業外学習] 1回の実習では身につかないので、繰り返し練習することが望まれる			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する [授業外学習] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
成績評価方法(方針)					
成績は試験結果のみで評価し、出席は評価に加えない。基本的には公欠を認めないので、公欠を含め1/3以上出席(5回までの欠席に)するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで欠席や受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	授業中は下記の項目を厳守すること。
定期試験	◎			100%	1. 携帯電話の電源を切る。
授業内レポート					2. 私語は厳禁。
授業外レポート					3. 無断で教室を離れない。
演習・実技					4. 挨拶をする。
授業態度					5. 帽子はかぶらない。
出席				欠格条件	講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。
関連科目					
教科書	運動障害救急法 講義ノート			参考書	特になし
連絡先	研究室:F棟2階 オフィスアワー:月曜日 14:20~15:50				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	衛生・公衆衛生学 Public Health(L.)			担当教員	小松正子・高橋弘彦
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
人々の健康を守るために疾病予防、環境衛生、保健統計等について、現代のトピック、理論と実際等を講義する。					
授業の一般目標					
衛生・公衆衛生学の目的である人々の健康を守ることに必要な知識の習得をめざす。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	衛生・公衆衛生学の基礎的事項・重要事項について説明できる。			
■	情意的領域	知識を身近な事柄で振り返り応用する態度を身につける。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
知識を身近な事柄で振り返り応用する態度を身につける。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 衛生・公衆衛生学とは [内容] 衛生・公衆衛生学の定義とその内容について説明する [授業外学習] 社会における役割について復習しておくこと			⑨	[テーマ] 環境の把握とその評価(1) [内容] 地球環境問題について説明する(温暖化、砂漠化、食物連鎖等) [授業外学習] 地球環境問題とその影響について復習しておくこと
②	[テーマ] 健康の概念、医事法規 [内容] 健康と健康増進(WHO憲章、オタワ憲章等)、病気の経過およびその各段階における予防手段を知り、医事法規についても学ぶ。 [授業外学習] 他者に説明できるよう復習する			⑩	[テーマ] 環境の把握とその評価(2) [内容] 生活環境問題について説明する(アルコール、騒音、廃棄物等) [授業外学習] 生活環境問題とその人体影響について復習しておくこと
③	[テーマ] 生活習慣病概論 [内容] 生活習慣病の定義、各生活習慣と疾患の関連を知り、生活習慣変容の重要性を理解する。 [授業外学習]			⑪	[テーマ] 環境の把握とその評価(3) [内容] 化学的環境問題について説明する(環境汚染物質、喫煙等) [授業外学習] 化学的環境問題とその人体影響について復習しておくこと
④	[テーマ] 健康づくり施策 [内容] 第1次健康づくり対策から健康日本21まで健康づくり対策の変遷 [授業外学習] 他者にも説明できるように復習する。			⑫	[テーマ] 環境の把握とその評価(4) [内容] 生物的環境問題について(ウイルス感染症、HIV、AIDS他) [授業外学習] 生物的環境問題とその人体影響について復習しておくこと
⑤	[テーマ] 生活習慣病と運動疫学 [内容] 運動と生活習慣病予防の関連について疫学等を通じて理解する。 [授業外学習] 他者にも説明できるように復習する。			⑬	[テーマ] 物理的環境要因(1) [内容] 気温、気湿(湿度)、熱輻射、気流(風速)の人体影響について説明する [授業外学習] 生活を取り巻く物理的環境の影響について復習しておくこと
⑥	[テーマ] 運動基準・運動指針 [内容] 運動基準・運動指針(エクササイズガイド)2006について理解する。 [授業外学習]			⑭	[テーマ] 物理的環境要因(2) [内容] 熱中症の現状とその予防法について説明する [授業外学習] 学校現場における熱中症の発生状況とその予防法について復習しておくこと
⑦	[テーマ] 介護予防概論 [内容] 細菌性・ウイルス性、感染型・毒素型等の食中毒の分類・特徴について理解する。有機溶剤、一酸化炭素中毒などについて学ぶ。 [授業外学習] 他者にも説明できるように復習する。			⑮	[テーマ] まとめ [内容] 全体を振り返る [授業外学習] 各自、理解不足の箇所を補習すること
⑧	[テーマ] 食中毒、有機溶剤等中毒について [内容] 細菌性・ウイルス性、感染型・毒素型等の食中毒の分類・特徴について理解する。有機溶剤、一酸化炭素中毒などについて学ぶ。 [授業外学習] 身近な食物・曝露(喫煙等)と関連づけて考えられるように復習する。			⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 全15回の内容について知識の確認をする [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
期末試験をもって評価する。6割以上の得点を合格とする。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			100%
授業内レポート			○		
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					適宜
出席					
関連科目	学校保健学				
教科書	衛生・公衆衛生学(アイ・ケーコーポレーション)			参考書	特になし
連絡先	研究室:小松正子(F棟2階)、高橋弘彦(C棟3階)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ栄養学				担当教員	岩田 純	
	Sports Nutrition						
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	レクリエーション指導者	
	履修の方法	選択	単位数	2			
授業の概要							
<p>スポーツ栄養学とは、栄養学を基本としてトレーニング前後や試合前後などのスポーツ特有の場面に応じた食事や運動によって活動量が増加した分の栄養摂取、あるいは増量・減量を含めた競技種目に適した身体作りなどについて学ぶ科目である。そのため、オリエンテーション後の3週分の授業内容は栄養学の基礎知識に関する説明を多く実施し、その後に前述のスポーツに特有な応用的内容を加えていく。</p>							
授業の一般目標							
運動をする人の健康維持やスポーツ選手の競技力向上のための栄養摂取について理解できる。							
授業の到達目標							
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	エネルギーや各栄養素と運動の関係や運動時の様々な場面における食事のとり方を説明できる。					
<input type="checkbox"/>	情意的領域						
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域						
授業計画(全体)							
教科書および資料等を使い授業を進める。3～4つの単元ごとに小テストを実施する。また、筆記試験の前週には試験範囲と同様の内容で確認のテストを実施する。							
授業計画(各回のテーマ等)							
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション、スポーツと栄養について [内容] 担当教員の紹介、授業内容と進め方、成績評価の方法、スポーツ栄養学とは何かを説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読しておくこと				⑨	[テーマ] トレーニング期の食事 [内容] トレーニング期の疲労回復のための食事について説明する。 [授業外学習] 予習としてテキストを読んでおくこと	
②	[テーマ] 運動時のエネルギー源(糖質・脂質) [内容] 運動時にエネルギー源となる糖質と脂質の役割について説明する [授業外学習] 予習としてテキストを読んでおくこと				⑩	[テーマ] 体重調節と食事 [内容] 減量や増量を行う際の食事のとり方や注意事項などについて説明する。 [授業外学習] 予習としてテキストを読んでおくこと	
③	[テーマ] からだ作りとたんぱく質 [内容] たんぱく質の構造、体内での役割・代謝、必要量などについて説明する [授業外学習] 予習としてテキストを読んでおくこと				⑪	[テーマ] 試合期の食事 [内容] 試合1週間前から前日、当日などの食事のとり方や注意事項などについて説明する [授業外学習] 予習としてテキストを読んでおくこと	
④	[テーマ] 代謝調節とビタミン・ミネラル [内容] ビタミン・ミネラルの主な働きや体の機能維持にどのような関わりがあるのかを説明する [授業外学習] 予習としてテキストを読んでおくこと				⑫	[テーマ] 貧血予防の食事 [内容] スポーツ選手に起こりやすい貧血とその予防のための食事について説明する。授業の最初に⑧～⑩までの内容を範囲とする小テストを実施する。 [授業外学習] ⑧～⑩までの内容を復習し、小テストにそなえること	
⑤	[テーマ] スポーツ選手の身体組成 [内容] スポーツ選手の身体組成の評価方法について説明する。授業の最初に②～④までの内容を範囲とする小テストを実施する。 [授業外学習] ②～④までの内容を復習し、小テストにそなえること				⑬	[テーマ] 運動時の体温調節と水分補給 [内容] 運動時の体温調節の仕組みや水分補給について説明する。 [授業外学習] 予習としてテキストを読んでおくこと	
⑥	[テーマ] 身体組成の測定方法 [内容] 身体組成の測定方法について紹介し、それぞれの長所や短所について説明する。 [授業外学習] 予習としてテキストを読んでおくこと				⑭	[テーマ] まとめ [内容] これまでの授業内容についてのまとめを行う。確認のテストを実施する。 [授業外学習] 確認のテストでわからなかったところを復習しておくこと	
⑦	[テーマ] 推定エネルギー必要量 [内容] 1日のエネルギー消費にはどんな因子があり、エネルギー消費量の測定方法や推定式を用いた算出方法を説明する。 [授業外学習] 予習としてテキストを読んでおくこと				⑮	[テーマ] 筆記試験 [内容] 筆記試験 [授業外学習] 試験に備えて復習しておくこと	
⑧	[テーマ] 日常の食事 [内容] 日常の食事について食事バランスガイドを用いて自己診断する方法を説明する。授業の最初に⑤～⑦までの内容を範囲とする小テストを実施する。 [授業外学習] ⑤～⑦までの内容を復習し、小テストにそなえること				⑯	[テーマ] 試験問題の解説 [内容] 筆記試験問題の解説を行う [授業外学習] 不正解だった問題を確認して理解すること	
成績評価方法(方針)							
筆記試験(評価割合80%)、授業内で実施する小テスト(評価割合20%)により総合的に成績評価を行う。							
成績評価方法(詳細)							
成績評価方法	到達目標					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
		認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない。	
定期試験		◎			80%		
授業内レポート		○			20%		
授業外レポート					評価対象外		
演習・実技					評価対象外		
授業態度					減点あり		
出席					欠格条件		
関連科目							
教科書	スポーツ・健康栄養学(化学同人)				参考書		
連絡先	岩田研究室:D棟2階						

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	学校保健学 School Health(L.)			担当教員	小松正子、小浜明、高橋弘彦、入澤裕樹	
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数			2
授業の概要						
児童生徒の健康の保持増進についての講義を行なう。						
授業の一般目標						
学校保健の概要と心身両面からの保健管理(対人管理・環境管理)・教育(保健学習・保健指導)を学び、理解することを目標とする。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	学校保健について深く理解している				
■	情意的領域	関心・意欲が高い				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるための視聴覚教材も用いる。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認したり、授業の進み具合によっては、協同作業としてのグループワークやレポートの発表等も行うこともある。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ]オリエンテーション、「学校保健」とは何か [内容]担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、学校保健の定義 [授業外学習]配布資料あり。オリエンテーションは必ず出席してください。			⑨	[テーマ]保健室の役割 [内容]保健室の役割について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる	
②	[テーマ]学校保健管理の実践 [内容]学校保健管理が進められる際のツールなど [授業外学習]配布資料等でよく復習を行う			⑩	[テーマ]学校でみられる疾病 [内容]学校で多く見られる疾病・異常等について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる	
③	[テーマ]身体の発育・発達 [内容]学童期の身体の発育・発達の特徴について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる			⑪	[テーマ]性教育・薬物中毒・小児生活習慣病 [内容]避妊、薬物、小児糖尿病等に関する知識を視聴覚教材供覧もいりながら修得する [授業外学習]気になった点を参考書や図書館資料を使い調べる	
④	[テーマ]健康状態の評価 [内容]児童生徒の健康状態を把握するための指標について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる			⑫	[テーマ]学校でみられる重要な疾患 [内容]心臓病、腎臓病など生活管理指導が特に必要な疾患について [授業外学習]難しく感じた点、興味が沸いた点は図書館で調べる	
⑤	[テーマ]健康診断 [内容]学校で行われる健康診断について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる			⑬	[テーマ]学校管理下の事故の実態と防止 [内容]小・中・高校における事故発生状況とその予防法について説明する [授業外学習]学校区分ごとの事故発生状況とその要因について復習すること	
⑥	[テーマ]児童生徒の健康状態 [内容]児童生徒の健康状態の変遷と現在の課題について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる			⑭	[テーマ]学校環境衛生 [内容]点検項目と実施上の留意点について復習しておくこと [授業外学習]点検項目と実施上の留意点について復習しておくこと	
⑦	[テーマ]児童生徒の健康と教育 [内容]保健学習・保健指導について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる			⑮	[テーマ]まとめ [内容]これまでの学習についてまとめる。 [授業外学習]これまで学習したところを復習しておくこと	
⑧	[テーマ]心の発達と諸問題 [内容]事例を中心にして考える [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる			⑯	[テーマ]試験 [内容]授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習]テストに備えて復習をすること	
成績評価方法(方針)						
期末試験により評価を行う。授業進行状況により、授業内レポート(評価割合10%)を課す場合がある。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加え、欠格条件となる。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験		◎			90~100%	
授業内レポート		○	○		10%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度					欠格条件	
出席					欠格条件	
履修上の注意(受講学生に望むこと)						
<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生は、単位を習得することが出来ない(欠格条件)。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。授業中は携帯電話をかばんの中にしなうこと。 ・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。授業計画は、授業の進展により、多少前後したり、内容変更がある。 						
関連科目	健康相談(3年:健康福祉・運動栄養)、衛生・公衆衛生学(2年)、保健体育科教育論Ⅱ(3年)					
教科書	基礎から学ぶ学校保健(建帛社)			参考書	特に指定しない	
連絡先	小松正子(F棟2階)、小浜、入澤(A棟3階)、高橋弘(C棟3階)					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	トップアスリート論 Top Athlete Coaching(L.)			担当教員	児玉, 阿部肇, 佐藤久, 武石, 南條, 他 非常勤	
	開講内容	学年・学期	3・半期			授業方法
	履修の方法	選択	単位数	2	関連資格	
授業の概要						
本授業はトップアスリート養成のためのコーチ学の探求を目指し、特にトップアスリートとは何か、どう育成すべきか、およびその育成をつかさどるコーチ自身の資質・必要条件とは何かについて受講者とともに検討する。後半に元全日本レベルの選手・育成コーチ経験を有する人物を本学教員および外部著名指導者を講師として毎回招聘し、トップアスリートの在り方や独自の育成方法を講演方式で紹介するものである						
授業の一般目標						
将来、世界や日本一を目指すトップアスリートの育成・指導をつかさどるコーチ(指導者)に必要な知識、情報を、実際に体験、成し遂げた経験者たちから「生の声」として得る。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	トップアスリートを育成・指導したコーチ(指導者)たちから、コーチになるために必要な知識を得ることが出来る。				
■	情意的領域	トップアスリートを育成・指導したコーチ(指導者)たちの体験談を直接「生の声」として聞く。				
■	技能表現的領域	各講義での体験談や知識を基に、自分の指導スタイルを描く事が出来る。				
授業計画(全体)						
宮城が総括・世話役となり、前半は宮城によるトップアスリートに関する講義を実施し、その後、本学教員6名および外部講師3~4名に参加頂き、1コマずつ講演形式で実施する。その後、小テストという形で各講演者の指導理念について、報告してもらう。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 総括役の宮城が授業内容や担当者の日割り日程等を説明する。 [授業外学習] 自分のコーチと今回情報のコーチ像を照らし合わせてみる			⑨	[テーマ] 実践スポーツ栄養サポート [内容] 岩佐 義明氏・全日本車椅子バスケットボール監督談 [授業外学習] 自分の関係しているコーチと今回情報のコーチ像を照らし合わせてみる	
②	[テーマ] トップアスリートとは何か。 [内容] 宮城 進による講義 [授業外学習] 自分のコーチと今回情報のコーチ像を照らし合わせてみる			⑩	[テーマ] 世界一を目指して [内容] 阿部 肇氏・ボート日本Jr代表監督談 [授業外学習] 自分の関係しているコーチと今回情報のコーチ像を照らし合わせてみる	
③	[テーマ] トップアスリートを育成する指導者自身の資質と条件とは。 [内容] 宮城 進による講義 [授業外学習] 自分のコーチと今回情報のコーチ像を照らし合わせてみる			⑪	[テーマ] 公立高校が高校日本一 [内容] 佐藤 久夫氏・バスケットボール元日本Jr代表監督談 [授業外学習] 自分のコーチと今回情報のコーチ像を照らし合わせてみる	
④	[テーマ] トップアスリート育成法とは。 [内容] 宮城 進による講義 [授業外学習] 自分のコーチと今回情報のコーチ像を照らし合わせてみる			⑫	[テーマ] 社会人スポーツの壁 [内容] 武石 健哉氏・元ラグビー日本一東芝府中チーム選手談 [授業外学習] 自分のコーチと今回情報のコーチ像を照らし合わせてみる	
⑤	[テーマ] 現著名トップアスリート紹介と日本のスポーツ界の現状・諸問題について [内容] 宮城 進による講義 [授業外学習] 自分のコーチと今回情報のコーチ像を照らし合わせてみる			⑬	[テーマ] 金メダルへの道 [内容] 南條 充寿氏・柔道全日本女子チームコーチ談 [授業外学習] 自分のコーチと今回情報のコーチ像を照らし合わせてみる	
⑥	[テーマ] 決してあきらめな・0からの出発 [内容] 宮城 進・元水球男子日本代表チーム監督談 [授業外学習] 自分のコーチと今回情報のコーチ像を照らし合わせてみる			⑭	[テーマ] 著名アスリート・コンディショニングの実践 [内容] 清野 隼氏・森永ウィダートレーニング・ラボナショナル選手コーチの報告 [授業外学習] 自分のコーチと今回情報のコーチ像を照らし合わせてみる	
⑦	[テーマ] オリンピックへの道 [内容] 鈴木 省三氏 ポプスレーカルガリーオリンピック代表選手談 [授業外学習] 自分のコーチと今回情報のコーチ像を照らし合わせてみる			⑮	[テーマ] 各招聘講師の指導理念等、感想レポート [内容] 小テスト形式で各招聘講師の聴講内容から、指導理念等を整理し、感想レポートを提出する [授業外学習] 習得状況を確認	
⑧	[テーマ] 日本一「愛される」チームを目指して [内容] 南條 和恵氏・仙台大学柔道部女子日本学生体重別選手権優勝監督談 [授業外学習] 自分のコーチと今回情報のコーチ像を照らし合わせてみる			⑯	[テーマ] 総括筆記試験 [内容] トップアスリート育成法やコーチ資質等を主とした問題による試験を実施 [授業外学習] 習得状況を確認	
成績評価方法(方針)						
出席および小テスト(講演時感想レポート)・本筆記試験成績重視						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験		○	○		20%	
授業内レポート		○	○	○	20%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度		○	○	○	10%	
出席		○	○	○	50%	
関連科目						
教科書	なし			参考書	知的コーチング	
連絡先	A407					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツマーケティング論 Sport Marketing (L)			担当教員	弓田恵里香/マーティ・キーナート
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
スポーツの特性やスポーツ消費者の性質を理解した上で、スポーツマーケティング理論や戦略について学ぶ。身近なケースと照らし合わせながらより理解を深められるよう、授業内外での作業を行う。また、国内外のスポーツマーケティング事例も紹介していく。					
授業の一般目標					
スポーツマーケティングの基本、特性、戦略を理解することで、より顧客志向な考え方ができるようになる。また、身近なスポーツ現場を取り上げ実際に作業することで、幅広く、また柔軟な思考が身につく。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	スポーツマーケティングの基本、特性、戦略について説明でき、顧客志向でスポーツプロダクトやサービスについて考えることができる。				
■ 情意的領域	身近なスポーツ事業において顧客志向で取り組むことができる。				
■ 技能表現的領域	SWOT分析やマーケティング・ミックスなど、さまざまな場面で活用できる手法を身につけられる。				
授業計画(全体)					
第1回～第12回までは弓田が担当し、スポーツマーケティングの理論について幅広く概説する。 第13回～第15回はキーナートが担当し、スポーツマーケティングの事例を中心に解説する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員、授業の目標と進め方、成績評価方法などについて説明し、顧客志向について導入部分を概説する [授業外学習] シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] ブランディング [内容] スポーツプロダクトやサービスのブランディングについて理解を深める [授業外学習] 講義内容を復習する
②	[テーマ] スポーツマーケティングとは [内容] 一般的なマーケティングの定義について説明する [授業外学習] 講義内容を復習する			⑩	[テーマ] 関係性マーケティング [内容] 顧客との関係づくりが重要となってくるスポーツプロダクトやサービスで重要な関係性マーケティングの考え方について学ぶ [授業外学習] 講義内容を復習する
③	[テーマ] スポーツプロダクトとは [内容] スポーツマーケティングが対象とするプロダクトやサービスについて説明する [授業外学習] 講義内容を復習する			⑪	[テーマ] インタビュー調査による情報収集と分析 [内容] マーケティングの基本となる「顧客に関する理解」を体験するため、各自がインタビュー調査を実施し、その結果をまとめる [授業外学習] 講義内容を復習する
④	[テーマ] スポーツ消費者とは [内容] スポーツマーケティングで対象とするスポーツ消費者について理解を深める [授業外学習] 講義内容を復習する			⑫	[テーマ] 中間テスト [内容] ①～⑪までの内容を踏まえて授業内にテストを実施する [授業外学習] 講義内容を復習する
⑤	[テーマ] マーケティング・プラン [内容] マーケティングで基本となるマーケティング・プラン(ステップ)について概説する [授業外学習] 講義内容を復習する			⑬	[テーマ] スポーツマーケティングの実際① [内容] スポーツマーケティングの実例を紹介する(野球) [授業外学習] 講義内容を復習する
⑥	[テーマ] 環境分析 [内容] マーケティング・プランでまず必要となる情報収集で、基本となる環境分析について学ぶ [授業外学習] 講義内容を復習する			⑭	[テーマ] スポーツマーケティングの実際② [内容] スポーツマーケティングの実例を紹介する(サッカー、バスケットボール) [授業外学習] 講義内容を復習する
⑦	[テーマ] STP戦略 [内容] 集めた情報をもとに実施するターゲティング、セグメンテーション、ポジショニングについて説明する [授業外学習] 講義内容を復習する			⑮	[テーマ] スポーツマーケティングの実際③ [内容] スポーツマーケティングの実例を紹介する(海外のスポーツ) [授業外学習] 講義内容を復習する
⑧	[テーマ] マーケティング・ミックス [内容] マーケティングをしていく中で必要となる4Pについて理解し、身近な例を使って作業を行う [授業外学習] 講義内容を復習する			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
授業内レポート、授業内テスト、授業外レポートで総合的に評価する。出席は評価割合に加えない。詳細についてはオリエンテーション及び各担当者より授業時に説明がある。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート		◎	○		60%
授業外レポート		◎	◎	○	40%
演習・実技					
授業態度			○		減点あり
出席			○		
履修上の注意(受講学生に望むこと)					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する ・20分以上の遅刻は、欠席とみなす ・授業中は携帯電話をかばんの中にする ・授業計画は、授業の進行状況により変更することがある ・質の高いサービスには生産者と消費者の両者による積極的な参加が必要であり、講義でも同様のことが言える。講義途中でも質問があれば積極的に発言し、講義内容のみならず参考書等を用いて各自予習・復習をすること。 					
関連科目	スポーツ社会学、スポーツ経営学、スポーツマネジメント概論など				
教科書				参考書	原田宗彦・藤本淳也・松岡宏高編著(2008) 『スポーツマーケティング』大修館書店
連絡先	弓田恵里香(A棟504号室)、マーティ・キーナート(A棟503号室)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ産業論 Sports Industry (L)			担当教員	弓田恵里香/マーティ・キーナート
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	コース必修	単位数		
授業の概要					
まず、スポーツが我々の生活でどのような位置づけであり、どのような役割を持つかという基本的概念を復習する。その上で、「体育」とは異なる「ビジネス」としてのスポーツの捉え方を学んでいく。国内の市場規模やスポーツ産業の各領域について理解を深め、それらに関連する概念、理論を紹介していく。また、後半では海外のスポーツビジネスと比較しながら日本の現状や可能性について考察していく。					
授業の一般目標					
スポーツ産業における各領域の特色を理解する。また、それら領域を多面的に捉えるために必要となるデータや概念を説明できる。さらに、国内外の事例と照らし合わせながら学習することで、実際にスポーツ産業界で起こっている現象を分析し、思考する能力を身につける。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	スポーツ産業の概要、各領域が説明でき、国内外の事情の相違点についても考えることができる。スポーツ産業に関わる概念を理解し、図式化することができる。			
■	情意的領域	スポーツの「体育」ではなく、「産業(ビジネス)」としての側面に関心を向ける。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
第1回～第10回までは弓田が担当し、日本のスポーツ産業について幅広く概説する。 第11回～第15回はキーナートが担当し、米国のスポーツ産業を中心に解説する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員、授業の目標と進め方、成績評価方法などについて説明する。 スポーツ産業におけるスポーツの捉え方を紹介する [授業外学習] シラバスを熟読する		⑨	[テーマ] メディアコンテンツとしてのスポーツ [内容] 話題性というだけでなく、市場価値を持つスポーツのイメージやメッセージ性について説明する [授業外学習] 講義内容を復習する	
②	[テーマ] 日本のスポーツ産業の現状 [内容] 他主要産業と比較しどの程度の規模なのか、どのような領域から成り立っているのか、その全体像について紹介する [授業外学習] 講義内容を復習する		⑩	[テーマ] 中間テスト [内容] 1～9回でカバーした内容について、中間テストを実施する [授業外学習] 講義内容を復習し、理解する	
③	[テーマ] 領域①:スポーツ用品産業 [内容] 日本のスポーツ産業を支えるスポーツ用品の現状とその発展について説明する [授業外学習] 講義内容を復習する		⑪	[テーマ] 米国のスポーツ事情① [内容] 米国のプロスポーツについて解説する [授業外学習] 講義内容を復習する	
④	[テーマ] 領域②:スポーツ施設産業 [内容] する・見るスポーツ現場には欠かせないスポーツ施設とそのビジネス化について説明する [授業外学習] 講義内容を復習する		⑫	[テーマ] 米国のスポーツ事情② [内容] 米国のプロスポーツについて解説する [授業外学習] 講義内容を復習する	
⑤	[テーマ] 領域③:スポーツサービス産業 その1 [内容] この回ではするスポーツにおけるサービスを消費者の視点に立って説明する [授業外学習] 講義内容を復習する		⑬	[テーマ] 米国のスポーツ事情③ [内容] 米国のプロスポーツについて解説する [授業外学習] 講義内容を復習する	
⑥	[テーマ] 領域③:スポーツサービス産業 その2 [内容] この回では見るスポーツにおけるブランディングやファンロイヤリティについて説明する [授業外学習] 講義内容を復習する		⑭	[テーマ] 米国のスポーツ事情④ [内容] 米国のプロスポーツについて解説する [授業外学習] 講義内容を復習する	
⑦	[テーマ] メガスポーツイベントのインパクト [内容] オリンピックやサッカーワールドカップなど、スポーツイベントがもたらすインパクトについてライツビジネスを軸に説明する [授業外学習] 講義内容を復習する		⑮	[テーマ] 米国のスポーツ事情⑤ [内容] 米国のプロスポーツについて解説する [授業外学習] 講義内容を復習する	
⑧	[テーマ] 複合産業としてのスポーツツーリズム [内容] スポーツという枠組みにとまらないスポーツツーリズムの広がりとその市場に寄せられる期待について説明する [授業外学習] 講義内容を復習する		⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]	
成績評価方法(方針)					
授業内レポート、授業内テスト、授業外レポートで総合的に評価する。出席は評価割合に加ええない。詳細についてはオリエンテーション及び各担当者より授業時に説明がある。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験					<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する ・20分以上の遅刻は、欠席とみなす ・授業中は携帯電話をかばんの中にしなすこと ・授業計画は、授業の進行状況により変更することがある ・質の高いサービスには生産者と消費者の両者による積極的な参加が必要であり、講義でも同様のことが言える。講義途中でも質問があれば積極的に発言し、講義内容のみならず参考書等を用いて各自予習・復習をすること。
授業内レポート	◎	○		70%	
授業外レポート	◎	○	○	30%	
演習・実技					
授業態度		○		減点あり	
出席		○			
関連科目	スポーツ社会学、スポーツ経営学、スポーツマネジメント概論、スポーツマーケティング論など				
教科書				参考書	原田宗彦編著(2011)『スポーツ産業論第5版』杏林書院
連絡先	弓田恵里香(A棟504号室)、マーティ・キーナート(A棟503号室)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	地域スポーツ戦略論 Sport in Community (L)			担当教員	荒牧亜衣
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
望ましいスポーツ文化の創造と地域の活性化のため、現在、総合型地域スポーツクラブなどによる地域スポーツが注目を集めている。講義では、わが国の地域の現状および地域の活性化の方法を解説した後、総合型地域スポーツクラブやスポーツイベントの意義や課題について説明する。					
授業の一般目標					
地域および地域の活性化、また地域スポーツの意義や課題等について理解できるようになる。さらに総合型地域スポーツクラブやスポーツイベントが企画できる能力を身につける。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	地域の現状や地域活性化の方法、および地域スポーツの意義や課題について説明できる。				
■ 情意的領域	地域と地域スポーツに興味・関心を持ち、積極的にスポーツイベント等に参加できるようになる。				
■ 技能表現的領域	クラブ運営やイベント運営を企画できるようになる。				
授業計画(全体)					
授業テーマに沿った資料を用いた講義を中心とするが、より理解を深めるために視聴覚教材も用いる。また授業の後半では、グループにより総合型地域スポーツクラブまたはスポーツイベントを企画し、発表を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 地域(コミュニティ)とその現状 [内容] オリエンテーションを兼ね、地域(コミュニティ)とは何か、またその現状について解説する。 [授業外学習] 地元の地域の現状について発表できるようにしておくこと			⑨	[テーマ] 総合型地域スポーツクラブの課題とキーワード [内容] 総合型地域スポーツクラブ導入の諸問題や課題、また導入・育成のためのキーワードについて解説する。 [授業外学習] 講義の復習をしておくこと
②	[テーマ] 地域活性化とまちづくり [内容] 地域活性化やまちづくりの背景、およびその課題について解説する。 [授業外学習] まちづくりの具体例について発表できるようにしておくこと			⑩	[テーマ] 総合型地域スポーツクラブの先進事例(1) [内容] 「ソシオ成岩スポーツクラブ」の事例について解説する。 [授業外学習] 講義の復習をしておくこと
③	[テーマ] 地域活性化の方法 [内容] 地域活性化の方法について具体的に解説する。 [授業外学習] 地元の祭やイベントについて調べておくこと			⑪	[テーマ] 総合型地域スポーツクラブの先進事例(2) [内容] 宮城県内の総合型地域スポーツクラブについて解説する。 [授業外学習] 講義の復習をしておくこと
④	[テーマ] ビデオ鑑賞「パリオ」 [内容] イタリア・シエナ市の「パリオ祭」のビデオを鑑賞し、そこに見られる地域活性化のキーワードを抽出する。 [授業外学習] パリオ祭について調べておくこと			⑫	[テーマ] 総合型地域スポーツクラブの導入・育成手順と設置に向けて [内容] 総合型地域スポーツクラブの導入・育成手順、ならびに「スポーツによる地域活性化」についてまとめの解説をする。 [授業外学習] 講義の復習をしておくこと
⑤	[テーマ] 日本人のスポーツ参加の実態と「スポーツ振興計画・基本計画」 [内容] 資料に基づき日本人のスポーツ参加の実態と課題、さらに「スポーツ基本計画」について解説する。 [授業外学習] 「スポーツ基本計画」について調べておくこと			⑬	[テーマ] 総合型地域スポーツクラブの企画 [内容] グループワークにより、総合型地域スポーツクラブを企画する。 [授業外学習] 授業中にできなかったことをグループで話し合い、企画を立てる
⑥	[テーマ] ビデオ鑑賞「総合型地域スポーツクラブ」 [内容] 総合型地域スポーツクラブ導入のためのビデオを鑑賞し、理解を深める。 [授業外学習] 総合型地域スポーツクラブとは何かを簡単に調べておくこと			⑭	[テーマ] プレゼンテーション(1) [内容] 前半グループによる総合型地域スポーツクラブの発表とディスカッション。 [授業外学習] パワーポイントにより発表資料を作成しておくこと
⑦	[テーマ] 総合型地域スポーツクラブとその理念 [内容] 総合型地域スポーツクラブの政策背景やその理念、課題等について解説する。 [授業外学習] 地元の総合型地域スポーツクラブについて調べておくこと			⑮	[テーマ] プレゼンテーション(2) [内容] 後半グループによる総合型地域スポーツクラブの発表とディスカッション。 [授業外学習] パワーポイントにより発表資料を作成しておくこと
⑧	[テーマ] 総合型地域スポーツクラブの現状 [内容] 文部科学省による調査結果を紹介し、総合型地域スポーツクラブの現状を解説する。 [授業外学習] 講義の復習をしておくこと			⑯	[テーマ] 試験(小論文) [内容] 授業の理解度・到達度を確認するための期末試験(小論文)を行う。 [授業外学習] 期末試験に向け、復習しておくこと
成績評価方法(方針)					
期末試験の成績(評価割合50%)、企画内容およびプレゼンテーション(評価割合40%)、および授業内レポート(評価割合10%)により評価するが、積極的な授業態度も加点する。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			50%
授業内レポート		○	◎		10%
授業外レポート					
演習・実技			◎	◎	40%
授業態度			○		加点あり
出席					
関連科目	スポーツ社会学(1年), スポーツ経営学(1年)				
教科書				参考書	日本体育協会(平成20年)総合型クラブ創設ガイド
連絡先	荒牧研究室				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	企業スポーツ論 Corporate Sports			担当教員	高成田 享
	開講内容	学年・学期	3・半期		
	履修の方法	選択	単位数	2	関連資格
授業の概要					
日本独自のスポーツ文化といえる企業スポーツの歴史、現状を学びながら、これからの企業スポーツのあり方を考え、体育系大学生として、将来の職業選択を含めた知識を蓄える。					
授業の一般目標					
企業スポーツ全般についての知識を学ぶ。自分が関与していたり、興味を持っていたりするスポーツと企業との関係を知り、職業選択の一助とする。自分が興味を持っているスポーツの意味をほかの人に理解させる技術を学ぶ。毎回の授業で、小作文を書くことで、授業で学んだ知識を深めるとともに、文章を書くことに慣れる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	企業スポーツの概要を学ぶ。			
■	情意的領域	自分が興味を持っているスポーツの意義や楽しみをほかの人に伝える方法や工夫を学ぶ。			
■	技能表現的領域	作文及び自分の意見のプレゼンテーションする能力を高める。			
授業計画(全体)					
講義を進めるなかで、それぞれのテーマについて知識や問題意識を高め、企業スポーツ全体についての理解を深めるようにする					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] なぜ企業スポーツを学ぶのか [内容] 企業スポーツ論を学ぶ意義について学ぶ [授業外学習] 実業団スポーツについて調べる			⑨	[テーマ] 事例研究⑤バスケットボール [内容] プロ化するかどうか迷走したうえ、プロとアマとに分裂、そして統一リーグが結成されたバスケットボールの歴史と教訓を学ぶ。 [授業外学習] 統一リーグまでの歴史を調べる
②	[テーマ] 企業スポーツの歴史① [内容] 日本における明治以降のスポーツそのものの歴史とあわせながら、戦前までの企業スポーツの歴史をたどる。 [授業外学習] 日本における野球の歴史を調べる			⑩	[テーマ] 模索する企業(上) [内容] 企業戦略のなかで、企業スポーツをどう位置づけるか、模索する企業の現況を学ぶ。 [授業外学習] 企業統治(コーポレートガバナンス)について調べる
③	[テーマ] 企業スポーツの歴史③ [内容] 企業スポーツが興隆した戦後の歴史をたどる。とくに、女子バレーなどオリンピックへの企業スポーツの貢献を学ぶ。 [授業外学習] 高校の教科書で日本の近代史・現代史を読み直す			⑪	[テーマ] 模索する企業(下) [内容] 地域貢献の一環として企業スポーツが見直されている事例を学ぶ。 [授業外学習] CSR(起業の社会貢献)について調べる
④	[テーマ] 企業スポーツの歴史③ [内容] バブル崩壊以降、休部や廃部が相次いだ企業スポーツの現在の動向を学ぶ。 [授業外学習] 日頃から新聞やテレビの経済ニュースに接する			⑫	[テーマ] 海外の企業スポーツ [内容] 日本ほど盛んではないが、海外にもある企業スポーツの歴史と現況。 [授業外学習]
⑤	[テーマ] 事例研究①野球 [内容] 歴史も長く、都市対抗野球に見られるように、世界的認知度も高い野球を例に、企業スポーツの実態を学ぶ。 [授業外学習] アマチュア野球の現状を調べる			⑬	[テーマ] 誰がスポーツを支えるのか(上) [内容] スポーツ基本法などを通じたスポーツの国家戦略。 [授業外学習] 「スポーツ立国」について調べる
⑥	[テーマ] 事例研究②バレーボール [内容] 紡績工場の女工教育からはじまった女子バレーがオリンピックでの活躍で国民から注目されるスポーツになった歴史など。 [授業外学習] トップリーグの運営母体を調べる			⑭	[テーマ] 誰がスポーツを支えるのか(下) [内容] スポーツ発展の土台に位置づけられた総合型地域スポーツクラブの役割や実際。 [授業外学習] 総合型地域スポーツクラブについて調べる
⑦	[テーマ] 事例研究③サッカー [内容] 企業スポーツの実業団がプロリーグの発足で、どう変質したかを学ぶ。同時に、有力選手の海外流出が続くなかでのJリーグのマネジメントを学ぶ。 [授業外学習]			⑮	[テーマ] 小論文 [内容] これまでの講義を踏まえた小論文の作成。 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 事例研究④ラグビー [内容] アマチュアとして企業スポーツを貫く一方で、プロ契約の選手もいる実際を学び、2019ワールドカップに向けての態勢をさぐる。 [授業外学習] トップリーグの運営母体を調べる			⑯	[テーマ] 予備 [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
出席状況と授業の終わりに書くレポート、最後の授業で書く小論文などで判定					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート	◎	◎	◎		60%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度	○	○	○		10%
出席	○	○	○		30%
関連科目					
教科書				参考書	
連絡先	高成田研究室(to-takanarita@sendai-u.ac.jp)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ政策論 Sport Policy(L.)			担当教員	馬場 宏輝
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
本授業は、わが国のスポーツ政策について、スポーツ行政との関わりを踏まえ、国・都道府県・市区町村の三つのレベルについて、具体例をあげて講義を行う。また、スポーツ関連団体におけるスポーツ政策やスポーツ政策の評価についても説明する。					
授業の一般目標					
国・都道府県・市区町村の三つのレベルにおけるスポーツ政策を知り、身近なスポーツ事業が、どのようにスポーツ政策と関わっているのか説明できるようにする。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	国・都道府県・市区町村の三つのレベルにおけるスポーツ政策について説明できる。身近なスポーツ事業をスポーツ政策との関わりから考えることができる。			
■	情意的領域	スポーツ政策に関わる身近なスポーツ事業に興味を持つことができる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるための視聴覚教材も用いる。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。また、授業の進み具合によっては、協同作業としてのグループワークやレポートの発表等も行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法について説明する [授業外学習]シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] 都道府県のスポーツ政策について [内容] 都道府県のスポーツ政策について具体例をあげて説明する [授業外学習]身近な都道府県のスポーツ政策について調べておくこと
②	[テーマ] 政策とは [内容] 政策とは何か、行政との関わりから説明する [授業外学習]政策とは何か説明できるようになること			⑩	[テーマ] 市区町村のスポーツ政策について [内容] 市区町村のスポーツ政策について具体的をあげて説明する [授業外学習]身近な市区町村のスポーツ政策について調べておくこと
③	[テーマ] スポーツ政策について [内容] 政策とは何か、行政との関わりから説明する [授業外学習]スポーツ政策とは何か説明できるようになること			⑪	[テーマ] 日本体育協会のスポーツ政策について [内容] 日本体育協会のスポーツ政策について説明する [授業外学習]日本体育協会のスポーツ政策について説明できるようになること
④	[テーマ] スポーツ行政と関連する法律について [内容] スポーツ行政と関連する法律について説明する [授業外学習]スポーツ行政と関連する法律について説明できること			⑫	[テーマ] 日本オリンピック委員会のスポーツ政策について [内容] 日本オリンピック委員会のスポーツ政策について説明する [授業外学習]オリンピック委員会の政策について説明できること
⑤	[テーマ] スポーツ行政の組織と役割について [内容] スポーツ行政の組織と役割について説明する [授業外学習]スポーツ行政の組織と役割について説明できるようになること			⑬	[テーマ] スポーツ政策の政策評価 [内容] スポーツ政策の政策評価について説明する [授業外学習]政策の評価とはどのようなことか説明できるようになること
⑥	[テーマ] 日本のスポーツ政策の変遷について [内容] 日本のスポーツ政策の変遷について説明する [授業外学習]日本のスポーツ政策の変遷について説明できるようになること			⑭	[テーマ] 諸外国におけるスポーツ政策 [内容] 諸外国におけるスポーツ政策について説明する [授業外学習]諸外国におけるスポーツ政策について説明できるようになること
⑦	[テーマ] スポーツ振興基本計画について [内容] スポーツ振興基本計画について説明する [授業外学習]スポーツ振興基本計画について説明できるようになること			⑮	[テーマ] 全体総括 [内容] 半期の講義内容を振り返る [授業外学習]授業の資料をもとに復習すること
⑧	[テーマ] スポーツ政策に関する財源について [内容] スポーツ政策に関する財源について説明する [授業外学習]スポーツ政策に関する財源について説明できるようになること			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
授業内レポート(評価割合25%)と、授業外レポート(評価割合75%)を課す。これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加え、欠格条件となる。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート			○		25%
授業外レポート		◎			75%
演習・実技					
授業態度					減点あり
出席					欠格条件
履修上の注意(受講学生に望むこと)					
<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。 ・授業中は携帯電話をかばんの中に入れておくこと。 ・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じておくこと。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。 					
関連科目	スポーツ経営学(1年)、スポーツ社会学(1年)、スポーツマネジメント概論(2年)、地域スポーツ戦略論(2年)、スポーツクラブマネジメント論(3年)				
教科書	指定しない			参考書	諏訪伸夫他「スポーツ政策の現代的課題」 菊幸一他「スポーツ政策論」
連絡先					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	レジャー・レクリエーション論			担当教員	仲野 隆士
	Theory of Leisure and Recreation (L.)				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要 本講義は社会変化に伴う私達の生活におけるレジャー・レクリエーションの意義や価値を理解すると共に、レクリエーション支援者として理解すべき諸理論の基礎を講義形式で概説する。					
授業の一般目標 社会変化に伴う私達の生活におけるレジャー・レクリエーションの意義や価値を理解する。レクリエーション支援者として理解すべき諸理論の基礎を理解する。					
授業の到達目標 時代の変遷に伴うレジャー・レクリエーションの意義や価値観の変化、ライフスタイルへ取り入れることの重要性などが具体的にわかる					
■	認知的領域	レジャー・レクリエーションが心身の調和に果たす機能や役割を理解し、積極的活用を心がけるような行動変容を習得する			
■	情意的領域	レジャー・レクリエーションが心身の調和に果たす機能や役割を理解し、積極的活用を心がけるような行動変容を習得する			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体) レジャーやレクリエーションは、スポーツと同様に高齢社会や自由時間増大に伴う生涯学習社会において重要な役割を担っている。それを前提として、テキストもさることながら、補足資料配布によるデータの補強、パワーポイントのスライドによる説明、ビデオの映像により理解を深めるなど、工夫しながら授業を展開していく。何回かに1度、授業中にショートレポートを作成し提出してもらいたい。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーションとイントロダクション [内容] 授業の進め方、筆記試験、評価の説明他 [授業外学習] シラバスを読んでおくこと			⑨	[テーマ] レジャー・レクリエーション活動の動向に関する国際比較 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと
②	[テーマ] レクリエーション活動と健康の関係 [内容] 教員が作成したビデオを通して健康に果たすレクリエーション活動の機能や役割を理解する [授業外学習] 配布資料で復習しておくこと			⑩	[テーマ] 日本人のレジャー・レクリエーション活動の特徴(性・年齢などの比較を通して) [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと
③	[テーマ] 遊び・スポーツ・レジャー・レクリエーションの概念1 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと			⑪	[テーマ] 日本人のレジャー・レクリエーション活動の特徴(時代の変遷との関連) [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと
④	[テーマ] 遊び・スポーツ・レジャー・レクリエーションの概念2 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと			⑫	[テーマ] レクリエーション支援の展開と方法1 高齢社会の課題とレクリエーション [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと
⑤	[テーマ] レジャー・レクリエーションの歴史の変遷・1 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと			⑬	[テーマ] レクリエーション支援の展開と方法2 少子化の課題とレクリエーション [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと
⑥	[テーマ] レジャー・レクリエーションの歴史の変遷・2 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと			⑭	[テーマ] レクリエーション支援の展開と方法3 地域の課題とレクリエーション [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと
⑦	[テーマ] レクリエーション運動の変遷 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと			⑮	[テーマ] レクリエーション事業の計画と安全 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと
⑧	[テーマ] レジャー・レクリエーションの機能 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習]			⑯	[テーマ] テスト [内容] 持込可の筆記試験を実施する [授業外学習]
成績評価方法(方針) 筆記試験の他、ショートレポート、出席状況、授業態度などを基に、総合的に評価する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎	○		50
授業内レポート		◎	○		50
授業外レポート					評価対象外
演習・実技					評価対象外
授業態度					減点あり
出席					欠格条件
関連科目	レクリエーション支援論、野外・レクリエーション・マネジメント論(含演習)など				
教科書	『レクリエーション支援の基礎』(財)日本レク協会編			参考書	『やさしいレクリエーション実践』(財)日本レクリエーション協会編
連絡先	A棟508仲野研究室				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	レクリエーション支援論 Instruction Method for Recreation Activities(L.)			担当教員	仲野 隆士
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
本講義では、レクリエーション運動を推進する上で特に重要な役割を担うであろうレクリエーション・コーディネーターが支援者として理解すべき諸理論並びに支援技術、時代が求めるレクリエーションの新たなビジョンなどを具体的に概説する。					
授業の一般目標					
レクリエーション運動を推進するレクリエーション支援者として理解すべき諸理論並びに支援技術、時代が求めるレクリエーションの新たなビジョンなどを具体的に理解する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	支援者として求められる問題解決技法、レジャーカウンセリング、イベント企画などの基礎がわかる				
■ 情意的領域	支援者として支援する楽しさや喜びがわかる				
■ 技能表現的領域	グループワークやプレゼンテーション資料の作成などを通して、支援に必要な技術を高める				
授業計画(全体)					
新世紀を迎えた現在、私達はこれまでにない多くの自由時間を得ようとしている。その余暇社会の中において、レクリエーション支援者の果たすべき役割は過去のどの時代よりの重要になっていくであろう。それを前提として、テキストもさることながら、補足資料配布によるデータの補強、パワーポイントのスライドによる説明、ビデオの映像により理解を深めるなど、工夫しながら授業を展開していく。何回かに1度、授業中にショートレポートを作成し提出してもらいたい。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 授業オリエンテーション [内容] 授業の進め方、筆記試験、評価の説明他 [授業外学習] シラバスを読んでおくこと			⑨	[テーマ] レクリエーションサービス論 [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学習] 配布資料を復習しておくこと
②	[テーマ] レクリエーション支援者の支援場面に学ぶ [内容] レクリエーションのベテラン支援者の支援場面のビデオを観察し、どのような点で優れているのか、個々の支援者の個性はどうなのか、自分ならどのように支援するか [授業外学習] 授業で気づいたことをまとめておくこと			⑩	[テーマ] レクリエーション・マーケティング1 [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学習] 配布資料を復習しておくこと
③	[テーマ] レクリエーション指導・支援の意味と役割 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと			⑪	[テーマ] レクリエーション・マーケティング2 [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学習] 配布資料を復習しておくこと
④	[テーマ] レクリエーション指導・支援の原則 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと			⑫	[テーマ] ネットワーキング [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学習] 配布資料を復習しておくこと
⑤	[テーマ] レクリエーション指導・支援の技術 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと			⑬	[テーマ] プレゼンテーション [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学習] 配布資料を復習しておくこと
⑥	[テーマ] レクリエーション指導・支援の内容と支援者に求められる資質 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと			⑭	[テーマ] プロモーション [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学習] 配布資料を復習しておくこと
⑦	[テーマ] レクリエーション支援の理論 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと			⑮	[テーマ] 会議の持ち方、経理・財務管理 [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学習] 配布資料を復習しておくこと
⑧	[テーマ] レクリエーション組織の経営論 [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学習] 配布資料を復習しておくこと			⑯	[テーマ] テスト [内容] 持ち込み「可」による筆記試験を実施(レポート形式) [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
筆記試験(レポート形式)の他、ショートレポート、出席状況、授業態度などを基に、総合的に評価する。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験	◎	○		40	興味関心の強い学生は、教室の前の方で受講してほしい。また、教室後方で受講する学生も、周りに迷惑を及ぼすような言動や行動を慎むことを基本的なルールとする。質問のある学生は、授業中に質問してもかまわないし、研究室に来て質問をしてもかまわない。黒板に書かれた内容のみをノートに書き写すのではなく、説明などの話で重要と思われる内容はメモするように心がけてほしい。出席は毎回取るので、試合や実習等で欠席する場合は、事前に欠席届を提出すること。
授業内レポート	◎	○		40	
授業外レポート				評価対象外	
演習・実技		○	◎	20	
授業態度				減点あり	
出席				欠格条件	
関連科目	レジャー・レクリエーション論、野外・レクリエーション・マネジメント論(含演習)など				
教科書	『レクリエーション・コーディネートのすすめ方』(財)日レ協編			参考書	『レクリエーションマネジメント』・『レジャーカウンセリング』(財)日本レクリエーション協会編
連絡先	A棟508仲野研究室				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	体操(含体づくり運動) Gymnastic(P.A.)			担当教員	溝口 絵里加
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格 教員免許状(中高保体)・ジュニアスポーツ指導員・スポーツプロ グラマー・健康運動実践指導者・健康運動実践指導士
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
運動を通して、自分や仲間の身体や心の状態に気づき、体の調子を整えたり、友達と触れ合い楽しく体を動かす実技を行う。体ほぐし運動、運動あそび、柔軟性を高める為の運動、ストレッチング、リズム体操などを紹介する。					
授業の一般目標					
実技を通して、様々な運動を身につけるとともに、運動の基本的な実技指導が出来るようになる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	様々な基本動作の内容が説明できる。			
■	情意的領域	体を動かすことによって、仲間と協力し表現することができる。			
■	技能表現的領域	対象者に応じた体操を創ることができる。			
授業計画(全体)					
試験は、個人技能の出来栄とグループにおける課題達成度(評価割合70%)また個人学習ノートの記入(評価割合30%)そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は評価割合に加え、さらに欠格条件とする。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法			⑨	[テーマ] 組み合わせ課題 [内容] サーキットトレーニング。自重トレーニング。
②	[テーマ] ストレッチングと柔軟体操 [内容] 正しい行い方でストレッチを行う。体ほぐしを行いながら仲間と交流を深める。柔軟体操。			⑩	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムづくり 導入 [内容] 対象者を設定する。動きの種類を出し合う。運動強度の設定をし運動内容を調整する。
③	[テーマ] ストレッチングと柔軟体操の応用 [内容] スタティックストレッチングとバリスティックストレッチングについて。様々なストレッチを実施する。			⑪	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムづくり 運動強度 [内容] 運動強度の設定をし運動内容を調整する。
④	[テーマ] リズム体操(基礎) [内容] 徒手でのリズム体操。基礎的な動きを修得する。			⑫	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムづくり 師範について [内容] 運動を指導者らしく見えるよう工夫する。師範について
⑤	[テーマ] リズム体操(応用) [内容] 徒手でのリズム体操。基礎的な動きを修得する。			⑬	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムづくり まとめ [内容] 運動プログラムを仕上げ、出来栄が良くなるように工夫する。フォーメーションの変化も取り入れる。
⑥	[テーマ] 用具体操 [内容] 用具を使った運動あそび。指導方法について			⑭	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラム評価テスト [内容] 各グループで創作した運動プログラムを相互に発表。評価する。
⑦	[テーマ] 用具体操 [内容] 用具を使った運動あそび。指導方法について			⑮	[テーマ] 授業全体を振り返る [内容] 授業の理解度、技能の習得度のまとめをする。
⑧	[テーマ] リズム体操個人テストと前回までの振り返り [内容] 動きの質を高める。他者の評価方法について			⑯	[テーマ] 授業全体を振り返る [内容] 授業の理解度、技能の習得度のまとめをする。
成績評価方法(方針)					
個人技能の出来栄とグループ活動における課題達成度(評価割合70%)また個人学習ノートの記入(評価割合30%)そして、これらを基に総合して成績評価を行う。出席については、評価割合に加え減点対象とし、欠格条件とする。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。 ・10分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・服装や身だしなみを整えて受講すること。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
定期試験				30%	
授業内レポート	○	○			
授業外レポート					
演習・実技			◎	70%	
授業態度				減点対象	
出席				減点・欠格条件	
関連科目					
教科書	特になし			参考書	体づくり運動―授業の考え方と進め方―文部科学省
連絡先	溝口研究室(第3体育館3階)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	レクリエーション実技 I			担当教員	南條正人・伊藤枝里奈
	Practical Skill on Recreation I (P.A.)				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要 レクリエーション指導・支援者は、単にレクリエーション種目(レクリエーション財)を伝達するだけではない。そのことによって人間同士のふれあいを促進し、新しい集団づくりをすすめて、価値ある人生と社会への一步を築く方向性めざす人達に対して支援を行う。ここでは、レクリエーション指導・支援者として必要な基礎実技を体験学習し、その基礎を習得する。学校の授業や事業、地域レクリエーションなどでの支援能力を養成する。					
授業の一般目標 実際の体験を通して、様々な領域のレクリエーション種目(レクリエーション財)や活動の楽しさや面白さが分かる。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	レクリエーションについて説明できる。特に、レクリエーション種目(レクリエーション財)について。				
■ 情意的領域	様々な領域のレクリエーション種目(レクリエーション財)や活動の楽しさや面白さが分かる				
■ 技能表現的領域	ゲームやニュースポーツ種目などを楽しむ技術を身につける。				
授業計画(全体) 基本的に2名の教員が7回の授業(2ラウンド)を担当する。学生全体を各々10名前後にグループ分けし、全体を大きく2つに分ける。前半、教員Aの授業を1体で7回受講したら、後半の授業は教員Bの授業を2体で7回受講する。もう一方のグループは、その逆とする。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、グループ分け			⑨	[テーマ] 体力づくりゲーム [内容] 学校体育で展開されている体力づくりの内容をゲーム化して紹介する
②	[テーマ] 室内ゲーム1 [内容] 室内で行うレクリエーションゲーム・ソングを紹介する			⑩	[テーマ] 体解しゲーム [内容] 学校体育で展開されている体解しの内容をゲーム化して紹介する
③	[テーマ] 室内ゲーム2 [内容] 室内で行うレクリエーションゲーム・ソングで、前回とは異なる内容を紹介する			⑪	[テーマ] 生涯スポーツ1 [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:インディアカ)
④	[テーマ] 福祉レクリエーションを意識した活動 [内容] 高齢者や障害者などの対象に合わせたレクリエーション活動			⑫	[テーマ] 生涯スポーツ2 [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:ベタンク)※インドア、アウトドア両方
⑤	[テーマ] コミュニケーション・ワーク [内容] 遊び環境を通して多様なコミュニケーションスキルの体験			⑬	[テーマ] 生涯スポーツ3 [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:フライングディスク)※ゴルフ、アキュラシー
⑥	[テーマ] レクリエーションダンス [内容] 子どもの発育・発達を目的としたレクリエーションダンス			⑭	[テーマ] 生涯スポーツ4 [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:ユニバーサルホッケー)
⑦	[テーマ] 身近なものを用いたレクリエーション [内容] 新聞紙等を用いたレクリエーション種目(レクリエーション財)の体験			⑮	[テーマ] 生涯スポーツ5 [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:チャレンジ・ザ・ゲーム)※4種目
⑧	[テーマ] 室外ゲーム [内容]			⑯	[テーマ] 総括 [内容] 体験学習したレクリエーション種目(レクリエーション財)を各自がレクリエーション実技ノートにまとめて指定された期日までに提出する
成績評価方法(方針) 基本的に2名の教員が7回の授業(2ラウンド)を担当する。学生全体を各々10名前後にグループ分けし、全体を大きく2つに分ける。前半、教員Aの授業を1体で7回受講したら、後半の授業は教員Bの授業を2体で7回受講する。もう一方のグループは、その逆とする。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					評価対象外
授業内レポート		◎	○		40%
授業外レポート					評価対象外
演習・実技		○	○	◎	20%
授業態度					減点あり
出席					40%
関連科目	レクリエーション実技 II、レジャー・レクリエーション論、野外・レクリエーション・マネジメント論など				
教科書	特になし			参考書	
連絡先					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	レクリエーション実技Ⅱ				担当教員	仲野・小池・高崎・岡田
	Practical Skill on Recreation II (P. A.)					
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	レクリエーション指導者資格
	履修の方法	選択	単位数	1		
授業の概要						
仲野:コミュニケーションワーク・レクダンス創作 小池:支援実習1(レク種目指導) 高崎:支援実習2(レク活動の創作) 岡田:支援実習3(スタンツ) 学校での授業や事業、地域レクリエーションなどにおける支援能力を養成する						
授業の一般目標						
様々なレクリエーションのジャンルにおいて、支援者に必要な資質をグループワークを中心に体験的に習得する						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	創作や演出の基本や留意点が理解できる					
■ 情意的領域	人前で個性を発揮する場面(意図的に設定)を通して、支援者に必要な演出・話術・支援力などが身につく					
■ 技能表現的領域	レクダンス・レクゲーム・スタンツなどを創作し発表することで、創作力や応用力が身につく					
授業計画(全体)						
<ローテーション> はじめの6回は、全体で仲野担当。7～15の9回は、3回毎にローテーションとする(担当:小池・高崎・岡田)						
①クラス(1体→4体→剣道) ②クラス(4体→剣道→1体) ③クラス(剣道→1体→4体)						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション・仲野1 [内容] 授業の全体像を理解する・アイスブレイクの技法:受講生全員並びに班分けされた班員相互の雰囲気作りをねらいとしたアイスブレイキングの進め方を実演し、その効果的な進め方を学ぶ				⑨	[テーマ] レクリエーションゲーム指導演習・小池3 [内容] ①指導演習課題(主にアイスブレイキングのゲーム)の練習 ②グループによる指導演習(ロールプレイ) ③指導演習評価 ④レクリエーション指導のまとめ
②	[テーマ] コミュニケーションワーク・ホスピタリティトレーニング 仲野2 [内容] コミュニケーションワーク・ホスピタリティトレーニングその1:1対1(2人)→2対2(4人)→4対4(8人)というように、コミュニケーションワークを進めながらグループへと発展していくプロセスを体験させる				⑩	[テーマ] レク活動の創作1・高崎1 [内容] レクリエーション活動の創作について、1)その学習の必要性、2)基本的な創作の方法について、バリエーションアップシートによる演習により、体験学習する。
③	[テーマ] コミュニケーションワーク・ホスピタリティトレーニング 仲野3 [内容] コミュニケーションワーク・ホスピタリティトレーニングその2 リポートトークやローテーショントークといったコミュニケーションワークを通して、積極的傾聴の留意点やポイントを理解する				⑪	[テーマ] レク活動の創作2・高崎2 [内容] バリエーションシートの完成後、創作したレクリエーション活動をグループ別に発表するためのリハーサルや役割分担の確認を行う。
④	[テーマ] レクリエーションダンス 仲野4 [内容] レクリエーションダンスの技法:ダンスとゲームの接点に位置する様々なレクダンスを紹介し、音楽に合わせて体を動かすことの楽しさや面白さを体感する。後半に、オリジナルレクダンスのテーマ曲を発表し、創作への手順や留意点を説明する。				⑫	[テーマ] レク活動の創作3・高崎3 [内容] 創作したレクリエーション活動の発表会を実施し、その発表を振り返りながら、レクリエーション活動の創作について、ポイントを整理しまとめる。
⑤	[テーマ] レクリエーションダンス 仲野5 [内容] レクリエーションダンスの検索:設定されたテーマ曲を確認し、曲のイメージやリズムを意識した上で、各班ごとにオリジナルな振り付けをしていき、レクダンスを完成させる。				⑬	[テーマ] スタンツとは [内容] スタンツがどのようなものかを体験的に学ぶ。まずスタンツについて説明を行い、導入ゲームを行った後、お題に基づいてスタンツを作成し、発表する。
⑥	[テーマ] レクリエーションダンス 仲野6 [内容] レクリエーションダンスの発表会:最終リハーサルが終了したら、オリジナルレクダンスの発表会を実施する(ビデオで撮影する)。終了後に、振り付けをした動きを説明した説明用紙を提出する。				⑭	[テーマ] スタンツのバリエーション [内容] 楽しく面白いスタンツを作るための導入ゲームをいくつか紹介する。その後、共通テーマを設けてグループごとにストーリーを考え、スタンツの練習を行う。
⑦	[テーマ] レクリエーションゲーム指導演習・小池1 [内容] ①指導演習の進め方のオリエンテーション ②指導演習課題(主にアイスブレイキングのゲーム)の練習 ③グループによる指導演習(ロールプレイ) ④指導演習評価				⑮	[テーマ] スタンツの発表 [内容] グループごとにスタンツを発表し、受業生同士で評価し合う。レクリエーションとしてスタンツを用いる際の留意点を説明する。
⑧	[テーマ] レクリエーションゲーム指導演習・小池2 [内容] ①指導演習課題(主にアイスブレイキングのゲーム)の練習 ②グループによる指導演習(ロールプレイ) ③指導演習評価				⑯	[テーマ] [内容]
成績評価方法(方針)						
出席、学習態度、授業ノートにより総合的に評価する						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験						
授業内レポート						
授業外レポート	◎	○			30%	
演習・実技		◎	◎		30%	
授業態度					減点あり	
出席					40%	
関連科目	レクリエーション実技Ⅰ、レジャー・レクリエーション論、レクリエーション支援論など					
教科書	特になし				参考書	『やさしいレクリエーション実践』日本レクリエーション協会編 他
連絡先	仲野・小池・高崎・岡田 各研究室					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	エアロビックダンス Aerobic dance			担当教員	渋谷 祐子・坂上 香里	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	健康運動実践指導者
	履修の方法	選択	単位数			
授業の概要						
本授業は健康・体力づくりの運動であるエアロビックダンスを理解し、年齢・体力・健康状態などの個人差を配慮して、安全で効果的なエアロビックダンスの運動プログラムを習得する。また、対象者に応じた運動プログラム・指導法・指導上の留意点などについて学習する。						
授業の一般目標						
エアロビックダンスの基本、低体力者からフィットネス領域での運動を知り、コミュニケーションスキルの向上、指導法、運動のプログラム作成ができるようになる。その他、ストレッチングや筋コンディショニング、リラクゼーション、ヨガなどのさまざまなフィットネスプログラムの体験を通じて、健康づくりの運動指導者に必要な知識、技術を身につける。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	健康・体力づくり運動の理解、指導法など運動指導者に必要な知識を身につけることができる。					
■ 情意的領域	身近な運動に興味を持ち主観的、客観的に健康づくりを考えることができる。					
■ 技能表現的領域	エアロビックダンスの動作習得により、姿勢改善、正しい身体の使い方ができるようになる。指導法を学習することでプレゼンテーション能力が向上する。					
授業計画(全体)						
各授業はテーマに沿った資料を用いて実技中心だが講義も行う。各授業毎に、前週の内容を復習し理解度・到達度を確認する。また、協同作業としてのグループワークを行い、集団での発表の場を設ける。場合によってはレポート提出を実施する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、健康運動実践指導者資格受講について シラバスを熟読すること、水分補給の用意、ウェア、シューズの用意すること			⑨	[テーマ] 指導法1 [内容] 集団の運動指導について説明する 配布資料を理解しておくこと	
②	[テーマ] エアロビックダンス体験1 [内容] 一般的なエアロビックダンスについて説明する			⑩	[テーマ] 指導法2 [内容] 集団の運動指導について説明する	
③	[テーマ] エアロビックダンス体験2 [内容] エアロビックダンスの基本動作を体験する、エアロビックダンスのストレッチングについて説明する。 実技が多いので体調管理、ケガの予防を伝える			⑪	[テーマ] プログラム作成1 [内容] メインエクササイズ運動のプログラム作成について説明する 配布資料を理解しておくこと	
④	[テーマ] エアロビックダンス体験3 [内容] エアロビックダンスの基本動作を体験する、筋力トレーニング(自重負荷運動)について説明する。 実技が多いので体調管理、ケガの予防を伝える			⑫	[テーマ] プログラム作成2 [内容] 作成したプログラムの修正を行う(グループ発表) プログラムを覚え指導練習をすること	
⑤	[テーマ] エアロビックダンスの基礎理論 [内容] エアロビックダンスの基本的な考え方、特性・効果・運動プログラムについて説明する。 配布資料を理解しておくこと			⑬	[テーマ] プログラム作成と指導1 [内容] 作成したプログラムを指導する(グループ発表)	
⑥	[テーマ] メインエクササイズ運動の強度について [内容] 指導者、参加者側双方からみた有酸素運動の運動強度について説明する 配布資料を理解しておくこと			⑭	[テーマ] プログラム作成と指導2 [内容] 作成したプログラムを指導する(グループ発表) テストに備えて復習をすること	
⑦	[テーマ] 対象者別の運動プログラム体験 [内容] 対象者に合わせた運動プログラムを理解し、考慮した点や動作上の注意点等を理解する			⑮	[テーマ] テスト1 [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う	
⑧	[テーマ] 筆記テスト [内容] 健康運動実践指導者テキストからエアロビックダンスに係わる問題を出題する			⑯	[テーマ] テスト2 [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う	
成績評価方法(方針)						
試験は、実技試験を1回実施する(評価割合60%)。また、授業内筆記テスト(評価割合25%)と、出席(評価割合10%)、学習態度(評価割合5%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(放棄とみなす)。 ・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。見学者は申告すること。 ・授業中は携帯電話をかばんの中にしまい、マナーモードにすること。 ・実技中心なのでシューズは必ず持参、ウェア、水分補給の用意すること。
定期試験				◎	60%	
授業内レポート		◎		◎	25%	
授業外レポート					予定なし	
演習・実技			◎		5%	
授業態度			◎		減点アリ	
出席		◎	◎		10%	
関連科目						
教科書	特に指定しない			参考書	「健康運動実践指導者用テキスト」(健康・体力づくり事業財団) 「エアロビックダンスEX理論」(社)日本フィットネス協会	
連絡先	研究室:なし 教育企画室経由					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ニュー・ゲームズ New Games(P.A.)			担当教員	仲野隆士・弓田恵里香・佐藤周平	
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実技	関連資格	レクリエーション・コーディネーター
	履修の方法	選択	単位数	1		
授業の概要						
本授業では、これまでに考案されてきたニュー・ゲームを領域毎に紹介し実践する。さらに、最後の2回は全体授業とし、新しいオリジナルゲームを考案する方法について学習した上で、グループ毎に実際にオリジナルゲームを考案し、他のグループに対して発表する場面を設定することにしたい。最終的には、学校での授業や行事、地域でのレクリエーションなどで指導・支援できる能力を要請する。						
授業の一般目標						
限られた用具(体育館の倉庫に配置されているボールやネットなど)を用い、創意工夫を凝らして新しいオリジナルゲームを考案し提供する能力(応用力)を習得する。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	ルールや用具などのアレンジの仕方がわかる・できる				
■	情意的領域	ルールを変えることで面白さが変化することを知り、ルールを変える遊び心と好奇心の大切さがわかる				
■	技能表現的領域	既存のスポーツをアレンジすることで新たに出現するニューゲームの楽しみ方を実践を通して理解できる				
授業計画(全体)						
* 全体を3つに分けたグループ毎に、各教員の授業を4回受ける。4回終了したら、次の教員の授業を4回というようにローテーションしていく。なお、最後の2回は仲野・弓田・川口の3名が合同で担当する。14回目以降は1体に集合し、全体で実施する。最終回は各班が考案したオリジナルニューゲームを発表する(説明書は提出)。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション(仲野・弓田・佐藤) [内容] 授業の全体像の理解と教員の把握、班分けと名簿作成 [授業外学習]			⑨	[テーマ] フライングディスク(弓田4) [内容] フライングディスク その3 これまでの技能を用いてアルティメットを体験し、グループで戦術的課題を考案し、挑戦する [授業外学習]	
②	[テーマ] バスケットボール型(仲野1) [内容] バスケットボール型ニューゲームの概要を説明し、体験していく中でオリジナルなバスケットボール型ニューゲームについて思案する [授業外学習]			⑩	[テーマ] ラケット型1・テニスのアレンジ1(佐藤1) [内容] 体育館の室内で実施可能なテニスをベースとしたパドルテニス・ラケットテニス・フリーテニスについて体験的に学習する [授業外学習]	
③	[テーマ] バレーボール型1(仲野2) [内容] バレーボール型ニューゲームの概要を説明し、既に紹介されているバレーボール型のニューゲームを体験していく [授業外学習]			⑪	[テーマ] ラケット型2・テニスのアレンジ2(佐藤2) [内容] テニスコートにてプレイステイのボールを用いたテニス形のアレンジを学ぶと共に、テニス型のニューゲームを思案する [授業外学習]	
④	[テーマ] バレーボール型2(仲野3) [内容] バレーボールのルールや用具をアレンジしてできる様々なバリエーションを体験するとともに、バレーボール型のニューゲームズを思案する [授業外学習]			⑫	[テーマ] ラケット型3・バドミントンのアレンジ(佐藤3) バドミントンコートを使用し、バドミントンをアレンジしたニューゲーム(含むリングテニス・フリンゴ)を体験的に学ぶと共にニューゲームを思案する [授業外学習]	
⑤	[テーマ] サッカー型(仲野4) [内容] サッカー型ニューゲームの概要を説明し、体験していく中でオリジナルなサッカー型ニューゲームについて思案する			⑬	[テーマ] ラケット型4・卓球のアレンジ(佐藤4) [内容] 卓球をアレンジした様々なニューゲームを体験的に学ぶと共に卓球方のニューゲームを思案する [授業外学習]	
⑥	[テーマ] フライングディスク(弓田1) [内容] フライングディスク その1 フライングディスクの種目等について概説し、基本的なスローを用いてアキュラシーなどを体験する			⑭	[テーマ] ニューゲーム作成の考え方と方法の理解(仲野・弓田・佐藤) [内容] ニューゲームを考案するには、どのような考え方や作成手順が必要か理解する。その上で、班毎にニューゲーム考案の作業を開始する [授業外学習]	
⑦	[テーマ] フライングディスク(弓田2) [内容] フライングディスク その2 子どもから高齢者まで楽しめるドッジビーを用いたゲームを体験する			⑮	[テーマ] オリジナルニューゲームの作成と説明書作成(仲野・弓田・佐藤) [内容] オリジナルニューゲームを完成させ、指定された用紙にまとめる。授業後半に、作成したニューゲームズを他の班に紹介する [授業外学習]	
⑧	[テーマ] フライングディスク(弓田3) [内容] フライングディスク その3 基本スロー以外の応用について学習し、アルティメットの基礎についても学習する [授業外学習]			⑯	[テーマ] レポート提出 [内容] 体験したことについて各自が振り返り、それをレポートにまとめ提出する [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
出席を重視すると共に、グループ毎の授業への取り組みや態度を考慮して、総合的に判断して評価を出す。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)		
定期試験				評価対象外		
授業内レポート	◎	○		20		
授業外レポート				評価対象外		
演習・実技		○	◎	40		
授業態度				減点あり		
出席				40		
関連科目	レクリエーション実技Ⅰ、レクリエーション実技Ⅱなど					
教科書	特になし			参考書	『新しい軽スポーツのすすめ』 仲野隆士・原田彦彦 杏林書院	
連絡先	仲野(A508)、弓田(A504)、佐藤(LC棟2F)					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	テニス Tennis (P.A.)			担当教員	佐藤 周平	
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		
授業の概要						
テニスの基本技術を修得しながら、テニスの面白さや奥の深さを体験し、理解を深めていく。						
授業の一般目標						
基本技術の修得だけではなく、歴史・ルール・審判方法・試合の運営等についても理解してもらいたい。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	ショットの基本原則・歴史・ルール・審判方法等の理解				
■	情意的領域	実習に積極的に参加できる。誰とでも協力し、積極的にコミュニケーションをとることができる。				
■	技能表現的領域	基本技術の修得とゲームでの実践				
授業計画(全体)						
テニスの競技性の理解を深めることで、ボールを打つことに対する理解を高める。テニスの基本技術の修得から、応用技術の修得へと発展していき、ゲームを中心とした授業を展開していく。また、習得状況により、進度も変わってくる場合がある。 悪天候時には教室で、歴史・ルール等を学習する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、成績評価と履修上の諸注意、テニスの基本技術について解説			⑨	[テーマ] テニスの基礎知識1 [内容] テニスの歴史	
②	[テーマ] 基本技術その1 ミニテニス [内容] ・ワンバウンドでボールを打ち合う(グランドストローク) ・ダイレクトでボールを打ち合う(ボレー)			⑩	[テーマ] テニスの基礎知識2 [内容] テニスのルールと運用	
③	[テーマ] 基本技術その2 グランドストローク [内容] ミニテニスより距離を長くして、グランドストローク(フォアハンド)			⑪	[テーマ] ダブルス [内容] 基本戦術の理解1	
④	[テーマ] 基本技術その3 サービス [内容] 前回は発展して、グランドストロークを向上させるとともに、サービスの基本を学ぶ			⑫	[テーマ] ダブルス [内容] 基本戦術の理解2	
⑤	[テーマ] 基本技術その4 ボレー [内容] 前回に加えて、ネットでのボレーの基本を学ぶ			⑬	[テーマ] ダブルス [内容] 基本戦術の理解3	
⑥	[テーマ] 基本技術その5 スマッシュ [内容] 前回に加えて、ボレーとスマッシュの基本を学ぶ			⑭	[テーマ] シングルス [内容] 基本戦術の理解4	
⑦	[テーマ] 基本技術その6 サービスリターン [内容] サービスリターンの基本を学ぶ			⑮	[テーマ] 実技の確認テスト [内容] 基本技術の修得度をテストする	
⑧	[テーマ] 基本技術その7 バックハンド・ストローク [内容] バックハンドストロークを学ぶ			⑯	[テーマ] テニスの基礎知識のテスト [内容] テニスの基礎知識の理解度をテストする	
成績評価方法(方針)						
授業参加度・実技テスト(70%)、筆記テスト(30%)の結果を総合して評価する。						
成績評価方法(詳細)						
到達目標				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	1. テニスコートの関係で、受講者の制限をします。(40名以内) 初回授業日に、抽選を行い受講者を決定します。 詳細は、別途掲示します。 2. コートを傷めないシューズ(テニスシューズ)を各自準備すること。 3. ラケット,ボールは貸し出します。 4. 積極的に参加する事。	
定期試験				30%		
授業内レポート	◎					
授業外レポート						
演習・実技			◎	70%		
授業態度		◎		加点・減点		
出席				加点・減点		
関連科目						
教科書	特になし			参考書	テニスに関する雑誌	
連絡先	佐藤周平研究室					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	バドミントン Badminton (P. A.)			担当教員	菊地 直子・林 直樹
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
生涯スポーツとして最も適した種目の一つであるバドミントンは、学校体育の中でも盛んに取り入れられている。本授業は、中学・高校の体育授業の実践を念頭に置いた初心者指導について解説する。					
授業の一般目標					
バドミントンについて歴史や道具・安全配慮について理解し、技術の習得をする。最終的には、バドミントンの一連の技術指導や試合の運営の方法を身につける。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	打法とフライン、バドミントン一連の技術指導や試合の運営の方法を身につける。			
□	情意的領域				
■	技能表現的領域	基本的な打法について、実際に習得している。			
授業計画(全体)					
バドミントンについて、基本的な知識を獲得しつつ、前半はスキル獲得に重点を置く。後半は、獲得したスキルを使ってのゲームや、ゲームの運営ができるように実際のゲーム運営を学生同士で行いながらすすめる。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法の確認を行う。			⑨	[テーマ] 競技としてのバドミントンを知る [内容] 視聴覚教材を使って、バドミントン競技についてイメージの喚起を行う。
②	[テーマ] バドミントンを知る [内容] バドミントンについて、歴史や道具などについて解説する。			⑩	[テーマ] ゲームの方法 シングルス① [内容] シングルの試合運営(ルール)について解説し、受講生同士で試合を行えるよう指導する。
③	[テーマ] 基本的技術の習得1 アンダーハンドストローク [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、訓練を行う。			⑪	[テーマ] ゲームの方法 シングルス② [内容] 正規のルールによる審判法を解説し、受講生間で試合の進行ができるよう指導する。
④	[テーマ] 基本的技術の習得2 オーバーヘッドストローク [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。			⑫	[テーマ] ゲームの方法 ダブルス① [内容] ダブルスのフォーメーションについて解説し、訓練を行う。
⑤	[テーマ] 基本的技術の習得3 サーブとその他の返球 [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。			⑬	[テーマ] ゲームの方法 ダブルス② [内容] ダブルスの試合運営(ルール)について解説し、受講生同士で試合を行えるよう指導する。
⑥	[テーマ] 基本的技術の習得4 スマッシュ、クリアストローク [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。			⑭	[テーマ] ゲームの方法 ダブルス③ [内容] 正規のルールによる審判法を解説し、受講生間で試合の進行ができるよう指導する。
⑦	[テーマ] 基本的技術の習得5 ドロップ、ドライブ等のストローク [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。			⑮	[テーマ] 実技の確認テスト [内容] 基本的スキルをマスターしているかについてテストを行う。
⑧	[テーマ] 基本的技術の習得6 プッシュ、レシーブ [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。			⑯	[テーマ] テスト [内容] 試合進行などについてプリントによるテストを行う。
成績評価方法(方針)					
定期試験は、筆記テストを1回実施する(評価割合50%)。また、実技(評価割合50%)についても評価する。これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験	◎			50%	3回以上欠席した学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・安全配慮の観点から、靴下の着用を義務付ける。 ・毎年受講希望生が多数のため、質の保障・安全上の配慮から、人数を抽選などで調整する(最大60名)。
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技			◎	50%	
授業態度		◎			
出席					
関連科目					
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
連絡先	菊地研究室第4体育館1階 9号室				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ソフトボール Softball (P.A.)			担当教員	入澤 裕樹・森本 吉謙	
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数			1
授業の概要						
ソフトボールは、投・打・走・捕など、基本的運動の多くが含まれるスポーツ種目である。本授業では、ソフトボールの基本的な技術や戦術を概説し、また、それらを習得するべく各種の練習方法を紹介する。加えて、ゲームを通じて、実際のゲーム場面で起こる種々のプレイを実践展開する。						
授業の一般目標						
ソフトボールにおける技術や戦術の基本、およびそれらを習得する練習の具体的な方法論を学習して実践できるようになり、かつ集団競技の中で他所との関わりを積極的に持つことが出来るようになる。特にソフトボール特有の技術であるウインドミル投法に関しては、最終的に自身が出来るようになると同時に、適切な指導法を身に付ける。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	ソフトボールの基本的な技術や戦術およびそれらの練習方法を説明できる。					
■ 情意的領域	集団競技として積極的に他者との関わりを持てるようになる。					
■ 技能表現的領域	理解したことを実践でき、加えてウインドミル投法を出来るようになる。					
授業計画(全体)						
毎時間テーマに沿った各技術を学習した後、それらの技術を発揮しやすいケースで試合形式の実践を行う。先ずキャッチボール、投手のウインドミル投法、野手の守備といった個人の防御技術、および、基本的な打撃、バントやヒットエンドラン等の戦術的な打撃といった個人の攻撃技術を学習する。その後、併殺プレイや内外野の連携プレイといった集団における防御技術の学習へと発展する。最終的にはチームに分かれてリーグ戦を行い、実際のゲームの中で勝敗を競い合う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 講義ガイダンス [内容] 担当教員の紹介、授業の進め方、シラバス説明、成績評価の方法			⑨	[テーマ] 集団の防御技術⑧ (送球および併殺プレイ) [内容] 主に内野における連携プレイを習得するための各種ドリルを実践する	
②	[テーマ] 個人の防御技術① (キャッチボールの基本) [内容] キャッチボールの基本を学び各種ドリルを実践する			⑩	[テーマ] 集団の防御技術⑨ (内外野の連携プレイ) [内容] 内外野の連携プレイを習得するための各種ドリルを実践する	
③	[テーマ] 個人の防御技術② (ウインドミル投法その1) [内容] ウインドミル投法習得のためのドリルを実践する			⑪	[テーマ] 審判法 [内容] 試合における審判の判定方法およびジェスチャーを学ぶ	
④	[テーマ] 個人の防御技術③ (ウインドミル投法その2) [内容] ウインドミル投法習得のためのドリルを実践する			⑫	[テーマ] ゲーム① [内容] 各班に別れリーグ戦を行う(第1節)	
⑤	[テーマ] 個人の防御技術④ (野手の基本技術) [内容] ゴロ処理、フライ処理の習得のためのドリルを実践する			⑬	[テーマ] ゲーム② [内容] 各班に別れリーグ戦を行う(第2節)	
⑥	[テーマ] 個人の攻撃技術⑤ (打撃の基本技術その1) [内容] 打撃の基本技術を習得するための各種ドリルを実践する			⑭	[テーマ] ゲーム③ [内容] 各班に別れリーグ戦を行う(第3節)	
⑦	[テーマ] 個人の攻撃技術⑥ (打撃の基本技術その2) [内容] 打撃の基本技術を習得するための各種ドリルを実践する			⑮	[テーマ] ゲーム④ [内容] 各班に別れリーグ戦を行う(最終節)	
⑧	[テーマ] 個人の攻撃技術⑦ (戦術的な攻撃と走塁) [内容] バント、エンドラン等の戦術的な打撃を習得するための各種ドリルを実践する			⑯	[テーマ] テスト(実技試験) [内容] 授業の理解度、技術の習熟度をテストする	
成績評価方法(方針)						
試験は、実技試験を1回実施する(評価割合100%)。授業中における態度は試験結果からの減点対象となる。出席は欠格条件とする。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験		◎		◎	100%	
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度					減点有り	
出席					欠格条件	
関連科目	無し					
教科書	無し			参考書	無し	
連絡先	研究室:A棟3階302 オフィスアワー:木曜 12:40~14:10					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		新体操 Rhythmic Gymnastic (P.A.)			担当教員	河野未来
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		
授業の概要						
新体操における基本動作について学ぶ。また、徒手や手具を用いた演技についても触れ、新体操における動作やリズムの取り方、表現的な動きについて学ぶ。						
授業の一般目標						
学生のレベルに応じて動作能力を成長させるとともに、新体操に関する知識を習得するとともに意識を高める。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	様々な基本動作の内容が説明できる。				
■	情意的領域	体を動かすことによって、仲間と協力し表現することが出来る。				
■	技能表現的領域	新体操の演技をフレーズで創ることができる。				
授業計画(全体)						
新体操の各基本動作を習得してから、演技創作・発表会へと展開していく。技能習得のレベルに応じて、グループ分けを行う場合もある。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員の紹介、授業の目標と進め方			⑨	[テーマ] フープ② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のフープの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。	
②	[テーマ] ロープ① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・ロープの基本動作と様々な操作方法を覚える。			⑩	[テーマ] フープ③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのフープの操作と連係をもとに演技を創作する。	
③	[テーマ] ロープ② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のロープの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。			⑪	[テーマ] リボン① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・リボンの基本動作と様々な操作方法を覚える。	
④	[テーマ] ロープ③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのロープの操作と連係をもとに演技を創作する。			⑫	[テーマ] リボン② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のリボンの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。	
⑤	[テーマ] ボール① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・ボールの基本動作と様々な操作方法を覚える。			⑬	[テーマ] リボン③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのリボンの操作と連係をもとに演技を創作する。	
⑥	[テーマ] ボール② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のボールの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。			⑭	[テーマ] クラブ① [内容] ・徒手の動作を完璧なものにし、連係を考えてみる。 ・クラブの基本動作と様々な操作方法を覚える。	
⑦	[テーマ] ボール③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのボールの操作と連係をもとに演技を創作する。			⑮	[テーマ] クラブ② [内容] ・徒手の動作を完璧なものにし、連係を考えてみる。 ・前回のクラブの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える	
⑧	[テーマ] フープ① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・フープの基本動作と様々な操作方法を覚える。			⑯	[テーマ] 演技発表会 (DanDanDance&Sports) [内容] ・創作した演技を発表する。	
成績評価方法(方針)						
習得技能と授業参加態度を総合して評価する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。	
定期試験			◎	70%		
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技			○	20%		
授業態度		○		10%		
出席						
関連科目						
教科書				参考書		
連絡先 研究室:第4体育館1階 オフィスアワー: 水曜日 14:20~15:50						

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ダンスⅡ DanceⅡ (P.A.)			担当教員	山梨 雅枝
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
<p>本授業では、[ダンスⅠ(1・半期)]で学んだ内容に加え、舞台効果(音響、照明、構成など)について学ぶ。活動の最終目標としては、会場を貸し取り、地域の方々も交えたダンス発表会(DanDanDance&Sports10th)への出演と公演運営を実行委員として行う。これらの活動から、催し物の企画・運営能力を養う。</p>					
授業の一般目標					
互いが持つ能力を互いに享受し合い、創作作品を創り上げていく。また、舞台に立つ体験することでしか得ることのできない学び、個人が持つ「表現力」の多様性を実感する。運営委員として公演開催に関する準備にも積極的に関わり、責任をもって行動する能力を養う。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	公演の運営に携わることで、自分ができる仕事を自ら見つけ、責任を持って実行する力がある。				
■ 情意的領域	表現することに興味・関心を持ち、公演をきっかけに多くの人々と触れ合う中で心動かされる体験をする。				
■ 技能表現的領域	身体表現を通じて、見る側と見られる側とのコミュニケーションを行う。				
授業計画(全体)					
動きを引き出す為に必要と思われる方法を互いに持ち寄り、実践しながら検討する。その過程でよい方法を導き出し、作品づくりへと移行していく。最終的には、4分程度の発表会への参加作品を創り、出演する。ダンス発表会へは実行委員として関る。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法について。			⑨	[テーマ] 創作活動 ③ [内容] 創作活動を進める。
②	[テーマ] 演歌で踊ろう ① [内容] 歌詞内容に合った振付を考える。			⑩	[テーマ] 創作活動 ④ [内容] 創作活動を進める。
③	[テーマ] 演歌で踊ろう ② [内容] 歌詞内容に合った振付を考える。			⑪	[テーマ] 創作活動 ⑤ [内容] 創作活動を進める。
④	[テーマ] 演歌で踊ろう ③ [内容] 歌詞内容に合った振付を考える。			⑫	[テーマ] 中間発表 [内容] グループ毎、創作作品を発表する。VTRに記録し、自分たちで確認、改善する。
⑤	[テーマ] 演歌で踊ろう ④ [内容] 歌詞内容に合った振付を考える。			⑬	[テーマ] 創作活動 ⑥ [内容] 改善すべき箇所の検討、作品を完成度を高める。
⑥	[テーマ] 学内発表 [内容] 観客を招き、学内発表を行う。			⑭	[テーマ] 創作活動 ⑦ [内容] 作品を完成させる。
⑦	[テーマ] 創作活動 ① [内容] 前年度までの受講生が実施した、Dandandance&SportsのDVDを観て、作品づくりの手がかりとする。			⑮	[テーマ] リハーサル [内容] 発表会作品のリハーサルに加え、運営全般の最終確認を行う。
⑧	[テーマ] 創作活動 ② [内容] 作品のテーマ、曲などについて話し合いを進める。話し合いの内容を記録し、次週に活動を繋げる。			⑯	[テーマ] 公演 当日 [内容] 作品を発表しながら、観客席の反応を肌で感じる。発表会の運営に携わる。
成績評価方法(方針)					
ダンス公演「DANDANDANCE & SPORTS 10th」に参加作品を創作し、出演することが単位取得の最低条件である。公演当日をまでの積極的な取り組みや出席状況を総合的に評価する。欠席回数毎に減点する。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験			◎	20%	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスⅠを受講していることが望ましい。 ・ダンス公演の運営に関しても興味がある者。 ・体育館使用上のルール、授業を受ける最低限のマナーを守る。 ①授業中、周囲に目を配り、互いがより良く学びあえる空間を築く様、努める。 ②活動の妨げになるものは一切身につけない。 ③実技の服装に関しては、授業担当者の指示に従うこと。
授業内レポート	○			5%	
授業外レポート	○			15%	
演習・実技	◎			30%	
授業態度		○	◎	30%	
出席		○		減点あり	
関連科目	ダンスⅠ、保健体育科教育論Ⅲ				
教科書	随時、コピーし配布する。			参考書	鈴木晶編集『バレエとダンスの歴史』平凡社、2012年
連絡先	山梨研究室(第4体育館1F)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ゴルフ Golf (P.A.)			担当教員	内野秀哲
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
ゴルフの歴史、ルール、マナー・エチケット等を含めて、スポーツ競技としてのゴルフ関連知識、技術を高めると共に指導方法面についても実践を通して学習する					
授業の一般目標					
ゴルフの種目特性を理解し、適切に競技進行するための基礎知識・技能を習得する					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	用具の役割や特徴が説明できる				
■ 情意的領域	状況や自身の能力に応じて、適切な道具が選択できる				
■ 技能表現的領域	状況に応じて適切に道具を使用できる				
授業計画(全体)					
本実習は実技実習を学外の一般施設で行うため、便宜上2コマ連続の8週分の期間で実施する。基礎理論の学習の後、難易度の低い用具から順に効率的に実習を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 1週目①:オリエンテーションのグループ編成 [内容] 授業の履修方法と実習時のグループ編成などについて説明する [授業外学習] 配布されたオリエンテーション資料をよく読んでおくこと			⑨	[テーマ] 5週目⑨:ロングアイアン1 [内容] #4アイアンまでのクラブの実技実習
②	[テーマ] 1週目②:ゴルフの基礎知識 [内容] ゴルフの基礎知識について説明する [授業外学習] 図書館などを活用し、ゴルフの概要程度の知識を得ておくこと			⑩	[テーマ] 5週目⑩:ロングアイアン2 [内容] #3アイアンまでのクラブの実技実習
③	[テーマ] 2週目③:ゴルフの競技・コースの解説 [内容] ゴルフの競技方法、競技コースの解説を行う [授業外学習] 図書館などを活用し、ゴルフ競技の実例を調べておくこと			⑪	[テーマ] 6週目⑪:ウッド1 [内容] パフィーまでのクラブの実技実習
④	[テーマ] 2週目④:ルールと用具の解説 [内容] 競技ルールとマナー・エチケット、用具の解説を行う [授業外学習] 図書館などを活用し、ルールとマナーについて調べておくこと			⑫	[テーマ] 6週目⑫:ウッド2 [内容] スプーンまでのクラブの実技実習
⑤	[テーマ] 3週目⑤:ショートアイアン1 [内容] サンドウェッジ、ピッチングウェッジの実技実習			⑬	[テーマ] 7週目⑬:ウッド3 [内容] ドライバーまでのクラブの実技実習
⑥	[テーマ] 3週目⑥:ショートアイアン2 [内容] #9アイアン、#8アイアンの実技実習			⑭	[テーマ] 7週目⑭:ウッド3 [内容] ドライバーまでのクラブの実技実習
⑦	[テーマ] 4週目⑦:ミドルアイアン1 [内容] #7アイアン、#6アイアンの実技実習			⑮	[テーマ] 8週目⑮:ショートゲーム1 [内容] バンカーからのショット
⑧	[テーマ] 4週目⑧:ミドルアイアン2 [内容] #5アイアンまでのクラブの実技実習			⑯	[テーマ] 8週目⑯:ショートゲーム2(テスト) [内容] ショートアイアンによる距離と方向のコントロール
成績評価方法(方針)					
最終日に課すショートゲームの評価を成績評価とする。出席状況などは単位認定のための必要条件とする(不足がある場合には評価対象としない)。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと) ・一般に課せられるマナーやエチケットの厳守が前提条件です ・学外施設の利用時には、その施設の規則を遵守し、方針等に従うこと ・2週(実質4コマ)以上の欠席は、原則的に欠格扱いとするので注意すること ・手袋の購入など、各自準備負担があるので事前に了承のこと
定期試験		○	◎	100%	
授業内レポート				加減点要素	
授業外レポート				対象としない	
演習・実技	○		○	加減点要素	
授業態度	○		○	加減点要素	
出席				欠格条件	
関連科目					
教科書				参考書	
連絡先	4体1F 内野研究室 オフィスアワー 火曜14:20-15:50				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スキーⅡ SkiⅡ(P.A.)			担当教員	高橋 弘彦 他
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
スキーⅠで修得した技能を踏まえ、スキーの理論や運動特性を学習すると共に応用技術の修得へと発展させていく。実習は1月上旬の期間において2泊3日の日程で山形県蔵王温泉スキー場にて実施する。					
授業の一般目標					
修得技能は、スキーⅠで初めてスキーを行った者でも全日本スキー連盟バッヂテスト2級を目標とする。スキー経験の長い者については、より難易度の高い斜面の滑走が可能になるよう自己技能の向上に努める。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	各自のレベルにおける技術について説明できる。			
□	情意的領域				
■	技能表現的領域	実習開始時よりも技能向上が認識できる。			
授業計画(全体)					
技能レベル毎の班別講習を実施する。技能習得の効率を高めるため、原則として1班10名以内の班編成とする。ナイタースキーも実施する。					
授業テーマとその内容					
<p>1. オリエンテーション 授業計画、指導内容、指導方法、日程、費用に関する説明を行う(11月中旬を予定)。各自の技能評価用紙を提出させる。</p> <p>2. 実習</p> <p>①開講式 ゲレンデにおけるマナーと傷害防止に関する説明を行う。</p> <p>③実技 全体で班分けを行い、正式の講習班を編成する。 講習班の決定後は、各班毎に講習を実施する。 1)パラレルターン(大回り):スキップディング、カービング 2)パラレルターン(小回り):スキップディング、カービング 3)総合滑降:雪質、斜度等の条件に適合した滑り 4)制限滑降:ポールセットにより制限されたコース</p> <p>④閉講式</p>					
成績評価方法(方針)					
修得技能と授業参加態度を総合して評価する。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<p>1. スキーⅠの単位取得者に限る。</p> <p>2. 履修希望者は必ずオリエンテーションに出席すること。オリエンテーションに出席しない場合には、履修登録を行っていても授業への参加は認められない。また、指定期日までに参加費の入金がない場合も参加は認められない。</p> <p>3. オリエンテーションは11月中～下旬を予定。</p> <p>4. 実習費は、25000円程度(予定)の予定(宿泊、全食事、交通、保険、リフト)。</p> <p>5. 必ずカービングスキーを準備すること。レンタルの取り扱いはない。</p>
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技			◎	100%	
授業態度				欠格条件	
出席				欠格条件	
関連科目	スキーⅠ(1年)				
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
連絡先	研究室:C棟3階 55-3002(研究室直通) hr-takahshi@sendai-u.ac.jp				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	マリンスポーツ I			担当教員	高橋 弘彦 他
	Marine Sports I (P.A.)				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要 マリンスポーツの1つであるスクーバダイビングを実施する。はじめにコンファインドウォーター(プール)において基本的な潜水技術を習得し、それを基にオープンウォーター(海洋)において応用技術を習得する。またスクーバダイビングに必要な物理学、生理学、医学に関する知識も習得する。オープンウォーター実習(海洋実習)は、山形県鶴岡市にて実施する。					
授業の一般目標 スクーバダイビングに必要な水中技能を習得し、水中における物理学、生理学、医学等の分野について理解することにより、各自で安全にオープンウォーターでのダイビング活動が行えるようになる。 同時にNAUI SCUBA DIVERの資格認定を受ける。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	水中におけるダイバーの行動と安全性に関連する、物理学、生理学、医学等の分野について説明できる。			
□	情意的領域				
■	技能表現的領域	インストラクターの管理なしでオープンウォーターにおけるダイビング活動を行う事が出来るようになる。			
授業計画(全体)					
①水泳技能、②スキンドайビング技能、③スクーバダイビング技能と、段階的に技能を習得させていく。技能習得が不十分な場合には次の段階には進むことはできない。その場合、各自での個別練習が必要となる。併せてスクーバダイビングに必要な物理学、生理学、医学等に関する理論講義及び筆記試験も実施する。海洋でのダイビング本数は5～6本を予定。安全性確保の観点から、受講希望者が指導可能人数を超えた場合は、水泳技能上位者から受講を許可していく。					
授業テーマとその内容					
①水泳技能(本学プール) スクーバダイビングに必要な基礎泳力(長時間水泳、生存水泳、水平潜水等)の習得 ②スキンドайビング技術(本学プールおよび他プール) マスククリア、シュノーケルクリア、フィンキック、シュノーケリング、サーフェスダイブ、エントリー、エキジット、水面・水中機材脱着 ③スクーバダイビング技術(本学プールおよび他プール) 機材のセッティング、装着・脱装、耳抜き、潜行・浮上、マスク・レギュレータークリア、マスク・レギュレーター脱着、オクトパスブリージング、水面・水中移動、マスクなし遊泳 3. 理論 NAUI SCUBA DIVERテキストを用いて実施(物理学、生理学、医学等) 上記内容に関する筆記試験(正答率80%以上) 4. オープンウォーター(海洋) ①コンファインドウォーターにおける習得技術の実施 ②ライン潜行・浮上、バディシステム、ジャイアントストライド・バックロールエントリー ③中性浮力、ホバリング、緊急スイミングアセント、オクトパスブリージングアセント、水中機材脱着、ダイブプランの作成 ④コンパスナビゲーション、ナチュラルナビゲーション、フリー潜行・浮上、安全停止 3. 費用(概算):①④は物品購入時に支払う。②③はオープンウォーター実習終了時に支払う。 ①NAUI SCUBA DIVERテキスト(含申請料)(15000円程度) ②レンタル:タンク(18000円程度) ③宿泊:2泊6食(16000円程度) ④個人購入品:水中でコンタクトレンズは使用できないため、近視の者はマスク用オブチカルレンズ(両眼で18000円程度)が必要となる。 その他 ・個人的にNAUI SCUBA DIVERもしくはPADI OPENWATER DIVERの認定証を所持している場合に関しては、所定の水泳能力及びダイビングスキルに問題がなければNAUI ADVANCED SCUBA DIVERの認定を受けることも可能である。 ・12月に実施されるマリンスポーツ IIに個人的にオプション参加することで、NAUI ADVANCED SCUBA DIVERの認定を受けることも可能である。 ・2年時にNAUI ADVANCED SCUBA DIVERを取得してしまった場合、3年時の履修では格種SPECIALTY DIVERの認定が可能となる。 ステップアップに関しては、オリエンテーション時に詳細に説明する。					
成績評価方法(方針) 修得技術と授業参加態度を総合して評価する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技				◎	100%
授業態度					欠格条件
出席					欠格条件
関連科目	マリンスポーツ II (3年)				
教科書	NAUI SCUBA DIVER テキスト			参考書	特に指定しない
連絡先	研究室:C棟3階 55-3002(研究室直通) hr-takahshi@sendai-u.ac.jp				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	マリンスポーツⅡ			担当教員	高橋 弘彦 他
	Marine SportsⅡ (P.A.)				
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
マリンスポーツⅠでNAUI SCUBA DIVERとしての認定を受けた者に対し、各種のダイビング活動を紹介・実施させるとともに、海外リゾートにおけるダイビングスタイルを経験させる。 実習は、11月下旬から12月中旬の間に4泊5日の日程でグアムにて実施する。					
授業の一般目標					
マリンスポーツⅠで修得した水中技能をさらに高め、様々なダイビングスタイルを経験することにより、さらに安全なダイビング活動が行えるようになる。同時にNAUI ADVANCED SCUBA DIVERの資格認定を受ける。NAUI ADVANCED SCUBA DIVER所持者に関しては、各種SPECIALTY DIVERの認定を受ける。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	複数のダイブプランを作成できるようになる。			
□	情意的領域				
■	技能表現的領域	様々な条件下におけるダイビング活動を安全に行う事が出来るようになる。			
授業計画(全体)					
スクーバダイビングの経験本数を増やすことにより、ダイビングスキルを向上させていく。特にボートダイビング、ナビゲーション、ディープダイビングにおけるスキルを向上させる。 ダイビング本数は8本を予定。					
授業テーマとその内容					
1. オリエンテーション 授業計画、指導内容、指導方法、日程、費用、NAUI ADVANCED SCUBA DIVERコース及びNAUI SPECIALTY DIVERコースに関する説明を行う(5月中旬を予定)。					
2. スキルチェック(プール・海洋1本目) NAUI SCUBA DIVERコースで実施した基本スキルのチェック					
3. ボートダイビング ①ボート上での機材のセッティング ②エントリーとエキジット ③ドリフトダイビング					
4. ナビゲーション ①コンパスナビゲーション ②ナチュラルナビゲーション					
5. ディープダイビング ①ダイビングプランの作成と実施 ②確実な安全停止					
6. 沈潜ダイビング ①中性浮力の確実なコントロールとフィンスキル					
7. 費用(概算) ①NAUI ADVANCED DIVERテキスト(含申請料)(10000円程度) ②ダイビング費用(360ドル程度) ③旅費(グアム4泊5日食費別:150000円程度):燃油サーチャージにより1~2万円は変動する可能性あり ④出入国税:3000円程度 ⑤旅行保険:6000円程度					
その他 ・8月に実施されるマリンスポーツⅠに個人的にオプション参加することで、事前にNAUI ADVANCED SCUBA DIVERの認定を受けることも可能である。2年時にNAUI ADVANCED SCUBA DIVERを取得してしまった場合、3年時の履修では格種SPECIALTY DIVERの認定を行う。ステップアップに関しては、オリエンテーション時に詳細に説明する。					
成績評価方法(方針)					
修得技術と授業参加態度を総合して評価する。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	1. 履修は原則としてマリンスポーツⅠの単位取得者とする。但し、個人的にNAUI SCUBA DIVERもしくはPADI OPENWATER DIVERの認定証を所持している場合に関しては、所定の水泳能力及びダイビングスキルに問題がなければ履修を認める。この場合、必ず相談に来ること。 2. 履修希望者は必ずオリエンテーションに出席すること。オリエンテーションに出席しない場合には、履修登録を行っていても授業への参加は認められない。 3. オリエンテーションは5月中旬を予定。
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技			◎	100%	
授業態度				欠格条件	
出席				欠格条件	
関連科目	マリンスポーツⅠ(1年):要単位取得				
教科書	NAUI ADVANCED DIVER テキスト			参考書	特に指定しない
連絡先	研究室:C棟3階 55-3002(研究室直通) hr-takahshi@sendai-u.ac.jp				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		社会調査法 I Social Research I (L.)			担当教員	三谷高史
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	社会調査士・社会福祉士
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
社会調査に関する基本的な事柄について解説する。具体的には、社会調査の目的やその歴史、社会調査の種類、社会調査を実施する者の心構えなどである。また、講義後半には質的な模擬調査を行い、社会調査の難しさを体感してもらう。						
授業の一般目標						
① 社会調査には様々な種類が存在することを知り、自ら社会調査を行う際に、適切な技法を選択できる。 ② 与えられたテーマに沿って、自ら模擬調査を実施し、それをまとめることができる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	社会調査に関する基本的な事柄について理解できる				
■	情意的領域	社会調査の面白さと不完全さに関心を向ける				
■	技能表現的領域	調査結果を適切にまとめることができる				
授業計画(全体)						
2～5回目は、社会調査とは何か、いかに行うかといった基本的な事柄について、講義形式で解説する。6～9回目は、様々な種類の社会調査の結果をまとめたものを読みながら、社会調査が具体的にどのように社会に還元されるかを学び取る。10回目以降は、実際に模擬調査を行い、社会調査の難しさを体感してもらう。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法の説明 [授業外学習] 配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)			⑨	[テーマ] 調査技法④: 参与観察 [内容] 参与観察について解説し、参与観察の結果をまとめた論文を読む [授業外学習] 配布された講義資料について復習(学習時間の目安:5時間)	
②	[テーマ] 社会調査とは何か [内容] 社会調査の目的や歴史、調査者の倫理などについて解説する [授業外学習] 配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)			⑩	[テーマ] 中間試験 [内容] これまでの授業の理解度と関心度を問う記述方式のテストを行い、前半の講義を振り返る [授業外学習] 中間試験の反省、模擬調査の計画(学習時間の目安:1時間)	
③	[テーマ] 因果関係 [内容] 社会調査で明らかにすべき因果関係、それを明らかにする方法論を解説する [授業外学習] 配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)			⑪	[テーマ] 量的調査の実際 [内容] 量的調査の結果の読解の仕方を解説する [授業外学習] 配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)	
④	[テーマ] 目的による分類 [内容] 国勢調査・公式統計・学術調査・世論調査・市場調査といった各種社会調査の違いを解説する [授業外学習] 配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)			⑫	[テーマ] 質的調査の実際① [内容] 質的な模擬調査を行うための下準備を行う [授業外学習] 調査対象者の選定、質問項目準備(学習時間の目安:1時間)	
⑤	[テーマ] 方法による分類 [内容] 量的調査と質的調査の違いを解説する [授業外学習] 配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)			⑬	[テーマ] 質的調査の実際② [内容] 質的な模擬調査を行う [授業外学習] 配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)	
⑥	[テーマ] 調査技法①: 実験法 [内容] 実験法について解説し、社会実験を行ったビデオを鑑賞する [授業外学習] 配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)			⑭	[テーマ] 質的調査の実際③ [内容] 模擬調査の結果をまとめる方法を解説する [授業外学習] 配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)	
⑦	[テーマ] 調査技法②: 質問紙調査 [内容] 質問紙調査について解説し、その結果をまとめた論文を読む [授業外学習] 配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)			⑮	[テーマ] 総括 [内容] 本講義を総括する [授業外学習] 最終レポートの作成(学習時間の目安:5時間)	
⑧	[テーマ] 調査技法③: インタビュー調査 [内容] インタビュー調査について解説し、それに関する論文を読む [授業外学習] 配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)			⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 期末レポートを作成する [授業外学習] 講義全体の復習、社会調査法Ⅱ予習(学習時間の目安:2時間)	
成績評価方法(方針)						
中間試験(50%)、期末試験(50%)で総合的に評価する。試験Ⅰはいわゆる「ペーパーテスト」。試験Ⅱはいわゆる「レポート」「論述」。なお、追試などは一切行わない。また、成績を掲示板等に貼り出すこともしない。全日程の2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。特別な事情(部活の試合、忌引き、電車の遅延等)があった場合は、事後報告で構わないので、後日必ず報告すること。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	熱心に学ぼうとしている学生の邪魔をする行為(私語など)は禁止する。注意を与えても改善されない場合は、減点などの措置をとる。「分からない」ということは恥でも何でもなく、むしろよく分からないことを「分かった」ふりをするののほうが恥ずかしいと思うように。そのため、どんな些細な質問でも大歓迎なので、授業後ないしはオフィスアワーに気軽に質問に来るように。また、期末レポートについては事前の添削を受け付けるので、こちらも気軽に利用して欲しい。	
定期試験	○	○		50%		
授業内レポート						
授業外レポート	○	○	○	50%		
演習・実技						
授業態度				欠格条件		
出席				欠格条件		
関連科目	社会調査法Ⅱ、社会統計学Ⅰ、社会統計学Ⅱ、社会調査演習、社会調査実習					
教科書	特に指定しない			参考書	森岡清志『ガイドブック社会調査』日本評論社、1998 篠原清夫ほか編『社会調査の基礎』弘文堂、2010	
連絡先	tk-mitani@sendai-u.ac.jp					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	社会調査法Ⅱ Social Research II (L.)			担当教員	岡田 成弘
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
社会調査に関する基本的な事柄について、特に調査方法に焦点を当てて解説する。具体的には、社会調査の企画・設計から資料やデータの収集、そして収集されたデータを分析できる形に整理する方法を理解し、具体的な調査スキルを獲得してもらう。また、講義後半には量的な模擬調査を行い、データを分析し、発表する。					
授業の一般目標					
① 社会調査には様々な種類が存在することを知り、自ら社会調査を行う際に、適切な技法を選択できる。 ② 与えられたテーマに沿って、自ら模擬調査を実施し、それをまとめることができる。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	社会調査に関する基本的な事柄について理解する				
■ 情意的領域	社会調査の面白さに気づき、興味関心を持つ				
■ 技能表現的領域	適切に調査を行い、結果をまとめることができるようになる				
授業計画(全体)					
2～7回目は、調査の方法論について、講義形式で解説する。8回目以降は、量的調査を実際に行うために必要な具体的な手続きについて詳しく説明しながら、準備を進めていく。11回目に授業内で調査を行い、その結果をまとめて、発表する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法の説明 [授業外学習]配布資料を読み、本日の講義について復習をすること(90分)			⑨	[テーマ] 量的調査の実際② [内容] 調査票の配布、回収、分析の方法について説明する。受講生は、調査の変数を決定する。 [授業外学習]調査計画書を修正し、調査用紙を作成してくる(90分)
②	[テーマ]社会調査とは [内容] 社会調査とは何かを説明する。研究と評価の違いについて説明する。 [授業外学習]配布資料を読み、本日の講義について復習をすること(90分)			⑩	[テーマ] 量的調査の実際③ [内容] 調査票作成について説明する。受講生は、講義を受けて調査票を修正し、完成させる。 [授業外学習]授業外で調査を実施し、データを集めてくる(90分)
③	[テーマ] 先行研究レビュー [内容] 先行研究レビューについて説明する。受講生は興味のあるテーマについて文献レビューを行い、その内容をまとめる [授業外学習]興味のあるテーマについてレビューを行い、まとめる(90分)			⑪	[テーマ] 量的調査の実際④ [内容] 授業内で調査を行う。データ入力の方法を説明し、受講生は、実際にデータを入力する [授業外学習]データ入力を終わらせ、分析しやすい形に整える(90分)
④	[テーマ] 量的研究について～実験研究～ [内容] 実験研究について説明する。受講生は、実験研究の論文を探し、その内容をまとめる [授業外学習]実験研究の論文をレビューし、まとめる(90分)			⑫	[テーマ] 量的調査の実際⑤ [内容] データ分析と発表の仕方について説明する。受講生は、実際に入力したデータについて分析を行い、発表の準備を行う。 [授業外学習]分析を行い、結果を発表できるようにまとめる(90分)
⑤	[テーマ] 量的研究について～調査研究～ [内容] 調査研究について説明する。受講生は、調査研究の論文を探し、その内容をまとめる [授業外学習]調査研究の論文をレビューし、まとめる(90分)			⑬	[テーマ] 量的調査の実際⑥ [内容] 受講生が調査結果を発表し、その内容について解説する [授業外学習]発表をしてアドバイスされたところを修正する(90分)
⑥	[テーマ] 量的調査について～統計処理～ [内容] 統計処理の方法や有意確率、サンプリングについて説明する。 [授業外学習]本日の講義について復習をすること			⑭	[テーマ] 量的調査の実際⑦ [内容] 受講生が調査結果を発表し、その内容について解説する [授業外学習]発表をしてアドバイスされたところを修正する(90分)
⑦	[テーマ] 質的研究について [内容] 質的研究について説明する。受講生は、質的研究の論文を探し、その内容をまとめる [授業外学習]質的研究の論文をレビューし、まとめる(90分)			⑮	[テーマ] 総括 [内容] 本講義を総括する [授業外学習]15回分の講義をふりかえり、レポートを作成する(90分)
⑧	[テーマ] 量的調査の実際① [内容] テーマの決定及び仮説の構築について説明する。授業内調査のテーマを決定し、先行研究をレビューした上で、仮説を構築する [授業外学習]先行研究をまとめ、調査計画書を作成してくる(90分)			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
出席点(授業内レポート含む):50点 → 欠席 -2点 遅刻・欠席証明 -1点 5回以上休むと単位を認定しない 個人発表(13回と14回) :30点 →発表に対して、修正点をアドバイスする 期末課題(調査レポート):20点 →発表でアドバイスされた点をレポートに反映させる					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験					<ul style="list-style-type: none"> ・私語が多かったり、不真面目な態度の者、また人任せにしたり、グループの和を乱したりした者には、単位を認定しないこともある。 ・授業では、前半は説明し、後半に作業をすることが多くなります。時間内に終わらない者は、授業外での作業が増えることになります。 ・授業内で調査を行い、その結果をまとめて、13回と14回に全員が発表することになります。 ・授業内レポートは修正点を赤入れし、次回授業の冒頭に解説する
授業内レポート	◎		◎	50%	
授業外レポート	◎		◎	20%	
演習・実技	◎	○	◎	30%	
授業態度					
出席	○	○	○	欠格条件	
関連科目	社会調査法Ⅰ、社会統計学Ⅰ、社会統計学Ⅱ、社会調査演習、社会調査実習				
教科書	特になし			参考書	森岡清志『ガイドブック社会調査』日本評論社、1998 篠原清夫ほか編『社会調査の基礎』弘文堂、2010
連絡先	岡田研究室(A棟509)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		社会統計学 I Social Statistics I (L.)			担当教員	平田 忠
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	社会調査士
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
社会調査では、様々な社会的現象についてデータを収集し、そのデータを分析することによって、結論や知見を得る。その際、データ収集の計画立案から収集したデータの集計分析まで、統計的な知識が不可欠である。この授業では、社会調査において用いられる記述統計的な手法について考える。						
授業の一般目標						
調査で得られたデータの集計や、データの特徴を表わす指標の算出の仕方を理解し、実際にそれらが行えるようになること、また、官庁統計や論文などにおける統計的な記述を読み解くことができるようになることが目標である。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	社会調査における統計的手法の意味やその基礎的な概念を理解すること。				
■	情意的領域	様々な社会的現象に対して、客観的かつ論理的に考えようとする態度を持つこと。				
■	技能表現的領域	基礎的な統計的手法を使えるようになること。				
授業計画(全体)						
統計の基礎的な概念について説明する。また、実際にデータを扱うことを通して記述統計の手法の理解と習得を目指す。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 初めに [内容] 社会調査において統計的手法を使うことの意味について考える。 [授業外学習] マスコミの中から社会的統計データを集める。(1時間程度)				⑨	[テーマ] クロス集計①離散変数の場合 [内容] 離散変数データのクロス集計と、その図的な表現について学ぶ。 [授業外学習] クロス集計表作成の練習問題をする。(1時間)
②	[テーマ] 社会統計の基礎 [内容] 社会調査における測定と、測定に用いられる尺度について考える。 [授業外学習] 種々の調査が何を測定しているかを考えてみる。(1時間程度)				⑩	[テーマ] クロス集計②連続変数の場合 [内容] 連続変数データのクロス集計と、その図的な表現について学ぶ。 [授業外学習] クロス集計表作成の練習問題をする。(1時間)
③	[テーマ] 度数分布①離散変数の場合 [内容] 離散変数の度数データの集計と、その図的な表現について学ぶ。 [授業外学習] 度数分布表とヒストグラム作成の練習問題をする。(1時間)				⑪	[テーマ] 相関関係と因果関係 [内容] 二つの事象の間の関係性について、特に、相関関係と因果関係の区別について考える。 [授業外学習] 相関を用いている調査を探してみる。(1時間)
④	[テーマ] 度数分布②連続変数の場合 [内容] 連続変数データの度数の形で集計と、その図的な表現について学ぶ。 [授業外学習] 度数分布表とヒストグラム作成の練習問題をする。(1時間)				⑫	[テーマ] 離散変数データ間の連関 [内容] 二つの離散変数間の連関の程度を表わす指標の種類とその求め方について学ぶ。 [授業外学習] 連関係数等の求め方の練習問題をする。
⑤	[テーマ] 代表値とは [内容] データの特性を記述するための指標としての代表値の意味と、その種類について学ぶ。 [授業外学習] 種々の調査で用いられる代表値を調べてみる。(1時間程度)				⑬	[テーマ] 連続変数データ間の相関 [内容] 相関係数とその求め方について学ぶ。 [授業外学習] 相関の求め方の練習問題をする。(1時間)
⑥	[テーマ] 代表値の求め方 [内容] 具体的なデータをもとに平均値や中央値などの代表値の求め方を学ぶ。 [授業外学習] 代表値計算の練習問題をする。(1時間)				⑭	[テーマ] 統計データを読む① [内容] 官公庁などが公表している調査の中の統計資料を選び、統計資料の読み解き方について学ぶ。 [授業外学習] 社会調査の統計資料を集めてみる。(1時間程度)
⑦	[テーマ] 散布度とは [内容] 標準偏差や分散など、データの特徴としての散らばりを記述する方法について考える。 [授業外学習] 種々の調査で現われる散布度を調べてみる。(1時間程度)				⑮	[テーマ] 統計データを読む② [内容] 研究論文の中の統計資料を選び、統計資料の読み解き方について学ぶ。 [授業外学習] 研究論文の中の統計資料を集めてみる。(1時間程度)
⑧	[テーマ] 散布度の求め方 [内容] 具体的なデータをもとに標準偏差などの散布度の求め方を学ぶ。 [授業外学習] 散布度計算の練習問題をする。(1時間)				⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)						
レポートを8回課し、その評価(評価割合20%×4)と授業態度(評価割合20%)によって成績を決定する。レポートは評価後返却すると同時に、解答の求め方について解説する。						
成績評価方法(詳細)						
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)	
定期試験					・電卓(+・×÷√の計算が可能なもの)を持参すること。 ・単に話を聞くだけでなく、能動的に授業に参加することを望む。	
授業内レポート	◎		◎	80%	・授業中、授業に無関係のこと、授業の妨げになることをしないこと。(減点の対象)	
授業外レポート					・出席が2/3未満の場合は不合格とする。	
演習・実技						
授業態度		◎		20%		
出席						
関連科目	社会統計学Ⅱ、社会調査法Ⅰ・Ⅱ、社会調査演習、社会調査実習					
教科書	使用しない			参考書	授業時に指示する	
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休み。					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		社会統計学Ⅱ Social Statistics II (L.)		担当教員	平田 忠
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	関連資格	社会調査士
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
社会調査では、様々な社会的現象についてデータを収集し、そのデータを分析することによって、結論や知見を得る。その際、データ収集の計画立案から収集したデータの集計分析まで、統計的な知識が不可欠である。この授業では、社会調査において用いられる記述統計的な手法について考える。					
授業の一般目標					
統計的検定に関わる基礎的な概念について理解すること、そして、社会調査で用いられる統計的検定の手法を習得し、実際に使用することができるようになることが目標である。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	社会調査で用いられる統計的手法と、その基礎をなす概念を理解すること。			
■	情意的領域	様々な社会的現象に対して、客観的かつ論理的に考えようとする態度を持つこと。			
■	技能表現的領域	基礎的な統計的手法を使えるようになること。			
授業計画(全体)					
社会統計学Ⅰで学んだことを基礎にし、与えられたデータに実際に適応してみることを通して、推計統計の手法の理解と習得を目指す。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 初めに [内容] 基本的な統計量(平均値、標準偏差、相関係数など)について復習する。 [授業外学習]新聞などにある具体例をもとに復習をする。(1時間程度)			⑨	[テーマ] 比率の差の検定 [内容] 二つの集団間での比率の差の検定の方法について学ぶ。 [授業外学習] 関連の検定の練習問題をする。(1時間)
②	[テーマ] 確率論の基礎 [内容] 統計的な推測や検定の基礎をなす確率論の考え方について考える。 [授業外学習] 確率に関する練習問題をする。(1時間)			⑩	[テーマ] カイ二乗検定 [内容] クロス表データでの比率の差の検定について学ぶ。 [授業外学習] カイ二乗検定の練習問題をする。(1時間)
③	[テーマ] 正規分布と標準化 [内容] 正規分布の特徴と、標準化の意味について考える。 [授業外学習] 標準化についての練習問題をする。(1時間)			⑪	[テーマ] 相関係数の検定 [内容] 相関係数が統計的に有意かどうかについての検定の方法を学ぶ。 [授業外学習] 相関係数の検定の練習をする。(1時間)
④	[テーマ] 中心極限定理 [内容] 標本データと母集団の特性値を結ぶ中心極限定理について考える。 [授業外学習] サイコロ投げを例に中心極限定理を実際に確認する。(1時間)			⑫	[テーマ] 回帰分析 [内容] 複数の事柄の間の因果関係を分析する方法について学ぶ。 [授業外学習] 回帰分析の練習をする。(1時間)
⑤	[テーマ] 平均値の区間推定 [内容] 標本の平均値データから母集団の平均値を推測する方法について学ぶ。 [授業外学習] 推定の練習問題をする。(1時間)			⑬	[テーマ] 分散分析① [内容] 三つ以上の平均値の差の検定の方法(1要因の分散分析)について学ぶ。 [授業外学習] 分散分析の練習をする。(1時間)
⑥	[テーマ] 比率の区間推定 [内容] 標本の比率データから母集団の平均値を推測する方法について学ぶ。 [授業外学習] 推定の練習問題をする。(1時間)			⑭	[テーマ] 分散分析② [内容] 2要因配置の分散分析の方法について学ぶ。 [授業外学習] 分散分析の練習をする。(1時間)
⑦	[テーマ] 仮説検定 [内容] 仮説検定の手順について学ぶ。 [授業外学習] 仮説検定について復習をする。(1時間)			⑮	[テーマ] 多変量解析 [内容] 種々の多変量解析の手法を紹介する。 [授業外学習] まとめ復習をする。(1時間程度)
⑧	[テーマ] 平均値の差の検定(t検定) [内容] 二つの集団間での平均値の差の検定の方法について学ぶ。 [授業外学習] t検定の練習問題をする。(1時間)			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
レポートを8回課し、その評価(評価割合20%×4)と授業態度(評価割合20%)によって成績を決定する。レポートは評価後返却すると同時に、解答の求め方について解説する。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> この科目の受講には、「社会統計学Ⅰ」の単位取得が必要です。 電卓(+×÷√)の計算が可能なものを持参すること。 単に話を聞くだけでなく、能動的に授業に参加することを望む。 授業中、授業に無関係のこと、授業の妨げになることをしないこと。(減点の対象) 出席が2/3未満の場合は不合格とする。
定期試験					
授業内レポート	◎		◎	80%	
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度		◎		20%	
出席					
関連科目	社会統計学Ⅰ、社会調査法Ⅰ・Ⅱ、社会調査演習、社会調査実習				
教科書	使用しない			参考書	授業時に指示する
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休み。				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	社会調査演習			担当教員	田中智仁	
	Social Research I (L.)					
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	社会調査士
	履修の方法	選択	単位数			
授業の概要						
本演習では、社会調査の質的分析の方法に特化し、さまざまな質的データの収集の方法と得られたデータの分析方法を習得する。インタビュー、フィールドワーク、内容分析のいずれかを選択し、課題設定、調査計画の立案、調査対象の選定、調査実施、データ分析、調査報告という一連の手順を実践する。						
授業の一般目標						
社会調査の質的分析の方法を理解し、実践を通じて体得する。具体的には、参与観察、インタビュー、内容分析などでおこなわれる質的データの収集とその分析を行うことができるようになる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	質的分析の方法を理解し、データの収集とその分析方法について説明できる。				
■	情意的領域	質的分析に興味を示し、自発的に調査活動に参加することができる。				
■	技能表現的領域	少なくとも1つの質的分析を用いて成果を発表することができる。				
授業計画(全体)						
本演習は、次のような手順で課題に取り組む。(1)テーマごとにグループに分かれ、(2)課題の設定と質的調査の分析方法を検討する。(3)各グループで生じた問題を教員は個別に解説する。(4)グループで質的分析を用いて調査を行い、その成果を発表する。(5)各グループでおこなわれた質的分析の方法のちがいを全体に解説する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法を説明する。 [授業外学習]社会調査法Ⅰ、社会調査法Ⅱを復習する。(90分)			⑨	[テーマ] 実査(1) [内容] 設定した質的分析を用いて調査を実施し、とくにラポールの問題を検討する。 [授業外学習]実施で生じた問題を整理する。(90分)	
②	[テーマ] 質的調査法の種類 [内容] 参与観察、インタビュー、内容分析などの質的調査の種類を確認し、各種の手法にどのような特徴があるかを説明する。 [授業外学習]質的分析を用いた先行研究を調べる。(90分)			⑩	[テーマ] 実査(2) [内容] 設定した質的分析を用いて調査を実施し、とくにラポールの問題を検討する。 [授業外学習]実施で生じた問題の解決策を検討する。(90分)	
③	[テーマ] 参与観察法(フィールドワーク) [内容] 参与観察法(フィールドワーク)の実施方法と主な先行研究について説明する。 [授業外学習]『ストリート・コーナー・ソサエティ』を読む。(90分)			⑪	[テーマ] データの処理(1) [内容] 質的データの分析の仕方(とくに適切なコーディングの仕方)を適宜解説しながらデータの処理をおこなう。 [授業外学習]処理で生じた問題を整理する。(90分)	
④	[テーマ] インタビュー調査 [内容] インタビュー調査の実施方法と主な先行研究について説明する。 [授業外学習]『アウトサイダーズ』を読む。(90分)			⑫	[テーマ] データの処理(2) [内容] 質的データの分析の仕方(とくに適切なコーディングの仕方)を適宜解説しながらデータの処理をおこなう。 [授業外学習]発表に向けて調査結果をまとめる。(90分)	
⑤	[テーマ] 内容分析および言説分析 [内容] 内容分析および言説分析の実施方法と主な先行研究について説明する。 [授業外学習]『セクシュアリティの歴史社会学』を読む。(90分)			⑬	[テーマ] グループ発表(1) [内容] 参与観察およびインタビューの調査結果を発表し、内容分析や二次データの質的分析とどのようにちがうのかを検討する。 [授業外学習]発表結果を調査報告としてまとめる。(90分)	
⑥	[テーマ] グループ化と調査課題の設定 [内容] 受講生同士でグループを結成し、グループごとに調査課題を設定する。 [授業外学習]メンバー同士で意見交換し、課題を明確化する。(90分)			⑭	[テーマ] グループ発表(2) [内容] 内容分析および言説分析の調査結果をグループで発表し、参与観察およびインタビューとどのようにちがうのかを検討する。 [授業外学習]発表結果を調査報告としてまとめる。(90分)	
⑦	[テーマ] 調査方法の設定 [内容] 質的調査にはさまざまな分析方法があることを適宜確認し、調査課題に適した質的分析の方法を検討する。 [授業外学習]選択した質的分析の特長を復習する。(90分)			⑮	[テーマ] グループ発表の総括 [内容] グループで用いられた質的分析のちがいを解説し、特に同一対象に実施したインタビューとドキュメント分析とのちがいを検討する。 [授業外学習]調査報告をレポートとしてまとめる。(90分)	
⑧	[テーマ] 調査計画の設定 [内容] 質的分析を実際におこなうための計画を立案し、一次データの収集の仕方を検討する。 [授業外学習]実査に向けた準備を進める。(90分)			⑯	[テーマ] 最終レポートの提出 [内容] 調査結果およびグループ発表の結果をレポートにまとめ、提出する。 [授業外学習]講義全体を復習する。(90分)	
成績評価方法(方針)						
レポート(50%)およびグループ(個人)発表(50%)の結果にもとづき、総合的に評価する。質的調査の演習科目であるという性質上、調査実施、データ分析、調査報告を評価対象とする。そのため、調査が実施できない場合もしくは調査の成果を報告できない場合は単位を認定しない。また、量的調査(アンケートなど)は評価対象としない。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	質的調査では「現場に行き、自らの五感で事実を確認する」という姿勢が最も重要視されます。内容分析であっても、分析対象となる資料を探すために、歩き回るのが基本です。そのため、知力だけではなく、体力も求められることを覚悟して受講してください。
定期試験					評価対象外	
授業内レポート					評価対象外	
授業外レポート				◎	50%	
演習・実技	○	○			50%	
授業態度					評価対象外	
出席					評価対象外	
関連科目	社会調査法Ⅰ、社会調査法Ⅱ、社会統計学Ⅰ、社会統計学Ⅱ、社会調査実習					
教科書	特に指定しない			参考書	谷富夫ほか編『よくわかる質的社会調査法(プロセス編/技術編)』ネルヴァ書房	
連絡先	田中研究室(第五体育館3階33号室) tm-tanaka@sendai-u.ac.jp					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	社会調査実習				担当教員	内野秀哲・三谷高史
	Field Experience of Social Research (F.E.)					
開講内容	学年・学期	4・通年	授業方法	実習	関連資格	社会調査士
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
<p>実際の社会調査現場で行われている調査を参観、体験すると共にデータ収集、結果の整理および分析などを実際に試みてもらう。また結果からの考察についても相互に討論する。これらにより社会調査の基本的な方法および調査研究の流れを把握してもらう。</p>						
授業の一般目標						
<p>社会調査の目的および実施上の諸問題について自分なりの見通しを持つことができる。また、得られたデータから自分なりの結論や考察を引き出すことができる。</p>						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	社会調査の諸方法を列挙することができる。また、仮説にあわせ調査計画を立案することができる。					
■ 情意的領域	社会調査上の楽しさをそれなりに体験することができる。					
■ 技能表現的領域	結果の処理や分析がある程度可能となる。					
授業計画(全体)						
<p>教員らおよび履修者が持つ問題意識に基づき、数グループにわかれて研究プロジェクトを組織する。プロジェクトごとに調査計画を立案し、相互に討論する。得られた計画を実施するとともに、結果を分析、処理を行なう。</p>						
授業テーマとその内容						
<p>第1週目:オリエンテーション 第2～4週目:社会調査に必要な基礎知識の復習 第5～7週目:問題関心の整理 第8～10週目:調査項目・調査票の作成 第11週目:プレ調査および反省点の洗い出し 第12～15週目:本調査 第16～18週目:調査結果の整理 第19～27週目:統計処理と結果の検討 第28～29週目:レポートの作成 第30週:講義のまとめ</p>						
成績評価方法(方針)						
<p>調査や討論への参加状況および発表資料が主な評価材料となるが、個人ごとに最終報告を求め、これを確認材料に含める。</p>						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	2/3以上出席しない学生は、出席数不足として、成績は「放棄」となる。グループごとに行なうことが多いので、できるだけ互いに連絡をとりあい、主体的に参加してほしい。	
定期試験						
授業内レポート						
授業外レポート		○	○	50%		
演習・実技	○	○	○	50%		
授業態度				欠格条件		
出席				欠格条件		
関連科目	社会調査法Ⅰ、社会調査法Ⅱ、社会統計学Ⅰ、社会統計学Ⅱ、社会調査演習					
教科書	特に指定しない				参考書	森岡清志『ガイドブック社会調査』日本評論社、1998 佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社、1992
連絡先	tk-mitani@sendai-u.ac.jp(三谷)					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教育の基礎理論 Fundamental Theory of Education (L.)				担当教員	山谷 幸司
	開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法		
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
教育とは人間にとってどのような営みであるのか。本講義では、(1)教育という言葉、(2)教育の必要性、(3)能力・特性の形成と教育、(4)教育のスタイルの歴史展開、(5)教育観の諸類型の5テーマのもとに、教育の意義や役割、そのスタイルの歴史的展開等について概説する。						
授業の一般目標						
「教育とは何か」について、(1)教育という言葉、(2)教育の必要性、(3)能力・特性の形成と教育、(4)教育のスタイルの歴史展開、(5)教育観の諸類型の五つの観点から理解する。また、以上の理解を土台として、教育に関して客観的な根拠にもとづき、できるだけ本質的に考えることができる。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	「教育とは何か」について、本授業で取り上げたテーマにそくして理解できる。また、教育に関して自分の意見を論理的に述べることができる。					
■ 情意的領域	「教育とは何か」という問題について関心を持ち、主体的に探究することができる。					
■ 技能表現的領域	「教育とは何か」という問題について、他者に説明することができる。					
授業計画(全体)						
(1)教育という言葉、(2)教育の必要性、(3)能力・特性の形成と教育、(4)教育のスタイルの歴史展開、(5)教育観の諸類型の5テーマから、「教育とは何か」という問題について概説する。講義は、授業時に配布するプリントにもとづいて進めるが、プリントには空欄を多く設けているので各自が講義を聞き、板書を見ながら完成させるよう努めてほしい。なお、授業終了時に「感想カード」を書いてもらう。授業内容に対する意見や疑問点、あるいは教師への要望を自由に書いてもらいたい。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]「教育の基礎理論」で何を学ぶか [内容] 担当教員の紹介、教育の基礎理論で学ぶ内容、授業の進め方、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを読んでおくこと				⑨	[テーマ] 能力・特性の個人差は教育によって生ずるのか(2) [内容] 能力・特性の形成と環境 [授業外学習]授業の復習
②	[テーマ]教育という言葉(1) [内容]「教」と「育」の字源 [授業外学習]				⑩	[テーマ] 能力・特性の個人差は教育によって生ずるのか(3) [内容] 遺伝と環境の相互作用 [授業外学習]テーマ3全体の復習
③	[テーマ] 教育という言葉(2) [内容]「教育」という言葉の日用化の謎 [授業外学習]テーマ I 全体の復習				⑪	[テーマ] 教育のスタイルとその歴史的展開(1) [内容] 人間形成の多様性と無意図的教育 [授業外学習]授業の復習
④	[テーマ] 教育は人間に必要なのか(1) [内容] 動物としての人間の特殊性と教育①ー哺乳類のなかの人間ー [授業外学習]授業の復習				⑫	[テーマ] 教育のスタイルとその歴史的展開(2) [内容] 意図的教育と学校教育の特質 [授業外学習]テーマ4全体の復習
⑤	[テーマ] 教育は人間に必要なのか(2) [内容] 動物としての人間の特殊性と教育②ー学ぶ動物としての人間ー [授業外学習]授業の復習				⑬	[テーマ] 教育観(思想)の諸類型(1) [内容] 大工型モデルの教育観 [授業外学習]授業の復習
⑥	[テーマ] 教育は人間に必要なのか(3) [内容] 社会的隔離児の記録が示すこと①ー野生児の事例ー [授業外学習]授業の復習				⑭	[テーマ] 教育観(思想)の諸類型(2) [内容] 農民型モデルの教育観 [授業外学習]授業の復習
⑦	[テーマ] 教育は人間に必要なのか(4) [内容] 社会的隔離児の記録が示すこと②ー環境剥奪児の事例ー [授業外学習]テーマ2全体の復習				⑮	[テーマ] 教育観(思想)の諸類型(3) [内容] 経験主義の教育観 [授業外学習]テーマ5全体の復習
⑧	[テーマ] 能力・特性の個人差は教育によって生ずるのか(1) [内容] 能力・特性の形成と遺伝 [授業外学習]授業の復習				⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業全体を振り返り、理解を深める [授業外学習]試験内容を振り返り、理解が不十分な箇所を復習する
成績評価方法(方針)						
期末試験の結果に、授業内の課題提出および受講態度を加味して評価する。なお、教師の発問に積極的に答えるなど意欲的に受講した場合は、期末試験に加点する。欠席は、評価の欠格条件として扱う。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	教師になるということは、学ぶ立場から、それをサポートする立場に変わることの意味する。しかし、学ぶことができない者が、学びをサポートすることなど到底できない。つまり、謙虚にかつ意欲的に学ぶことができるということが、教師になるための最低条件となる。このことを十分に自覚して、授業にのぞんでほしい。
定期試験		◎		○	90%	
授業内レポート		△	△	△	5%	
授業外レポート					実施せず	
演習・実技					実施せず	
授業態度			△		5%	
出席					欠格条件	
関連科目	教職論A(1年)、教職論B(1年)、教育の制度(2年)					
教科書	授業時に配布するプリントを使用する。				参考書	授業時に紹介する。
連絡先	研究室 A棟3階308					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教育の心理 Educational Psychology			担当教員	荒井龍弥
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
学習援助をより効果的にするためには、教育の場にあるさまざまなものごと(学ぶ者、援助する者、教える行為など)を要因群として捉える分析的な観点が重要である。これらのうち、学ぶ側の要因として学習、発達、人格、知能等の諸概念について概説するとともに、いわゆる障害を抱えた人に対する援助例や考え方を紹介する。また、学習結果を捉える枠組みとしての教育評価についてもとりあげる。					
授業の一般目標					
学習・発達・人格・知能・評価等、教育心理学で取りあげられる諸概念に関し、一般に信じられている常識的言説を再認できるようになるとともに、それらの言説に対して一定の根拠をもって自分なりの見解を述べられるようになる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	学習・発達・人格・知能・評価などをめぐる一般の言説を再認できるとともに、それに対する自分なりの見解を述べることができる。			
■	情意的領域	学習を援助する立場からの考え方や論理を理解するとともに、自らもその視座から諸事象を検討したり考えたりすることができる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
教育心理学の学問領域を学習、発達、人格、評価の4領域に大きく分け、各領域の知見に関する講義を行うとともに、それに対する考え方を築くための時間も設ける。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教育心理学とはどんな学問かを説明し、その意義や必要性を考える。 [授業外学習] 教育心理学の必要性について自分なりに考えてみる。			⑨	[テーマ] 学習援助における個人差の問題Ⅱ・人格Ⅰ [内容] 人格検査の例としてY-G性格検査をとりあげることを通じ、質問紙法検査の特徴について考える。 [授業外学習] 自らの人格観を捉えなおすこと。
②	[テーマ] 学習過程の考え方Ⅰ 学習の定義 [内容] 教育心理学における学習の定義を紹介するとともに、自身の例に照らしてその妥当性を検討する。 [授業外学習] 「学習」の定義と一般的な「学習」観との違いを検討すること。			⑩	[テーマ] 学習援助における個人差の問題Ⅲ・人格Ⅱ [内容] 投影法に属する諸検査を紹介する。なかでもP-Fスタディの概要を試行してみる。 [授業外学習] 他の投影法や作業検査法について調べてまとめること。
③	[テーマ] 学習過程の考え方Ⅱ 学習のしくみとその理論 [内容] 自分自身が採用してきた学習方法を捉えなおし、古典的な2種の学習理論に照らしてその得失を検討する。 [授業外学習] 任意の題材で2説双方から学習援助の方法を検討すること。			⑪	[テーマ] 学習援助における個人差の問題Ⅳ・動機や欲求 [内容] 自らが持ったり経験したりする動機や欲求について、各種理論を基に把握する。 [授業外学習] 自らの学習に対する動機づけの内容を反省すること。
④	[テーマ] 学習過程の考え方Ⅲ 現代に至る諸理論と学習 [内容] 自身の学習方法を現代の諸理論に照らし、得失を検討する。 [授業外学習] 任意の題材で生産的な学習と再生的な学習を検討すること。			⑫	[テーマ] 発達観の吟味Ⅰ 発達研究の変遷 [内容] 各種発達段階説を紹介しながら、自らの発達観を改めて振り返る。 [授業外学習] 発達ならびに発達段階について自分の考えをまとめること。
⑤	[テーマ] 学習支援の方法Ⅰ [内容] プログラム学習と発見学習を紹介するとともに、自ら選択した題材で両者による支援計画を試作してみる。 [授業外学習] 作成した計画の一部や全部について効果の見通しを持つこと。			⑬	[テーマ] 発達観の吟味Ⅱ ピアジェとヴィゴツキーの理論 [内容] 論理的思考ならびに言語発達に関する研究成果について概説し、学習と発達の関係を論じる。 [授業外学習] 学習と発達の関係について自分なりに考えをまとめること。
⑥	[テーマ] 学習支援の方法Ⅱ [内容] 教科書の使用方法やその限界を考えることにより、有効な学習支援の方法について検討する。 [授業外学習] 教科書の他単元も同様に検討してみる。			⑭	[テーマ] 発達観の吟味Ⅲ 障害のある子どもの発達 [内容] 障害を抱えた子どもの発達について事例をもとに考え、自らの発達観、障害観を改めて振り返ってみる。 [授業外学習] 障害の種類や発達上の特徴についてまとめておくこと。
⑦	[テーマ] 記憶のしくみとその効率 [内容] 記憶に関する無意味綴りを用いた実験を経験するとともに、結果から得られた理論の限界と日常的知識の記憶向上策を考える。 [授業外学習] 任意の題材で記憶向上策を検討すること。			⑮	[テーマ] 教育評価 [内容] 教育評価の流れについて説明するとともに、本来の教育評価の目的と意義について再考する。 [授業外学習] 任意の題材で教育評価のスケジュールを考えてみる。
⑧	[テーマ] 学習援助における個人差の問題Ⅰ 知能Ⅰ [内容] 知能の定義ならびに知能検査の実際について紹介するとともに、自らの知能観を検討するため、その成立経緯や社会への影響を考える。 [授業外学習] 知能検査の特徴について自分なりにまとめてみる。			⑯	[テーマ] テスト [内容] これまでの学習内容について互いの評価を目的としたテストを行う。 [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
相互の評価のために、小テスト・授業内レポートを毎回課す。これらの結果と、出席状況、テストの結果を材料として成績評定を行う。なお、出席状況は単位認定のための必要条件とする(欠席が多い場合には評価対象としない)。なお、得点状況によってはテスト後にレポートを追加して課す場合がある。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			40%
授業内レポート		◎	○		50%
授業外レポート		○	◎		10%
演習・実技					対象としない
授業態度					加減点要素
出席					欠格条件
関連科目					
教科書				参考書	本郷・八木編 シードブック教育心理学 建帛社 宇野編 授業に学び授業を作る教育心理学第二版 中央法規
連絡先	tt-arai@sendai-u.ac.jp				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教育の制度 System of Education (L.)			担当教員	金井里弥	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状(全)
	履修の方法	選択	単位数			
授業の概要						
近年の教育問題と教育制度の歴史的変遷を踏まえながら、教育制度や行政のあり方について考える。						
授業の一般目標						
①学校教育制度の成り立ちと、現状を理解する。 ②実際の教育問題との関連において、教育制度の観点から望ましい教育のあり方を考える。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	日本における学校教育制度の成り立ちと現状を説明できる。				
■	情意的領域	現在の教育問題について、教育制度の観点から自分の意見を述べることができる。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
教育問題を捉える上で求められる教育制度の知識を自覚したうえで、教育制度の内容に入る。後半では、海外の教育制度との比較から、日本の教育制度のあり方を捉え直す。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 講義の目標と進め方、シラバスの内容、成績評価の方法を知る。 [授業外学習] シラバスを読んでおくこと。			⑨	[テーマ] 日本の教育制度史 [内容] 現在の教育制度がいかにして成立してきたのか、近代以降を中心に理解する。 [授業外学習] 講義内容を復習。	
②	[テーマ] 教育法規の基礎知識と憲法 [内容] 教育制度の基盤となる法規の種類と体系を踏まえた上で、憲法上の教育に関する条文について理解する。 [授業外学習] 教育法規について復習する。			⑩	[テーマ] 教員制度 [内容] 教員の身分や職務、処分等の教員に関する制度を理解する。 [授業外学習] 関連法規を確認する。	
③	[テーマ] 教育基本法 [内容] 教育基本法の史的展開を踏まえた上で、その内容と現在の学校教育との関連性を理解する。 [授業外学習] 教育基本法について復習する。			⑪	[テーマ] 日本における教員養成制度と教師教育制度 [内容] 日本における教員養成制度の展開を知るとともに、教師教育の仕組みを理解する。 [授業外学習] 講義内容を復習。	
④	[テーマ] 学校の種類と義務教育 [内容] 学校の種類とそれらの種類に応じた制度的特徴、義務教育のあり方について理解する。 [授業外学習] 教育委員会について調べる。			⑫	[テーマ] 諸外国における教員養成制度と教師教育制度 [内容] 諸外国における教員養成制度および教師教育制度を知り、日本における学力政策を相対的な視点で捉えなおす。 [授業外学習] 講義内容を復習する。	
⑤	[テーマ] 教育行政の理解 [内容] 中央および地方における教育行政の仕組みと、その制度的展開を理解する。 [授業外学習] 教育委員会について調べる。			⑬	[テーマ] 学力問題と学力政策 [内容] ゆとり教育以来叫ばれている学力低下論争と国際学力競争の問題を紐解きながら、日本の学力政策の展開と学力の在り方を考える。 [授業外学習] ゆとり教育政策や近年の学力政策について調べる。	
⑥	[テーマ] 学校の設置と管理 [内容] 学校の設置主体、学校法人、学校の設置義務および基準、管理に関する法令を理解する。 [授業外学習] 関連法規を確認する。			⑭	[テーマ] いじめ問題と いじめ防止対策推進法 [内容] いじめ問題の動向と課題を踏まえながら、いじめ防止対策推進法をはじめとする、いじめ問題への制度的対応を理解する [授業外学習] いじめ問題について調べる。	
⑦	[テーマ] 教育課程の編成と近年の改革動向 [内容] 教育課程の編成についての概要を踏まえた上で近年の改革動向について理解する。 [授業外学習] 関連法規を確認する。			⑮	[テーマ] まとめ [内容] 本講義の要点を確認し、全体の総括を行う。 [授業外学習] 本講義の要点の確認とその復習を行う。	
⑧	[テーマ] 教科書制度 [内容] 教科書の使用、検定、採択について理解する。 [授業外学習] 関連法規を確認する。			⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 本講義での理解度、学習到達度を確認する。 [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
(1) 受講態度(25%)、(2) 授業内レポート(15%)、(3) 期末試験(60%)。 なお、受講態度が著しく不良である者、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。 私語、睡眠を含む不適切な受講態度は減点対象とし、それらの程度が著しい場合は授業放棄として欠席扱いとする。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	5回以上の欠席で期末試験の受験不可とする。教員免許状取得に必須の科目であることから、教職を志す者として、学生相互の学習権を尊重し合う受講態度を求める。遅刻や講義中の私語、携帯いじり、睡眠等、学習環境を損なう行為については厳格に対処する。	
定期試験	◎			60%		
授業内レポート	◎	○		15%		
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度		◎		25%		
出席				欠格条件		
関連科目	教職論、教育課程論、道德教育の研究と理論					
教科書	『必携教職六法』			参考書	授業時に紹介する。	
連絡先	研究室 A棟3階 304					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教育課程論 Theory of Curriculum (L.)			担当教員	山谷 幸司
	開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義(L)
	履修の方法	選択	単位数	2	関連資格
					教員免許状(全免許)
授業の概要					
学校での教育活動の全体計画である教育課程について、その意義、法令上のきまり、編成の実際等について概説する。とくに学校での教育課程編成の基準となる「学習指導要領」に関しては、その意義や変遷とともに、平成20年と21年に改訂された新「学習指導要領」の方針や内容を詳述する。					
授業の一般目標					
(1)教育課程の意義、(2)教育課程に関するきまり、(3)教育課程編成の実際、(4)教育課程の実施と評価について、概要を理解する。そして、このことを通して、学校教師として、教育課程を実際に編成するための基礎的な力量を養う。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	教育課程に関して、その意義、きまり、編成の実際、実施と評価について理解できる。				
■ 情意的領域	学校での教育課程のあり方について関心を持ち、自分の意見を論理的に述べることができる。				
■ 技能表現的領域	教育課程に関して、その意義、きまり、編成の実際、実施と評価について他者に説明できる。				
授業計画(全体)					
教育課程について、(1)教育課程の意義、(2)教育課程に関するきまり、(3)教育課程編成の実際、(4)教育課程の実施と評価の4テーマから概説する。講義は、授業時に配布するプリントにもとづいて進めるが、プリントには空欄を多く設けているので講義を聞き、テキストを参照しながら完成させるよう努めてほしい。なお、授業終了時に各回のテーマに関する小テストを行う。どの程度まで講義内容が理解できたかを確認してもらいたい(小テストは評価に反映させない)。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 学校教育の不思議 [内容] 担当教員の紹介、教育課程論で学ぶ内容、授業の進め方、成績評価の方法 [授業外学習]学習シラバスを読んでおくこと			⑨	[テーマ] 学習指導要領②-教育課程に関するきまり⑦ [内容] 現行学習指導要領の特質 [授業外学習]授業の復習
②	[テーマ]教育課程とは何か [内容] 学校教育の性質と教育課程の意義 [授業外学習]授業の復習			⑩	[テーマ] 学習指導要領③-教育課程に関するきまり⑧ [内容] 新学習指導要領の特質 [授業外学習]授業の復習
③	[テーマ] 教育の目的・目標①-教育課程に関するきまり① [内容] 教育の目的・目標に関するきまりの体系と教育全体の目的・目標 [授業外学習]授業の復習			⑪	[テーマ] 学習指導要領④-教育課程に関するきまり⑨ [内容] 総合的な学習の時間の意義の内容 [授業外学習]授業の復習
④	[テーマ] 教育の目的・目標②-教育課程に関するきまり② [内容] 義務教育(小学校・中学校)の目的と教育目標 [授業外学習]授業の復習			⑫	[テーマ] 教育課程編成の実際① [内容] 教育課程編成の主体、基本方針、留意事項 [授業外学習]授業の復習
⑤	[テーマ] 教育の目的・目標③-教育課程に関するきまり③ [内容] 高校の目的と教育目標 [授業外学習]授業の復習			⑬	[テーマ] 教育課程編成の実際② [内容] 教育課程編成の手順 [授業外学習]授業の復習
⑥	[テーマ] 教育内容と授業時数等①-教育課程に関するきまり④ [内容] 教育内容・授業時数等に関するきまりの体系と義務教育(小学校・中学校)における教育内容・授業時数等 [授業外学習]授業の復習			⑭	[テーマ] 教育課程の実施と評価① [内容] 指導計画と学習指導案 [授業外学習]授業の復習
⑦	[テーマ] 教育内容と授業時数等②-教育課程に関するきまり⑤ [内容] 高校における教育内容・授業時数 [授業外学習]授業の復習			⑮	[テーマ] 教育課程の実施と評価② [内容] 教育課程の点検と評価 [授業外学習]授業の復習
⑧	[テーマ] 学習指導要領①-教育課程に関するきまり⑥ [内容] 学習指導要領の意義と変遷 [授業外学習]授業の復習			⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業全体を振り返り、理解を深める [授業外学習]試験内容を振り返り、理解が不十分な箇所を復習する
成績評価方法(方針)					
期末試験の結果に、受講態度を加味して評価する。なお、教師の発問に積極的に答えるなど意欲的に受講した場合は、期末試験に加点する。授業終了時に実施する小テストは評価に反映させない、また、欠席は評価の欠格条件として扱う。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	教育課程というと、細かなきまりが沢山あって難しいと考えるかもしれない。確かに教育課程にはきまりや約束事が多くあるが、順序良く体系的に学んでいけば、それらを理解することはそれほど難しいことではない。積み木のように、ひとつひとつの事項をていねいに積み上げながら授業を進めていくので、一回たりとも授業をおろそかにせず、各回の内容を着実に学んでほしい。
定期試験	◎		△	95%	
授業内レポート				反映させない	
授業外レポート				実施せず	
演習・実技				実施せず	
授業態度		△		5%	
出席				欠格条件	
関連科目	教育の基礎理論(1年)、教育の制度(1年)、道徳教育論(2年)、特別活動論(2年)、保健体育教育論 I (2年)				
教科書	学校教育小六法、中学校・高等学校学習指導要領	参考書	授業時に紹介する。		
連絡先	研究室 A棟3階308				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	保健体育科教育論 I			担当教員	井上雅勝
	Pedagogy of Physical Education I (L.)				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要 中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方とその実際を具体的に説明する。					
授業の一般目標 中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方とその実際を具体的に理解し、その認識を深める。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方を解釈し、説明することができる。			
■	情意的領域	中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方を、積極的に検討することができる。			
■	技能表現的領域	中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方を、「指導案」などに表すことができる。			
講義形式で授業を進める。必要事項などを書き込めるプリントを毎回配布し、プリントの内容、パワポイントに沿って授業を展開する。講義期間中に、数回レポートを作成し、そのできばえを評価する。					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意 [授業外学習]			⑨	[テーマ] 体育科の指導計画(学習指導計画②) [内容] 体育科の指導計画について概説する(その2) [授業外学習] 前回までの講義内容を整理しておく
②	[テーマ] 体育の基本的性格と体育科教育に関わる制度的条件 [内容] 体育の基本的性格と体育科教育に関わる制度的条件について概説する [授業外学習]			⑩	[テーマ] 体育科の指導計画を作成する① [内容] 体育科の指導計画を作成する(レポート作成 ①指導計画) [授業外学習] レポート作成に必要な資料などを準備しておく
③	[テーマ] 体育科教育の目的(現行学習指導要領の趣旨) [内容] 体育科教育の目的を現行学習指導要領の趣旨から概説する [授業外学習] 前回までの講義内容を整理しておく			⑪	[テーマ] 体育科の指導計画を作成する② [内容] 体育科の指導計画を作成する(レポート作成 ②指導計画) [授業外学習] レポート作成に必要な資料などを準備しておく
④	[テーマ] 体育科教育の目標及び内容(中学校の学習指導要領) [内容] 体育科教育の目標及び内容を中学校の学習指導要領を中心に概説する [授業外学習] 前回までの講義内容を整理しておく			⑫	[テーマ] 体育科の学習指導(よい体育授業の条件) [内容] よい体育授業の条件について概説する [授業外学習] 前回までの講義内容を整理しておく
⑤	[テーマ] 体育科教育の内容(学習指導要領解説から: 体づくり運動) [内容] 体育科教育の内容として、「体づくり運動」を具体的に概説する [授業外学習] 前回までの講義内容を整理しておく			⑬	[テーマ] 体育科の学習指導(学習形態の種類) [内容] 学習形態の種類について概説する [授業外学習] 前回までの講義内容を整理しておく
⑥	[テーマ] 体育科教育の内容(学習指導要領解説から: 球技) [内容] 体育科教育の内容として、「球技」を具体的に概説する [授業外学習] 前回までの講義内容を整理しておく			⑭	[テーマ] 体育の教材・教具 [内容] 体育の教材・教具について概説する [授業外学習] 前回までの講義内容を整理しておく
⑦	[テーマ] 体育科教育の内容(学習指導要領解説から: 武道) [内容] 体育科教育の内容として、「武道」を具体的に概説する [授業外学習] 前回までの講義内容を整理しておく			⑮	[テーマ] 体育の学習・授業評価 [内容] 体育の学習・授業評価について概説する [授業外学習] 前回までの講義内容を整理しておく
⑧	[テーマ] 体育科の指導計画(学習指導計画①) [内容] 体育科の指導計画について概説する(その1) [授業外学習] 前回までの講義内容を整理しておく			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針) 講義期間中に作成したレポートの内容を評価する。なお、レポートは期限内にすべて提出することが評価の最低条件である。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					100%
授業内レポート		◎			
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度			○		欠格条件
出席			○		欠格条件
関連科目	保健体育科教育論Ⅱ・Ⅲ(免許取得に必要な講義) 保健体育科教育論Ⅳ・保健体育科授業研究Ⅰ・Ⅱ(選択履修)				
教科書	中学校学習指導要領解説 保健体育編 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編			参考書	講義中、必要に応じて提示する
連絡先	井上研究室				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	保健体育科教育論Ⅱ			担当教員	入澤裕樹	
	Pedagogy of Health Education Ⅱ (L.)					
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義(L)	関連資格	教員免許状(中高保体、参考:養護、栄養)
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
中学校・高等学校における「保健」の学習指導についての基本的な考え方とその実際について学ぶ。						
授業の一般目標						
「保健」学習指導の基礎・基本について知り、児童生徒の実態を通じて保健の授業を構成・展開できるようになる。特に、保健の授業を模擬的に実施することで、実践能力の基礎を身につける。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	「保健」学習指導の基礎・基本について説明できる。児童生徒の健康課題を考えることができる。					
■ 情意的領域	保健の授業を構成しようとする。					
■ 技能表現的領域	模擬授業を通じて展開・表現できる。					
授業計画(全体)						
各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるための視聴覚教材も用いることもある。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認したり、授業の進み具合によっては、協同作業としてのグループワークによる指導案の作成や模擬授業も行う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読しておくこと			⑨	[テーマ]「保健教科書」教材の検討① [内容] 中学校における保健の授業 [授業外学習]授業中に指示する	
②	[テーマ] 現代社会における保健科教育の役割 [内容] 生涯を通じ健康な生活を送るためにヘルスプロモーションの発想を生かし、健康づくりを支援する環境づくりの資質や能力を学習する [授業外学習]授業中に指示する			⑩	[テーマ]「保健教科書」教材の検討② [内容] 高等学校における保健の授業 [授業外学習]授業中に指示する	
③	[テーマ] わが国の保健科教育の変遷とその動向 [内容] 明治から大正、昭和(戦前から戦後)、そして現在に至る保健科教育の教科内容構成について学習する。 [授業外学習]授業中に指示する			⑪	[テーマ] 保健の授業の実際① [内容] 指導案に沿った模擬授業の実施 [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べ、指導案を作成しておく	
④	[テーマ] 授業が成立するという事 [内容] 授業の成立条件と構成要素、および教師の信念について学習する [授業外学習]授業中に指示する			⑫	[テーマ] 保健の授業の実際② [内容] 学習者を考えた模擬授業の実施 [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べ、指導案を作成しておく	
⑤	[テーマ] 保健科の目的と目標 [内容] 学習指導要領を中心に戦後の保健科教育における目的・目標の変遷について学習する [授業外学習]授業中に指示する			⑬	[テーマ] 保健の授業の実際③ [内容] 発問に注目する模擬授業の実施 [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べ、指導案を作成しておく	
⑥	[テーマ] 保健授業の教育内容と教材づくり [内容] 教育内容、教材、教材づくりについて学習する [授業外学習]授業中に指示する			⑭	[テーマ] 保健の授業の実際④ [内容] 保健科のカリキュラムを考えた模擬授業の実施 [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べ、指導案を作成しておく	
⑦	[テーマ] 指導案づくりと授業展開(さまざまな方法) [内容] 多様な保健科教育の指導方法を具体的な展開事例とともに学習する [授業外学習]授業中に指示する			⑮	[テーマ] 保健の授業の実際・まとめ [内容] 授業の成立条件について学習する [授業外学習]場合によっては模擬授業に替える場合もある	
⑧	[テーマ] 保健の授業研究と評価 [内容] 授業研究の意義と授業記録、授業評価について学習する [授業外学習]授業中に指示する			⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習]レポート(指導案・評価カード等の提出)に替える場合もある	
成績評価方法(方針)						
試験は、期末試験を1回実施する(評価割合60%)が、場合によっては模擬授業に替える場合もある。また、授業内レポート(評価割合40%)を課す予定。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・4/5以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。授業中は原則携帯電話をかばんの中に入れておくこと。 ・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。 授業計画は、授業の進展により、多少前後したり、内容変更がある。	
定期試験						
授業内レポート	◎	◎		40%		
授業外レポート						
演習・実技	◎	◎	◎	60%		
授業態度				欠格条件		
出席				欠格条件		
関連科目	保健体育科教育論Ⅰ(2年)、保健体育科教育論Ⅲ(3年)、保健体育科教育論Ⅳ(3年)、保健体育授業研究Ⅰ(3年)、保健体育科授業研究Ⅱ(3年)					
教科書	保健科教育法入門(大修館書店)			参考書	中・高保体教科書、中・高校学習指導要領解説・保健体育編	
連絡先	研究室:A棟3階 オフィスアワー:木曜日 12:40~14:10予定					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	保健体育科教育論 III				担当教員	郡山 孝幸 / 山梨 雅枝
	Pedagogy of Education III (L.)					
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	教員免許状(中・高保体)
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
「保健体育科教育論 I」での学びを踏まえ、中学校・高等学校における「体育」の実技指導場面の指導方法および指導方法について学ぶ。						
授業の一般目標						
中学校・高等学校における「体育」の学習指導について、教育の質を向上させる進め方を探求し、実践することができる。						
授業の到達目標						
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	中学校・高等学校における「体育」の学習についての具体的な進め方を理解することができる。				
<input type="checkbox"/>	情意的領域					
<input checked="" type="checkbox"/>	技能表現的領域	中学校・高等学校における「体育」の学習についての具体的な進め方を理解することができる。				
授業計画(全体)						
・2～9回目は、受講者を2つの教室に振り分け授業を行う。内容は、郡山が運動領域「陸上競技、水泳、球技、武道」、山梨が運動領域「体づくり運動、器械運動、ダンス」を担当する。 ・模擬授業は、小グループを編成し、グループ内で体育の学習指導についての具体的な進め方を検討したり、実際に授業を組み立てて実践する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内 容] 担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意 [授業外学習] シラバスに目を通す。「保健体育科教育論 I」を思い出す				⑨	[テーマ] 「G. ダンス」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する
②	[テーマ] 学習指導要領改訂について [内 容] これまで授業で学んできた内容を思い出し、今後の授業計画に活かす [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する				⑩	[テーマ] 模擬授業に関するガイダンス [内 容] 模擬授業 グループ編成&指導領域の割り振り 各班で指導内容の検討・指導案作成 [授業外学習] グループ毎に指導案の作成。
③	[テーマ] 「A. 体づくり運動」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する				⑪	[テーマ] 模擬授業の実践 1 [内 容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学習] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する
④	[テーマ] 「B. 器械運動」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する				⑫	[テーマ] 模擬授業の実践 2 [内 容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学習] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する
⑤	[テーマ] 「C. 陸上競技」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する				⑬	[テーマ] 模擬授業の実践 3 [内 容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学習] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する
⑥	[テーマ] 「D. 水泳」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する				⑭	[テーマ] 模擬授業の実践 4 [内 容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学習] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する
⑦	[テーマ] 「E. 球技」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する				⑮	[テーマ] 模擬授業の実践 5 [内 容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学習] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する
⑧	[テーマ] 「F. 武道」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する				⑯	[テーマ] 模擬授業の実践 6 [内 容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学習] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する
成績評価方法(方針)						
・2～5回目、6～9回目は、授業担当者による授業態度・レポート内容の評価。10～15回目においては模擬授業の出来栄と、生徒役のグループによる授業評価を照らし合わせて総合的に評価する。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験					評価対象外	・「体育」の授業を「指導者」の立場で考えながら本講義を受講する。 ・講義を一方的に受けるのではなく、積極的に参加する。 ・授業をきっかけに、毎度共に過ごす学生以外の学生と交流を持ち、互いの情報交換を積極的に行う。 ・数多く指導場面に足を運ぶ様、努める(指導のボランティアなど)。 ・各自の専門性を活かし、互いに情報交換を行うことで互いに学びあう姿勢を持って授業に参加することを望む。
授業内レポート	◎				50%	
授業外レポート					評価対象外	
演習・実技			◎		50%	
授業態度					欠格条件	
出席					欠格条件	
関連科目	・保健体育科教育論 I ・各領域の実技授業					
教科書	中学校学習指導要領解説保健体育編				参考書	
連絡先	郡山研究室(LC棟204)、山梨研究室(第4体育館1F)					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		保健体育科教育論IV Pedagogy of Health and Physical Education IV (L.)			担当教員	入澤裕樹・小浜明
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	教員免許状(中高保体)
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
保健体育科教育論Ⅰ～Ⅲの学習を踏まえ、中学校・高等学校における「保健・体育」の学習指導を、教師の立場から実施し、その展開の仕方を学ぶ。						
授業の一般目標						
保健体育の単元計画、学習指導案づくり、模擬授業を通して、授業の実践的能力の基礎・基本を身につける。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	保健体育の教科内容について理解している。				
■	情意的領域	保健体育の教科内容を中学校・高等学校の生徒の実態に合わせて構成しようとする。				
■	技能表現的領域	保健体育の教科内容を展開・表現できる。				
授業計画(全体)						
保健および体育の授業づくりについて知り、小グループ(あるいは個人)で、模擬授業を実施する。場合によっては2月に4回分程度校外学習を行う予定である。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読しておくこと			⑨	[テーマ] 体育の授業をつくる① [内容] マット運動(前転)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	
②	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校)① [内容] 心身の発達と心の成長の分野で模擬授業を実施する [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること			⑩	[テーマ] 体育の授業をつくる② [内容] マット運動(開脚前転)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	
③	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校)② [内容] 環境と健康の分野で模擬授業を実施する [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること			⑪	[テーマ] 体育の授業をつくる③ [内容] マット運動(後転)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	
④	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校)③ [内容] 傷害の防止の分野で模擬授業を実施する [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること			⑫	[テーマ] 体育の授業をつくる④ [内容] マット運動(伸膝後転)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	
⑤	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校)④ [内容] 健康な生活と病気の予防の分野で模擬授業を実施する [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること			⑬	[テーマ] 体育の授業をつくる⑤ [内容] マット運動(倒立)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	
⑥	[テーマ] 保健の授業をつくる(高等学校)① [内容] 現代生活と健康の分野で模擬授業を実施する [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること			⑭	[テーマ] 体育の授業をつくる⑥ [内容] マット運動(測方倒立回転飛び)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	
⑦	[テーマ] 保健の授業をつくる(高等学校)② [内容] 生涯を通じる健康の分野で模擬授業を実施する [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること			⑮	[テーマ] 体育の授業をつくる⑦ [内容] マット運動(前方倒立回転飛び)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	
⑧	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校・高等学校) [内容] 全体をまとめる [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること			⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学習]場合によっては指導案の提出やレポートに替える場合もある。	
成績評価方法(方針)						
試験は、期末試験を1回実施する(評価割合100%)。場合によっては模擬授業に替える場合もある。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。詳細はオリエンテーション時に説明するので、欠席しないこと。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・4/5以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。授業中は携帯電話をかばんの中に入しうこと。 ・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。 ・授業計画は、授業の進展により、多少前後したり、内容変更がある。
定期試験						
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技		◎	◎	◎	100	
授業態度					欠格条件	
出席					欠格条件	
関連科目	保健体育科教育論Ⅰ(2年)、保健体育科教育論Ⅱ(3年)、保健体育科教育論Ⅳ(3年)、保健体育授業研究Ⅰ(3年)、保健体育科授業研究Ⅱ(3年)					
教科書	特に指定しない			参考書	中学、高校版・「授業書」方式による保健の授業(大修館書店)	
連絡先	A棟3階306 オフィスアワー:月曜日 16:00～17:00予定					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教育方法論				担当教員	荒井龍弥
	Educational Methodology(L.)					
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	中学・高校教諭(保健体育・福祉)・栄養教諭・養護教諭
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
教育場面を改善するためには、教える側および学習者双方のさまざまな要素を考慮に入れなくてはならない。本講では、よりよい教育場面を創造するために必要な知識・技能という観点から、学習が効果的に成立するための諸条件の操作を中心にこれまでの知見を紹介する。						
授業の一般目標						
学習を支援するという立場から、特定の目標を実現するための計画を案出できる。また計画を実施した際の学習者の反応や支援側の応答など、教育場面の展開を明示的に予想できる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	授業のよしあしや展開を左右する諸条件を指摘し、その改善策を工夫し実施しようすることができる。				
■	情意的領域	学習を支援する側の論理や考え方を理解するとともに関心を持ち、自らもその視座に立ち考えることができる。				
■	技能表現的領域	発問、説明、指示といった指導言を工夫することができる。また、その変化による生徒の反応の違いを予想することができる。				
授業計画(全体)						
授業を実施する側として検討すべきことに焦点を絞り、説明、演習を行う。また、実践例からどのような情報が得られるのか、さらにそれらが教育研究上どのような問題として取りあげられていくのかについても説明を加える。これらをもとに指導者の立場から指導スタイルの確立や改善向上を目指すべく援助していく。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 教育実習生の実践例～授業を支える技術の側面 [内容] 授業を左右する諸要因について、実習例をもとに解説し、その重要性を知る。 [授業外学習] 自分だったら同じ場面でどう動くか考えてみること。				⑨	[テーマ] 教材、学習者の反応の型分け② [内容] 多くの教科でも理解や技能のパターンがあることを紹介し、そのパターンに基づいて教育評価がなされていることを示す。 [授業外学習] 身近な教材で、改めて自らの理解を検討すること。
②	[テーマ] 教師としての発言～マイクロティーチングの記録を作成してみる [内容] 教師の一挙一動が生徒の理解や授業全体を左右することについて体験的に検討する。 [授業外学習] より有効な発言について検討すること				⑩	[テーマ] 学習者の反応とアクティブ・ラーニング [内容] 学習者の反応を無視した一方的知識技能伝達による教授法の否定として提唱されているアクティブラーニングの諸事例を紹介する。 [授業外学習] 身近な教材でアクティブ・ラーニングを促す発問を考えること
③	[テーマ] 指導言① 発問 [内容] 発問の重要性について検討し、その違いにより生じる授業の流れの違いを考える。 [授業外学習] 発問をさらに変化させ、その経過を考えてみること。				⑪	[テーマ] 教授ストラテジー① [内容] 各種教材のもとで計画される発問系列の作成方針を教授ストラテジーと呼ぶ。各種のストラテジーを紹介する。 [授業外学習] 気に入ったストラテジーを用いた発問系列を考えてみること。
④	[テーマ] 指導言② 発問作成練習 [内容] 特定の単元をとりあげ、自分だったらどんな発問を行うか考えてみる。また、どんな発問がよいかを受講者間で検討する。 [授業外学習] 自分が作成した発問案をさらに修正してみること。				⑫	[テーマ] 教授ストラテジー② ル・バー修正のためのストラテジー [内容] ル・バー修正のための方略(ストラテジー)について説明するとともに、具体例から効果や限界を検討する。 [授業外学習] 各種ル・バーで系列を考えてみること。
⑤	[テーマ] 指導言③ 説明 [内容] 説明の種類とその学習効果、抽象度操作のためのキーワードなどについて紹介する。また特定の単元で説明を試みる。 [授業外学習] 身近な例で抽象度操作をしてみること。				⑬	[テーマ] 指導言④ 指示 / 板書の方法 [内容] 指示の種類とその得失、発声、非言語的部分について説明する。また、板書の際の留意点についても検討する。 [授業外学習] 空き教室などを使い、板書の練習をしてみること。
⑥	[テーマ] 教材分析方法とその練習 [内容] 説明や発問検討のための枠組みとして、ルレグシステムについて説明をする。さらに教科書の記述を分析してみる。 [授業外学習] 他の単元、テキスト等でも分析してみること。				⑭	[テーマ] 各種メディア、情報機器の活用① [内容] 教育場で用いられる各種メディアとその位置づけを紹介し、映像教材作成上の留意点を中心に情報機器の活用について述べる。 [授業外学習] 自分なりにメディア利用について検討すること。
⑦	[テーマ] 学習者理解のために ルレグシステムの拡張 [内容] 学習者の理解もルレグシステムで解釈することができることを述べるとともに、ル・バーの紹介をする。 [授業外学習] 自分自身の理解はどうなっているか振り返ってみること。				⑮	[テーマ] 各種メディア、情報機器の活用② [内容] 教育場で有用性が期待されるICT関連のメディアを中心にその有効性と留意点を検討する。 [授業外学習] 任意の教材で自分なりに利用可能性について検討すること。
⑧	[テーマ] 教材、学習者の反応の型分け① [内容] 特定の学習を行うにあたっては理解や技能のパターンがあることを紹介し、それに応じた教材対応を考える必要があることを述べる。 [授業外学習] 様々な運動場面等での技能パターンを調べてみること。				⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)						
相互の評価のために、小テスト・授業内レポートを毎回課す。これらの結果と、レポート試験、出席状況、テストの結果を材料として成績評定を行う。なお、出席状況は単位認定のための必要条件とする(欠席が多い場合には評価対象としない)。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	マークシート等も利用するので、シャープペンシルないし鉛筆を用意のこと。教員、指導者など、学習援助者側の視座に立つことを求める。このため、講義で示したことがらについて、自分なりの例を探したり、「自分だったらこうする」など、自分の身に引き寄せて考察する作業をしてほしい。
定期試験		◎			40%	
授業内レポート		◎	○	△	60%	
授業外レポート					対象としない	
演習・実技					対象としない	
授業態度					加減点要素	
出席					欠格条件	
関連科目	教育の心理					
教科書					参考書	宇野編 授業に学び授業を作る教育心理学第二版 中央法規
連絡先	tt-arai@sendai-u.ac.jp					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教育相談 School Educational Counseling(L.)			担当教員	志賀野 博・青沼 一民
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	関連資格	教員免許状(全)
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
教育相談は生徒指導・学習指導と同様に重要な機能概念である。本授業は学校教育相談学をベースに、その理論と内容・方法・指導体制・心理査定・関係心理学等を体系的に講義する。さらに、「学校教育相談」として取り上げられる、いじめや不登校、虐待、発達障害、非行といった教育現場で直面する問題の現状と課題を文部科学省の問題行動調査に基づいて把握し、どのような支援・対応が望ましいのかについて解説する。					
授業の一般目標					
学校における教育相談活動の意義や原理、目的、方法、内容、技法、背景となる心理学的基礎、指導体制、児童生徒理解や心理アセスメントを理解する。さらに、学校における不登校・いじめ・非行・虐待・発達障害・中途退学等の様々な教育相談上の現状と課題を把握・理解し、教育相談の基礎的技法を知り、教育現場での活用に繋げられるように考察する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	学校教育相談の歴史、意義、原理、目的、内容、方法、技法、関係心理学、指導体制等について理解し、説明できるようにする。また、学校教育相談上の現状と課題を把握・指摘し、より望ましい教育相談のあり方を説明できる。				
■ 情意的領域	児童生徒のよりよい人格の発達や有意義で、興味深く、充実した学校生活が送れるような教育相談の支援に寄与し、具体的な課題解決に向けて思考・判断し、他の教員と協働しながら学校教育相談活動に参加する意志・意欲を持つことができる。				
■ 技能表現的領域	実際の教育活動や具体的な支援の仕方について学び、さらに様々な教育活動を通して教員としての学校教育相談の活用力を身に付けることができるようにする。さらに、教育相談上の諸問題について様々な情報網を駆使し、実践力を高めることができる。				
授業計画(全体)					
各授業のテーマに沿った講義が中心となる。より深い理解と実践力の向上に向け、授業外学習への自主的取組や教育ボランティア等を勧める。さらに、実践的事例の紹介や視聴覚教材の視聴を通して実践場面への応用を工夫する。とりわけ教育臨床への参加は授業内容の実践的力量が高められるよい機会となるので積極的な参加が望まれる。さらに、教育相談の周辺領域に係る科目(学校保健学・臨床心理学・精神保健学・心理学概論・教育心理学)等を並行受講することを勧める。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員紹介、教員免許取得における位置付け、授業計画、授業の進め方、成績評価の方法、その他留意事項等について説明する [授業外学習]シラバス・教科書を準備してくる			⑨	[テーマ] 教育相談のプロセスと技法、基礎理論と心理療法(2) [内容] 教育相談を支える様々なカウンセリング理論や心理療法等について、視聴覚教材を活用しながらその手法をまとめながら深化をはかる [授業外学習]図書館、Web等で復習し、学習を深める
②	[テーマ]教育相談の歴史と理念(沿革と発展) [内容] わが国の教育相談の歩み、アメリカにおけるスクールカウンセリングの発展、日本とアメリカのカウンセラー制度について概説する [授業外学習]学習プリントで復習する			⑩	[テーマ] 学校教育相談の課題(1)-① [内容] 「いじめ」の構造・態様・変容などの理解と支援のあり方並びに現状と対策について説明する [授業外学習]学習プリントで復習する
③	[テーマ] 教育相談の意義・目的・役割・機能など(1) [内容] 教育相談の意義、目的、役割、機能等について説明する [授業外学習]教科書・学習プリントをもとに復習する			⑪	[テーマ] 学校教育相談の課題(1)-② [内容] 「いじめ」の理解と支援について、視聴覚教材を活用しながら学級担任としてのいじめ相談の取り組み方をまとめながら深化をはかる [授業外学習]図書館、新聞、Web等でのいじめ問題の記事を読み考察する
④	[テーマ] 学校教育相談と生徒指導、教育相談の特質・方法・形態など(2) [内容] 学校教育相談と生徒指導との関係、教育相談の特質、方法、形態、領域等について解説する [授業外学習]教科書・学習プリントをもとに復習する			⑫	[テーマ] 学校教育相談の課題(2)-① [内容] 「不登校」の構造・態様・変容などの理解と支援のあり方並びに現状と対策について説明する [授業外学習]学習プリントで復習する
⑤	[テーマ] 校内外の教育相談体制と各教師・学級担任の役割、教育相談の基本 [内容] 学校内外における教育相談の体制づくりと学級担任をはじめとする様々な教師による教育相談のあり方と教育相談の基本を解説する [授業外学習]教科書・学習プリントで復習する			⑬	[テーマ] 学校教育相談の課題(2)-② [内容] 「不登校」の理解と支援について、視聴覚教材を活用しながら学級担任としての不登校相談の取り組み方をまとめながら深化をはかる [授業外学習]図書館、新聞、Web等で不登校問題の記事を読み考察する
⑥	[テーマ] 教育相談と児童生徒理解(心理アセスメント含)の方法 [内容] 効果的な学校教育相談を支える児童生徒理解の意義・方法・技術や心理アセスメントの考え方について解説する [授業外学習]児童生徒理解の方法を図書館学習・学習プリント中心にまとめる			⑭	[テーマ] 学校教育相談の課題(3)-① [内容] 「発達障害」「虐待」「少年非行」「暴力行為」の理解と支援のあり方並びに現状と対策について説明する [授業外学習]学習プリントで復習する
⑦	[テーマ] 教育相談を支える関係心理学の基礎的知見 [内容] 教育相談を支える児童青年期の心理と発達、欲求と行動や葛藤並びに適応(防衛)機制の特徴等について説明する [授業外学習]図書館・関連授業等での復習で心理学的知見をさらに深める			⑮	[テーマ] 学校教育相談の課題(3)-② [内容] 「発達障害」の理解と支援について、視聴覚教材を活用しながら学級担任としての特別支援相談の取組をまとめながら深化をはかる [授業外学習]図書館、新聞、Web等で発達障害関連の記事を読み考察する
⑧	[テーマ] 教育相談のプロセスと技法、基礎理論と心理療法(1) [内容] 教育相談の進め方や教育相談を深めるカウンセリング理論や心理療法等を概説する [授業外学習]図書館、関連授業、Web等で復習し、学習を深める			⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度、到達度を確かめるために期末テスト(ペーパーテスト)を行う [授業外学習]これまでの学習の復習をしっかりと行い対策を図る
成績評価方法(方針)					
定期の筆記試験の結果(40%)に、出席状況を含む授業内受講態度や授業内レポート・意欲(60%)を加味して評価する。なお、「理由の認められない欠席(自己に責めを帰す理由)」を総授業回数のうち6回以上の者は評価対象外(放棄:定期試験の受験資格が無いものと取り扱う)とする。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎		△	40%
授業内レポート		○	◎	○	授業態度に含む
授業外レポート					実施せず
演習・実技					評価対象外
授業態度		△	◎	△	減点(欠席)あり
出席			◎		60%欠格条件
履修上の注意(受講学生に望むこと)					
①教師になろうという強い意欲のある学生の受講が基本②私語、遅刻、飲食、睡眠、携帯操作等の行為は厳禁であり、授業態度の悪い者とし減点もしくは退出席とする。また20分以上の遅刻は欠席とする③資格関連実習や各種公認大会、慶弔等の理由による欠席届は配慮される場合がある。自己都合の欠席や資格関連を伴わない授業演習等は届出を提出しても欠席となる④授業は座席指定制とし、初回授業時決定するので必ず出席のこと。初回授業の無断欠席者それ以降の受講は認めないので欠席する場合は事前相談を必ず行う⑤授業は進み方で内容の前後や変更の可能性もあり得る					
関連科目	生徒指導論、教育心理学、臨床心理学、精神保健学、その他教職関係科目				
教科書	生徒指導提要(文部科学省 教育図書出版)			参考書	学習指導要領(含解説)
連絡先	志賀野研究室A311 TEL55-1290(直通) 青沼研究室A313 TEL55-1374(直通)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	生涯学習概論A			担当教員	坂根 治美																																																
	Introduction to Lifelong Learning A (L.)																																																				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格																																																
	履修の方法	選択	単位数			2																																															
授業の概要 本授業では、生涯学習の理念を確認したうえでわが国における社会教育についての基本的事項を概説する。近代の社会教育の特性と対比させながら、現代の社会教育の基本的性格ならびに社会教育活動を支える施設や職員に関する基本的事項について説明し、さらに生涯学習と社会教育をめぐる諸問題についての説明を行なう。																																																					
授業の一般目標 生涯学習と社会教育の関係を理解するとともに、わが国の社会教育の歴史をふまえて生涯学習社会における社会教育に関わる施設、職員の役割について理解する。また、その理解をもとに現代社会における社会教育に関心を持ち、その問題点について主体的に考えることができるようになる。																																																					
授業の到達目標																																																					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	1. 生涯学習、社会教育とは何か、さらに社会教育の歴史についての説明ができる。 2. 生涯学習社会における社会教育の課題を説明できる。																																																			
<input checked="" type="checkbox"/>	情意的領域	生涯学習社会および社会教育について関心と問題意識を持ち主体的に考えることができる。また自ら生涯をみすえての学習をすることができる。																																																			
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域																																																				
授業計画(全体) 本授業は社会教育主事任用資格取得のための導入的な授業である。下記の関連科目を履修するうえでどうしても理解しておくべき基本的事項を扱うので、その理解という点を重視して授業を行なう(よって、上記の認知的領域に重点を置く)。																																																					
授業計画(各回のテーマ等)																																																					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容																																																
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 社会教育主事任用資格の概要を説明したのち、本授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読して内容を理解する(30分)。			⑨	[テーマ] 生涯学習関連行政の仕組み [内容] 生涯学習振興のための行政の仕組みについて説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。																																																
②	[テーマ] 生涯学習とは何か [内容] 生涯学習という概念の意味について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。			⑩	[テーマ] 社会教育行政の役割と組織 [内容] 社会教育行政の果たすべき役割とその組織について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。																																																
③	[テーマ] 社会教育とは何か [内容] 生涯学習社会における社会教育という教育領域の位置づけについて説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。			⑪	[テーマ] 社会教育関係団体と社会教育行政 [内容] 社会教育関係団体の法的位置づけと実態および社会教育行政との関係について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。																																																
④	[テーマ] 近代日本の社会教育(1) [内容] 明治期の社会教育の基本的性格について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。			⑫	[テーマ] 生涯学習と社会教育施設 [内容] 生涯学習活動を支える社会教育施設についてその概要を説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。																																																
⑤	[テーマ] 近代日本の社会教育(2) [内容] 大正期および昭和戦前・戦中期の社会教育の基本的性格について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。			⑬	[テーマ] 生涯学習と社会教育職員 [内容] 生涯学習活動を支える社会教育職員についてその概要を説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。																																																
⑥	[テーマ] 戦後日本の社会教育 [内容] 戦後日本の社会教育の基本的性格について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。			⑭	[テーマ] 社会教育と家庭教育・学校教育 [内容] 社会教育と家庭教育および学校教育という三つの教育領域の関係について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。																																																
⑦	[テーマ] 生涯学習政策の展開 [内容] 1980年代からのわが国の生涯学習政策の展開について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。			⑮	[テーマ] 生涯学習と社会教育をめぐる諸問題 [内容] 生涯学習と社会教育についての近年の課題について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。																																																
⑧	[テーマ] 生涯学習の内容と方法 [内容] わが国で展開される生涯学習活動の内容と方法の具体的な状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。			⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業内容の理解度を確かめるために期末テストを行なう。 [授業外学習] テストに備えて授業内容全体の十分な復習をしておく(300分)。																																																
成績評価方法(方針) 上記の授業計画の項で述べたように、本授業は生涯学習、社会教育に関する基本的事項の理解という点に重点を置くので、期末試験により認知的領域を中心として成績評価を行なう。出席は評価割合に加えず欠格条件となる。試験の答えは講評とともに返却する。																																																					
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="5">成績評価方法(詳細)</th> <th colspan="1">履修上の注意(受講学生に望むこと)</th> </tr> <tr> <th>成績評価方法</th> <th>到達目標</th> <th>認知的領域</th> <th>情意的領域</th> <th>技能表現的領域</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期試験</td> <td></td> <td>◎</td> <td>○</td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価対象外</td> </tr> <tr> <td>授業外レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価対象外</td> </tr> <tr> <td>演習・実技</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価対象外</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>減点あり</td> </tr> <tr> <td>出席</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>欠格条件</td> </tr> </tbody> </table>						成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	定期試験		◎	○		100%	授業内レポート					評価対象外	授業外レポート					評価対象外	演習・実技					評価対象外	授業態度					減点あり	出席					欠格条件
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)																																																
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)																																																
定期試験		◎	○		100%																																																
授業内レポート					評価対象外																																																
授業外レポート					評価対象外																																																
演習・実技					評価対象外																																																
授業態度					減点あり																																																
出席					欠格条件																																																
・大学設置基準では授業外の学修を単位認定の条件としている。成績評価はこのことを前提として行なうので、毎週の90分の授業参加だけでは単位の修得は不可能である。 ・2/3以上の出席がないと単位を修得することはできない(欠格条件)。 ・20分以上の遅刻は欠格とみなす。																																																					
関連科目	生涯学習概論B(2年)、教育社会学(2年)、社会教育計画A(3年)、社会教育演習A(3年)、社会教育計画B(4年)、社会教育演習B(4年)																																																				
教科書	教材はプリントして配付する。			参考書	特に指定しない。																																																
連絡先	坂根研究室A棟5階513																																																				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	生涯学習概論B			担当教員	坂根 治美
	Introduction to Lifelong Learning B (L.)				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
「生涯学習概論A」の内容をふまえて、大きく変動しつつある現代社会に生きる人間の生涯にわたる発達ということと関連づけながら、わが国の社会教育の各領域の直面する課題および関連する理論について概説する。また、各領域の社会教育活動の事例として、わが国の代表的社会教育施設である公民館における諸実践を紹介していく。					
授業の一般目標					
人間の発達・社会化に関する基本的事項、現代社会の特徴について理解するとともに、社会教育の各領域が直面する課題およびそれに関連する理論を理解する。また、その理解にもとづいて、社会教育の各領域の問題に関心をもち主体的に考えることができる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	人間の発達・社会化と現代社会の特徴の理解をふまえて、社会教育各領域の課題、関連する理論を理解する。			
■	情意的領域	社会教育に対する関心の幅を広げ、問題意識を高めるとともに社会教育の各領域の問題について主体的に考えることができる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、前半終了時と学期末にそこまでの授業内容についてのレポートを課し、授業内容の理解度を確認するとともに社会教育の各領域の問題について主体的に考察してもらう。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読して内容を理解する(30分)。			⑨	[テーマ] ジェンダーと社会教育(1) [内容] ジェンダーの問題に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
②	[テーマ] 家庭教育と社会教育(1) [内容] 家庭教育に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。			⑩	[テーマ] ジェンダーと社会教育(2) [内容] ジェンダーの問題と教育の関係をめぐる近年の状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
③	[テーマ] 家庭教育と社会教育(2) [内容] 家庭教育をめぐる近年の問題状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。			⑪	[テーマ] ジェンダーと社会教育(3) [内容] 前々回および前回の授業内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
④	[テーマ] 家庭教育と社会教育(3) [内容] 前々回および前回の授業内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。			⑫	[テーマ] 高齢化と社会教育(1) [内容] 高齢化の問題に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
⑤	[テーマ] 青少年問題と社会教育(1) [内容] 青少年の教育に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。			⑬	[テーマ] 高齢化と社会教育(2) [内容] 高齢化の問題と教育の関係をめぐる近年の状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
⑥	[テーマ] 青少年問題と社会教育(2) [内容] 青少年の教育をめぐる近年の問題状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。			⑭	[テーマ] 高齢化と社会教育(3) [内容] 前々回および前回の授業内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
⑦	[テーマ] 青少年問題と社会教育(3) [内容] 前々回および前回の授業内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。			⑮	[テーマ] 現代社会における社会教育 [内容] これまでの単元で扱った内容を総合的に検討し、現代社会における社会教育の課題について考察する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
⑧	[テーマ] レポート作成(1) [内容] ここまでの授業内容に関してレポートを作成する。 [授業外学習] レポート作成に向けて準備をしておく(120分)。			⑯	[テーマ] レポート作成(2) [内容] 授業内容全般に関してレポートを作成する。 [授業外学習] レポート作成に向けて準備をしておく(180分)。
成績評価方法(方針)					
前半終了時と学期末にレポートを課す(評価割合100%)。出席は評価割合に加え欠格条件となる。レポートは講評とともに返却する。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					評価対象外
授業内レポート	◎	◎			100%
授業外レポート					評価対象外
演習・実技					評価対象外
授業態度					減点あり
出席					欠格条件
関連科目	生涯学習概論A(1年)、教育社会学(2年)、社会教育計画A(3年)、社会教育演習A(3年)、社会教育計画B(4年)、社会教育演習B(4年)				
教科書	教材はプリントして配付する。			参考書	特に指定しない。
連絡先	坂根研究室A棟5階513				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	社会教育計画A Social Education Planning A(L.)			担当教員	針生 弘 / 郡山 孝幸
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
現代における社会教育計画の基本的なプロセス、並びに各種社会教育施設の基本的性格、運営の実際と課題について概説し、生涯学習体制のもとでの計画のあり方と生涯学習まちづくりの関連について紹介していく。					
授業の一般目標					
生涯学習のまちづくりとの関連における社会教育計画の作成ができるようになる。また、社会教育主事として各種社会教育施設の特徴を知り、計画作成、事業のあり方について思考する能力を身につける。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	社会教育計画を作成できる。			
■	情意的領域	社会教育主事として住民のニーズをとらえた計画作成に取り組めるようになる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
各授業のテーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるために生涯学習施設等の見学や地域住民との交流を行う。また授業の感想と課題を何回か授業内レポートとして提出させることで、理解度、到達度を確認する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介 授業の目標と進め方 成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを熟読し内容を理解する。			⑨	[テーマ] 社会教育施設計画(3) [内容] 博物館の役割について説明する。 [授業外学習] 博物館の役割について説明できるようにしておくこと。
②	[テーマ] 生涯学習社会における社会教育の役割 [内容] 生涯学習の概念および社会教育のあり方について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑩	[テーマ] 社会教育施設計画(4) [内容] 青少年教育施設の役割について説明する。(特に仙台市の自然の家の役割について学ぶ) [授業外学習] 青少年教育施設の役割について説明できるようにしておくこと。
③	[テーマ] 生涯学習振興と社会教育計画 [内容] 生涯学習振興と社会教育計画の関連について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑪	[テーマ] 社会教育施設計画(5) [内容] 青少年教育施設の事業と計画について説明する。(特に宮城県内の自然の家の役割について学ぶ) [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。
④	[テーマ] 生涯学習の推進と社会教育計画(1) [内容] 市町村の事例(特に柴田町の事例)をもとに説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑫	[テーマ] 社会教育施設計画(6) [内容] 女性教育施設の役割について説明する。(特に男女共同参画社会のあり方を仙台市のエルソーラ仙台の事業を例に学ぶ) [授業外学習] 女性教育施設について説明できるようにしておくこと。
⑤	[テーマ] 生涯学習の推進と社会教育計画(2) [内容] 宮城県内の生涯学習の事例をもとに説明する。(仙台市及び県内他市町村の事例を紹介) [授業外学習] 授業の復習をし、事例について説明できるようにしておくこと。			⑬	[テーマ] 社会教育施設計画(7) [内容] 社会体育施設の役割について説明する。 [授業外学習] 社会体育施設について説明できるようにしておくこと。
⑥	[テーマ] 生涯学習時代における社会教育計画の作成 [内容] 社会教育計画作成の手順について生涯学習事業の様子を見学することにより学ぶ(移動学習) [授業外学習] 社会教育計画作成の手順について説明できるようにしておくこと。			⑭	[テーマ] 社会教育施設計画(8) [内容] 生涯学習センターの役割について説明する。(仙台市の生涯学習施設を見学しながら学ぶ) [授業外学習] 生涯学習センターについて説明できるようにしておくこと。
⑦	[テーマ] 社会教育施設計画(1) [内容] 公民館の役割について説明する。 [授業外学習] 公民館の役割について説明できるようにしておくこと。			⑮	[テーマ] 生涯学習時代における社会教育施設の役割と計画 [内容] 社会教育施設の現代的役割について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。
⑧	[テーマ] 社会教育施設計画(2) [内容] 図書館の役割について説明する。 [授業外学習] 図書館の役割について説明できるようにしておくこと。			⑯	[テーマ] テスト [内容] 学習の理解度、到達度確かめるために期末テストを行う。 [授業外学習] テストに備えて授業内容全体について復習をしておくこと。
成績評価方法(方針)					
試験は期末試験を1回実施する(評価割合50%)。また、授業内レポート(評価割合35%)と出席点(15%)を課す。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			50%
授業内レポート			◎		35%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席			◎		15%
<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度が悪い学生に対しては成績評価から減点する。 ・授業中は携帯電話をかばんの中に入しめること。 ・授業中の私語は慎み授業に集中すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は授業の進み方により多少前後することがある。 					
関連科目	「社会教育計画B」				
教科書	特に指定しない			参考書	社会教育法
連絡先	針生研究室・郡山研究室				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	社会教育計画B			担当教員	郡山 孝幸/針生 弘
	Social Education Planning B(L.)				
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要 「社会教育計画A」の内容を踏まえ、社会教育事業のあり方や、学校教育との連携をもとにした地域づくりについて具体例をもとに紹介する。					
授業の一般目標 社会教育事業の企画と実践の仕方を考えることができるようになる。また、学社連携の実際について具体的に思考できる能力を身につける。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	社会教育事業の企画と実践について考えることができる。			
■	情意的領域	社会教育事業の発展として学社連携を捉えることができるようになる。			
■	技能表現的領域	社会教育事業の広報活動の意義を理解できるようになる。			
授業計画(全体) 各授業のテーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるために現地見学や地域住民との交流を行う。またこれまで生活をしてきた柴田町の行政や地域の特色を知るために、生涯学習に関する広報紙を作成するなどの活動を通し、主体的な取り組みを促す。理解度、到達度の確認のために授業後の感想と課題を授業内レポートとして提出させることがある。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介 授業の目標と進め方 成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを熟読し内容を理解する。			⑨	[テーマ] 社会教育事業の展開(8) [内容] 仙台市の生涯学習の概要について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。
②	[テーマ] 社会教育事業の展開(1) [内容] 社会教育事業の企画のあり方について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。			⑩	[テーマ] 社会教育事業の展開(9) [内容] 仙台市の生涯学習の概要について説明する。(特に高齢者教育について学ぶ) [授業外学習] 「高齢者教育」の実際について考えておくこと。
③	[テーマ] 社会教育事業の展開(2) [内容] 柴田町の生涯学習の事業について説明する。(主に行政機関による事業について) [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。			⑪	[テーマ] 社会教育事業の展開(10) [内容] 社会教育事業の計画を立てる。(仙台市内の生涯学習センターを見学する) [授業外学習] 「生涯学習センター」の実際について考えておくこと。
④	[テーマ] 社会教育事業の展開(3) [内容] 柴田町の生涯学習の事業について説明する。(主に民間による事業推進について) [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。			⑫	[テーマ] 学校教育と社会教育の連携・融合(1) [内容] 学社連携・融合の事業計画をもとに具体的に説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。
⑤	[テーマ] 社会教育事業の展開(4) [内容] 柴田町の生涯学習事業について現地で学ぶ(柴田町内生涯学習センター等を見学する) [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。			⑬	[テーマ] 学校教育と社会教育の連携・融合(2) [内容] 学校支援地域本部、コミュニティスクールの役割等について具体的に説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。
⑥	[テーマ] 社会教育事業の展開(5) [内容] 柴田町の生涯学習事業について現地で学ぶ(柴田町内各地域における生涯学習の取り組みを見学する) [授業外学習] 柴田町の生涯学習について幅広く知識を得ること。			⑭	[テーマ] 学校教育と社会教育の連携・融合(3) [内容] 宮城県内の学社連携・融合の事業推進について現地で学ぶ(各小学校における学校支援地域本部を見学する) [授業外学習] 「学校支援地域本部」の実際について考えておくこと。
⑦	[テーマ] 社会教育事業の展開(6) [内容] 柴田町の生涯学習や観光資源について調査を行う。(広報紙作成のための計画を立案する) [授業外学習] 柴田町の生涯学習について幅広く知識を得ること。			⑮	[テーマ] 社会教育主事の役割 [内容] 生涯学習時代における社会教育主事の役割について説明する。 [授業外学習] 社会教育主事の役割について説明できるようにしておくこと。
⑧	[テーマ] 社会教育事業の展開(7) [内容] 柴田町の生涯学習や観光資源について調査を行う。(広報紙の編集・印刷を行う) [授業外学習] 柴田町の生涯学習について幅広く知識を得ること。			⑯	[テーマ] テスト [内容] 学習の理解度、到達度確かめるために期末テストを行う。 [授業外学習] テストに備えて授業内容全体について復習をしておくこと。
成績評価方法(方針) 試験は期末試験を1回実施する(評価割合40%)。また、授業内レポート(評価割合40%)と出席点(20%)を課す。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			40%
授業内レポート			◎		40%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席			◎		20%
・授業態度が悪い学生に対しては成績評価から減点する。 ・授業中は携帯電話をかばんの中に入れておくこと。 ・授業中の私語は慎み授業に集中すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は授業の進み方により多少前後することがある。					
関連科目	「社会教育計画A」				
教科書	特に指定しない			参考書	社会教育法
連絡先	郡山研究室・針生研究室				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		社会教育演習A Seminar on Social Education A(S.)			担当教員	坂根 治美
開講内容	学年・学期	3・半年期	授業方法	演習	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
本授業では、下記関連科目の授業内容をふまえて次の二つのテーマで演習を行なう。1. わが国の生涯学習、社会教育を考えるうえで比較の対象とすべきいくつかの国をとりあげて、それぞれの国の生涯学習の特質をその社会状況と関連させながら考察する。2. 諸外国との比較の視点を取り入れながら、わが国の生涯学習、社会教育のあり方について考察する。						
授業の一般目標						
(1) 授業でとりあげるいくつかの国の生涯学習の基本的状況について理解する。 (2) 上記の国々の生涯学習の基本的状況に関心を持ち、その特質について社会状況と関連させながら主体的に考えることができる。 (3) 上記の国々の生涯学習の基本的状況と比較しながら、わが国の生涯学習、社会教育について主体的に考えることができる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	授業でとりあげるいくつかの国の生涯学習の基本的状況について説明できる。				
■	情意的領域	授業でとりあげるいくつかの国およびわが国の生涯学習や社会教育に関心を持ち、その問題について主体的に考えることができる。				
■	技能表現的領域	上記の考察の結果を論理的に発表原稿にまとめ発表することができる。				
授業計画(全体)						
オリエンテーションのあと、演習を進めるにあたって理解しておくべき基本的事項についての情報の提供を数回、講義形式で行なう。その内容の理解をふまえて教材となる論文を読み、受講生が発表、コメントをするかたちで演習形式で授業を展開する。毎回、演習の成果を小レポートにまとめてもらい、さらに学期末には試験の代わりとして授業全体のまとめのレポートを提出してもらう。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読して内容を理解する(30分)。				⑨	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(1) [内容] 外国人居住者の問題を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
②	[テーマ] 基本的事項の講義(1) [内容] 授業を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「ユネスコと生涯教育」)を行なう。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。				⑩	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(2) [内容] 非識字問題を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
③	[テーマ] 基本的事項の講義(2) [内容] 授業を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「OECDのリカレント教育」)を行なう。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。				⑪	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(3) [内容] 青少年問題を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
④	[テーマ] 基本的事項の講義(3) [内容] 授業を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「ユネスコの学習権宣言」)を行なう。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。				⑫	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(4) [内容] ジェンダーの問題(特に女性の問題)を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
⑤	[テーマ] 諸外国の生涯学習を扱った論文講読(1) [内容] 発展途上国(アフリカ)を対象とする論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。				⑬	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(5) [内容] ジェンダーの問題(特に男性の問題)を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
⑥	[テーマ] 諸外国の生涯学習を扱った論文講読(2) [内容] 発展途上国(アジア)を対象とする論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。				⑭	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(6) [内容] 高齢者問題を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
⑦	[テーマ] 諸外国の生涯学習を扱った論文講読(3) [内容] 先進国(ヨーロッパ)を対象とする論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。				⑮	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(7) [内容] 社会教育施設に関する問題を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
⑧	[テーマ] 諸外国の生涯学習を扱った論文講読(4) [内容] 先進国(アメリカ)を対象とする論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。				⑯	[テーマ] レポート作成 [内容] 授業全体のまとめとして期末のレポートを書く。 [授業外学習] レポート作成に向けて授業全体の復習をしておく(90分)。
成績評価方法(方針)						
演習形式で行なう授業においては毎回発表者とコメントーターを割り当てるが、その発表の内容、コメントの内容(以上評価割合40%)、毎回全員が書く小レポートの内容(評価割合40%)および期末のまとめのレポートの内容(評価割合20%)により評価する。出席は評価割合に加えず欠格条件となる。発表・コメントについては授業中に講評し、まとめのレポートについては講評とともに返却する。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・演習であるので毎回の授業に向けての自主学習がきわめて重要である。毎週の90分の授業参加だけでは単位の修得は不可能である。 ・2/3以上の出席がないと単位を修得することはできない(欠格条件)。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
定期試験					評価対象外	
授業内レポート	◎	◎	◎		60%	
授業外レポート					評価対象外	
演習・実技	◎	◎	◎		40%	
授業態度					減点あり	
出席					欠格条件	
関連科目	生涯学習概論A(1年)、生涯学習概論B(2年)、教育社会学(2年)、社会教育計画A(3年)、社会教育計画B(4年)、社会教育演習B(4年)					
教科書	教材はプリントして配付する。				参考書	特に指定しない。
連絡先	坂根研究室A棟5階513					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	社会教育演習B			担当教員	坂根 治美	
	Seminar on Social Education B(S.)					
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	演習	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数			
授業の概要						
<p>本授業では、下記関連科目の授業内容をふまえて次の二つのテーマで演習を行なう。</p> <p>1. 「地域社会と教育」をテーマとする論文の講読をとおして、この問題について具体的に考察する。</p> <p>2. 「学社融合」をテーマとする論文の講読をとおして、この問題について具体的に考察する。</p>						
授業の一般目標						
<p>(1) 「地域社会と教育」に関する基本的事項について説明できる。</p> <p>(2) 「学社融合」に関する基本的事項について説明できる。</p> <p>(3) 上記の分野に関連する論文の講読をとおして、こうした問題について主体的に考察できる。</p>						
授業の到達目標						
■	認知的領域	「地域社会と教育」、「学社融合」に関する基本的事項について説明できる。				
■	情意的領域	上記の分野に関連する論文の講読をとおして、こうした問題について主体的に考察できる。				
■	技能表現的領域	上記の考察の結果を論理的に発表原稿にまとめ発表することができる。				
授業計画(全体)						
<p>演習を進めるにあたって理解しておくべき基本的事項についての情報の提供を数回、講義形式で行なう。その内容の理解をふまえて教材となる論文を読み、受講生が発表、コメントをするかたちで演習形式で授業を展開する。毎回、演習の成果を小レポートにまとめてもらい、さらに学期末には試験の代わりとして授業全体のまとめのレポートを提出してもらおう。</p>						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	<p>[テーマ] オリエンテーション</p> <p>[内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。</p> <p>[授業外学習] シラバスを熟読して内容を理解する(30分)。</p>			⑨	<p>[テーマ] 基本的事項の講義(3)</p> <p>[内容] 授業を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「学社連携と学社融合」)を行なう。</p> <p>[授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。</p>	
②	<p>[テーマ] 基本的事項の講義(1)</p> <p>[内容] 授業を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「地域社会の社会学」)を行なう。</p> <p>[授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。</p>			⑩	<p>[テーマ] 基本的事項の講義(4)</p> <p>[内容] 授業を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「学社融合と社会教育施設」)を行なう。</p> <p>[授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。</p>	
③	<p>[テーマ] 基本的事項の講義(2)</p> <p>[内容] 授業を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「地域社会と教育」)を行なう。</p> <p>[授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。</p>			⑪	<p>[テーマ] 「学社融合」をテーマとする論文講読(1)</p> <p>[内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。</p> <p>[授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。</p>	
④	<p>[テーマ] 「地域社会と教育」をテーマとする論文講読(1)</p> <p>[内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。</p> <p>[授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。</p>			⑫	<p>[テーマ] 「学社融合」をテーマとする論文講読(2)</p> <p>[内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。</p> <p>[授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。</p>	
⑤	<p>[テーマ] 「地域社会と教育」をテーマとする論文講読(2)</p> <p>[内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。</p> <p>[授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。</p>			⑬	<p>[テーマ] 「学社融合」をテーマとする論文講読(3)</p> <p>[内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。</p> <p>[授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。</p>	
⑥	<p>[テーマ] 「地域社会と教育」をテーマとする論文講読(3)</p> <p>[内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。</p> <p>[授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。</p>			⑭	<p>[テーマ] 「学社融合」をテーマとする論文講読(4)</p> <p>[内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。</p> <p>[授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。</p>	
⑦	<p>[テーマ] 「地域社会と教育」をテーマとする論文講読(4)</p> <p>[内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。</p> <p>[授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。</p>			⑮	<p>[テーマ] 「学社融合」をテーマとする論文講読(5)</p> <p>[内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。</p> <p>[授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。</p>	
⑧	<p>[テーマ] 「地域社会と教育」をテーマとする論文講読(5)</p> <p>[内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。</p> <p>[授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。</p>			⑯	<p>[テーマ] レポート作成</p> <p>[内容] 授業全体のまとめとして期末のレポートを書く。</p> <p>[授業外学習] レポート作成に向けて授業全体の復習をしておく(90分)。</p>	
成績評価方法(方針)						
<p>演習形式で行なう授業においては毎回発表者とコメントターを割り当てるが、その発表の内容、コメントの内容(以上評価割合40%)、毎回全員が書く小レポートの内容(評価割合40%)および期末のまとめのレポートの内容(評価割合20%)により評価する。出席は評価割合に加えず欠格条件となる。発表・コメントについては授業中に講評し、まとめのレポートについては講評とともに返却する。</p>						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<p>・演習であるので毎回の授業に向けての自主学習がきわめて重要である。毎週の90分の授業参加だけでは単位の修得は不可能である。</p> <p>・2/3以上の出席がないと単位を修得することはできない(欠格条件)。</p> <p>・20分以上の遅刻は欠席とみなす。</p>
定期試験					評価委対象外	
授業内レポート	◎	◎	◎		60%	
授業外レポート					評価対象外	
演習・実技	◎	◎	◎		40%	
授業態度					減点あり	
出席					欠格条件	
関連科目	生涯学習概論A(1年)、生涯学習概論B(2年)、教育社会学(2年)、社会教育計画A(3年)、社会教育演習A(3年)、社会教育計画B(4年)					
教科書	教材はプリントして配付する。			参考書	特に指定しない。	
連絡先	坂根研究室A棟5階513					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		教育社会学 Sociology of Education (L.)			担当教員	坂根 治美
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	社会教育主任任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
現代社会が直面する各分野の問題および関連する教育の課題について教育社会学の理論の紹介を交えながら概説する。また、各領域の教育活動の事例として特に社会教育施設における諸実践を紹介して、現代社会における社会教育の課題について説明する。						
授業の一般目標						
(1) 現代社会が直面する各分野の問題および関連する教育の課題について理解するとともに、こうした問題についての教育社会学の理論を理解する。 (2) 上記の諸問題についての関心を持ち、授業内容をふまえて現代社会における社会教育について主体的に考察することができる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	現代社会が直面する各分野の問題および関連する教育の課題を理解するとともに、こうした問題についての教育社会学の理論を理解する。				
■	情意的領域	上記の諸問題についての関心を持ち、授業内容をふまえて現代社会における社会教育について主体的に考察することができる。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心である。各単元ごとに基本的事項の解説、近年の具体的な状況の説明をし、それをふまえて社会教育施設における実践活動について紹介・検討することで社会教育の各領域の問題についての受講生の主体的考察につなげる。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読して内容を理解する(30分)。			⑨	[テーマ] 平和・人権問題と教育(4) [内容] (1)～(3)の内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	
②	[テーマ] グローバリゼーションと教育(1) [内容] グローバリゼーションと教育の関係に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。			⑩	[テーマ] 環境・開発問題と教育(1) [内容] 環境・開発問題と教育の関係に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	
③	[テーマ] グローバリゼーションと教育(2) [内容] グローバリゼーションと教育の関係に関する基本的事項について説明する(承前)。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。			⑪	[テーマ] 環境・開発問題と教育(2) [内容] 環境・開発問題と教育の関係に関する基本的事項について説明する(承前)。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	
④	[テーマ] グローバリゼーションと教育(3) [内容] グローバリゼーションと教育の関係をめぐる近年の状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。			⑫	[テーマ] 環境・開発問題と教育(3) [内容] 環境・開発問題と教育の関係をめぐる近年の状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	
⑤	[テーマ] グローバリゼーションと教育(4) [内容] (1)～(3)の内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。			⑬	[テーマ] 環境・開発問題と教育(4) [内容] (1)～(3)の内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	
⑥	[テーマ] 平和・人権問題と教育(1) [内容] 平和・人権問題と教育の関係に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。			⑭	[テーマ] 現代社会における社会教育(1) [内容] ここまで扱った現代社会の諸相と社会教育の関係を総合的に説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	
⑦	[テーマ] 平和・人権問題と教育(2) [内容] 平和・人権問題と教育の関係に関する基本的事項について説明する(承前)。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。			⑮	[テーマ] 現代社会における社会教育(2) [内容] さまざまな問題を抱える現代社会における社会教育の役割について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	
⑧	[テーマ] 平和・人権問題と教育(3) [内容] 平和・人権問題と教育の関係をめぐる近年の状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。			⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業内容の理解度を確かめるために期末テストを行なう。 [授業外学習] テストに備え授業内容全体の十分な復習をしておく(300分)。	
成績評価方法(方針)						
学期末に授業内容全体の理解度を確かめるためのテストを実施し、その結果で成績評価を行なう。出席は評価割合に加え、欠格条件となる。試験の答えは講評とともに返却する。						
成績評価方法(詳細)						
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)	
定期試験	◎	◎		100%	・大学設置基準では授業外の学修を単位認定の条件としている。成績評価はこのことを前提として行なうので、毎週の90分の授業参加だけでは単位の修得は不可能である。 ・2/3以上の出席がないと単位を修得することはできない(欠格条件)。 ・20分以上の遅刻は欠格とみなす。	
授業内レポート				評価対象外		
授業外レポート				評価対象外		
演習・実技				評価対象外		
授業態度				減点あり		
出席				欠格条件		
関連科目	生涯学習概論A(1年)、生涯学習概論B(2年)、社会教育計画A(3年)、社会教育演習A(3年)、社会教育計画B(4年)、社会教育演習B(4年)					
教科書	教材はプリントして配付する。			参考書	特に指定しない。	
連絡先	坂根研究室A棟5階513					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ボランティア活動実践A			担当教員	高崎 義輝
	Voluntary Activity Practice A				
開講内容	学年・学期	1・通年	授業方法	実習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。					
授業の一般目標					
社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。			
■	情意的領域	自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。			
■	技能表現的領域	ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。			
授業計画(全体)					
ボランティア活動を実施するためのボランティア登録、ボランティア保険への加入、ボランティア講座の受講について説明する。その後、年間を通じたボランティア活動を実施する。終了後に、レポートを提出し、ボランティア活動の意義や到達度を確認し、ボランティア活動の内容と併せ、実習単位の1単位分として評価し認定する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
【ボランティア活動の意義と実践】					
1, ボランティア活動を実践するための手続きについて					
①ボランティア登録(ボランティアセンターに申し込む)					
②ボランティア保険への加入					
③ボランティア講座の受講 (「ボランティアとは」「ボランティアをする前に」「活動上の留意事項」「活動紹介」「ボランティアセンターとコーディネーター」等について説明する。)					
2, ボランティア活動実践					
①学内における障害を持つ学生の支援					
②地域における高齢者、障害児・者支援					
③学校教育現場での部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等					
④海外への物的支援等への参加					
3, 活動中、活動後のルールについて					
4, 単位認定と報告(活動後のまとめとレポート)					
注意事項					
このボランティア活動実践Aは、第1学年に在籍する学生のみを対象とする。A~Dの中から複数の受講登録は認めない。対象学年の学生のみとする。					
成績評価方法(方針)					
この授業科目は、学内外を中心とする障害者・高齢者等の健康支援や福祉支援、小中高での学習支援や諸活動支援、また地域における各種のスポーツ・レクリエーション支援など多岐にわたるボランティア活動を行う。活動に伴うセンター登録、事前研修講義、ボランティア保険の加入、規定回数(時間)の完全実施、活動後のまとめとレポート等の提出を中心に成績評価を行う。一連の実践活動を完遂して評価「認定」を認める。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初から計画的な実践を目指すこと。 ・ボランティア登録、保険(¥300/年)の加入、講座の受講は必須事項である。 ・対象学年以外の実習登録は認めない。 ・一年を通じた活動なので、活動のバランスなど計画的に行うこと。 ・ボランティア実施上のルールを守ること。
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート	○	○	◎	50%	
演習・実技	◎	◎	◎	50%	
授業態度					
出席	◎	◎	◎		
関連科目					
教科書				参考書	
連絡先	高崎研究室				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ボランティア活動実践B				担当教員	高崎 義輝
	Voluntary Activity Practice B					
開講内容	学年・学期	2・通年	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		
授業の概要						
ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。						
授業の一般目標						
社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。				
■	情意的領域	自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。				
■	技能表現的領域	ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。				
授業計画(全体)						
ボランティア活動を実施するためのボランティア登録、ボランティア保険への加入、ボランティア講座の受講について説明する。その後、年間を通したボランティア活動を実施する。終了後に、レポートを提出し、ボランティア活動の意義や到達度を確認し、ボランティア活動の内容と併せ、実習単位の1単位分として評価し認定する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
【ボランティア活動の意義と実践】						
1, ボランティア活動を実践するための手続きについて						
①ボランティア登録(ボランティアセンターに申し込む)						
②ボランティア保険への加入						
③ボランティア講座の受講 (「ボランティアとは」「ボランティアをする前に」「活動上の留意事項」「活動紹介」「ボランティアセンターとコーディネーター」等について説明する。)						
2, ボランティア活動実践						
①学内における障害を持つ学生の支援						
②地域における高齢者、障害児・者支援						
③学校教育現場での部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等						
④海外への物的支援等への参加						
3, 活動中、活動後のルールについて						
4, 単位認定と報告(活動後のまとめとレポート)						
注意事項 このボランティア活動実践Bは、第2学年に在籍する学生のみを対象とする。A～Dの中から複数の受講登録は認めない。対象学年の学生のみとする。						
成績評価方法(方針)						
この授業科目は、学内外を中心とする障害者・高齢者等の健康支援や福祉支援、小中高での学習支援や諸活動支援、また地域における各種のスポーツ・レクリエーション支援など多岐にわたるボランティア活動を行う。活動に伴うセンター登録、事前研修講義、ボランティア保険の加入、規定回数(時間)の完全実施、活動後のまとめとレポート等の提出を中心に成績評価を行う。一連の実践活動を完遂して評価「認定」を認める。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初から計画的な実践を目指すこと。 ・ボランティア登録、保険(¥300/年)の加入、講座の受講は必須事項である。 ・対象学年以外の実習登録は認めない。 ・一年を通した活動なので、活動のバランスなど計画的に行うこと。 ・ボランティア実施上のルールを守ること。
定期試験						
授業内レポート						
授業外レポート	○	○	◎		50%	
演習・実技	◎	◎	◎		50%	
授業態度						
出席	◎	◎	◎			
関連科目						
教科書					参考書	
連絡先	高崎研究室					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ボランティア活動実践C				担当教員	高崎 義輝
	Voluntary Activity Practice C					
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		
授業の概要						
ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。						
授業の一般目標						
社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。				
■	情意的領域	自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。				
■	技能表現的領域	ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。				
授業計画(全体)						
ボランティア活動を実施するためのボランティア登録、ボランティア保険への加入、ボランティア講座の受講について説明する。その後、年間を通じたボランティア活動を実施する。終了後に、レポートを提出し、ボランティア活動の意義や到達度を確認し、ボランティア活動の内容と併せ、実習単位の1単位分として評価し認定する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
【ボランティア活動の意義と実践】						
1, ボランティア活動を実践するための手続きについて						
①ボランティア登録(ボランティアセンターに申し込む)						
②ボランティア保険への加入						
③ボランティア講座の受講 (「ボランティアとは」「ボランティアをする前に」「活動上の留意事項」「活動紹介」「ボランティアセンターとコーディネーター」等について説明する。)						
2, ボランティア活動実践						
①学内における障害を持つ学生の支援						
②地域における高齢者、障害児・者支援						
③学校教育現場での部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等						
④海外への物的支援等への参加						
3, 活動中、活動後のルールについて						
4, 単位認定と報告(活動後のまとめとレポート)						
注意事項 このボランティア活動実践Cは、第3学年に在籍する学生のみを対象とする。A～Dの中から複数の受講登録は認めない。対象学年の学生のみとする。						
成績評価方法(方針)						
この授業科目は、学内外を中心とする障害者・高齢者等の健康支援や福祉支援、小中高での学習支援や諸活動支援、また地域における各種のスポーツ・レクリエーション支援など多岐にわたるボランティア活動を行う。活動に伴うセンター登録、事前研修講義、ボランティア保険の加入、規定回数(時間)の完全実施、活動後のまとめとレポート等の提出を中心に成績評価を行う。一連の実践活動を完遂して評価「認定」を認める。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初から計画的な実践を目指すこと。 ・ボランティア登録、保険(¥300/年)の加入、講座の受講は必須事項である。 ・対象学年以外の実習登録は認めない。 ・一年を通じた活動なので、活動のバランスなど計画的に行うこと。 ・ボランティア実施上のルールを守ること。
定期試験						
授業内レポート						
授業外レポート	○	○	◎		50%	
演習・実技	◎	◎	◎		50%	
授業態度						
出席	◎	◎	◎			
関連科目						
教科書					参考書	
連絡先	高崎研究室					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ボランティア活動実践D			担当教員	高崎 義輝
	Voluntary Activity Practice D				
開講内容	学年・学期	4・通年	授業方法	実習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。					
授業の一般目標					
社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。			
■	情意的領域	自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。			
■	技能表現的領域	ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。			
授業計画(全体)					
ボランティア活動を実施するためのボランティア登録、ボランティア保険への加入、ボランティア講座の受講について説明する。その後、年間を通じたボランティア活動を実施する。終了後に、レポートを提出し、ボランティア活動の意義や到達度を確認し、ボランティア活動の内容と併せ、実習単位の1単位分として評価し認定する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
【ボランティア活動の意義と実践】					
1, ボランティア活動を実践するための手続きについて					
①ボランティア登録(ボランティアセンターに申し込む)					
②ボランティア保険への加入					
③ボランティア講座の受講 (「ボランティアとは」「ボランティアをする前に」「活動上の留意事項」「活動紹介」「ボランティアセンターとコーディネーター」等について説明する。)					
2, ボランティア活動実践					
①学内における障害を持つ学生の支援					
②地域における高齢者、障害児・者支援					
③学校教育現場での部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等					
④海外への物的支援等への参加					
3, 活動中、活動後のルールについて					
4, 単位認定と報告(活動後のまとめとレポート)					
注意事項 このボランティア活動実践Dは、第4学年に在籍する学生のみを対象とする。A～Dの中から複数の受講登録は認めない。対象学年の学生のみとする。					
成績評価方法(方針)					
この授業科目は、学内外を中心とする障害者・高齢者等の健康支援や福祉支援、小中高での学習支援や諸活動支援、また地域における各種のスポーツ・レクリエーション支援など多岐にわたるボランティア活動を行う。活動に伴うセンター登録、事前研修講義、ボランティア保険の加入、規定回数(時間)の完全実施、活動後のまとめとレポート等の提出を中心に成績評価を行う。一連の実践活動を完遂して評価「認定」を認める。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初から計画的な実践を目指すこと。 ・ボランティア登録、保険(¥300/年)の加入、講座の受講は必須事項である。 ・対象学年以外の実習登録は認めない。 ・一年を通じた活動なので、活動のバランスなど計画的に行うこと。 ・ボランティア実施上のルールを守ること。
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート	○	○	◎	50%	
演習・実技	◎	◎	◎	50%	
授業態度					
出席	◎	◎	◎		
関連科目					
教科書				参考書	
連絡先	高崎研究室				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	北米のプロスポーツ事情 Pro Sports in North America			担当教員	マーティ・キーナート/ Marty Kuehnert
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
世界の何処をみわたしても、北米のスポーツカルチャーのような文化は存在しない。スポーツはもはや北米の多くの人々にとっては“病みつき”といっているほどのものである。スポーツビジネスを勉強する際、北米の事情を知らなければ始まらないのも事実である。さまざまな事が日本のスポーツ産業界にとっても学べる事は多い、と同時に学生はその異常なまでの極端さも考えて欲しい。最新の北米スポーツ事情とスポーツを検証し考える。					
授業の一般目標					
学生は、北米における主なメジャースポーツの現在の事情を検証し、理解し、そしてその課題点について考える。最大のスポーツビジネス王国である北米においてそのビジネスの仕組み、現状と課題点を学ぶ。期末レポートでは、各自選択したテーマにおいて、自分で調査・研究した内容と共に自分の視点を述べる。					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	北米のプロスポーツとそのビジネスの仕組み、現状、問題点を最新の各事例を通して学ぶ。			
<input checked="" type="checkbox"/>	情意的領域	北米のプロスポーツとそのビジネスの仕組み、現状、問題点を最新の各事例を通して学ぶ。			
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
各授業テーマに沿った資料、視聴覚教材を基に、北米のプロスポーツ業界の歴史、構造、現状、問題点を解説する。期末には、学生各自が選んだ課題のレポートを提出、各自が研究した内容と共に自分の視点を述べる事により、各スポーツの現状と課題点を考え、まとめる。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の内容、目的と進め方、北米のプロ・スポーツの巨大さとその内容の紹介 [授業外学習] 次回内容のMLBについて、調査してくる事。			⑨	[テーマ] NHL(ナショナルアイスホッケーリーグ)について [内容] 1918年からのプロ・ホッケーリーグとしての歴史、組織・収益構造等 レポートB:期末レポートアウトライン提出 [授業外学習]
②	[テーマ] MLB(メジャー・リーグ・ベースボール)について I [内容] 1869年からのプロ・ベースボールとしての歴史、その変遷と内容 [授業外学習] 次回内容のMLBについて、調査してくる事。			⑩	[テーマ] MLS(メジャーリーグ・サッカー)について [内容] 1967年からのプロ・サッカーリーグとしての歴史、変遷、各国の事情 [授業外学習] 次回内容のTV放送について、調査してくる事
③	[テーマ] MLB(メジャー・リーグ・ベースボール)について II [内容] 現在の強・弱点、その組織・収益構造、問題点等 [授業外学習] 期末レポートの題目次週提出の準備			⑪	[テーマ] TV放映と放映権について [内容] プロスポーツの重要な収入源であるTV放映権の仕組みと内容 [授業外学習] 次回内容のスタジアムについて、調査してくる事。
④	[テーマ] マイナーリーグ プロベースボールについて [内容] MLBの強みは1901年に始まるマイナーリーグの組織構造、実情と役割等レポートA: 期末レポート課題題目提出 [授業外学習] 期末レポートの題目次週提出の準備			⑫	[テーマ] スタジアムについて [内容] 成功するスポーツフランチャイズの条件としてスタジアムその実例と条件 [授業外学習] 今週のフレーズとセンテンスを習得
⑤	[テーマ] NFL(ナショナルアメリカンフットボールリーグ)について I [内容] 1922年からのプロ・フットボールリーグとしての歴史、その変遷と内容 [授業外学習]			⑬	[テーマ] アマチュアスポーツについて [内容] 北米におけるカレッジスポーツはすでにプロ化している。その現状と問題点。 [授業外学習] 次回内容のエージェントについて、調査してくる事
⑥	[テーマ] NFL(ナショナルアメリカンフットボールリーグ)について II [内容] 現在の強・弱点、その組織・収益構造、問題点等 [授業外学習] 次回内容のNBAについて、調査してくる事。			⑭	[テーマ] エージェント [内容] エージェントの役割と仕組み、北米と日本スポーツの現状と事情 [授業外学習] レポートC: 期末レポート提出 / 質疑応答とまとめ
⑦	[テーマ] NBA(ナショナルバスケットボールリーグ)について I [内容] 1947年からのプロ・フットボールリーグとしての歴史、その変遷と内容 [授業外学習]			⑮	[テーマ] ドラッグ [内容] プロスポーツ界全体、そしてオリンピックにおけるドラッグの現状、問題点。 [授業外学習] 質疑応答の内容を考えてくる事
⑧	[テーマ] NBA(ナショナルバスケットボールリーグ)について II [内容] 現在の強・弱点、その組織・収益構造、問題点等 [授業外学習] 期末レポートのアウトラインを、次週提出の準備			⑯	[テーマ] 質疑応答/ 期末アンケート [内容] 質疑応答、レポートおよび授業についてのディスカッション
成績評価方法(方針)					
出席率30%、小テスト授業内レポートで20%、期末レポート50%					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> 講義受講人数は80人に限定。 それ以上の受講希望者がいた場合は、抽選にて選考。 16回講義中、正当な理由なしに5回以上欠席は、単位修得不可。 20分以上の遅刻は欠席扱い。居眠りお喋り携帯使用厳禁 3回目以上注意者は退室。 自分でリサーチし自分の視点を述べた期末レポートを重視します。 期末レポート不提出は、単位修得不可。 講義の進行具合によって、授業計画は多少変更します。
定期試験					
授業内レポート	◎	◎		50%	
授業外レポート	◎	◎		20%	
演習・実技					
授業態度	○	○			
出席	○			30%	
関連科目					
教科書	教科書は使用しない。その都度プリント配布。			参考書	特になし。授業内で指示
連絡先	mpk@gol.com				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	海外短期研修A			担当教員	国際交流センター長
	Brief Seminar Abroad A				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
<p>本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。 なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。</p>					
授業の一般目標					
<p>本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。 海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。 報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。</p>					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。				
■ 情意的領域	海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。				
■ 技能表現的領域	報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。				
授業計画(全体)					
<p>研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。</p>					
授業テーマとその内容					
<p>目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。 各研修は日程にあわせ適宜学内説明会を実施するので、本科目の履修(参加)希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。</p> <p>アメリカ合衆国 ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 ビギナーコース ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 アドバンスコース ハワイ大学 短期英語研修プログラム カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 日米スポーツ科学事情比較セミナー デンマーク リレベルト大学他 デンマーク国における健康教育プログラム フィンランド カヤニ応用科学大学 スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム 台湾 台東大学 国際交流協定校短期交換留学 タイ シーナカリンウィロート大学 スポーツ・異文化交流プログラム ベトナム ハノイ大学 福祉・リハビリ・異文化交流留学研修 中国 瀋陽師範大学 中国武術・文化研修派遣プログラム 韓国 龍仁大学 韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム ニュージーランド カンタベリー大学 被災地復興・スポーツ文化交流プログラム</p> <p>なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。</p> <p>単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。 単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。 学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修(4科目4単位)までとする。 この科目の登録は参加学生が行う必要はない。</p>					
成績評価方法(方針)					
<p>参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。</p>					
成績評価方法(詳細)					
到達目標					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> 研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと 研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること 本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。 4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修(4科目4単位)までとする。 日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。
定期試験					
授業内レポート	○		○	10%	
授業外レポート	○		○	10%	
演習・実技		○	○	30%	
授業態度		○		50%	
出席				欠格条件	
関連科目	海外短期研修B・C・D				
教科書	各研修の担当者が指示する			参考書	各研修の担当者が指示する
連絡先	事業戦略室 (A棟1F) または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	海外短期研修B			担当教員	国際交流センター長
	Brief Seminar Abroad B				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
<p>本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。 なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。</p>					
授業の一般目標					
<p>本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。 海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。 報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。</p>					
授業の到達目標					
■	認知的領域	本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。			
■	情意的領域	海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。			
■	技能表現的領域	報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。			
授業計画(全体)					
<p>研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。</p>					
授業テーマとその内容					
<p>目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。 各研修は学内説明会を実施するので、本科目の履修(参加)希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。</p> <p>アメリカ合衆国 ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 ビギナーコース ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 アドバンスコース ハワイ大学 短期英語研修プログラム カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 日米スポーツ科学事情比較セミナー デンマーク リレベルト大学他 デンマーク国における健康教育プログラム フィンランド カヤニ応用科学大学 スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム 台湾 台東大学 国際交流協定校短期交換留学 タイ シーナカリンウィロート大学 スポーツ・異文化交流プログラム ベトナム ハノイ大学 福祉・リハビリ・異文化交流留学研修 中国 瀋陽師範大学 中国武術・文化研修派遣プログラム 韓国 龍仁大学 韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム ニュージーランド カンタベリー大学 被災地復興・スポーツ文化交流プログラム</p> <p>なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。</p> <p>単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。 単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。 学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修(4科目4単位)までとする。 この科目の登録は参加学生が行う必要はない。</p>					
成績評価方法(方針)					
<p>参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。</p>					
成績評価方法(詳細)					
到達目標					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> 研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと 研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること 本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。 4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修(4科目4単位)までとする。 日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。
定期試験					
授業内レポート	○		○	10%	
授業外レポート	○		○	10%	
演習・実技		○	○	30%	
授業態度		○		50%	
出席				欠格条件	
関連科目	海外短期研修A・C・D				
教科書	各研修の担当者が指示する			参考書	各研修の担当者が指示する
連絡先	事業戦略室 (A棟1F) または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	海外短期研修C			担当教員	国際交流センター長	
	Brief Seminar Abroad C					
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		
授業の概要						
<p>本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。 なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。</p>						
授業の一般目標						
<p>本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。 海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。 報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。</p>						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。					
■ 情意的領域	海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。					
■ 技能表現的領域	報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。					
授業計画(全体)						
<p>研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。</p>						
授業テーマとその内容						
<p>目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。 各研修は学内説明会を実施するので、本科目の履修(参加)希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。</p> <p>アメリカ合衆国 ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 ビギナーコース ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 アドバンスコース ハワイ大学 短期英語研修プログラム カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 日米スポーツ科学事情比較セミナー</p> <p>デンマーク リレベルト大学他 デンマーク国における健康教育プログラム</p> <p>フィンランド カヤニ応用科学大学 スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム</p> <p>台湾 台東大学 国際交流協定校短期交換留学</p> <p>タイ シーナカリンウィロート大学 スポーツ・異文化交流プログラム</p> <p>ベトナム ハノイ大学 福祉・リハビリ・異文化交流留学研修</p> <p>中国 瀋陽師範大学 中国武術・文化研修派遣プログラム</p> <p>韓国 龍仁大学 韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム</p> <p>ニュージーランド カンタベリー大学 被災地復興・スポーツ文化交流プログラム</p> <p>なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。</p> <p>単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。 単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。 学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修(4科目4単位)までとする。 この科目の登録は参加学生が行う必要はない。</p>						
成績評価方法(方針)						
<p>参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。</p>						
成績評価方法(詳細)						
	到達目標				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと ・研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること ・本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。 ・4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修(4科目4単位)までとする。 ・日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。 	
定期試験						
授業内レポート	○		○	10%		
授業外レポート	○		○	10%		
演習・実技		○	○	30%		
授業態度		○		50%		
出席				欠格条件		
関連科目	海外短期研修A・B・D					
教科書	各研修の担当者が指示する			参考書	各研修の担当者が指示する	
連絡先	事業戦略室 (A棟1F) または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	海外短期研修D			担当教員	国際交流センター長
	Brief Seminar Abroad D				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
<p>本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。 なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。</p>					
授業の一般目標					
<p>本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。 海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。 報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。</p>					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。				
■ 情意的領域	海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。				
■ 技能表現的領域	報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。				
授業計画(全体)					
<p>研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。</p>					
授業テーマとその内容					
<p>目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。 各研修は学内説明会を実施するので、本科目の履修(参加)希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。</p> <p>アメリカ合衆国 ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 ビギナーコース ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 アドバンスコース ハワイ大学 短期英語研修プログラム カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 日米スポーツ科学事情比較セミナー デンマーク リレベルト大学他 デンマーク国における健康教育プログラム フィンランド カヤニ応用科学大学 スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム 台湾 台東大学 国際交流協定校短期交換留学 タイ シーナカリンウィロート大学 スポーツ・異文化交流プログラム ベトナム ハノイ大学 福祉・リハビリ・異文化交流留学研修 中国 瀋陽師範大学 中国武術・文化研修派遣プログラム 韓国 龍仁大学 韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム ニュージーランド カンタベリー大学 被災地復興・スポーツ文化交流プログラム</p> <p>なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。</p> <p>単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。 単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。 学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修(4科目4単位)までとする。 この科目の登録は参加学生が行う必要はない。</p>					
成績評価方法(方針)					
<p>参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。</p>					
成績評価方法(詳細)					
到達目標					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> 研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと 研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること 本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。 4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修(4科目4単位)までとする。 日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。
定期試験					
授業内レポート	○		○	10%	
授業外レポート	○		○	10%	
演習・実技		○	○	30%	
授業態度		○		50%	
出席				欠格条件	
関連科目	海外短期研修A・B・C				
教科書	各研修の担当者が指示する			参考書	各研修の担当者が指示する
連絡先	事業戦略室 (A棟1F) または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp				

5. 教職に関する科目

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教職論A			担当教員	大内悦夫・青沼一民・井上雅勝・菊地博・末永精悦
	Introduction to Teaching Profession A				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
教員の意識、教員の役割、職務内容等に関する理解を深め、教員としての責任を自覚し、教職に対する自らの意欲や適正を考慮し、教職への意欲や一体感を養う。同時に、教職の希望実現に向けた学習計画の立案ができるようにする。					
授業の一般目標					
次の四つの視点から学ぶ。①教職とはどんなものか、教職に就くための学習など教職に関する基盤になることを理解する。②教員養成、教員免許制度、教員採用、研修制度などについて理解を深める。③教職の服務規程、教育基本法を中心に知識を習得する。④教員としての資質・力量、理想の教師像など実際に教員になった場合に必要となる人間のあり方について学習し、自分の教員に関する考え方を豊かにする。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の資質・力量などについて理解する。			
■	情意的領域	教職への希望を実現するための様々な学習に意欲的に取り組む。			
■	技能表現的領域	自己の理想の教師像を実現するための学習の方法を身につける。			
授業計画(全体)					
教員免許取得のための教育課程についての学習、教職に就くために基盤となる教職の全体像や学習計画の立て方などについての学習、教職にかかる様々な制度などの関する学習、関係法規に関する学習、教員としての資質・力量などについて、それぞれの担当者が、教科書と配布資料(プリント)等で講義する。履修ガイダンスは第1回目の授業において行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 教員の身分と関係法規 [内容] 教員の身分の法的位置づけ [授業外学習] 授業の復習			⑨	[テーマ] 教員の採用と研修 [内容] 優れた人材確保と教員研修。 [授業外学習] 授業の復習
②	[テーマ] 学習指導要領と教員 [内容] 学習指導要領とその変遷。学習指導要領と法的拘束力。 [授業外学習] 授業の復習			⑩	[テーマ] 教科指導と教員 [内容] 教科指導の意義、指導計画と学習指導案、教材研究と授業、教科指導の評価。 [授業外学習] 授業の復習
③	[テーマ] 特別支援教育 [内容] 特別支援教育のあり方。通常の学級における特別支援教育のあり方。 [授業外学習] 授業の復習			⑪	[テーマ] 教科外指導と教員 [内容] 教科外指導の特質、教科外指導の課題、これからの教科外指導。 [授業外学習] 授業の復習
④	[テーマ] 教職と関係法規 I [内容] 日本国憲法と教育基本法、学校教育法。 [授業外学習] 授業の復習			⑫	[テーマ] 学級経営、校務分掌と教員 [内容] 望ましい学級経営、校務分掌のあり方と教員。 [授業外学習] 授業の復習
⑤	[テーマ] 教職と関係法規 II [内容] 学校教育法。 [授業外学習] 授業の復習			⑬	[テーマ] 教員の服務規程 I [内容] 教員の服務規定について。 [授業外学習] 授業の復習
⑥	[テーマ] 教職と関係法規 III [内容] 学校教育法施行規則、学校保健安全法。 [授業外学習] 授業の復習			⑭	[テーマ] 教員の服務規程 II [内容] 教員の身分保障と分限・懲戒規定。 [授業外学習] 授業の復習
⑦	[テーマ] これからの教員に求められる資質・能力 [内容] 望ましい教師像を求めて、いつの時代にも求められる教師像と今後求められる教師像についての概説。 [授業外学習] 授業の復習			⑮	[テーマ] 学校における防災教育 [内容] 防災教育のあり方について。 [授業外学習] 授業の復習
⑧	[テーマ] 教員養成と教員免許制度 [内容] 教員養成制度と教員免許法。本学における履修のあり方。 [授業外学習] 授業の復習			⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
筆記試験の結果(100%)に授業態度を勘案して評価する。また、授業時数の2/3以上の出席を必要とする。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎		◎	95%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度			○		5%
出席					欠格事項
関連科目	他の教職関連科目				
教科書	「必修教職六法」(協同出版)			参考書	「学習指導要領」
連絡先	・大内研究室 A303 ・青沼研究室 A313 ・井上研究室				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	道徳教育論 Theory of Moral Education (L)			担当教員	久能和夫
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	関連資格	教員免許状(中保体・養護・特別支援・栄養)
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
小・中・高等学校の道徳教育を通じ、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培い、自立し、健全な自尊感情を持ち、主体的・自律的に生きる力を育成するために、道徳性を養う。					
授業の一般目標					
基本的な生活習慣、規範意識、人間関係を築く力、社会参画への意欲や態度、伝統や文化を尊重する態度などを育成するにはどう指導するかを理解する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	道徳教育に関する歴史的歩みについて学び、現在の学習指導要領について学ぶ。				
■ 情意的領域	「生きる力」「生命の尊重」について、どう意欲的に取り組むか理解する。				
■ 技能表現的領域	自己の理想の教師像を実現するための学習方法を身に付ける。				
授業計画(全体)					
授業は、基本的にはプリントを用意し、それを基に講義中心に行うが、多くの機会にレポートを提出、常に道徳教育についての課題意識を持つようにする。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 道徳教育とは何か [内容] 今、求められている規範意識について学び、規範の根拠としての人間尊重の精神について考える [授業外学習] 慣習、法律、倫理と道徳の関係についての書籍を読む			⑨	[テーマ] 道徳授業と評価 [内容] 特別の教科 道徳科(学習指導要領)に示されている「評価」について考える [授業外学習] 「特別の教科 道徳」(仮称)に関連する各種報道を調べる
②	[テーマ] 戦後の教育改革と道徳教育 [内容] 戦後の教育改革で、一番の課題は道徳教育であったことを学ぶ [授業外学習] 道徳教育に関わる学習指導要領の変遷について調べる			⑩	[テーマ] 道徳授業と体験学習 [内容] 体験活動の教育的意義、「道徳の時間」と体験活動のかかわりについて考える [授業外学習] 学習指導要領を読む
③	[テーマ] 学習指導要領と道徳的価値 [内容] 教育基本法と道徳教育、学習指導要領と道徳的価値の関連について学ぶ [授業外学習] 学習指導要領の内容項目について調べる			⑪	[テーマ] 個性の尊重 [内容] 「個性」に対する日本と欧米の違い(価値観の相違)を分析し、学校教育における「個性」の伸長について考える [授業外学習] 学習指導要領における「個性」の取り上げ方の変遷を調べる
④	[テーマ] 道徳授業の現状とその改善方法 [内容] 特別の教科「道徳科」をめぐる現状と課題、そして本質的問いとして「徳」は教えられるのかを考える [授業外学習] 道徳の授業で大切にしなければならないことについて考える			⑫	[テーマ] 道徳授業のアプローチ① [内容] 道徳科における学習指導案の構成について理解する。授業の実際についての映像を観る。中学1年の教材を用いて、学習指導案を作成する [授業外学習]
⑤	[テーマ] 道徳教育と家庭・地域社会の協力 [内容] 家庭・地域社会における道徳教育の現状と課題を分析し、学校と家庭・地域社会の連携・協力について考える [授業外学習] 新聞の関連ニュースを読む			⑬	[テーマ] 道徳授業のアプローチ② [内容] 道徳科における学習指導案の構成について理解する。授業の実際についての映像を観る。中学2年の教材を用いて、学習指導案を作成する [授業外学習] 学習指導案の作成
⑥	[テーマ] 道徳授業の充実と教師の生き方 [内容] 「道徳教育における教師の役割」について述べている論文を読み、レポートを書く [授業外学習] 「教師論」に関する書籍を読む			⑭	[テーマ] 道徳授業のアプローチ③ [内容] 道徳科における学習指導案の構成について理解する。授業の実際についての映像を観る。中学3年の教材を用いて、学習指導案を作成する [授業外学習] 学習指導案の作成
⑦	[テーマ] 学生の価値意識と「道徳教育の研究」 [内容] 道徳性の発達(コールバーグ理論)と相対主義を踏まえ、若者と規範意識について考える [授業外学習] 「道徳性の発達」に関する書籍を読む			⑮	[テーマ] 国際化社会における愛国心教育と国旗・国歌 [内容] 戦後日本の「愛国心」論の類型を知り、教育基本法・学習指導要領における「愛国心」教育の進め方について理解する [授業外学習] 関連する書籍を読む
⑧	[テーマ] 高校における道徳教育の位置づけ [内容] 学習指導要領において「道徳教育の全体計画」の作成が義務づけられた高等学校における「道徳教育」の進め方について考える [授業外学習] 高等学校学習指導要領を読む			⑯	[テーマ] テスト [内容] 道徳教育論を学習してのまとめを行う [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
筆記試験(レポートを含む)の結果に、受講態度(出席状況含む)等を加味して評価する。なお、欠席は原則として3分の1以上は評価対象外とする。出席及びレポートを中心に評価する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			80%
授業内レポート				◎	20%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度			○		
出席			○		
関連科目					
教科書	中学校学習指導要領解説「道徳編」。毎時、資料プリント配付			参考書	
連絡先	久能研究室 (A棟3F 307) 0224-55-1165(直通)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	生徒指導論A			担当教員	志賀野 博/大内悦夫
	Theory of student guidance A(L.)				
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
生徒指導は学習指導と並び重要な機能概念である。本授業は、生徒指導学をベースに、生徒指導並びに進路指導(含キャリア教育)について、体系的に講義を行う。また、文部科学省が行う全国の問題行動調査から学校現場における生徒指導上の現状と課題を把握し、適切な対応について説明する。さらに、文部科学省等の関係各省から発出された答申・通知・法令等についても理解を深め実践力・即戦力を旨とした講義とする。					
授業の一般目標					
生徒指導の意義・原理・目的・内容・方法等や自らの生き方・在り方である進路指導の理論・内容・実践等を理解する。また、学校内外における生徒指導体制・教育相談・発達障害等を知る。加えて、学校現場における様々な生徒指導上の現状と課題を理解し、すべての児童生徒のそれぞれの人格のよりよい発達と学校生活が有意義で、興味深く、充実したものになる教育活動に繋がられるように考察する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	生徒指導と進路指導の意義や原理、目的、内容、方法、歴史、理論等について説明できるようにする。また、生徒指導上の現状と課題を把握し、より望ましい生徒指導のあり方を説明できるとともに指摘できる。			
■	情意的領域	児童生徒のよりよい人格の発達や有意義で、興味深く、充実した学校生活が送れるような支援に寄与し、具体的な課題解決に向けて思考・判断し、他の教員と協働しながら生徒指導に参加する意志・意欲を持つことができる。			
■	技能表現的領域	実際の教育活動や具体的な支援の仕方について学び、さらに様々な活動を通して教員としての生徒指導の活用力を身に付けることができるようにする。さらに、日頃から生徒指導上の諸問題について様々な情報網を駆使し、実践力を高めることができる。			
授業計画(全体)					
各授業のテーマに沿った講義が中心となる。より深い理解と実践力の向上に向け、授業外学習への自主的取組や教育ボランティア等を勧める。とりわけ教育臨床への参加は授業内容の実践的力が高められるよい機会となるので積極的な参加が望まれる。さらに、様々なマスメディアを駆使し国や地方における生徒指導上の教育行政の動向や生徒指導に係る司法判断を把握することは、当事者意識を基盤とする思考・判断・態度とも繋がり、実践力の向上が望まれるよい起点となる。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員紹介、教員免許状における授業の位置づけ、授業の目標と進め方、シラバス・成績評価等について説明する [授業外学習]教科書で生徒指導の意義等について予習する			⑨	[テーマ]進路指導の歴史と理念及び基礎理論 [内容]進路指導のねらい(定義)と意義、歴史、基礎理論について概説し、生徒指導との関連について解説する [授業外学習]配付資料等に基づきながら復習する
②	[テーマ]生徒指導の意義と原理・方法(1) [内容]生徒指導の意義・目標・原理・方法・内容と生徒指導上の留意点等について、生徒指導提要及び学習指導要領に基づき解説する [授業外学習]教科書で意義・目標・自己指導能力等について復習・予習する			⑩	[テーマ]進路指導の実践的展開とキャリア教育 [内容]キャリア教育の意義と内容を解説し、具体的な進路指導(キャリア教育)の計画・展開、実践等を概説する [授業外学習]配付資料に基づき、進路指導とキャリア教育について復習する
③	[テーマ] 生徒指導の意義と原理・方法(2) [内容]生徒指導における自己指導能力、集団指導と個別指導及び課題解決的・予防的・開発的生徒指導等について概説する [授業外学習]教科書等をもとに復習する			⑪	[テーマ]個別の課題を抱える児童生徒への指導(1) [内容] 少年非行等・暴力行為の現状と課題並びに対応、非行少年の処遇について解説する [授業外学習]暴力行為の現状等についてWebを活用し文科省資料等に当たる
④	[テーマ] 児童生徒理解の意義と方法 [内容] 生徒指導と生徒理解の関係、児童生徒理解の方法・対象並びに技術の概要、また、教師の認知評定上の留意事項について解説する [授業外学習]教科書・配布学習プリントをもとに復習する			⑫	[テーマ]個別の課題を抱える児童生徒への指導(2) [内容]いじめの現状と課題並びに対応について、また、いじめに関する関係法令・各種通知等について解説する [授業外学習]いじめの現状等について、Webを活用し文科省資料等に当たる
⑤	[テーマ] 特別支援教育・教育相談と生徒指導との関係 [内容] 特別支援教育における発達障害の概要並びに教育相談の概要・方法・対象・形態・傾聴の技術について解説する [授業外学習]図書館を活用し、特別支援教育の理解をさらに深く理解する			⑬	[テーマ]個別の課題を抱える児童生徒への指導(3) [内容]不登校問題の歴史、及び昨今の不登校の現状と課題並びに対応について、また、各種通知等について解説する [授業外学習]不登校の現状等についてWebを活用し文科省資料等に当たる
⑥	[テーマ] 学校における生徒指導体制のあり方 [内容] 学校における生徒指導体制(含、組織・生徒指導主事)の効果的なあり方について解説する [授業外学習]教科書をもとに生徒指導体制について復習する			⑭	[テーマ]個別の課題を抱える児童生徒への指導(4) [内容] その他の生徒指導上における課題(虐待・高校中途退学・自殺等)の現状と課題並びに対応と各種通知について解説する [授業外学習]その他の課題についても、Webで文科省資料等に当たる
⑦	[テーマ]学校における生徒指導と危機管理について [内容]学校における生徒指導と危機管理体制の基本的な考え方及びその対応、並びに出席停止について解説する [授業外学習]教科書をもとに危機管理について復習する			⑮	[テーマ]生徒指導に関する法制度等 [内容]懲戒と体罰等について、また、関連法令や各種通知等について解説する [授業外学習]懲戒・体罰・出席停止等もWebを活用し文科省資料等に当たる
⑧	[テーマ]生徒指導と教育課程 [内容]生徒指導と教育課程(教科・道徳教育等)との関連について解説する [授業外学習]教科書をもとに生徒指導と教育課程の関連について予習する			⑯	[テーマ]テスト [内容]授業の理解度、到達度を確かめるために期末テスト(筆答試験)を行う [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
定期の筆記試験の結果(70%)に、出席状況を含む受講態度や授業レポート(30%)を加味して評価する。なお、「理由の認められない欠席(自己に責めを帰す理由)」をそれぞれの担当教員の授業回数のうち規程回数以上の欠席者(担当:大内2回以上、担当:志賀野4回以上)は、定期試験の受験を認めない(定期試験の受験資格が無いものと取り扱う)。さらに、総欠席数が6回以上のもは評価対象外(放棄)の評定とする。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎	△	△	70%
授業内レポート	○	◎	○	○	授業態度を含む
授業外レポート					実施せず
演習・実技					評価対象外
授業態度	△	◎	△	△	減点(欠席)あり
出席		◎			30%欠格条件
関連科目	教育心理、教育相談、その他教職関連科目等				
教科書	生徒指導提要(文部科学省 教育図書出版)			参考書	学習指導要領(含解説)・教育小六法
連絡先	志賀野研究室(A311)TEL 55-1290 大内研究室(A303)TEL 55-1327				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	特別活動論 Theory of Extracurricular Activities (L.)			担当教員	金井・末永・針生
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義・演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
学校における特別活動の制度的枠組みとその内容を踏まえたうえで、実際に、学級活動をデザインし、実践する。					
授業の一般目標					
①特別活動の目標と内容について理解する。 ②特別活動の指導計画を踏まえて、学級活動を計画する方法を身につける。 ③学級活動を実践することにより、特別活動の目標と内容に対する理解を体験的に深めるとともに、学級活動において求められる指導力を知る。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	特別活動の意義や原理、目的、内容、方法、歴史、理論等について理解できるようにする。				
■ 情意的領域	児童生徒のよりよい人格の発達や有意義で、興味深く、充実した学校生活がおくれるような支援について、具体的に考えられるようにする。				
■ 技能表現的領域	学級活動をデザインし、実施することにより、実際の教育活動や具体的な支援の仕方について学び、教師として活用できるようにする。				
授業計画(全体)					
特別活動の意義、原理、目的、内容、方法、歴史、理論等を最初の4コマで扱い、5コマ目以降は、グループワークによる学級活動のデザインと模擬授業を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、特別活動の内容と目標 [内容] 授業の目標と進め方、シラバスの内容、成績評価の方法を理解する。その後、特別活動の内容と目標を理解する。 [授業外学習] 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』を読んでおく。			⑨	[テーマ] 学級活動の実践 進路指導編① [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習] グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
②	[テーマ] 特別活動の歴史の変遷 [内容] 日本における特別活動がいかなる歴史の変遷のもとで展開し、成立してきたのかを理解する。 [授業外学習] 日本史を復習する。			⑩	[テーマ] 学級活動の実践 進路指導編② [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習] グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
③	[テーマ] 学級・ホームルーム活動 [内容] 学級・ホームルーム活動の内容と目標、その意義、そしてその指導計画の手順について理解する。 [授業外学習] 学習指導要領解説の特別活動編を読む。			⑪	[テーマ] 学級活動の実践 運動会編① [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習] グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
④	[テーマ] 学校行事 [内容] 学校行事の内容と目標、その指導計画の手順について理解する。 [授業外学習] 学習指導要領解説の特別活動編を読む。			⑫	[テーマ] 学級活動の実践 運動会編② [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習] グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
⑤	[テーマ] 学級活動の目標の理解と授業設計 [内容] グループごとに、与えられたテーマにおける学級活動の目標を理解し、それを達成するための授業をデザインする。 [授業外学習] グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。			⑬	[テーマ] 学級活動の実践 修学旅行編① [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習] グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
⑥	[テーマ] 学活の教材および学習指導案の作成 [内容] グループごとに、模擬授業において使用する教材および学習指導案を作成する。 [授業外学習] グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。			⑭	[テーマ] 学級活動の実践 修学旅行編② [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習] グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
⑦	[テーマ] 学級活動の実践 学校生活編① [内容] 作成した学習指導案に基づき、学校生活に関する学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習] グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。			⑮	[テーマ] まとめ [内容] 本授業の全体を振り返り、総括する。 [授業外学習] 本授業の全体を復習する。
⑧	[テーマ] 学級活動の実践 学校生活編② [内容] 作成した学習指導案に基づき、学校生活に関する学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習] グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
(1) 受講態度・グループワーク(40%)、(2) 授業内レポート・小テスト(40%)、(3) 模擬授業(20%)。 なお、受講態度が著しく不良である者、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。 私語、睡眠を含む不適切な受講態度は減点対象とし、場合によっては欠席扱いとする。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート		◎	○	○	40%
授業外レポート					
演習・実技		◎	○	◎	20%
授業態度		○	◎	○	40%
出席					欠格条件
○講義中の私語、携帯いじり、睡眠等、学習環境を損なう行為については厳格に対処する。 ○欠席は最多4回までとし、5回以上の者は評価対象外とする。(欠格条件) ○実習、試合等の正当な理由に基づく欠席のみ、出席代替措置の課題を提出することで出席扱いが可能となる。					
関連科目					
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』			参考書	授業中に適宜指示する。
連絡先	研究室 A棟3階 304				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教職総合演習 Seminar of Teaching Profession			担当教員	山谷・大内・渡邊・青沼・久能・志賀野・荒井・入澤・金井・井上・針生・郡山・菊地博・末永・江口		
	開講内容	学年・学期	3・半期			授業方法	演習
	履修の方法	選択	単位数	2			
授業の概要							
本演習では、学校教師として身につけることが必要な学習指導と生徒指導(集団行動)に関する基本的知識と技能について実践的に養う。なお、後者においては、東日本大震災での教訓を踏まえ、児童生徒が身体の安全をおびやかされるような緊急事態に遭遇した場合でも安全に行動できるようにするために必要な指導のあり方も教授する。							
授業の一般目標							
学習指導に関しては、学校教師として授業を構想し、準備し実践するために必要な知識・技能を理解し、実践できる。生徒指導(集団行動)に関しては、児童生徒が集団としての行動を秩序正しく、かつ安全で能率的に行うことができるよう指導するために必要な知識・技能を理解し、かつ実践できる。							
授業の到達目標							
■ 認知的領域	学習指導と生徒指導(集団行動)に関する基本的な知識について理解する。						
■ 情意的領域	内容を確実に理解するために授業に積極的に参加し、他の受講者と協力して学習を進めることができる。						
■ 技能表現的領域	学習指導と生徒指導(集団行動)に関する基本的な技能を身につけ、実践できる。						
授業計画(全体)							
(1)演習は20名程度の班ごとに実施する。(2)学習指導に関しては授業の構想(5回)と授業の実践(5回)に分け、授業の構想では教材研究、授業デザイン、学習指導案作成などの要点と技法を概説し、学習指導案を作成する。授業の実践では、作成した学習指導案にもとづき模擬授業を実施する。(3)生徒指導(集団行動)に関しては、集団行動の基本的な行動様式と指導上の留意点について概説し、学生が相互に指導を実践する。							
授業計画(各回のテーマ等)							
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容		
①	[テーマ] 全体オリエンテーション [内容] 担当者の紹介、演習の内容・進め方、評価の方法、班編成 [授業外学習] シラバスを熟読しておくこと			⑨	[テーマ] 授業の実践(3) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学習] 模擬授業についての振り返り		
②	[テーマ] 授業の構想(1)-授業構想のプロセス- [内容] 授業構想のプロセスと各段階での必要事項を理解する。 [授業外学習] 授業の復習			⑩	[テーマ] 授業の実践(4) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学習] 模擬授業についての振り返り		
③	[テーマ] 授業の構想(2)-教材研究- [内容] 教育内容と教材の違い、教材理解(解釈)と教材づくりについて理解する。 [授業外学習] 授業の復習			⑪	[テーマ] 授業の実践(5) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学習] 模擬授業についての振り返り		
④	[テーマ] 授業の構想(3)-授業のデザイン- [内容] 授業のデザインとは何か、授業のデザインの必要事項、手順などについて理解する。 [授業外学習] 授業の復習			⑫	[テーマ] 集団行動の指導(1)-集団行動の基本的な行動様式- [内容] 集団行動の基本的な行動様式について理解する。 [授業外学習] 授業の復習		
⑤	[テーマ] 授業の構想(4)-学習指導案の作成- [内容] 学習指導案とは何か、学習指導案の構成要素、作成手順と留意点について理解する。 [授業外学習] 授業の復習			⑬	[テーマ] 集団行動の指導(2)-基本的な行動様式の要領と指導上の留意点1- [内容] 基本的な行動様式(姿勢・方向転換・集合・整頓)の要領と指導上の留意点を実践的に理解する。 [授業外学習] 授業の復習		
⑥	[テーマ] 授業の構想(5)-学習指導案の作成- [内容] 前回の授業を踏まえ、学習指導案を実際に作成する。 [授業外学習] 学習指導案の完成			⑭	[テーマ] 集団行動の指導(3)-基本的な行動様式の要領と指導上の留意点2- [内容] 基本的な行動様式(列の作り方)の要領と指導上の留意点を実践的に理解する。 [授業外学習] 授業の復習		
⑦	[テーマ] 授業の実践(1) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学習] 模擬授業についての振り返り			⑮	[テーマ] 集団行動の指導(4)-基本的な行動様式の要領と指導上の留意点3- [内容] 基本的な行動様式(開列、行進、足踏み、礼)の要領と指導上の留意点を実践的に理解する。 [授業外学習] 授業の復習		
⑧	[テーマ] 授業の実践(2) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学習] 模擬授業についての振り返り			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]		
成績評価方法(方針)							
学習指導および生徒指導(集団行動)の担当者が、受講者の課題への取り組み状況、積極性、課題の達成度について協議し、総合的に成績を評価する。欠席に関してはやむを得ない理由がある場合を除き、原則として認めない。							
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)			
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	本演習で取り上げる内容は、学校教師として必ず身につけておかなければならないものであるため、各時間ともに真剣に受講して欲しい。また、受講者の主体的な授業参加が演習の充実度を左右するので、一人ひとりが演習を運営するという自覚をもって望んでもらいたい。	
定期試験					実施しない		
授業内レポート					実施しない		
授業外レポート					実施しない		
演習・実技	◎	◎	◎		80%		
授業態度	○	○	○		20%		
出席					欠格条件		
関連科目	既習の教職関連科目						
教科書	学習指導要領、同解説(保健体育)、中高保健体育教科書			参考書	授業時に紹介する		
連絡先	代表担当者 山谷(研究室A308)						

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教職総合実技 Exercise of teaching profession(P.A.)			担当教員	入澤裕樹 他
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
本授業は、将来教職に就くことを強く希望している学生を対象とし、学校体育の現場における体育授業に関わる基本的な技術・技能の習得を目指すものである。開講されている12の実技種目【体操(含体づくり運動)、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】の中から、学生自身に各授業回を受講する種目を選択させ授業を展開していく。					
授業の一般目標					
保健体育の教員として、授業に関わる各実技種目の基本的な技術・技能を修得する。また、各実技種目において、履修計画の中で選択的に不得手なものを受講していき、その克服していく過程において、運動が苦手な生徒に対する実技指導に必要な要点を学習する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	各実技種目の要点を理解する。				
■ 情意的領域	「できる」喜びを身を以て知る。				
■ 技能表現的領域	体育授業に関わる基本的な技術・技能を身につける。				
授業計画(全体)					
種目は、体操(含体づくり運動)、陸上、器械運動、水泳(以上A群)、バレーボール、バスケットボール、サッカー、ハンドボール、ラグビー(以上B群)柔道、剣道、ダンス(以上C群)とし、A、B群からは2つC群からはそれぞれ1つずつ選択する。その際、選択できる種目は1・2年次の実技種目の単位を修得した種目に限定される。5つの種目をそれぞれ3回ずつ受講し、それぞれの担当教員の受講認定印を所定の出席票に記録していく形で進める。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員等の紹介。履修計画の作成。 *3年前期までの成績表を必ず持参すること。		⑨	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操(含体づくり運動)、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ	
②	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操(含体づくり運動)、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ		⑩	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操(含体づくり運動)、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ	
③	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操(含体づくり運動)、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ		⑪	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操(含体づくり運動)、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ	
④	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操(含体づくり運動)、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ		⑫	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操(含体づくり運動)、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ	
⑤	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操(含体づくり運動)、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ		⑬	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操(含体づくり運動)、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ	
⑥	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操(含体づくり運動)、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ		⑭	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操(含体づくり運動)、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ	
⑦	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操(含体づくり運動)、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ		⑮	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操(含体づくり運動)、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ	
⑧	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操(含体づくり運動)、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ		⑯	[テーマ] まとめ [内容] 授業全体を通じた実技の要点を整理する。	
成績評価方法(方針)					
成績評価は、履修した各実技種目における到達レベルを総合的に判断する(評価割合80%)と共に、各種目の要点を整理したレポートを提出する(評価割合20%)。授業中における態度は成績評価の減点対象となる。出席は欠格条件とする。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			20%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技		○	◎	◎	80%
授業態度			◎		減点あり
出席					欠格条件
関連科目	体操(含体づくり運動)、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンスⅠ、教職キャリア演習Ⅰ、教職キャリア演習Ⅱ				
教科書			参考書		
連絡先	入澤裕樹:A棟302 オフィシアワー 木曜日12:40~14:10				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教職実践演習(教諭) Seminar for Teaching Profession			担当教員	大内・井上・山谷・針生・郡山・渡邊・青沼・志賀野・入澤・荒井・金井・菊地・末永		
	開講内容	学年・学期	4・半期			授業方法	演習
	履修の方法	選択	単位数	2			
授業の概要							
次の4テーマについて演習を行う。①教師としての使命感、責任感、教育的愛情②社会性、対人関係能力③生徒理解、学級経営④教科の指導力。授業は、各テーマに関する簡単な講義ののち、教育実践自己評価シート作成および教育実習の振り返りを行う。その後、高等学校2校を訪問し実際の学校現場の実践を観察する。この参観を元に、自分の教育実習との比較、各学校の対応等を発表する。							
授業の一般目標							
教職課程の履修を通じてこれまでに学んだ知識技能と教育実習、また、学校現場の実践の観察から得られた教科指導、生徒指導に関する知見を有機的に統合することによって、使命感や教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力を有する教員としての資質能力の最終的な形成を図ると共に、あわせてその確認を行う。							
授業の到達目標							
■	認知的領域	教職の実践的指導力について理解する。					
■	情意的領域	教職に実践的指導力についての理解と指導力形成に向けて、各学校の実践を意欲的に観察する。					
■	技能表現的領域	教職の実践的指導力について基礎的・基本的技能を習得する。					
授業計画(全体)							
(1) 演習は20名程度の班毎に実施する。(2) 教育実習のレポート作成、その発表を行う。(3) 各学校に訪問する場合の観察観点や留意事項を作成する。(4) 各学校を訪問し、その実践を観察する。(5) (3)で作成した目標と(4)の観察等を比較し、また、自分の教育実習での経験を踏まえ、レポートの作成、その発表を行う。							
授業計画(各回のテーマ等)							
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容		
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の説明 [授業外学習]シラバスを熟読する。			⑨	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学習]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。		
②	[テーマ]本演習の取り組み [内容] 本演習に対する基本的な取り組みの意識について説明する。訪問校の調査をする。 [授業外学習]自身の教育実習の内容をまとめる。			⑩	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学習]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。		
③	[テーマ] 教育実践自己評価シートの作成 [内容] 教育実習の振り返り。教育実践自己評価シートを作成し、訪問校における観察の観点や留意事項を作成する。 [授業外学習]自分、班員の教育実習で気づいたことをまとめておく。			⑪	[テーマ] 学校参観の振り返り。 [内容] 学校参観の振り返りをし、レポートを作成する。 [授業外学習]各学校での観察をまとめる。		
④	[テーマ] 訪問校の概要と留意点の説明。 [内容] 訪問校の概要の説明並びに各校毎の留意事項の確認をする。 [授業外学習]訪問する学校の概要を事前に調査しておく。			⑫	[テーマ] グループ討議 [内容] 各個人毎に作成したレポートを基にした発表およびグループ討議。 [授業外学習]発表レポートの作成。		
⑤	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学習]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。			⑬	[テーマ] グループ討議 [内容] 各個人毎に作成したレポートを基にした発表およびグループ討議。 [授業外学習]発表レポートの作成。		
⑥	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学習]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。			⑭	[テーマ] グループ討議 [内容] 各個人毎に作成したレポートを基にした発表およびグループ討議。 [授業外学習]発表レポートの作成。		
⑦	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学習]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。			⑮	[テーマ] 良い教師になるための課題の再確認 [内容] 本授業の目標をテーマにしたグループ討議。良い教師になるための今後の課題等を再確認する。 [授業外学習]発表レポートをまとめる。		
⑧	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学習]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。			⑯	[テーマ] まとめ [内容] [授業外学習]		
成績評価方法(方針)							
課題への取り組み状況、各学校の実践を観察する姿勢など、総合的に評価する。欠席は原則として認めない。							
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)			
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	本演習は、教員を目指す学生が中心となるはずなので、各講義とも真剣に受講すること。特に各高等学校での公開授業の参観をするので、「教師になる」という高い意識を持ち行動すること。	
定期試験					実施しない		
授業内レポート		◎		◎	30%		
授業外レポート			○		10%		
演習・実技		◎	◎	◎	30%		
授業態度		○	◎	○	30%		
出席					欠格条件		
関連科目							
教科書	使用しない			参考書	授業時に紹介する		
連絡先	大内研究室 A303						

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教職キャリア演習 I			担当教員	山谷幸司、荒井龍弥、金井里弥、菊地博、末永精悦
	Special Seminar for Teacher I				
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
授業を实践するために必要な力とは何か。本演習では、授業について多角的に考えることができる力と基礎的な授業実践力を養うことをねらいとして、本学と連携関係のある学校を訪問し、先生方の授業実践を参観するとともに、学生自身が授業実践を体験する。この体験をおして授業、あるいは学校や教師の仕事についての理解の深化を図ってほしい。中高保健体育免許希望者限定。					
授業の一般目標					
学校教師の職務や授業実践に必要な力とは何かを、上記の体験を通じて理解する。また、授業実践に必要な基礎的な知識・技能を身につける。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	学校教師の食目や授業実践に必要な力について理解する。また、授業実践に必要な基礎的な知識を理解する。				
■ 情意的領域	学校教師としてのものの見方、考え方に興味をもつとともに、学校教師になるための各自の課題を主体的に考えることができる。				
■ 技能表現的領域	授業実践に必要な技能の基礎を身につけ、実践できる。				
授業計画(全体)					
学校での2回の体験活動を中心に、そのための事前準備、事後のふりかえり等により授業を構成する。とくに第二回目以降の学校訪問時に体験する「生徒への指導実践」の準備については、学生自身が主体的かつクリエイティブに取り組むことになる。なお、演習での様々な活動はグループ単位で行う場合が多いので、相互に協力する姿勢が強く求められる。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業担当者の紹介、演習の内容・スケジュールを理解する。 [授業外学習] シラバスを熟読しておくこと。			⑨	[テーマ] 第一回学校訪問(2時間扱いの2時間目) [内容] 学校を訪問し、授業を参観するとともに、中学校の現状や課題を理解する。 [授業外学習] 体験のふりかえり
②	[テーマ] 超えなければならない「壁」を知ろう① [内容] 学校教員になるために克服しなければならない各自の課題を確認する。 [授業外学習] 学習] 時間内に完了しなかったデータ整理			⑩	[テーマ] 学校訪問オリエンテーション② [内容] 第二回学校におけるスケジュール、留意事項等を理解する。 [授業外学習]
③	[テーマ] 超えなければならない「壁」を知ろう② [内容] 学校教員になるために克服しなければならない各自の課題を確認する。 [授業外学習] 学習] 時間内に完了しなかったデータ整理			⑪	[テーマ] 第二回学校訪問(4時間扱いの1時間目) [内容] 連携先の中学校における指導実践① [授業外学習] 体験のふりかえり
④	[テーマ] 学習指導要領・指導法の理解① [内容] 学習指導要領における連携授業単元の規定内容を理解する。 [授業外学習] 学習指導要領の該当部分を熟読する。			⑫	[テーマ] 第二回学校訪問(4時間扱いの2時間目) [内容] 連携先の中学校における指導実践② [授業外学習] 体験のふりかえり
⑤	[テーマ] 学習指導要領・指導法の理解② [内容] 参考資料にもとづき連携授業単元の指導内容や指導方法を調べる。 [授業外学習] 学習内容のふりかえり			⑬	[テーマ] 第二回学校訪問(4時間扱いの3時間目) [内容] 連携先の中学校における指導実践③ [授業外学習] 体験のふりかえり
⑥	[テーマ] 学校訪問オリエンテーション① [内容] 連携プログラムの内容・スケジュールを理解する。授業担当チームを作る。 [授業外学習]			⑭	[テーマ] 第二回学校訪問(4時間扱いの4時間目) [内容] 連携先の中学校における指導実践④ [授業外学習] 体験のふりかえり
⑦	[テーマ] 授業の見方 [内容] 授業の見方、指導の仕方、授業記録の意義、記録作成の方法を理解する。 [授業外学習] 学習内容のふりかえり			⑮	[テーマ] 学校訪問体験のふりかえり [内容] 受講者各自の活動体験をふりかえり、学んだことがらを共有する。 [授業外学習] 体験レポートの作成
⑧	[テーマ] 第一回学校訪問(2時間扱いの1時間目) [内容] 連携先の中学校を訪問し、授業を参観するとともに、中学校の現状や課題を理解する。 [授業外学習] 体験のふりかえり			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
演習における諸課題に対する日常的な取り組み方を重視し、それに最終レポートの内容を加味する。欠席に関しては、やむを得ない場合を除き、原則みとめない。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験				実施せず	真に教職に就くことを希望する学生のみを受講してほしい。
授業内レポート				実施せず	
授業外レポート	○			25%	
演習・実技	◎	◎	◎	50%	
授業態度		○		25%	
出席				欠格条件	
関連科目	教職論A・B、教育の基礎理論、教育の心理、教育の制度				
教科書	小学校・中学校学習指導要領			参考書	中学校体育実技(学研)
連絡先	山谷(A棟308)、荒井(A棟309)、金井(A棟304)、菊地(A棟515)、末永(A棟310)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教職キャリア演習Ⅱ Special Seminar for Teacher Ⅱ			担当教員	渡邊康男・江口千恵
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
養護教諭・栄養教諭になるために必要な力とは何か。本演習では、養護教諭・栄養教諭の職務について多角的に考えることができる力とその基礎的な実践力を養うことをねらいとして、本学と連携関係のある小学校を訪問し、先生方の実践を参観するとともに、学生自身が実践を体験する。この体験をとおして教師の仕事についての理解の深化を図ってほしい。養護教諭・栄養教諭免許希望者限定。					
授業の一般目標					
養護教諭・栄養教諭になるために必要な力とは何かを、上記の体験を通じて理解する。また、養護教諭・栄養教諭として必要となる基礎的な知識・技能を身につける。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	養護教諭・栄養教諭に必要な力について理解する。また、養護教諭・栄養教諭の職務実践に必要な基礎的な知識を理解する。				
■ 情意的領域	養護教諭・栄養教諭としてのものの見方、考え方に興味をもつとともに、養護教諭・栄養教諭になるための各自の課題を主体的に考えることができる。				
■ 技能表現的領域	養護教諭・栄養教諭の職務実践に必要な技能の基礎を身につけ、実践できる。				
授業計画(全体)					
小学校での2回の体験活動を中心に、そのための事前準備、事後のふりかえり等により授業を構成する。とくに第二回目以降の学校訪問時に体験する「職務実践」の準備については、学生自身が主体的かつクリエイティブに取り組むことになる。なお、演習での様々な活動はグループ単位で行う場合が多いので、相互に協力する姿勢が強く求められる。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業担当者の紹介、演習の内容・スケジュールを理解する。 [授業外学習] シラバスを熟読しておくこと。			⑨	[テーマ] 第一回学校訪問(2時間扱いの2時間目) [内容] 連携先の小学校を訪問し、先生方へのインタビュー等を通じて、養護教諭・栄養教諭の職務の現状や課題を理解する。 [授業外学習] 体験のふりかえり
②	[テーマ] 超えなければならない「壁」を知ろう① [内容] 学校教員になるために克服しなければならない各自の課題を確認する。 [授業外学習] 学習時間内に完了しなかったデータ整理			⑩	[テーマ] 年間保健室経営計画・年間給食指導計画等の理解 [内容] 保健室経営計画、給食指導計画等を通して、連携先の小学校における養護教諭・栄養教諭の職務に係わる学校経営計画を理解する。 [授業外学習] 学習内容のふりかえり
③	[テーマ] 超えなければならない「壁」を知ろう② [内容] 学校教員になるために克服しなければならない各自の課題を確認する。 [授業外学習] 学習時間内に完了しなかったデータ整理			⑪	[テーマ] 学校訪問オリエンテーション② [内容] 第二回学校訪問のスケジュール、留意事項等を理解する。 [授業外学習]
④	[テーマ] 養護教諭・栄養教諭の職務の理解① [内容] 養護教諭・栄養教諭の職務を、学校現場での実際にそくして理解する。 [授業外学習] 学習内容のふりかえり			⑫	[テーマ] 第二回学校訪問(3時間扱いの1時間目) [内容] 連携先の小学校における指導実践① [授業外学習] 体験のふりかえり
⑤	[テーマ] 養護教諭・栄養教諭の職務の理解② [内容] 養護教諭・栄養教諭の職務を、学校現場での実際にそくして理解する。 [授業外学習] 学習内容のふりかえり			⑬	[テーマ] 第二回学校訪問(3時間扱いの2時間目) [内容] 連携先の小学校における指導実践② [授業外学習] 体験のふりかえり
⑥	[テーマ] 学校訪問オリエンテーション① [内容] 連携プログラムの内容・スケジュールを理解する。授業担当チームを作る。 [授業外学習]			⑭	[テーマ] 第二回学校訪問(3時間扱いの3時間目) [内容] 連携先の小学校における指導実践③ [授業外学習] 体験のふりかえり
⑦	[テーマ] 授業の見方 [内容] 授業の見方、指導の仕方、授業記録の意義、記録作成の方法を理解する(担当:学外講師)。 [授業外学習] 学習内容のふりかえり			⑮	[テーマ] 学校訪問体験のふりかえり [内容] 受講者各自の活動体験をふりかえり、学んだことがらを共有する。 [授業外学習] 体験レポートの作成
⑧	[テーマ] 第一回学校訪問(2時間扱いの1時間目) [内容] 連携先の小学校を訪問し、先生方へのインタビュー等を通じて、養護教諭・栄養教諭の職務の現状や課題を理解する。 [授業外学習] 体験のふりかえり			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
演習における諸課題に対する日常的な取り組み方を重視し、それに最終レポートの内容を加味する。欠席に関しては、やむを得ない場合を除き、原則みとめない。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					実施せず
授業内レポート					実施せず
授業外レポート		○			25%
演習・実技		◎	◎	◎	50%
授業態度			○		25%
出席					欠格条件
関連科目	教職論A・B、教育の基礎理論、教育の心理、教育の制度				
教科書	使用しない			参考書	授業時に紹介する
連絡先	渡邊康男(A棟3階)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	保健体育科授業研究 I Physical Education I			担当教員	入澤裕樹・小浜 明
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					
保健・体育の学習指導をみる、考える、実際に行ってみる					
授業の一般目標					
保健・体育の学習指導をみる、考える、実際に行ってみる、といった体験を通して実践的指導力を養う					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	保健・体育の学習指導についての基本的な考え方と具体的な進め方を理解することができる			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input checked="" type="checkbox"/>	技能表現的領域	保健・体育の学習指導についての具体的な進め方を実践することができる			
授業計画(全体)					
保健・体育の授業を実際に見学したり、ビデオを視聴して、授業分析を行う。この分析をベースとして、保健体育の学習指導のポイント、課題等を取り上げ、議論をおこなったり、実際に授業(模擬授業)をおこなう					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意 [授業外学習]			⑨	[テーマ] 球技の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 球技領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく
②	[テーマ] 体育授業を分析するー球技 [内容] 球技領域の授業を分析する [授業外学習]			⑩	[テーマ] 器械運動の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 器械運動領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく
③	[テーマ] 体育授業を分析するー器械運動 [内容] 器械運動領域の授業を分析する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく			⑪	[テーマ] 陸上競技の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 陸上競技領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく
④	[テーマ] 体育授業を分析するー陸上競技 [内容] 陸上競技領域の授業を分析する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく			⑫	[テーマ] 武道領域の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 武道領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく
⑤	[テーマ] 体育授業を分析するー武道 [内容] 武道領域の授業を分析する [授業外学習]			⑬	[テーマ] 心身の機能の発達と心の健康の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 心身の機能の発達と心の健康領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく
⑥	[テーマ] 保健授業を分析するー心身の機能の発達と心の健康 [内容] 心身の機能の発達と心の健康領域の授業を分析する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく			⑭	[テーマ] 健康と環境の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 健康と環境領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく
⑦	[テーマ] 保健授業を分析するー健康と環境 [内容] 健康と環境領域の授業を分析する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく			⑮	[テーマ] 傷害の防止の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 傷害の防止領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく
⑧	[テーマ] 保健授業を分析するー傷害の防止 [内容] 傷害の防止領域の授業を分析する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
討議・模擬授業等における、認識・技能の変容を総合的に評価する					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					30%
授業内レポート	○				
授業外レポート					
演習・実技	◎			◎	70%
授業態度		○			欠格条件
出席		○			欠格条件
関連科目	保健体育科教育論 I・II・III(免許取得に必要な講義) 保健体育科教育論IV・保健体育科授業研究 II(選択履修)				
教科書	特に指定しない			参考書	講義中、必要に応じて提示する
連絡先	A棟3階 302				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	保健体育科授業研究Ⅱ			担当教員	入澤 裕樹・小浜 明
	Physical Education Ⅱ				
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					
保健・体育の学習指導をみる、考える、実際に行ってみる					
授業の一般目標					
保健・体育の学習指導をみる、考える、実際に行ってみる、といった体験を通して実践的指導力を養う					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	保健・体育の学習指導についての基本的な考え方と具体的な進め方を理解することができる			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input checked="" type="checkbox"/>	技能表現的領域	保健・体育の学習指導についての具体的な進め方を実践することができる			
授業計画(全体)					
保健・体育の授業を実際に見学したり、ビデオを視聴して、授業分析を行う。この分析をベースとして、保健体育の学習指導のポイント、課題等を取り上げ、議論をおこなったり、実際に授業(模擬授業)をおこなう					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意 [授業外学習]			⑨	[テーマ] 体操(体づくり運動)の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 体操(体づくり運動)領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく
②	[テーマ] 体育授業を分析するー体操(体づくり運動) [内容] 体操(体づくり運動)領域の授業を分析する [授業外学習]			⑩	[テーマ] ダンスの授業をおこなう(模擬授業) [内容] ダンス領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく
③	[テーマ] 体育授業を分析するーダンス [内容] ダンス領域の授業を分析する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく			⑪	[テーマ] 水泳の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 水泳領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく
④	[テーマ] 体育授業を分析するー水泳 [内容] 水泳領域の授業を分析する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく			⑫	[テーマ] 健康な生活と疾病の予防の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 健康な生活と疾病の予防領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく
⑤	[テーマ] 保健授業を分析するー健康な生活と疾病の予防 [内容] 健康な生活と疾病の予防領域の授業を分析する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく			⑬	[テーマ] 現代社会と健康の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 現代社会と健康領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく
⑥	[テーマ] 保健授業を分析するー現代社会と健康 [内容] 現代社会と健康領域の授業を分析する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく			⑭	[テーマ] 生涯を通じる健康の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 生涯を通じる健康領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく
⑦	[テーマ] 保健授業を分析するー生涯を通じる健康 [内容] 生涯を通じる健康領域の授業を分析する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく			⑮	[テーマ] 社会生活と健康の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 社会生活と健康領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく
⑧	[テーマ] 保健授業を分析するー社会生活と健康 [内容] 社会生活と健康領域の授業を分析する [授業外学習] 前回までの演習内容を整理しておく			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
討議・模擬授業等における、認識・技能の変容を総合的に評価する					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					30%
授業内レポート		○			
授業外レポート					
演習・実技		◎		◎	70
授業態度			○		欠格条件
出席			○		欠格条件
関連科目	保健体育科教育論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(免許取得に必要な講義) 保健体育科教育論Ⅳ・保健体育科授業研究Ⅰ(選択履修)				
教科書	特に指定しない			参考書	講義中、必要に応じて提示する
連絡先	A棟3階 302				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教育実習 I Student-Teacher Training I (F. E.)			担当教員	山谷・大内・久能・郡山・末永・渡邊・入澤・金井
開講内容	学年・学期	3-4・半期	授業方法	講義・演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
4年次で実施される教育実習(Ⅲ・Ⅳ)の事前指導(実習現場の理解、授業設計の基礎、教育実習へのこころ構え等)及び事後指導を行う。教育実習に参加する者は、この科目を受講しなければ、実習に参加することはできない。					
授業の一般目標					
教育実習に参加する基礎的・基本的な知識・技能を習得し、併せて教育実習に臨む心構え、態度等を身に付ける。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	教育実習の意義を理解するとともに、教育実習に必要な基礎的・基本的な知識を習得する。				
■ 情意的領域	教育実習に参加する意欲をもつ。				
■ 技能表現的領域	教育実習の基礎的・基本的技能を習得する。				
授業計画(全体)					
教育実習の意義、教育実習現場の理解(中学校・高校)、教育実習の心構え、教育実習の方法・流れ、学習指導案の作成等					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(3年) [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス理解、成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを読んでおくこと。			⑨	[テーマ] 教育実習の反省と総括 [内容] 教育実習の反省と総括を行い、必要書類を期日までに提出する。 [授業外学習]
②	[テーマ] 教育実習の意義と内容 [内容] 教育実習の意義と内容を理解する。 [授業外学習] 授業内容の復習			⑩	[テーマ] [内容] [授業外学習]
③	[テーマ] 実習現場の理解 [内容] 中学校・高校の教育現場の現状を理解する。 [授業外学習] 授業内容の復習			⑪	[テーマ] [内容] [授業外学習]
④	[テーマ] 授業設計と指導技術の基礎(保健) [内容] 保健指導のあり方と学習指導案の作成法について理解する。 [授業外学習] 授業の復習			⑫	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑤	[テーマ] 授業設計と指導技術の基礎(体育) [内容] 体育指導のあり方と学習指導案の作成法について理解する。 [授業外学習] 授業の復習			⑬	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑥	[テーマ] オリエンテーション(4年) [内容] 必要書類・教育実習日誌等の書き方、教育実習巡回指導などについて理解する。 [授業外学習]			⑭	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑦	[テーマ] 教育実習の心構え(1) [内容] 教育実習の流れ・方法、教育実習をめぐる学校現場の「声」について理解する。 [授業外学習] 授業の復習			⑮	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑧	[テーマ] 教育実習の心構え(2) [内容] 教育実習に臨むにあたっての心構え、留意事項について理解する。 [授業外学習] 授業の復習			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
出席及び実習報告書を中心に評価する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					実施しない
授業内レポート					実施しない
授業外レポート			△		15%
演習・実技					実施しない
授業態度		○	○	○	5%
出席		◎	◎	◎	80%
(1) 3年次後期から4年次にわたって開講する。 (2) 開講は不定期であるため指示に従って受講すること。					
関連科目	3年次までに開講する教職関連科目すべて				
教科書	仙台大学編『教育実習の手引き』、『学習指導要領』			参考書	授業時に紹介する。
連絡先	教職支援センター B棟2階				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教育実習Ⅲ Student-Teacher Training Ⅲ (F. E.)			担当教員	山谷・他
開講内容	学年・学期	4・集中	授業方法	実習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
学校の教育活動の場に臨み、子どもと直接ふれ合い、指導教員の指導を受けながら教育者に求められる知識、技能、態度を修得する。そして、実際の教育指導実践を通して、子ども理解や教者としての使命感を養う。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・学校教員の職務について理解するとともに、教師として必要な知識・技能・態度を身につける。 ・学校教員になるために克服しなければならない自己の課題を明確にする。 					
授業の到達目標					
■	認知的領域	教師として必要な資質や能力を確認する。			
■	情意的領域	教師としての適性を確認するとともに、学校教員になるために必要な自己の課題を確認する。			
■	技能表現的領域	教師として必要な基礎的スキルを身につける。			
授業計画(全体)					
高校における実習体験					
授業テーマとその内容					
<p>高校(福祉)の教員免許取得希望者を対象に2週間の現場実習を実施する。</p> <p>実習校においては、①教科の授業、②学級担任の業務、の二つを中心に実習するが、保健体育科の実習の場合は、③部活動の指導も重要である。</p> <p>教育実習は、基本的に、実習校の計画によって実施されるが、一般的には、「観察」⇒「参加」⇒「実習」という流れで進み、実習終了前には公開の「研究授業」がある。</p> <p>実習期間中は、実習生にとっては「実習」であるが、生徒の側から見れば、一人の教師である。生徒一人ひとりの人格を尊重し、万事、責任を持って対処しなければならない。</p> <p>同時に、実習校は、実習生のために多大の支障を省みず、御好意で受け入れていただいていることを忘れてはならない。</p>					
成績評価方法(方針)					
実習校における成績評価を基礎に、教育実習日誌等の内容を加味して評価する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート			○		10%
演習・実技	◎	◎	◎		90%
授業態度					
出席					
高校の保健体育・福祉免許取得希望者を対象とする。					
関連科目					
教科書	学習指導要領			参考書	特になし
連絡先	教職支援センター(B棟2階)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教育実習Ⅳ Student-Teacher Training IV (F. E.)			担当教員	山谷・他
開講内容	学年・学期	4・集中	授業方法	実習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
学校の教育活動の場に臨み、子どもと直接ふれ合い、指導教員の指導を受けながら教育者に求められる知識、技能、態度を修得する。そして、実際の教育指導実践を通して、子ども理解や教者としての使命感を養う。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・学校教員の職務について理解するとともに、教師として必要な知識・技能・態度を身につける。 ・学校教員になるために克服しなければならない自己の課題を明確にする。 					
授業の到達目標					
■	認知的領域	教師として必要な資質や能力を確認する。			
■	情意的領域	教師としての適性確認するとともに、学校教員になるために必要な自己の課題を確認する。			
■	技能表現的領域	教師として必要な基礎的スキルを身につける。			
授業計画(全体)					
中学・高校における保健体育科の教育実習体験。					
授業テーマとその内容					
<p>中学、高校において3週間の現場実習を行う。</p> <p>実習校においては、①教科の授業、②学級担任の業務、の二つを中心に実習するが、保健体育科の実習では、③課外活動(部活動)の指導も重要である。</p> <p>教育実習は、基本的に、実習校の計画によって実施されるが、一般的には、「観察」⇒「参加」⇒「実習」という流れで進み、実習終了前には公開の「研究授業」がある。</p> <p>実習期間中は、実習生にとっては「実習」だが、生徒の側から見れば、一人の教師である。生徒一人ひとりの人格を尊重し、万事、責任を持って対処しなければならない。同時に、実習校は、実習生のために多大の支障を省みず、御好意で受け入れていただいていることを忘れてはならない。</p>					
成績評価方法(方針)					
実習校における成績評価を基礎とし、教育実習日誌等の内容を加味して評価する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	中学、高校の保健体育免許取得希望者を対象とする。
成績評価方法					
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート			○	10%	
演習・実技	◎	◎	◎	90%	
授業態度					
出席					
関連科目					
教科書	学習指導要領			参考書	特になし
連絡先	教職支援センター(B棟2階)				

6. 自由科目

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	野外教育・活動論			担当教員	岡田 成弘
	Outdoor Education & Outdoor Activity				
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要 野外教育及び野外活動に関する基礎的な理論と現場における実践例を紹介する。前半は、野外教育及び野外活動についての考え方や用語を整理し、冒険教育や環境教育の歴史や実践例を学ぶ。後半は、組織キャンプの意義や組織、指導者や参加者、自然環境などについて学ぶ。					
授業の一般目標 野外教育及び野外活動についての正しい知識を習得し、その意義や価値を理解する。野外教育のプログラム及び指導法について理解し、指導者としての資質を高める。自然の中で活動することの意味を認識し、適切な危機管理能力と環境配慮技能を身につける。自然体験活動について、自分なりの意見を持ち、他者に伝えられるようになる。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	野外教育及び野外活動についての正しい知識を習得し、その意義や価値を説明できるようになる。				
■ 情意的領域	自然体験活動に興味を持ち、積極的に取り組むようになる。				
■ 技能表現的領域	適切な危機管理能力と環境配慮技能を身につける。自分の意見を持ち、他者とコミュニケーションをとりながら意思決定を行えるようになる。				
授業計画(全体) 前半は配布資料とパワーポイントの説明によって授業を進める。後半は「キャンプディレクター2級」の資格取得に必要なカリキュラムに沿って授業を進める。講義だけではなく、グループワークやディスカッション、スタンプの作成・発表などを行う。また、毎回授業の終わりにリアクションペーパーに感想や簡単な課題を記入する。最終回には、授業内容の確認のための筆記試験を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法、キャンプインストラクターの資格についての説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読する。			⑨	[テーマ] キャンプと人 [内容] キャンプ参加者の特性や対象に応じた対応について説明する。 [授業外学習] 配布資料をもとに復習しておく。
②	[テーマ] 野外教育と野外活動 [内容] グループワークのための班分け、自己紹介、野外教育・野外活動についての用語や概念について説明する。 [授業外学習] 配布資料をもとに復習しておく。			⑩	[テーマ] キャンプと自然 [内容] キャンプにおける自然との関わり方や、人間と自然の関係の歴史の変遷を説明する。 [授業外学習] 配布資料をもとに復習しておく。
③	[テーマ] 冒険教育とは [内容] 冒険教育の考え方やプログラム例を説明する。 [授業外学習] 配布資料をもとに復習しておく。			⑪	[テーマ] キャンプのルールとマナー [内容] キャンプにおけるルールやマナーの必要性、自然への配慮の方法を説明する。 [授業外学習] 必要に応じてグループで集まり、課題に取り組む。
④	[テーマ] 冒険教育の実践 [内容] 冒険教育団体の理念・歴史・活動内容などを説明する。 [授業外学習] 配布資料をもとに復習しておく。			⑫	[テーマ] Leave No Trace [内容] 自然の中で活動する時の7つの原則(技能や倫理観)を説明する。 [授業外学習] 配布資料をもとに復習しておく。
⑤	[テーマ] 環境教育とは [内容] 環境教育の考え方や歴史、プログラム例を説明する。 [授業外学習] 配布資料をもとに復習しておく。課題レポートに取り組む。			⑬	[テーマ] キャンプの安全管理1 [内容] キャンプにおけるリスクマネジメントの考え方について説明する。 [授業外学習] 配布資料をもとに復習しておく。
⑥	[テーマ] 環境教育の実践 [内容] 環境教育プログラムを体験し、パッケージドプログラムについて理解する。 [授業外学習] 配布資料をもとに復習しておく。課題レポートに取り組む。			⑭	[テーマ] キャンプの安全管理2 [内容] キャンプ中に起こりえる事態に対する対処法について説明する。 [授業外学習] 配布資料をもとに復習しておく。
⑦	[テーマ] キャンプの特性 [内容] キャンプの意義や目的、組織の種類について説明する。 [授業外学習] 配布資料をもとに復習しておく。			⑮	[テーマ] まとめと振り返り [内容] 授業のふりかえりを行い、筆記試験の対策を行う。 [授業外学習] これまでの授業資料を元に復習し、筆記試験に備える。
⑧	[テーマ] キャンプの指導 [内容] キャンプ指導者の役割や資質、スキルについて説明する。 [授業外学習] 配布資料をもとに復習しておく。			⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] 筆記試験を実施する。 [授業外学習]
成績評価方法(方針) 出席点(リアクションペーパー含む): 20点 → 欠席 -2点 遅刻・欠席証明 -1点 5回以上休むと単位を認定しない 課題(小レポートとグループ課題) : 30点 筆記試験(期末試験、持込不可) : 50点					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・第2回以降、班を決めて班ごとに着席します。また、毎回グループワークを行います。グループの中でディスカッションをしたり、発表をしたりします。
定期試験	◎			50%	
授業内レポート					
授業外レポート	○		○	15%	
演習・実技	○	◎	◎	15%	
授業態度					
出席		◎		20%	
関連科目	キャンプ実習(1年集中)、スポーツマネジメント実習(2年)、野外・レクリエーション・マネジメント論(3年前期)、野外・レクリエーション・マネジメント実習(3年)				
教科書	特になし			参考書	杏林書院「野外教育の理論と実践」
連絡先	岡田研究室(A棟509)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	野外・レクリエーション・マネジメント論(含演習) Management of Outdoor and School Recreation Activities (L. S.)			担当教員	仲野隆士・高崎義輝・岡田成弘
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					
野外・学校レクリエーション・イベント企画について、レクリエーション支援のマネジメント論などを基に企画、立案、プロモーション、プレゼンテーションまでの過程について事例を用いたり実際にグループワークを通して習得させる。また、生涯スポーツとして近年、多くの国民に親しまれている「ウォークラリー」をテーマに、コマ図作成から企画と運営を模擬的に体験する中で野外・学校レクリエーション・イベントの実際について習得させる。					
授業の一般目標					
企画、立案、プロモーション、プレゼンテーションまでの過程について実際にグループワークを通して学習し理解する。「ウォークラリー」をテーマに、コマ図作成から企画と運営を模擬的に体験する中で野外・学校レクリエーション・イベントの実際について理解する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	野外・学校レクリエーションのマネジメントに必要な基礎的な知識や技術を説明できる			
■	情意的領域	野外・学校レクリエーション活動の楽しみや面白さなどを体験を交えて伝えることができる			
■	技能表現的領域	ウォークラリーや簡単な野外・学校レクリエーションの企画と運営ができる			
授業計画(全体)					
レクリエーションや野外活動などの指導者が地域や職場、学校などで野外における活動支援(イベントや教室を含む)を実施する場合に要求されるレクリエーション・マネジメントの部分を中心に学習を進める。ウォークラリーの企画と運営は、実際に作成したコマ図を基にコースを歩き体験する。その他は野外・学校レクリエーション事業のマネジメントの授業を7回展開する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(仲野・高崎・岡田) [内容] ・担当教員の紹介、授業目標と進め方、成績評価の方法 ・野外レクリエーションの実際(ウォークラリーの事例) [授業外学習] シラバスを読んでおく。			⑨	[テーマ] プロジェクトワイルド 体験・指導準備 [内容] 環境教育プログラムのパッケージプログラムであるプロジェクトワイルドを体験する。次回授業で指導できるように準備を行う。 [授業外学習] プロジェクトワイルドを指導できるように準備しておく。
②	[テーマ] ウォークラリー・イベント企画1 [内容] ・ウォークラリー・イベント企画のための基礎知識 ・ウォーキングマップの作成のための現場下見 [授業外学習] 配付資料をもとに復習しておくこと			⑩	[テーマ] プロジェクトワイルド 指導 [内容] アレンジを加えたプロジェクトワイルドを指導する。最後に、野外教育プログラムの指導法について解説する。 [授業外学習] 野外教育の指導法について復習する。
③	[テーマ] ウォークラリー・イベント企画2 [内容] ・ウォーキングマップの作成 [授業外学習] 配付資料をもとに復習しておくこと			⑪	[テーマ] 野外・学校レクのマネジメントの実際 仲野1 [内容] 目玉っこコンクールを実施し、表彰までを演出する [授業外学習] 身近なテーマでできる野外レクイベントを理解する
④	[テーマ] ウォークラリー・イベント企画3 [内容] ・ミニウォークラリー大会の実施 [授業外学習] 配付資料をもとに復習しておくこと			⑫	[テーマ] 野外・学校レクイベント企画のための基礎理論の学習 仲野2 [内容] 学校や地域におけるレクリエーション・イベント企画のための基礎理論の学習 [授業外学習] レジャー・レクリエーション関連のイベントについて話ができるように
⑤	[テーマ] ウォークラリー・イベント企画4 [内容] ・ミニウォークラリー大会の振り返りとまとめ [授業外学習] 配付資料をもとに復習しておくこと			⑬	[テーマ] 野外・学校レクイベント企画のための基礎理論の学習 仲野3 [内容] 具体的な事例に基づくレクリエーション・イベントの立案 分けられた班毎に取り組む [授業外学習] 配布されたイベント立案に必要な資料を予め予習しておくこと
⑥	[テーマ] イニシアティブゲーム 体験 [内容] グループに分かれて野外教育プログラムの一つであるイニシアティブゲームを体験し、その理論と実践方法を理解する。 [授業外学習] イニシアティブゲーム開発のアイデアを考えてくる。			⑭	[テーマ] 野外・学校レクイベント企画のための基礎理論の学習 仲野4 [内容] レクリエーション・イベント企画案のプレゼンテーションの準備 [授業外学習] 時間内にまとめきれない場合は、班毎に集まり完成させておくこと
⑦	[テーマ] イニシアティブゲーム 開発・指導準備 [内容] イニシアティブゲームのプログラム開発に取り組む。次回指導ができるように準備を行う。 [授業外学習] イニシアティブゲームを指導できるように準備しておく。			⑮	[テーマ] 野外・学校レクイベント企画のための基礎理論の学習 仲野5 [内容] レクリエーション・イベント企画案プレゼンテーションの実施:各班10分程度のプレゼンテーションとする [授業外学習] プレゼンテーションのためのパワーポイントスライドを完成させておく
⑧	[テーマ] イニシアティブゲーム 指導 [内容] グループごとに開発したイニシアティブゲームを、実際に指導する。参加者からのフィードバックをもとに、ゲームを完成させる。 [授業外学習] フィードバックをもとにゲームを完成させレポートを作成する。			⑯	[テーマ] 総括:全体のまとめ 修了レポート作成 [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
イベント企画の企画書の内容、ウォークラリーのコマ図の完成度、ポスターなどの完成度、プレゼンテーションなどを基に、総合的に評価する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験				評価対象外	
授業内レポート	○			40	
授業外レポート			◎	30	
演習・実技			◎	30	
授業態度			◎	減点あり	
出席				欠格条件	
関連科目	レジャー・レクリエーション論、レクリエーション支援論、野外教育・活動論など				
教科書				参考書	『やさしいレクリエーション実践』日本レクリエーション協会編 他
連絡先	仲野・高崎・岡田 各研究室				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツマネジメント実習			担当教員	岡田成弘・仲野隆士・永田秀隆・弓田恵里香・三谷高史・馬佳濤	
	Practice at Community Physical-Education Facility(F.E.)					
開講内容	学年・学期	2・集中	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	コース必修	単位数	1		
授業の概要						
本実習は、社会教育施設における6日間の実習を通して、スポーツマネジメント関連の授業で修得した知識・技能を実学の場を通して発揮し、指導者としての資質を高めるものである。						
授業の一般目標						
オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、社会教育施設に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協調を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	実習先の業務内容を理解し、説明できる。					
■ 情意的領域	実習先で積極的に取り組む。仲間と協力することができる。					
■ 技能表現的領域	実習先の日々の成果を日誌にまとめることができる。					
授業計画(全体)						
本実習のねらいや目標を理解するために、実習前のオリエンテーションを3回行う。受講生は、夏季及び冬季休業中の日程を確認し、実習先を決定する。実習施設の代表者による事前オリエンテーションを受けた上で、実習に参加する。なお、実習は、基本的に一週間であり、実習先職員の指示を中心に、施設利用者への指導・支援を行う。具体的な実習内容は、施設によってことなる。						
授業テーマとその内容						
<p>■事前指導</p> <p>6月中旬まで 第1回オリエンテーション・・・スポーツマネジメント実習について(実施概要、実習の心得、日程 調査) (日時・場所は掲示板で告知します)</p> <p>6月下旬 実習の日程、施設(班)が決定</p> <p>7月上旬 第2回オリエンテーション・・・班ごとにリーダーを決定しと連絡網を作成する。個人調査票の作成(2枚)、実習意志確認書の作成(1枚)を行う。</p> <p>7月下旬 第3回オリエンテーション・・・実習施設毎に、実習受入代表者による実習内容等の説明(正装で参加)</p> <p>8月以降 本番までに・・・班ごとに施設までの交通手段を決定し、担当教員の報告する 実習直前に、リーダーは担当教員に連絡を取り、実習前の確認を取る。また施設の担当者にも電話で連絡をし、挨拶をする。 実習本番(冬季の実習もある)</p> <p>■実習先毎に実習</p> <p>概ね以下のような指導実習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設利用者(小・中・高・大・一般)を対象として指導実習 朝、夕の集いにおける司会、ラジオ体操・ゲーム・ソングなどの指導 団体毎の炊飯指導・ハイキング・キャンプファイヤー・ゲーム大会などへの指導、助言、補助活動 施設内外の活動エリアの環境整備・所内での生活指導(指導担当職員の指示の下、補助者として活動する) 指導担当職員から与えられた課題での自由研究や学習 指導を受けた内容について確認記録や資料の整理 指導略案の作成や実習日誌の整理 <p>■実習施設</p> <ul style="list-style-type: none"> 宮城県蔵王自然の家 宮城県志津川自然の家 国立花山青少年自然の家 <p>※どの施設で実習するかを選ぶことはできない。</p> <p>■実習費</p> <p>約15,000円程度(実習先、活動内容によって少し変わる場合があります)</p> <p>大学の代表として実習先に受け入れてもらうので、相応しくない学生は、例え履修をしていますが実習に行かせることができません。特に、無断欠席や提出物未提出などがある場合、実習をキャンセルさせることがあります。</p>						
成績評価方法(方針)						
実習先の指導担当者による評価及び、事前・事後のオリエンテーション・作業に取り組む態度などを基に、総合的に成績評価を行う。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	事前オリエンテーションには、必ず全て出席すること。そのためにも、掲示板による連絡事項を見落とさないようにすること。本人のミスで連絡事項を見逃した場合や無断欠席した場合、実習に行かせることはできない。 基本的に、実習には3～8名を1グループとして複数でいくこととなるが、一人ひとりが実習生としての自覚を持ち、他人任せや馴れ合い的な態度で取り組むことが無いようにしてもらいたい。 本コース教員1名が各施設を担当するので、実習前及び実習中に問題などが発生した場合、速やかに連絡を取り対応を仰ぐこと。自分勝手な判断をしないようにしてほしい。
定期試験						
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度	◎	◎	◎		100%	
出席						
関連科目	スポーツマネジメント概論(2年)、スポーツマネジメント演習(2年)					
教科書	特になし			参考書	特になし	
連絡先	岡田研究室 A棟5階 A509					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツクラブ・マネジメント論(含演習)			担当教員	永田秀隆・弓田恵里香
	Management of Sport Clubs (L.(S.))				
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					
<p>スポーツを指導・振興する上で、経営的なものの見方や考え方は公共・民間を問わず重要である。スポーツ組織としての各種スポーツクラブに着目し、そこでのマネジメントの現状を踏まえ、今後よりよく実践していくためにはどのような視点、あるいは技術が必要となるのか、認識した上で実践できるようにする。</p>					
授業の一般目標					
<p>各種のスポーツクラブ等におけるマネジメントに関する知識を理解するとともに、その知識を踏まえ現場で実践できるような技術を身につける。</p>					
授業の到達目標					
■	認知的領域	スポーツクラブにおけるマネジメントの基本構造が説明できる。			
■	情意的領域	総合型地域スポーツクラブや民間スポーツクラブでのマネジメントを職業としても意識することができる。			
■	技能表現的領域	スポーツクラブでのマネジメントの理解を通して、実際にクラブを経営できうる技能を身につけることができる。			
授業計画(全体)					
<p>本授業はスポーツクラブ・マネジメント実習にスムーズに取り組めるための前提科目と考えており、より現場を意識した実践的な授業内容(演習の要素が強い)となる。授業方法はティーム・ティーチング方式を取り入れ、個々の学生やグループにキメの細かい対応ができるように心がける。テーマに沿った資料を必要に応じて配布し、また理解を深めるためDVD等も活用する。数回授業内容に沿ったレポートを課すので、授業内容を各自がそれなりに理解しておくことが重要である。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	<p>[テーマ] オリエンテーション／生涯スポーツ論 [内容] 教員紹介、授業概要(目標、進め方、シラバス、成績評価方法等)の説明／生涯スポーツの概念、必要性や方法について概説する [授業外学習]シラバスを熟読すること</p>			⑨	<p>[テーマ] クラブのつくり方 [内容] 事業計画(ビジネスプラン)作成に向け組織・プロセス・法人格といった構成要素の説明も含めDVD等の視聴により総合型クラブの実際の姿をイメージする [授業外学習]</p>
②	<p>[テーマ] スポーツクラブの意義 [内容] 総合型地域スポーツクラブ(以下、総合型クラブ)や民間スポーツクラブがなぜ必要なのか、その意義や役割について解説し、考察する [授業外学習]スポーツクラブとはどのようなものか調べておく</p>			⑩	<p>[テーマ] マーケティング [内容] スポーツクラブのマーケティングにおける意義、プロセス、広告・宣伝・会員募集戦略等について説明し、実際の方法について考える [授業外学習]マーケティングとは何か、復習しておく</p>
③	<p>[テーマ] 地域におけるスポーツ行政 [内容] 総合型クラブの場合、行政との関わりは必要不可欠であることが多い事から、地域社会における総合型クラブと行政との連関について考える [授業外学習]行政がクラブにどのような役割を果たすか考える</p>			⑪	<p>[テーマ] スポーツ施設・設備の管理 [内容] スポーツ施設や設備等といった、特にハード面の経営・管理について概説する。また、近年注目される指定管理者制度との兼ね合いについても述べる [授業外学習]指定管理者となっているスポーツクラブの事例を収集しておく</p>
④	<p>[テーマ] クラブの事業計画と事業内容 [内容] クラブのミッションやビジョンに基づき、スポーツクラブの柱となる事業について、その計画の立て方や内容について説明する [授業外学習]クラブの事業内容に関するイメージを膨らませておく</p>			⑫	<p>[テーマ] 財源の確保と効率的な資金運用(会計事務管理含む) [内容] 上記テーマについて、専門的な立場の方をお招きし、その詳細及び具体例について解説いただき、また試算等を体験する [授業外学習]スポーツクラブにおける支出の項目(費目)を考えてくる</p>
⑤	<p>[テーマ] 事業評価(経営評価)と結果の活用 [内容] 前回授業の事業計画と内容を評価することの必要性とその仕方、また結果をその後へ活用させることの意義等について述べる [授業外学習]経営評価とはどういうことか調べておく</p>			⑬	<p>[テーマ] リスクマネジメント [内容] 指導レベルでのリスクのみならず、クラブ運営にまつわるリスクの存在を列挙し、そのことについて考察を深める [授業外学習]リスクマネジメントの定義を調べておく</p>
⑥	<p>[テーマ] 事業評価(経営評価)の実際 [内容] 事業評価(経営評価)の考え方の中から、特に住民側の評価(経営成績の評価)について、質問紙調査を想定し、実際にアンケートを作成する [授業外学習]質問紙を下書きし、ワープロで打ち、期限までに提出</p>			⑭	<p>[テーマ] 事業計画書(ビジネスプラン)の作成① [内容] これまでの講義・演習の内容を最大限に活かし、より具体的かつ実践可能性の高い計画書を作成する [授業外学習]クラブが対象とする地域的な範囲や特性について調べる</p>
⑦	<p>[テーマ] クラブマネジャーの役割 [内容] スポーツクラブの核となるクラブマネジャーの役割、資質等について解説し、その後チェックシートにて各自のマネジャーとしての能力・資質を確認する [授業外学習]マネジャーの役割についてイメージを膨らませておく</p>			⑮	<p>[テーマ] 事業計画書(ビジネスプラン)の作成② [内容] これまでの講義・演習の内容を最大限に活かし、より具体的かつ実践可能性の高い計画書を作成する。という前回の続きであるが、ワープロで仕上げる [授業外学習]事業計画書(ビジネスプラン)の書式をフォーマットしておく</p>
⑧	<p>[テーマ] ホスピタリティ・マネジメント [内容] 現場で活躍するクラブマネジャーをお招きし、マネジャーとしての取り組みやクラブ運営について、ホスピタリティ・マネジメントの考え方も交え、報告いただく [授業外学習]当該スポーツクラブのことを事前に調べておく</p>			⑯	<p>[テーマ] レポート [内容] レポートの振り返り [授業外学習]</p>
成績評価方法(方針)					
<p>授業外レポート(50%)、授業内レポートとリアクションペーパー(50%)の結果に基づき、総合的に評価する。</p>					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					評価対象外
授業内レポート		◎			50%
授業外レポート		◎	◎	◎	50%
演習・実技					評価対象外
授業態度					減点アリ
出席					欠格条件
履修上の注意(受講学生に望むこと)					
<p>・本授業は、体育学科スポーツマネジメント・コースの選択必修科目となる。また、スポーツクラブ・マネジメント実習の前提科目との位置づけでもあるので、前記実習を希望する学生は、特に皆出席を目指してもらいたい。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。 ・15分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。</p>					
関連科目	スポーツ経営学(1年)、スポーツマネジメント概論(2年)、スポーツマーケティング論(2年)、地域スポーツ戦略論(2年)、スポーツ産業論(3年)、スポーツクラブ・マネジメント実習(3年)、スポーツ政策論(4年)				
教科書					参考書
					(財)日本体育協会『総合型クラブ創設ガイド』、武藤泰明『プロスポーツクラブのマネジメント』東洋経済新報社他
連絡先	A棟3階312: 永田研究室(hd-nagata@sendai-u.ac.jp) A棟5階504: 弓田研究室(er-yumita@sendai-u.ac.jp)				

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	音楽・器楽演奏 Instrumental music performance			担当教員	荒井 富雄
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					
本学は体育系大学として、各専門スポーツで培ったチームワークのよさを、音楽実技を通してコミュニケーション能力を高め、他を思いやる心の育成を計る。					
授業の一般目標					
音楽のもつ多様なコミュニケーション能力を用いて、人間関係を円滑で豊かにする資質を養う。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	音楽の三要素の一つであるリズムは、体育活動においても重要な要素であることを認識できるようになる。			
■	情意的領域	音楽活動を通して音楽の一体化を図れるようになる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
1.キーボードを使って各自のレベルに応じた曲を弾く 2.二部合唱練習 3.有名作曲家の物語りを通して作品や時代背景等の学習(ビデオやDVDの鑑賞)					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法			⑨	[テーマ] 合唱練習 [内容] ①合唱練習 ②器楽による小アンサンブル練習
②	[テーマ] 音楽の三要素 [内容] ①音楽の三要素 ②これからの合唱における各パート決め			⑩	[テーマ] 合唱練習 [内容] ①合唱練習 ②器楽による小アンサンブル練習
③	[テーマ] 合唱練習 [内容] ①合唱練習 ②器楽による小アンサンブル練習			⑪	[テーマ] 合唱発表 [内容] ①合唱発表 ②発表結果を互いに比較検討する
④	[テーマ] 合唱練習 [内容] ①合唱練習 ②器楽による小アンサンブル練習			⑫	[テーマ] 器楽演奏発表 [内容] 器楽演奏発表
⑤	[テーマ] 合唱発表 [内容] ①合唱発表 ②発表結果を互いに比較検討する			⑬	[テーマ] 鑑賞 [内容] 鑑賞
⑥	[テーマ] 鑑賞 [内容] 鑑賞			⑭	[テーマ] 鑑賞 [内容] 鑑賞 (鑑賞結果のディスカッション)
⑦	[テーマ] 鑑賞 [内容] 鑑賞 (鑑賞結果のディスカッション)			⑮	[テーマ] まとめ(レポート) [内容] まとめ(レポート)
⑧	[テーマ] 音楽心理学 [内容] ①音楽心理学 ②ボディパーカッション(リズムアンサンブル)			⑯	[テーマ] テスト [内容] 実技テスト
成績評価方法(方針)					
試験は期末試験を一回とする。 毎時間の授業態度(興味・関心・意欲・態度)など50点、実技試験30点、レポート20点の配分で総合的に評価する。 出席率が2/3以上充ない者は、原則として評価の対象外とする。(各時間毎に、準備した評価カードに学生の自己評価を記入させる。)					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業中は携帯電話をかばんの中に入らなければならない。 ・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じておくこと。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート	◎			20%	
演習・実技			◎	30%	
授業態度	◎			50%	
出席				減点あり	
関連科目	なし				
教科書	特に指定しない			参考書	なし
連絡先					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツターフ管理概論 I				担当教員	小島 文雄
	Introduction to Sport Turf Management I					
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	芝草管理技術者資格3級, スポーツターフ管理士
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
受講生は80名以内(実習送迎バスの定員)とし、希望者多数の時はオリエンテーション時に行なう小テスト(一般常識と授業に取り組む抱負)の総合評価で上位者とする。スポーツターフの構造をベースとして、施設管理について体系的に講義を行う。教員を目指す学生に対し校庭芝生化に関して、知識や技術を身につけて授業や部活の運営に役立てる事を指導する。体育施設を運営する企業や一般企業を目指す学生も同様である。						
授業の一般目標						
(1)スポーツターフ施設の構造を把握し、管理方法に加え、関連法規、経済性および自然環境保全に関することなど幅広い専門知識を習得して顧客満足度を満たす管理の仕方を考える事が出来るようになる。(2)スポーツターフ施設が安全に保たれる管理手法を身に付けるようになる。(3)以上を踏まえて、授業外課題に取り組み、商業スポーツターフ施設の「経営理念」、「社是」、「社訓」を考察する事が出来るようになる。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	スポーツターフ施設管理の構造と維持管理及び経営管理について説明できる。授業で取り上げた問題について、自分の意見を述べる事が出来る。二つの資格の研修会と同等の芝生管理技術者に必要な初歩的な知識や芝生に関する療法的知識を習得できる。					
■ 情意的領域	スポーツターフ施設の経営管理について感心を深め、自らの力で授業外課題を設定し探求する意欲を持つことが出来るようになる。施設を大切に扱う心がけが身に付ける様になり、興味関心のある内容に意欲的に取り組む様になる。相手に優しく接する気持ちが養われる。					
■ 技能表現的領域	課題を文章に表現し、口頭で発表出来るようになる。インターネットを駆使して企業の経営理念、社是、社訓や企業業績を探し出すことが出来るようになる。面接などで優位に立てる様になる。体育施設維持管理の道具や機器を操作して、均一な整備を知る。					
授業計画(全体)						
授業テーマに沿った資料を用いた講義と第二グラウンドラグビー・アメフト天然芝生での実習が中心で、実物見本やプロジェクターを用いて管理作業方法を知る。数回の授業時にアンケートで、感想・興味度・理解度・到達度を確認する。また課題を考察し発表も行う。理念に基づいた目標設定は就職活動や人生設計への応用が出来る様になる。連絡事項や資料は一斉メールで送信するので、学内の所定の手続きをする。文科省が定める予習・復習の時間として授業時間外実習も行う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション。二つの資格について解説する [内容] 担当教員の紹介、授業の概要、目標、計画、成績評価について説明する。芝生維持管理に関する資格について説明する [授業外学習] シラバスと学生便覧の資格に関する該当項目を熟読する			⑨	[テーマ] 芝生に関する療法的知識、学外講師による講義 [内容] 芝生の生理的、心理的効果をストレス緩和や療法的効果に活かす手法について説明する [授業外学習] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する	
②	[テーマ] 構内芝生における実習その1 [内容] 芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。各自のボットに芝草の種をまき成長を観察する [授業外学習] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する			⑩	[テーマ] 芝生管理機械、芝草学会講師による講義 [内容] 1. 草刈り機の種類と機能、2. 管理機械の種類と機能、3. 今後の管理機械について [授業外学習] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する	
③	[テーマ] 芝草入門 I、芝草学会講師による講義 [内容] 芝生概説、芝生概論について説明する。芝生の持つ機能について、芝生の一般的な特性について [授業外学習] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する			⑪	[テーマ] 芝生の雑草管理、芝草学会講師による講義 [内容] 1. 雑草防除の基礎、2. 芝草雑草の特徴、3. 除草剤の作用特性、4. 芝地における雑草 [授業外学習] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する	
④	[テーマ] 構内芝生における実習その2 [内容] 芝生の種類(暖地型洋芝、寒地型洋芝)を観察し、芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する [授業外学習] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する			⑫	[テーマ] 構内芝生における実習その4、 [内容] 芝生の種類(暖地型洋芝、寒地型洋芝)を観察し、芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。小テストの実施と解説 [授業外学習] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する	
⑤	[テーマ] 芝草入門 II、芝草学会講師による講義 [内容] 暖地型芝草の種類と特性、寒地型芝草の種類と特性について [授業外学習] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する			⑬	[テーマ] 商業スポーツターフ施設の経営理念(課題発表会)、第2回小テスト [内容] 課題を発表し、プレゼンテーション力を養う。P(計画) D(実施) C(点検) A(改善)サイクルで改善する [授業外学習] 授業外課題を見直し改善すべき所がある時は再提出する	
⑥	[テーマ] 芝生の一般管理、芝草学会講師による講義 [内容] 1. 芝生の管理とは、2. 芝生の刈り込み、3. 芝生の施肥、4. 芝生の灌水について説明する [授業外学習] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する			⑭	[テーマ] 定期期末試験 [内容] 授業の理解度・到達度を確認するために期末試験を実施する [授業外学習] 定期期末試験に備えて復習する	
⑦	[テーマ] 構内芝生における実習その3 [内容] 芝生の種類(暖地型洋芝、寒地型洋芝)を観察し、芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する [授業外学習] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する			⑮	[テーマ] 学外施設見学会および実習＝スポーツターフ施設管理の実際 [内容] 表蔵王国際ゴルフクラブを見学して、芝生の維持管理について説明。各種維持管理機械を見学し作業状況を説明する。 [授業外学習] 芝生管理の機械類にはどのようなものがあるか説明出来る様にする。	
⑧	[テーマ] 商業スポーツターフ施設の経営理念 その1、第1回小テスト [内容] 経営理念・社是・社訓はどのように考えられ、実施されているかを説明。企業経営の目的や経営方針書について説明する [授業外学習] 自ら経営する商業施設を仮想し、顧客満足度の高揚を考察する			⑯	[テーマ] 学外施設見学会および実習＝スポーツターフ施設管理の実際 [内容] 土曜日2コマ分の所要時間で20人位づつの参加人数に組み分けして⑮と⑯を連続で実施する。3回実施の中から都合の良い時に参加する。 [授業外学習] 上記と同じ	
成績評価方法(方針)						
期末試験を1回実施、実技テストおよび授業内レポート提出(小テスト)を実施する。授業外レポート(課題)を課す。なるべくメールで提出する(メール操作は評価に加えない)。これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は欠格条件となる。大会や実習で欠席するときは欠席届を提出する(0.4ポイント扱い)。更に自習成果表を提出する(0.4から0.6ポイント扱い)。授業外実習(約60分)は0.7ポイントとして加味する。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験	◎	◎	○	○	50%	・同名Ⅱを先に受講する事が出来る ・60%以上の出席が無い学生は、単位を修得することができない ・授業中の私語厳禁(対策として指定席制も実施予定)
授業内レポート	◎	◎	○	○	20%	・出席や小テストの点数などが不足するときは相談する、救済策は提出物や構内実習の追加などで用意するので簡単に諦めない
授業外レポート	◎	◎	○	◎	30%	・授業計画は、授業の進み方や構内実習の日の天候により、多少変更あり
演習・実技	○	○	○	◎	減点あり	・資格取得希望者は二つの団体が主催する研修会を受講し認定試験を受験して資格を取得する。認定校申請準備中
授業態度	○	○	○	○	減点あり	・出席率70%以上の学生を認定研修会の受講と認定試験の受験に推薦する
出席	○	◎	○	○	欠格条件	
関連科目	スポーツターフ管理概論Ⅱ(3年)、スポーツ施設管理概論Ⅰ(3年)、スポーツ施設管理概論Ⅱ(3年) スポーツ施設の経営管理(3年)					
教科書	各種協会・団体・各講師編集のテキスト(授業中に配布)			参考書	* 体育・スポーツ系大学生のための論文・レポートの書き方 * 屋外体育施設の建設指針 *ほか	
連絡先	事務室:A棟1階営繕管理室内 オフィスアワー:火曜日10:20~11:50、Email:fm-ojima@sendai-u.ac.jp TEL:0224-55-1579					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツターフ管理概論 II			担当教員	小島 文雄	
	Introduction to Sport Turf Management II					
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数			2
授業の概要						
受講生は80名以内(実習送迎バスの定員)とし、希望者多数の時はオリエンテーション時に行なう小テスト(一般常識と授業に取り組む抱負)の総合評価で上位者とする。スポーツターフの構造をベースとして、施設管理について体系的に講義を行う。教員を目指す学生に対し校庭芝生化に関して、知識や技術を身につけて授業や部活の運営に役立てる事を指導する。体育施設を運営する企業や一般企業を目指す学生も同様である。						
授業の一般目標						
(1)スポーツターフ施設の構造を把握し、管理方法に加え、関連法規、経済性および自然環境保全に関することなど幅広い専門知識を習得して顧客満足度を満たす管理の仕方を考える事が出来るようになる。(2)スポーツターフ施設が安全に保たれる管理手法を身に付けるようになる。(3)以上を踏まえて、授業外課題に取り組み、スポーツターフ施設の管理の実際を考察する事が出来るようになる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	スポーツターフ施設管理の構造と維持管理及び経営管理について説明できる。授業で取り上げた問題について、自分の意見を述べる事が出来る。二つの資格の研修会と同等の芝生管理技術者に必要な初歩的な知識や芝生に関する療法的知識を習得できる。				
■	情意的領域	スポーツターフ施設の経営管理について感心を深め、自らの力で授業外課題を設定し探求する意欲を持つことが出来るようになる。施設を大切に扱う心がけが身に付ける様になり、興味関心のある内容に意欲的に取り組む様になる。相手に優しく接する気持ちが養われる。				
■	技能表現的領域	課題を文章に表現し、口頭で発表出来るようになる。インターネットを駆使して企業の経営理念、社是、社訓や企業業績を探し出すことが出来る様になる。面接などで優位に立てる様になる。体育施設維持管理の道具や機器を操作して、均一な整備を知る。				
授業計画(全体)						
授業テーマに沿った資料を用いた講義と第二グラウンドラグビー・アメフト天然芝生での実習が中心で、実物見本やプロジェクターを用いて管理作業方法を知る。数回の授業時にアンケートで、感想・興味度・理解度・到達度を確認する。また課題を考察し発表も行う。理念に基づいた目標設定は就職活動や人生設計への応用が出来る様になる。連絡事項や資料は一斉メールで送信するので、学内の所定の手続きをする。文科省が定める予習・復習の時間として授業時間外実習も行う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション、二つの資格について解説する [内容] 担当教員の紹介、授業の概要、目標、計画、成績評価について説明する。芝生維持管理に関する資格について説明する [授業外学習] シラバスと学生便覧の資格に関する該当項目を熟読する			⑨	[テーマ] 構内芝生における実習その4 [内容] 春季、夏季の除草剤、防虫剤、殺菌剤などの散布や散水を観察したり実習する。 [授業外学習] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する	
②	[テーマ] 芝生の土壌・肥料、芝草学会講師による講義 [内容] 1. 土壌の種類と組成、2. 物理性、3. 化学性、4. 微生物性、5. 芝生の土壌改良、6. 肥料の有効成分、7. 芝地の施肥法 [授業外学習] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する			⑩	[テーマ] 構内芝生における実習その5 [内容] 春季における芝生の成長を観察し、芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。 [授業外学習] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する	
③	[テーマ] 構内芝生における実習その1、課題の取り組み [内容] 芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。各自のポットに芝草の種をまき成長を観察する [授業外学習] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する			⑪	[テーマ] 農業気象学、課題提出期限、第1回小テスト [内容] 1. 農業気象の基礎、2. 主な農業気象災害、3. 異常気象と地球環境 [授業外学習] 平日頃、身の回りに起きている異常気象に関心を持つ様にする	
④	[テーマ] 芝生の病害防除、芝草学会講師による講義 [内容] 1. 植物病理学概論、2. 芝草病害概論、3. 芝草病害防除の基本、4. 今後の問題点 [授業外学習] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する			⑫	[テーマ] 農薬概論と関係法令、学外講師による講義 [内容] 1. 農薬の定義、2. 農薬の作用特性、3. 農薬のリスクと安全確保、4. 農薬に関する法令、5. 農薬取締法の概説 [授業外学習] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する	
⑤	[テーマ] 芝生の虫害防除、芝草学会講師による講義 [内容] 1. 害虫とは、2. 芝草害虫の種類、3. 重要害虫の種類、発生消長及び防除法、4. 芝草管理と害虫 [授業外学習] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する			⑬	[テーマ] 課題(維持管理機械の操作マニュアル)の発表会、第2回小テスト [内容] 課題を発表し、プレゼンテーション力を養う。P(計画) D(実施) C(点検) A(改善)サイクルで改善する [授業外学習] 授業外課題を見直し改善すべき所がある時は再提出する	
⑥	[テーマ] 測量理論の解説、芝生の造成 [内容] 芝生造成地の高低測量学について説明する。利用水準と管理手法について解説し、現場の状況から考察する。 [授業外学習] 利用者の要求と管理者の維持管理水準を比較する様心掛ける			⑭	[テーマ] 定期期末試験 [内容] 授業の理解度・到達度を確認するために期末試験を実施する [授業外学習] 試験に備えて復習する	
⑦	[テーマ] 構内芝生における実習その2 (芝生に関する工学的知識) [内容] 芝生造成地の高低測量学について説明し、オートレベルを使用して操作方法を学習し、実際に数箇所のポイントの高さを測量する。 [授業外学習] スポーツターフ施設の表面勾配を観察する			⑮	[テーマ] 学外施設見学会および実習=スポーツターフ施設管理の実際 [内容] ユアテックスタジアムを見学して、芝生の維持管理について説明する。各種維持管理機械を見学し作業状況を説明する。 [授業外学習] 芝生管理の機械類にはどのようなものがあるか説明出来る様にす	
⑧	[テーマ] 構内芝生における実習その3、 [内容] 芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。春季、夏季の土壌改良(エアレーション)などを実践する。 [授業外学習] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する			⑯	[テーマ] 学外施設見学会および実習=スポーツターフ施設管理の実際 [内容] 土曜日2コマ分の所要時間で20人位づつの参加人数に組み分けて⑮と⑯を連続して実施する。2回実施の中から都合の良い時に参加する。 [授業外学習] 上記と同じ	
成績評価方法(方針)						
期末試験を1回実施する。実技テストまたは授業内レポート提出(小テスト)を実施する。授業外レポート(課題)を課す。なるべくメールで提出する(メール操作は評価に加えない)。これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は欠格条件となる。大会や実習で欠席するときは欠席届を提出する(0.4ポイント扱い)。更に自習成果表を提出する(0.4から0.6ポイント扱い)。授業外実習(約60分)は0.7ポイントとして加味する。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講生に望むこと)
定期試験	◎	◎	○	○	50%	・同名 I を後で受講する事が出来る ・60%以上の出席が無い学生は、単位を修得することができない ・授業中の私語厳禁(対策として指定席制も実施予定)
授業内レポート	◎	◎	○	○	20%	・出席や小テストの点数などが不足するときは相談する、救済策は提出物や構内実習の追加などで用意するので簡単に諦めない
授業外レポート	◎	◎	◎	◎	30%	・授業計画は、授業の進み方や構内実習の日の天候により、多少変更あり ・資格取得希望者は二つの団体が主催する研修会を受講し認定試験を受験して資格を取得する。認定校申請準備中
演習・実技		○	○	◎	減点あり	・出席率70%以上の学生を認定研修会の受講と認定試験の受験に推薦する
授業態度		○	○	○	減点あり	
出席		◎	◎	◎	欠格条件	
関連科目	スポーツターフ管理概論 I (2年)、スポーツ施設管理概論 I (3年)、スポーツ施設管理概論 II (3年)、スポーツ施設の経営管理(3年)					
教科書	各種協会・団体・各講師編集のテキスト(授業中に配布)			参考書	*カーヘントグラス*芝生の校庭*園芸療法とリハビリテーション *目で見るとゴルフ場の芝草病害*みか	
連絡先	事務室:A棟1階営繕管理室内 オフィスアワー:火曜日10:20~11:50、Email:fm-ojima@sendai-u.ac.jp TEL:0224-55-1579					

2017年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	卓球 Table Tennis			担当教員	馬 佳濠
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
1. 卓球は、誰でも手軽に楽しむことができ、生涯スポーツとして最も適した種目の一つである。卓球を続けることによって、心身ともにバランスよく鍛えることができ、特に動体視力の強化に効果的である。2. 基本技術から戦術等に至るまで、実践ゲームでも応用できる技術を習得させる。よりイメージを掴みやすくさせるために、実際に模範演技を見せながら解説する。3. 技術レベル、習得状況等の個人差を配慮したうえで指導する。					
授業の一般目標					
1. 卓球のルール、用具を知る。2. ボールの打ち感覚、動きを身に付ける。 3. ラリーを続けるようになる。4. ボールの回転を理解でき、いろいろなサーブを出せることと、相手のレシーブに対応ができる。 5. 卓球の一連の基本技術を指導できるようになる。					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	卓球競技について理解し、ルール、競技構造を知る。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input checked="" type="checkbox"/>	技能表現的領域	基本的技術を習得する。			
授業計画(全体)					
卓球競技の各基本技術を習得してから、実践で活用できるシングルスとダブルスのゲームに展開していく。技能習得のレベルに応じてクラス分けて行う場合もある。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、用具の説明等			⑨	[テーマ] 実践② [内容] フォアハンド強打, シングルスゲーム
②	[テーマ] 基本の技術の習得① [内容] 卓球の歴史, 各打法の紹介, ラケットの握り方, ゲーム			⑩	[テーマ] 実践③ [内容] バックハンド強打, ダブルスゲームの手法の紹介
③	[テーマ] 基本の技術の習得② [内容] 打球時の基本姿勢, フォアハンド, ゲーム			⑪	[テーマ] 実践④ [内容] カット打法, ダブルスゲーム
④	[テーマ] 基本の技術の習得③ [内容] バックハンド, バックショット, 裏面打法, ゲーム			⑫	[テーマ] 実践⑤ [内容] シングルスとダブルスの基本戦術の紹介, 応用練習
⑤	[テーマ] 基本の技術の習得④ [内容] フットワーク, 前後左右への動き, ゲーム			⑬	[テーマ] 実践⑥ [内容] リーグ戦
⑥	[テーマ] 基本の技術の習得⑤ [内容] サーブ, レシーブ, ゲーム			⑭	[テーマ] 復習 [内容] 各種技術の復習, 上達度合の確認。
⑦	[テーマ] 基本の技術の習得⑥ [内容] ツッツキ, 各種サーブとそのレシーブの紹介, ゲーム			⑮	[テーマ] テスト [内容] 実技テスト
⑧	[テーマ] 実践① [内容] ルールの説明, シングルスゲームの手法の紹介, ゲーム			⑯	[テーマ] テスト [内容] 実技テスト
成績評価方法(方針)					
実技試験(評価割合70%)、実技実施状況(評価割合15%)、授業態度(評価割合15%)、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、全体の2/3以下の場合には成績評価対象外とする。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		○		◎	70%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技		○	○	○	15%
授業態度			◎		15%
出席					欠格条件
1. 授業態度が悪い学生に対して、減点や受講資格を失う場合もある。 2. 運動しやすい服装と室内用靴を着用すること。 3. 受講者同士で練習相手となるため、お互いの協力度、学びあうように努めること。 4. 受講希望者が多い場合、設備関係、質の保障を考慮することから、人数を抽選などで調整する。					
関連科目					
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
連絡先	第五体育館2F 研究室23 jm-ma@sendai-u.ac.jp				